

# 子どもの生活に関する実態調査 報告書

平成31年3月  
埼玉県川越市

---

# 目次

---

<b>序章 結果の概要</b> .....	1
1 生活困窮の状況.....	1
2 子どもの学び.....	3
3 子どもの日常生活.....	5
4 子どもの健康と自己肯定感.....	7
5 保護者の状況.....	9
6 制度・サービスの利用.....	10
<b>第1章 見えてきた状況と課題</b> .....	12
1 川越市の状況.....	12
2 子ども（児童・生徒）についてわかった課題.....	15
3 保護者についてわかった課題.....	18
4 課題と支援の方向性.....	21
<b>第2章 調査の概要</b> .....	26
1 調査の目的・対象者・方法等.....	26
2 回収状況.....	26
3 集計結果の表示方法.....	27
<b>第3章 回答者の基本属性</b> .....	28
1 回答者の基本属性.....	28
2 「生活困難」について.....	31
<b>第4章 生活困難の状況</b> .....	37
1 生活困窮の状況.....	37
2 子どもの生活水準（所有物と体験）.....	57
3 子どもの食と栄養.....	90
<b>第5章 家計の状況</b> .....	104
1 家計の状況.....	104
2 子育てにかかる費用.....	116
3 子どもに関する負担の割合.....	124
<b>第6章 子どもの学びと学校生活</b> .....	128

1	学校について.....	128
2	学校の成績.....	141
3	授業の理解や学習の状況.....	156
4	学校外での学習・勉強の状況.....	159
5	将来の夢.....	165
<b>第7章 子どもの生活・友人関係.....</b>		<b>173</b>
1	家族や友だち.....	173
2	平日の食事.....	180
3	平日の放課後の過ごし方.....	185
4	休日の過ごし方.....	205
5	放課後子供教室・クラブ活動.....	211
6	活動の状況.....	217
7	経験の状況.....	225
8	会話の頻度.....	229
9	16-17歳の就労状況.....	240
<b>第8章 子どもの健康と自己肯定感.....</b>		<b>247</b>
1	子どもの健康状態.....	247
2	自己肯定感.....	262
<b>第9章 保護者の状況.....</b>		<b>273</b>
1	回答者の状況.....	273
2	家族のこと.....	277
3	父親のこと.....	285
4	母親のこと.....	299
5	父親・母親のこれまでの経験.....	313
6	子どもとのかかわり.....	321
7	保護者の相談相手.....	332
<b>第10章 制度・サービスの利用.....</b>		<b>339</b>
1	子ども本人の支援サービス利用意向.....	339
2	制度・サービスの利用.....	346
3	相談窓口の利用状況.....	371

<b>第 11 章 主な意見</b> .....	380
1 保護者の困っていること・悩みごと.....	380
2 子どもからの意見（川越市に言いたいこと）.....	385
<b>第 12 章 支援者等ヒアリング調査結果</b> .....	391
1 調査の目的・対象者・方法等.....	391
2 調査結果.....	392

## 序章 結果の概要

調査実施方法などについては「第2章 調査の概要」を参照のこと。

### 1 生活困窮の状況

#### (1) 家計の状況

食料、衣類の購入ができなかった経験、公共料金の滞納経験は困窮層で特に多い。

##### ① 過去1年の食料や衣類の購入、公共料金の支払い状況

小学5年生、中学2年生の約12%の世帯において、過去1年間に金銭的な理由で食料が買えなかった経験があり、中学2年生の世帯の約18%で衣類が買えなかった経験がある。

また、約3%の世帯において公共料金（電話、電気、ガス、水道）の滞納経験がある。これらの経験の割合は困窮層で特に高く、食料では約63%、衣類では約78%、公共料金では電話、電気、ガス、水道により異なるが、約23～29%である。【P37-42】

#### (2) 子どもの生活水準（所有物と体験）

経済的理由でできないことは学校以外での学習。子どもの年齢により困難状況が変化。

##### ① 所有物の状況

小学5年生、中学2年生が「欲しいが、持っていない」とした物品は「携帯音楽プレーヤー」「(自宅で)インターネットにつながるパソコン」「携帯電話、スマートフォン」が上位だった。【P57-70】

##### ② 子どもへの支出

保護者が「経済的にできない」子どものための支出は「習い事」「学習塾（または家庭教師）」「1年に1回くらいの家族旅行」であり、約1～2割の世帯がこれに該当する。

特に、「習い事」「1年に1回くらいの家族旅行」では年齢の高い子どもをもつ保護者ほど支出できないとする割合が多い。【P77-84】

##### ③ 子どもの体験

小学5年生と中学2年生の保護者に、過去1年間において、海水浴、博物館、キャンプ、スポーツ観戦、遊園地などといったさまざまな体験を子どもと一緒に行ったかと聞いたところ、体験の種類により多少の差異はあるものの、「金銭的な理由」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約3～6%、中学2年生では約4～8%である。

「時間的な制約」で体験が「ない」としたのは、小学5年生では約6～13%であり、中学2年生では約15～23%である。困窮層では小学5年生保護者の約30～38%、中学2年

生保護者の約 25～41%が「金銭的な理由」によってこれらの体験を子どもにさせることができないとしている。【P85-89】

### (3) 子どもの食と栄養

困窮層では朝食を摂らない割合が高くなる。16-17 歳の困窮層では植物性たんぱく質、乳製品、果物の摂取頻度が少なくなる。

#### ① 朝食の摂取状況

中学 2 年生の 2.1%が朝食を「いつも食べない」、3.9%が「食べないほうが多い（週 1、2 日）」。困窮層では「いつも食べない」が 4.1%、「食べないほうが多い（週 1、2 日）」が 10.3%である。【P90】

#### ② 栄養群の摂取状況

小学 5 年生、中学 2 年生とも 6 割以上が給食以外に野菜を毎日食べているが、「1 週間に 2～3 日」以下の子どもも約 13～16%存在する。小学 5 年生の困窮層では、約 3 割が「1 週間に 2～3 日」以下である。「肉か魚」についても同様に「1 週間に 2～3 日」以下の子どもが存在する。「果物」については、給食以外にまったく「食べない」子どもが小学 5 年生で 6.4%、中学 2 年生では 5.5%となっている。【P93-98】

16-17 歳では、食事の回数が「ほぼ毎日 2 食」以下である割合が全体の 12.7%となっている。困窮層では、17.0%が「ほぼ毎日 2 食」以下である。動物性たんぱく質では差がないものの、植物性たんぱく質、乳製品、果物では困窮層は一般層に比べ摂取頻度が少ない。反対に野菜の摂取頻度は多くなっている。【P92、P99】

### (4) 住宅の状況

約 8 割は 4 室以上の住居に住んでいる。2 室以下に住むのは約 2%。

#### ① 居住用の室数

住居の部屋数では「4 室以上」（玄関・風呂等を含まない）が約 8 割であるが、約 2%は「2 室以下」である。【P52】

## 2 子どもの学び

### (1) 学校選択

「公立」高校への進学は経済的理由が大きい。「私立」高校への進学は、困窮層では合否による理由が多い。

16-17歳の高校の選択を学校の種類別にみると一般層は公立が54.4%、私立が43.9%であり、困窮層は公立が61.7%、私立が38.3%となっている。【P137】

公立高校に進学した理由は、「私立高校の授業料などの費用が高かった」が一般層では56.4%であるのに対し、周辺層では77.8%、困窮層では82.8%である。私立高校に進学した理由は、一般層では「教育の質が高いと思った」が39.2%で最も多いのに対し、困窮層では「公立高校の入試に合格しなかった」が44.4%で最も多い。【P138-139】

### (2) 授業の理解度

困窮層では「授業がわからない」子どもの割合が高くなる。

#### ① 授業の理解度

小学5年生の81.9%が学校の授業を「いつもわかる」「だいたいわかる」と答えているものの、15.8%は「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答している。中学2年生ではこの割合が28.2%である。困窮層ほど割合は高くなり、小学5年生では約3割、中学2年生では約4割となっている。【P156】

また、小学5年生の授業がわからない子どもの29.5%が、小学3年生までにわからなくなったと回答し、中学2年生の授業がわからない子どもの39.8%が、小学生段階でわからなくなったと回答している。【P157】

16-17歳の29.4%は、「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答している。授業が「わからないことが多い」「ほとんどわからない」子どもは、一般層で14.2%であるのに対し、困窮層では26.0%である。【P156】

### (3) 学校外での学習状況

学習塾に通える子どもの割合は困窮層では低くなる。

#### ① 通塾状況

学習塾に通っている(または家庭教師に来てもらっている)子どもは小学5年生で34.1%、中学2年生で56.4%、16-17歳で19.2%いる。この割合は困窮層ほど低くなり、困窮層の小学5年生で19.9%、中学2年生で37.0%、16-17歳で6.5%となる。【P163】

### (4) 学習環境

小5の困窮層では約3割が自分の勉強机を持っていない。すべての年齢層で、約4割の子どもが、家で勉強できないときに静かに勉強ができる場所を求めている。

#### ① 学習環境の欠如の状況

「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で43.6%、中学2年生で31.3%、「自分だけの本」は小学5年生で20.1%、中学2年生で10.6%である。困窮層で「インターネットにつながるパソコン」がない子どもは、小学5年生で58.4%、中学2年44.8%、小学5年生では「自分専用の勉強机」がない子どもが約3割いる。【P57-61】

各年齢層の約3~5%が「自宅で宿題(勉強)をすることができる場所」が「ない(ほしい)」としている。困窮層では、この割合は小学5年生で9.9%、中学2年生で6.1%、16-17歳で6.4%である。【P60、P73】 どの年齢層においても、約4割の子どもが「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」を「使ってみたい」としている。【P342】

### (5) 子どもに受けさせたい教育段階

生活困難度の高い保護者は、大学またはそれ以上の段階まで子どもを進学させたいと考える割合が少ない。

子どもに受けさせたい教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.1%、周辺層で54.2%、一般層で61.8%、中学2年生の困窮層で30.2%、周辺層で44.0%、一般層で58.8%、16-17歳の困窮層で44.7%、周辺層で60.4%、一般層で73.3%となっている。【P140】

### 3 子どもの日常生活

#### (1) 放課後の過ごし方

放課後は、小5は自宅、中2は学校（部活など）で過ごすことが多い。クラブ活動などは困窮層ほど参加率が低くなる。

##### ① 放課後の過ごし方

平日の放課後に過ごす場所について、過ごす頻度が「週に3～4日」以上の割合をみると、小学5年生では「自分の家」が最も多く66.9%、次いで「塾や習い事」が20.6%、「公園」が13.4%である。中学2年生では「学校（部活など）」が最も多く73.4%、次いで「自分の家」が58.7%、「塾や習い事」が15.1%である。【P185-196】

クラブ活動などについては、中学2年生の9割、16-17歳の7割が参加しており、困窮層ほど参加率が低い。【P213、P215】

#### (2) 友人関係

小・中学生に比べ、16-17歳では平日の放課後（など）に一人で過ごすことが多い。

##### ① 友人関係と孤立

16-17歳の約5人に1人（18.2%）は平日の放課後に「一人で過ごす」ことが多い。小学5年生では5.9%、中学2年生で8.2%である。【P200-202】

##### ② いじめ

いじめられたことが「よくあった」「時々あった」と回答した小学5年生は一般層で多く17.4%であった。【P227】

### (3) 居場所づくり事業等の利用意向について

平日夜までの居場所、休日の居場所を中2と16-17歳の約3~4割が求める。利用意向は困窮層で高くなる。どの年齢層の子どもでも「家の人がいなくて、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向と興味は高く、特に困窮層で高くなる。

#### ① 居場所づくり事業の利用意向

居場所づくり事業については、中学2年生、16-17歳の約3~4割が、「(家以外で)平日の放課後に夜まで安心してることができる場所」「(家以外で)休日にいることができる場所」を「使ってみたい」としている。生活困難度別には、潜在ニーズはどの層においても高くなっているが、困窮層は一般層と比べて「使ってみたい」「興味がある」とする子どもの割合がより多く、居場所づくり事業が困窮層のニーズに対応していることがうかがえる。【P339-340】

夜遅くまで子どもだけで過ごした経験のある小学5年生は約5%である。【P228】 就労している小学5年生の母親の4.5%が早朝(5~8時)、5.4%が夜勤(20~22時)、41.2%が土曜出勤、26.4%が日曜・祝日出勤の仕事がある。【P306】 小学5年生の約5割、中学2年生、16-17歳の約6割が「(家以外で)平日の放課後に夜まで安心してることができる場所」を「使ってみたい」「興味がある」としている。【P339】

#### ② 「夕ごはんをみんなで食べることができる場所」の利用意向

どの年齢層も約4~5割の子どもが「家の人がいなくて、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」について「使ってみたい」「興味がある」としている。この割合は困窮層ほど高い。【P341】

## 4 子どもの健康と自己肯定感

### (1) 健康・医療

主観的健康観、保護者からみた健康状態、むし歯、いずれも困窮層では状況が悪くなる。医療機関の受診を控える割合も困窮層で高くなる。

#### ① 子どもの健康状態

子どもの主観的健康状態及び保護者からみた子どもの健康状態は、困窮層ほど「よい」「まあよい」の割合は低い。【P247、P248】 むし歯がある子どもは困窮層で多くなっており「4本以上」ある子どもは小学5年生で5.2%、中学2年生で5.1%、16-17歳で4.3%となっている。【P249】

#### ② 医療機関の受診抑制

すべての年齢層において約1割の保護者が過去1年間に、子どもを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがある」としている。この割合は困窮層ほど高くなっている。【P250】

受診抑制の理由として、各年齢層の困窮層で、様子を見ているうちに改善した、忙しい、といった理由が多くなっているが、16-17歳の困窮層では一般層、周辺層に比べ「自己負担金を支払うことができないと思ったため」が多くなっている。【P251】

小学5年生、中学2年生の任意接種であるインフルエンザ、おたふくかぜ、水ぼうそうの未接種率は3~5割となっている。未接種率は困窮層ほど高い。【P254-256】

## (2) 自己肯定感

小5・中2の困窮層では自己肯定感が低くなり、16-17歳の困窮層では主観的な幸福度が低くなる。16-17歳の困窮層では抑うつ傾向も一般層と比べて高くなる。

### ① 自己肯定感

自己肯定感について8項目(16-17歳では9項目)を聞いたところ、小学5年生では「孤独を感じることはない」、中学2年生では「自分は価値のある人間だと思う」、16-17歳では「自分は価値のある人間だと思う」「自分の将来が楽しみだ」について、困窮層では一般層より否定的な回答(「(そう)思わない」)を選択する割合が高くなっている。【P262-270】

### ② 子どもの抑うつ傾向

16-17歳の23.5%が「気分・不安障害相当」(K6<sup>1</sup>スケールにて10+)と見られ、抑うつ傾向は一般層と比べて困窮層に多い。【P270】

### ③ 子どもの主観的幸福度

16-17歳の子どもに、この1年間を振り返っての幸福度を0(とても不幸)から10(とても幸せ)の11段階で聞いたところ、幸福度が低い(幸福度0-3)割合は、一般層が5.6%、困窮層が14.9%、幸福度が高い(幸福度8-10)割合は、一般層が51.2%、困窮層が38.3%となっており、一般層に比べ困窮層の子どもの主観的幸福度は低い傾向にある。【P272】

1 K6(ケイシックス): 心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されているもの。スケールの数値5以上は抑うつ傾向があるとされており、この状態が長く続くとうつ病等の可能性が出てくるとされる。

## 5 保護者の状況

### (1) 保護者の就労状況

父親の就労状況は正規社員が最も多いが、困窮層ではその割合が低くなる。母親は非正規社員が最も多く、正規社員の割合で見ると小5・中2の母親では一般層での約2割に比べ困窮層で約1割となる。

#### ① 父親の就労状態

父親の就労状況は正規社員が最も多く、約8割となっている。この割合は小学校5年生と中学校2年生の困窮層ほど低くなり、困窮層の小学校5年生の父親では約7割、中学2年生の父親では約6割となっている。【P285-286】

#### ② 母親の就労状況

母親の就労状況は非正規社員が最も多く、小学5年生と16-17歳の母親の約5割、中学2年生の母親の約6割が非正規社員である。生活困難度別に正規社員の割合をみると、小学5年生と中学2年生の母親では、困窮層が約1割、一般層が約2割と差が出ている。

【P299-300】

### (2) 保護者の健康状態と精神的ストレス

保護者の主観的健康状態は困窮層で悪くなり、抑うつ傾向は困窮層で高くなる。

#### ① 保護者の健康状態

各年齢層で約9割の保護者は、自分の健康状態について「よい」「まあよい」「ふつう」と答えている。この割合は困窮層ほど低くなり、各年齢層で約8割となっている。【P274】

#### ② 保護者の抑うつ傾向

「気分・不安障害相当」(K6 スケールにて10+)と見られる保護者は、各年齢層において約1割となっている。この割合は困窮層ほど高くなり、困窮層の小学5年生と中学2年生の保護者は約3割、16-17歳の保護者は約2割となる。【P276】

### (3) 相談相手

困ったときに相談する相手が「いない」保護者の割合は困窮層ほど高い。

#### ① 保護者の相談相手

小学5年生の保護者の4.1%、中学2年生の保護者の4.8%、16-17歳の保護者の6.3%が困ったときに相談する相手について「いない」と回答しており、この割合は困窮層ほど高くなっている。【P332-334】

## 6 制度・サービスの利用

### (1) 子ども本人の支援サービス利用意向

学校外の学習支援の潜在ニーズは、保護者・子どもともに高い。16-17歳の子どもは、一般層に比べ困窮層の子どもの方が、各種支援サービスの利用意向が総じて高い。

#### ① 支援サービスへの子どもの利用意向

子どもが利用意向のある支援サービスは、「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」について、「使ってみたい」「興味がある」の割合が高く、約6~7割となっている。また16-17歳については、一般層に比べ困窮層の子どもの方が、各種支援サービスの利用意向が高い傾向にある。【P339-345】

学校外の学習支援の潜在ニーズは高く、「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみってくれる場所」について、子どもの約4~6割が「使ってみたい」「興味がある」と回答している。【P343】 また、保護者の約3割が「学校以外が実施する学習支援」に対して「利用したい」と回答している。【P361-363】

### (2) 情報の受け取り方法

一般層に比べ困窮層の家庭の方が、行政発信の情報が届いていない可能性が高い。

#### ① 施策情報の受け取り方法

子どもに関する施策の情報の受け取り方法については、「学校からのお便り(紙のもの)」が最も多く、すべての年齢層で約8割となっている。また、行政経由の情報取得方法である「行政機関の広報誌」「行政機関のホームページ」について、一般層よりも困窮層の利用率が低い。【P346-348】

### (3) 支援サービス利用状況・認知状況・利用意向

支援が必要と思われる子どもの方が、各支援サービスについて知らずに利用していない可能性が高い。全年齢の保護者において、学習支援へのニーズが高い。

#### ① 支援サービスの利用状況・認知状況

小学5年生と中学2年生では「子ども食堂」「フードバンクによる食料支援」「学校以外が実施する学習支援」、16-17歳では「フードバンクによる食料支援」「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所」「学校以外が実施する学習支援」について、知らないため利用されていない割合（非認知による不利用率）が高く、約3割となっている。また、困窮層は一般層に比べ、各支援サービスについて非認知による不利用率が高い傾向にある。

【P352-360】

#### ② 支援サービスへの保護者の利用意向

保護者が利用意向のある支援サービスは、すべての年齢層で「学校が実施する補講」の意向が最も高く、次いで「学校以外が実施する学習支援」「居場所事業（小学高学年も利用できる児童館や児童クラブ、中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所など）」となっている。【P361-363】

# 第1章 見えてきた状況と課題

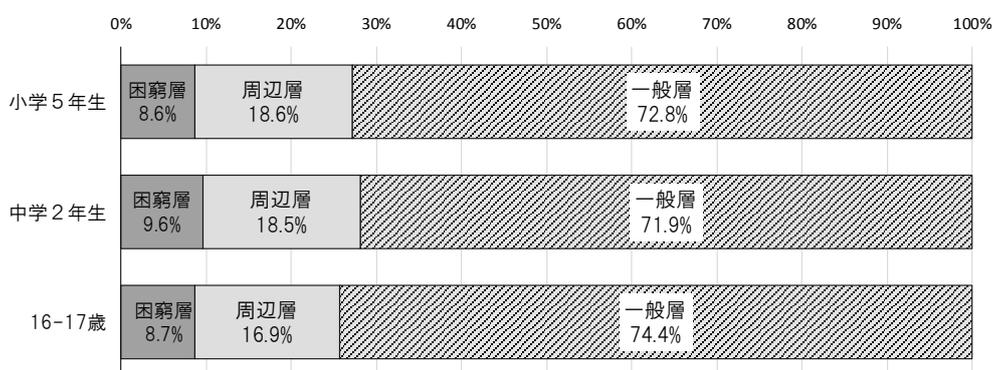
## 1 川越市の状況

### (1) 支援が必要な世帯と子どもの存在

今回の調査では、川越市において困窮層にあると思われる家庭の割合が小学5年生で8.6%、中学2年生で9.6%、16-17歳で8.7%となった。また、周辺層の家庭は小学5年生で18.6%、中学2年生で18.5%、16-17歳で16.9%となっている。

川越市において支援を必要とする生活困難な世帯と子どもが存在することがわかった。

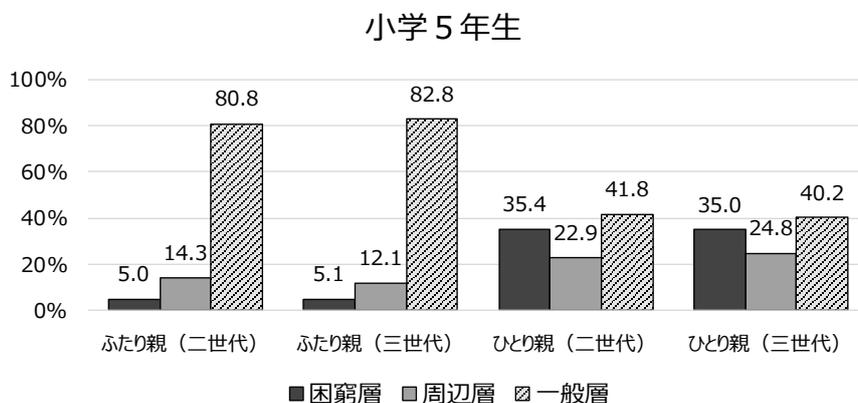
【第3章2(3)：生活困難層の内訳】



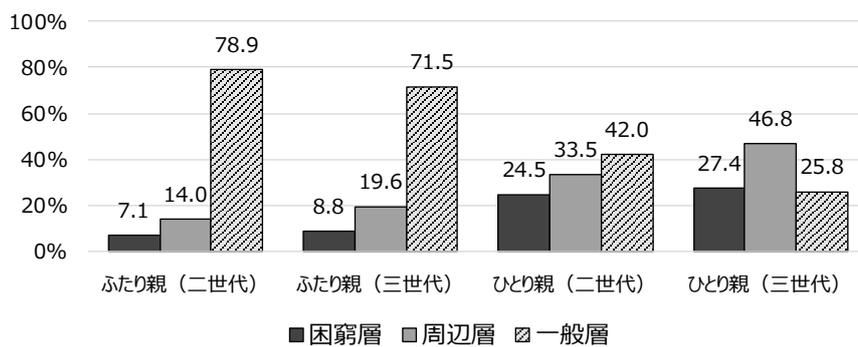
### (2) 生活困難度と世帯タイプの関連性

生活困難の状況には世帯タイプとの関連性がみられる。小学5年生、中学2年生、16-17歳のいずれの年齢層でも、ひとり親（二世帯・三世帯）では、ふたり親（二世帯・三世帯）に比べて困難層、周辺層の割合が高くなっている。一人の保護者が生活のための働き手と親の役割を担わざるを得ないひとり親家庭に対し、学習支援、就労支援、相談・講習などの取組が行われているが、その重要性が今回の調査でも明らかになった。

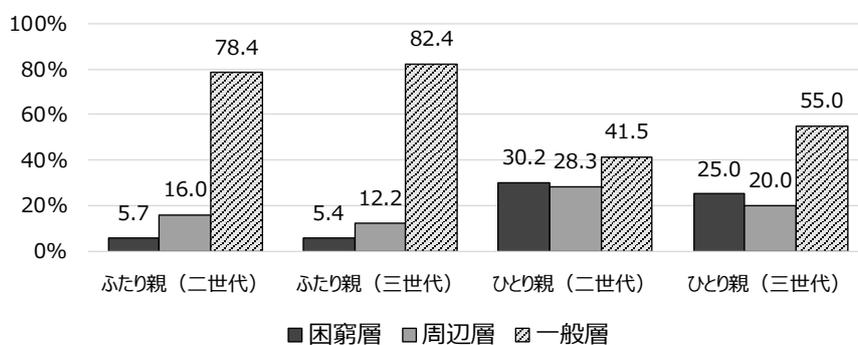
【第3章2(3)：世帯タイプ別生活困難層の内訳】



## 中学2年生

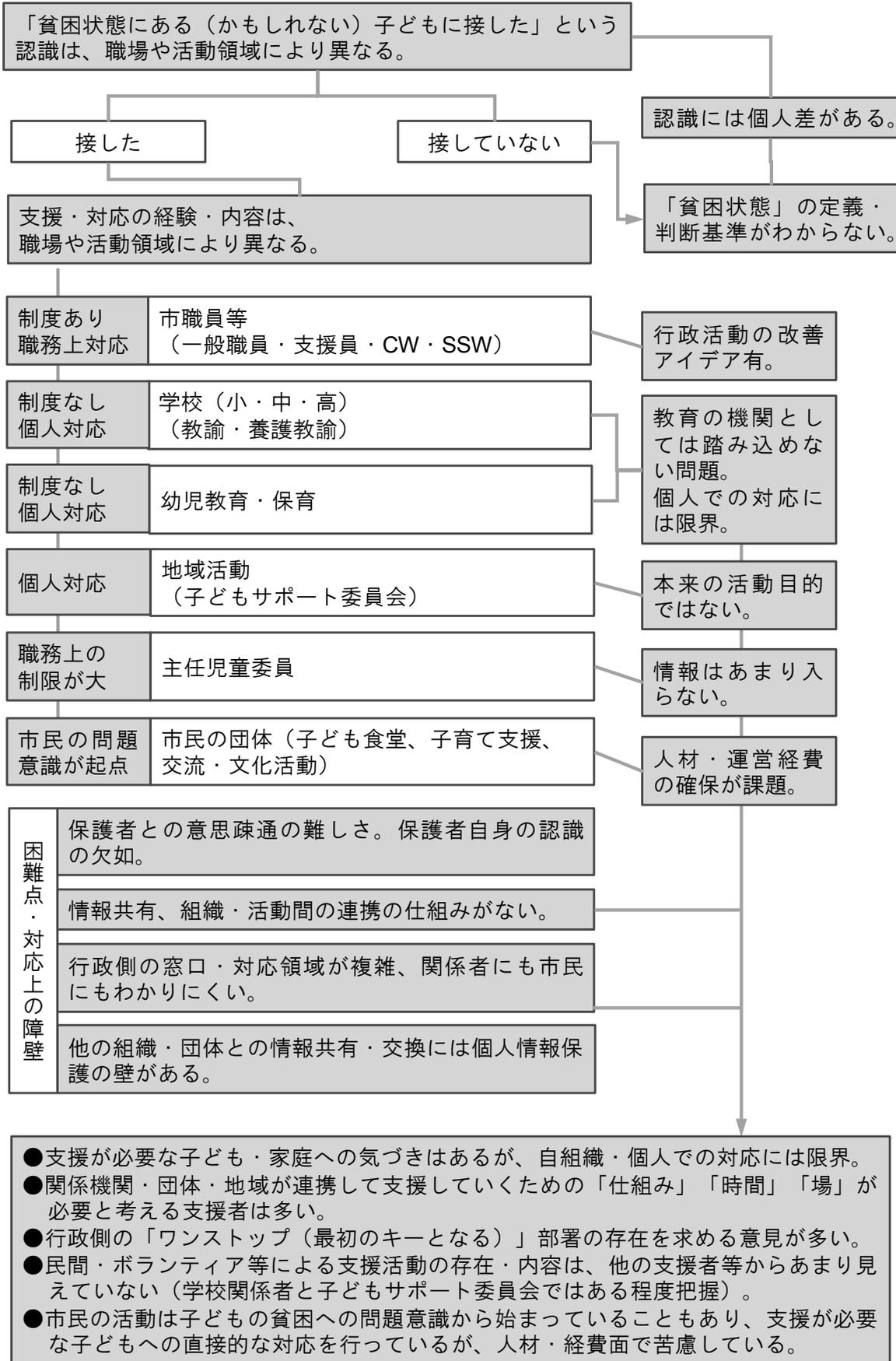


## 16-17歳



### (3) 川越市の支援者側の状況

支援を提供する側については、ヒアリング調査により以下の状況がわかった。



## 2 子ども（児童・生徒）についてわかった課題

### （1）自宅・学校以外の「居場所」

平日の放課後を週に3～4日以上過ごす場所としては、小学5年生では第1位、中学2年生では第2位が「自分の家」となっている。また、小学5年生の5.9%、中学2年生の8.2%、16-17歳の18.2%は平日の放課後を一人で過ごしている。一方、中学2年生や16-17歳はクラブ活動（部活）への参加率が高いが、生活困難度の高い子どもはそれらにより放課後を学校で過ごすことが少なくなっている。【第7章3(1) 平日の放課後を過ごす場所と頻度】

使ってみたい居場所として、平日の放課後に夜まで“安心して”過ごせる場所、また、休日にいることができる場所が求められている。中学2年生以上でのこれらの利用意向は困窮層で高く、安心な居場所づくりは全ての子どもに対してはもちろん、困窮層の子どもたちへの支援の方向性として重要度が高いと考えられる。【第10章1 子ども本人の支援サービス利用意向】

### （2）一緒に過ごす人と過ごし方

「一緒に過ごすことが一番多い人」では、平日の放課後は「学校の友だち」が多く、各年齢層で約3割から4割以上を占めているが、学校のない日、つまり「休日」では小学5年生で「学校の友だち」と過ごす割合が全体で7.4%と少なくなる。中学2年生や16-17歳では「学校の友だち」は休日でも約3割となっているが、そこには部活で過ごすことが含まれる。部活動の参加について、参加していない子どもの理由をみると、中学2年生では「家の事情（家族の世話、家事など）」の理由に生活困難度との関連がみられ、困窮層でその理由をあげる割合が高い。同じく部活動に参加していない16-17歳の理由では、「家の事情」が困窮層でわずかに高い割合を示しているものの、生活困難度との関連が顕著に表れている理由は「費用がかかるから」であり、一般層の9.0%、周辺層の23.1%に比べ、困窮層では31.6%となっている。【第7章3 平日の放課後の過ごし方】【第7章4 休日の過ごし方】

また、小学5年生と中学2年生では、休日に「一人でのいる」の割合で生活困難度との関連がみられ、困窮層では一人で過ごす割合が高い。【第7章4(2) 休日と一緒に過ごす人】

平日の放課後、小学5年生と中学2年生で「一人でのいる」子どもについて、母親の1週間の平均就労時間との関連性をみると、平均就労時間が長く「50時間以上」の層で「一人でのいる」割合が高くなる。【第7章3 平日の放課後の過ごし方】

自宅で過ごすことや一人で過ごすこと自体が問題と言えないが、平日の放課後、休日などに過ごせる場所がないため、あるいは生活困難や特に母親の就労状況との兼ね合いで他者との交流が行われないとすれば、子どもたちの居場所を準備することは課題の一つとなる。どのような居場所が求められているかは、使ってみたい事業の回答に現れている（次項）。

### (3) 求められる「居場所」の内容

子どもの、支援サービスの利用意向では、「家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所」「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所」「家の人がいないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所」「(学校以外で)何でも相談できる場所」を使ってみたい(ないし興味がある)とする層が一定数みられた。【第10章1子ども本人の支援サービス利用意向】

子どもたちの居場所については、単に時間を過ごせる場所ではなく、そこで子どもたちに何が提供されるかも重要である。支援サービスの利用意向から読み取ると、「学習の場」「食事の提供」「何でも相談できる」といった機能が求められていると考えられる。

学習の場については、自由意見でも学校や自宅以外で勉強のできる場所がほしいとするものがみられた。

食事の提供については、平日の夕食を一緒に食べる人と母親の週当たり平均就労時間の長さとの関連をみると、小学5年生で「一人で食べる」と回答した子どものうち、母親の就労時間が「40～50時間未満」の層が28.8%で最も高くなっている(次点は「10～20時間未満」)。【第7章2(2)夕食を一緒にとる人】

居場所について子どもたちが求めているものは、必ずしも「学習の場」「食事の提供」という具体的なサービス提供のみではないことも推察できる。例えばサービス利用意向で、「(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」は、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合がいずれの年齢層でも過半数となっており、生活困難度が高いほど利用意向や興味の割合が高くなっているが、その設問は「夜まで」「安心して」「いることができる」という表現に留まり、具体的に受けられるサービス内容までは明示されていない。自由意見では、「安心できる場所や相談できる場所」「遊び場もあり、勉強場所もある所」「いろいろな本が読める場所」「学校帰りの子どもが遊べる所、勉強できる所」がほしいとするものがみられた。

子どもたちの交友関係は、各年齢層とも「学校の友だち」が「一番仲が良い友だち」のトップである。16-17歳では「小・中学校で一緒だった友だち」が2位に入っている。こうした仲の良い友だちとは、学習や食事を共にするという以前に、一緒に楽しく過ごしたい、遊びたいという気持ちが強いとも考えられる。【第7章1(1)一番仲が良い友だち】

また、前述のように「相談できる場」という要望があることも見過ごせない。「大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所」の利用意向があることから、見守りや学習指導など地域の人々との関わりは、子どもの居場所づくりにおいて重要であろう。

居場所については、子ども票の問10、保護者票の問43-2で「放課後子供教室」の利用意向も聞いている。保護者の約6割が子どもを参加させたいと回答し、そこでの活動として「宿題の手伝いなどの学習」を多くが望んでいるが、子ども自身の参加意向は45%弱で保護者より低い。放課後子供教室は現在川越市になく、「公民館などで地域の人が見守る中、勉強をしたり遊んだりするもの」という設問の補足文から利用したいかどうかを判断したものと思われるが、保護者が過ごさせたいと考える居場所のイメージと、子どもが過ごしたいと思う居場所のイメージが少し異なっていることがうかがえる結果となった。【第7章5(1)放課後子供教室の参加意向】

子どもの居場所づくりでは、子ども自身が「行きたい」と思えるような場の創出や内容の周知も重要と考えられる。

公的に用意された子どもたちの居場所としては児童館・児童センターがあるが、小学5年生、中学2年生のいずれも平日の放課後をそこでは全く過ごさないとする割合が80%を超えている。児童館を子どもの日常的な行動圏内に設置できる数には限度があるものの、そこで供されるサービスや環境を、求められているものに近づけていく工夫や、既存の施設以外の居場所の開拓や確保も検討課題にあげられる。

#### （4）教育、学習環境の不足と、授業の理解度・自信の低下

塾や習い事で過ごす頻度の「毎日」「週に3~4日」「週に1~2日」を合わせた回答の割合は生活困難度が高いほど低くなっている。【第7章3 平日の放課後の過ごし方】

また、学習塾に通っている（または家庭教師に来てもらっている）かどうか、自分だけの本の有無、自分専用の勉強机の有無など、子どもの学校以外での学習機会や自律的な学習に関わる環境は生活困難度との関連性がみられ、困窮層で少なくなっている。生活困難度による違いは、授業の理解度や成績の主観的評価にも現れ、困窮層では授業がわからない、自分の成績が上の方ではないと感じる子どもの割合が高くなる。【第6章3（1）授業の理解度】

生活の状況により学習意欲や自信の低下が考えられる子どもに対しての、学習面での支援などが求められる。

#### （5）子どもの生活環境改善と精神的サポートの強化

食や栄養の面で見ると、困窮層の子どもでは朝食を摂らないことが多くなっている。栄養群の摂取状況では、小学5年生や中学2年生では、野菜、肉か魚、果物などを給食以外で摂ることが減り、16-17歳では植物性たんぱく質、乳製品、果物で摂取頻度が少ない。

健康面では、困窮層ほど主観的健康状態を「よい」「まあよい」とする割合は低く、むし歯がある子どもは多くなっている。【第4章3 子どもの食と栄養】【第8章子どもの健康と自己肯定感】

精神面では、一般層と比べて困窮層で自己肯定感、主観的幸福度が低く、抑うつ傾向が高くなっている。子ども自身が（学校以外で）何でも相談できる場所について、「使ってみたい」「興味がある」と多く回答しており、中学2年生と16-17歳では生活困難度が高くなるほど相談場所の利用意向が高まっている。また、親との会話の頻度でも、中学2年生や16-17歳では、困窮層の子どもが周辺層や一般層と比べて低くなる傾向がみられる。【第8章子どもの健康と自己肯定感】【第10章1 子ども本人の支援サービス利用意向】【第9章6（1）子どもとのかかわり頻度】

家以外の環境でも、子どもたちの健康面や精神面をサポートする周囲の支えが重要と考えられる。生活環境の改善については、子ども本人への支援と併せて、保護者へのサポートが重要になると思われる。

### 3 保護者についてわかった課題

#### (1) 生活困難の状況や保護者の体験が及ぼす子どもへの影響

過去1年間に食料が買えなかった経験で、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた『あった』の回答が、小学5年生の困窮層で67.0%、中学2年生の困窮層で60.8%、16-17歳の困窮層で61.7%となっている。衣類が買えなかった経験での『あった』は、小学5年生の困窮層で78.2%、中学2年生の困窮層で77.3%、16-17歳の困窮層で80.8%である。これらの家庭の状況が子どもの栄養状態や健康、幸福感などに影響を及ぼすことは想像に難くない。【第4章1生活困窮の状況】

また、子育てにおける保護者の経験で「わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」や「子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」との回答はいずれの年齢層の保護者でも困窮層で割合が高く、生活困難度が子どもへの深刻な影響を及ぼしている可能性がある。【第9章5父親・母親のこれまでの経験】

生活困難な状況への対応として、経済的な支援だけでなく、生活困難な状況の背景にあると考えられる保護者の孤立感や悩みを軽減させる方策や、支援を必要とする家庭にそれらが認知されることが重要である。また、市の相談窓口はもちろんのこと、地域における社会資源を活用した支援等の提供体制が有効に働くための方策を考えることこそ重要だと考えられる。さらに、それらは生活困難な状況にある家庭や子どものみならず、すべての子どものために用意されるべきものと考えられる。

#### (2) 進学に関わる意向の連鎖

子どもに受けさせたい教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.1%、周辺層で54.2%、一般層で61.8%、中学2年生の困窮層で30.2%、周辺層で44.0%、一般層で58.8%、16-17歳の困窮層で44.7%、周辺層で60.4%、一般層で73.3%となっている。中学卒業を控えた中学2年生で、将来の進学希望を「高校まで」と回答した割合は、困窮層で19.1%、周辺層で17.5%、一般層で9.6%となっている。「大学またはそれ以上」と回答した割合は、困窮層で34.2%、周辺層で38.3%、一般層で49.3%となっている。【第6章1(4)子どもに受けさせたい教育段階】【第6章5将来の夢】

このように、保護者と子どもの将来的な進学の希望には生活困難度との相関がみられるが、子どもの意向に関しては自身の価値観もさることながら保護者の日ごろの言動や意向が影響を及ぼしていることも考えられる。保護者の自由意見では、子どもが長じることになった教育費等の負担増を心配するものが多くみられ、そういった心配を軽減させることが、子ども自身が本当に受けたい教育段階まで進もうと考えるためには重要と思われる。

### (3) 保護者の健康状態と孤立感

保護者の健康状態と精神的ストレスは困窮層ほど状況が悪くなっている。

保護者が困ったときに相談する相手については、「いない」と回答した保護者の割合が困窮層ほど高い。

回答者の約85%を占める母親において、困りごとや悩みごとの相談相手と1週間の平均就労時間にはある程度の関連性がみられる。小学5年生保護者の場合、相談先で「地域の人」をあげた人では「10～20時間未満」の割合が最も高く、「いない」では「40～50時間未満」が最も高い。中学2年生の保護者では、「地域の人」は「20～30時間未満」の割合が最も高く、「いない」では「40～50時間未満」が最も高い。16-17歳保護者では、「地域の人」は「10～20時間未満」「20～30時間未満」「50時間以上」が同率であるものの、「いない」では「40～50時間未満」の割合が最も高くなっている。就労時間が長く忙しい人ほど、相談先として「地域の人」が減り、相談先のいない人が増える傾向がわかる。

また、相談相手と保護者の経験の関連性をみると、「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振るわれたことがある」と回答した人では、どの年齢層でも相談相手が「いない」とする割合が最も高い。相談先としては、いずれの年齢層、いずれの生活困難度でも「家族」が最も高い割合となっているが、DV(ドメスティック・バイオレンス)の問題を抱えている、あるいは経験したことがある場合は、本来であれば最も相談をしたいと思う身近な相手を失っている可能性が高い。【第9章7 保護者の相談相手】

### (4) 相談窓口の利用

前項のとおり、困窮層ほど健康状態の悪化と精神的ストレスを抱え、しかも相談相手がおらず社会的に孤立しやすい傾向があると考えられることから、保護者の悩みをすくい上げる相談体制の強化が重要な課題と考えられる。

保護者票の間45では、公的相談機関の利用経験を聞いている。「市役所の窓口」「子育て支援センター」「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」への相談状況について、利用したことがない保護者の、利用を阻害している要因と捉えられる「相談したかったが、抵抗感があった」「相談時間や場所などが使いづらかった」「相談する窓口や方法がわからなかった」の状況を生活困難度別にみると、全体的に困窮層では「相談したかったが、抵抗感があった」と「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が一般層と比べて高い。【第10章3 相談窓口の利用状況】

相談は、各種支援の起点ともなる重要なポイントであり、「相談する窓口や方法がわからなかった」については、支援を必要とする人への窓口等の確実な周知が必要と考えられる。さらに、支援者等ヒアリングの意見にあるように、利用者からわかりやすく、受けた相談への対応を適切に各機関で連携していけるワンストップの窓口などが重要になると考えられる。

また、「相談したかったが、抵抗感があった」に対しては、利用者が屈辱感や劣等感など、いわゆるスティグマを感じないようにする工夫も必要と考えられる。

## (5) 支援やサービスの周知と提供体制の強化

保護者の、支援サービスの利用意向は、すべての年齢層で「学校が実施する補講」が最も多く、「学校以外が実施する学習支援」「居場所事業（小学高学年も利用できる児童館や児童クラブ、中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所など）」が続く。これは子ども自身の要望とも一致している。【第10章2(3) 子育て支援制度等の利用意向】

市には様々な施策や民間による支援活動が存在するものの、それらを知らないことにより利用に至っていないケースがあると思われる。小学5年生と中学2年生では「子ども食堂」「フードバンクによる食料支援」「学校以外が実施する学習支援」、16-17歳では「フードバンクによる食料支援」「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所」「学校以外が実施する学習支援」について、知らないため利用されていない割合が約3割みられた。

### 【第10章2(2) 子育て支援制度の利用経験】

また、困窮層は一般層に比べ、各支援サービスについて非認知による不利用率が高い傾向にある。必要とする人に必要な情報が届いていない可能性が考えられることは問題であり、各種支援・サービスの周知を徹底していくことは重要な課題の一つである。情報の提供方法として、今後求められている情報取得方法であるインターネット（特に携帯デバイスで受け取れる方法）の活用も検討すべき課題と思われる。【第10章2(1) 子ども関連情報の入手方法の現状と意向】

また、支援者等へのヒアリング調査では、支援を提供する側の連携の重要性が多く意見としてあげられている。必要と考えられている体制づくりには大きく2つの側面があり、1つは「利用者にわかりやすい、ファーストコンタクトの窓口」、もう1つは「相談ないし要望、あるいは状況を共有し、地域の社会的資源である様々な活動と連携して支援することのできる総合的対応」に集約される。

## 4 課題と支援の方向性

国の掲げる「子供の貧困対策に関する主な施策」の枠組みに沿い、本章前節までにあげた川越市の課題と、考えられる支援の方向性をまとめる。

### 1 教育の支援

子どもの課題	<p>【教育、学習環境の不足】生活困難度による学習環境の差。</p> <p>【授業の理解度・自信の低下】困窮層で「授業がわからない」。</p> <p>【通塾状況】学習塾に通っている（または家庭教師に来てもらっている）割合は困窮層で低い。</p>
保護者の課題	<p>【進学への意向の連鎖】困窮層の保護者で進学先の抑制。</p> <p>【教育関係費用の悩み】子どもが長じるにしたがって増える負担への不安。</p>
	
支援の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども自身の自律的な学習意欲や進学希望が生活困難などの理由により阻害されることのないよう、学習支援、学習の場の提供などを行う。</li> <li>●子どもにとって身近な場所である「学校」をプラットフォームとし、学習以外の相談等についても対応体制を強化する。</li> <li>●教育に係る経済的支援の制度について周知と活用促進を図る。</li> <li>●子どもが将来の夢（職業）に希望を持てるよう、進学等の経済的支援促進を図る。</li> </ul>
	
関連の考えられる川越市の主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラーの配置拡充</li> <li>●コミュニティ・スクールの推進体制構築</li> <li>●各学校段階を通じた体系的なキャリア教育の充実</li> <li>●学校・家庭・地域の連携・協働により、地域ぐるみの教育の充実</li> <li>●ひとり親家庭等の学習支援</li> <li>●生活困窮者等への学習支援</li> <li>●準要保護児童生徒に対する就学援助</li> <li>●生活保護世帯の子どもの高校・大学への進学支援</li> <li>●生活保護制度による教育扶助</li> <li>●就学援助制度による学校給食費の補助</li> <li>●川越市大学奨学金基金による大学への進学支援</li> <li>●高等学校等進学時の支援制度の周知</li> </ul>

## 2 生活の支援

<p>子どもの課題</p>	<p>【生活状況の悪化】困窮層で食事・栄養の不足。                  【健康状態の悪化】困窮層で主観的健康の悪化。                  【精神的サポートの必要性】困窮層で自己肯定感・幸福度が低下。</p>
<p>保護者の課題</p>	<p>【生活困難が及ぼす子どもとの関わりへの影響】困窮層で、子どもとの会話が不足の傾向。                  【保護者の健康状態の悪化】精神的ストレスの増加。                  【保護者の孤立感】相談先相手がいない。                  【サービスの非認知】相談先がわからない、受けられるサービスがわからない。                  【相談に際しての抵抗感】相談したいが抵抗感がある。</p>
	
<p>支援の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種支援の起点ともなる相談窓口や相談方法の、必要とする人への確実な周知を行う。</li> <li>●受けた相談への対応を各機関で連携するワンストップサービス体制を検討する。</li> <li>●出産からの切れ目ない健康管理サポートを行う。</li> </ul>
	
<p>関連の考えられる川越市の主な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活困窮者自立相談事業等の生活困窮者に対する自立支援施策</li> <li>●相談窓口のワンストップ化の促進</li> <li>●ひとり親家庭等日常生活支援事業</li> <li>●ひとり親家庭の親に対する家計管理・生活支援講習会等事業</li> <li>●相談支援事業</li> <li>●情報交換事業</li> <li>●乳児家庭全戸訪問事業</li> <li>●養育支援訪問事業</li> <li>●子育て世代包括支援センターの整備</li> <li>●産前・産後サポート事業</li> <li>●産後ケア事業等</li> <li>●母子生活支援施設の活用</li> </ul>

### 3 保護者に対する就労の支援

子どもの課題	<p>【忙しい保護者】子どもが一人で過ごす、一人で食事をする。</p> <p>【食料・衣料が買えない家庭】健康や幸福感などに影響。</p>
保護者の課題	<p>【長時間の就労】子どもと過ごす時間や相談相手が減少。</p> <p>【就労状況と生活困難度】父親は困窮層ほど正規社員が少なく、母親は非正規社員が最多。</p> <p>【ひとり親の経済的困窮】ひとり親世帯は生活困難度が高い。</p>
	
支援の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者がよりよい環境、より望む状況で就労できるよう、就労相談・案内の窓口を周知する。</li> <li>●ひとり親家庭への自立支援・就労支援を推進する。</li> </ul>
	
関連の考えられる川越市の主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●母子家庭等就業・自立支援事業</li> <li>●若者職業的自立支援推進事業</li> <li>●ひとり親家庭の親に対する就業支援</li> <li>●ひとり親家庭への高等職業訓練促進給付金等の支給</li> <li>●ひとり親家庭への自立支援教育訓練給付金の支給</li> <li>●高等学校卒業程度認定試験の合格支援</li> <li>●生活困窮世帯及び生活保護世帯の親に対する就業支援</li> </ul>

## 4 経済的支援

<p>子どもの課題</p>	<p>【医療機関の受診抑制】必要と思った受診でも控える。                  【服・靴】生活困難度が高いほど子どもの服や靴に費用をかけられない。                  【生活困難が影響する自己肯定感】困窮層では一般層より自己に対する否定的な回答。</p>
<p>保護者の課題</p>	<p>【サービスの非認知】生活困難度が高い家庭ほど「就学援助制度を知らなかった」とする割合が高い。</p>
	
<p>支援の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●必要とする人を確実に支援できるよう、各種手当等について周知を徹底する。</li> <li>●離婚によるひとり親家庭には、安定した養育費の受け取りを行えるよう取決めの奨励を図る。</li> </ul>
	
<p>関連の考えられる川越市の主な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童扶養手当の支給</li> <li>●母子父子寡婦福祉資金の貸付</li> <li>●育英資金の貸付</li> <li>●生活福祉資金の貸付</li> <li>●養育費等支援事業</li> <li>●養育費等の取決めについて解説したパンフレットの離婚届書との同時交付</li> <li>●未婚の児童扶養手当受給者に対する臨時・特例給付金（仮）</li> <li>●寡婦（夫）控除のみなし適用の推進</li> <li>●生活困窮者住居確保給付金</li> </ul>

## 5 調査研究・施策の推進体制等

(居場所づくり・市民活動等への支援・ネットワーク形成など)

子どもの課題	<p>【居場所】「学習」「食事」「何でも相談できる」などがほしい。</p> <p>【居場所】夜まで安心していられる場所がほしい。</p> <p>【16-17歳の孤立】16-17歳の約5人に1人は平日の放課後を一人で過ごす。</p>
保護者の課題	<p>【サービスの非認知】「学校以外が実施する学習支援」について、知らないため利用されていない割合が約3割。</p>
他の課題	<p>【窓口が複雑・わかりにくい】わかりやすい窓口の必要性が支援者側から指摘されている。</p> <p>【支援の連携】関係機関・団体・地域による支援の連携の重要性が支援者側から指摘されている。</p> <p>【市民の活動】支援を行っている市民団体は人材・経費面で苦慮。</p> <p>【社会資源の活用】地域における活動の存在や内容が市民や他の支援者等に周知されていない面がある。</p> <p>【子どもや若者への直接的なアプローチ】子ども自身が使える相談窓口などにより、中学校卒業後の子どもに対して切れ目なく支援が行えるよう図る必要がある。</p>
	
支援の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居場所づくりにおいて、サービスや環境を求められているものに近づけていく工夫や、既存の施設以外の居場所の開拓・確保を検討する。</li> <li>●子ども食堂をはじめとする地域づくりの取り組みに対し、経費面の補助や立ち上げ時の相談などを行い支援する。</li> <li>●市に存在する社会資源の情報発信。</li> <li>●利用者にわかりやすい窓口、相談や要望・状況を共有し、地域の様々な社会的資源と連携して支援できる総合的な体制づくり。</li> <li>●子どもを支援するネットワークを構築する。幼児期・小学生・中学生のみならず、進学・就職等の時期を控える16歳以上の子ども自身が相談しやすい窓口等の整備を検討する。</li> </ul>
	
関連の考えられる川越市の主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもの居場所づくり</li> <li>●こども食堂への支援</li> <li>●子供の未来応援地域ネットワーク形成支援事業</li> </ul>

## 第2章 調査の概要

### 1 調査の目的・対象者・方法等

#### (1) 調査の目的

本調査は、すべての子どもが生まれ育った環境に左右されず夢と希望を持って成長していけるよう、日常生活や社会生活の自立と安定を目指した支援方針の検討にあたって、子どもの生活状況や子どもとの関わり、家庭の状況などをうかがい、今後の子ども子育てに関する支援施策の充実や改善につなげる基礎資料とするため、実施したものである。

#### (2) 調査対象者・抽出方法

市内在住で公立小学校に通う小学5年生、公立中学校に通う中学2年生、16～17歳（高校2年生及び高校に在籍していない同年齢の子どもを含む）の子ども本人とその保護者。

	調査対象者	抽出方法
小学5年生の家庭	2,221 世帯	地区社会福祉協議会区分から地区ごとに学校単位で抽出
中学2年生の家庭	2,066 世帯	
16-17歳の家庭	1,999 世帯	住民基本台帳により無作為に抽出

#### (3) 調査方法

	調査方法
小学5年生の家庭	学校を通じ配付・回収
中学2年生の家庭	
16-17歳の家庭	郵送による配付・回収

#### (4) 調査時期

平成30年7月6日～7月27日

### 2 回収状況

#### (1) 有効回答数（回答率）

		子ども票	保護者票	親子マッチングできた票数
小学5年生	有効回答数	2,010 票	2,015 票	2,000 票
	回答率	90.5%	90.7%	90.0%
中学2年生	有効回答数	1,914 票	1,919 票	1,905 票
	回答率	92.6%	92.9%	92.2%
16-17歳	有効回答数	675 票	687 票	673 票
	回答率	33.8%	34.4%	33.7%

### 3 集計結果の表示方法

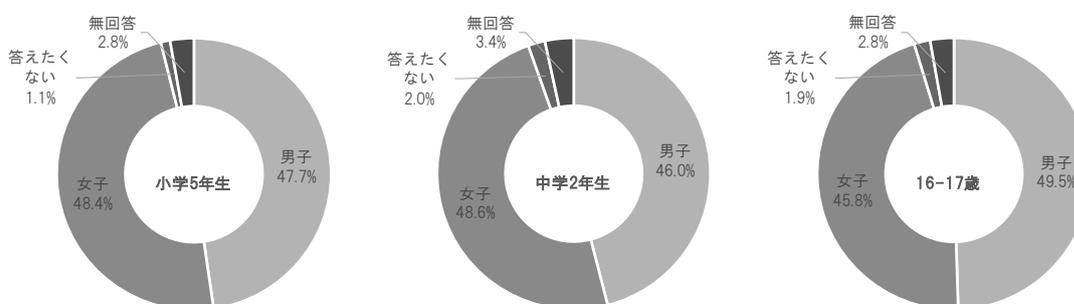
- 本報告書では、子ども票、保護者票の設問をテーマごとに分類し、集計結果を掲載している。
- 小学5年生及び中学2年生の調査対象者は地区社会福祉協議会区分から地区ごとに学校単位で抽出しているため、地区間での抽出率が異なっている。本報告書の「第2章」以降の集計については、地区ごとの回収率を調整するため、小学5年生及び中学2年生の集計は、統計的な処理に基づく集計（ウェイト付き集計）となっている。そのため、小学5年生及び中学2年生のクロス集計グラフでは「n」（後述）の数値の表記を行っていない。
- 生活困難度を判定するための設問で無回答のため、判定不能としたものがある。そのため、困窮層、周辺層、一般層の合計は全体数と同数ではない。
- 世帯タイプは保護者票の子どもと父親、母親それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 百分率による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は、回答者が皆無であることを表す。
- 質問文を一部省略して表記している場合がある。
- グラフ及び文章中で選択肢を一部省略している場合がある。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0」の数値表示を省略しているものがある。
- 説明文中で設問番号を示す際、「小5・中2」と「16-17歳」が同等の設問である場合は、「小5・中2」の設問番号で示している。

## 第3章 回答者の基本属性

### 1 回答者の基本属性

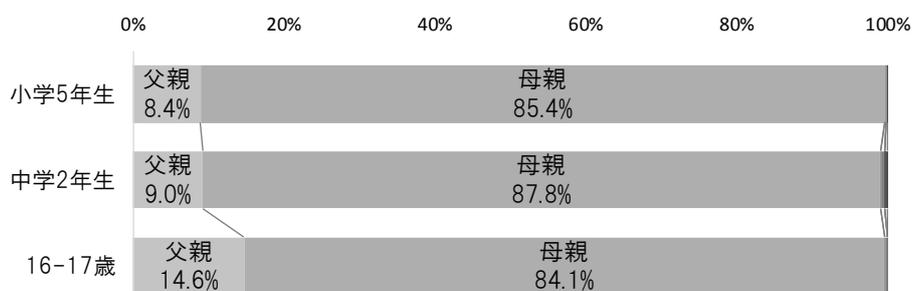
#### (1) 子どもの性別（上段：人）

	男子	女子	答えたくない	無回答	合計
小学5年生	958	972	23	57	2,010
	47.7%	48.4%	1.1%	2.8%	100.0%
中学2年生	880	930	38	66	1,914
	46.0%	48.6%	2.0%	3.4%	100.0%
16-17歳	334	309	13	19	675
	49.5%	45.8%	1.9%	2.8%	100.0%



#### (2) 保護者（回答者）と子どもの続柄（上段：人）

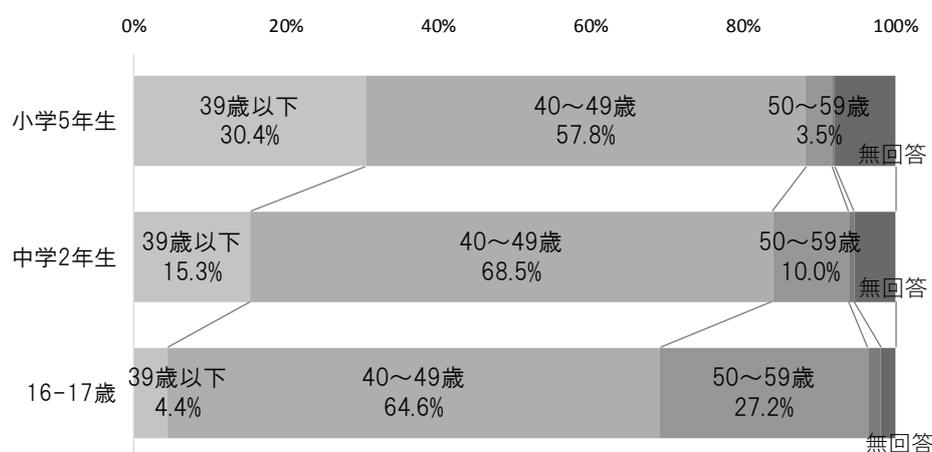
	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	その他	施設職員	無回答	合計
小学5年生	170	1,720	0	5	1	0	4	115	2,015
	8.4%	85.4%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	5.7%	100.0%
中学2年生	173	1,684	1	7	0	1	7	45	1,918
	9.0%	87.8%	0.1%	0.4%	0.0%	0.1%	0.4%	2.3%	100.0%
16-17歳	100	578	1	3	0	0	0	5	687
	14.6%	84.1%	0.1%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	100.0%



※無回答除く。

## (3) 保護者（回答者）の年齢（上段：人）

	39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	合計	平均値
小学5年生	613	1,165	70	4	163	2,015	41.5歳
	30.4%	57.8%	3.5%	0.2%	8.1%	100.0%	
中学2年生	293	1,314	191	14	106	1,918	44.0歳
	15.3%	68.5%	10.0%	0.7%	5.5%	100.0%	
16-17歳	30	444	187	12	14	687	47.3歳
	4.4%	64.6%	27.2%	1.7%	2.0%	100.0%	

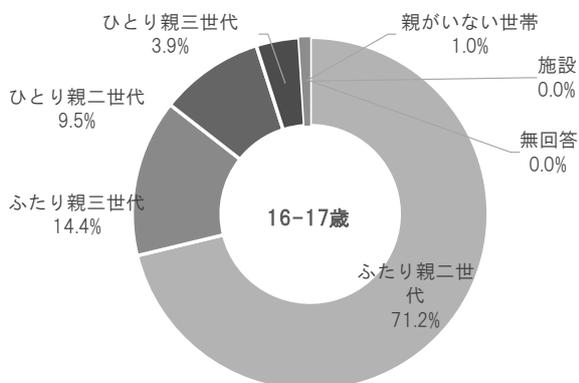
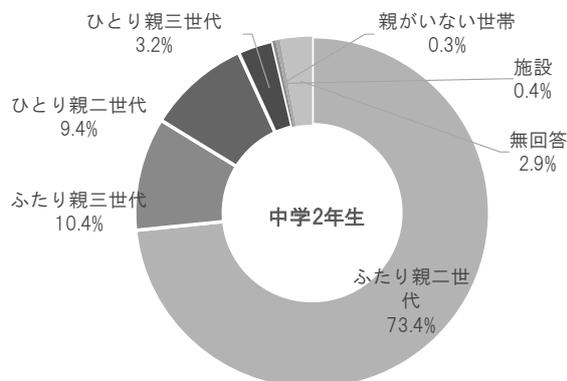
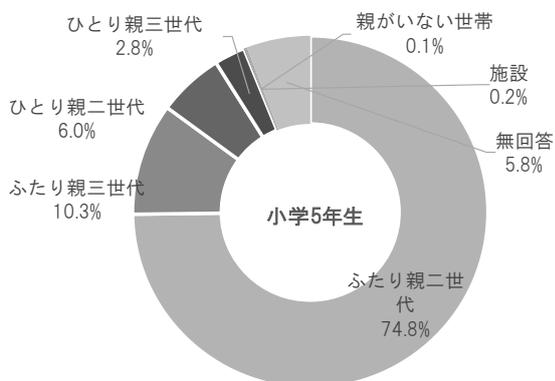


## (4) 両親の国籍（上段：人）

	母親			父親			合計
	日本	日本以外	無回答	日本	日本以外	無回答	
小学5年生	1,868	35	112	1,831	26	158	2,015
	92.7%	1.7%	5.6%	90.9%	1.3%	7.8%	100.0%
中学2年生	1,836	35	47	1,788	19	111	1,918
	95.7%	1.8%	2.5%	93.2%	1.0%	5.8%	100.0%
16-17歳	671	5	11	647	7	33	687
	97.7%	0.7%	1.6%	94.2%	1.0%	4.8%	100.0%

(5) 世帯タイプ

	ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
	二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
小学5年生	1,507	207	121	57	2	4	117	2,015
	74.8%	10.3%	6.0%	2.8%	0.1%	0.2%	5.8%	100.0
中学2年生	1,408	200	180	62	6	7	55	1,918
	73.4%	10.4%	9.4%	3.2%	0.3%	0.4%	2.9%	100.0%
16-17歳	489	99	65	27	7	0	0	687
	71.2%	14.4%	9.5%	3.9%	1.0%	0.0%	0.0%	100.0%



## 2 「生活困難」について

### (1) 本調査における「生活困難」とは

本報告では、子どもの生活における「生活困難」を、3つの要素から分類する。

- ① 低所得
- ② 家計の逼迫
- ③ 子どもの体験や所有物の欠如

「① 低所得」は、先進諸国の貧困の測定に最も一般的に用いられ、厚生労働省も用いている指標だが、本調査は自記式の質問紙調査であるため、把握できる世帯所得の精緻度が限られている。そこで、所得データを補完するために「② 家計の逼迫」と「③ 子どもの体験や所有物の欠如」に用いられている物質的はく奪指標を用いている。物質的はく奪指標は、所得データによる貧困率と一緒に用いることで、貧困の測定の精緻化が可能であることが欧州連合などを始め国内外の研究より判明している。以下にそれぞれの詳細な定義を示す。

#### ① 低所得

「低所得」を、世帯所得（勤労収入、事業収入等＋社会保障給付）を、世帯人数の平方根で割り算した値（＝等価世帯所得）が、厚生労働省「平成 29 年国民生活基礎調査」から算出される基準<sup>2</sup>未満の世帯と定義する。なお、低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成 28 年国民生活基礎調査」にて公表されている「子どもの貧困率」（13.9%）と比較はできない。

#### ② 家計の逼迫

「家計の逼迫」は、経済的な制約を子どもに課し、生活水準を低下させるだけでなく、親の心理的なゆとりや、心身的健康状態の悪化を通して子どもに悪影響をもたらす可能性があると言われてしている。そこで、家計の逼迫を、家計の中で大きな比重を占め、これらの欠乏により、基本的な生活水準を保つことが難しいと考えられる公共料金や食料・衣類の費用が捻出できない状況と定義する。具体的には、保護者票において過去 1 年間に、経済的な理由で電話、電気、ガス、水道、家賃などの料金の滞納があったか、また、過去 1 年間に「家族が必要とする食料が買えなかった経験」、「家族が必要とする衣類が買えなかった経験」があったかの 7 つの項目のうち、1 つ以上が該当する場合を「家計の逼迫」と定義する。

2 基準：厚生労働省「平成 29 年国民生活基礎調査」（所得は平成 28 年値）の世帯所得の中央値（442 万円）を、平均世帯人数（2.47 人）の平方根で除した値の 50%である 140.6 万円。

### ③ 子どもの体験や所有物の欠如

前記①と②は、世帯全体の生活困難を表すが、子ども自身の生活困難を表す指標として、「子どもの体験や所有物の欠如」を用いる。ここで用いられる子どもの体験や所有物とは、日本社会において、大多数の子どもが一般的に享受していると考えられる経験や物品である。

具体的には、保護者票において、過去1年間、「海水浴に行く」、「博物館・科学館・美術館などに行く」、「キャンプやバーベキューに行く」、「スポーツ観戦や劇場に行く」、「遊園地やテーマパークに行く」ことが「経済的にできない」、「毎月お小遣いを渡す」、「毎年新しい洋服・靴を買う」、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」、「学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう）」、「お誕生日のお祝いをする」、「1年に1回くらい家族旅行に行く」、「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」ことが「経済的にできない」、又は「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」が「経済的理由のために世帯にない」（全15項目）である。

これらの項目のうち3つ以上が該当している場合に、「子どもの体験や所有物の欠如」の状態にあると定義する。

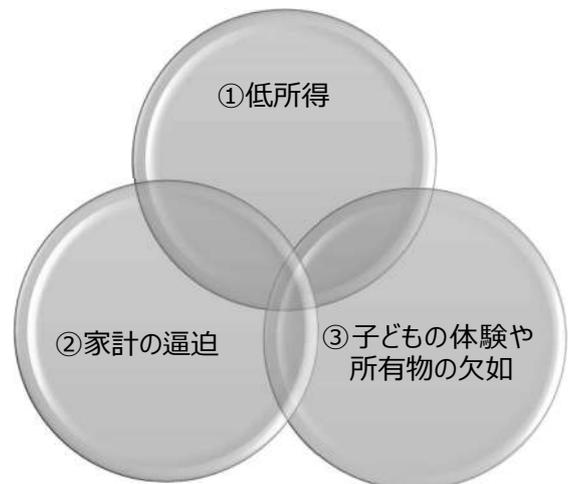
## (2) 「生活困難層」の定義について

●本調査では、「生活困難層」等を以下の3つの要素に基づいて分類した。

① 低所得	③ 子どもの体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成29年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p>&lt;低所得基準&gt; 世帯所得の中央値 442 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% =140.6 万円</p>	<p>子どもの体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 海水浴に行く</li> <li>2 博物館・科学館・美術館などに行く</li> <li>3 キャンプやバーベキューに行く</li> <li>4 スポーツ観戦や劇場に行く</li> <li>5 遊園地やテーマパークに行く*</li> <li>6 毎月お小遣いを渡す</li> <li>7 毎年新しい洋服・靴を買う</li> <li>8 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる</li> <li>9 学習塾に通わせる(又は家庭教師に来てもらう)</li> <li>10 お誕生日のお祝いをする</li> <li>11 1年に1回くらい家族旅行に行く</li> <li>12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる</li> <li>13 子どもの年齢に合った本</li> <li>14 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ</li> <li>15 子どもが自宅で宿題(勉強)をすることができる場所</li> </ol> <p>*16-17歳は「友人と遊びに出かけるお金」</p>
② 家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 電話料金</li> <li>2 電気料金</li> <li>3 ガス料金</li> <li>4 水道料金</li> <li>5 家賃</li> <li>6 家族が必要とする食料が買えなかった</li> <li>7 家族が必要とする衣類が買えなかった</li> </ol>	

## ◆生活困難層（困窮層・周辺層）、一般層

生活困難層	困窮層 + 周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない



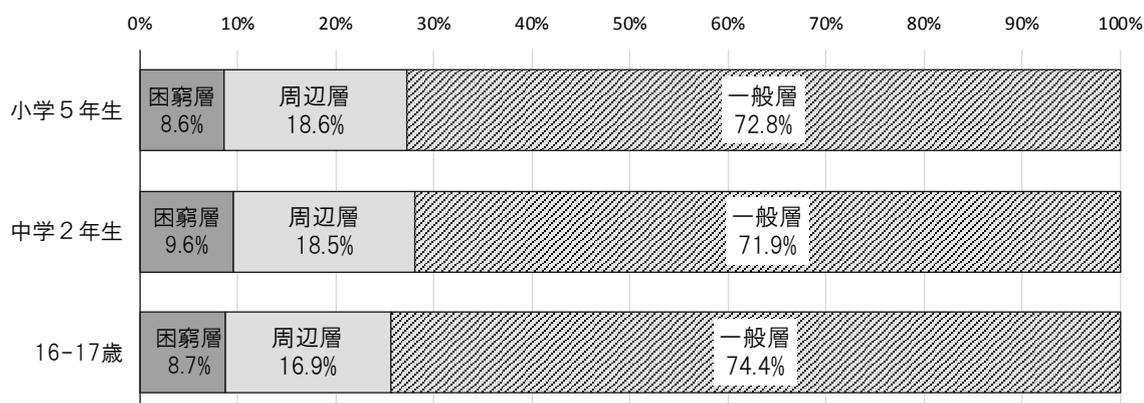
### (3) 生活困難層の割合

「低所得」や「家計の逼迫」、「子どもの体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し、困窮層にあると思われる家庭は小学5年生で8.6%、中学2年生で9.6%、16-17歳で8.7%、いずれか1つに該当する周辺層の家庭は小学5年生で18.6%、中学2年生で18.5%、16-17歳で16.9%となっている。

(生活困難層の内訳)

区 分	小学5年生	中学2年生	16-17歳
生活困難層	27.2%	28.1%	25.6%
困窮層	8.6%	9.6%	8.7%
周辺層	18.6%	18.5%	16.9%
一般層	72.8%	71.9%	74.4%

※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合がある。

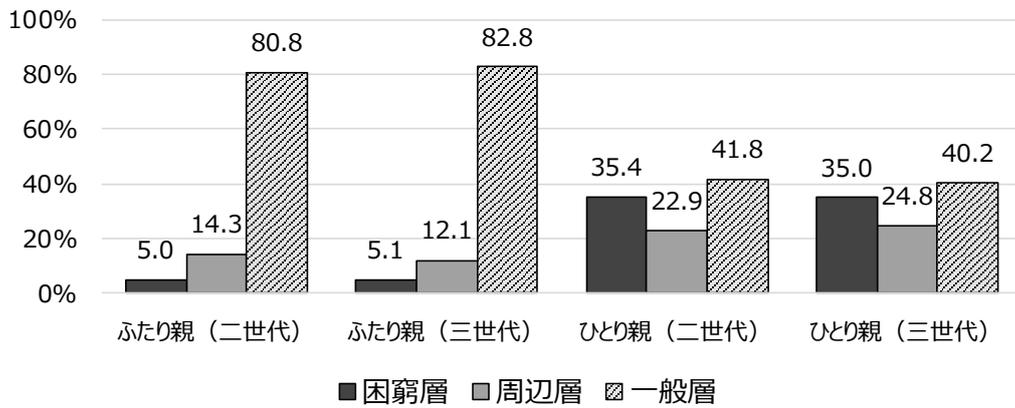


(世帯タイプ別生活困難層の内訳)

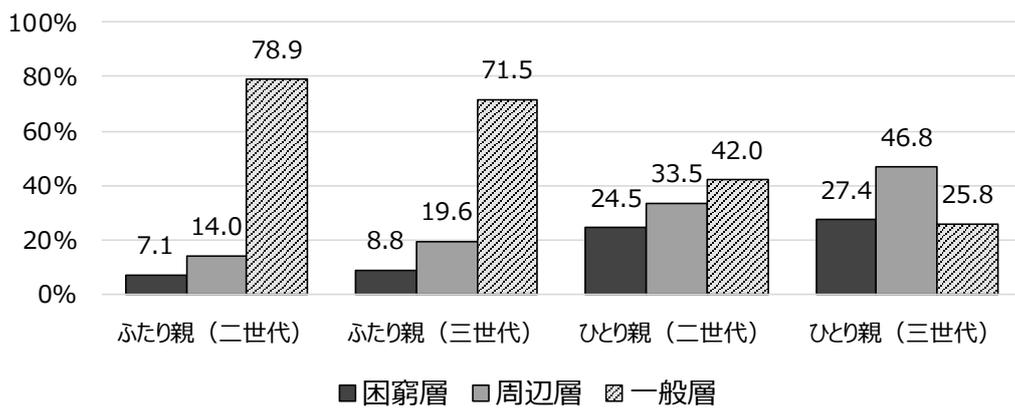
区 分	年 齢 層	ふたり親		ひとり親		
		(二世)	(三世)	(二世)	(三世)	
生活困難層	困窮層	小学5年生	5.0%	5.1%	35.4%	35.0%
		中学2年生	7.1%	8.8%	24.5%	27.4%
		16-17歳	5.7%	5.4%	30.2%	25.0%
	周辺層	小学5年生	14.3%	12.1%	22.9%	24.8%
		中学2年生	14.0%	19.6%	33.5%	46.8%
		16-17歳	16.0%	12.2%	28.3%	20.0%
一般層	小学5年生	80.8%	82.8%	41.8%	40.2%	
	中学2年生	78.9%	71.5%	42.0%	25.8%	
	16-17歳	78.4%	82.4%	41.5%	55.0%	

※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合がある。

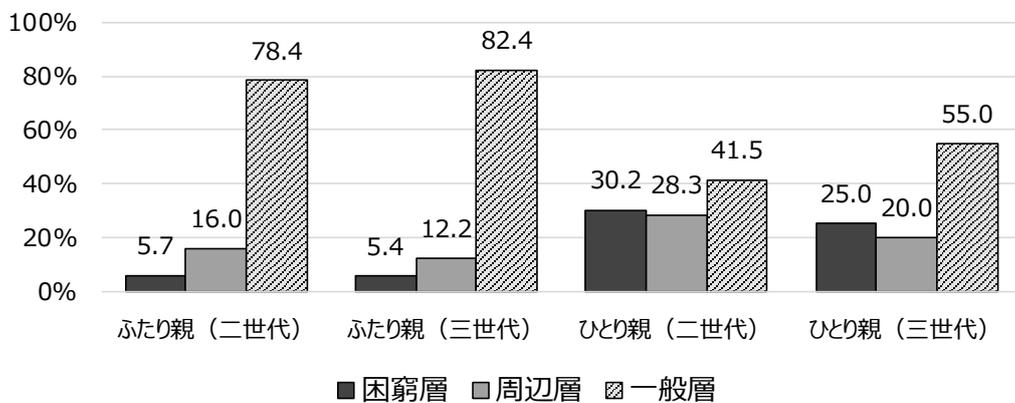
## 小学5年生



## 中学2年生



## 16-17歳



(3 要素の該当状況による生活困難層の割合)

小学5年生

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	1.8%
	2つに該当	低所得+家計の逼迫	1.1%
		低所得+子どもの体験や所有物の欠如	2.3%
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	3.3%
周辺層	1つに該当	低所得	11.5%
		家計の逼迫	3.3%
		子どもの体験や所有物の欠如	3.7%

中学2年生

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	1.9%
	2つに該当	低所得+家計の逼迫	1.3%
		低所得+子どもの体験や所有物の欠如	2.7%
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	4.1%
周辺層	1つに該当	低所得	8.9%
		家計の逼迫	4.3%
		子どもの体験や所有物の欠如	5.6%

16-17歳

困窮層	3つに該当	低所得+家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	2.0%
	2つに該当	低所得+家計の逼迫	0.7%
		低所得+子どもの体験や所有物の欠如	1.3%
		家計の逼迫+子どもの体験や所有物の欠如	4.6%
周辺層	1つに該当	低所得	8.0%
		家計の逼迫	3.3%
		子どもの体験や所有物の欠如	5.6%

## 第4章 生活困難の状況

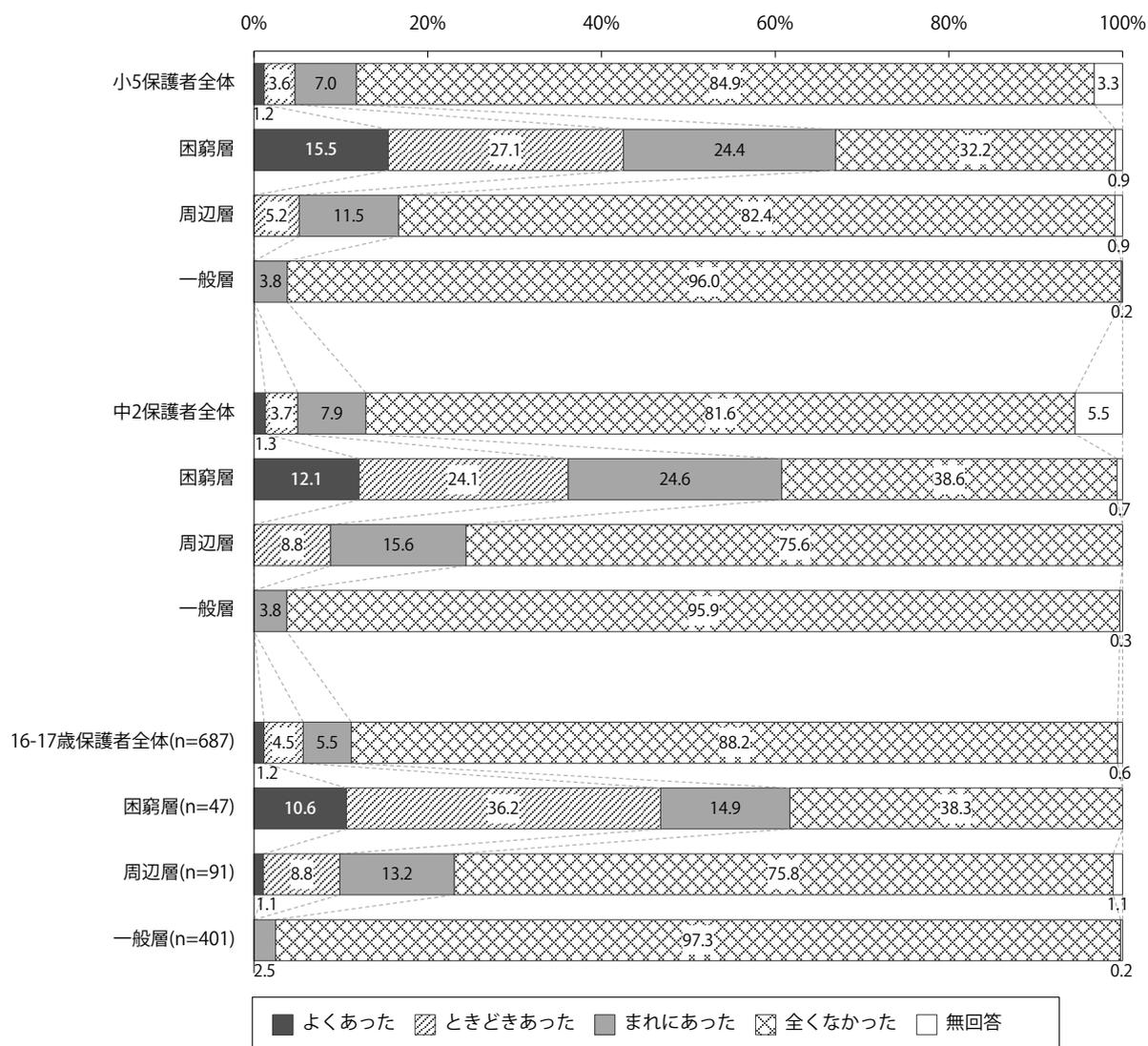
### 1 生活困窮の状況

#### (1) 食料が買えなかった経験

【保護者票】

過去1年間に食料が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で67.0%、周辺層で16.7%、一般層で3.8%、中学2年生の困窮層で60.8%、周辺層で24.4%、一般層で3.8%、16-17歳の困窮層で61.7%、周辺層で23.1%、一般層で2.5%となっている。

問29 過去1年買えなかった経験／食料

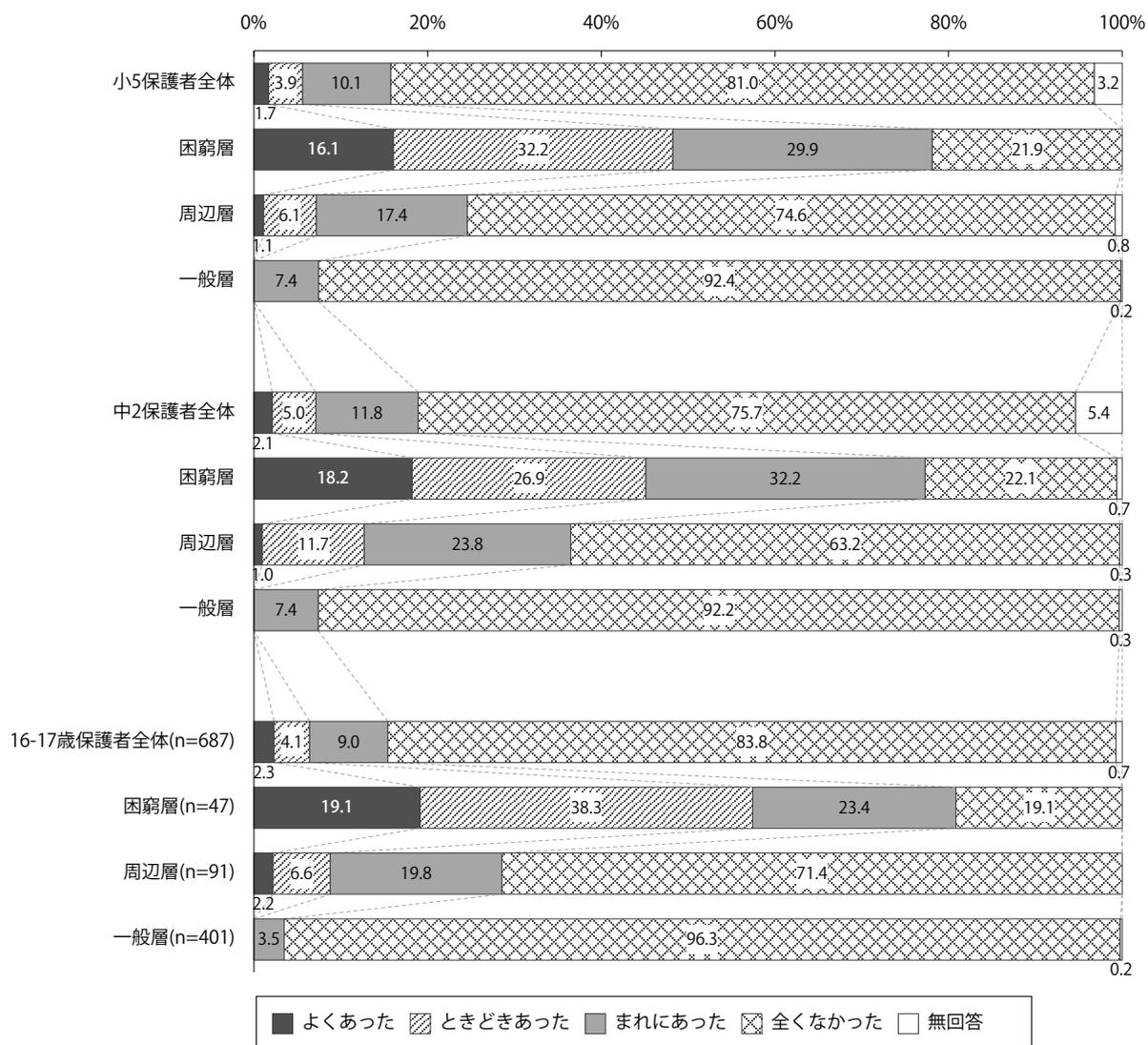


## (2) 衣類が買えなかった経験

【保護者票】

過去1年間に衣類が買えなかったことについて、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」「まったくなかった」を合わせた『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で78.2%、周辺層で24.6%、一般層で7.4%、中学2年生の困窮層で77.3%、周辺層で36.5%、一般層で7.4%、16-17歳の困窮層で80.8%、周辺層で28.6%、一般層で3.5%となっている。

問30 過去1年買えなかった経験／衣類



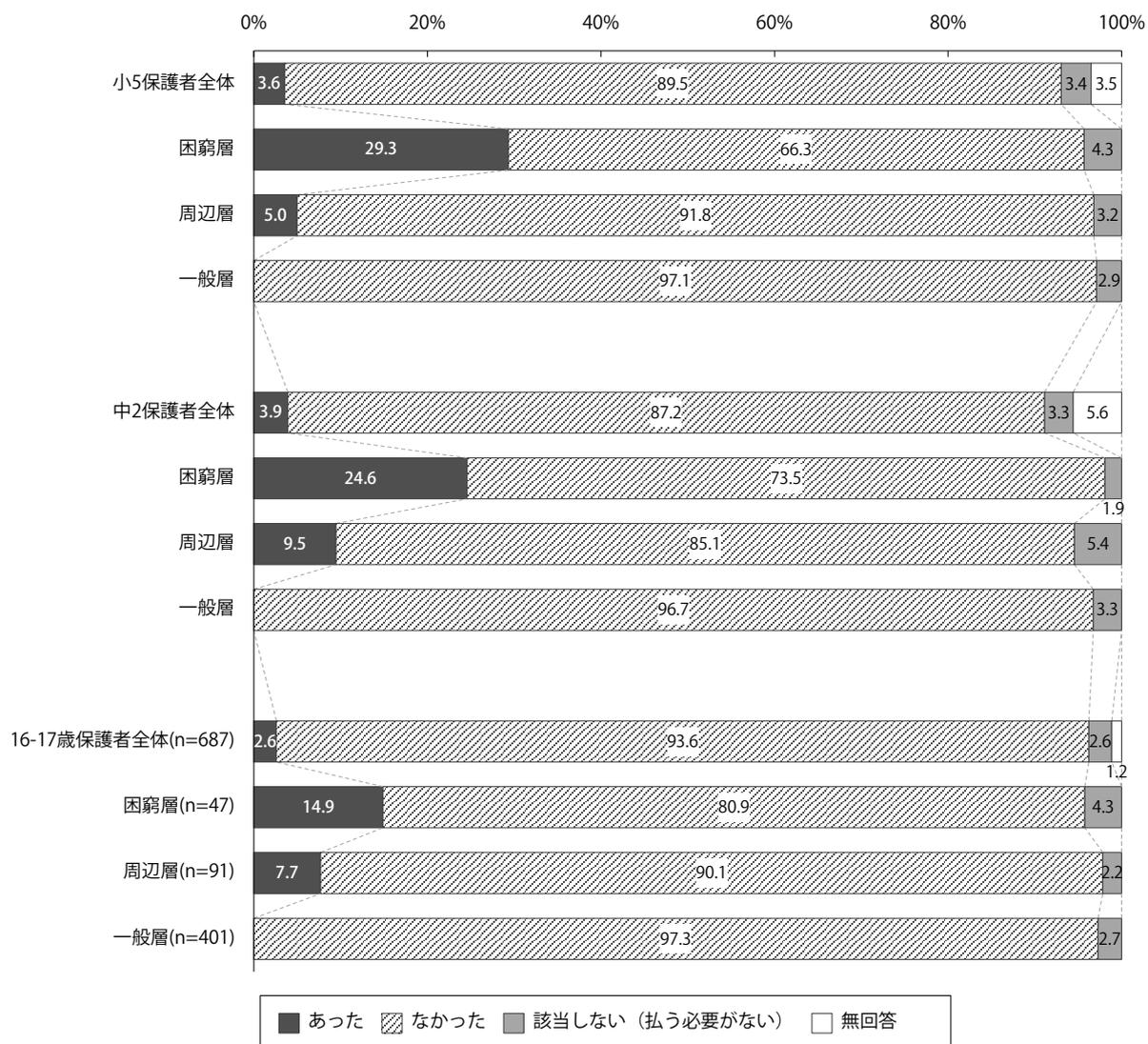
### (3) 公共料金等の滞納経験

#### A 電話料金

【保護者票】

電話料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.3%、周辺層で5.0%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で24.6%、周辺層で9.5%、一般層で0.0%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で7.7%、一般層で0.0%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／電話料金

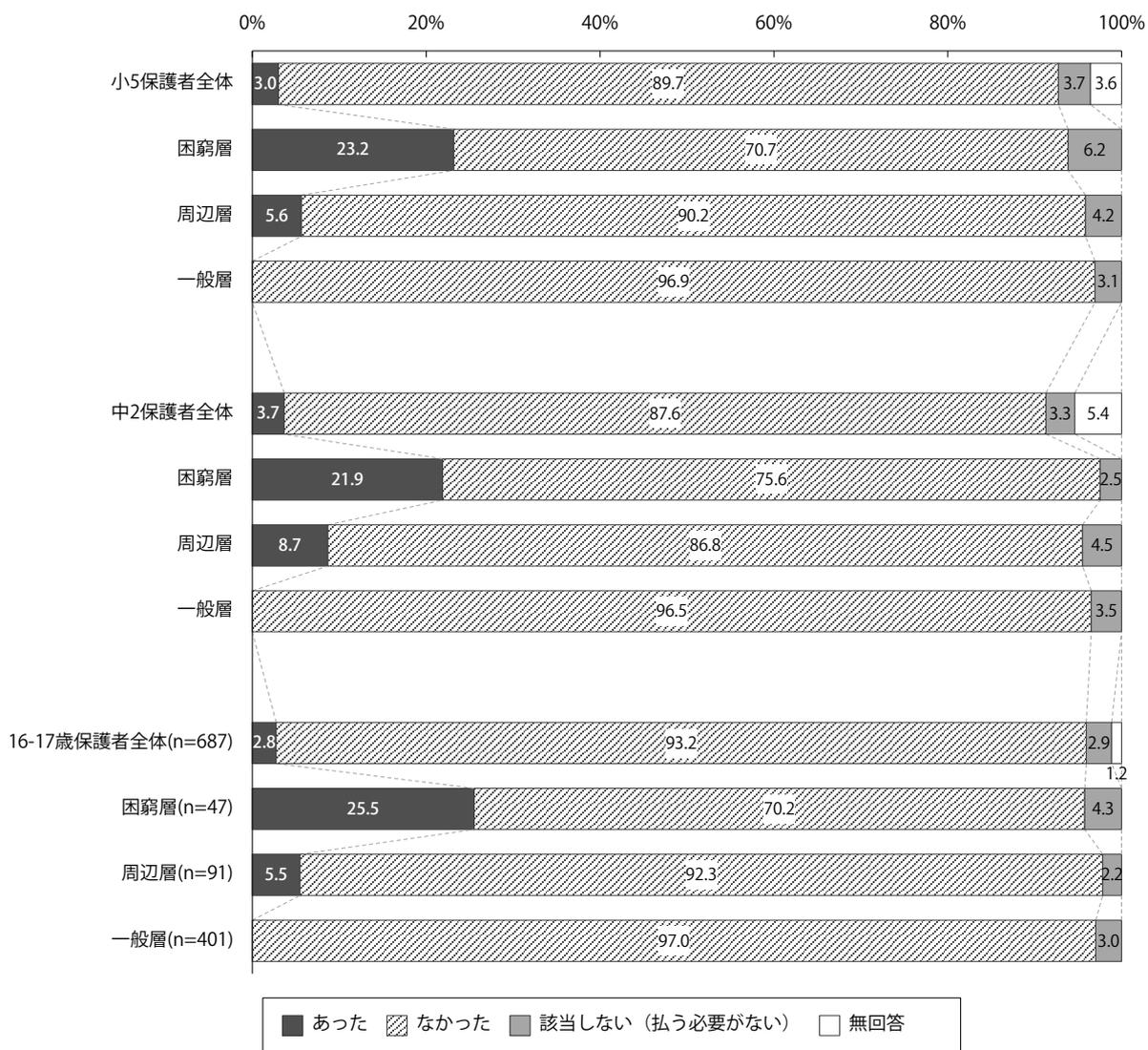


## B 電気料金

【保護者票】

電気料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で23.2%、周辺層で5.6%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で21.9%、周辺層で8.7%、一般層で0.0%、16-17歳の困窮層で25.5%、周辺層で5.5%、一般層で0.0%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／電気料金

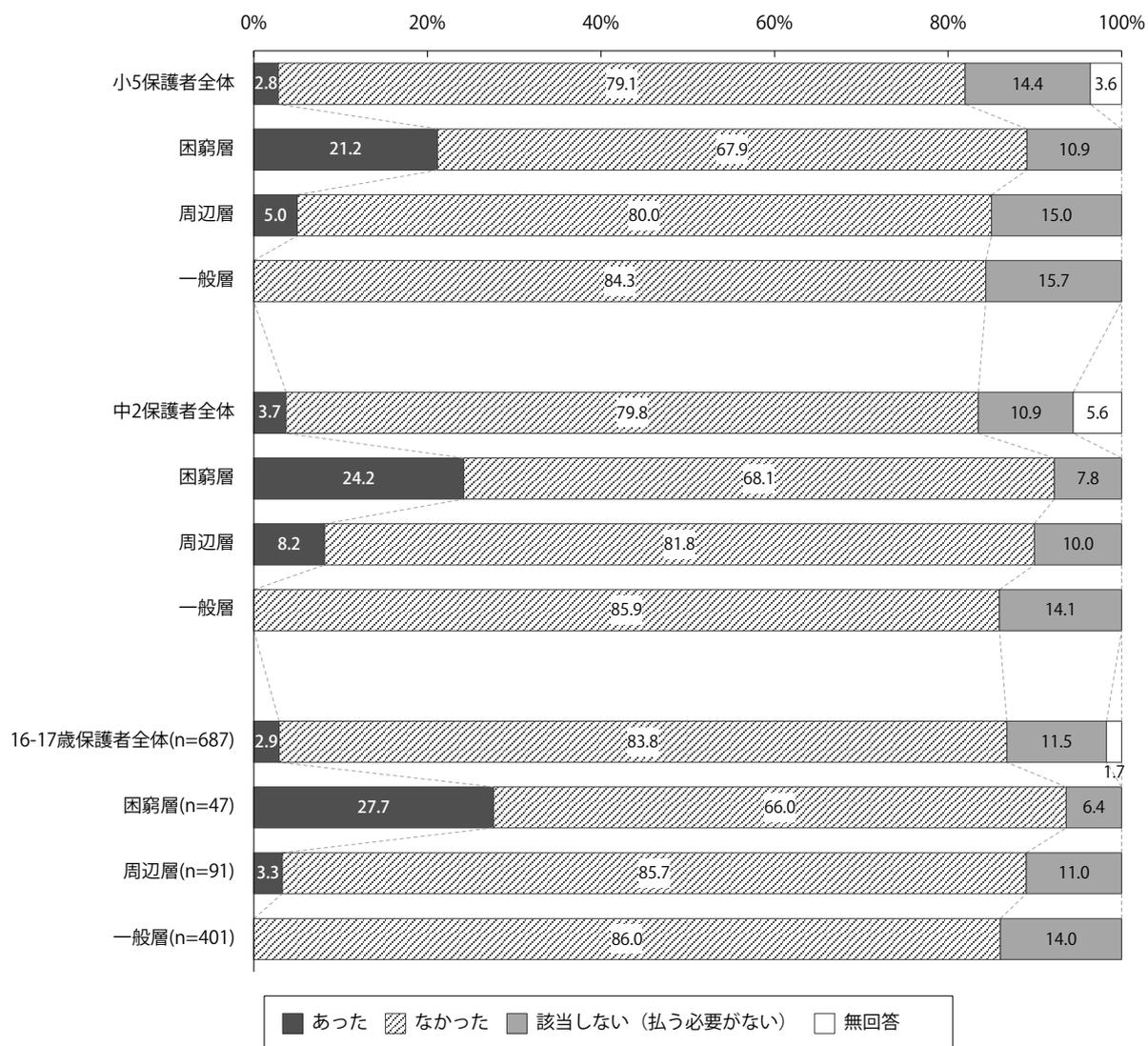


## C ガス料金

【保護者票】

ガス料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で21.2%、周辺層で5.0%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で24.2%、周辺層で8.2%、一般層で0.0%、16-17歳の困窮層で27.7%、周辺層で3.3%、一般層で0.0%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／ガス料金

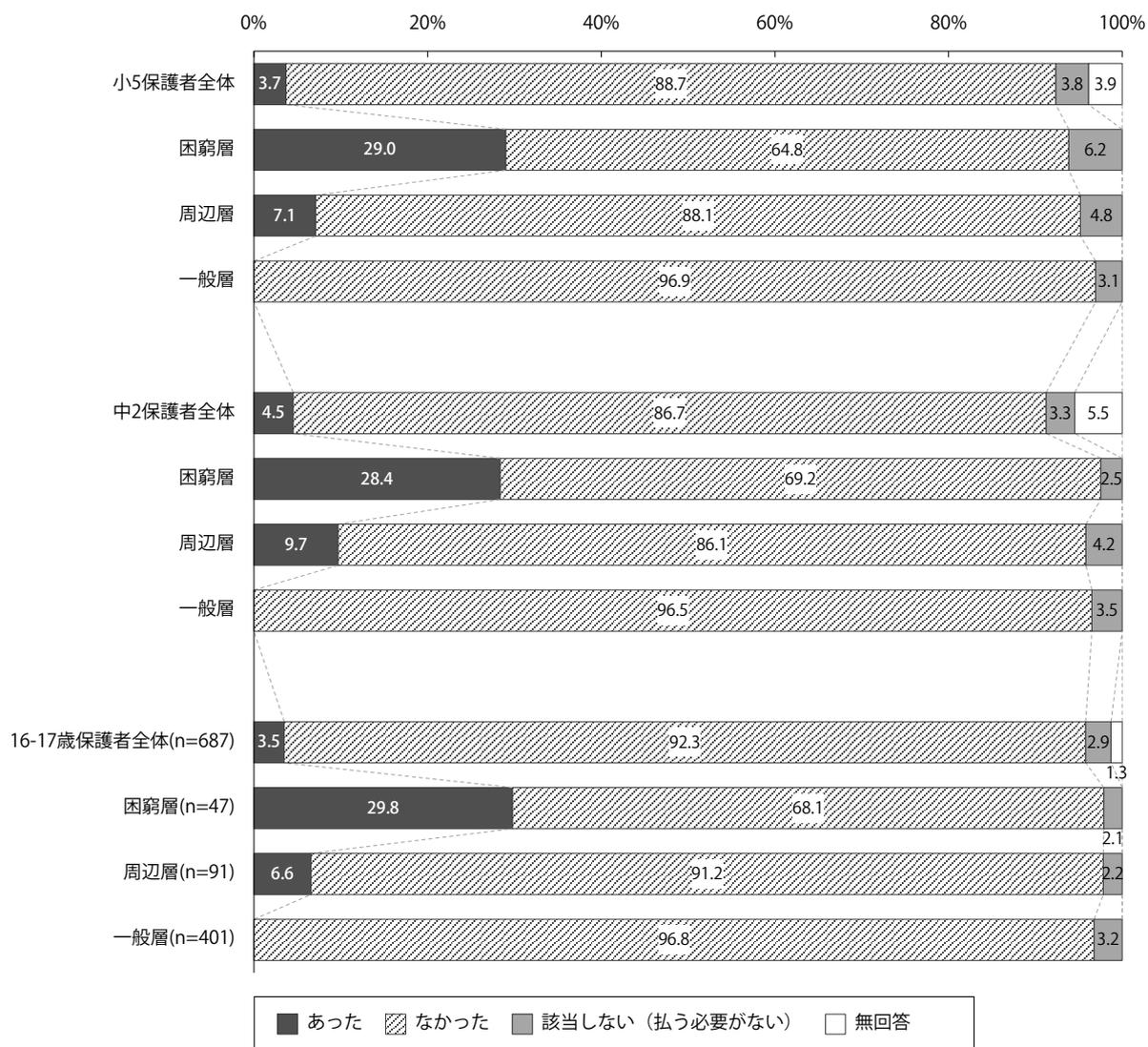


D 水道料金

【保護者票】

水道料金の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.0%、周辺層で7.1%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で28.4%、周辺層で9.7%、一般層で0.0%、16-17歳の困窮層で29.8%、周辺層で6.6%、一般層で0.0%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／水道料金

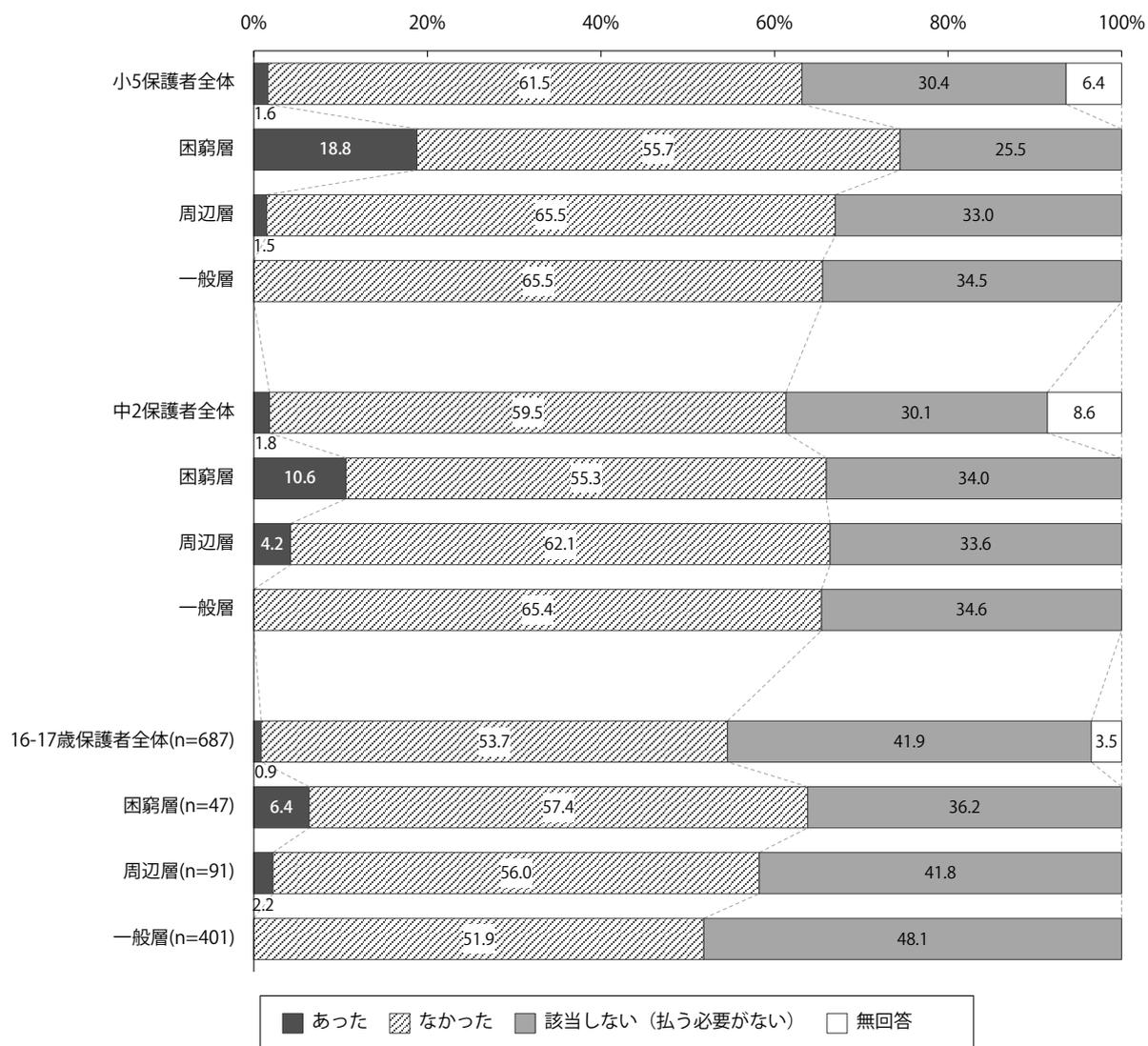


## E 家賃

【保護者票】

家賃の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.8%、周辺層で1.5%、一般層で0.0%、中学2年生の困窮層で10.6%、周辺層で4.2%、一般層で0.0%、16-17歳の困窮層で6.4%、周辺層で2.2%、一般層で0.0%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／家賃

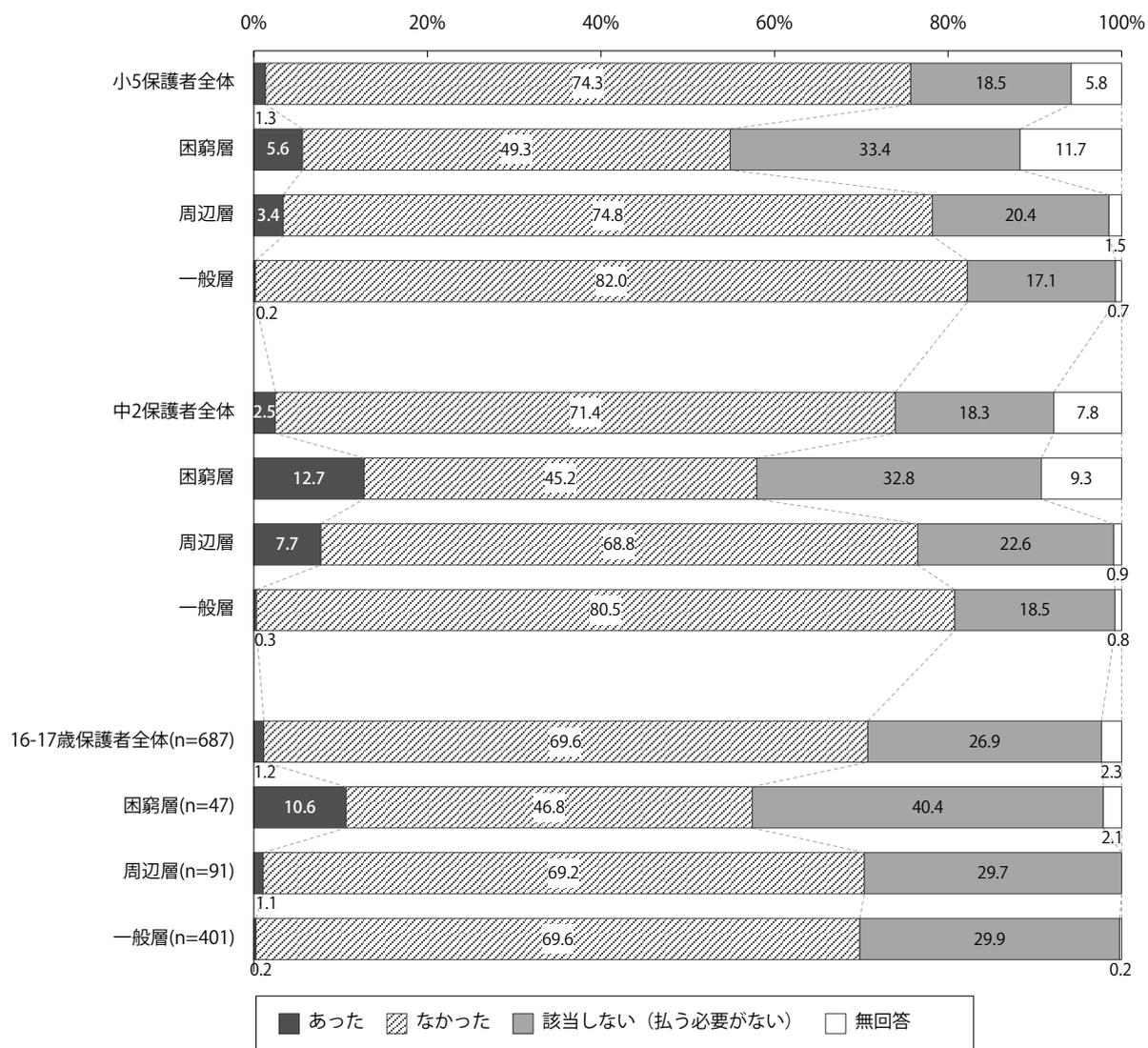


F 住宅ローン

【保護者票】

住宅ローンの滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で5.6%、周辺層で3.4%、一般層で0.2%、中学2年生の困窮層で12.7%、周辺層で7.7%、一般層で0.3%、16-17歳の困窮層で10.6%、周辺層で1.1%、一般層で0.2%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／住宅ローン

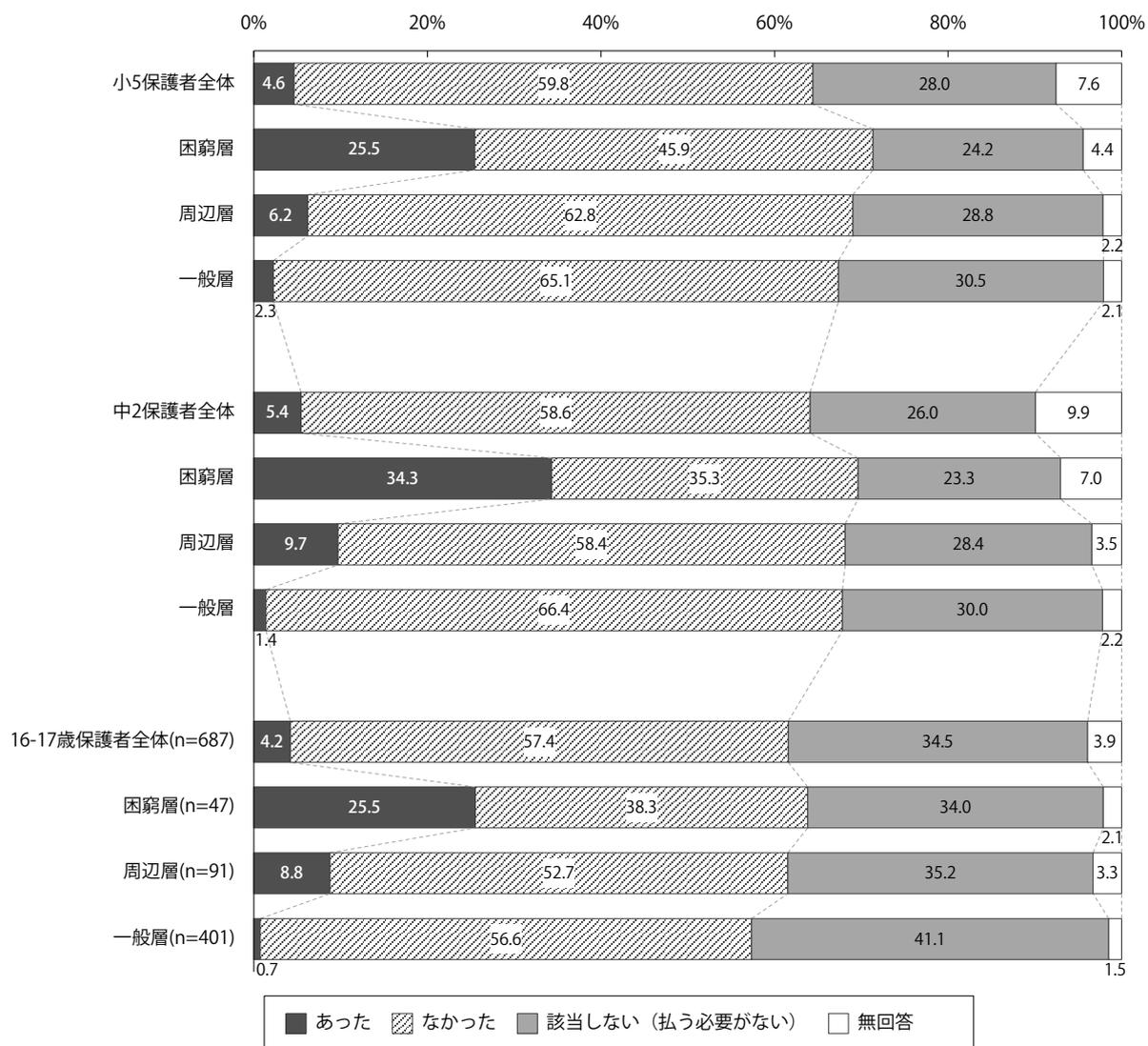


## G その他の債務

【保護者票】

その他の債務の滞納経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.5%、周辺層で6.2%、一般層で2.3%、中学2年生の困窮層で34.3%、周辺層で9.7%、一般層で1.4%、16-17歳の困窮層で25.5%、周辺層で8.8%、一般層で0.7%となっている。

問31 過去1年支払えなかった経験／その他の債務



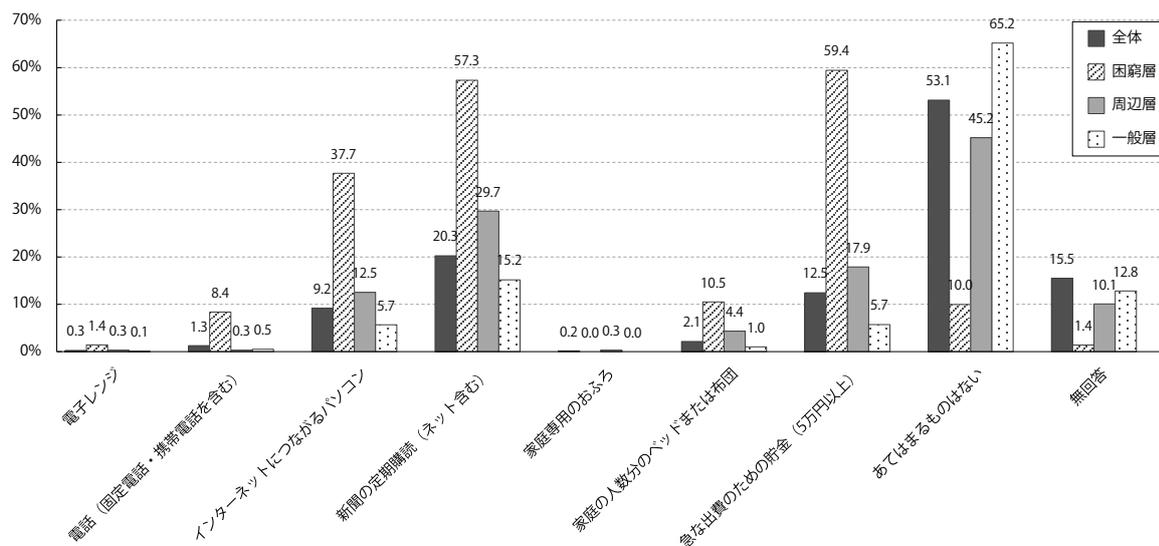
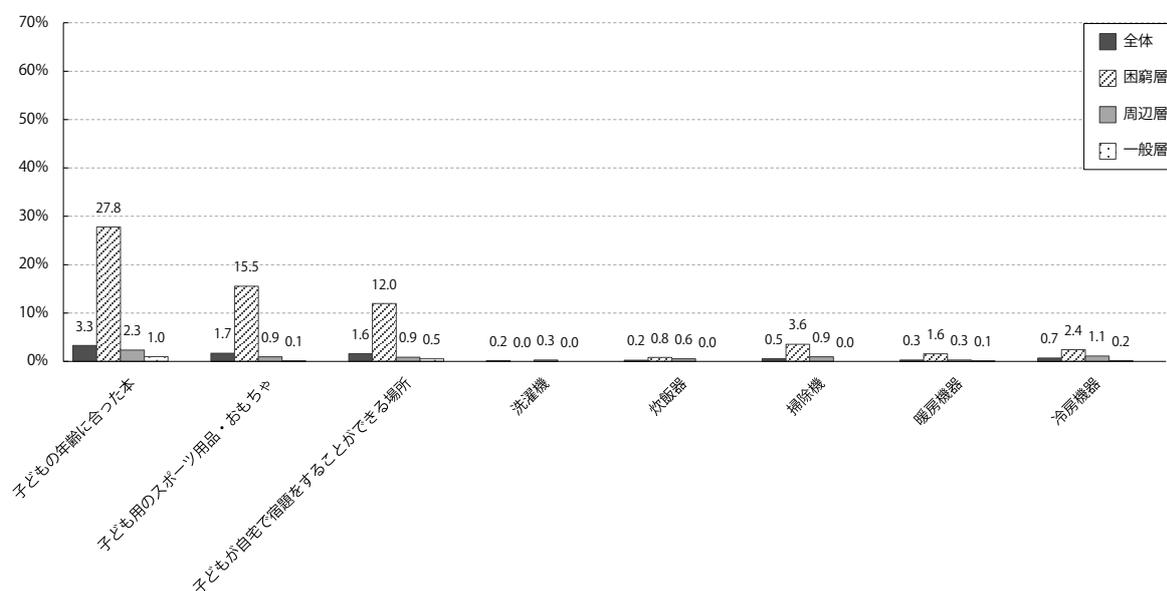
### (4) 物品等の所有状況

【保護者票】

経済的理由による所有物の欠如について、小学5年生の困窮層の状況をみると、周辺層・一般層と比べて10ポイント以上の差で「ない」割合が高いのは、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読（ネット含む）」「急な出費のための貯金（5万円以上）」となっている。

問34 経済的理由のために家庭にないもの

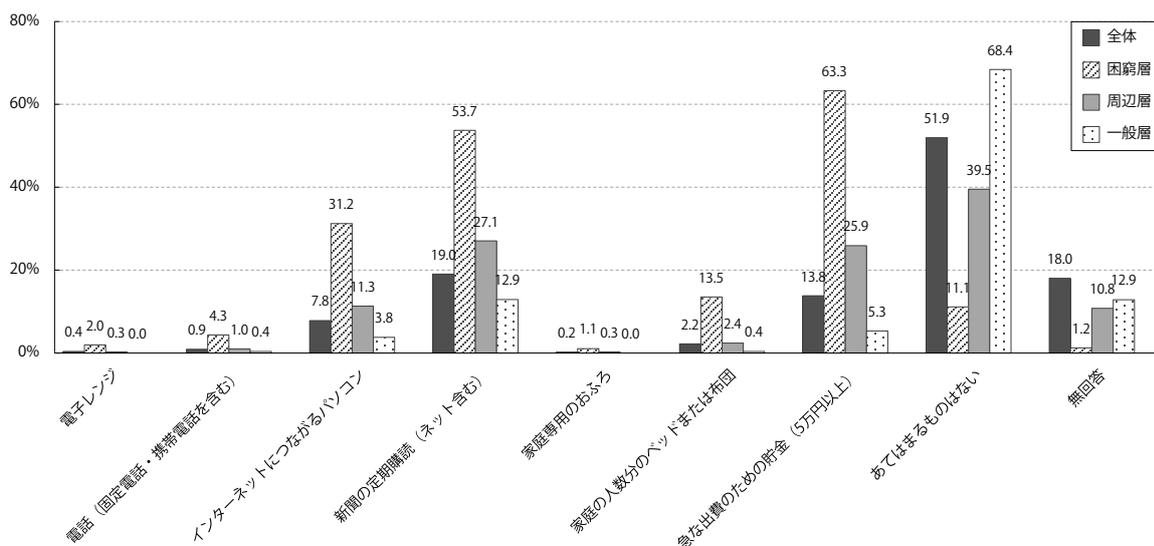
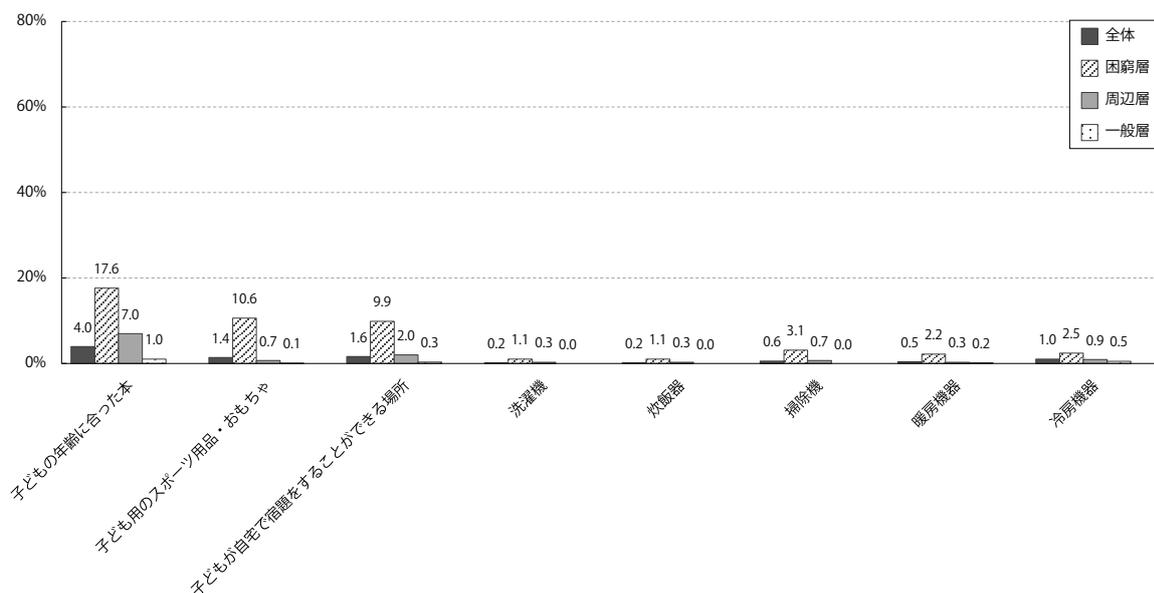
**小学5年生**



経済的理由による所有物の欠如について、中学2年生の困窮層の状況を見ると、周辺層・一般層と比べて10ポイント以上の差で「ない」割合が高いのは、「子どもの年齢に合った本」「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「インターネットにつながるパソコン」「新聞の定期購読（ネット含む）」「家庭の人数分のベッドまたは布団」「急な出費のための貯金（5万円以上）」となっている。

問34 経済的理由のために家庭にないもの

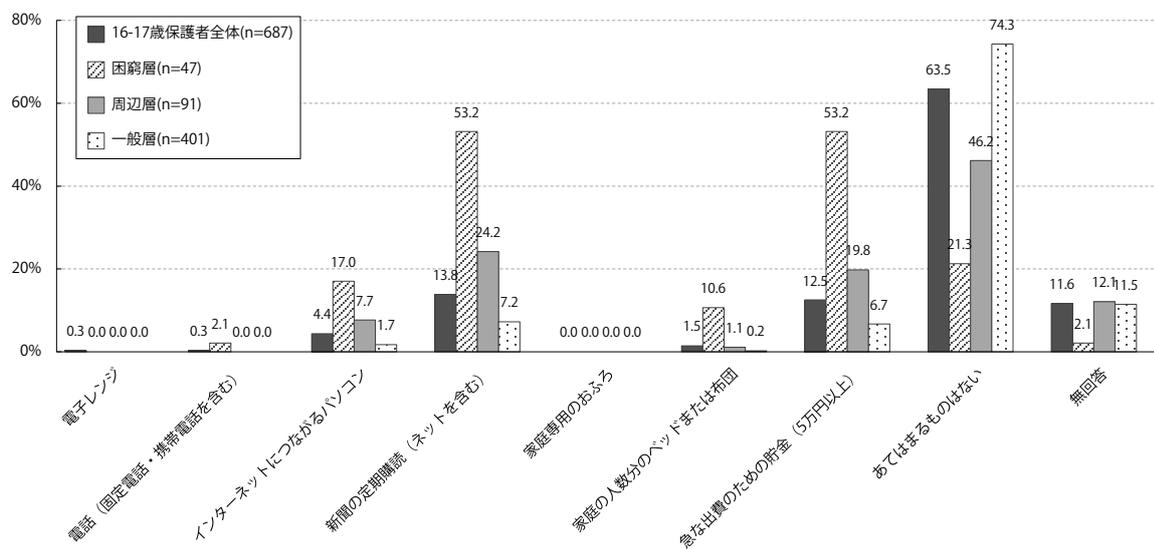
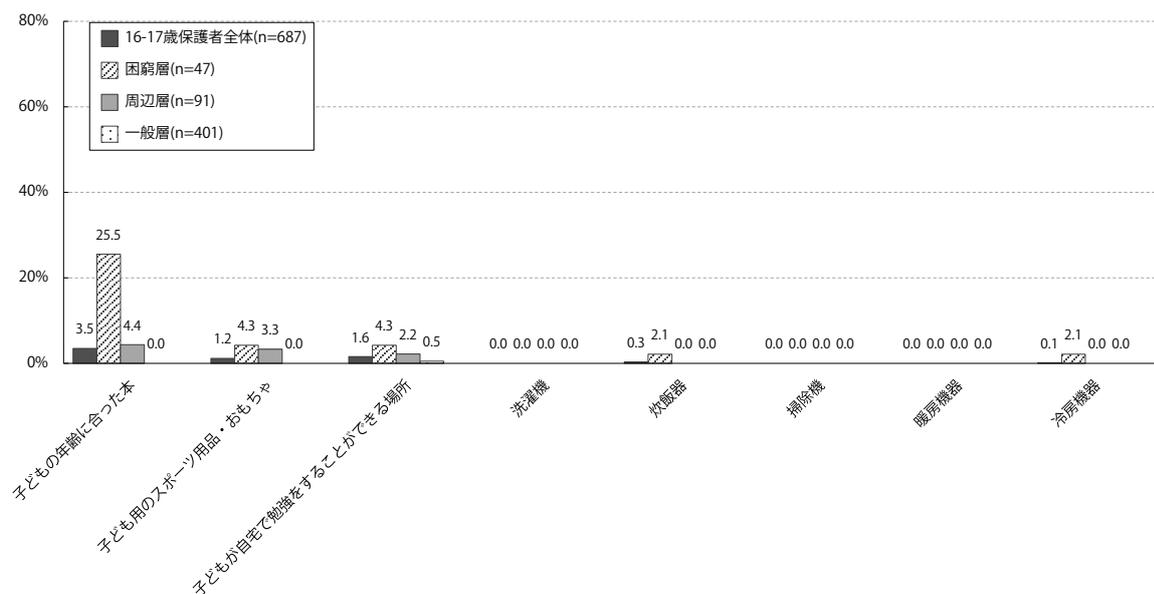
**中学2年生**



経済的理由による所有物の欠如について、16-17歳の困窮層の状況をみると、周辺層・一般層と比べて10ポイント以上の差で「ない」割合が高いのは、「子どもの年齢に合った本」「新聞の定期購読（ネット含む）」「急な出費のための貯金（5万円以上）」となっている（「インターネットにつながるパソコン」は9.3ポイント差）。

問35 経済的理由のために家庭にないもの

16-17歳

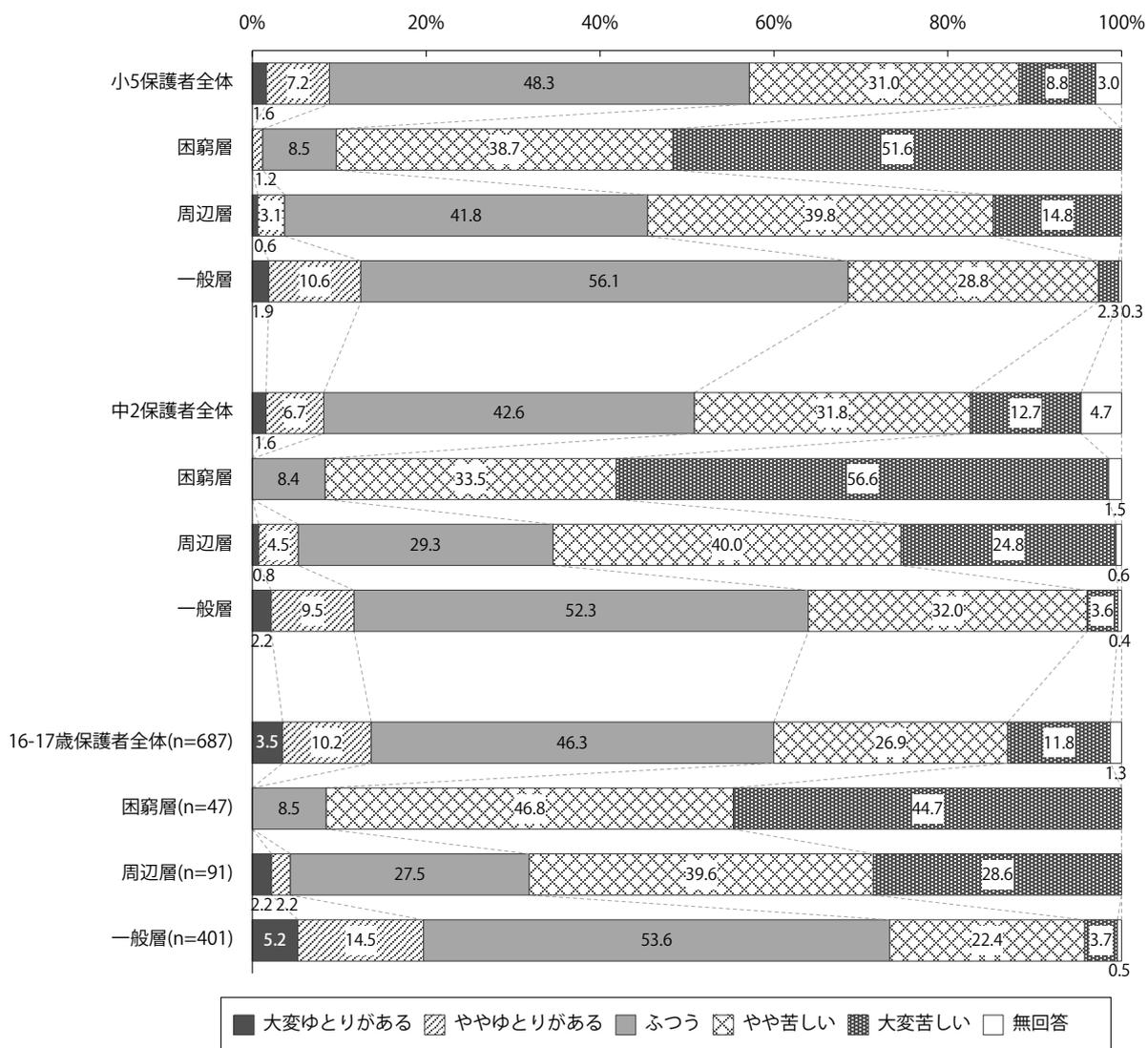


### (5) 現在の（主観的）暮らし向き

【保護者票】

現在の暮らし向きについて、「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で1.2%、周辺層で3.7%、一般層で12.5%、中学2年生の困窮層で0.0%、周辺層で5.3%、一般層で11.7%、16-17歳の困窮層で0.0%、周辺層で4.4%、一般層で19.7%となっている。

問27 現在の暮らしの状況

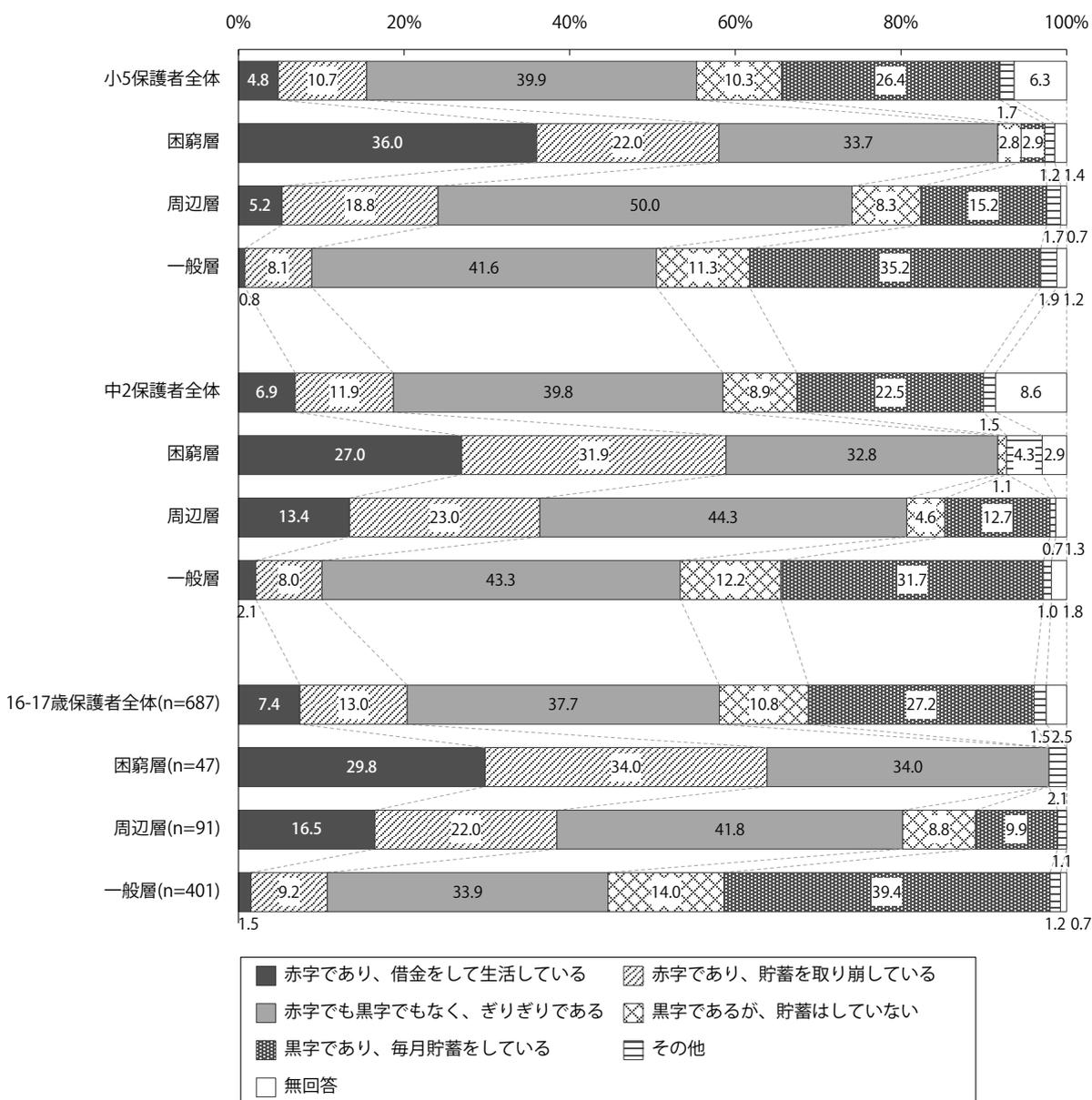


(6) 家計の収支状況

【保護者票】

家計の収支状況について、「赤字であり、借金をして生活している」「赤字であり、貯蓄を取り崩している」を合わせた『赤字である』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で58.0%、周辺層で24.0%、一般層で8.9%、中学2年生の困窮層で58.9%、周辺層で36.4%、一般層で10.1%、16-17歳の困窮層で63.8%、周辺層で38.5%、一般層で10.7%となっている。

問28 家計の収支状況



## (7) 住宅の状況

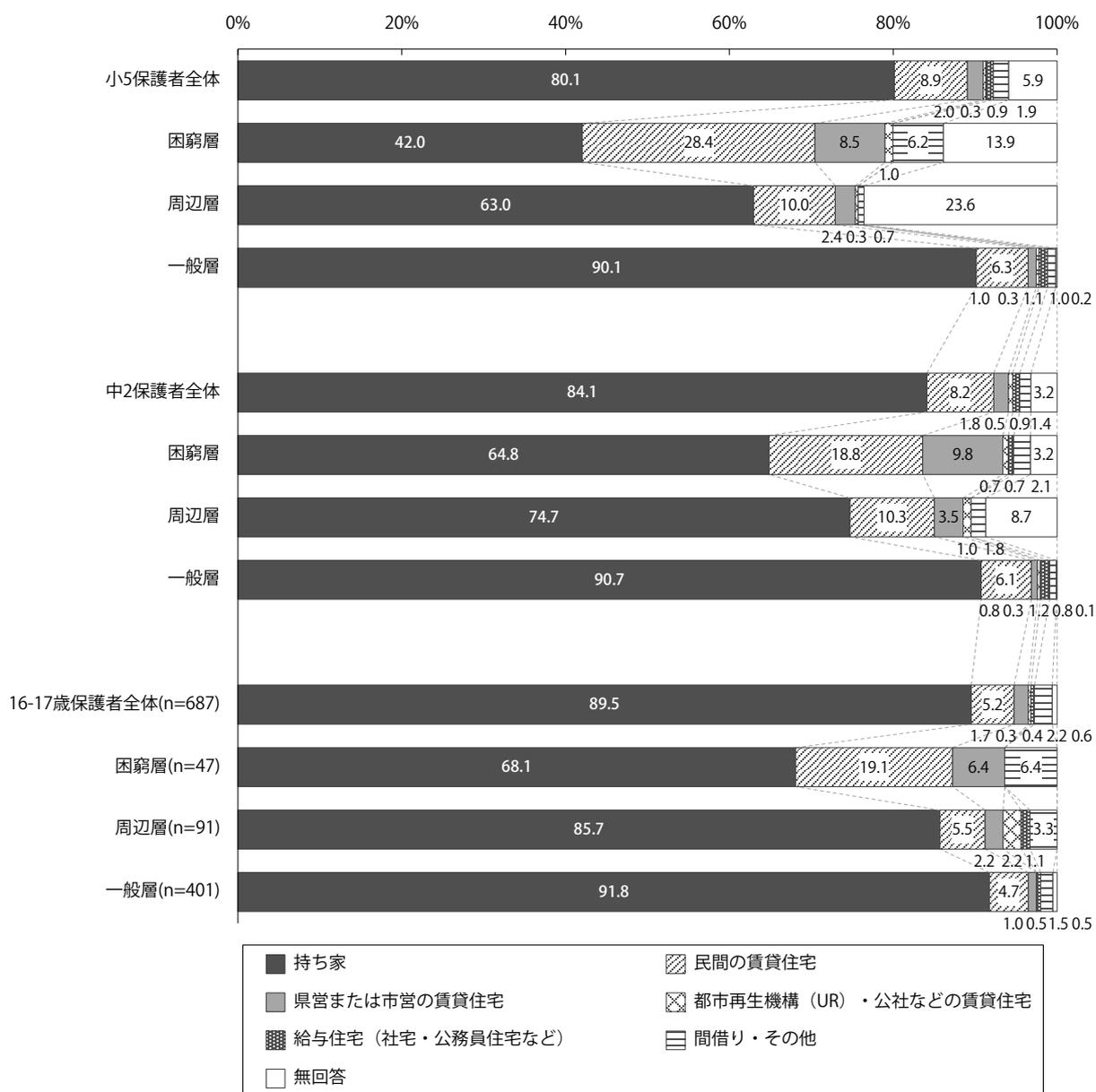
### ① 住宅の種類

【保護者票】

住宅の種類について、「持ち家」の割合は、小学5年生の困窮層で42.0%、周辺層で63.0%、一般層で90.1%、中学2年生の困窮層で64.8%、周辺層で74.7%、一般層で90.7%、16-17歳の困窮層で68.1%、周辺層で85.7%、一般層で91.8%となっている。

いずれの年齢層でも、「民間の賃貸住宅」の割合は、「持ち家」と逆に生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問9 住宅の種類

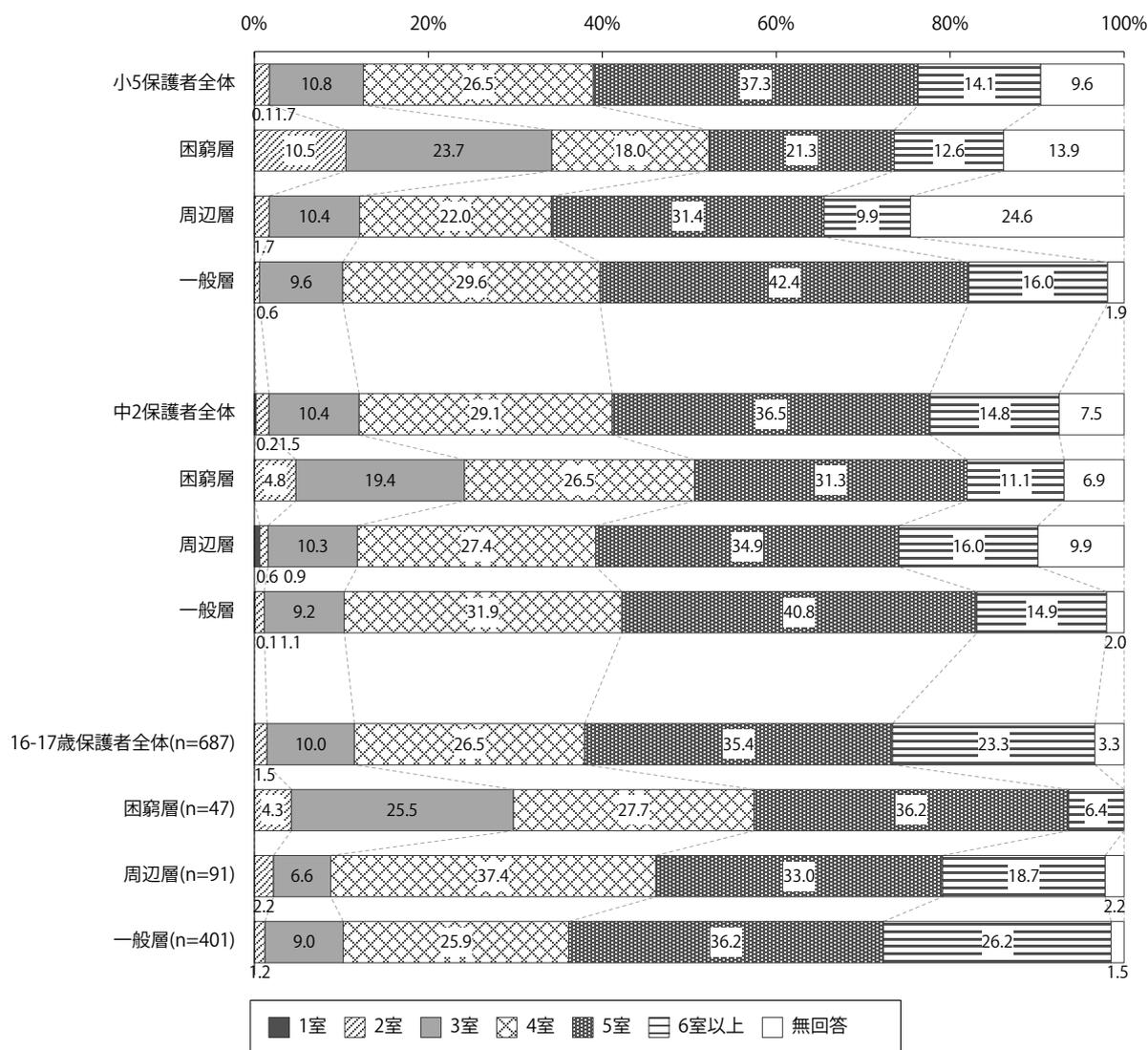


② 住宅の広さ（部屋数）

【保護者票】

玄関や風呂などを含めない居住用の部屋数についてみると、小学5年生の困窮層では「3室」が23.7%、周辺層では「5室」が31.4%、一般層では「5室」が42.4%で最も多くなっている。中学2年生ではいずれの層も「5室」が最も多く、困窮層で31.3%、周辺層で34.9%、一般層で40.8%となっている。16-17歳の困窮層では「5室」が36.2%、一般層では「5室」が36.2%と最も多く、周辺層では「4室」が37.4%で最も多くなっている。

問9-1 居住用の部屋数



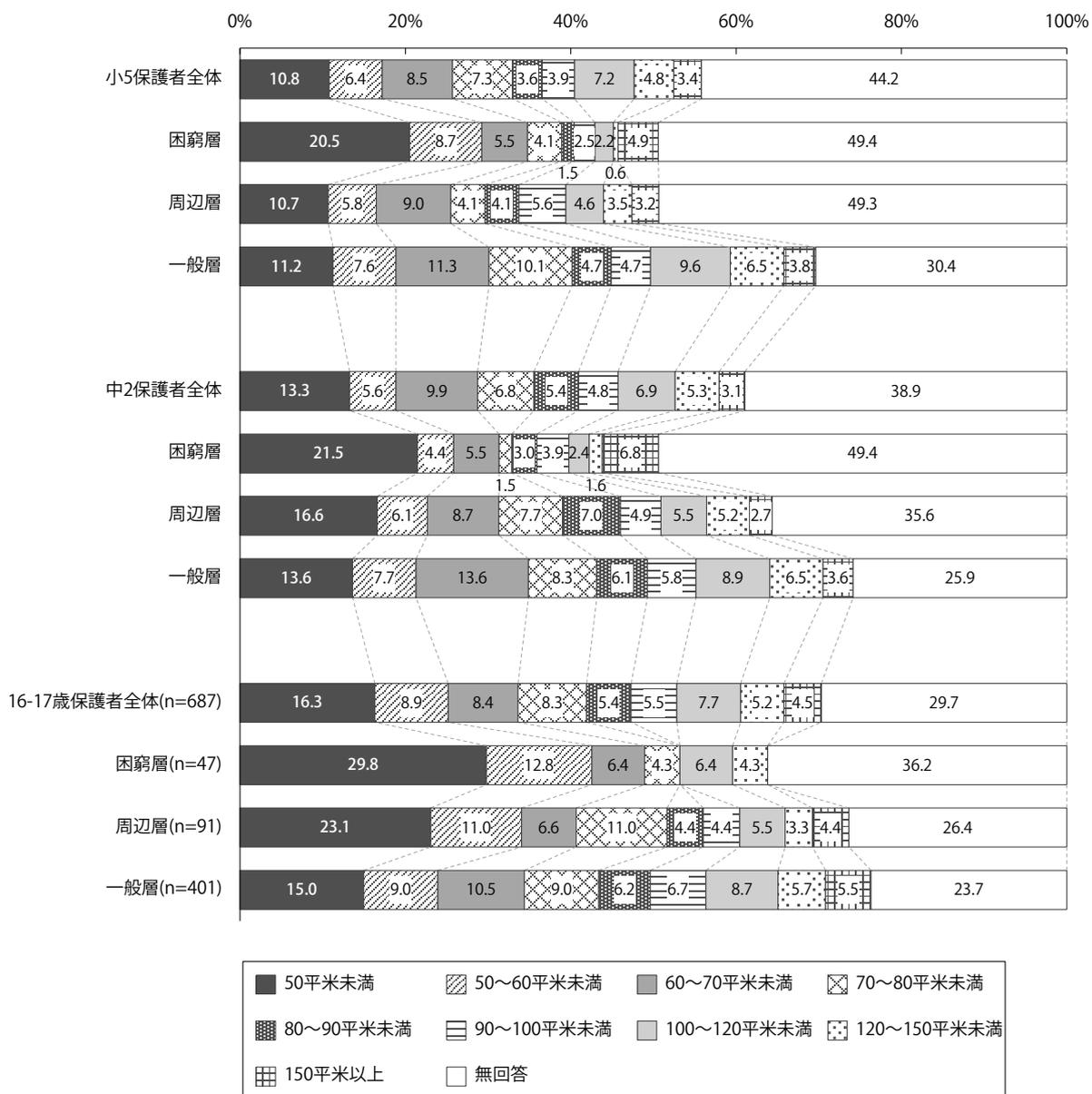
② 住宅の広さ（平米数）

【保護者票】

住宅の広さの合計について、「50 平米未満」と回答した割合は、小学 5 年生の困窮層で 20.5%、周辺層で 10.7%、一般層で 11.2%、中学 2 年生の困窮層で 21.5%、周辺層で 16.6%、一般層で 13.6%、16-17 歳の困窮層で 29.8%、周辺層で 23.1%、一般層で 15.0%となっている。

小学 5 年生の一般層を除き、「50 平米未満」が最も多くなっているが、生活困難度が高いほど、全体に占める「50 平米未満」の割合は高くなっている。

問9-1 住宅の広さの合計

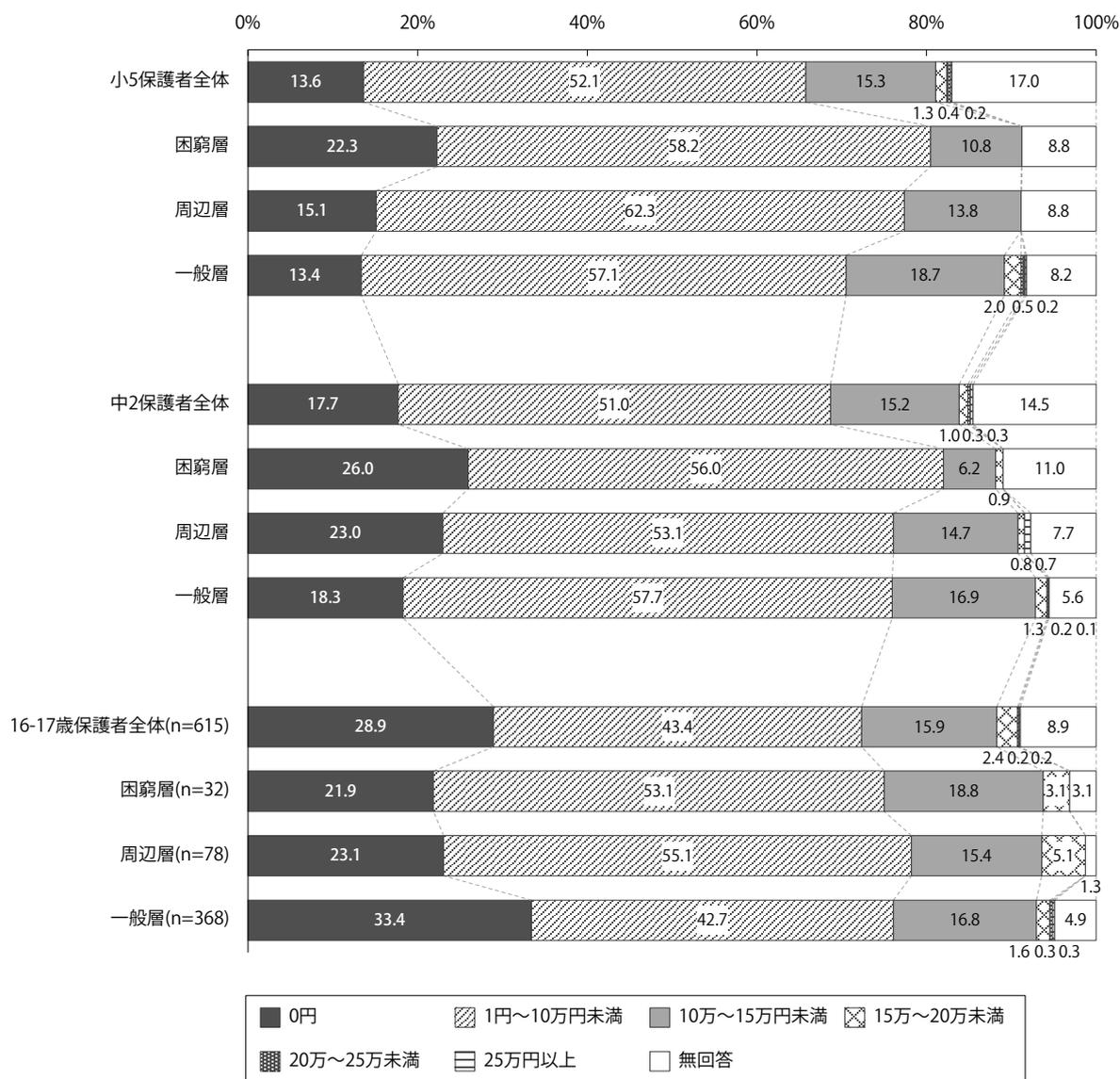


③ 住宅費/A 持ち家【1か月あたりの住宅ローン返済額】

【保護者票】

持ち家の、1か月あたりの住宅ローン返済額について、「0円」の割合をみると、小学5年生の全体で13.6%、中学2年生の全体で17.7%、16-17歳の全体で28.9%となっている。子どもの年齢が高い世帯ほど住宅ローンの支払いを行っていない。

問9-2 A 持ち家【1か月あたりの住宅ローン返済額】



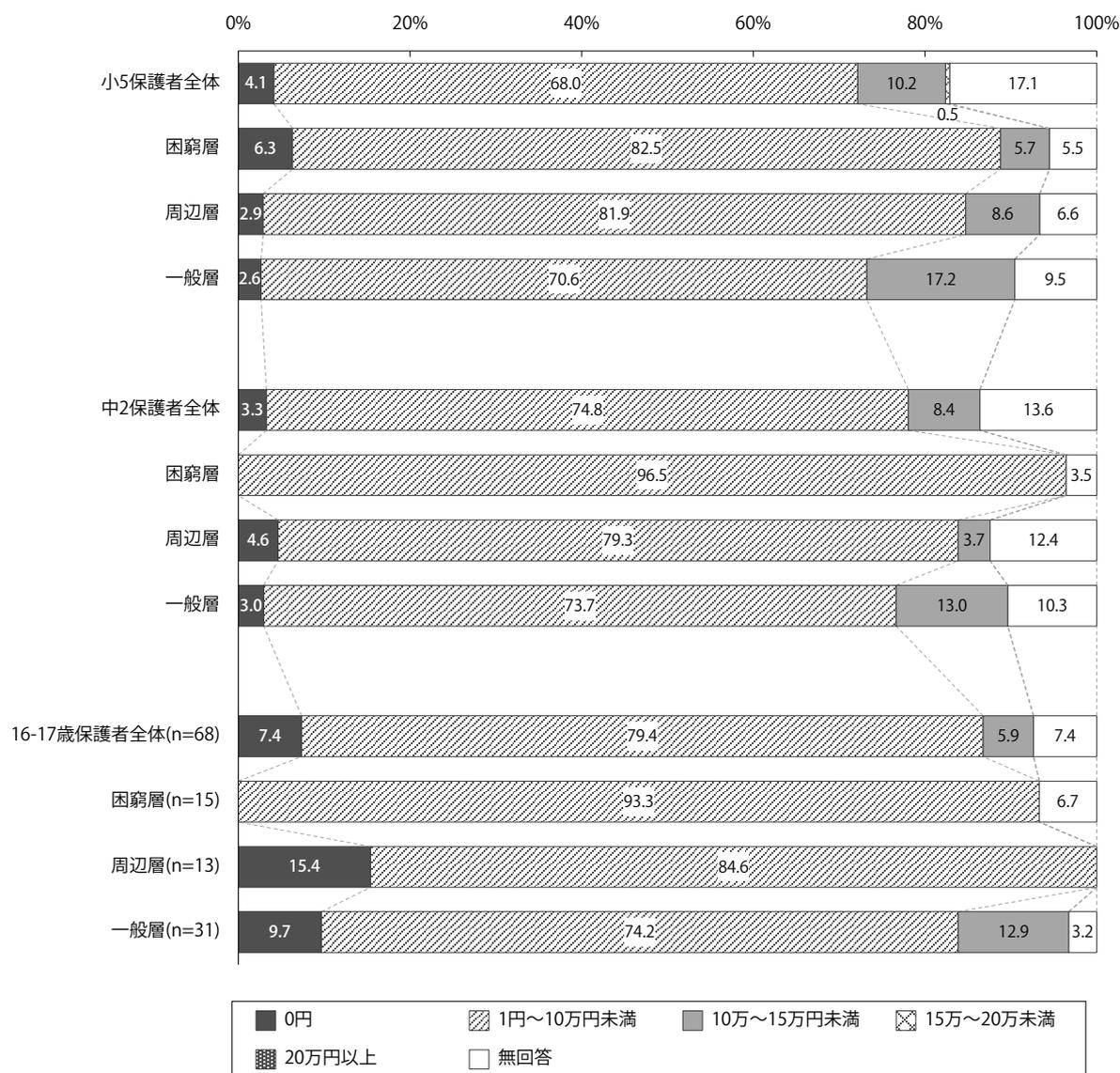
③ 住宅費／B 賃貸住宅【家賃・間代】

【保護者票】

賃貸住宅の家賃・間代について、「1円～10万円未満」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で82.5%、周辺層で81.9%、一般層で70.6%、中学2年生の困窮層で96.5%、周辺層で79.3%、一般層で73.7%、16-17歳の困窮層で93.3%、周辺層で84.6%、一般層で74.2%となっている。

全体に、生活困難度が低いほど、10万円以上の家賃・間代を支払っている割合が高くなっている。

問9-2 B 賃貸住宅【家賃・間代】

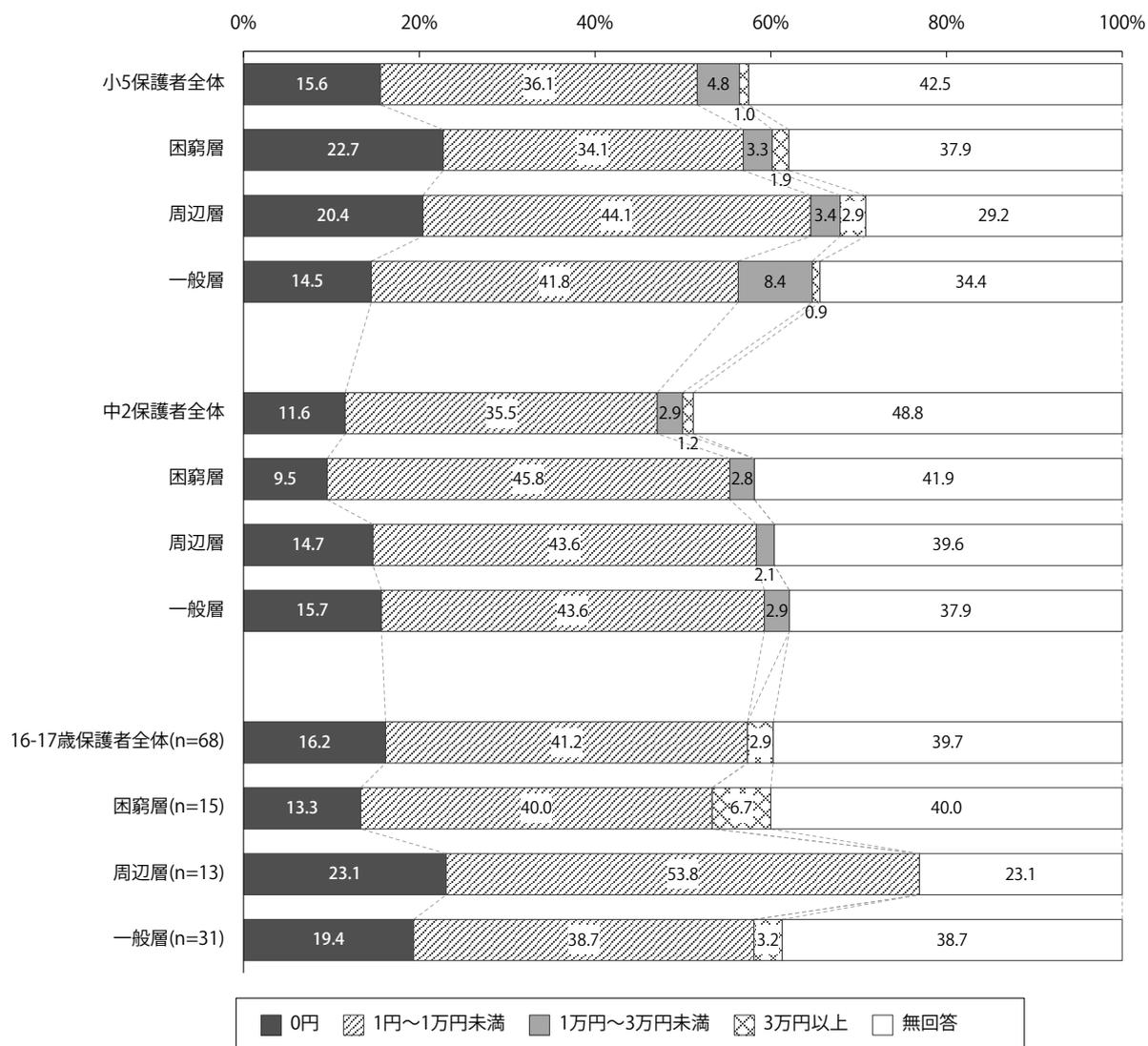


③ 住宅費／B 賃貸住宅【共益費・管理費】

【保護者票】

賃貸住宅の共益費・管理費については、「1円～1万円未満」と回答した割合がどの年齢でも最も高く、小学5年生の困窮層で34.1%、周辺層で44.1%、一般層で41.8%、中学2年生の困窮層で45.8%、周辺層で43.6%、一般層で43.6%、16-17歳の困窮層で40.0%、周辺層で53.8%、一般層で38.7%となっている。

問9-2 B 賃貸住宅【共益費・管理費】



## 2 子どもの生活水準（所有物と体験）

### （1）小・中学生の所有物の状況

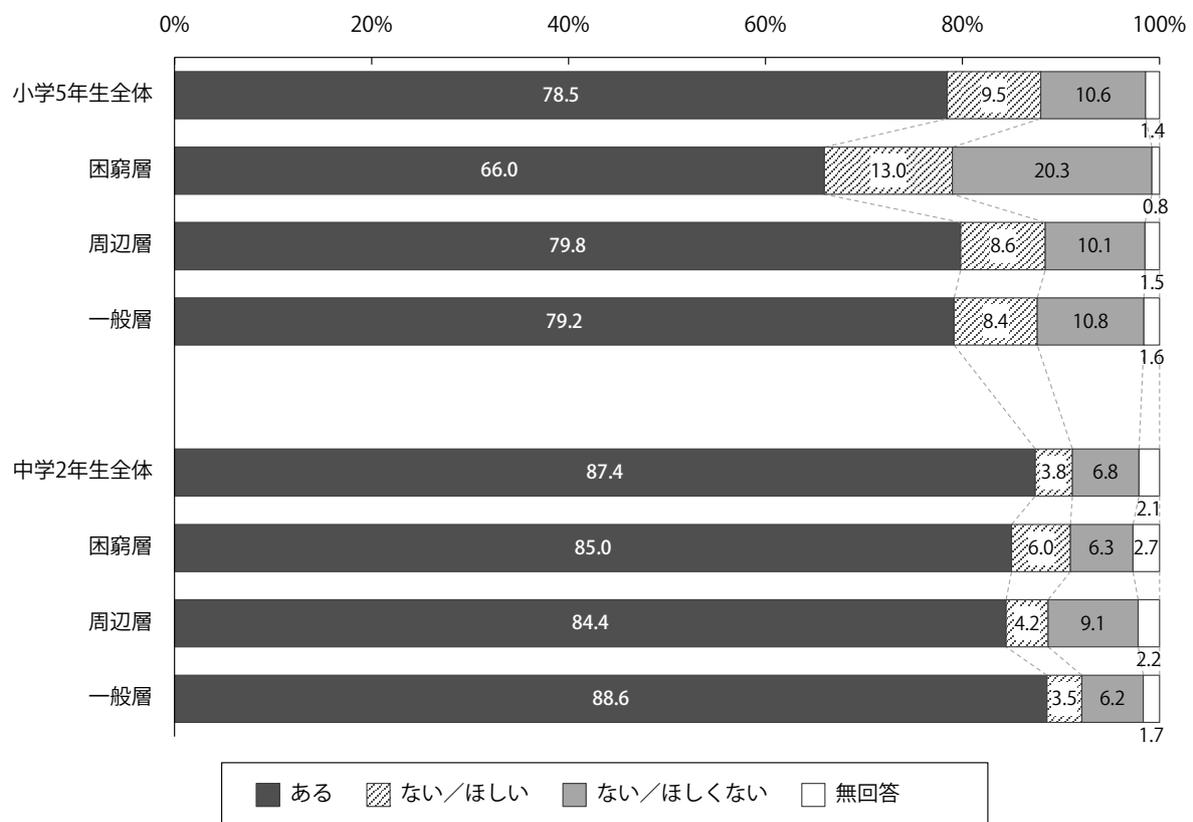
#### A 自分だけの本（学校の教科書やマンガはのぞく）

【子ども票】

「自分だけの本」の所有について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で13.0%、周辺層で8.6%、一般層で8.4%、中学2年生の困窮層で6.0%、周辺層で4.2%、一般層で3.5%となっている。

いずれの年齢層でも、生活困難度が高いほど所有しておらず、「ほしい」と考えていることがわかる。

#### 問3 使うことができるもの／A 自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく)

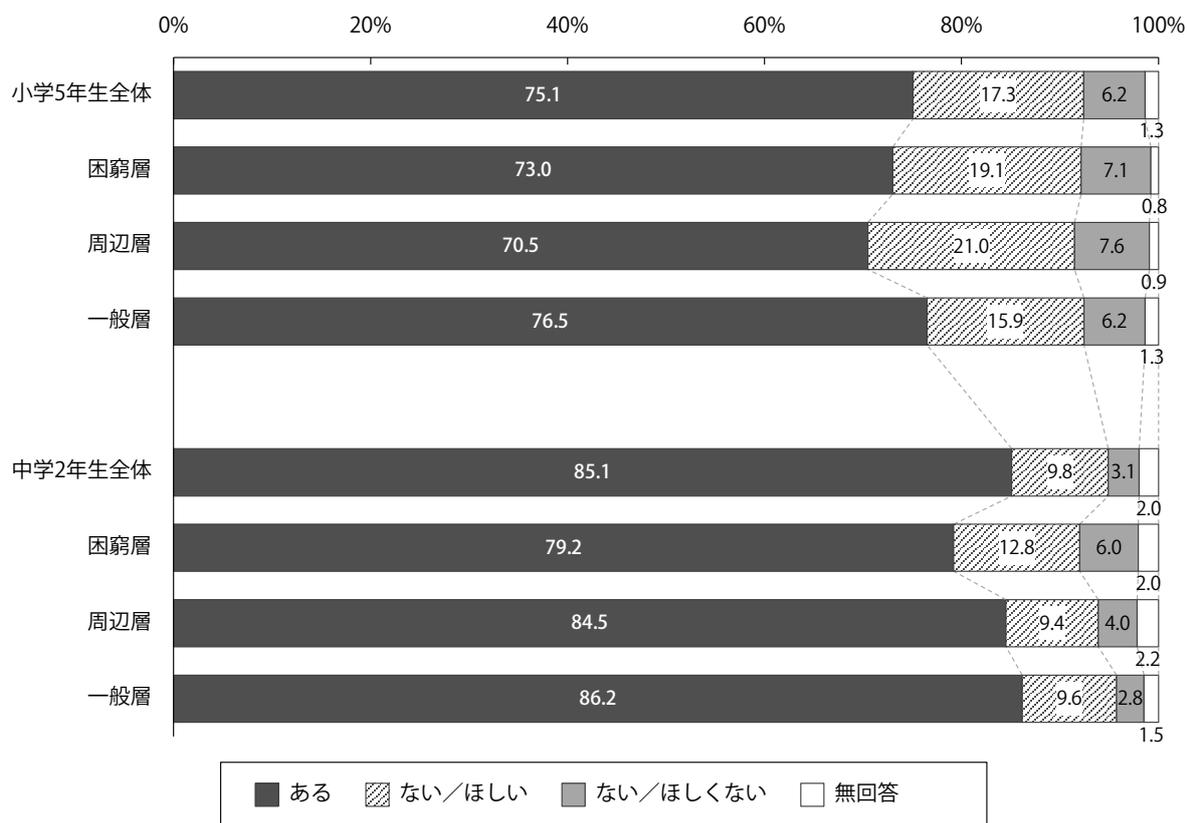


**B 子ども部屋（兄弟姉妹と使っている場合もふくむ）**

【子ども票】

「子ども部屋」の所有について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で19.1%、周辺層で21.0%、一般層で15.9%、中学2年生の困窮層で12.8%、周辺層で9.4%、一般層で9.6%となっている。

問3 使うことができるもの／B 子ども部屋(兄弟姉妹と使っている場合もふくむ)

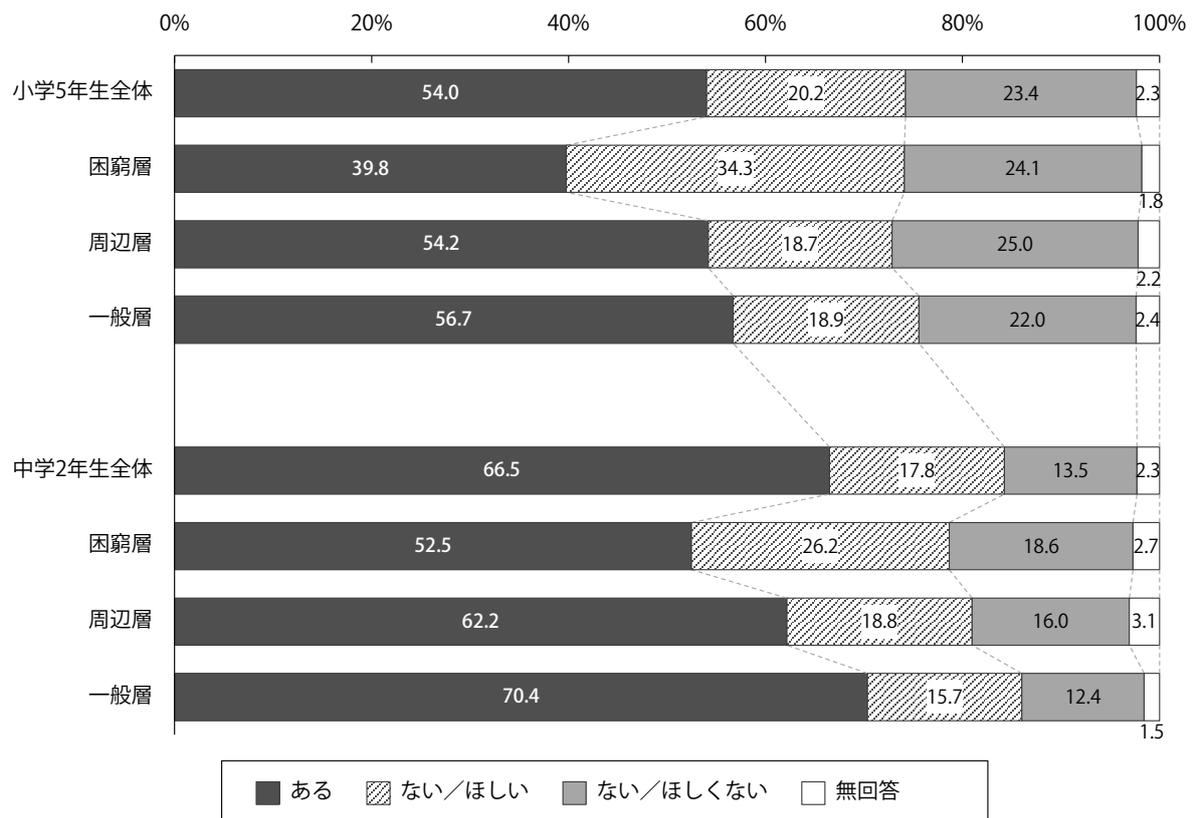


## C （自宅で）インターネットにつながるパソコン

【子ども票】

子どもの所有物のうち、学習環境の一つとしても考えられる「インターネットにつながるパソコン」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.3%、周辺層で18.7%、一般層で18.9%、中学2年生の困窮層で26.2%、周辺層で18.8%、一般層で15.7%となっている。いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

問3 使うことができるもの／C（自宅で）インターネットにつながるパソコン

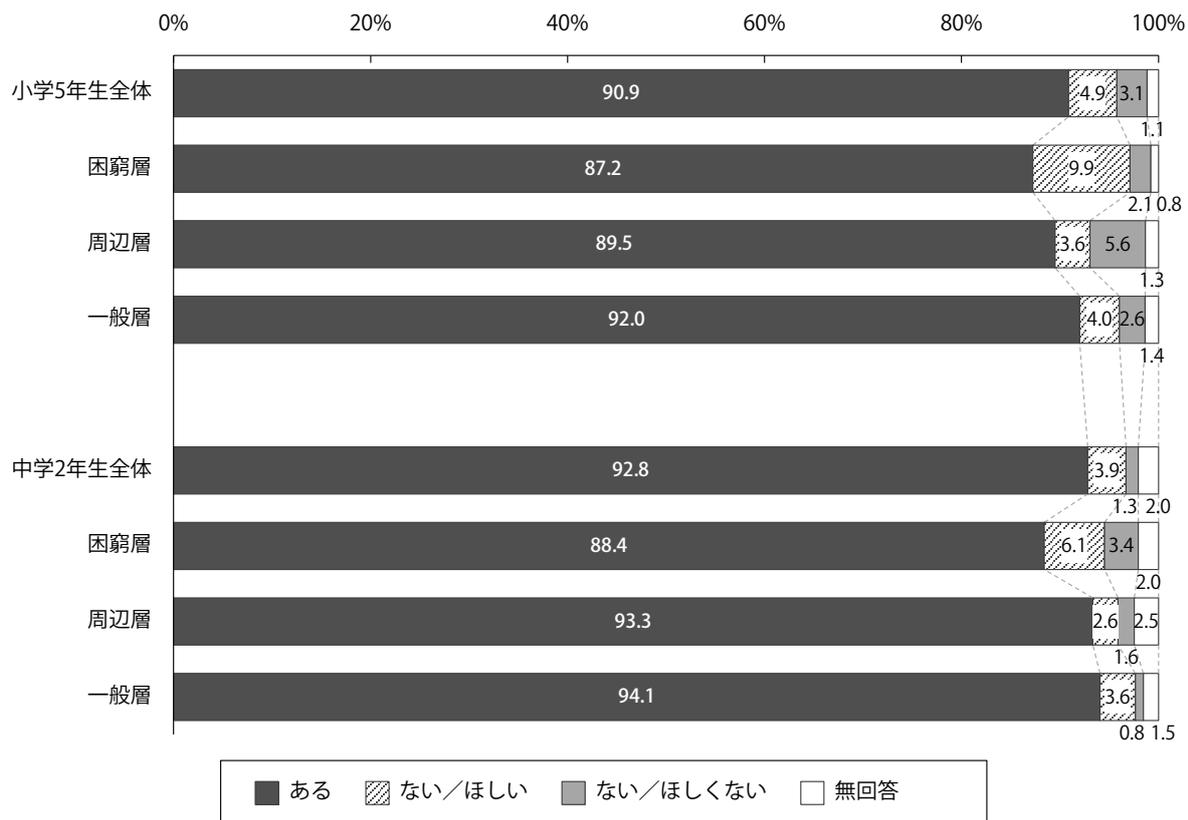


D 自宅で宿題をすることができる場所

【子ども票】

「自宅で宿題をすることができる場所」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.9%、周辺層で3.6%、一般層で4.0%、中学2年生の困窮層で6.1%、周辺層で2.6%、一般層で3.6%となっている。いずれの年齢層でも困窮層で割合が高くなっている。

問3 使うことができるもの／D 自宅で宿題をすることができる場所

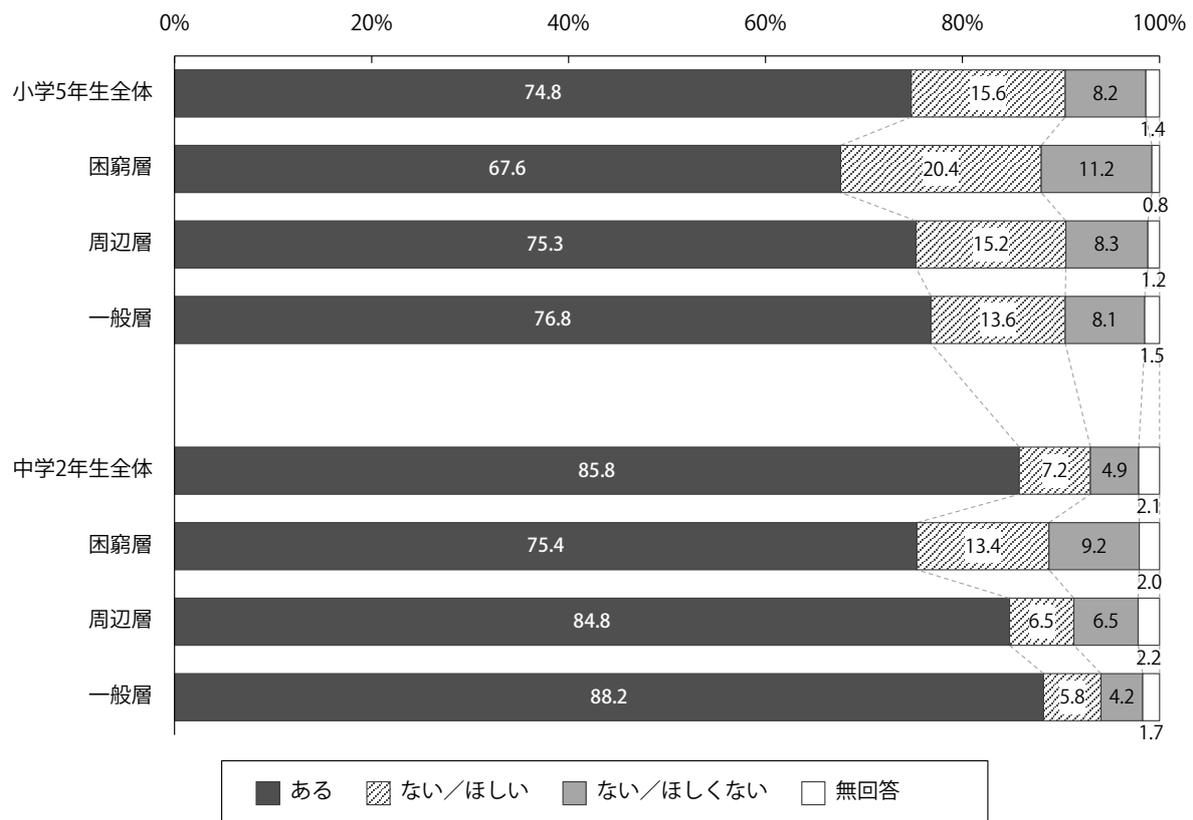


## E 自分専用の勉強机

【子ども票】

「自分専用の勉強机」について、「ある」と回答した割合をみると、小学5年生の困窮層で67.6%、周辺層で75.3%、一般層で76.8%、中学2年生の困窮層で75.4%、周辺層で84.8%、一般層で88.2%となっている。「ない／ほしい」と回答した割合をみると、小学5年生の困窮層で20.4%となっている。いずれの年齢層でも「ある」は困窮層で割合が低く、「ない／ほしい」は高くなっている。

## 問3 使うことができるもの／E 自分専用の勉強机

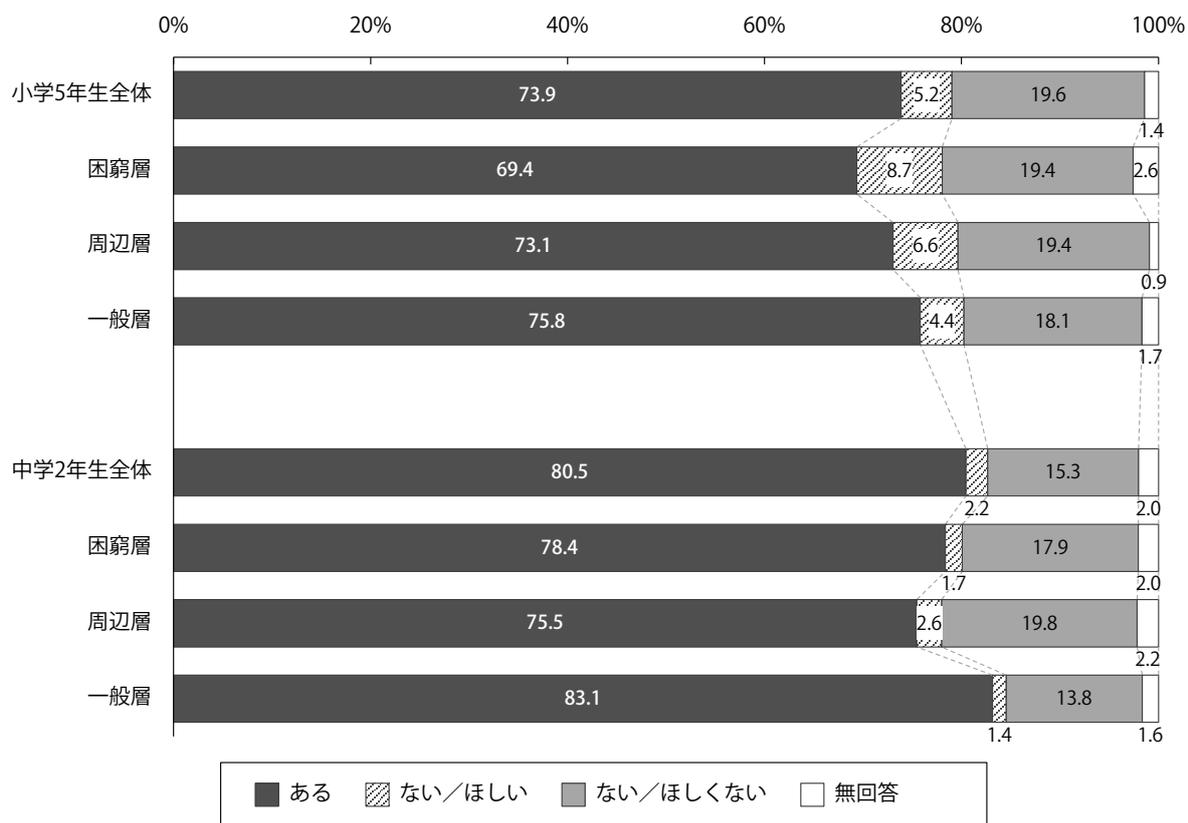


F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）

【子ども票】

「スポーツ用品」について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で69.4%、周辺層で73.1%、一般層で75.8%、中学2年生の困窮層で78.4%、周辺層で75.5%、一般層で83.1%となっている。中学2年生においては、生活困難度との相関が明確にはみられない。

問3 使うことができるもの／F スポーツ用品（野球のグローブや、サッカーボールなど）

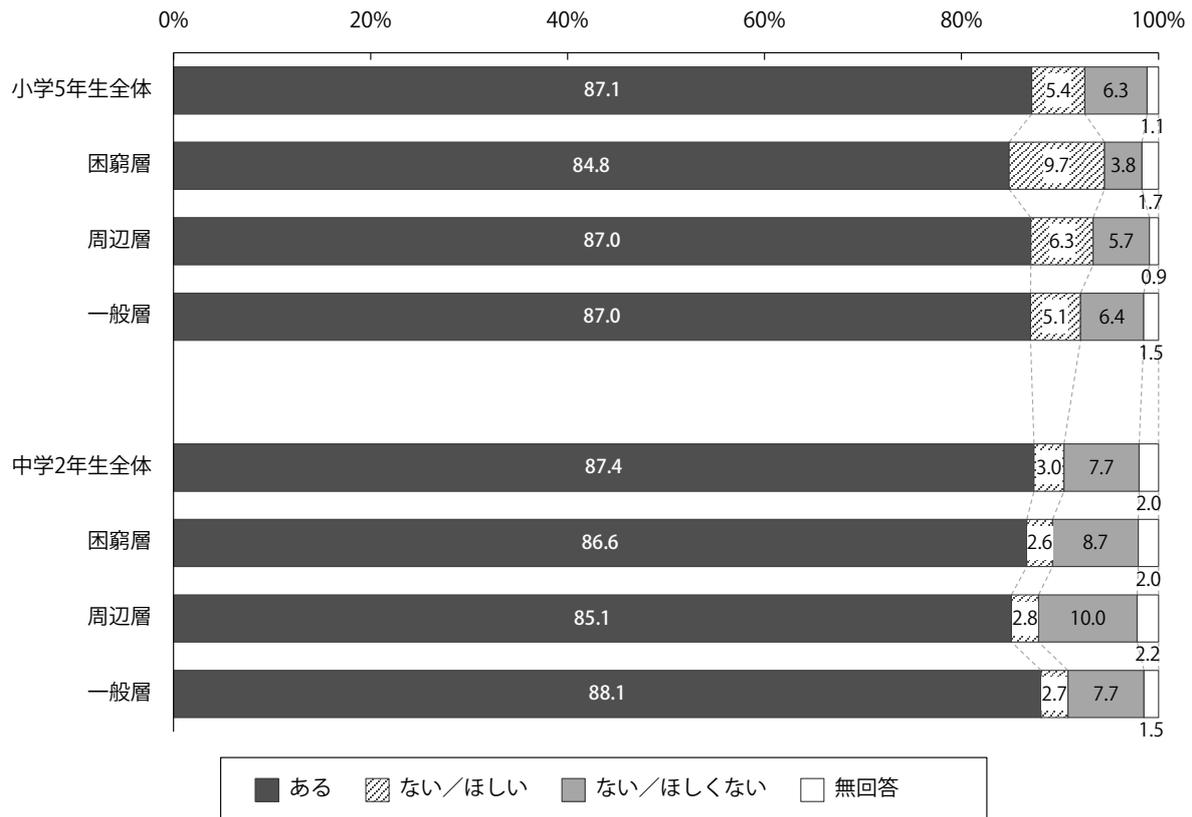


## G ゲーム機

【子ども票】

「ゲーム機」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.7%、周辺層で6.3%、一般層で5.1%、中学2年生の困窮層で2.6%、周辺層で2.8%、一般層で2.7%となっている。「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生において生活困難度との相関がみられるが、中学2年生では明確にはみられない。

## 問3 使うことができるもの／G ゲーム機

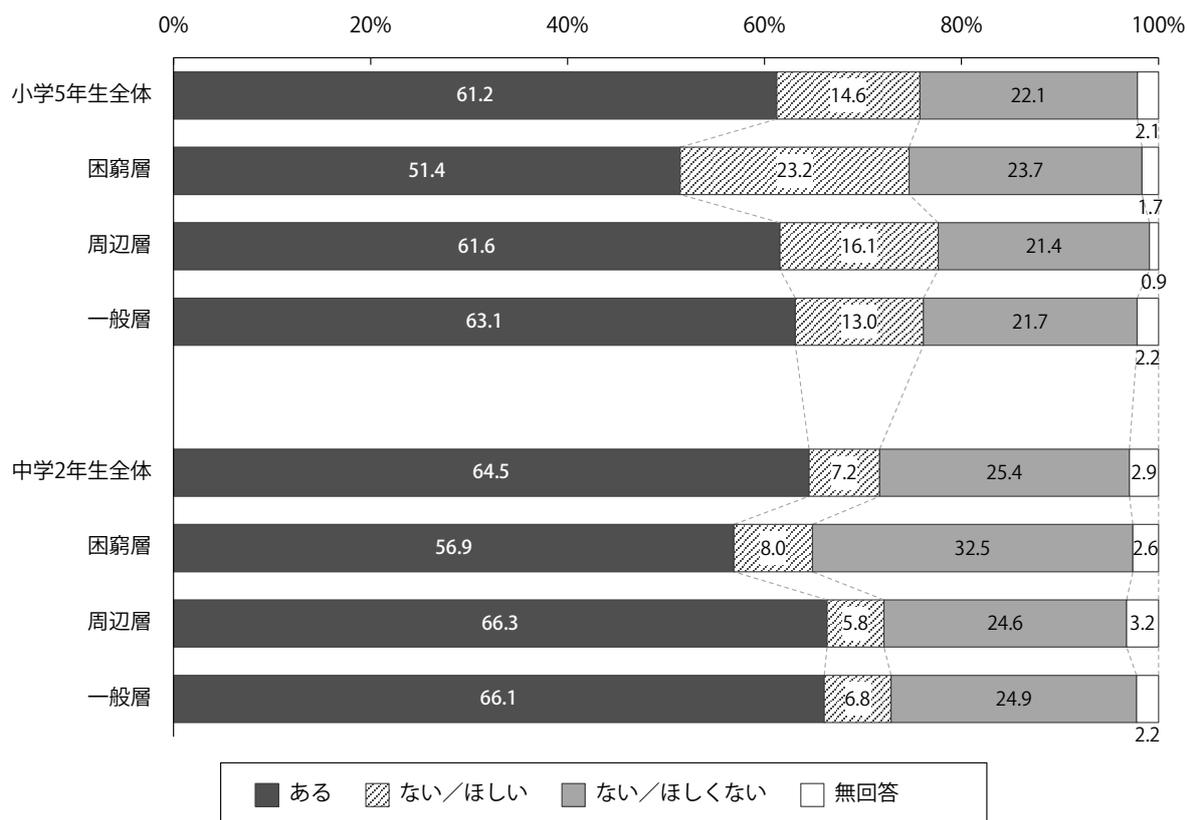


## H たいていの友だちが持っているおもちゃ

【子ども票】

「たいていの友だちが持っているおもちゃ」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で23.2%、周辺層で16.1%、一般層で13.0%、中学2年生の困窮層で8.0%、周辺層で5.8%、一般層で6.8%となっている。「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生において生活困難度との相関がみられるが、中学2年生では明確にはみられない。

問3 使うことができるもの／H たいていの友だちが持っているおもちゃ

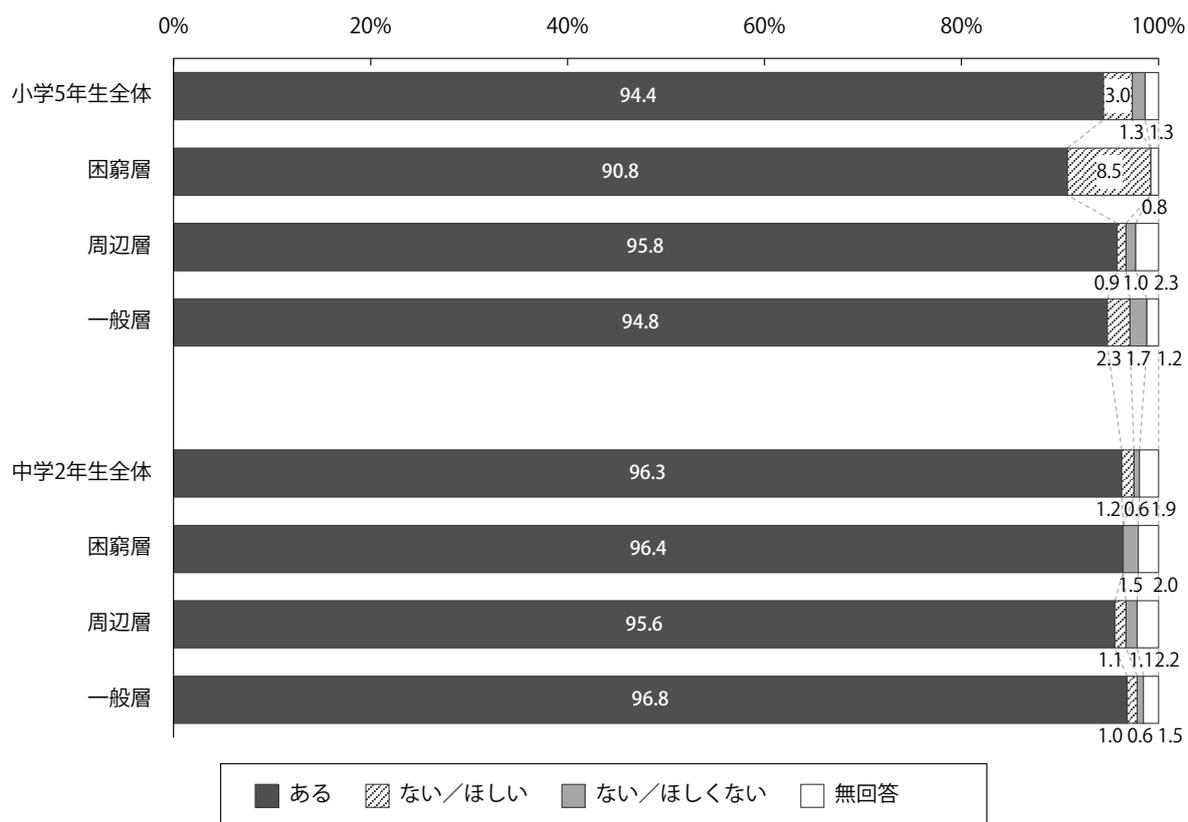


## I 自転車

【子ども票】

「自転車」について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で90.8%、周辺層で95.8%、一般層で94.8%、中学2年生の困窮層で96.4%、周辺層で95.6%、一般層で96.8%となっている。いずれも90%以上が所有しているが、小学5年生の困窮層ではその割合が低くなっている。

## 問3 使うことができるもの／I 自転車

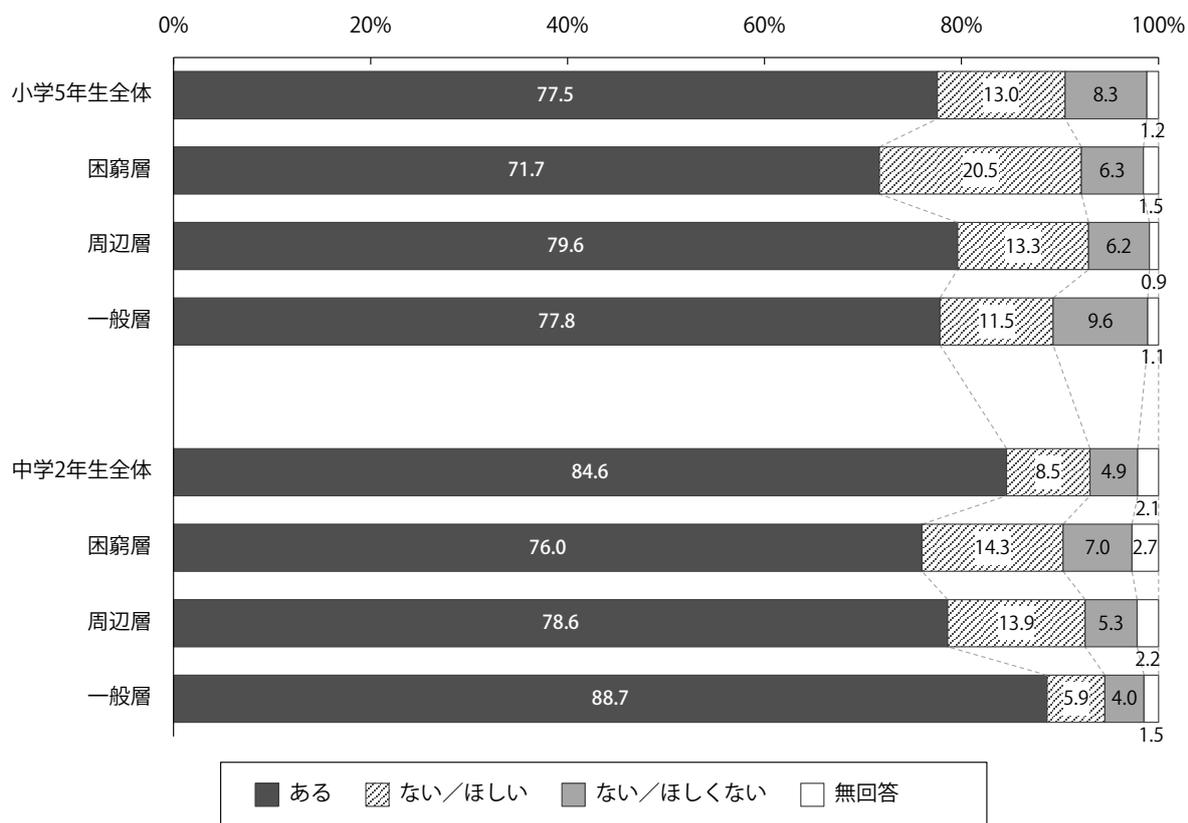


Ｊ おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい

【子ども票】

「おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい」について、「ない／ほしい」と回答した割合をみると、小学5年生の困窮層で20.5%と、20%を超えている。「ある」と回答した割合では、中学2年生の一般層で88.7%と高くなっている。

問3 使うことができるもの／Ｊ おやつや、ちょっとしたおもちゃを買うおこづかい



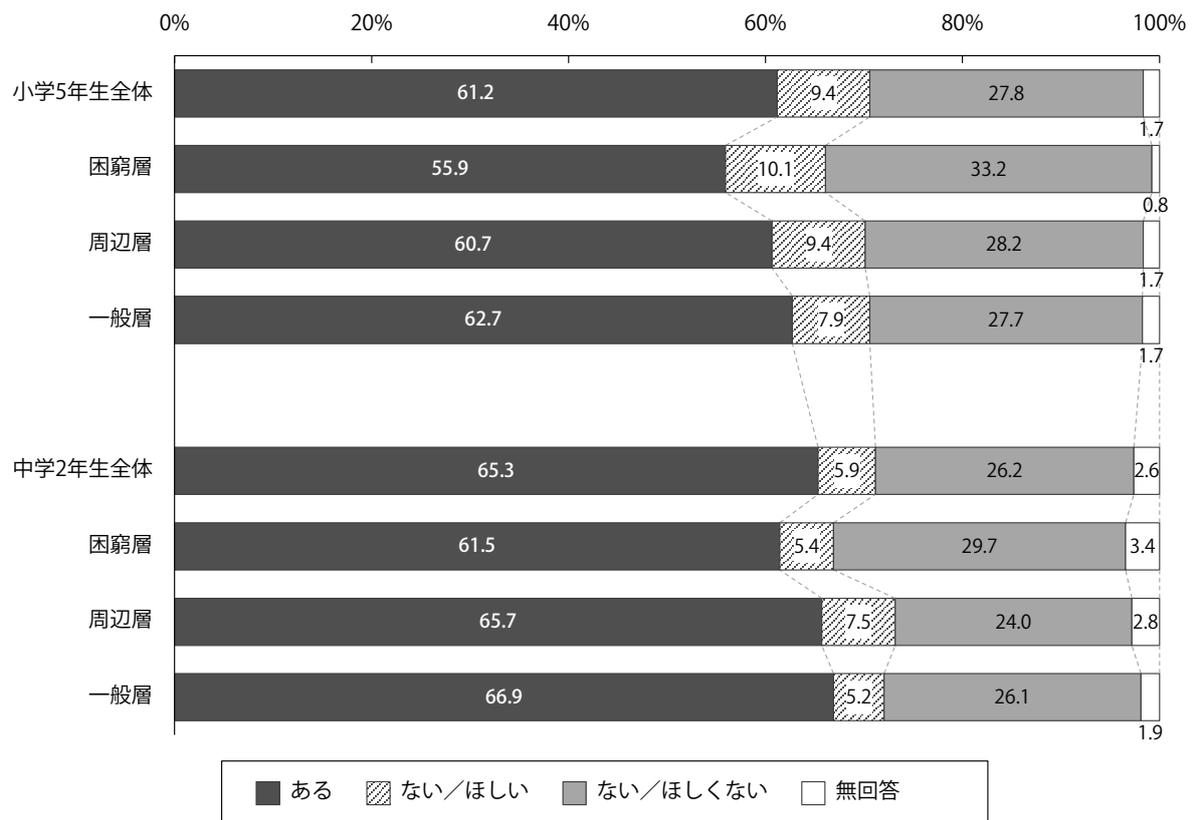
## K 友だちが着ているのと同じような服

【子ども票】

「友だちが着ているのと同じような服」について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で55.9%、周辺層で60.7%、一般層で62.7%、中学2年生の困窮層で61.5%、周辺層で65.7%、一般層で66.9%となっている。

いずれの年齢層でも生活困難度との相関がみられるが、「ある」と回答した割合そのものが、他の物品と比べると低い傾向にある。

## 問3 使うことができるもの／K 友だちが着ているのと同じような服



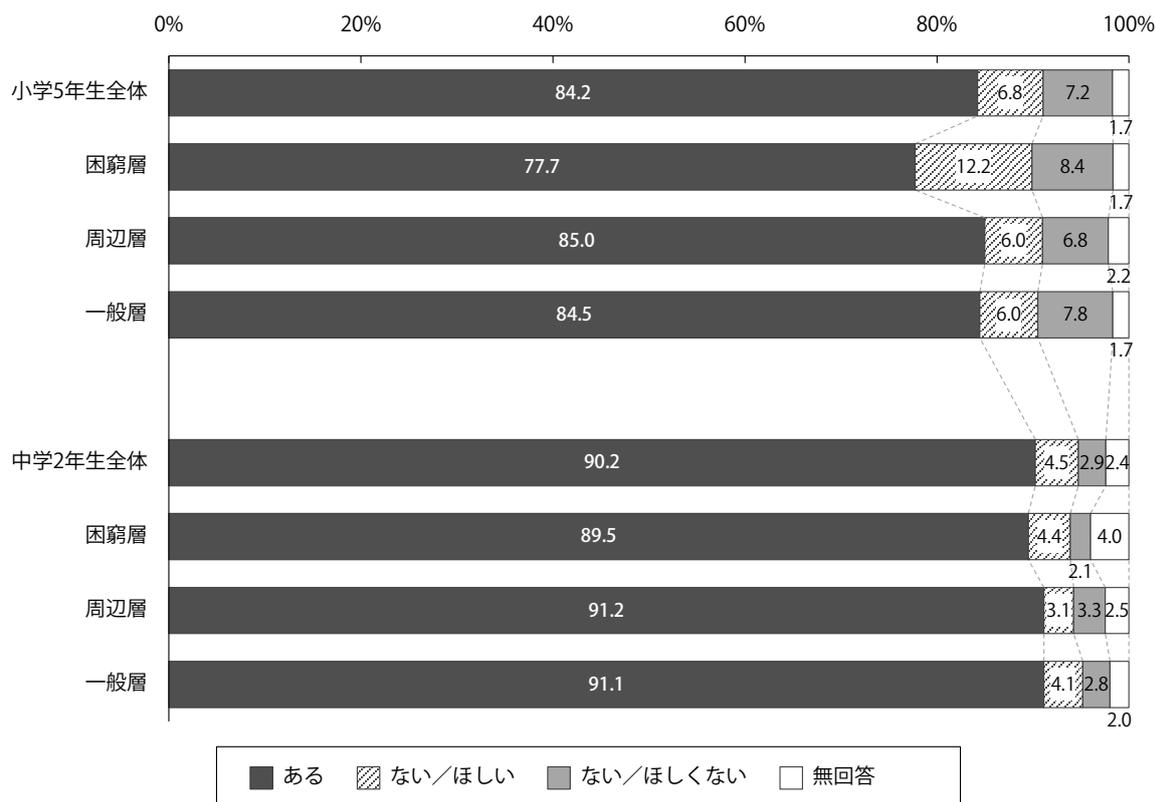
## L 2足以上のサイズのあった靴

【子ども票】

「2足以上のサイズのあった靴」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で12.2%、周辺層で6.0%、一般層で6.0%、中学2年生の困窮層で4.4%、周辺層で3.1%、一般層で4.1%となっている。

小学5年生の困窮層で「ない／ほしい」が多くなっている。

問3 使うことができるもの／L 2足以上のサイズのあった靴



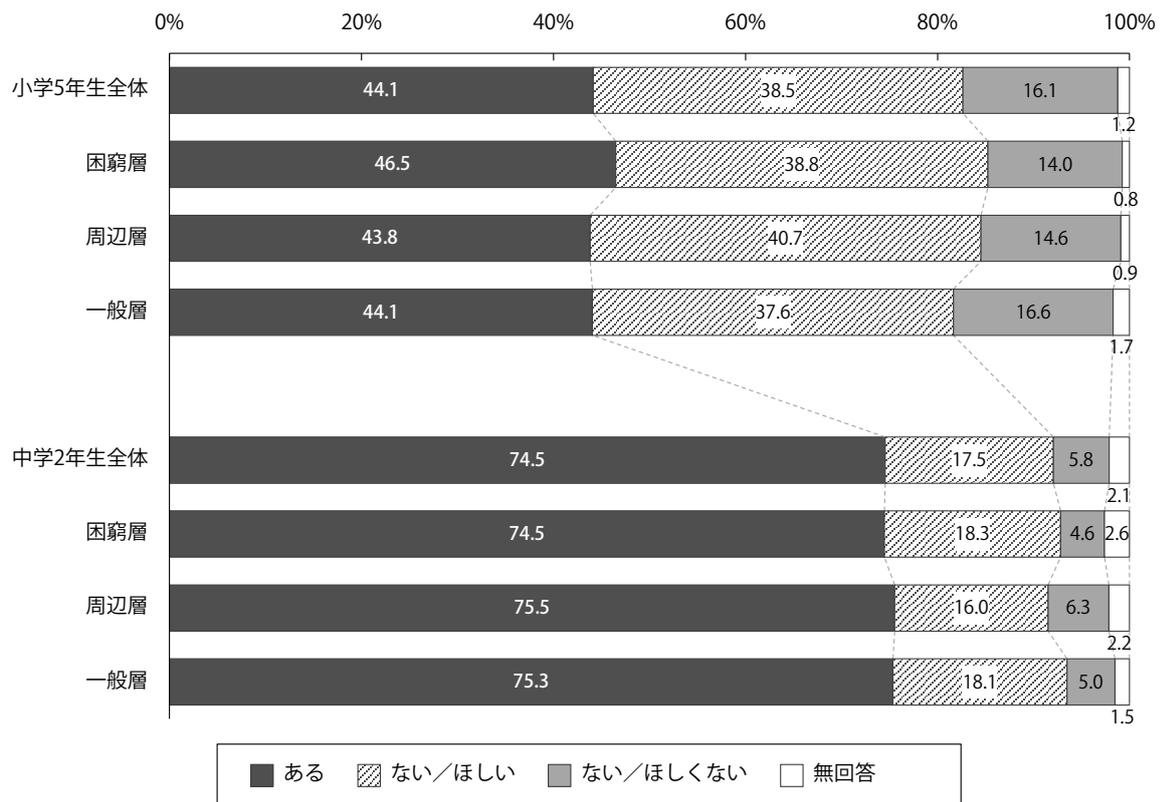
## M 携帯電話、スマートフォン

【子ども票】

「携帯電話、スマートフォン」について、「ない／ほしい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で38.8%、周辺層で40.7%、一般層で37.6%、中学2年生の困窮層で18.3%、周辺層で16.0%、一般層で18.1%となっている。

生活困難度との明確な相関はみられず、中学2年生ではどの層でも70%以上が所有していることから、年齢層による違いが大きいことがわかる。

## 問3 使うことができるもの／M 携帯電話、スマートフォン



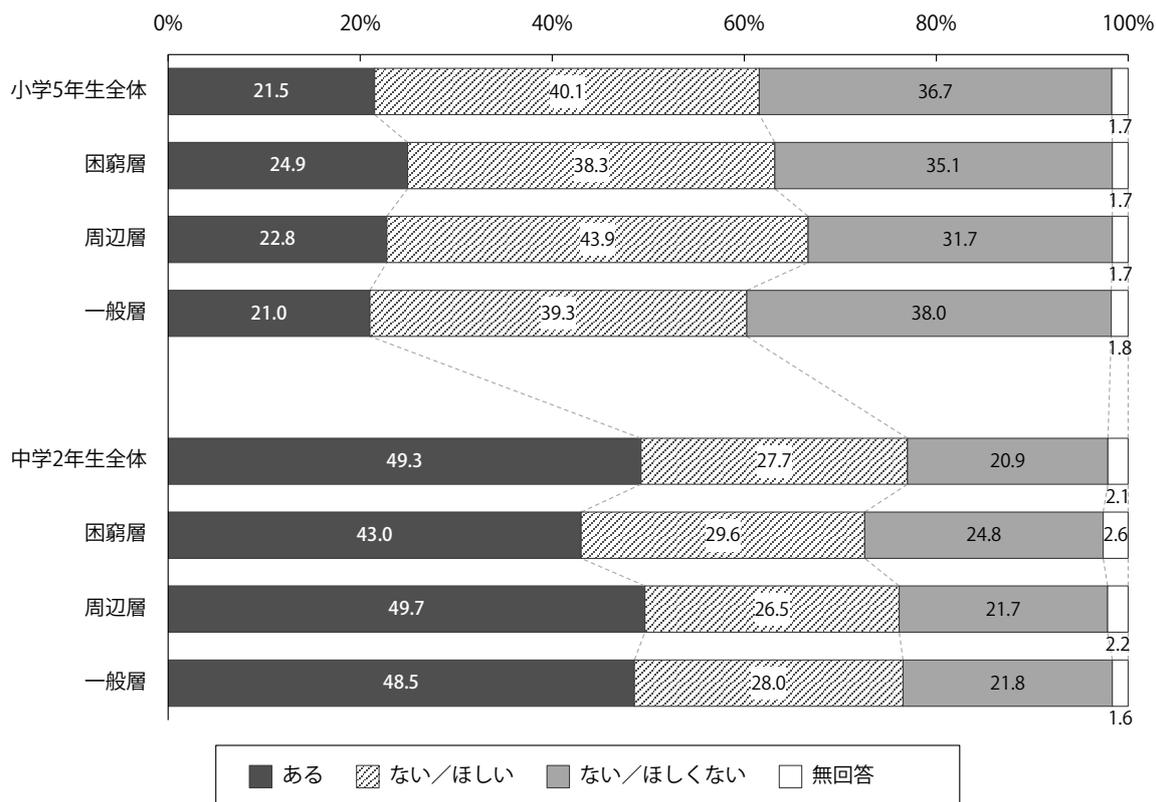
## N 携帯音楽プレーヤーなど

【子ども票】

「携帯音楽プレーヤーなど」について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で24.9%、周辺層で22.8%、一般層で21.0%、中学2年生の困窮層で43.0%、周辺層で49.7%、一般層で48.5%となっている。

小学5年生では所有の状況において生活困難度との相関がみられる。

問3 使うことができるもの／N 携帯音楽プレーヤーなど



## （2）16～17歳の所有物の状況

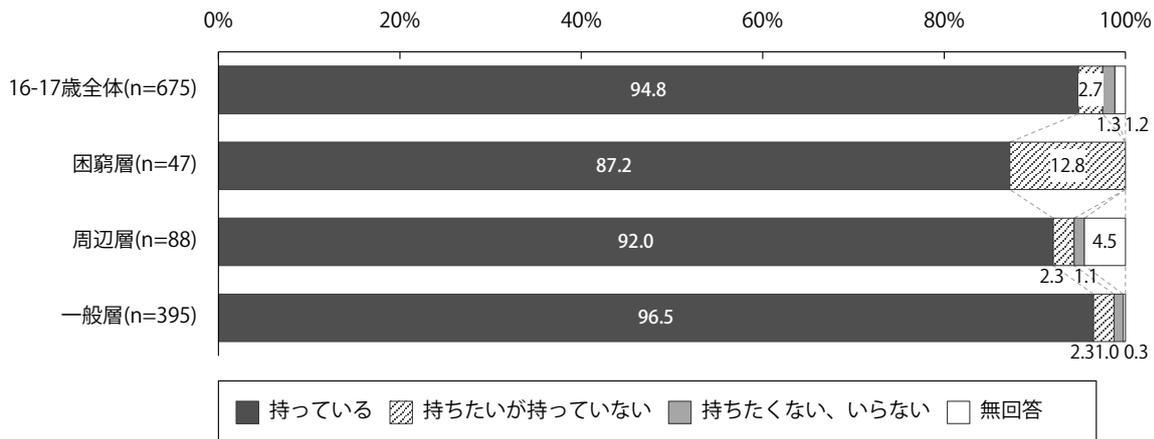
### A 新しい（だれかのお古でない）洋服

【子ども票】

16-17歳の所有物、「新しい（だれかのお古でない）洋服」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で87.2%、周辺層で92.0%、一般層で96.5%となっている。

「持ちたいが持っていない」をみると、困窮層で12.8%と割合が高くなっている。

問4 物品の所有状況／A 新しい(だれかのお古でない)洋服



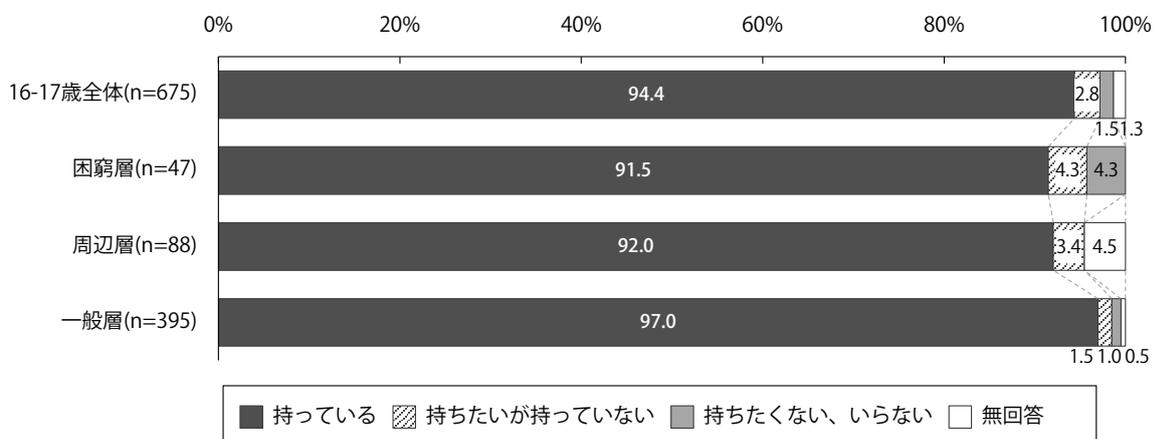
### B 最低2足のサイズの合った靴

【子ども票】

16-17歳の所有物、「最低2足のサイズの合った靴」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で91.5%、周辺層で92.0%、一般層で97.0%となっている。

どの層でも90%を超えているが、わずかに生活困難度との相関がみられる。

問4 物品の所有状況／B 最低2足のサイズの合った靴



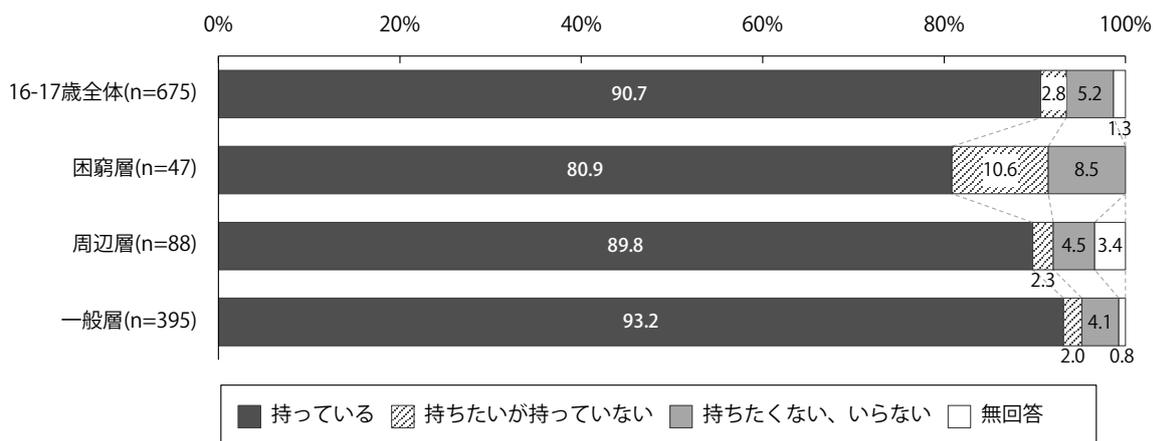
### C 冬用のダウンジャケット・ダウンコート

【子ども票】

16-17歳の所有物、「冬用のダウンジャケット・ダウンコート」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で80.9%、周辺層で89.8%、一般層で93.2%となっている。

「持ちたいが持っていない」の回答では、困窮層において10.6%と、他の層よりも8ポイント程度高くなっていることがわかる。

問4 物品の所有状況／C 冬用のダウンジャケット・ダウンコート



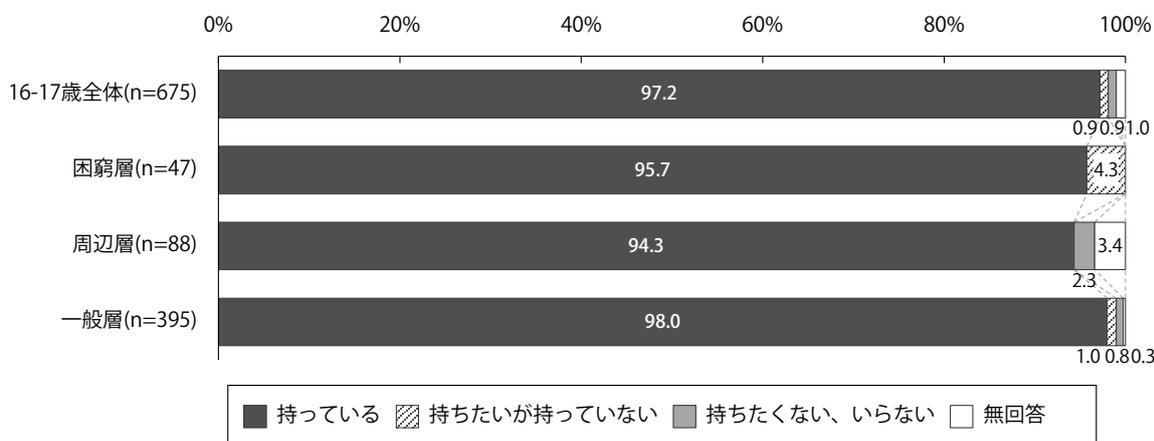
### D 自分専用のふとん、またはベッド

【子ども票】

16-17歳の所有物、「自分専用のふとん、またはベッド」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で95.7%、周辺層で94.3%、一般層で98.0%となっている。

「持ちたいが持っていない」の回答では、困窮層において4.3%となっており、周辺層の0.0%、一般層の1.0%よりも高くなっている。

問4 物品の所有状況／D 自分専用のふとん、またはベッド



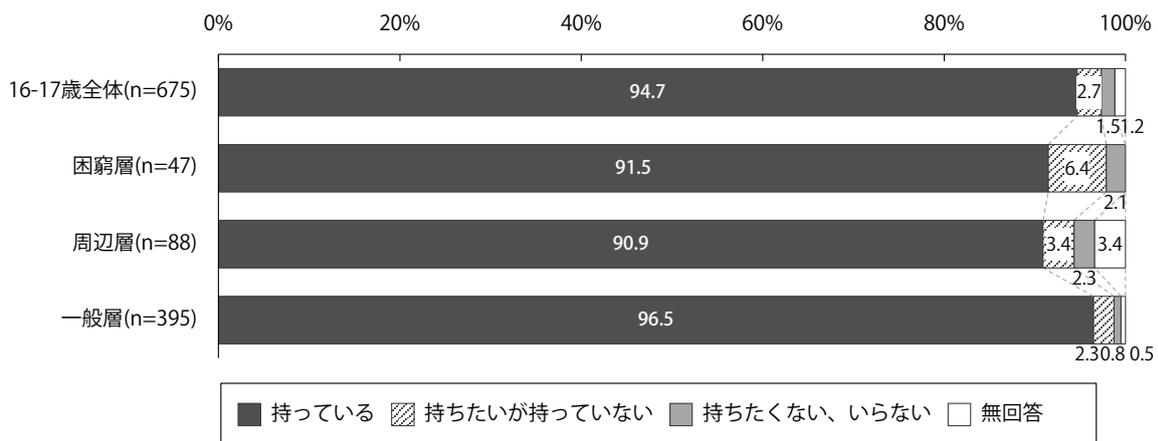
## E 家の中で勉強ができる場所

【子ども票】

16-17歳の所有物、「家の中で勉強ができる場所」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で91.5%、周辺層で90.9%、一般層で96.5%となっている。

「持っている」はいずれの層でも90%を超えており、生活困難度との明確な相関はみられないが、「持ちたいが持っていない」では困窮層が6.4%と、他の層（周辺層3.4%、一般層2.3%）と比べて高くなっている。

## 問4 物品の所有状況／E 家の中で勉強ができる場所

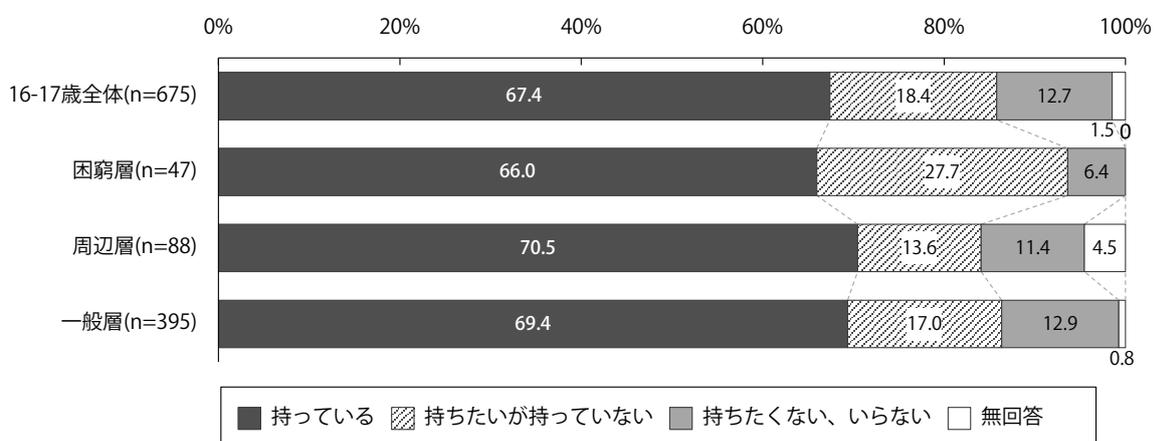


## F インターネットにつながるパソコン

【子ども票】

16-17歳の所有物、「インターネットにつながるパソコン」について、「持ちたいが持っていない」と回答した割合は、困窮層で27.7%、周辺層で13.6%、一般層で17.0%となっており、困窮層で最も高くなっている。

## 問4 物品の所有状況／F インターネットにつながるパソコン



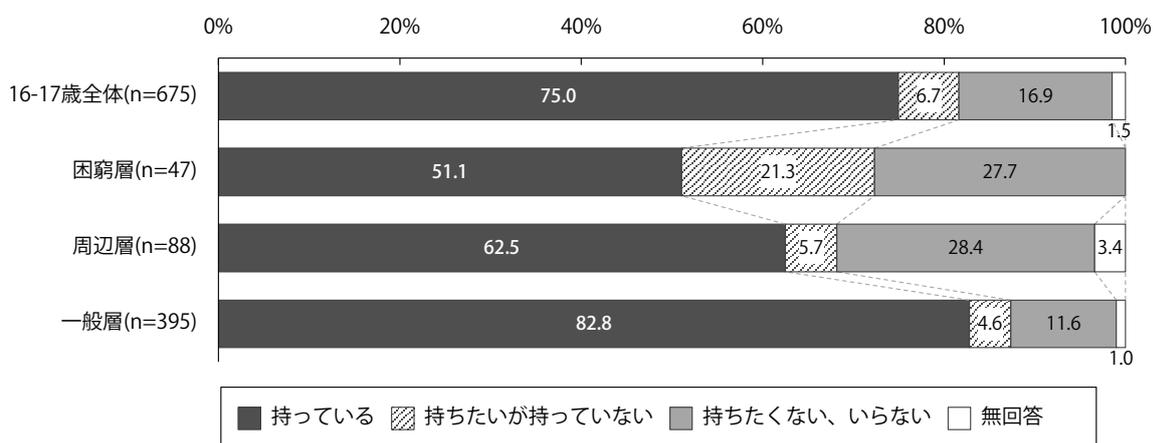
## G 電子辞書

【子ども票】

16-17歳の所有物、「電子辞書」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で51.1%、周辺層で62.5%、一般層で82.8%となっている。

生活困難度との相関がみられる。

問4 物品の所有状況／G 電子辞書



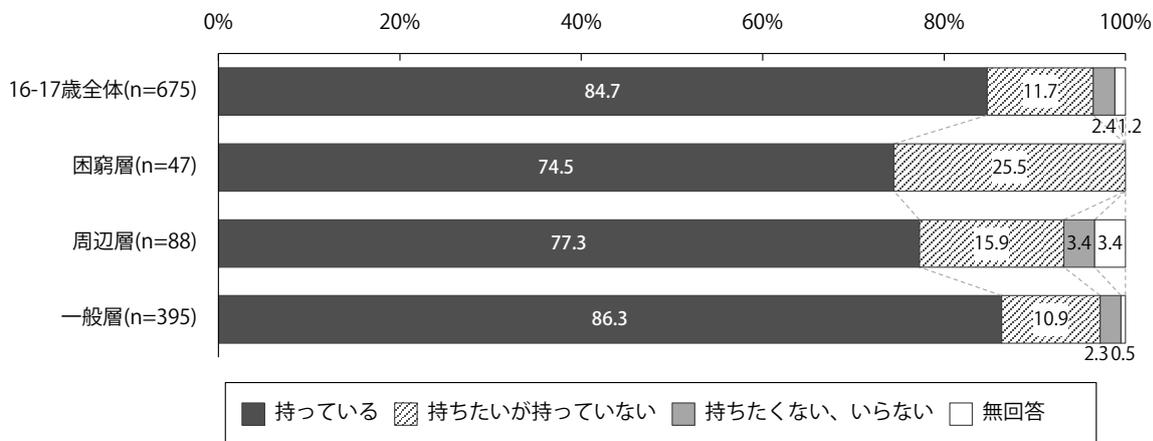
## H 自分の部屋

【子ども票】

16-17歳の所有物、「自分の部屋」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で74.5%、周辺層で77.3%、一般層で86.3%となっている。

生活困難度との相関がみられる。

問4 物品の所有状況／H 自分の部屋

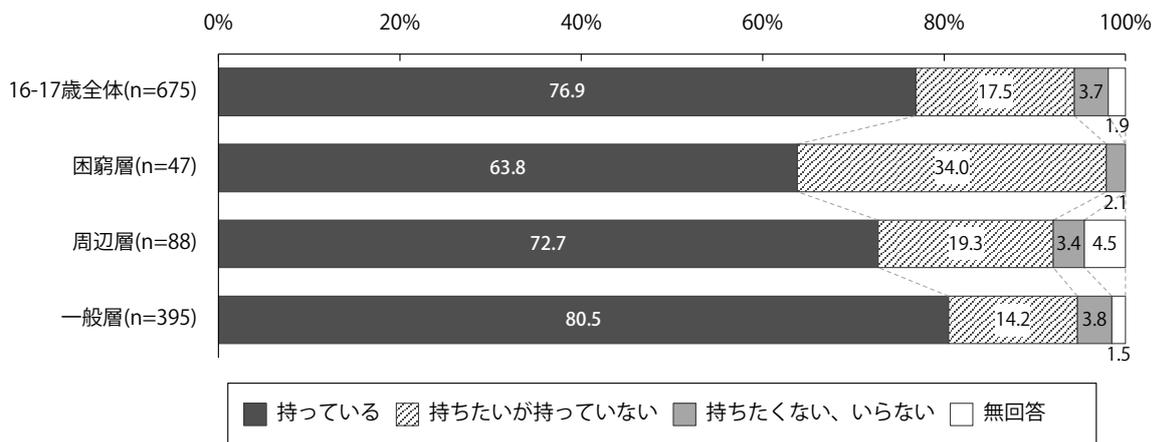


## I 月 5,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金

【子ども票】

16-17 歳の所有物、「月 5,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で 63.8%、周辺層で 72.7%、一般層で 80.5%となっている。生活困難度との相関がみられる。

問4 物品の所有状況／I 月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金



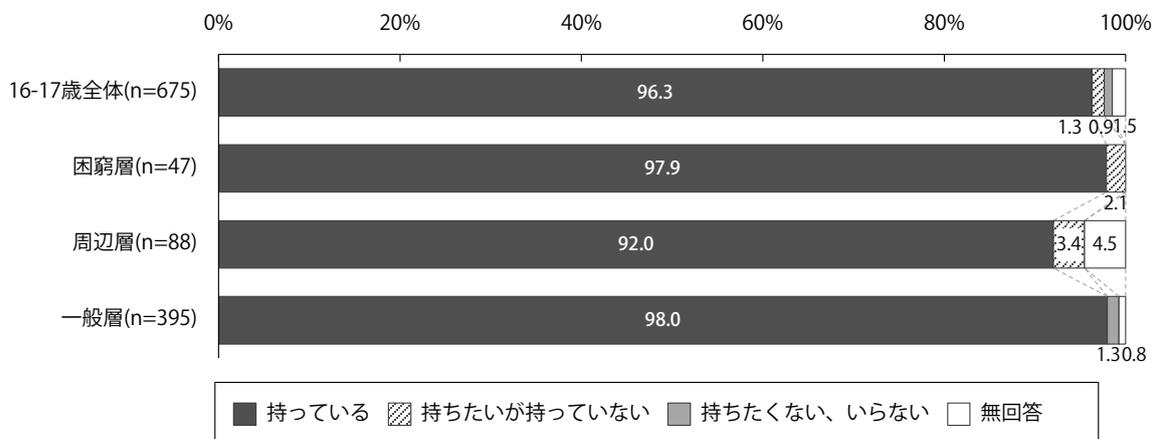
## J スマートフォン

【子ども票】

16-17 歳の所有物、「スマートフォン」について、「持ちたいが持っていない」と回答した割合は、困窮層で 2.1%、周辺層で 3.4%、一般層で 0.0%となっている。

いずれの層でも所有は 90%を超えている。

問4 物品の所有状況／J スマートフォン



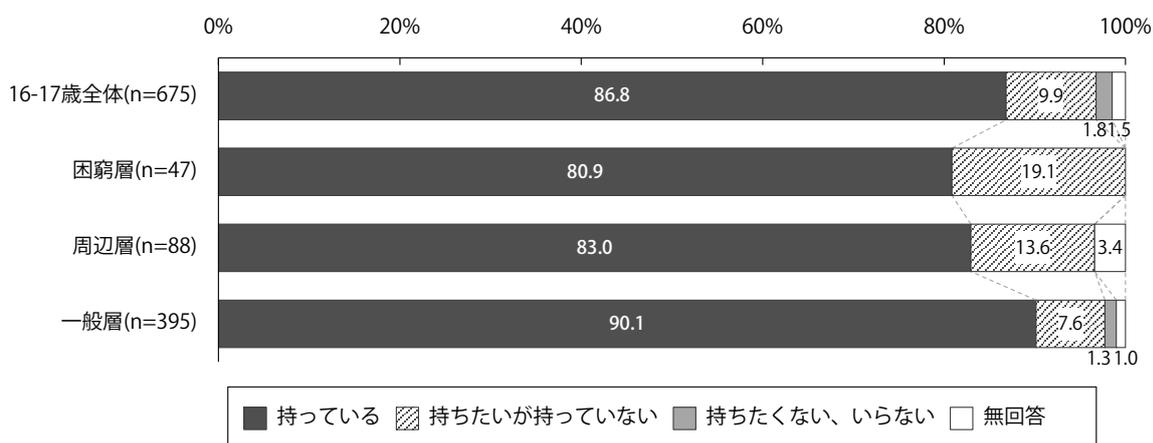
### K 友人と遊びに出かけるお金

【子ども票】

16-17歳の所有物、「友人と遊びに出かけるお金」について、「持っている」と回答した割合は、困窮層で80.9%、周辺層で83.0%、一般層で90.1%となっている。

生活困難度との相関がみられる。

問4 物品の所有状況/K 友人と遊びに出かけるお金



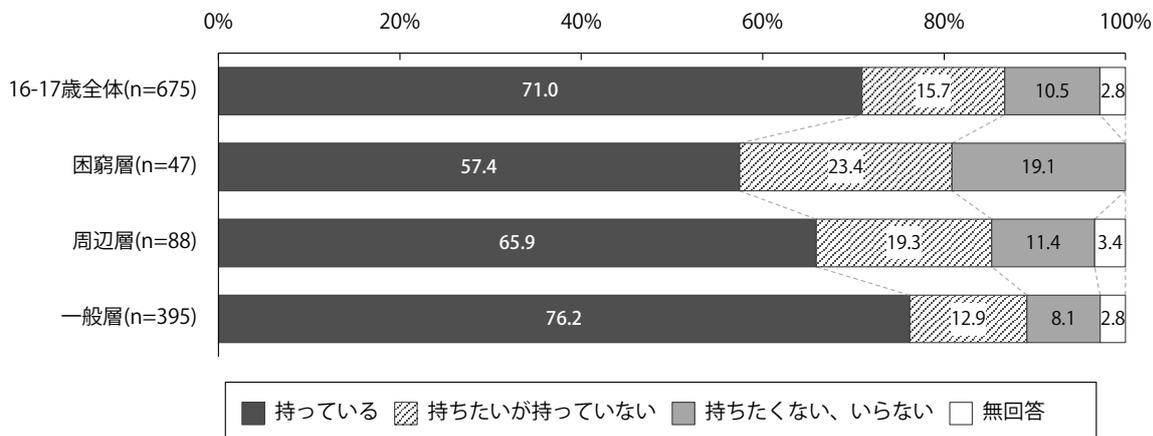
### L 自分に投資するお金（自分のためになる本、職業訓練コースなど）

【子ども票】

16-17歳の所有物、「自分に投資するお金」について、「持っている」回答した割合は、困窮層で57.4%、周辺層で65.9%、一般層で76.2%となっている。

生活困難度との相関がみられ、それぞれで10ポイント前後の差がついている。前問の「友人と遊びに出かけるお金」と比べると、生活困難度による影響が大きく出ていることがわかる。

問4 物品の所有状況/L 自分に投資するお金(自分のためになる本、職業訓練コースなど)



### （3）子どもへの支出

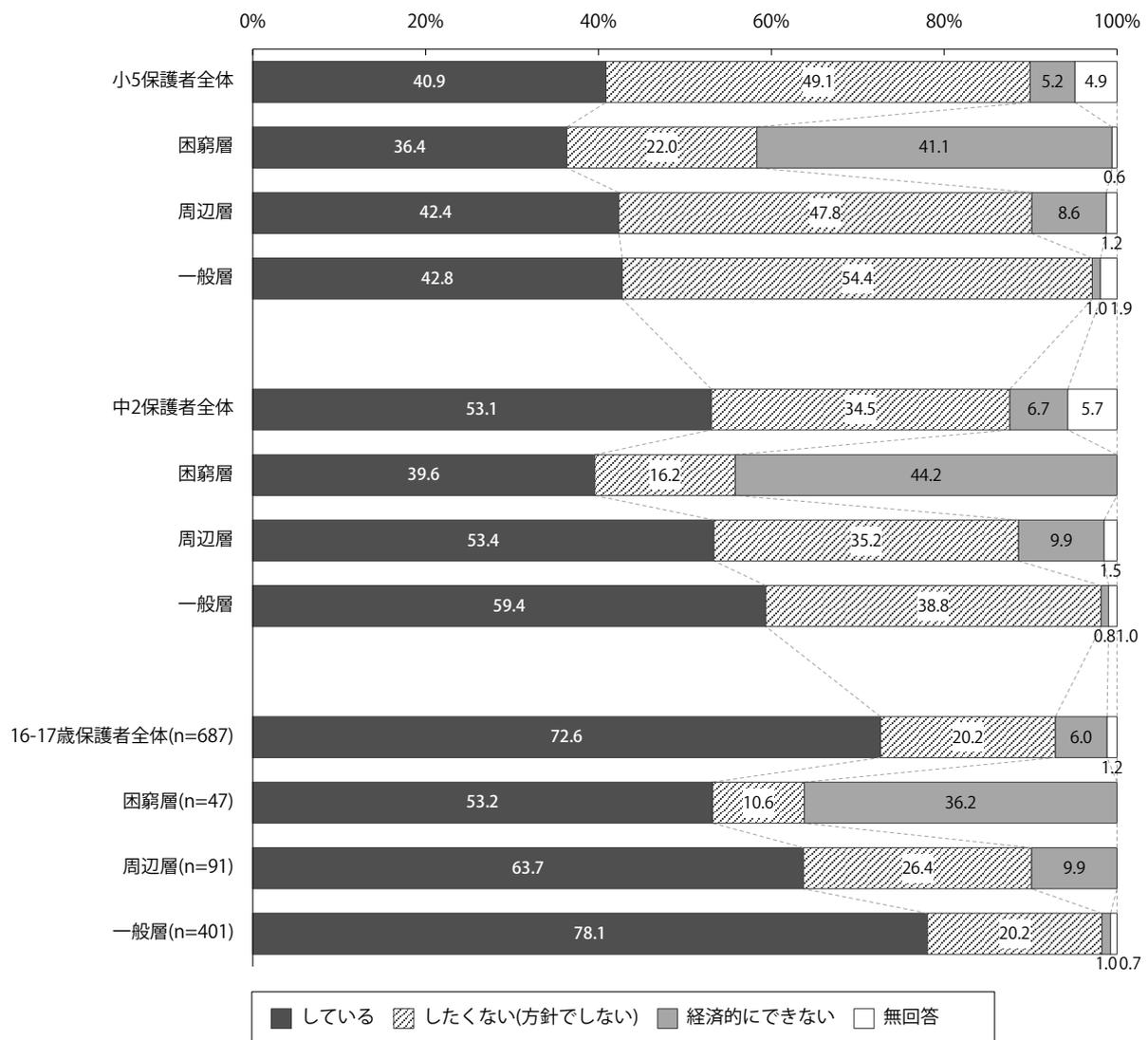
#### A 毎月お小遣いを渡す

保護者票

「毎月お小遣いを渡す」について、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で41.1%、周辺層で8.6%、一般層で1.0%、中学2年生の困窮層で44.2%、周辺層で9.9%、一般層で0.8%、16-17歳の困窮層で36.2%、周辺層で9.9%、一般層で1.0%となっている。

各年齢層とも生活困難度との相関がみられる。

#### 問33 子どもにしていること/A 毎月お小遣いを渡す



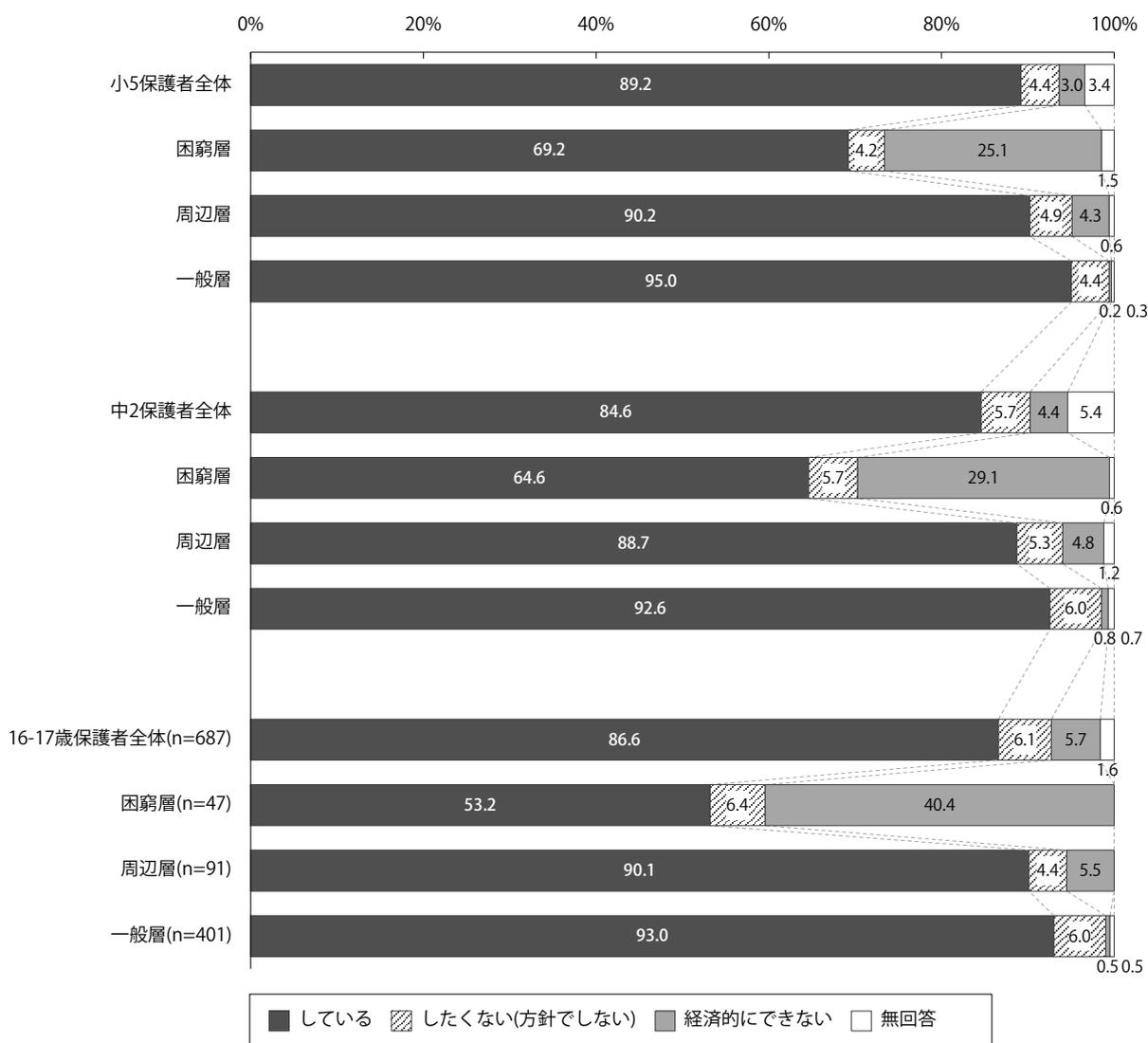
B 毎年新しい洋服・靴を買う

保護者票

「毎年新しい洋服・靴を買う」について、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で25.1%、周辺層で4.3%、一般層で0.2%、中学2年生の困窮層で29.1%、周辺層で4.8%、一般層で0.8%、16-17歳の困窮層で40.4%、周辺層で5.5%、一般層で0.5%となっている。

「している」の割合では、いずれの年齢層でも、困窮層の割合が周辺層・一般層よりも20ポイント以上低くなっている。

問33 子どもにしていること/B 毎年新しい洋服・靴を買う

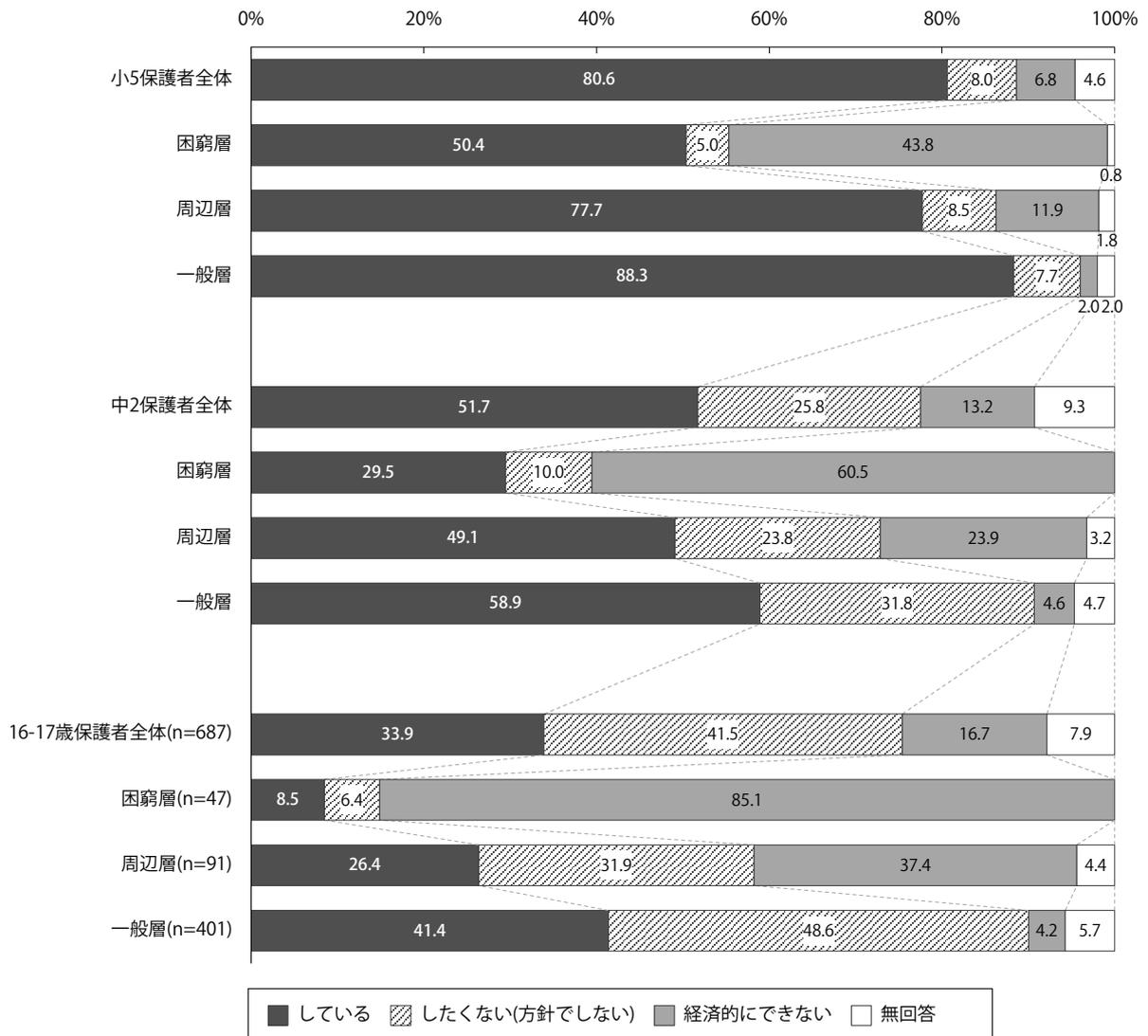


C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

【保護者票】

「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」について、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.8%、周辺層で11.9%、一般層で2.0%、中学2年生の困窮層で60.5%、周辺層で23.9%、一般層で4.6%、16-17歳の困窮層で85.1%、周辺層で37.4%、一般層で4.2%となっている。

問33 子どもにしていること/C 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

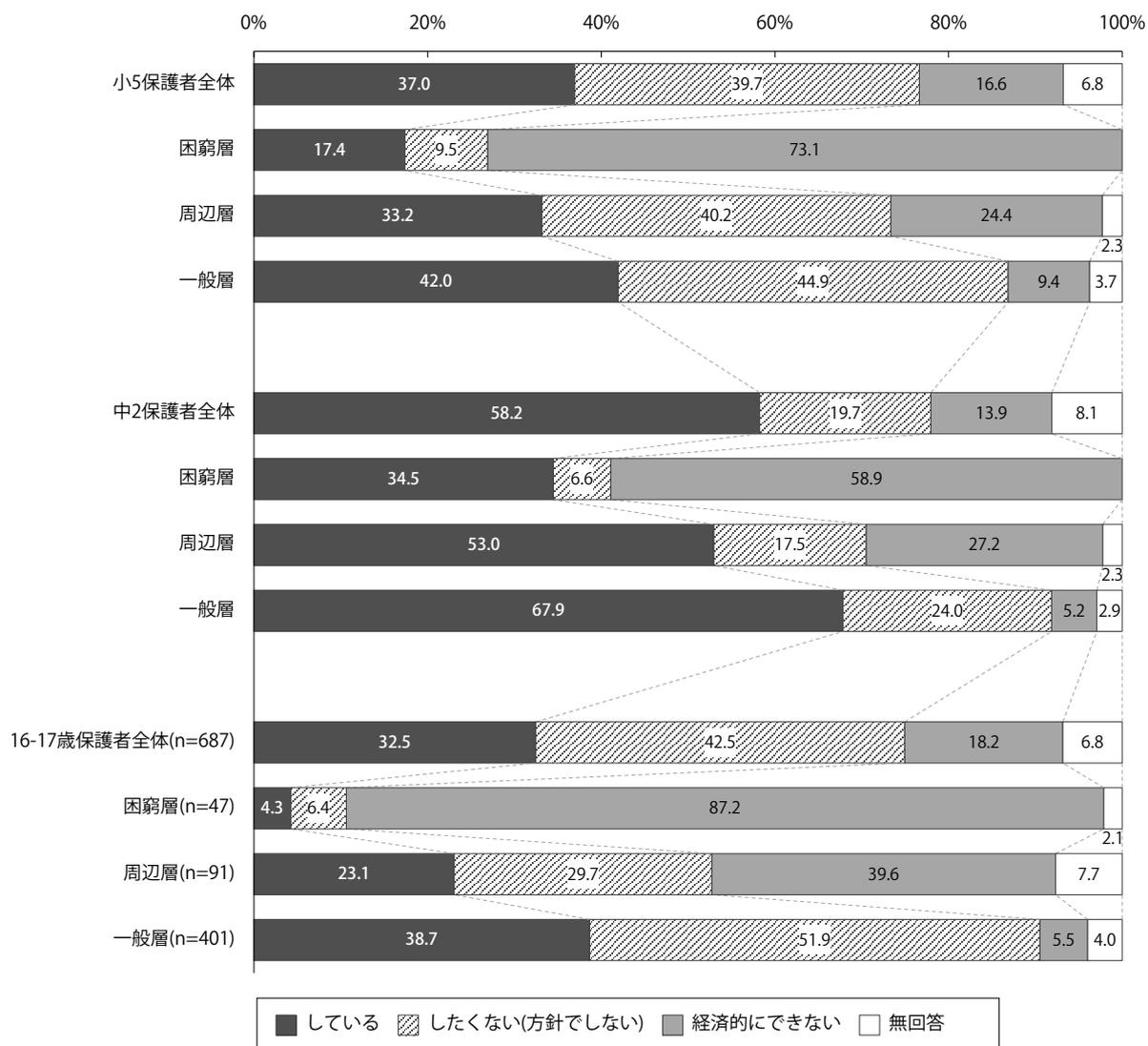


D 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）

【保護者票】

「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」について、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で73.1%、周辺層で24.4%、一般層で9.4%、中学2年生の困窮層で58.9%、周辺層で27.2%、一般層で5.2%、16-17歳の困窮層で87.2%、周辺層で39.6%、一般層で5.5%となっている。

問33 子どもにしていること/D 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)



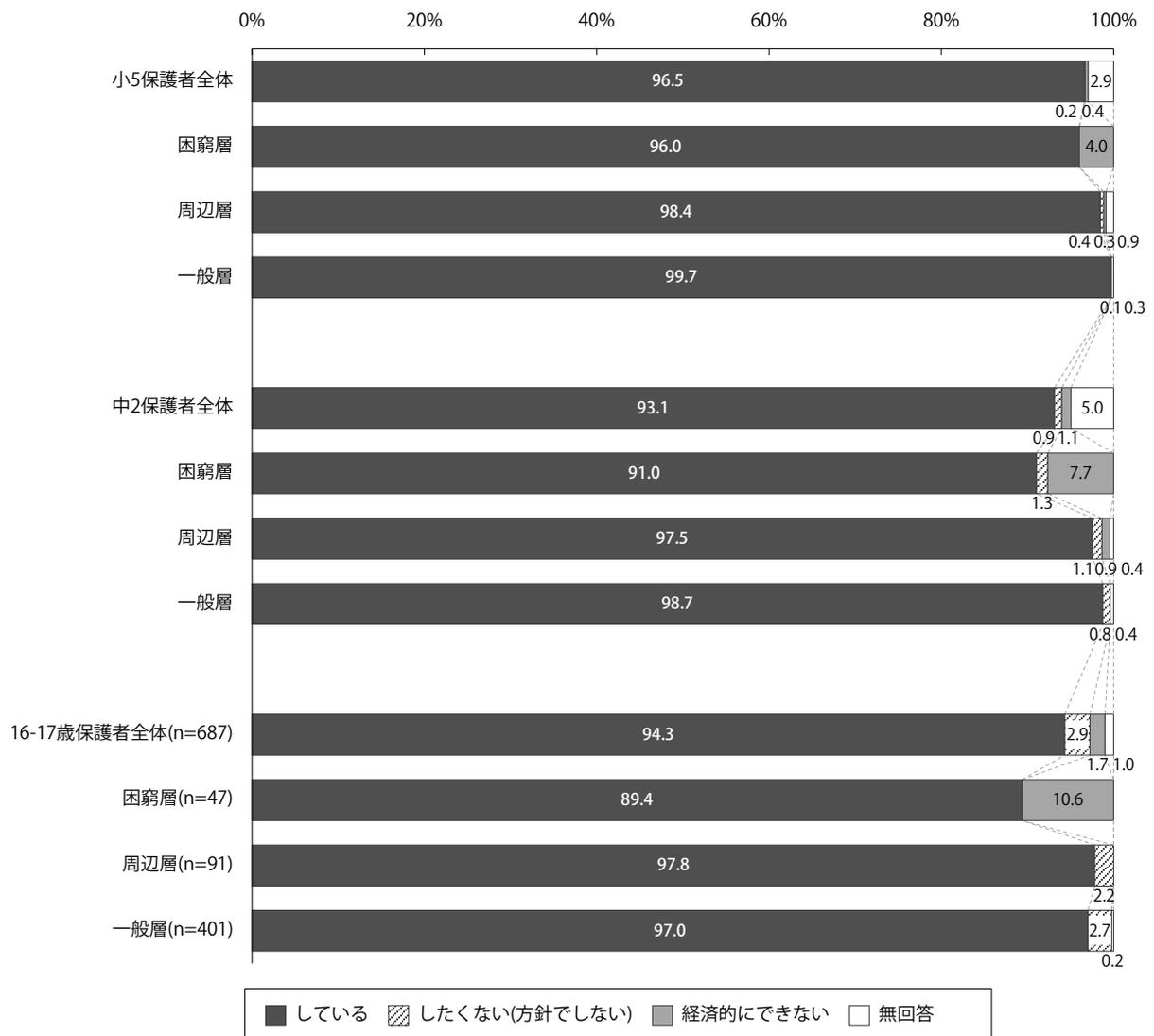
## E お誕生日のお祝いをする

【保護者票】

「お誕生日のお祝いをする」については、「している」と回答した割合が、小学5年生の困窮層で96.0%、周辺層で98.4%、一般層で99.7%、中学2年生の困窮層で91.0%、周辺層で97.5%、一般層で98.7%、16-17歳の困窮層で89.4%、周辺層で97.8%、一般層で97.0%となっている。

16-17歳の困窮層を除き「している」は90%以上となっているが、「経済的にできない」をみると、どの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

問33 子どもにしていること/E お誕生日のお祝いをする



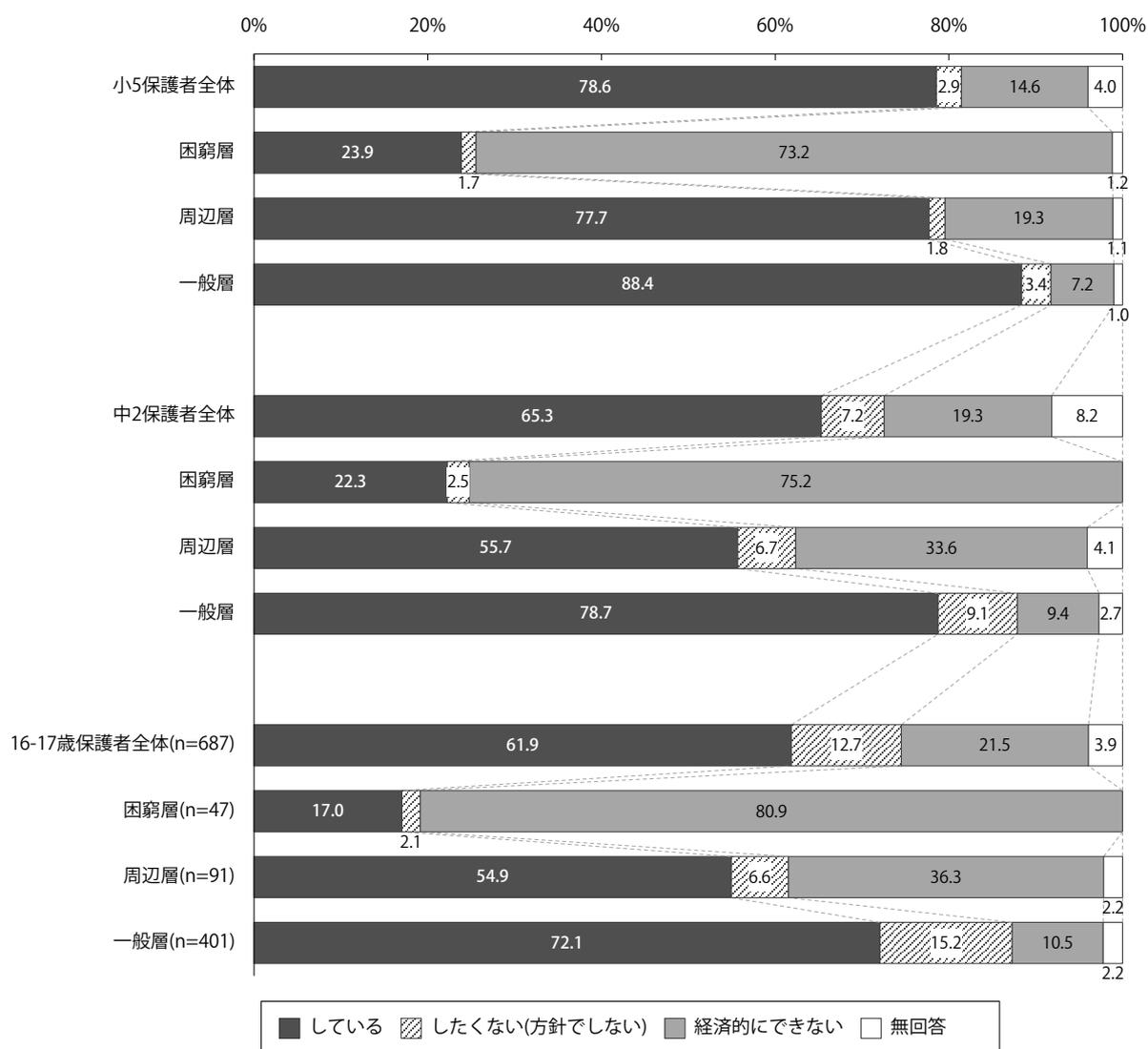
F 1年に1回くらい家族旅行に行く

【保護者票】

「1年に1回くらい家族旅行に行く」について、「経済的にできない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で73.2%、周辺層で19.3%、一般層で7.2%、中学2年生の困窮層で75.2%、周辺層で33.6%、一般層で9.4%、16-17歳の困窮層で80.9%、周辺層で36.3%、一般層で10.5%となっている。

いずれの年齢層でも生活困難度との相関がみられ、特に困窮層で「経済的にできない」の割合が大きく上がっている。

問33 子どもにしていること/F 1年に1回くらい家族旅行に行く



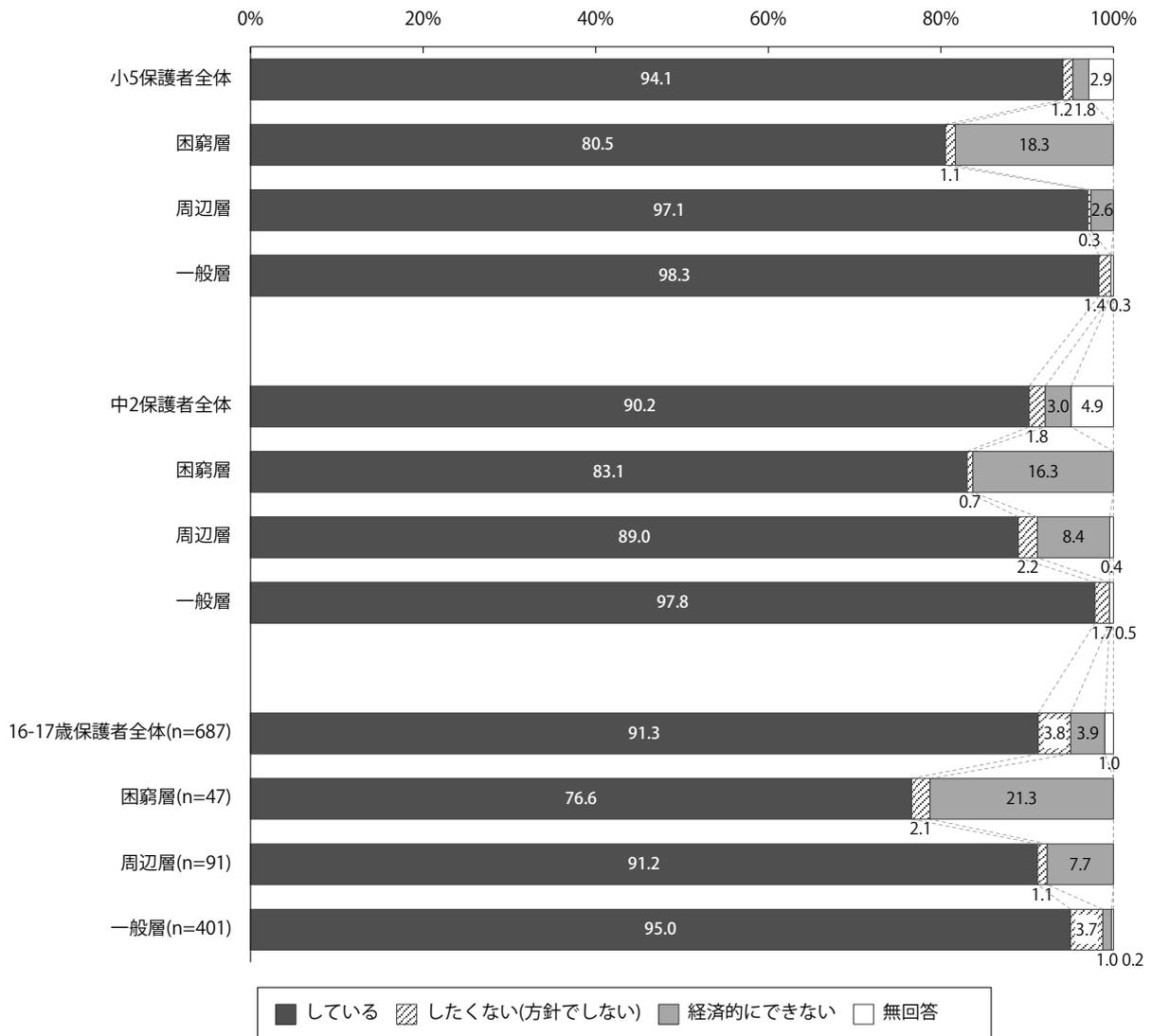
## G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

【保護者票】

「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」について、「経済的にできない」と回答した割合は、いずれの年齢層でも困窮層で大きく上がっており、小学5年生の困窮層で18.3%、中学2年生の困窮層で16.3%、16-17歳の困窮層で21.3%となっている。

「している」についてみると、16-17歳の困窮層が76.6%で最も低いが、他は80%以上となっており、前問の家族旅行と比べると生活困難度による差は小さくなっている。

問33 子どもにしていること／G クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

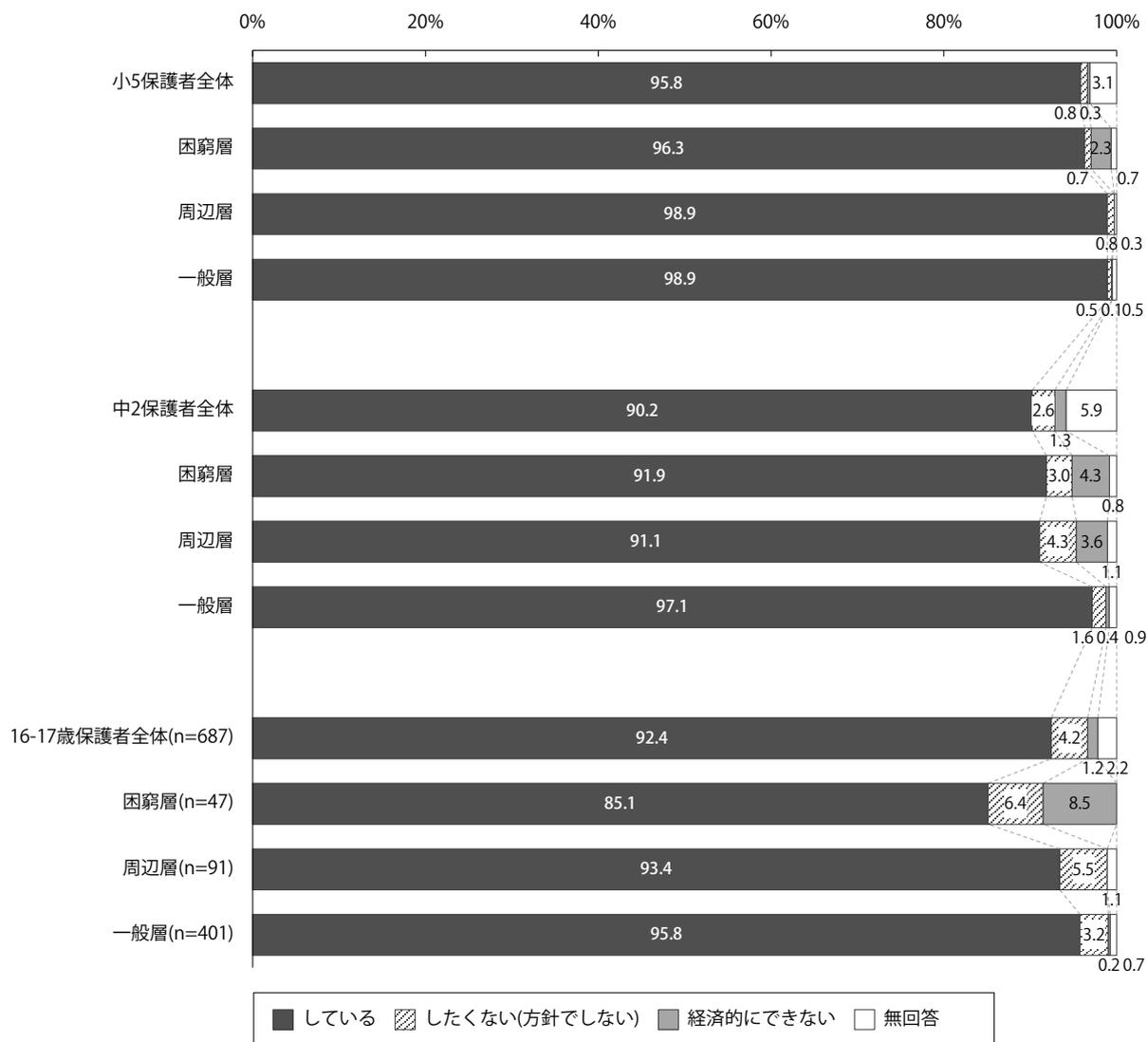


## H 子どもの学校行事などへ親が参加する

【保護者票】

「子どもの学校行事などへ親が参加する」については、「している」と回答した割合が、16-17歳の困窮層で85.1%となっているほかはすべての年齢層で困窮層、周辺層、一般層ともに90%を超えている。

問33 子どもにしていること/H 子どもの学校行事などへ親が参加する



## （４）子どもとの体験

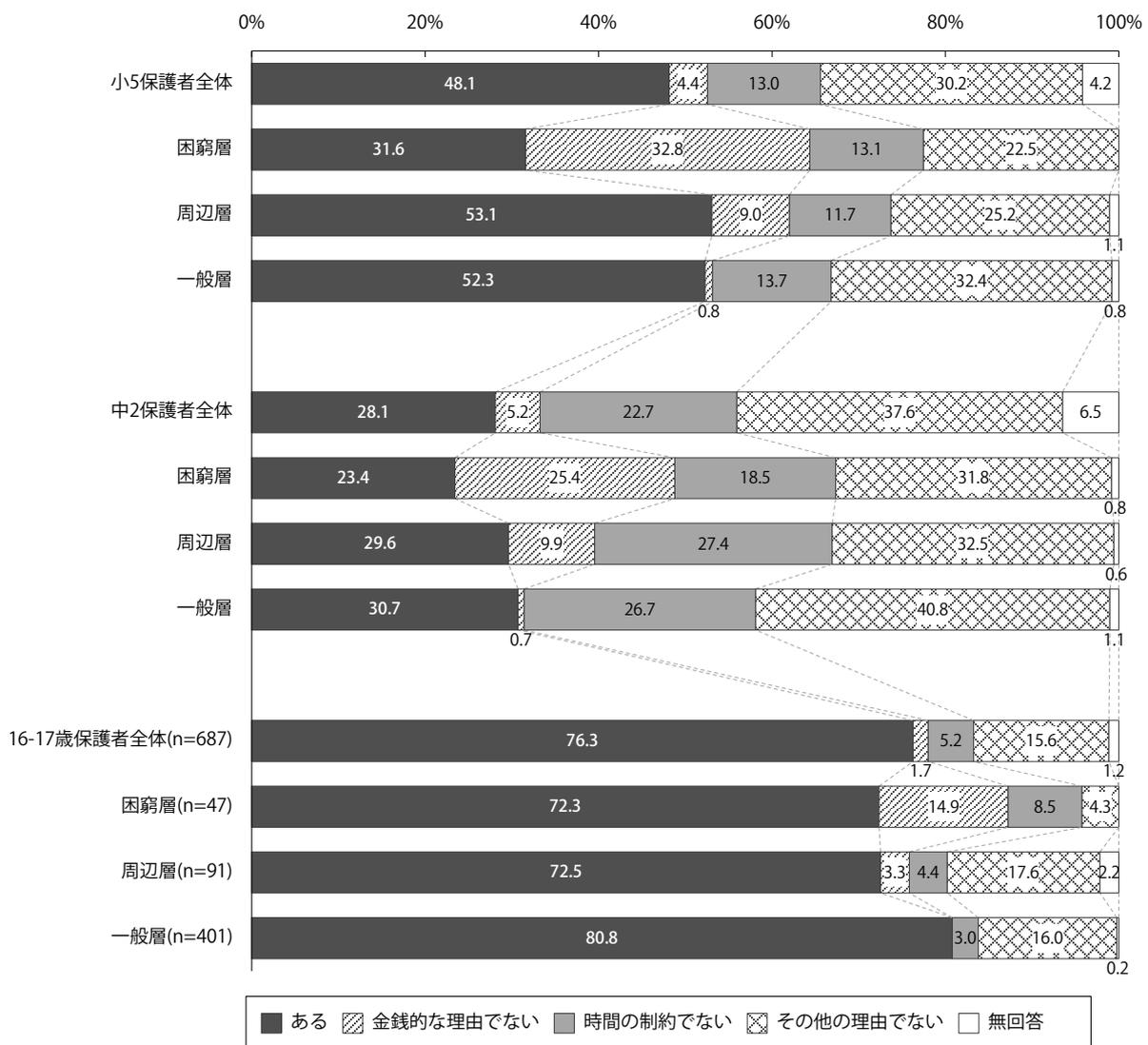
### A 海水浴に行く

【保護者票】

子どもとの体験、「海水浴に行く」について、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で32.8%、周辺層で9.0%、一般層で0.8%、中学2年生の困窮層で25.4%、周辺層で9.9%、一般層で0.7%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で3.3%、一般層で0.0%となっている。

海水浴では、各層とも時間の制約やその他の理由でないという回答がみられ、金銭的な理由以外による体験の有無の状況があることもうかがえる。

問25 子どもとの体験／A 海水浴に行く



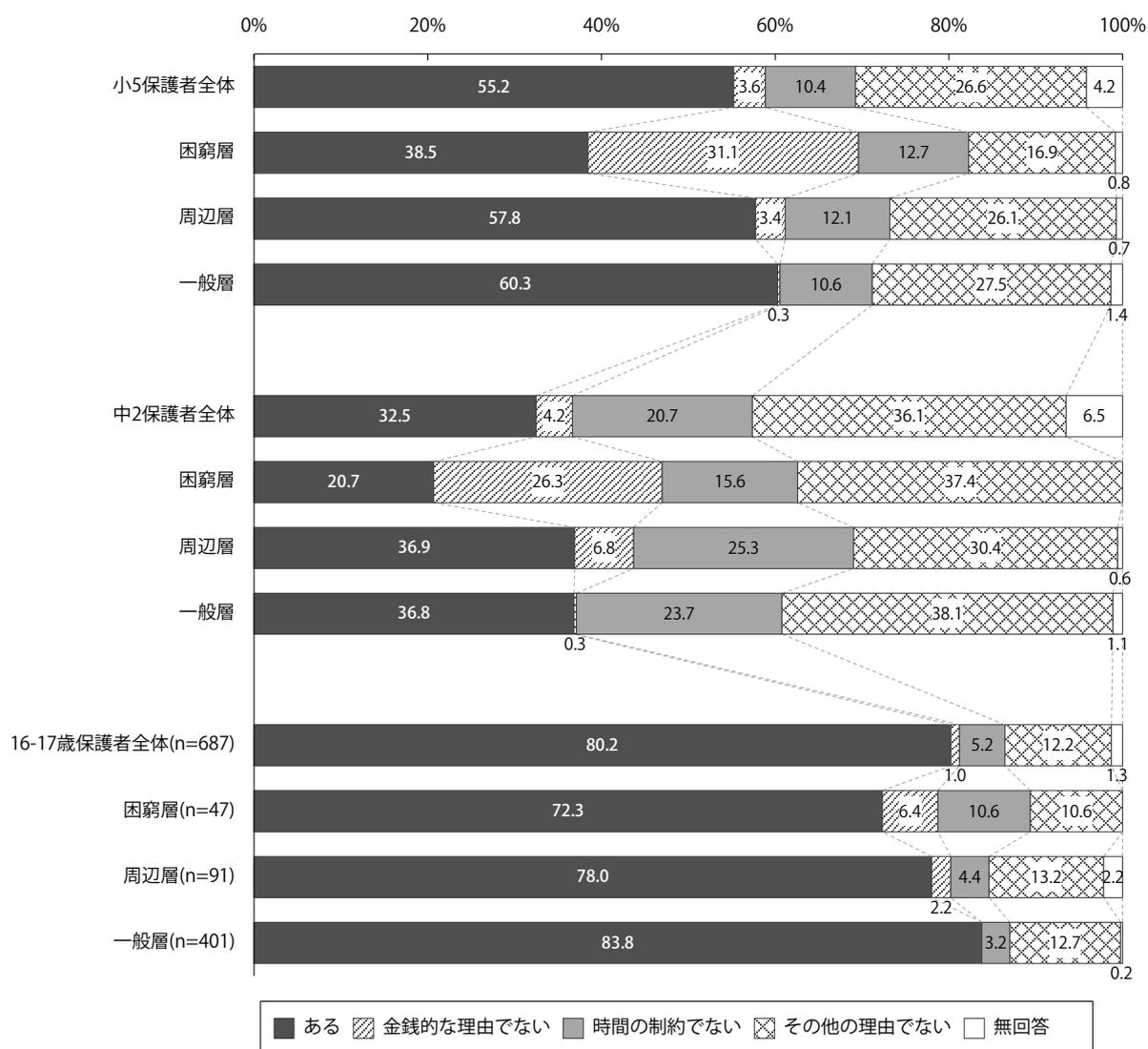
**B 博物館・科学館・美術館などに行く**

【保護者票】

子どもとの体験、「博物館・科学館・美術館などに行く」について、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で31.1%、周辺層で3.4%、一般層で0.3%、中学2年生の困窮層で26.3%、周辺層で6.8%、一般層で0.3%、16-17歳の困窮層で6.4%、周辺層で2.2%、一般層で0.0%となっている。

困窮層が、金銭的な理由により体験していないとする割合は、周辺層、一般層との比較で小学5年生では約28ポイント、中学2年生では約20ポイント高くなっている。

問25 子どもとの体験／B 博物館・科学館・美術館などに行く

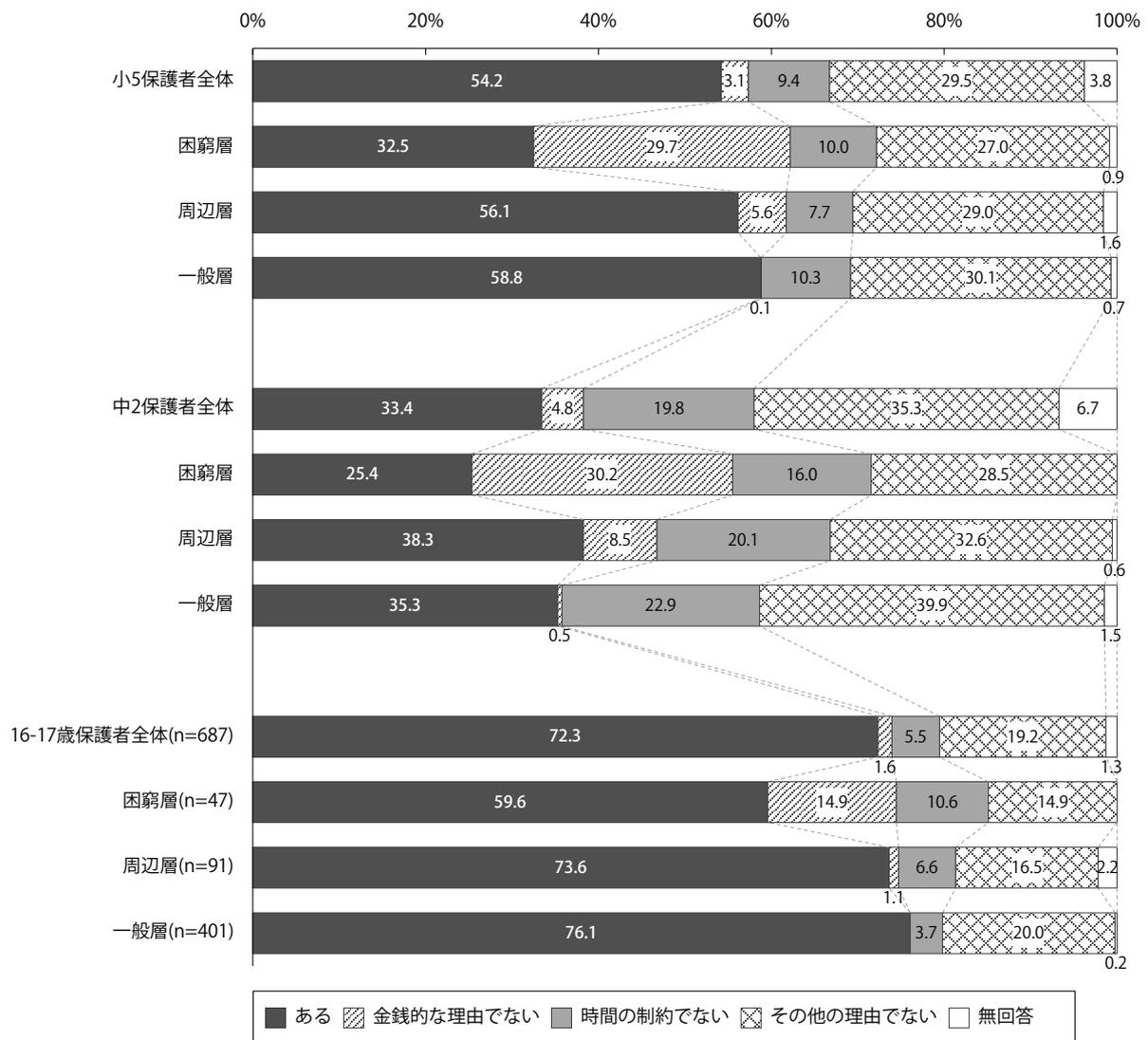


## C キャンプやバーベキューに行く

【保護者票】

子どもとの体験、「キャンプやバーベキューに行く」について、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.7%、周辺層で5.6%、一般層で0.1%、中学2年生の困窮層で30.2%、周辺層で8.5%、一般層で0.5%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で1.1%、一般層で0.0%となっている。

問25 子どもとの体験／C キャンプやバーベキューに行く

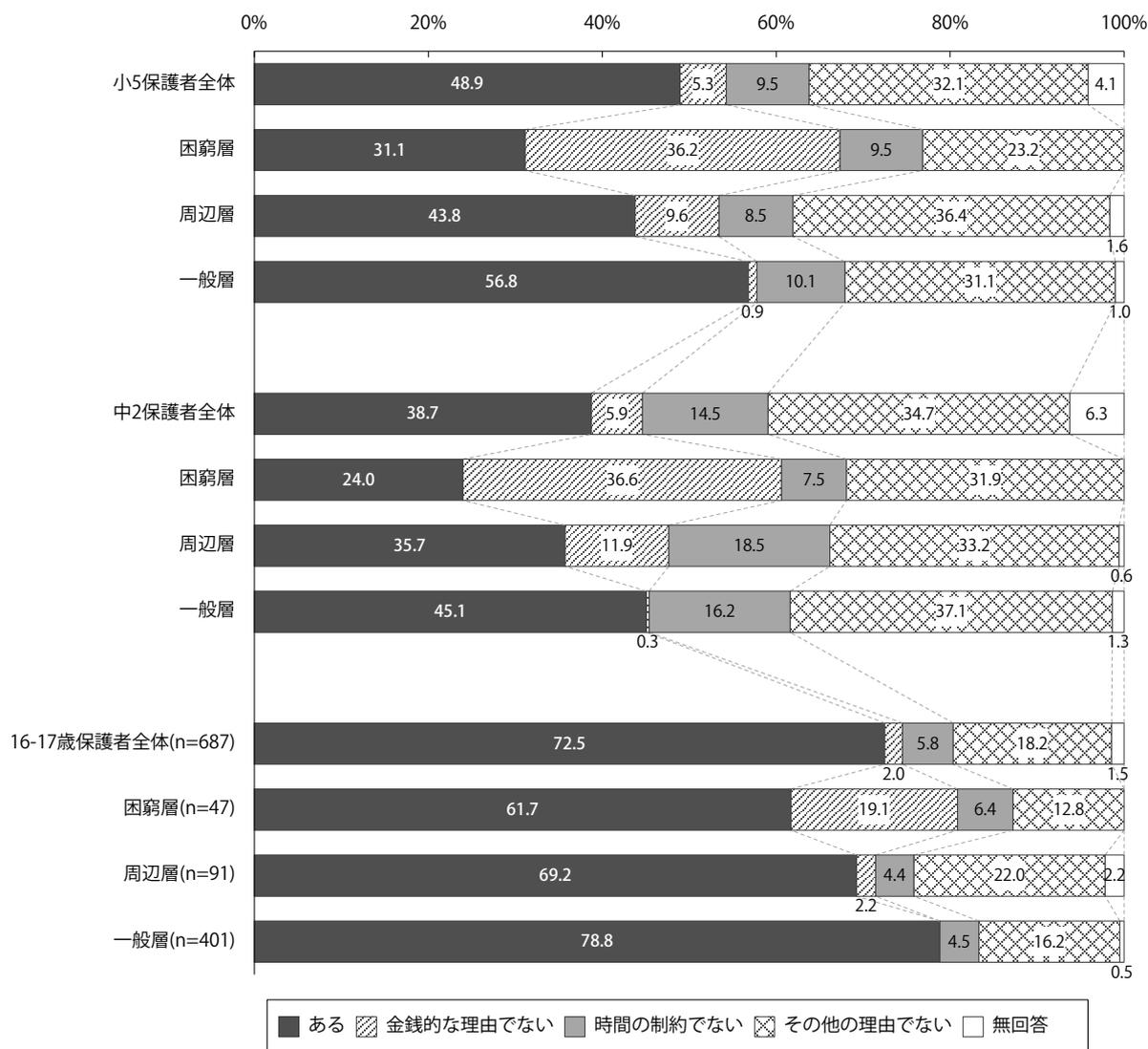


D スポーツ観戦や劇場に行く

【保護者票】

子どもとの体験、「スポーツ観戦や劇場に行く」について、「ある」と回答した割合は、いずれの年齢層でも生活困難度が高いほど少なくなっており、「金銭的な理由でない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.2%、周辺層で9.6%、一般層で0.9%、中学2年生の困窮層で36.6%、周辺層で11.9%、一般層で0.3%、16-17歳の困窮層で19.1%、周辺層で2.2%、一般層で0.0%と、生活困難度が高いほど多くなっている。

問25 子どもとの体験/D スポーツ観戦や劇場に行く

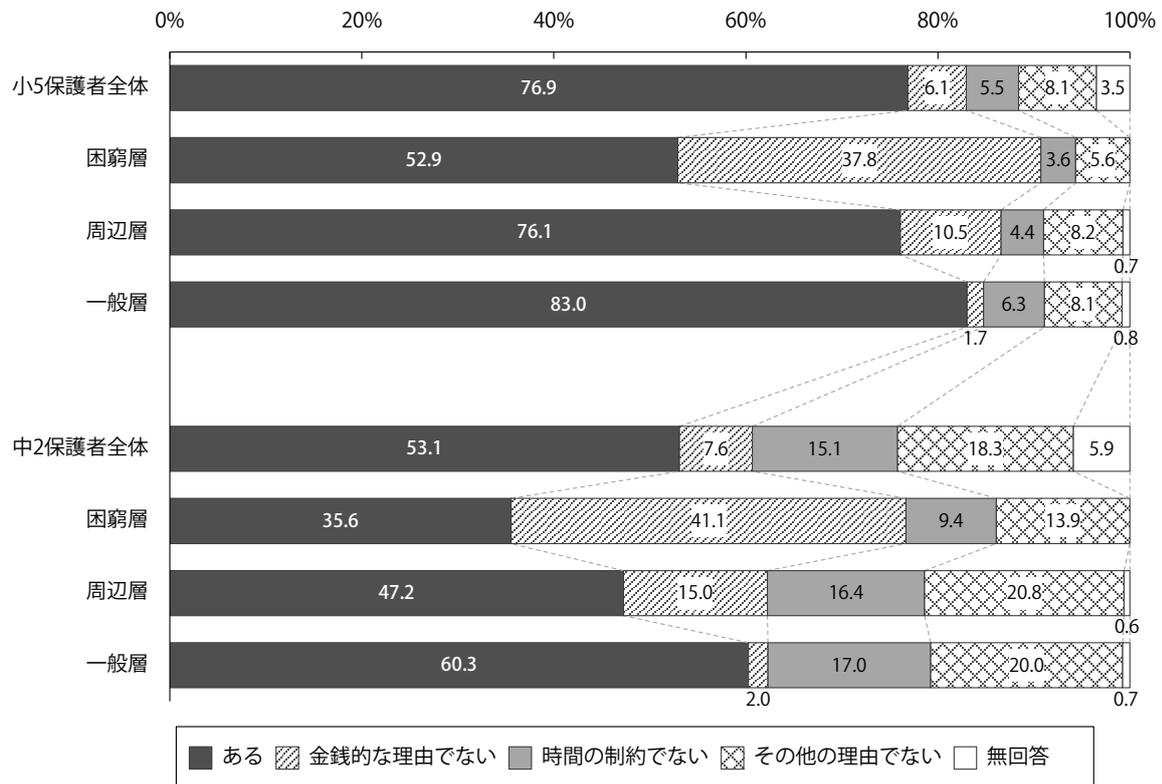


## E 遊園地やテーマパークに行く

【保護者票】

子どもとの体験、「遊園地やテーマパークに行く」については、16-17歳には質問していない。「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で52.9%、周辺層で76.1%、一般層で83.0%、中学2年生の困窮層で35.6%、周辺層で47.2%、一般層で60.3%となっている。生活困難度との相関がみられる。

問25 子どもとの体験／E 遊園地やテーマパークに行く



### 3 子どもの食と栄養

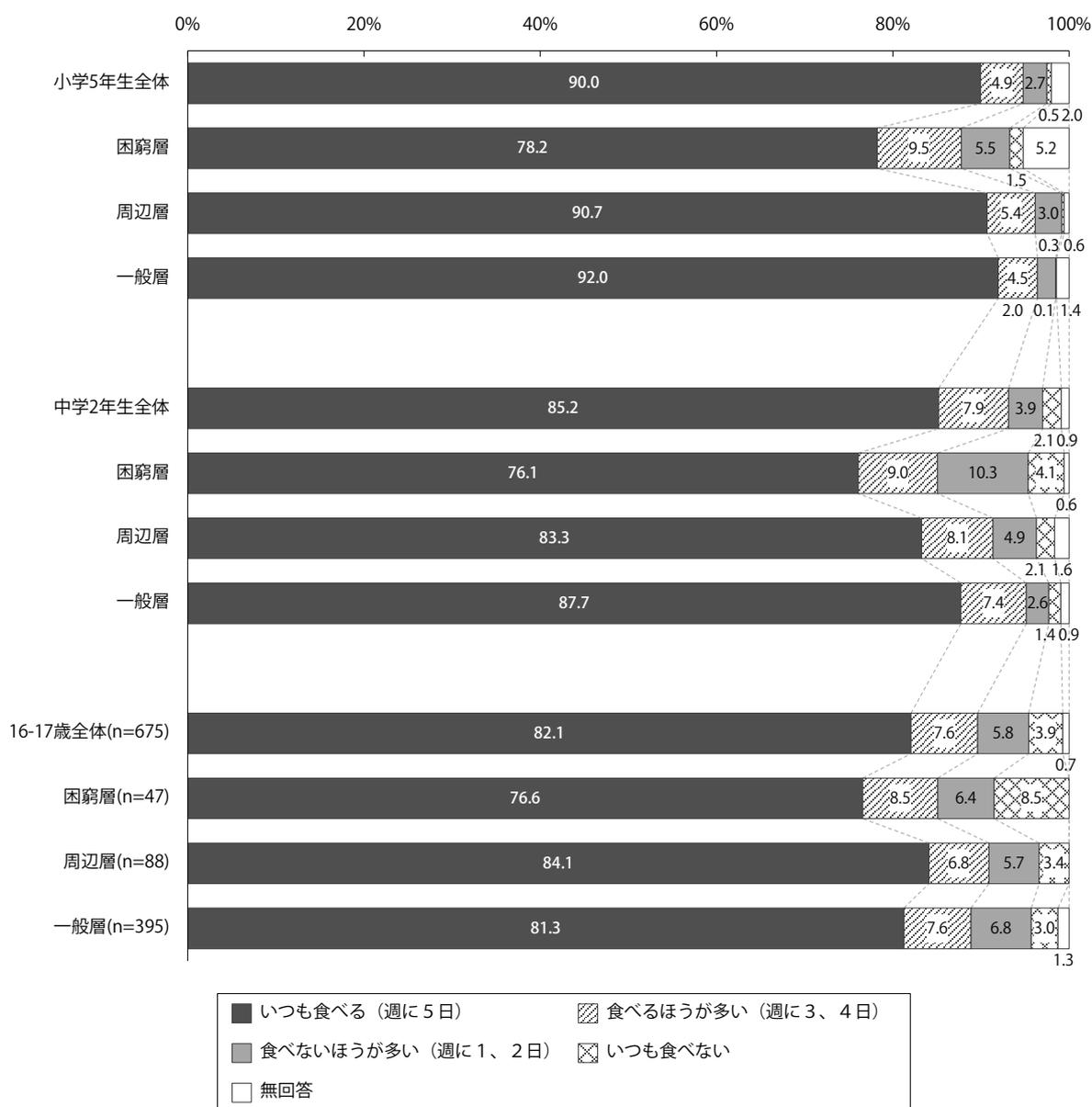
#### (1) 朝食の摂取状況

##### ① 子ども

【子ども票】

子どもの平日の摂取状況について、「食べないほうが多い（週に1、2日）」「いつも食べない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で7.0%、周辺層で3.3%、一般層で2.1%、中学2年生の困窮層で14.4%、周辺層で7.0%、一般層で4.0%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で9.1%、一般層で9.8%となっている。年齢があがるほど食べないことが多くなる傾向にあり、いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

問17／問19 平日に朝食をとる頻度



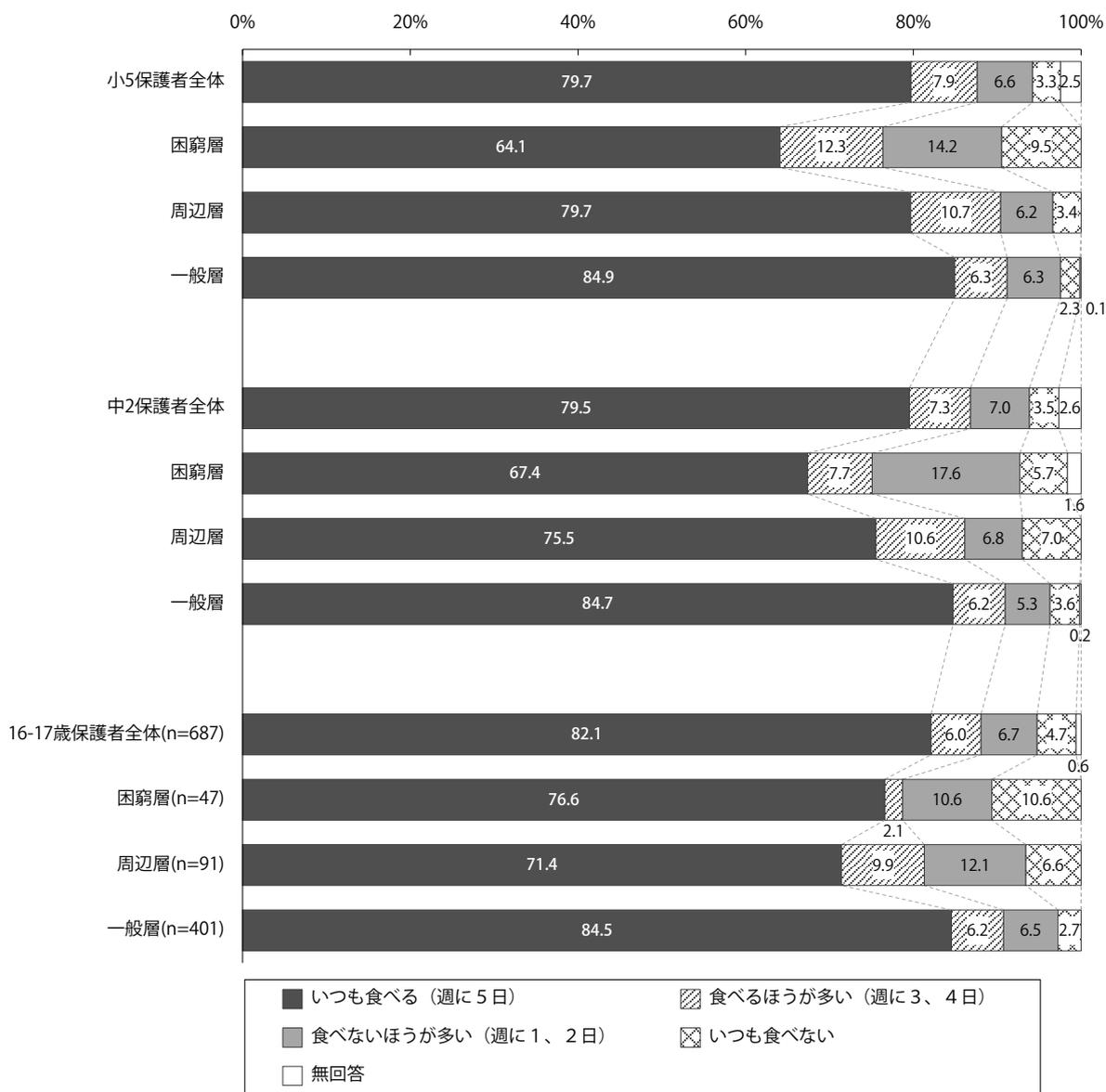
② 保護者

【保護者票】

保護者の平日の摂取状況について、「食べないほうが多い（週に1、2日）」「いつも食べない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で23.7%、周辺層で9.6%、一般層で8.6%、中学2年生の困窮層で23.3%、周辺層で13.8%、一般層で8.9%、16-17歳の困窮層で21.2%、周辺層で18.7%、一般層で9.2%となっている。

いずれの年齢層でも困窮層で食べない割合が高くなっている。

問23 平日に朝食をとる頻度

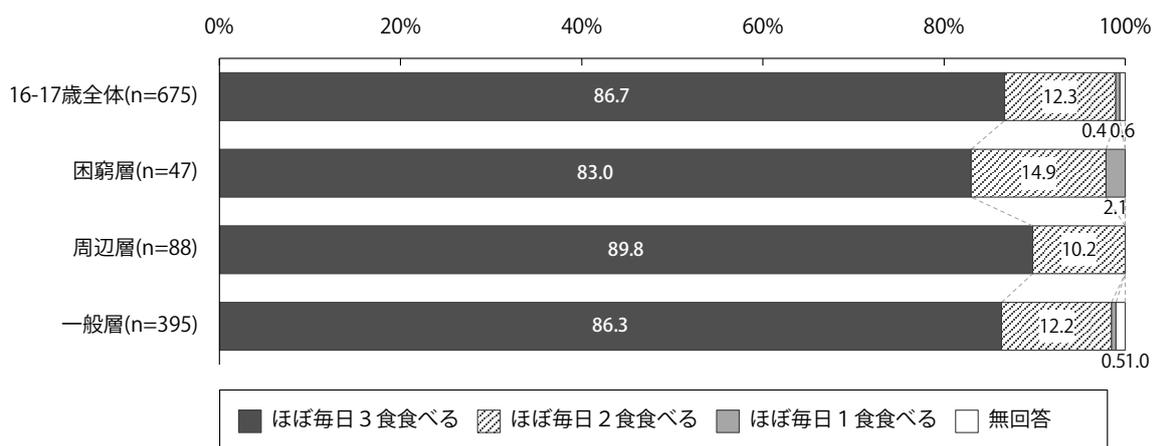


## (2) 16-17歳の平日の食事の回数

【子ども票】

16-17歳の平日の食事の回数について、「ほぼ毎日2食食べる」「ほぼ毎日1食食べる」を合わせた『3食は食べていない』割合は、困窮層で17.0%、周辺層で10.2%、一般層で12.7%となっている。

問18 平日の1日の食事の頻度

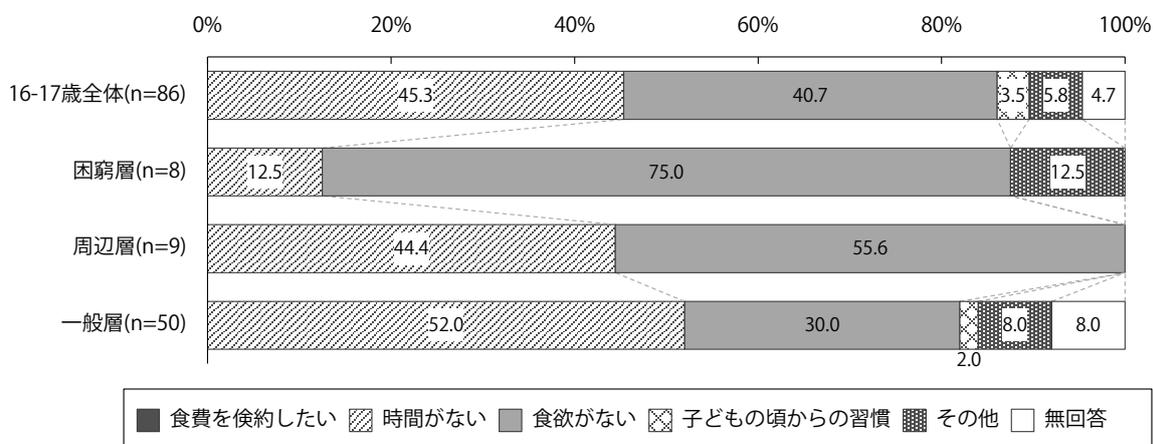


【子ども票】

16-17歳が平日に3食食べないときの主な理由で、「時間がない」と回答した割合は、困窮層で12.5%、周辺層で44.4%、一般層で52.0%となっている。

どの層においても「食費を節約したい」はみられなかった。

問18-1 平日に3食食べないときの主な理由



## (3) 小・中学生栄養群の摂取状況

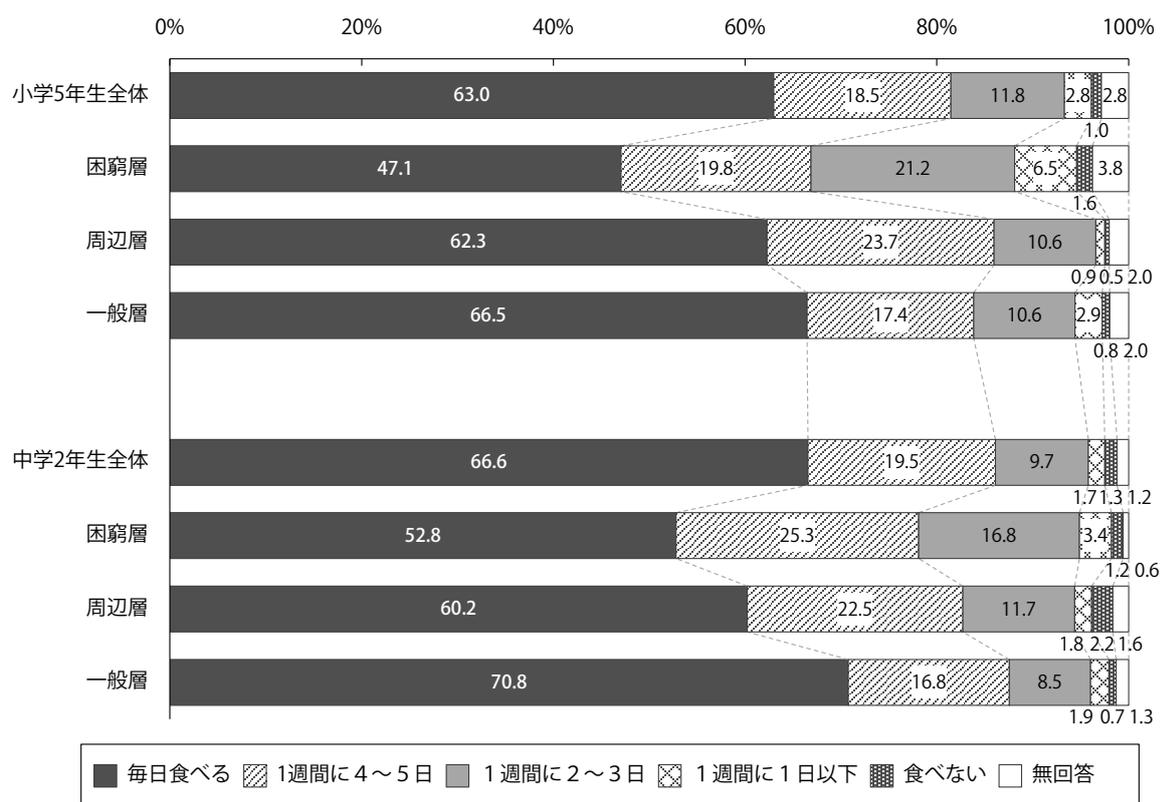
## A 野菜

【子ども票】

野菜の摂取状況について、「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で47.1%、周辺層で62.3%、一般層で66.5%、中学2年生の困窮層で52.8%、周辺層で60.2%、一般層で70.8%となっている。

生活困難度が高くなるほど、毎日は野菜を摂取していないことがわかる。

問20 摂食頻度/A 野菜



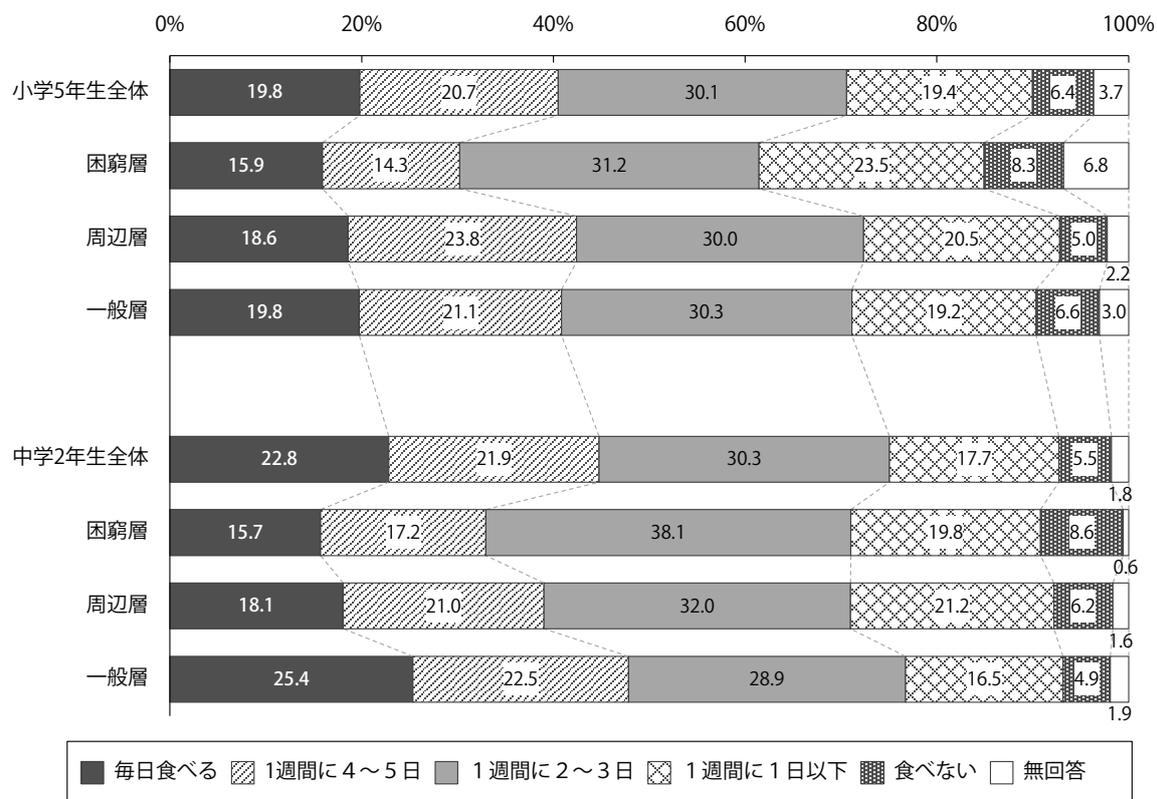
B くだもの

【子ども票】

くだもの摂取状況について、「食べない」と回答した割合では、小学5年生の全体で6.4%、中学2年生の全体で5.5%となっており、小学5年生の方が「食べない」割合が高くなっている。

生活困難度別にみると、「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.9%、周辺層で18.6%、一般層で19.8%、中学2年生の困窮層で15.7%、周辺層で18.1%、一般層で25.4%となっており、生活困難度との相関がみられる。

問20 摂食頻度/B くだもの



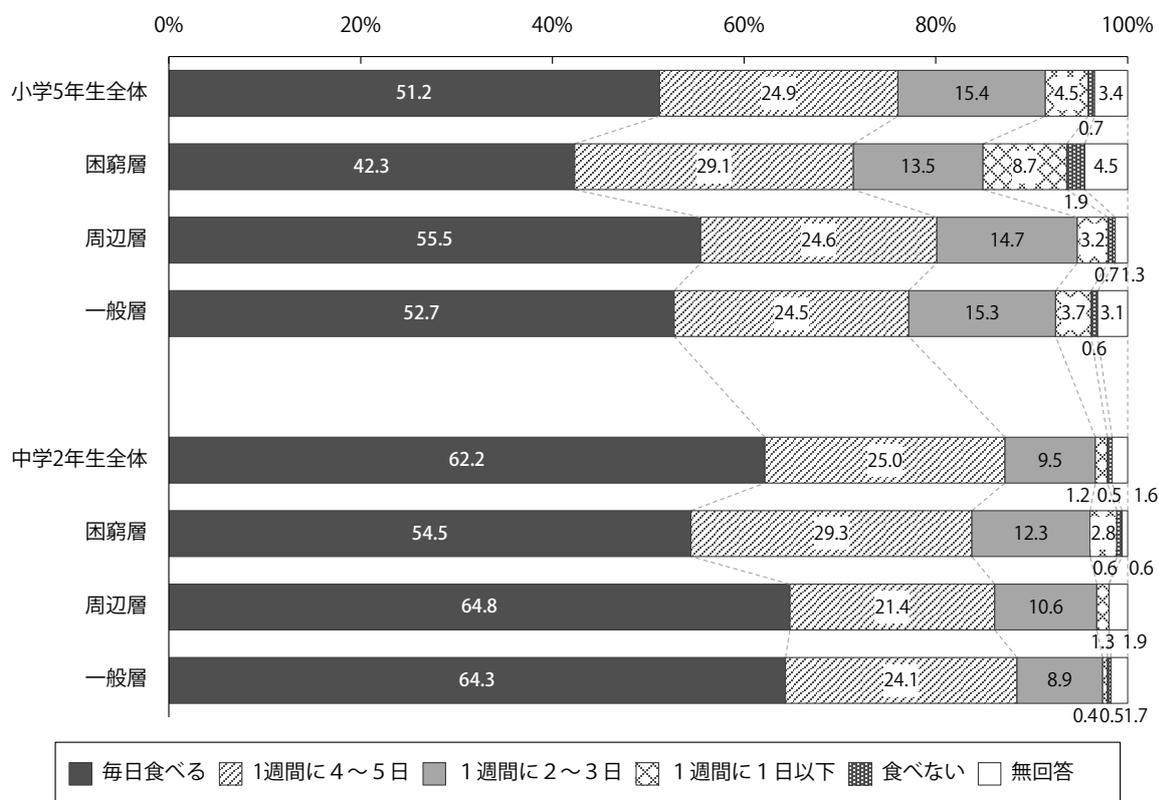
## C 肉か魚

【子ども票】

肉か魚の摂取状況について、「毎日食べる」と「1週間に4～5日」を合わせた割合は、小学5年生の全体で76.1%、中学2年生の全体で87.2%となっており、小学生の7割以上、中学生の8割以上は給食以外でもほとんどの日において摂取している。

生活困難度別に「毎日食べる」と回答した割合をみると、小学5年生の困窮層で42.3%、周辺層で55.5%、一般層で52.7%、中学2年生の困窮層で54.5%、周辺層で64.8%、一般層で64.3%となっている。

問20 摂食頻度／C 肉か魚



### D カップめん・インスタントめん

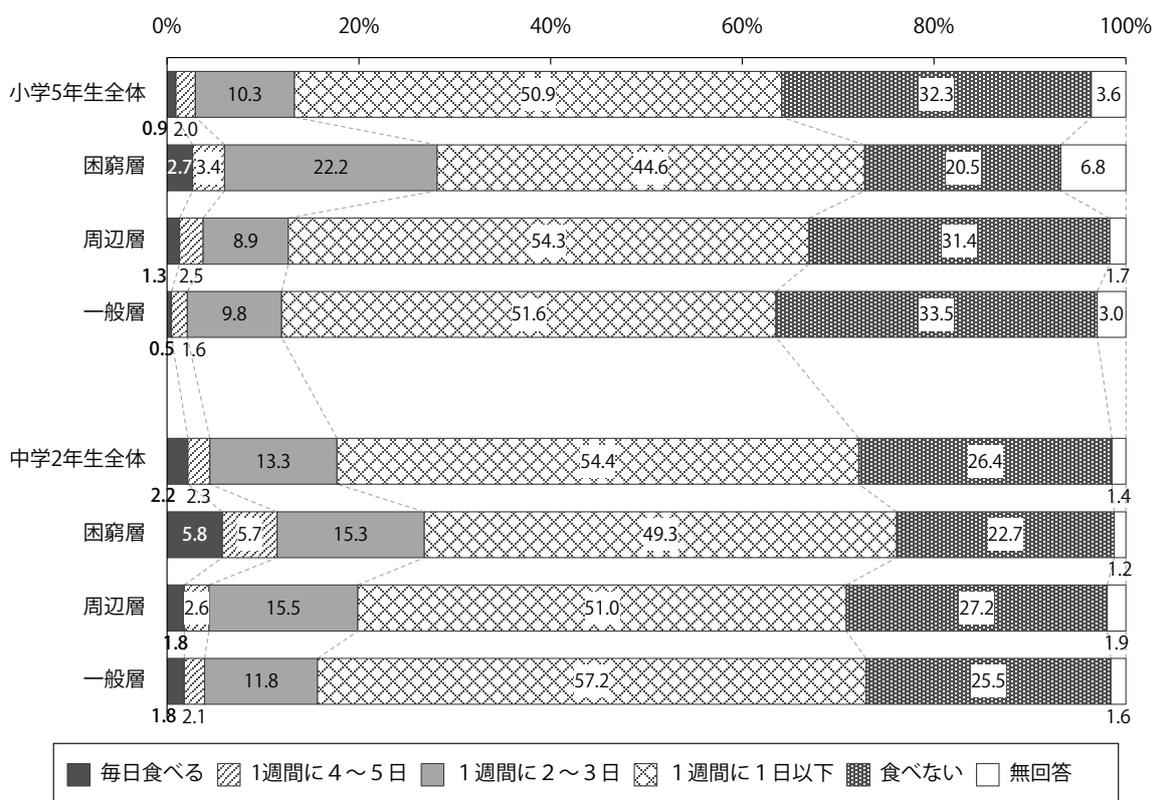
【子ども票】

カップめん・インスタントめんの摂取状況については、どの年齢層、生活困難度でも、最も多い割合を占めるのは「1週間に1日以下」となっている。

「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で2.7%、周辺層で1.3%、一般層で0.5%、中学2年生の困窮層で5.8%、周辺層で2.6%、一般層で1.8%となっている。

生活困難度が高いほど「毎日食べる」割合が高くなっている。

問20 摂食頻度/D カップめん・インスタントめん



## E コンビニのおにぎり・お弁当

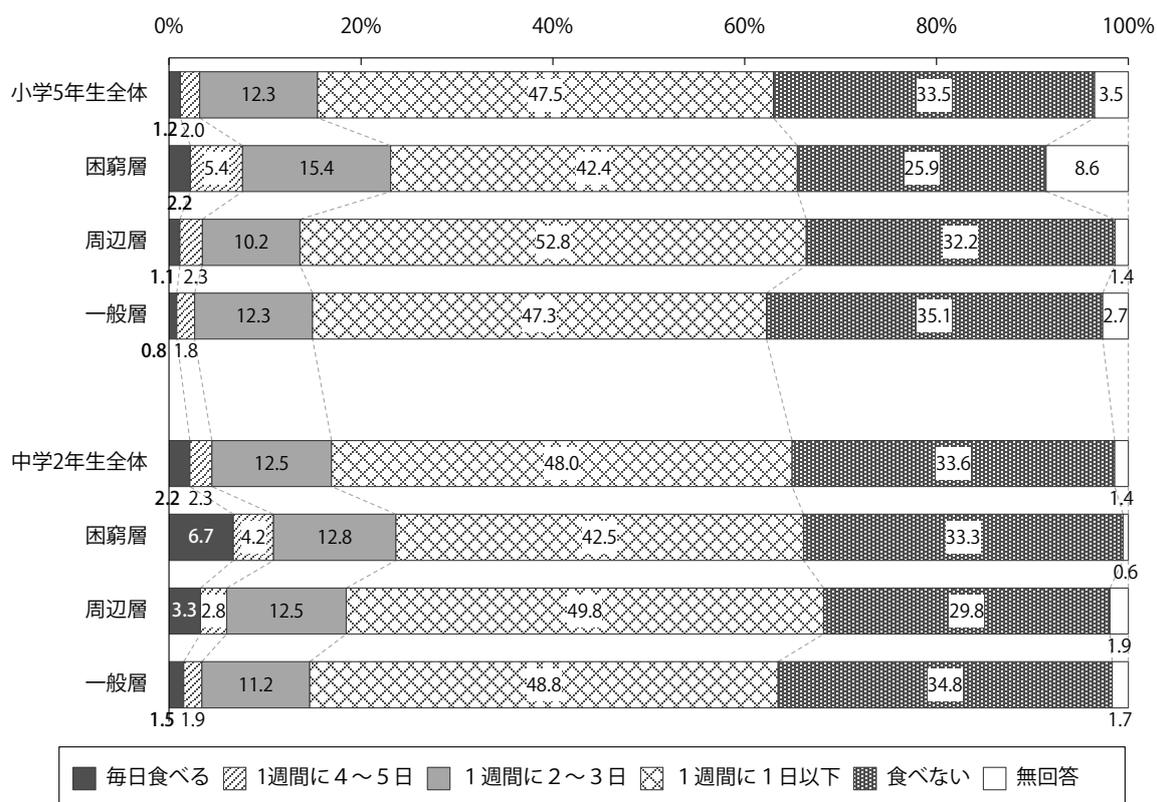
【子ども票】

コンビニのおにぎり・お弁当の摂取状況については、どの年齢層、生活困難度でも、最も多い割合を占めるのは「1週間に1日以下」となっている。

「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で2.2%、周辺層で1.1%、一般層で0.8%、中学2年生の困窮層で6.7%、周辺層で3.3%、一般層で1.5%となっている。

生活困難度が高いほど「毎日食べる」割合が高くなっている。

問20 摂食頻度/E コンビニのおにぎり・お弁当



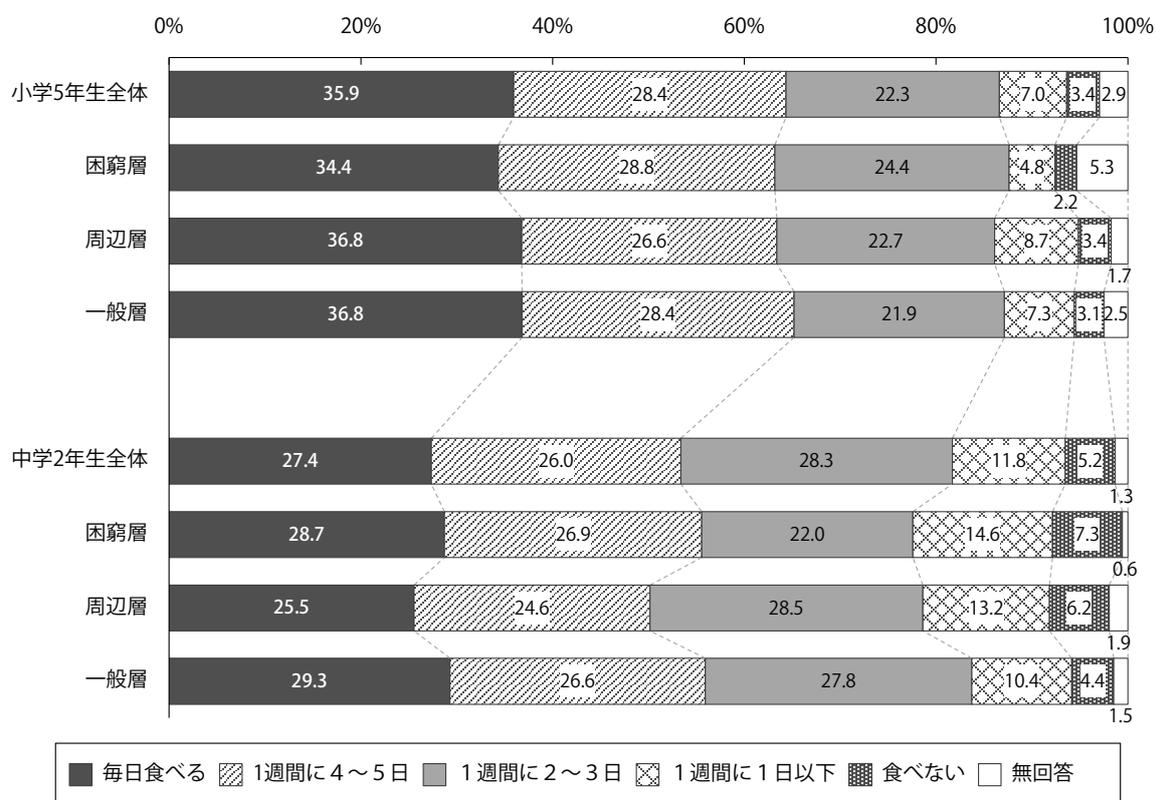
F お菓子

【子ども票】

お菓子の摂取状況について、「毎日食べる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.4%、周辺層で36.8%、一般層で36.8%、中学2年生の困窮層で28.7%、周辺層で25.5%、一般層で29.3%となっている。

中学2年生において、「食べない」の割合をみると、困窮層で7.3%、周辺層で6.2%、一般層で4.4%となっており、生活困難度が高いほど「食べない」割合が高くなっている。

問20 摂食頻度/F お菓子

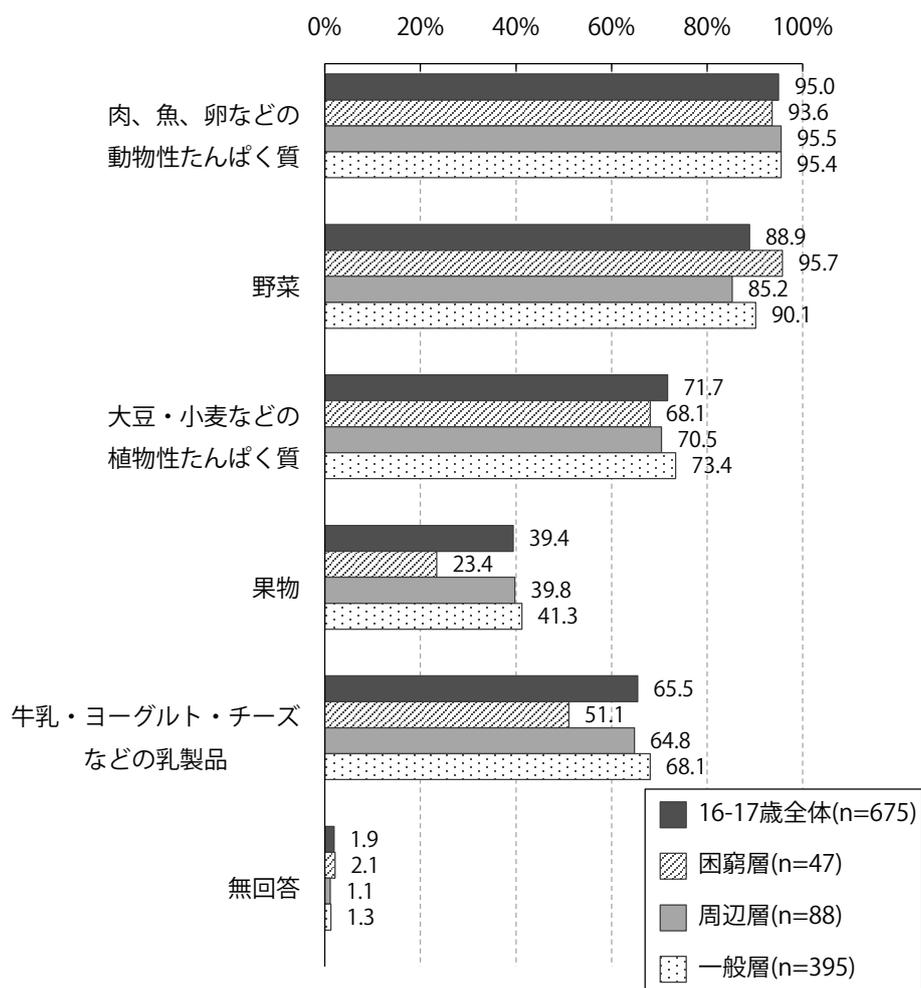


#### (4) 16-17 歳の食品群別の摂取頻度

【子ども票】

16-17 歳の食品群別の摂取頻度について、小学 5 年生、中学 2 年生において生活困難度との相関がみられた「果物」の状況をみると、困窮層で 23.4%、周辺層で 39.8%、一般層で 41.3%となっており、16-17 歳でも生活困難度との相関がみられる。生活困難度との相関という面では、「大豆・小麦などの植物性たんぱく質」「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」においても同様の傾向がみられる。

問21 1日に1回は食べている食品



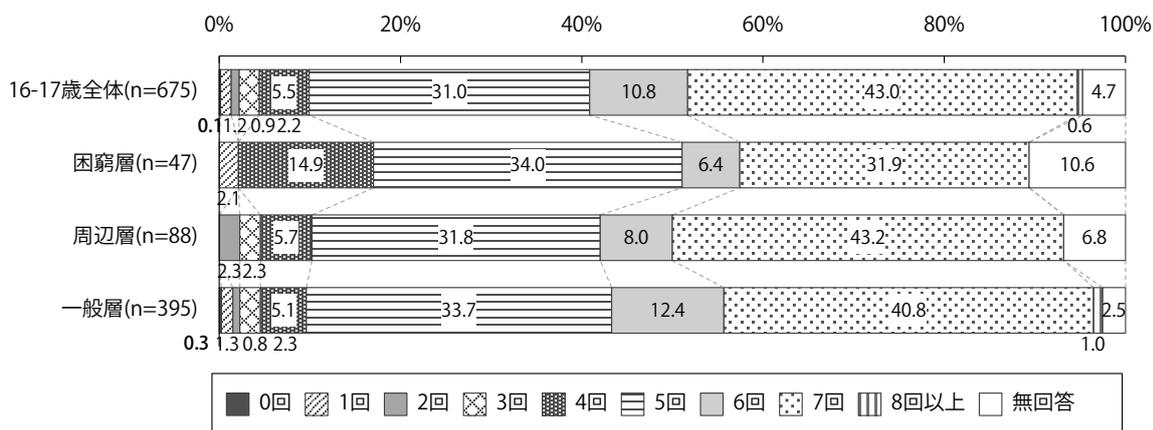
### (5) 16-17 歳夕食の内容

#### A 家族が作った食事

【子ども票】

夕食の内容「家族が作った食事」では、「5回」「7回」が多くを占めている。一般層で「0回」が0.3%みられる。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／A 家族が作った食事

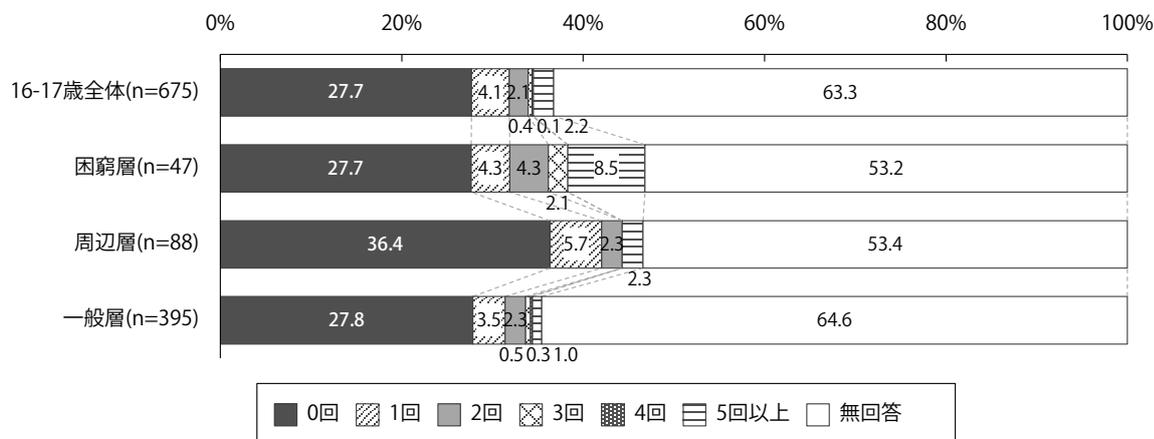


#### B 家族と自分が一緒に作った食事

【子ども票】

夕食の内容「家族と自分が一緒に作った食事」では、「家族が作った食事」に比べて「0回」の割合が高くなっている。「5回以上」は困窮層で8.5%、周辺層で2.3%、一般層で1.0%となっている。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／B 家族と自分が一緒に作った食事

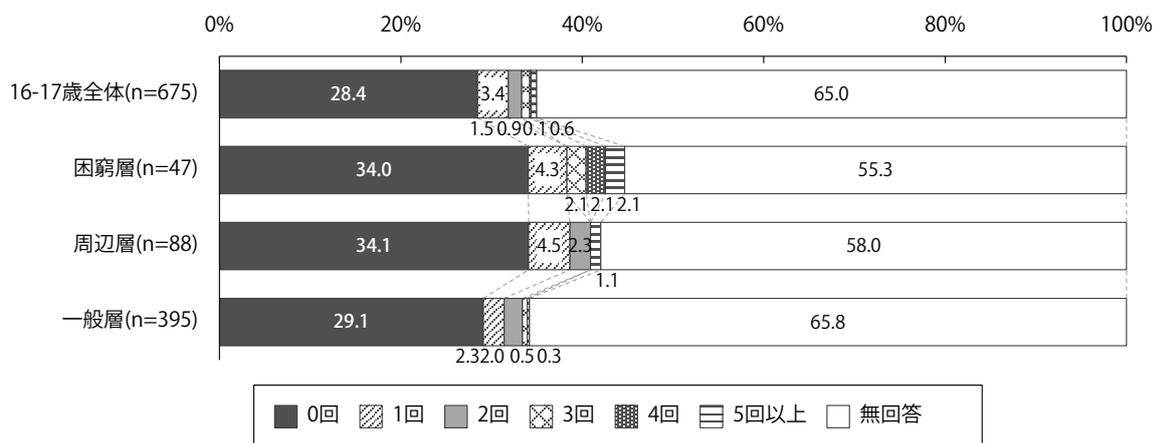


## C 自分で作った食事

【子ども票】

夕食の内容「自分で作った食事」で「5回以上」と回答した割合は、困窮層で2.1%、周辺層で1.1%、一般層で0.3%となっており、生活困難度が高いほど週に5回以上自分で夕食をつくる割合が高くなることがわかる。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／C 自分で作った食事

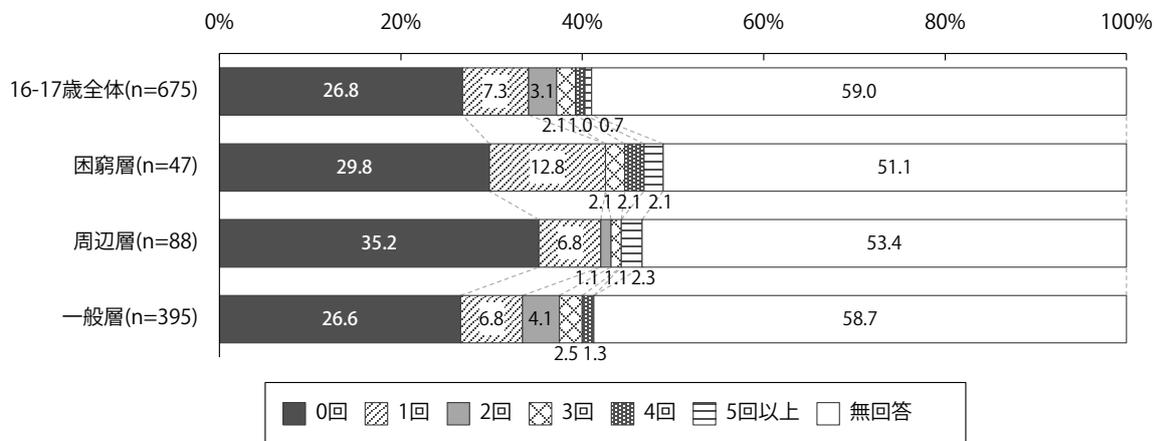


## D コンビニなどで購入したものののみ

【子ども票】

夕食の内容「コンビニなどで購入したものののみ」について、「5回以上」と回答した割合は、困窮層で2.1%、周辺層で2.3%となっており、一般層以外ではほぼ毎日の夕食をコンビニなどで購入したものののみですませている子どもが2%以上いることがわかる。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／D コンビニなどで購入したものののみ



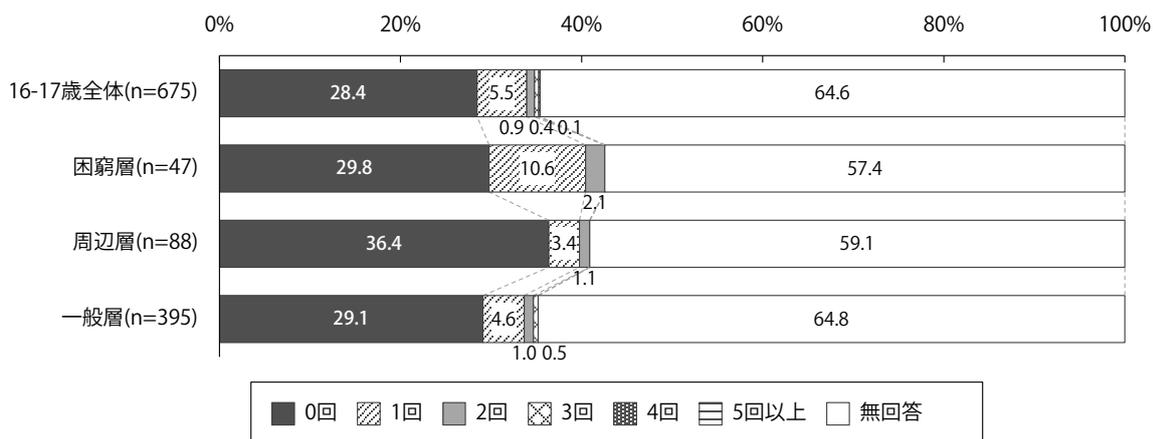
### E ファーストフード

【子ども票】

夕食の内容「ファーストフード」について、困窮層で「1回」との回答が10.6%みられる。全体的に「コンビニなどで購入したもののみ」と比べて頻度は少なくなっている。

「ファーストフード」について利用がみとめられるものの、そのまま店舗で食事をしているのか、自宅に持ち帰って自宅で食事しているのかの判断はできない。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／E ファーストフード

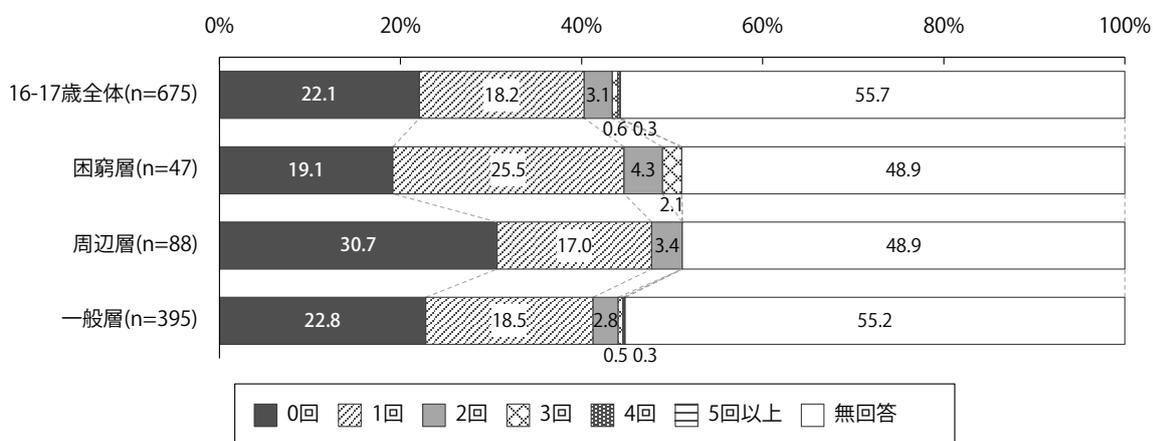


### F 飲食店での外食

【子ども票】

夕食の内容「飲食店での外食」について、「3回」との回答が困窮層で2.1%となっている。「1回」と「2回」を合わせた割合は、困窮層で29.8%、周辺層で20.4%、一般層で21.3%となっている。いずれの層でも週に2割以上(困窮層では約3割)が週1~2回の夕食を外食ですませている。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／F 飲食店での外食

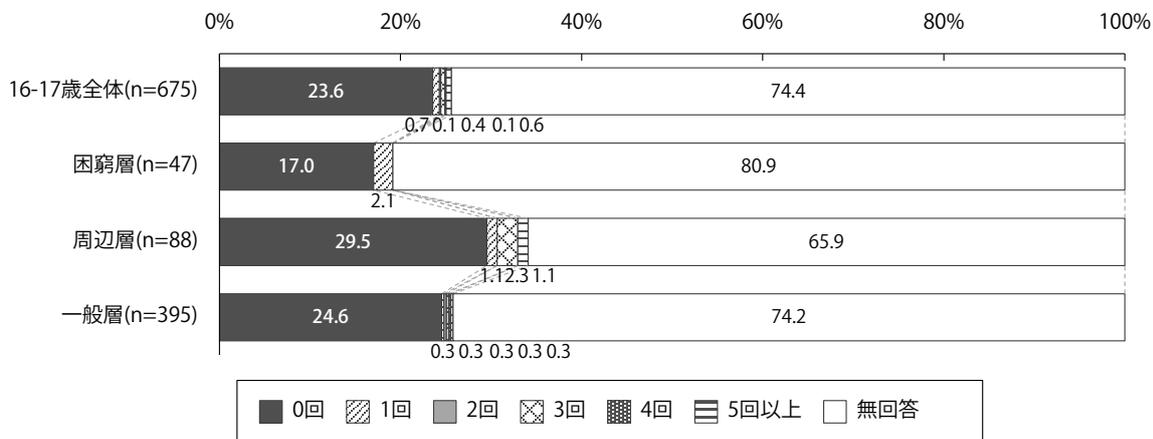


G その他

【子ども票】

夕食の内容「その他」について、「5回以上」との回答が、周辺層で1.1%みられる。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／G その他



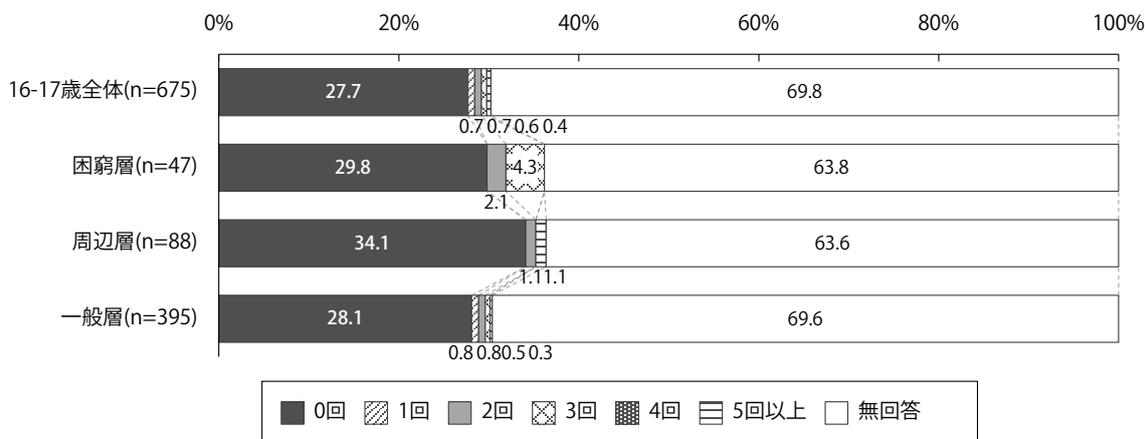
その他の内容(件): 学校の食堂・学食(3) / 宅配弁当(3) / アルバイトのみかない(2) / 弁当 / 寮で白飯を炊いて宅配おかず / スーパーの総菜をメインに足りないものは家族がつくる

H 夕食を食べない

【子ども票】

夕食の内容「夕食を食べない」について、「3回」との回答が困窮層で4.3%、「5回以上」との回答が周辺層で1.1%みられる。

問20 平日の夕食(1週間当たりの回数)／H 夕食を食べない



# 第5章 家計の状況

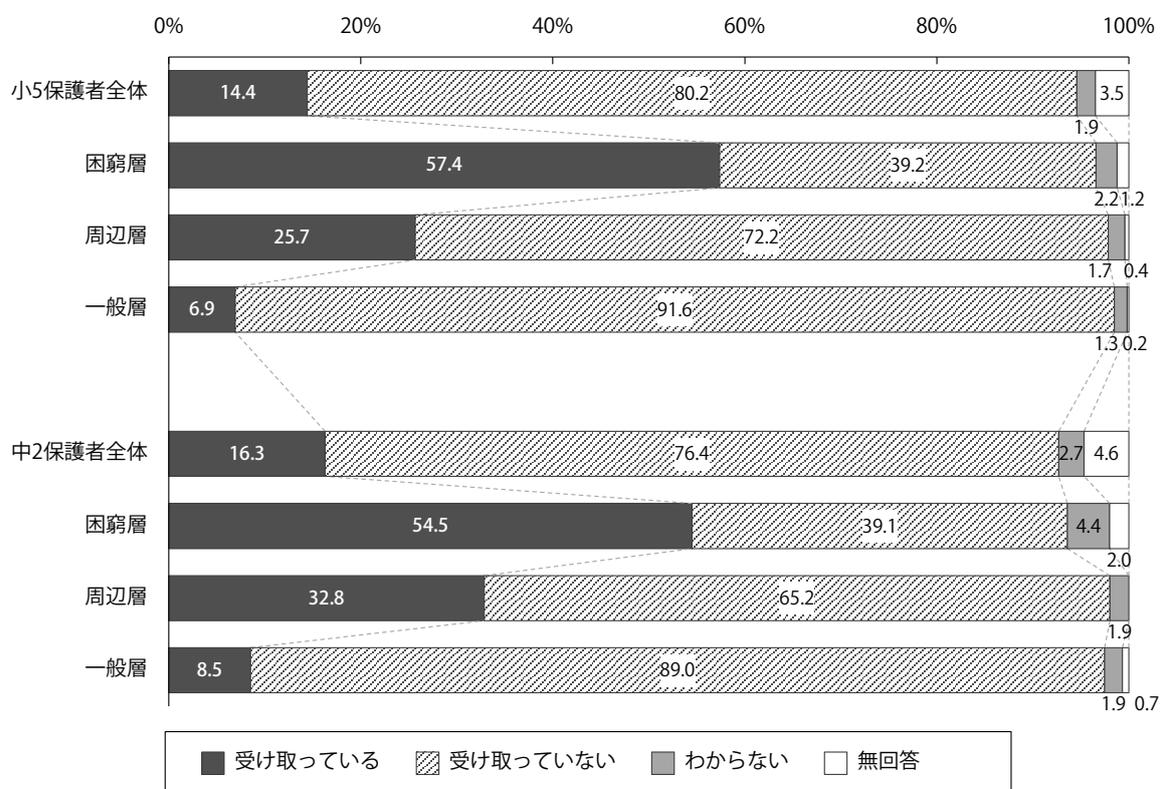
## 1 家計の状況

### (1) 就学援助の受給状況

【保護者票】

就学援助の受給状況について、「受け取っている」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で57.4%、周辺層で25.7%、一般層で6.9%、中学2年生の困窮層で54.5%、周辺層で32.8%、一般層で8.5%となっている。

問20 就学援助費の受給の有無



## (2) 支給額と実費の差が大きい経費

【保護者票】

就学援助で支給されている額と実際にかかった額とで、その差が大きいものは何の経費かを自由記入形式で質問した。

小学5年生、中学2年生とも、「学用品」が最も多くあげられており、その件数も他の項目と比較すると非常に多い。

「給食」は、小学5年生では2位、中学2年生では3位となっている。中学2年生では「給食」との僅差ではあるが「部活動」が2位となっている。

小学5年生		中学2年生	
項目	件数	項目	件数
学用品	129	学用品	122
給食	30	部活動	36
修学旅行・林間学校	25	給食	35
学校集金	9	修学旅行・林間学校・校外学習	29
入学用品	7	入学用品	20
塾・習い事	6	学校集金	10
PTA会費	4	塾・習い事	8
その他	4	PTA会費	4
ない・わからない	28	その他	7
		ない・わからない	21

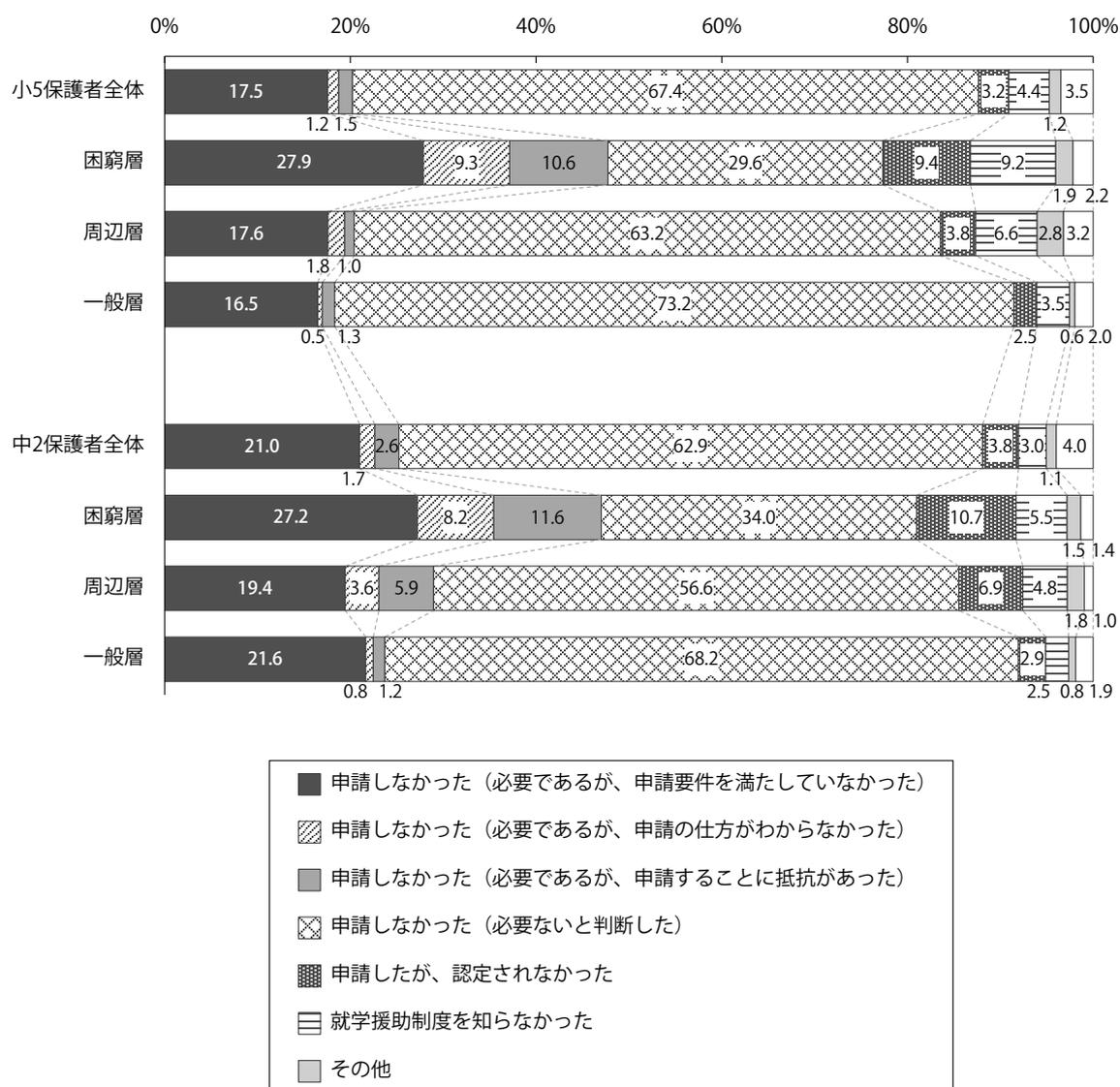
### (3) 受給していない理由

【保護者票】

就学援助を受給していない理由について、「申請しなかった（必要ないと判断した）」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.6%、周辺層で63.2%、一般層で73.2%、中学2年生の困窮層で34.0%、周辺層で56.6%、一般層で68.2%となっている。

「就学援助制度を知らなかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.2%、周辺層で6.6%、一般層で3.5%、中学2年生の困窮層で5.5%、周辺層で4.8%、一般層で2.5%となっており、生活困難度が高い家庭ほど「制度を知らなかった」とする割合が高くなっている。

問20-2 就学援助費を受けていない理由

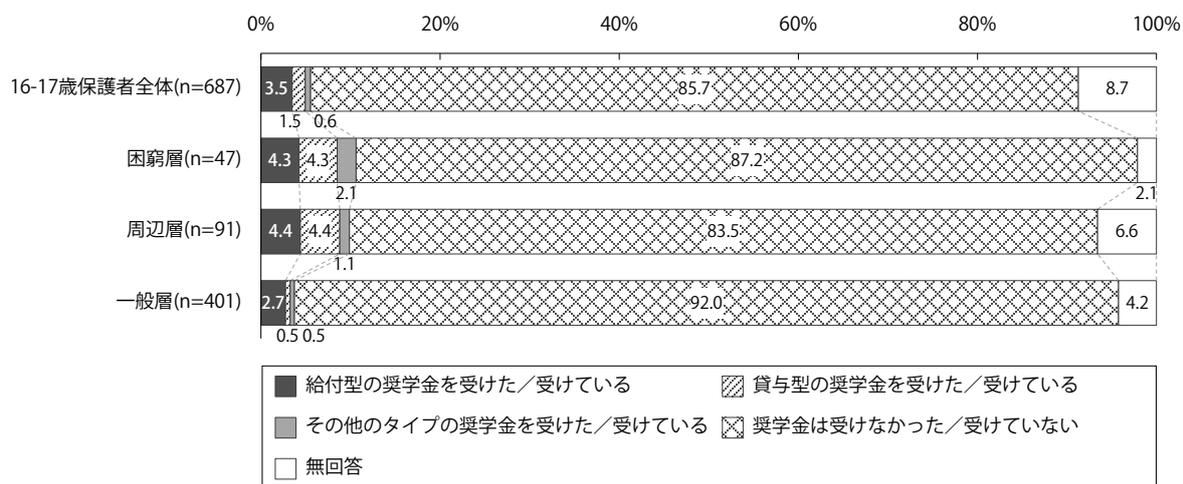


## (4) 奨学金受給の有無

【保護者票】

16-17歳の奨学金の受給状況について、「給付型」「貸与型」「その他のタイプ」を合わせて、いずれかの奨学金を「受けた／受けている」と回答した割合は、困窮層で10.7%、周辺層で9.9%、一般層で3.7%となっている。

### 問21 奨学金の受給状況

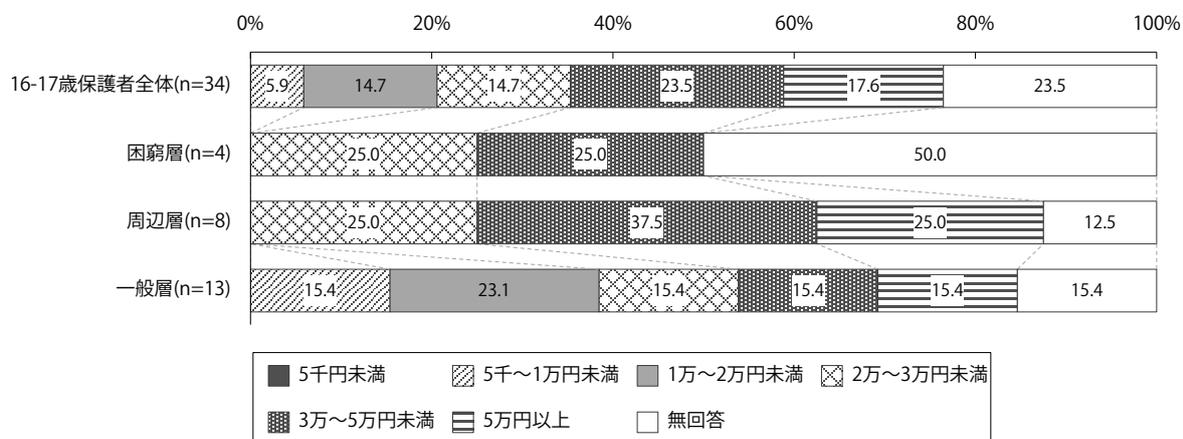


### 1 か月あたりの金額

【保護者票】

16-17歳の奨学金の1か月あたりの金額について、全体では「3万～5万円未満」と回答した割合が23.5%で最も高くなっている。「5万円以上」は困窮層ではみられない。

### 問21-1 奨学金の1か月当たりの額



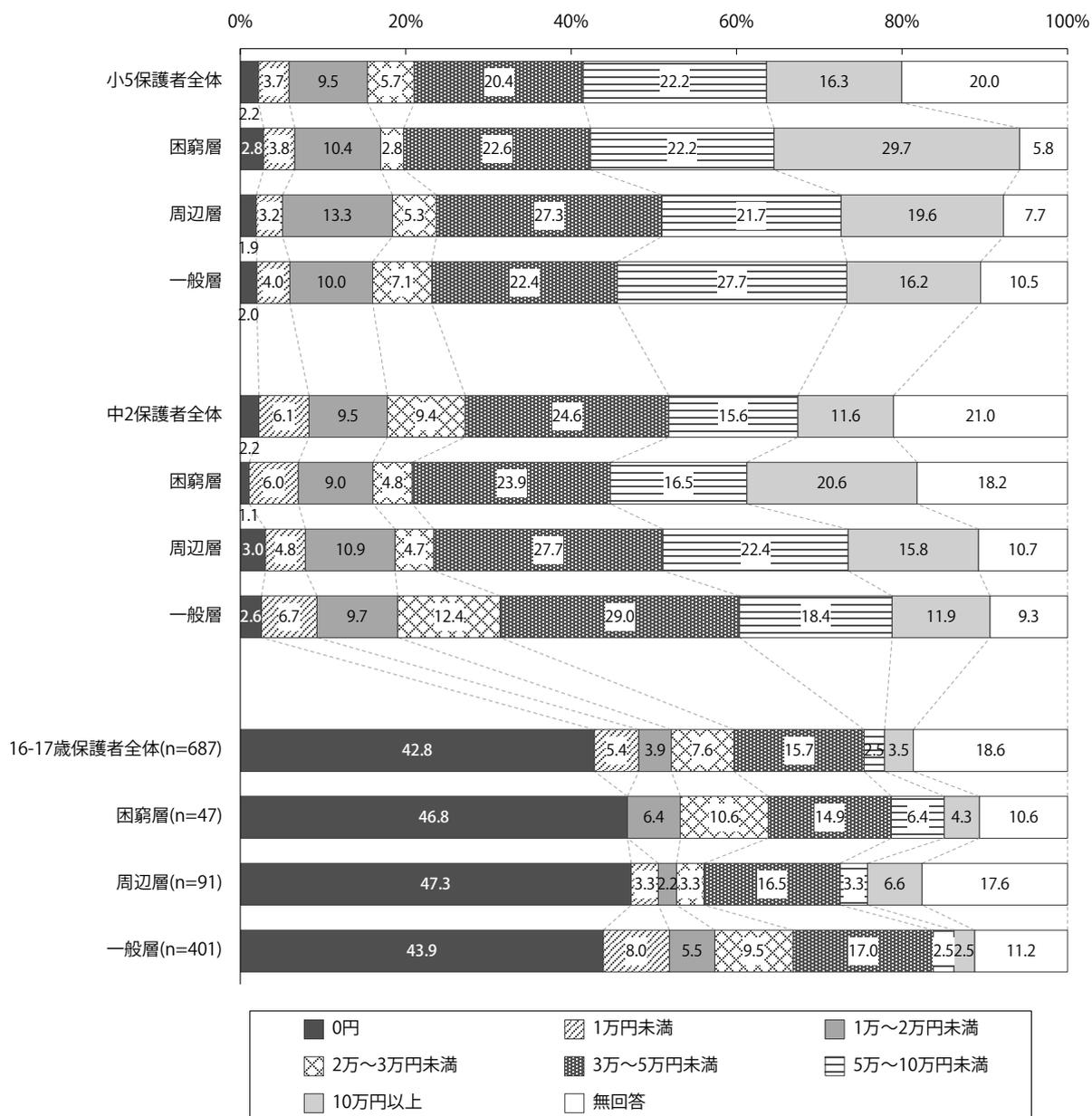
### (5) 社会保障の支給額

#### A 児童手当

【保護者票】

児童手当について、「10万円以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.7%、周辺層で19.6%、一般層で16.2%、中学2年生の困窮層で20.6%、周辺層で15.8%、一般層で11.9%、16-17歳の困窮層で4.3%、周辺層で6.6%、一般層で2.5%となっている。

問21 支給額/A 児童手当

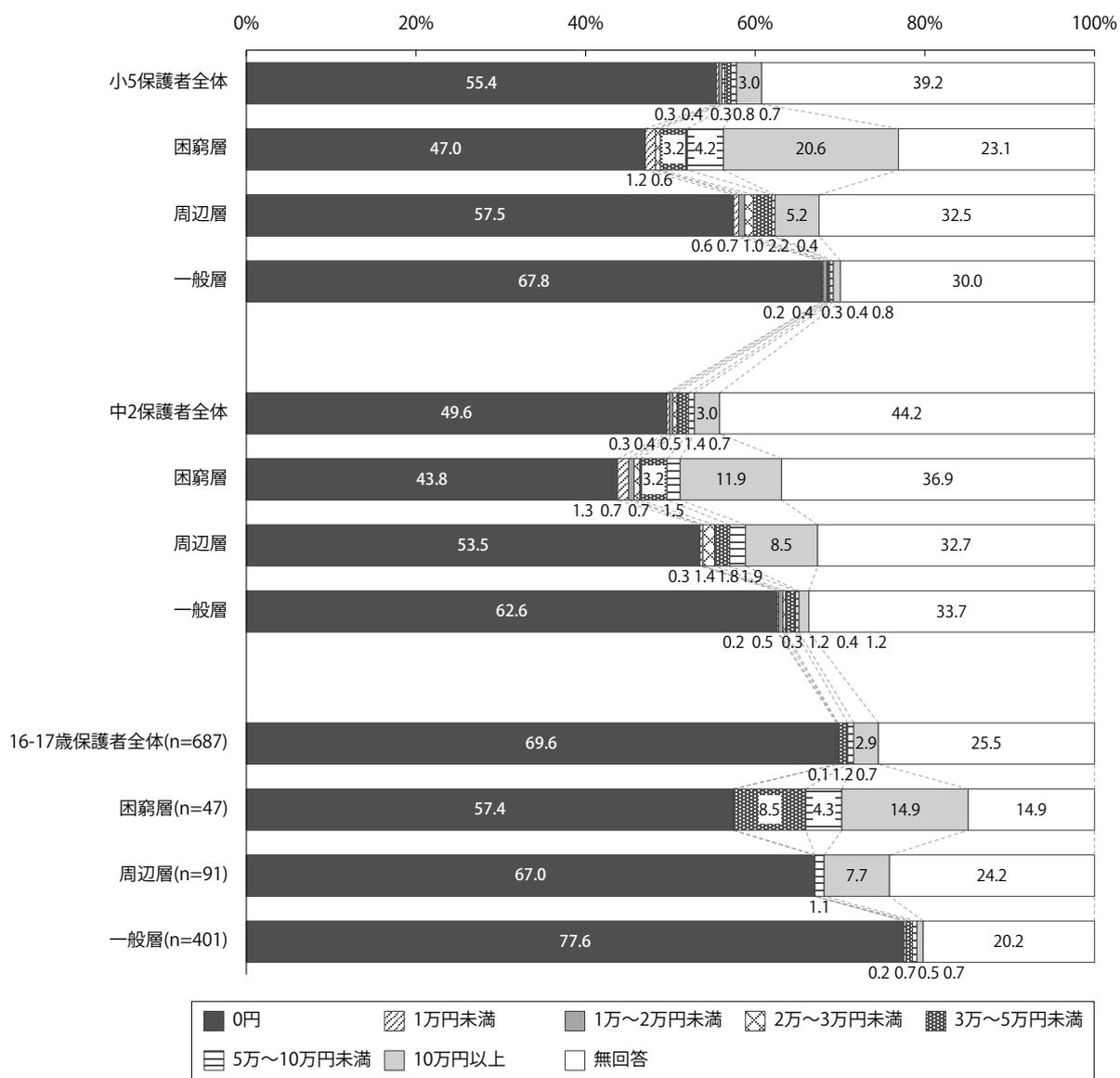


B 児童扶養手当

【保護者票】

児童扶養手当について、「10万円以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で20.6%、周辺層で5.2%、一般層で0.8%、中学2年生の困窮層で11.9%、周辺層で8.5%、一般層で1.2%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で7.7%、一般層で0.7%となっている。

問21 支給額／B 児童扶養手当



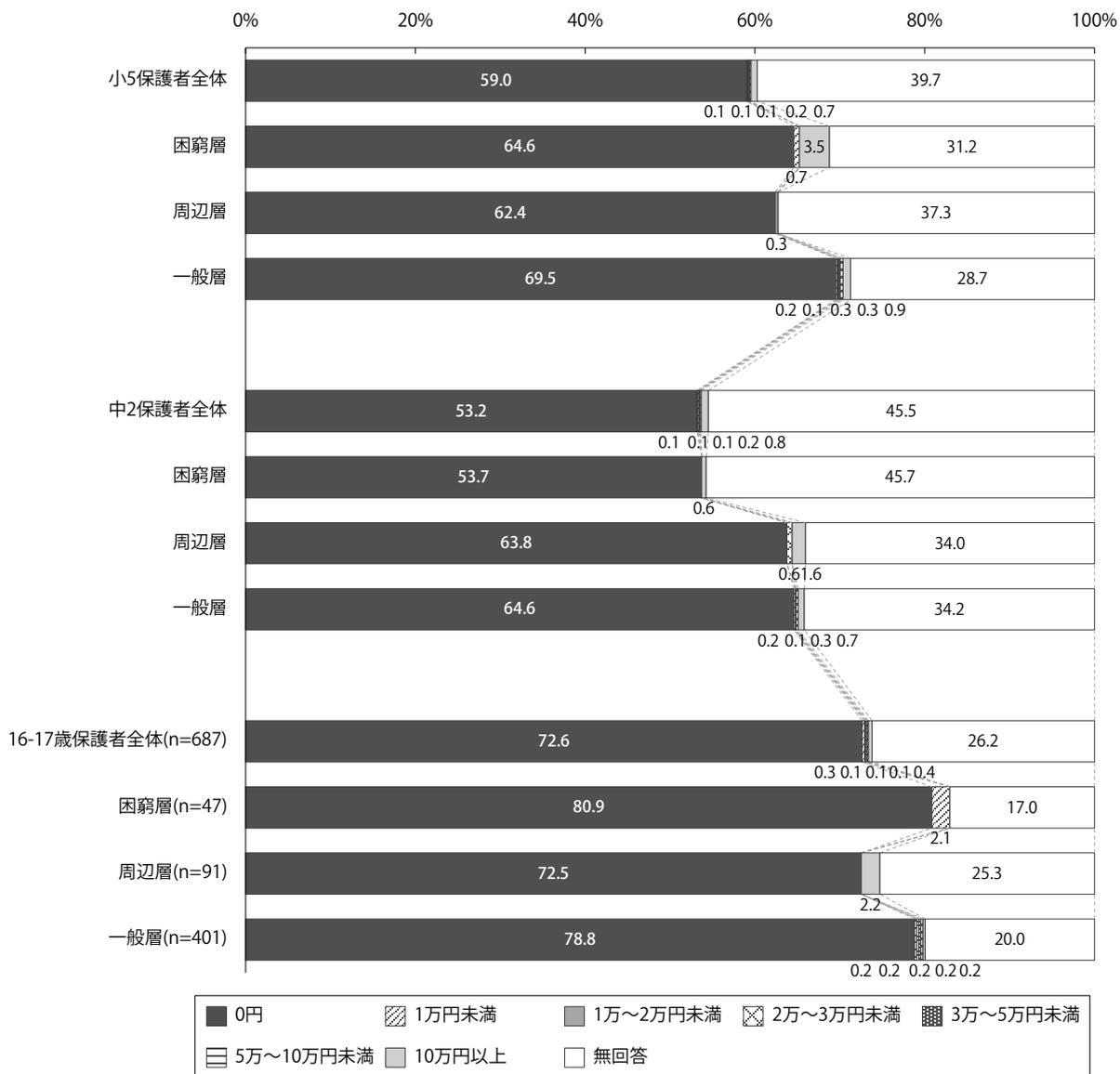
C 特別児童扶養手当

【保護者票】

特別児童扶養手当については、いずれの層も過半数が「0円」と回答している。

小学5年生の困窮層で「10万円以上」に3.5%、16-17歳の周辺層で「10万円以上」に2.2%、16-17歳の困窮層で「1万円未満」に2.1%の回答がみられる。

問21 支給額/C 特別児童扶養手当

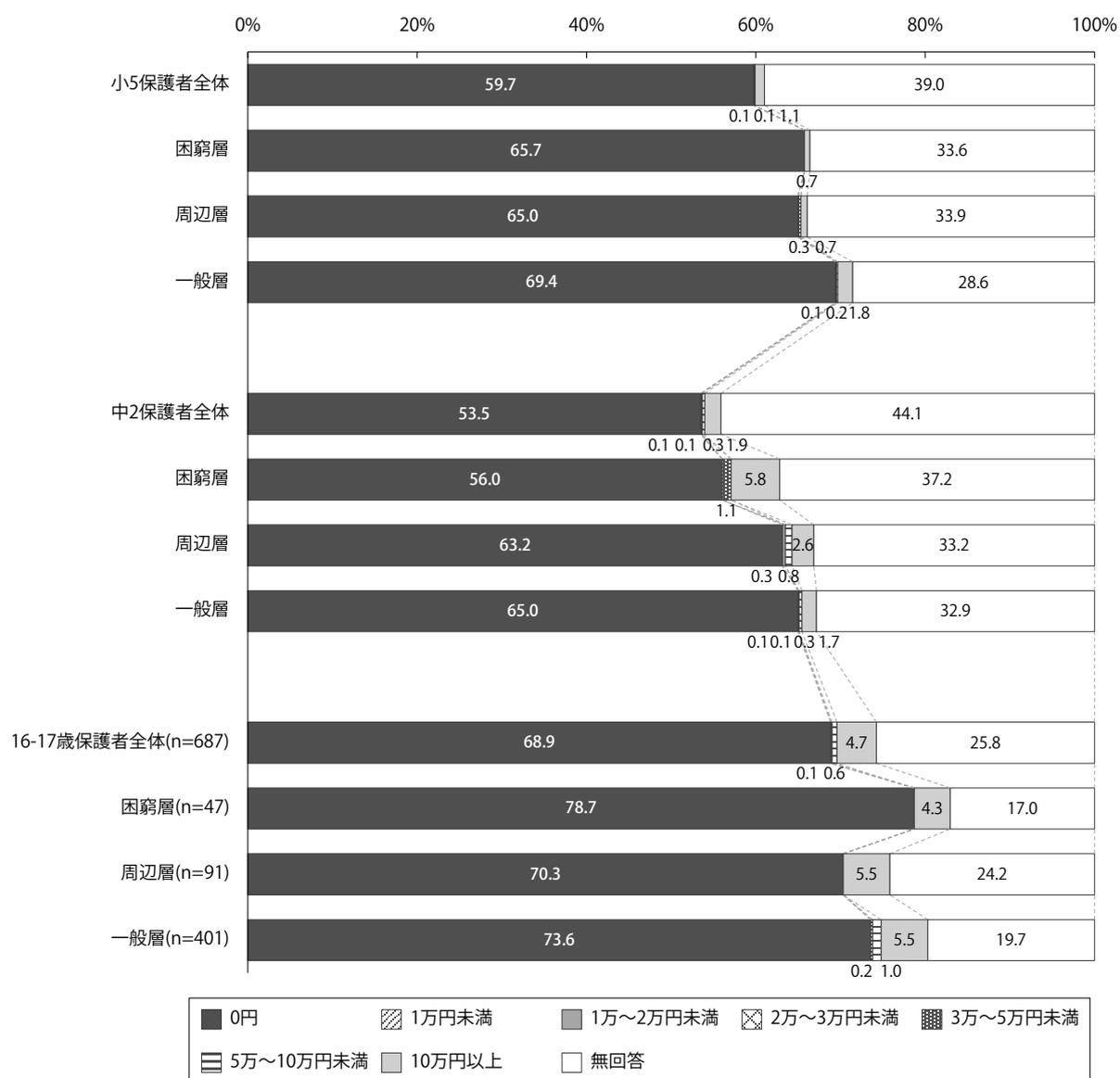


## D 年金（遺族年金、老齢年金など）

【保護者票】

年金（遺族年金、老齢年金など）については、いずれの層も過半数が「0円」と回答している。「10万円以上」と回答した割合は、中学2年生の困窮層で5.8%、16-17歳の周辺層で5.5%、一般層で5.5%と、5%を超えている。

## 問21 支給額/D 年金（遺族年金、老齢年金など）

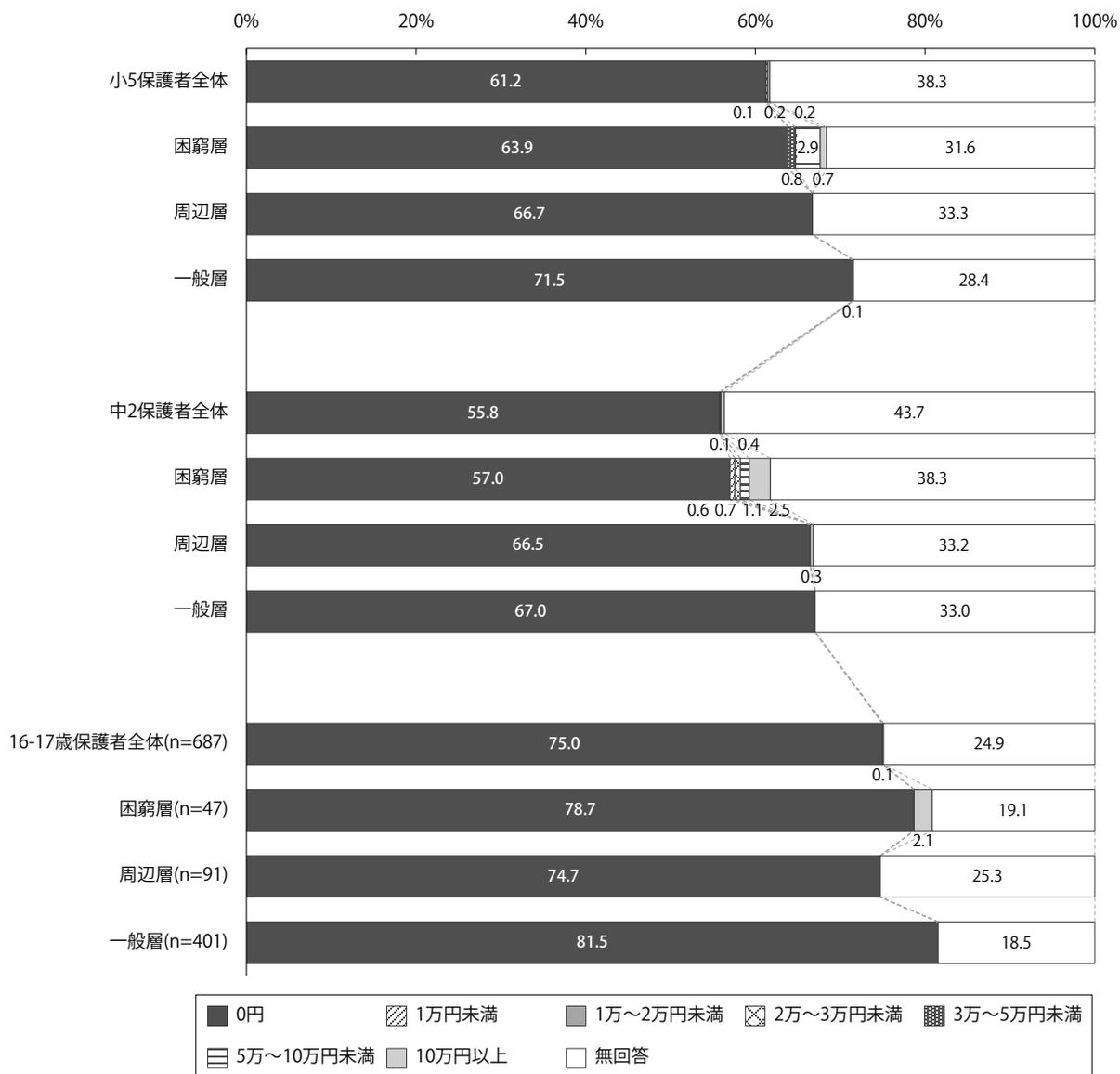


E 生活保護

【保護者票】

生活保護については、いずれの層も過半数が「0円」と回答している。5万円以上を受給している割合をみると、小学5年生の困窮層で「5万～10万円未満」が2.9%、中学2年生の困窮層で「10万円以上」が2.5%、16-17歳の困窮層で「10万円以上」が2.1%となり、2%を超えている。

問21 支給額/E 生活保護



## (6) 世帯収入

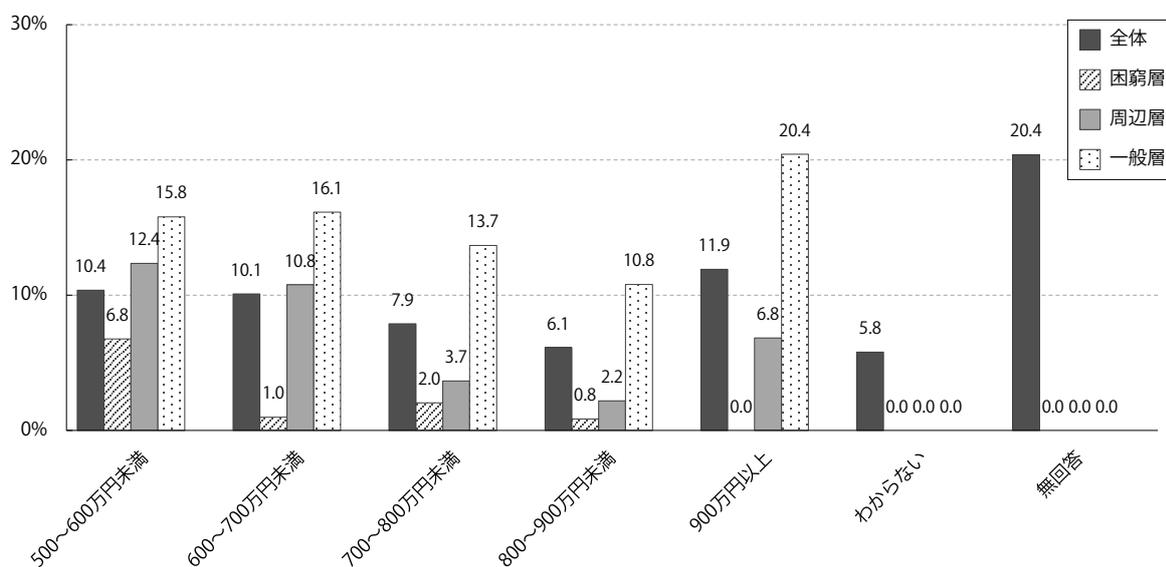
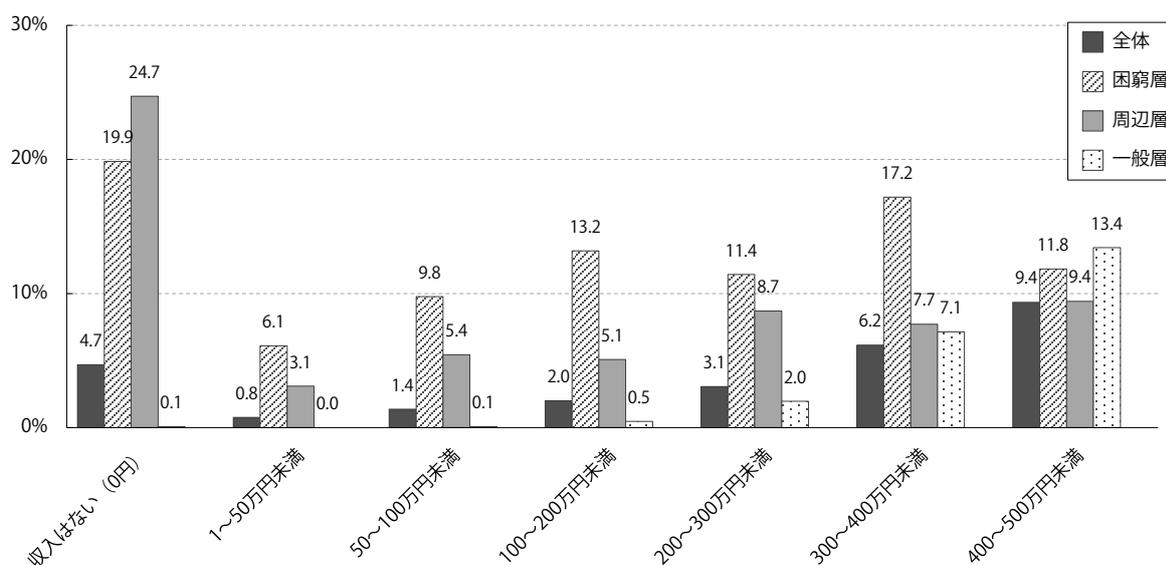
【保護者票】

小学5年生全体の世帯収入では、「900万円以上」が11.9%で最も多く、次いで「500～600万円未満」が10.4%、「600～700万円未満」が10.1%となっている。

困窮層では「収入はない(0円)」が19.9%で最も多く、次いで「300～400万円未満」が17.2%、「100～200万円未満」が13.2%となっている。

問22 世帯年収

小学5年生

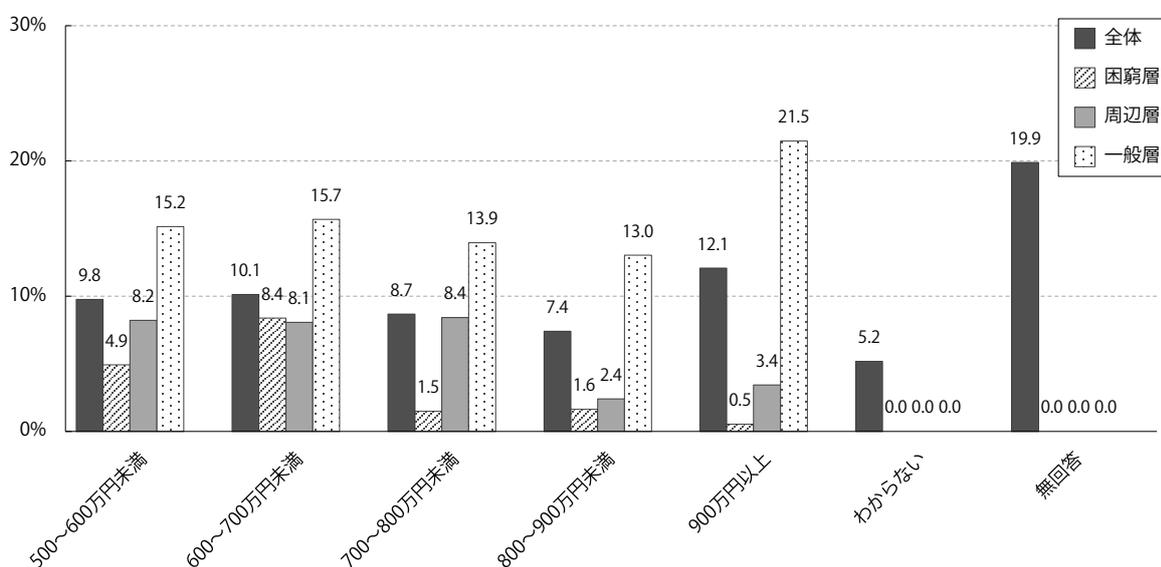
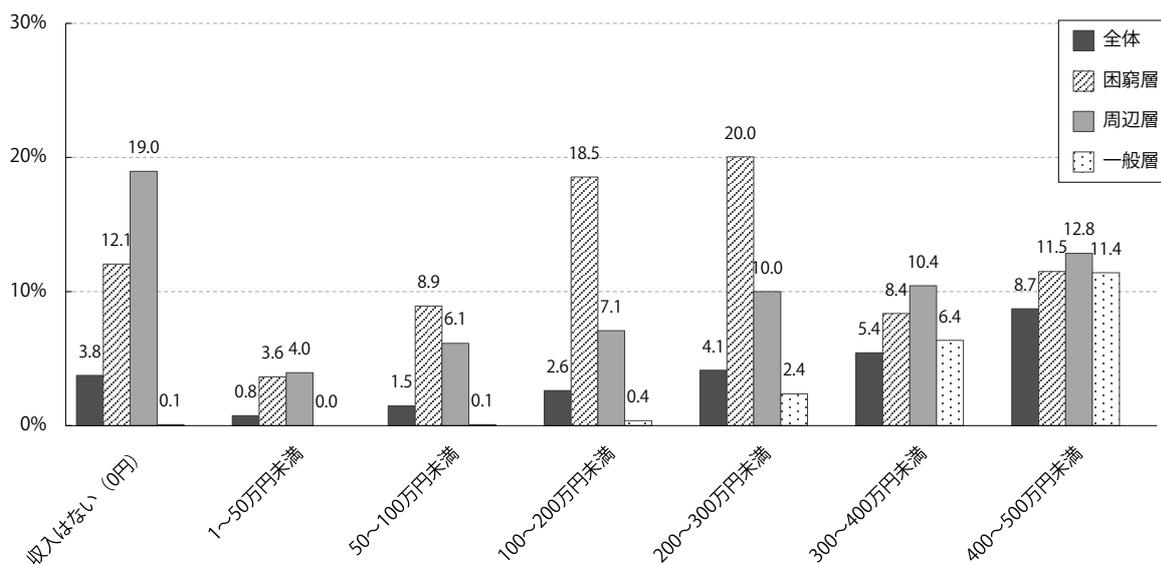


中学2生全体の世帯収入では、「900万円以上」が12.1%で最も多く、次いで「600～700万円未満」が10.1%、「500～600万円未満」が9.8%となっている。

困窮層では「200～300万円未満」が20.0%で最も多く、次いで「100～200万円未満」が18.5%、「収入はない（0円）」が12.1%となっている。

問22 世帯年収

中学2年生



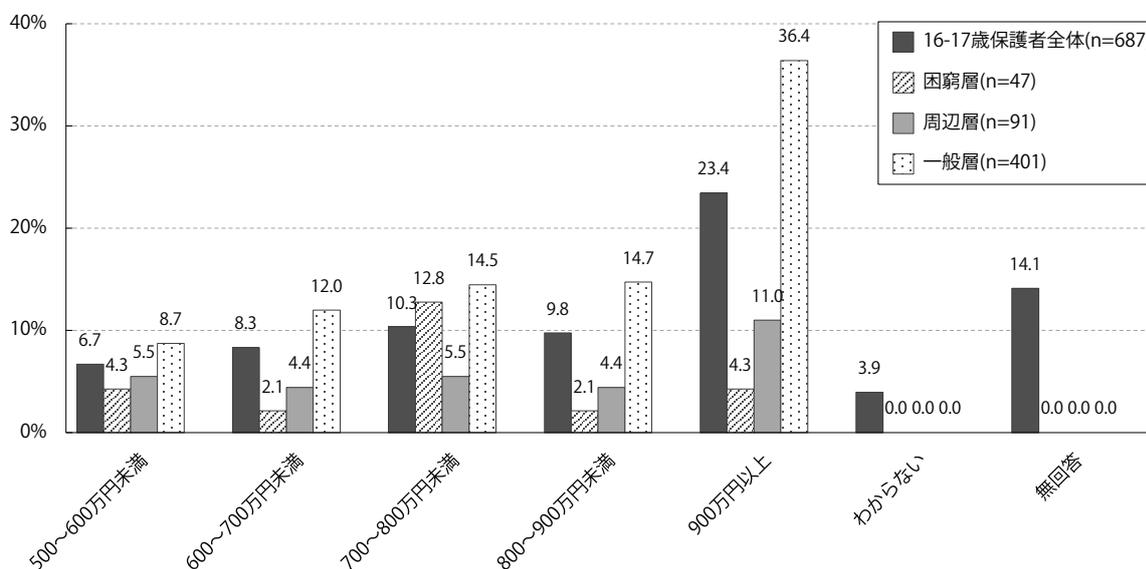
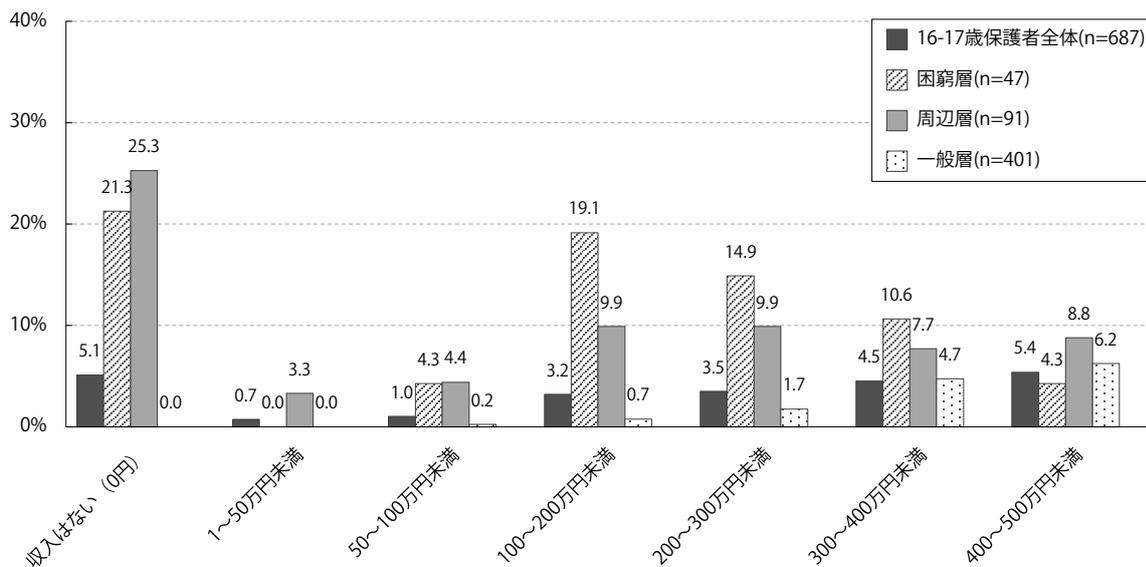
【保護者票】

16-17歳全体の世帯収入では、「900万円以上」が23.4%で最も多く、次いで「700～800万円未満」が10.3%、「800～900万円未満」が9.8%となっている。

困窮層では「収入はない（0円）」が21.3%で最も多く、次いで「100～200万円未満」が19.1%、「200～300万円未満」が14.9%となっている。

問23 世帯年収

16-17歳



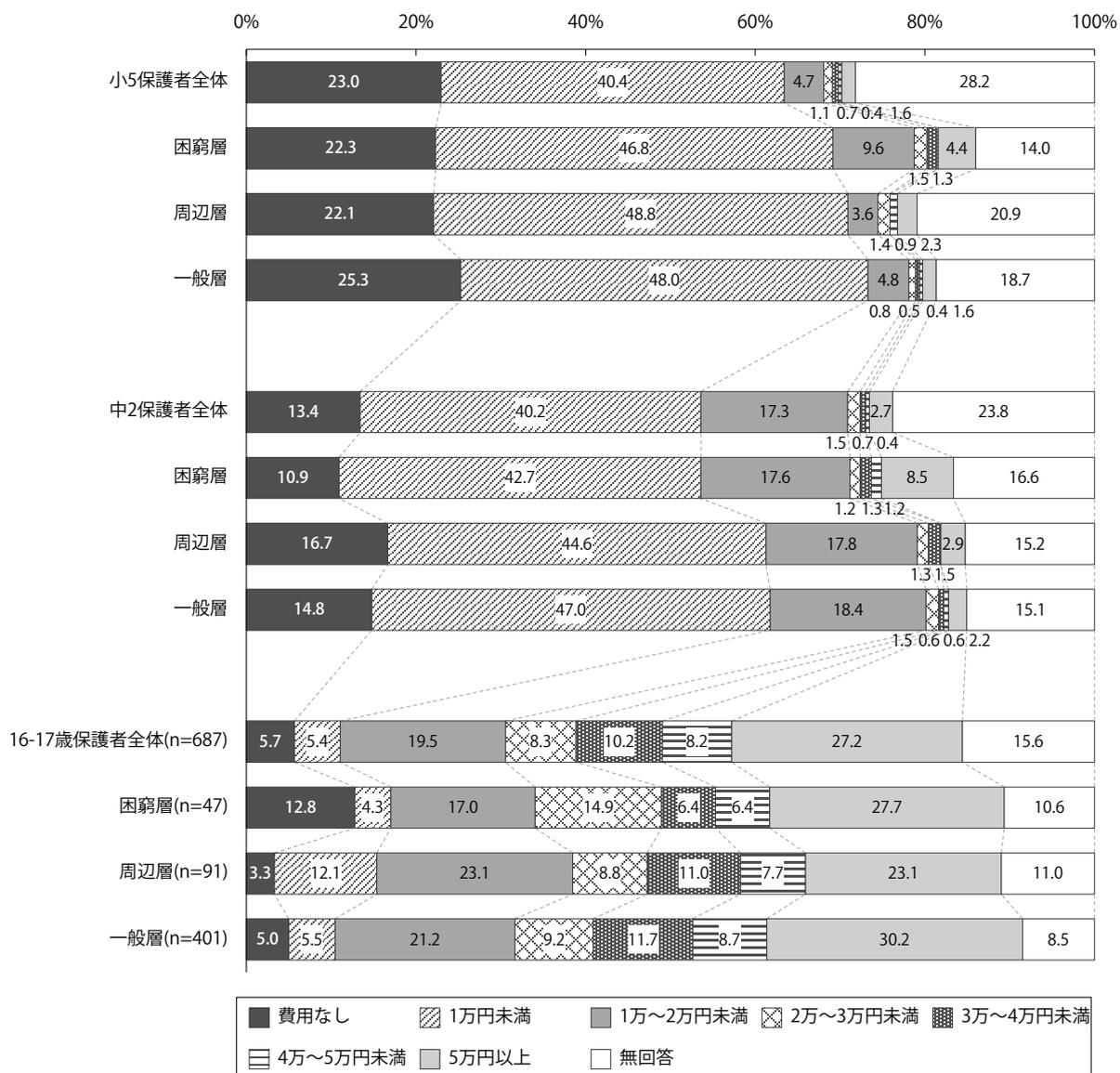
## 2 子育てにかかる費用

### A 授業料・学校納付金

【保護者票】

授業料・学校納付金については、小学5年生、中学2年生とも「1万円未満」がすべての層で40%を超えて最も多くなっている。16-17歳の全体では、「5万円以上」が27.2%で最も多く、「1万～2万円未満」の19.5%が続いている。16-17歳の困窮層では「費用なし」が12.8%みられる。

問19 子育てにかかる費用／A 授業料・学校納付金



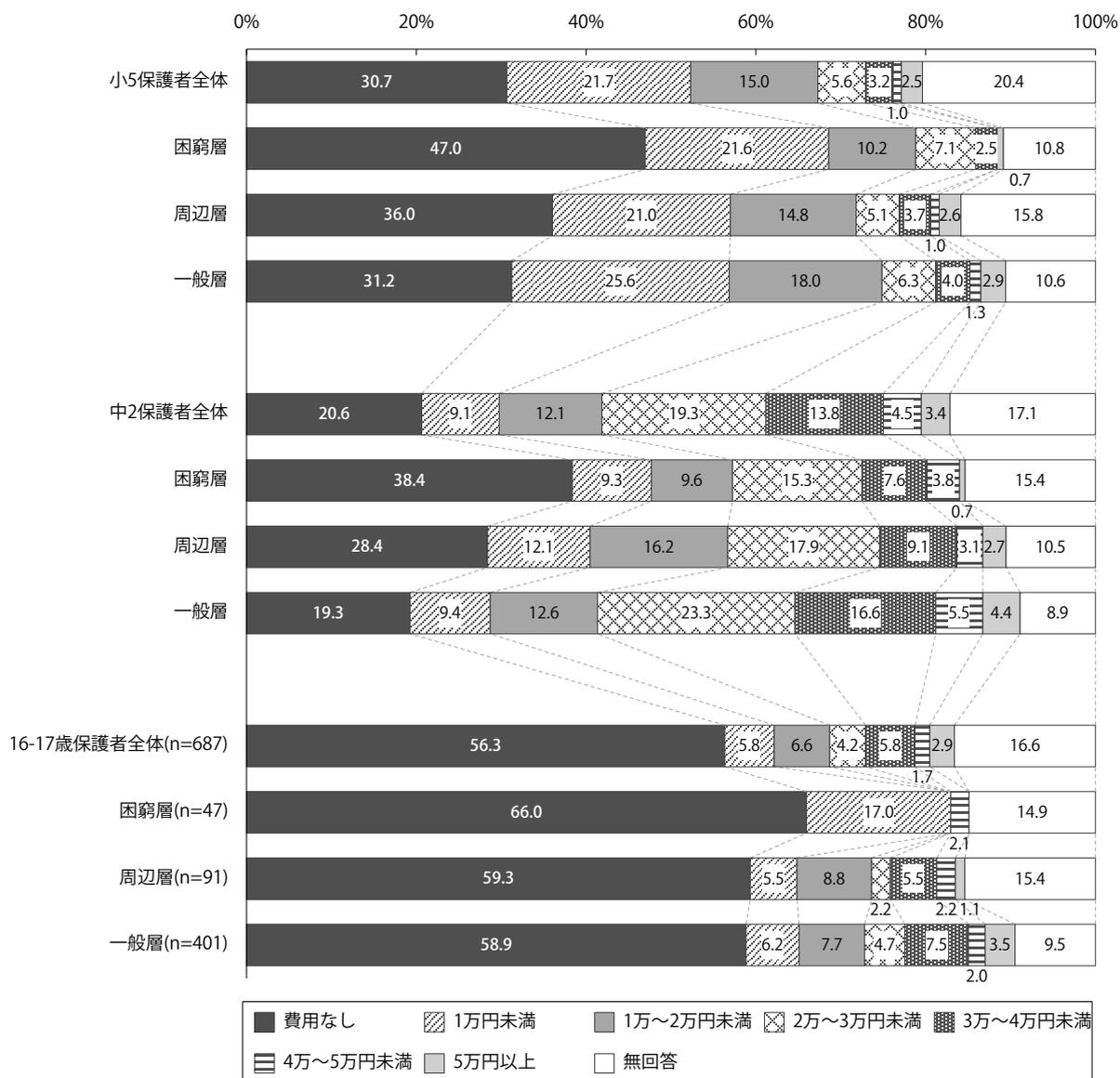
B 塾など、学校外でかかる教育費

【保護者票】

塾など、学校外でかかる教育費について、「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で47.0%、周辺層で36.0%、一般層で31.2%、中学2年生の困窮層で38.4%、周辺層で28.4%、一般層で19.3%、16-17歳の困窮層で66.0%、周辺層で59.3%、一般層で58.9%となっている。

「5万円以上」と回答した割合は、どの年齢層でも生活困難度が高くなるほど低くなり、16-17歳の困窮層では0.0%となっている。

問19 子育てにかかる費用/B 塾など、学校外でかかる教育費



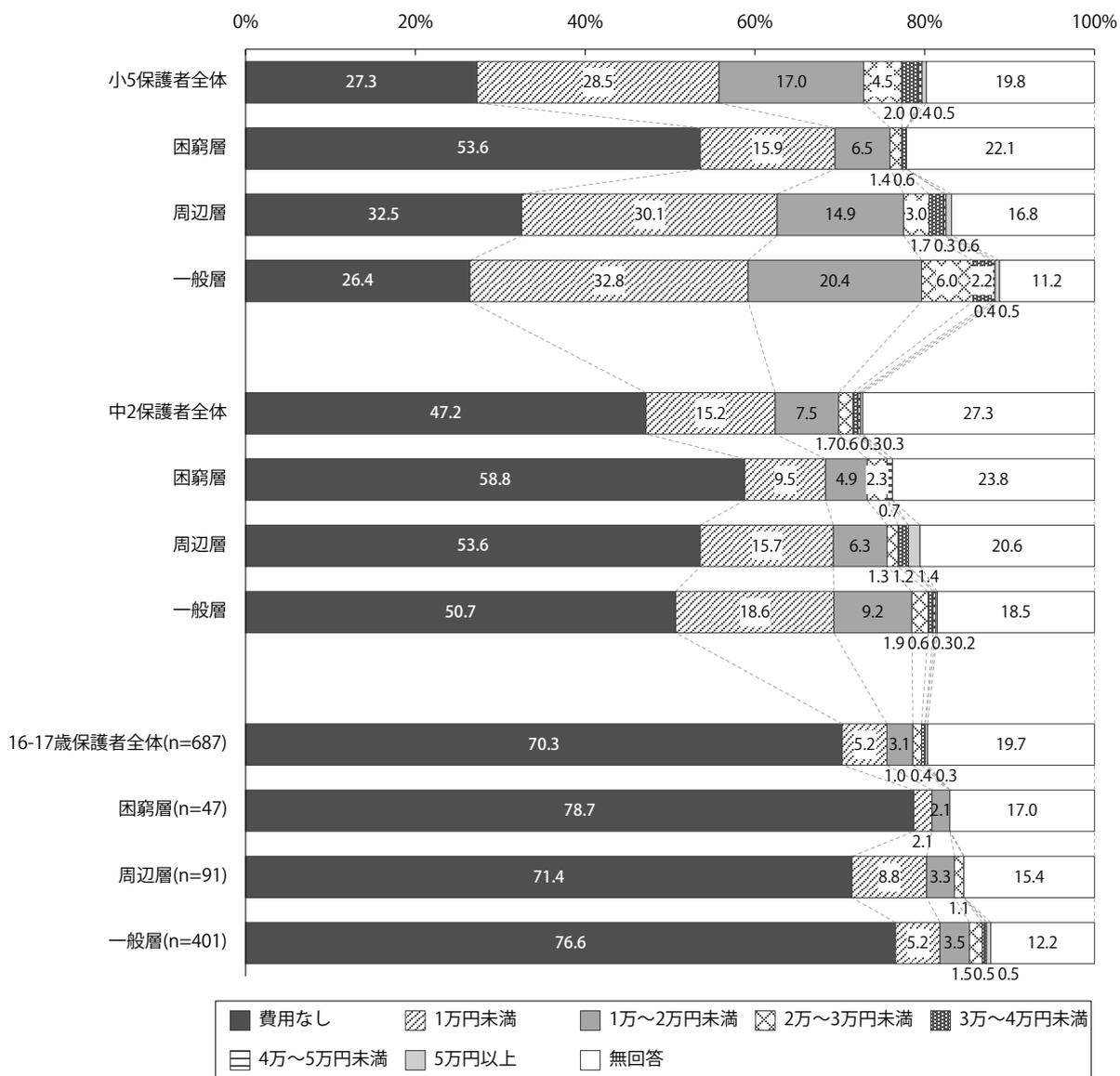
C 習い事（スポーツクラブなど以外）

【保護者票】

習い事（スポーツクラブなど以外）について、「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.6%、周辺層で32.5%、一般層で26.4%、中学2年生の困窮層で58.8%、周辺層で53.6%、一般層で50.7%となっており、この年齢層では生活困難度との相関がみられる。

16-17歳では、全体で70.3%が「費用なし」と回答しており、生活困難度に関わらず70%以上が費用をかけていない。

問19 子育てにかかる費用／C 習い事(スポーツクラブなど以外)



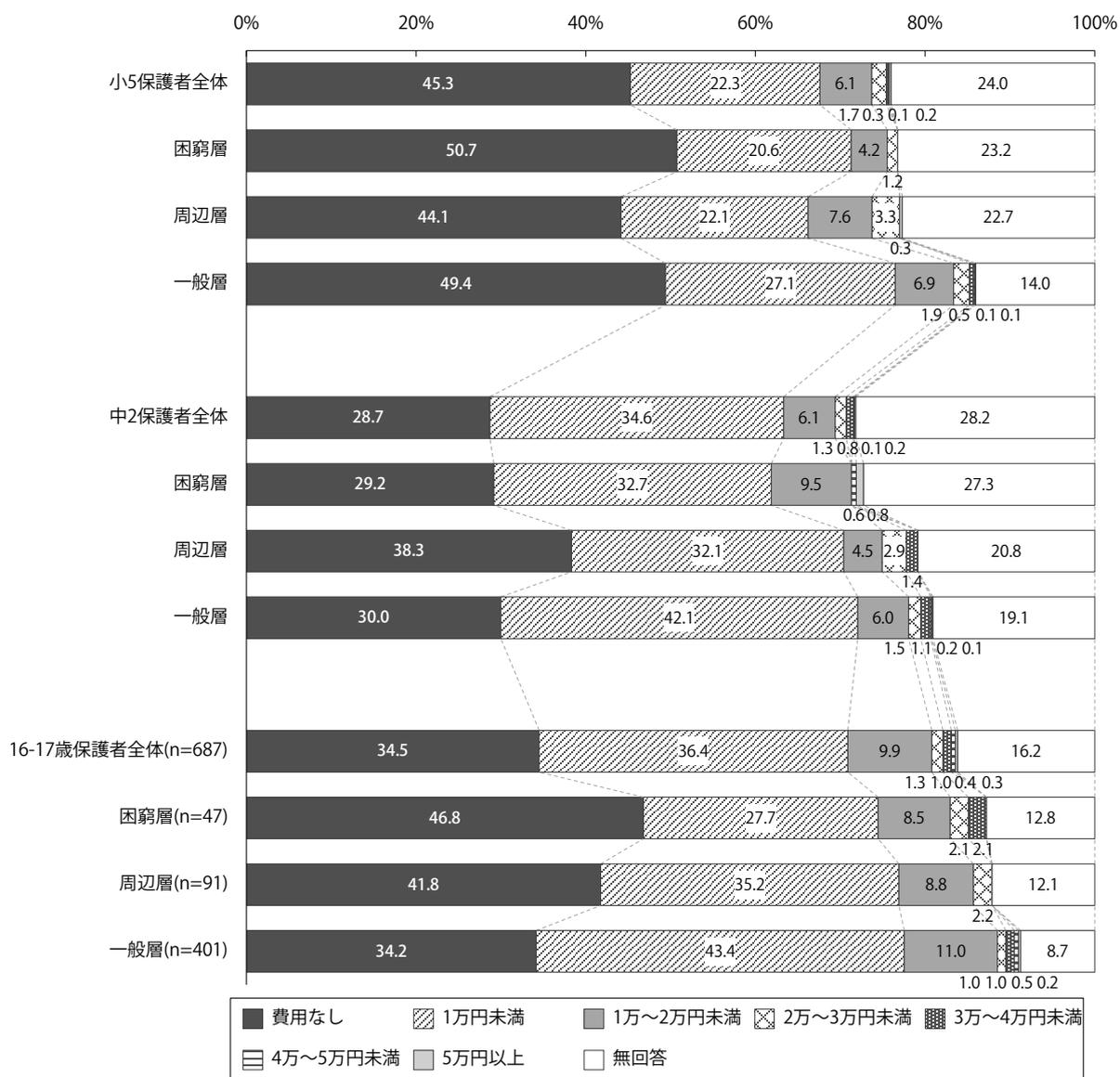
D スポーツクラブ・部活

【保護者票】

スポーツクラブ・部活について、「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の全体で45.3%、中学2年生の全体で28.7%となっている。「1万円未満」の回答との対比でみると、小学5年生よりも中学2年生の方が費用をかける方向に変化していることがわかる。

16-17歳では、「費用なし」と回答した割合が、困窮層で46.8%、周辺層で41.8%、一般層で34.2%となっており、生活困難度が高くなるほど費用をかけていないことがわかる。

問19 子育てにかかる費用/D スポーツクラブ・部活



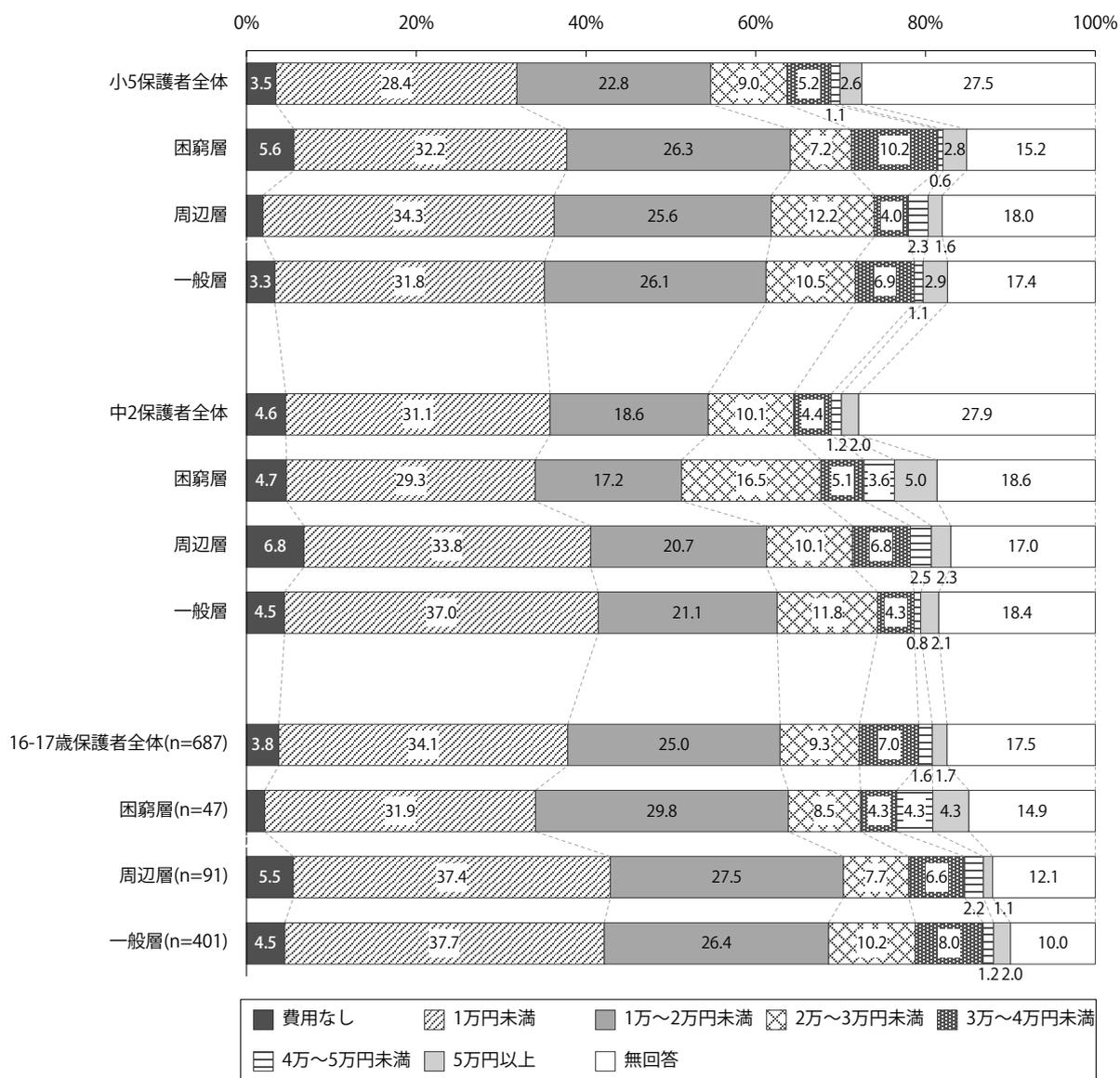
E 子どもの昼食代、夕食代、おやつ代（外食含む）

【保護者票】

子どもの昼食代、夕食代、おやつ代（外食含む）について、最も回答した割合の高い項目は、すべての年齢層で「1万円未満」となっている。「5万円以上」の回答の割合をみると、小学5年生の困窮層で2.8%、中学2年生の困窮層で5.0%、16-17歳の困窮層で4.3%となり、中学2年生、16-17歳では他の生活困難度の層と比べて最も高くなっている。

中学2年生、16-17歳では、困窮層において外食を含む子どもの食事代にかかる費用が高くなっていることがわかる。

問19 子育てにかかる費用/E 子どもの昼食代、夕食代、おやつ代(外食含む)



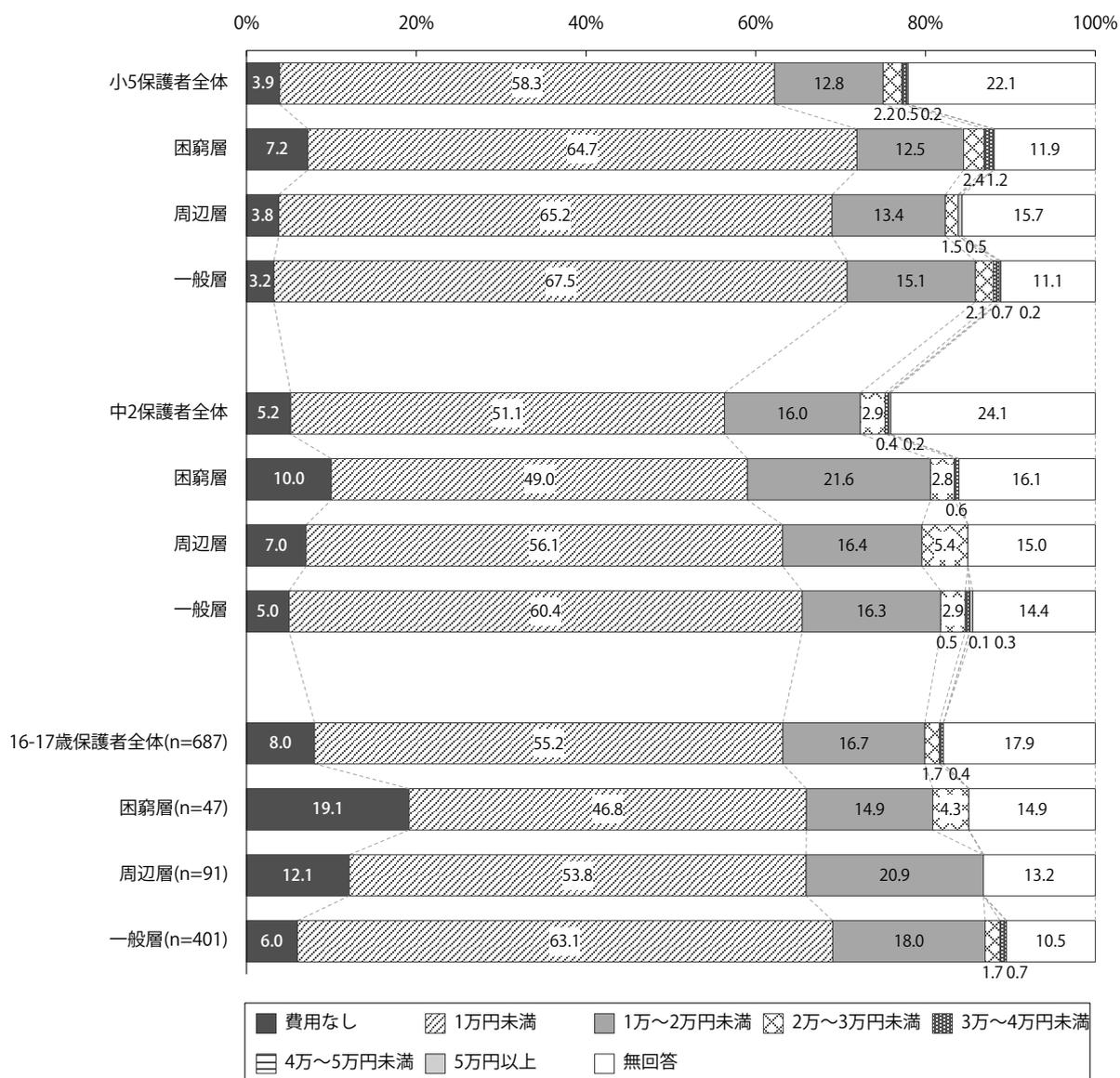
F 子どもの服・靴

【保護者票】

子どもの服・靴について、「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で7.2%、周辺層で3.8%、一般層で3.2%、中学2年生の困窮層で10.0%、周辺層で7.0%、一般層で5.0%、16-17歳の困窮層で19.1%、周辺層で12.1%、一般層で6.0%となっている。

いずれの年齢層でも生活困難度との相関がみられ、16-17歳においては困窮層の約19%が子どもの服や靴に費用をかけていない。

問19 子育てにかかる費用/F 子どもの服・靴

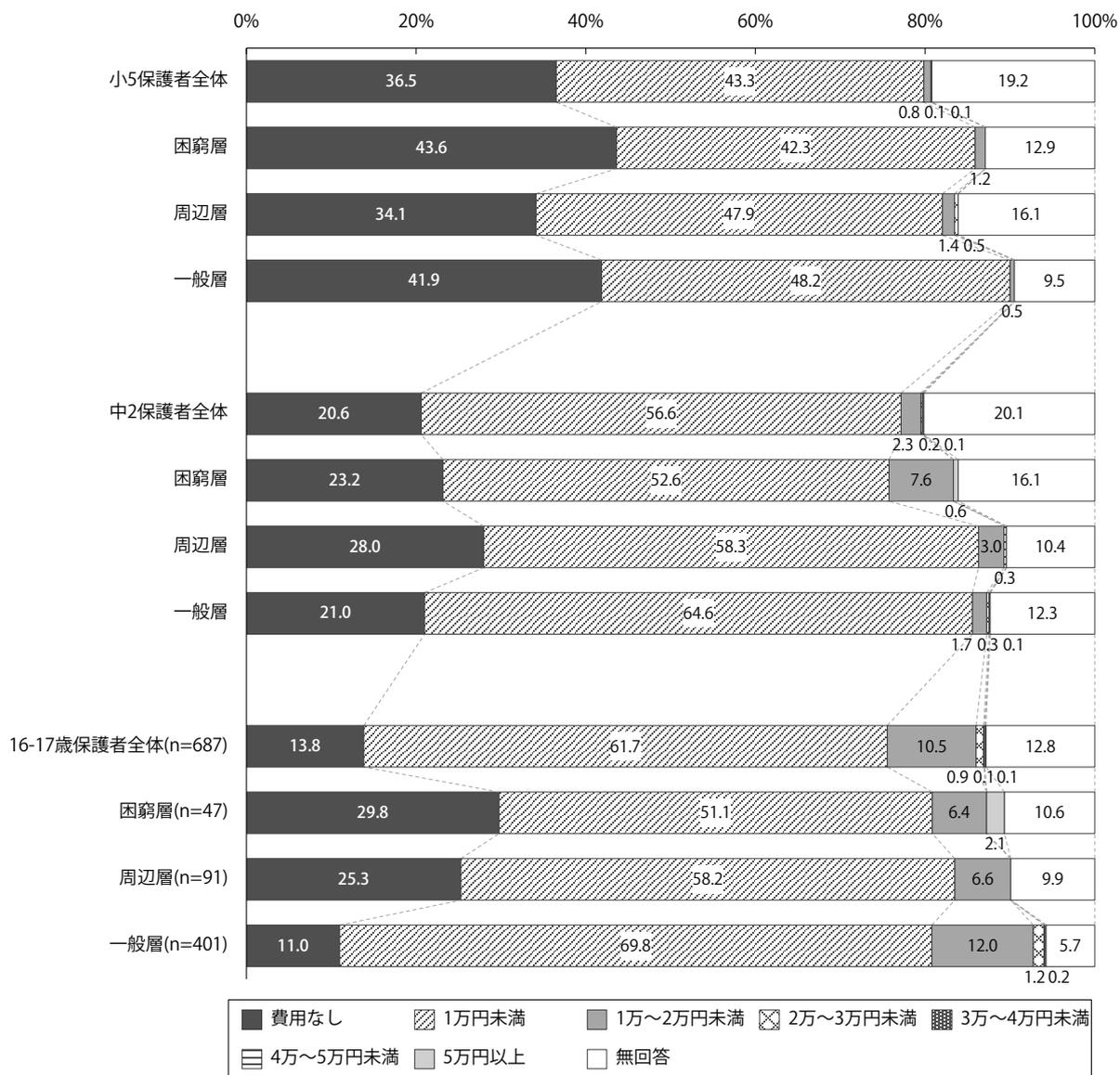


G お小遣い

【保護者票】

お小遣いについては、どの層においても、「1万円未満」と回答した割合が最も高くなっている。「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で43.6%、周辺層で34.1%、一般層で41.9%、中学2年生の困窮層で23.2%、周辺層で28.0%、一般層で21.0%、16-17歳の困窮層で29.8%、周辺層で25.3%、一般層で11.0%となっている。

問19 子育てにかかる費用／G お小遣い



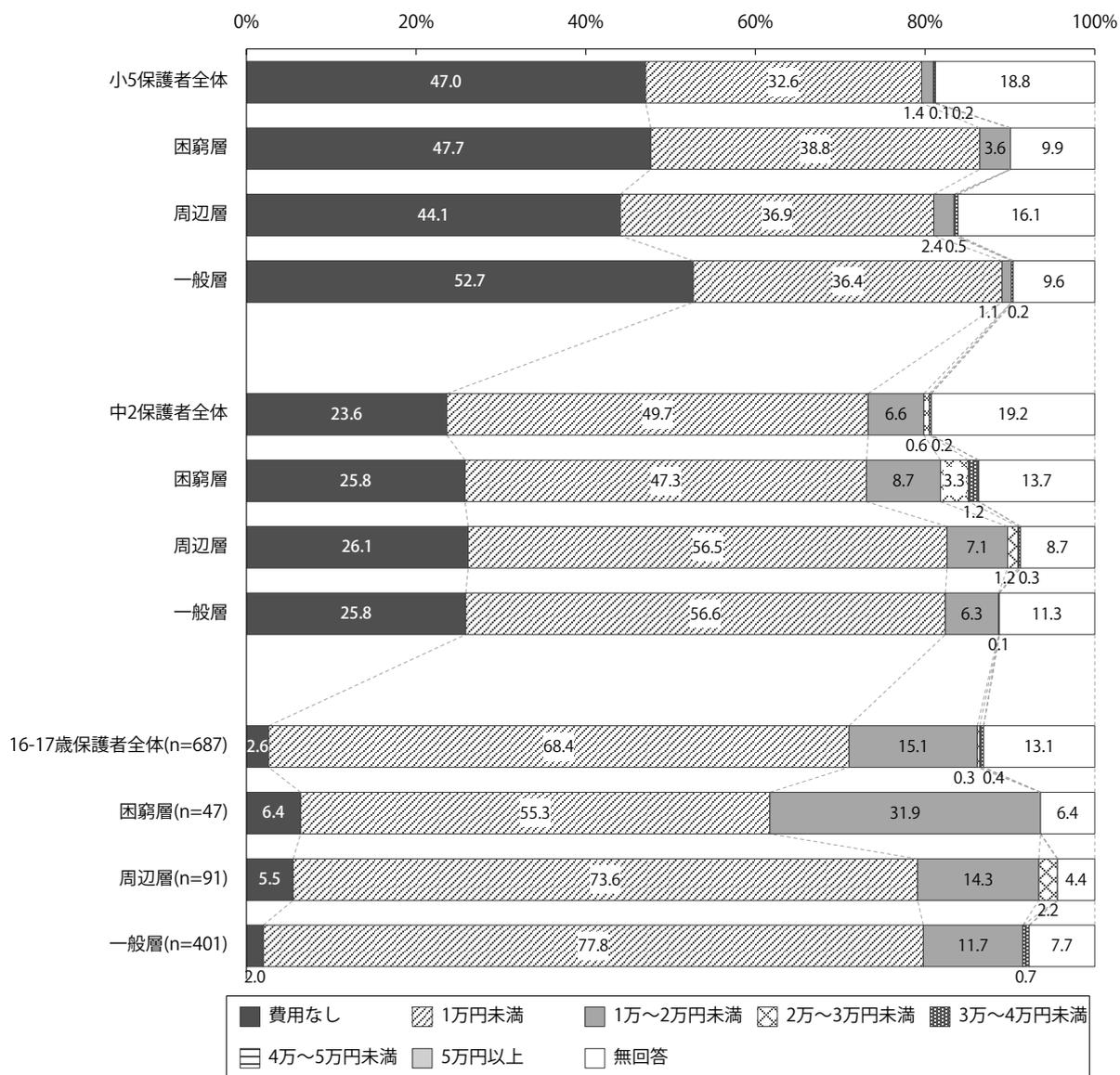
## H (このお子さんの) 携帯・スマートフォンの代金

【保護者票】

子どもが使う携帯・スマートフォンの代金について、「費用なし」と回答した割合は、小学5年生の全体で47.0%、中学2年生の全体で23.6%、16-17歳の全体で2.6%となっており、子どもの年齢があがるにつれて費用が発生していることがわかる。

16-17歳の困窮層では、「1万～2万円未満」の回答が31.9%を占めている。16-17歳では生活困難度に関わらず、1万円以上の費用をかけることが、小学5年生や、中学2年生よりも多くなっていることがわかる。

問19 子育てにかかる費用/H (このお子さんの) 携帯・スマートフォンの代金



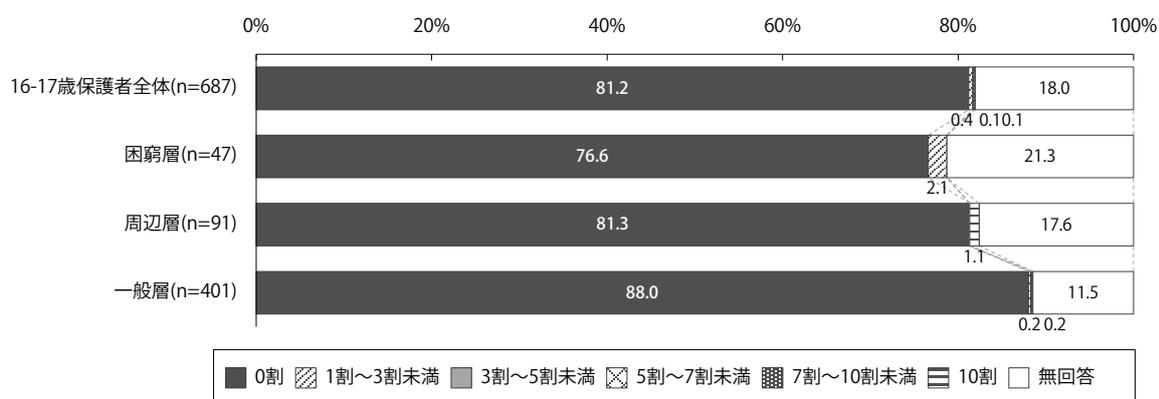
### 3 子どもに関する負担の割合

#### A 授業料・学校納付金

【保護者票】

問 20-2 では問 20-1 で質問した子どもの生活費や学費について、子ども自身がアルバイト収入などから負担をしているか否か、負担している場合のおおよその負担割合をたずねている。問 20-1 における、16-17 歳の「授業料・学校納付金」の平均は 38,342 円であった。その費用について、困窮層では 2.1%が「1 割～3 割未満」を子どもが負担していると回答している。

問20-2 お子さんの負担割合/A 授業料・学校納付金

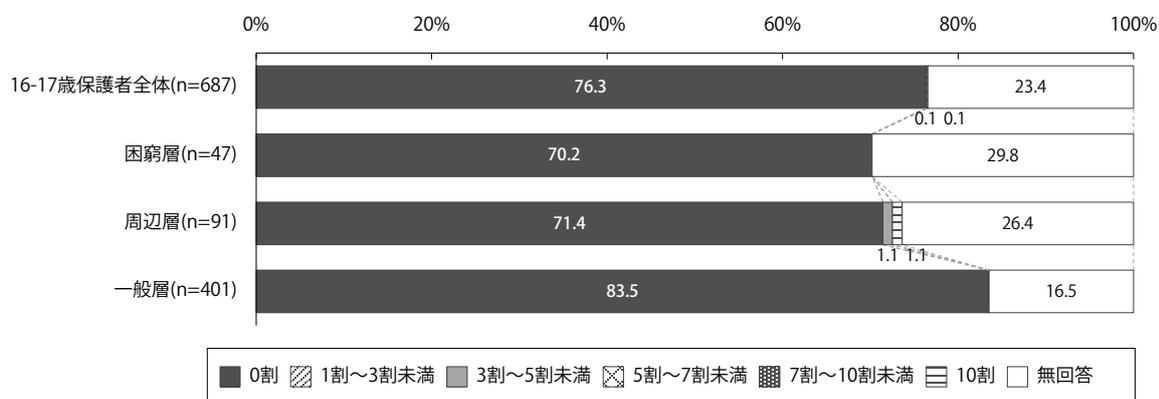


#### B 塾など、学校外でかかる教育費

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「塾など、学校外でかかる教育費」の平均は 7,686 円であった。その費用について、周辺層では 1.1%が「3 割～5 割未満」、1.1%が「10 割」を子どもが負担していると回答している。

問 20-2 お子さんの負担割合/B 塾など、学校外でかかる教育費

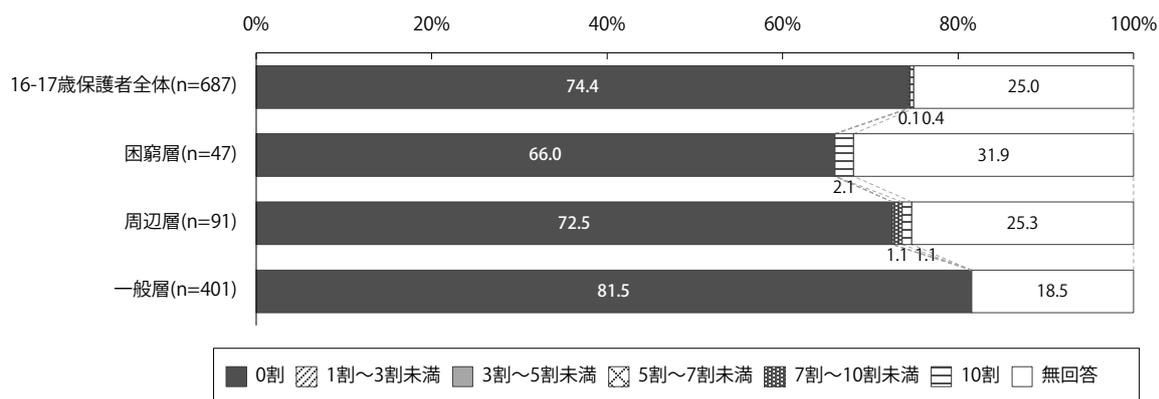


## C 習い事（スポーツクラブなど以外）

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「習い事（スポーツクラブなど以外）」の費用の平均は 1,513 円であった。その費用について、困窮層では 2.1%、周辺層では 1.1%が「10 割」を子どもが負担していると回答している。

## 問20-2 お子さんの負担割合／C 習い事(スポーツクラブなど以外)

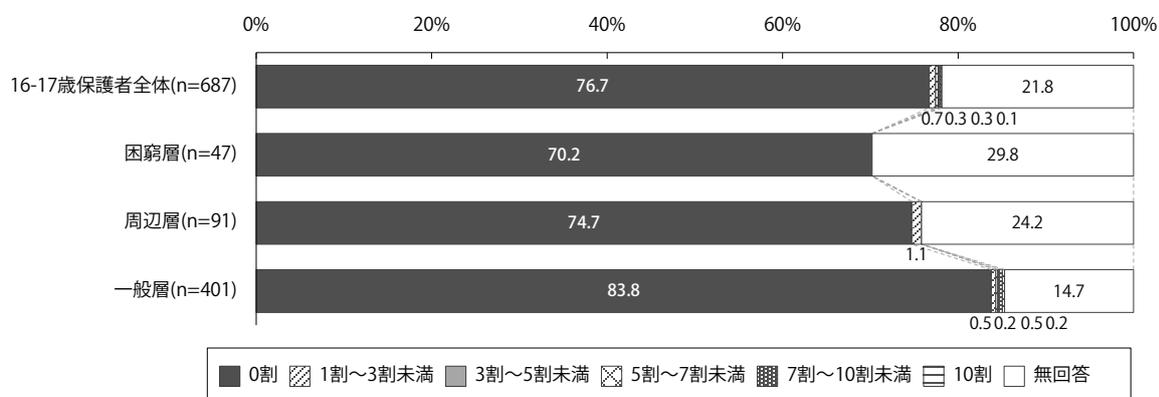


## D スポーツクラブ・部活

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「スポーツクラブ・部活」の費用の平均は 3,897 円であった。その費用について、周辺層では 1.1%が「1 割～3 割未満」を子どもが負担していると回答している。

## 問20-2 お子さんの負担割合／D スポーツクラブ・部活

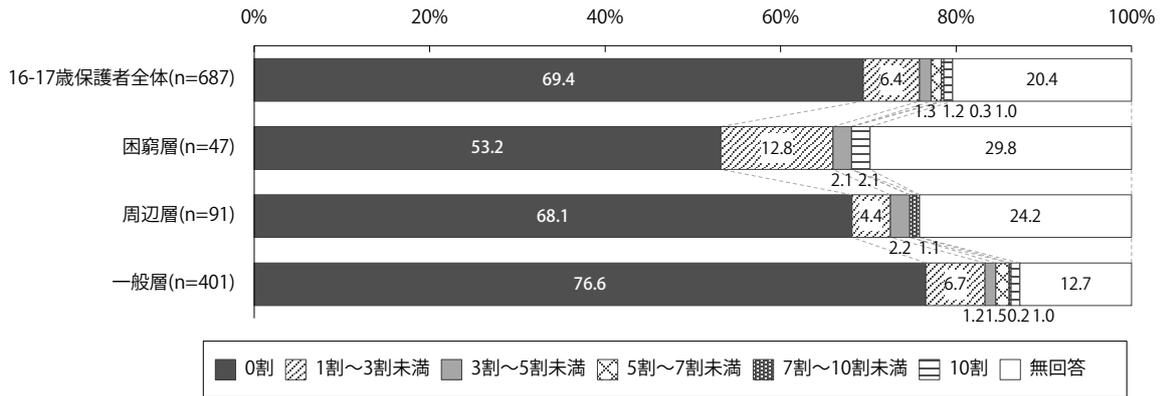


**E 子どもの昼食代、夕食代、おやつ代（外食含む）**

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「子どもの昼食代、夕食代、おやつ代（外食含む）」の費用の平均は 11,852 円であった。その費用について、困窮層では 12.8%が「1 割～3 割未満」を子どもが負担していると回答している。

問20-2 お子さんの負担割合／E 子どもの昼食代、夕食代、おやつ代(外食含む)

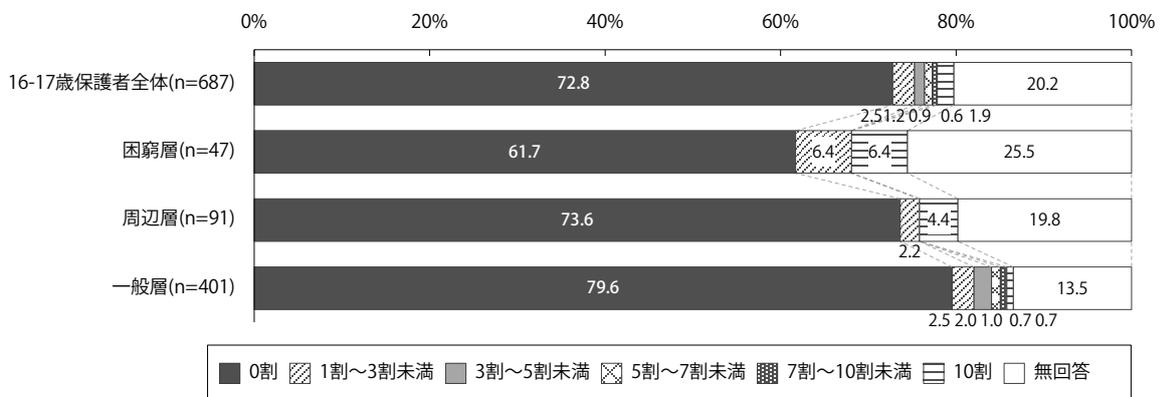


**F 子どもの服・靴**

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「子どもの服・靴」の費用の平均は 5,212 円であった。その費用について、困窮層では 6.4%が「1 割～3 割未満」を、6.4%が「10 割」を子どもが負担していると回答している。

問20-2 お子さんの負担割合／F 子どもの服・靴

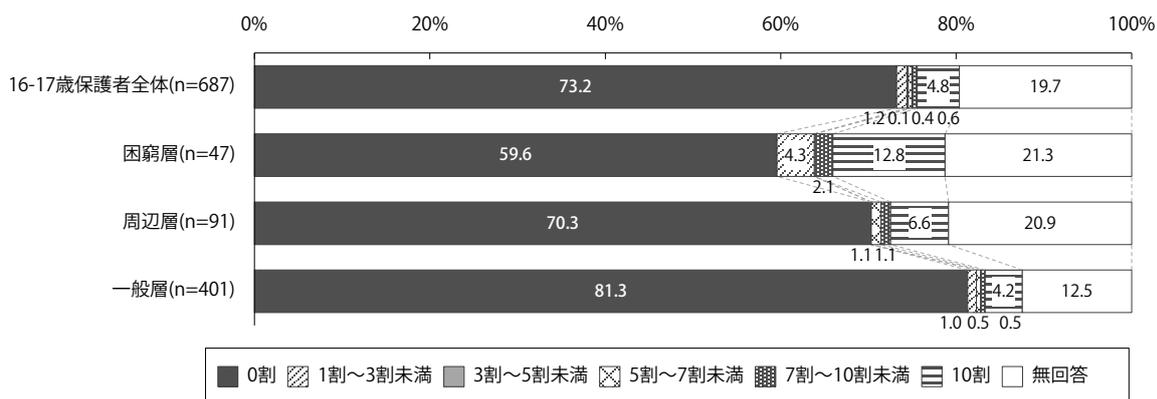


## G お小遣い

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「お小遣い」の費用の平均は 4,925 円であった。その費用について、困窮層では 12.8%、周辺層では 6.6%、一般層では 4.2%が「10 割」を子どもが負担していると回答している。

### 問20-2 お子さんの負担割合／G お小遣い

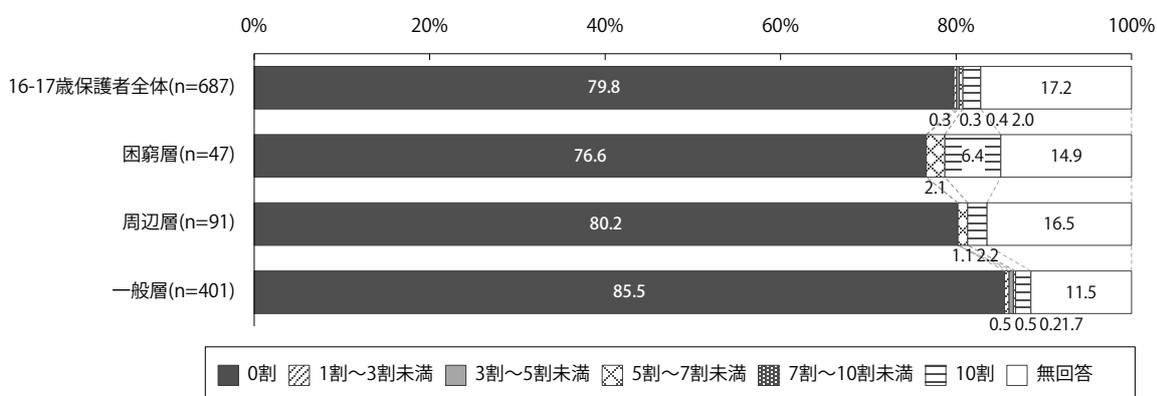


## H (このお子さんの) 携帯・スマートフォンの代金

【保護者票】

問 20-1 における、16-17 歳の「携帯・スマートフォンの代金」の費用の平均は 6,262 円であった。その費用について、困窮層では 6.4%、周辺層では 2.2%、一般層では 1.7%が「10 割」を子どもが負担していると回答している。

### 問20-2 お子さんの負担割合／H (このお子さんの)携帯・スマートフォンの代金



# 第6章 子どもの学びと学校生活

## 1 学校について

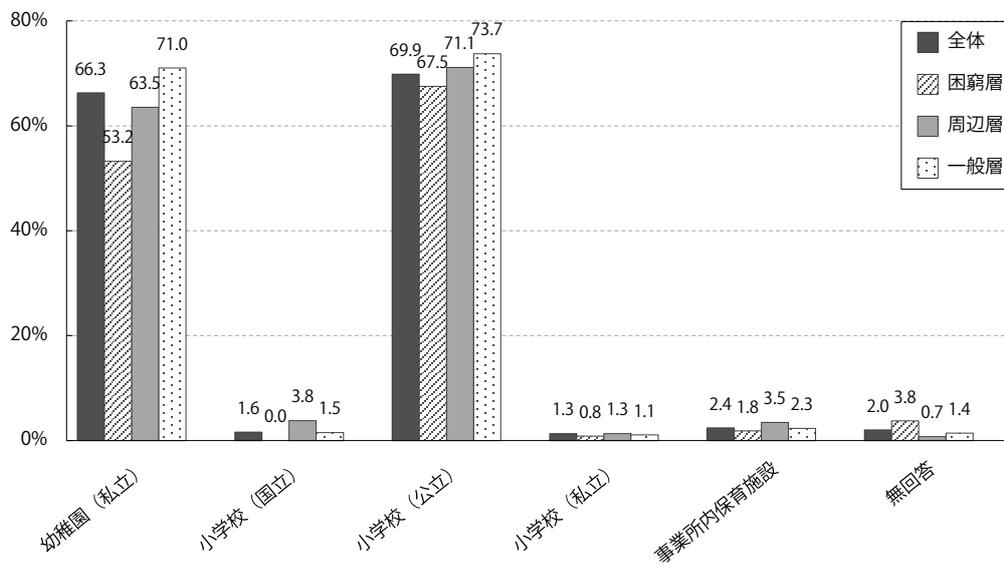
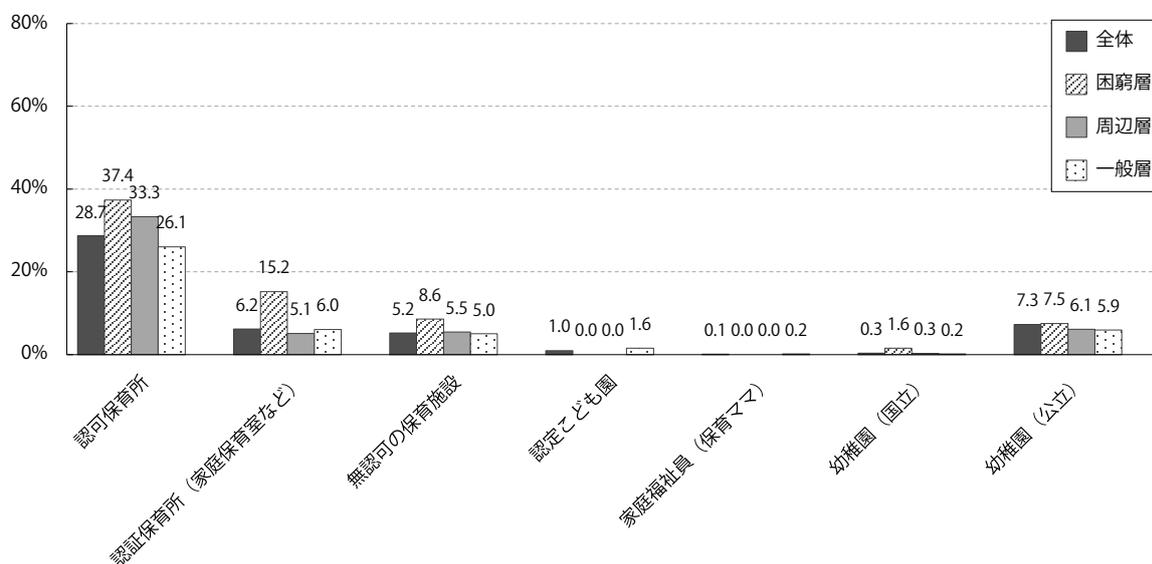
### (1) 子どもがこれまでに通った保育・教育機関

【保護者票】

小学5年生の、子どもがこれまでに通ったことのある保育・教育機関についてみると、認可保育所は困窮層で37.4%、周辺層で33.3%、一般層で26.1%となり、幼稚園（私立）は困窮層で53.2%、周辺層で63.5%、一般層で71.0%となっている。保育施設についてみると、認可、認証、無認可いずれも困難層の割合が高くなっている。

問12 子どもが通ったことのある保育・教育機関

#### 小学5年生

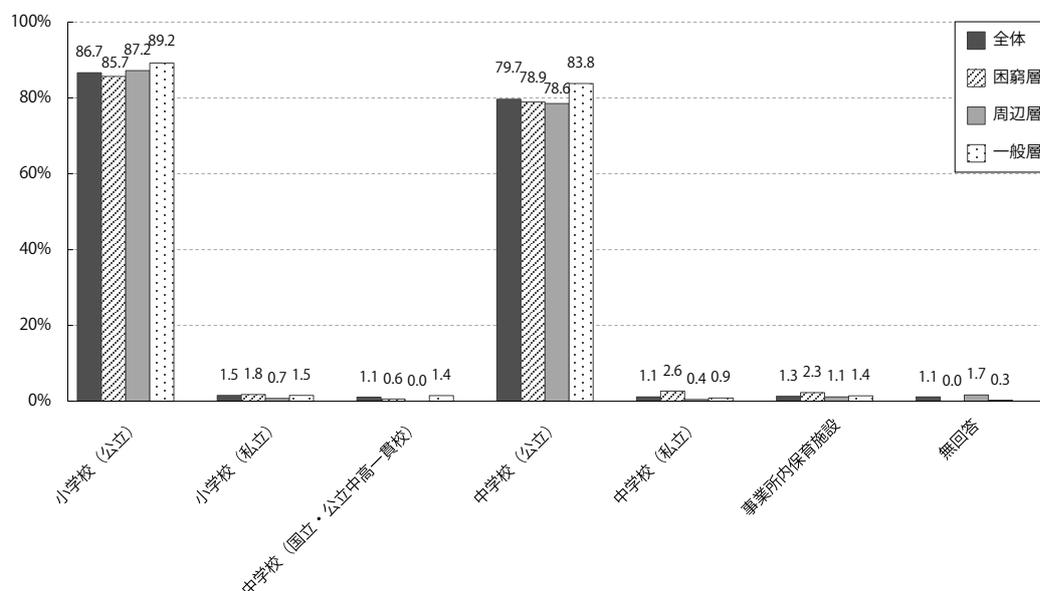
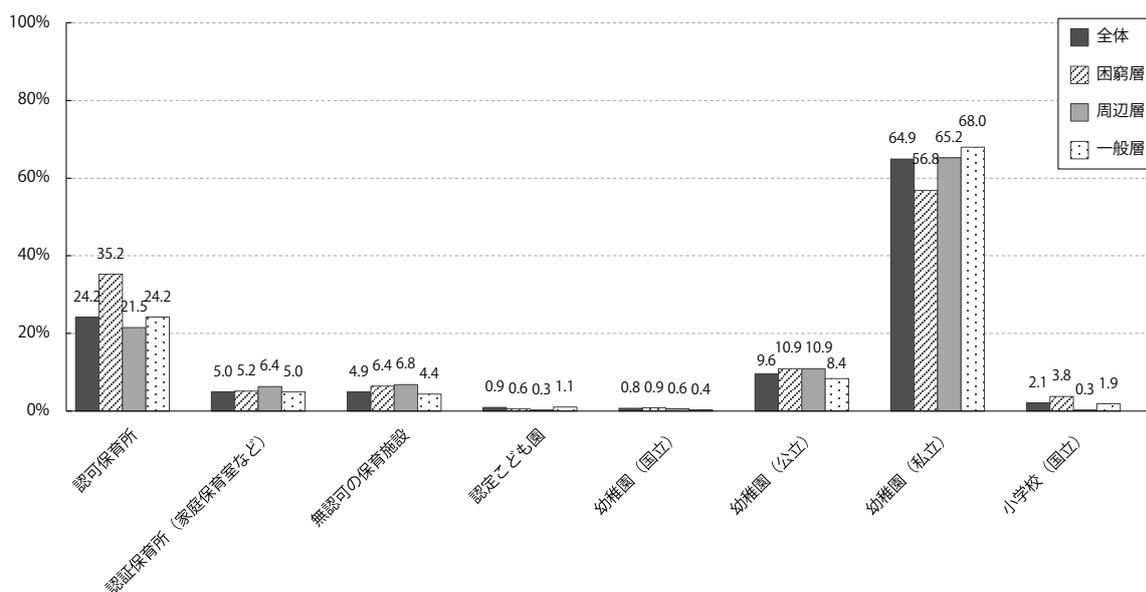


【保護者票】

中学2年生の、子どもがこれまでに通ったことのある保育・教育機関についてみると、認可保育所は困窮層で35.2%、周辺層で21.5%、一般層で24.2%となっている。幼稚園（私立）の生活困難度との相関関係は小学5年生と同様の傾向となっている。保育施設についてみると、認可保育所においては困難層で割合が高くなっているが、全体としては必ずしも生活困難度との明確な相関がみられない。

問12 子どもが通ったことのある保育・教育機関

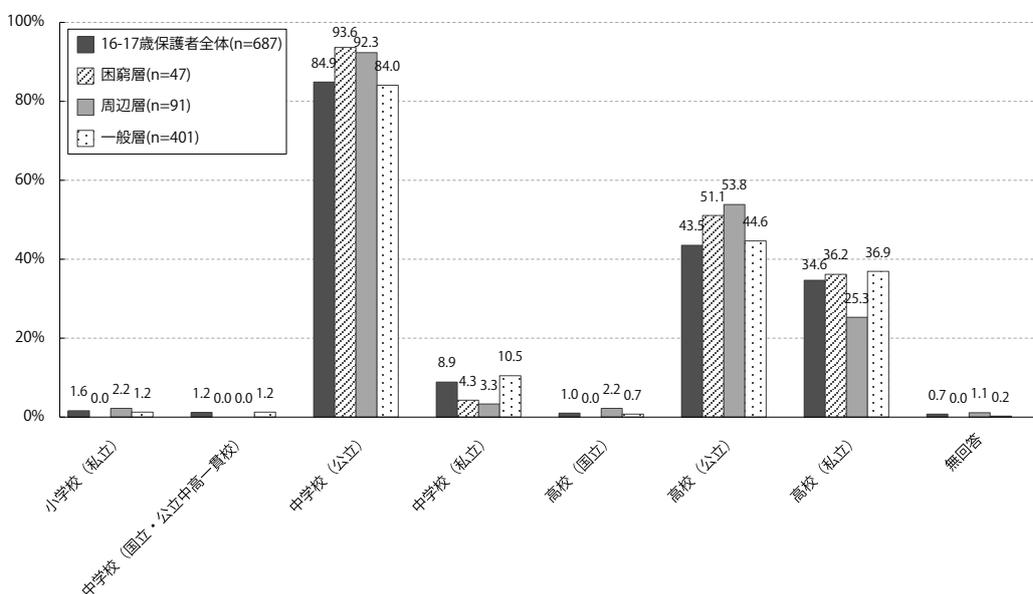
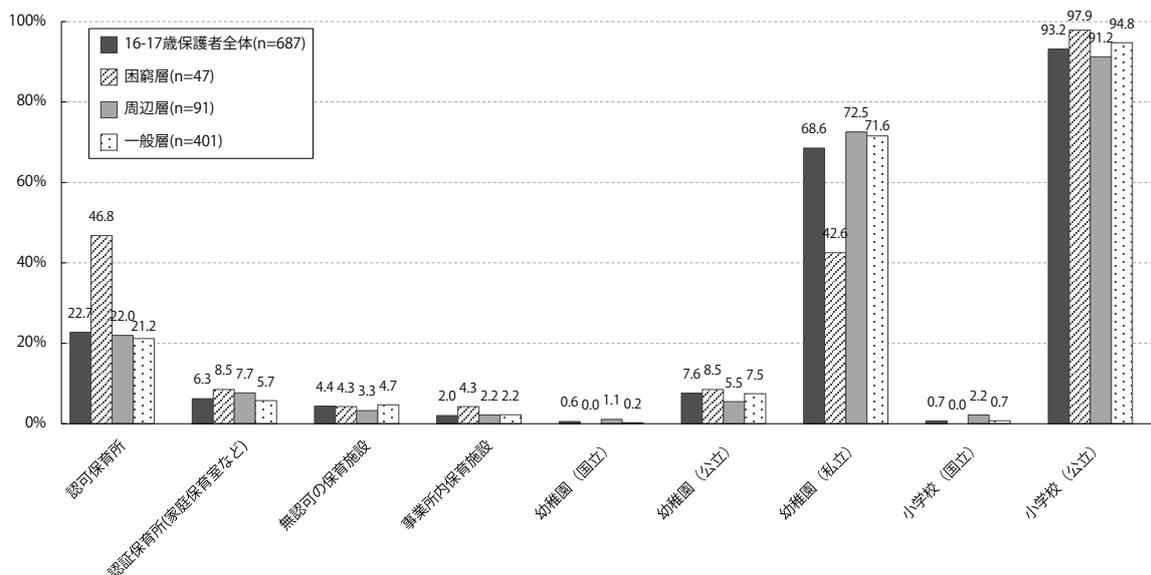
中学2年生



16-17歳の、子どもがこれまでに通ったことのある保育・教育機関について、中学校（公立）は困窮層で93.6%、周辺層で92.3%、一般層で84.0%となっている。中学校（私立）は困窮層で4.3%、周辺層で3.3%、一般層で10.5%となっている。

問14 子どもが通ったことのある保育・教育機関

16-17歳



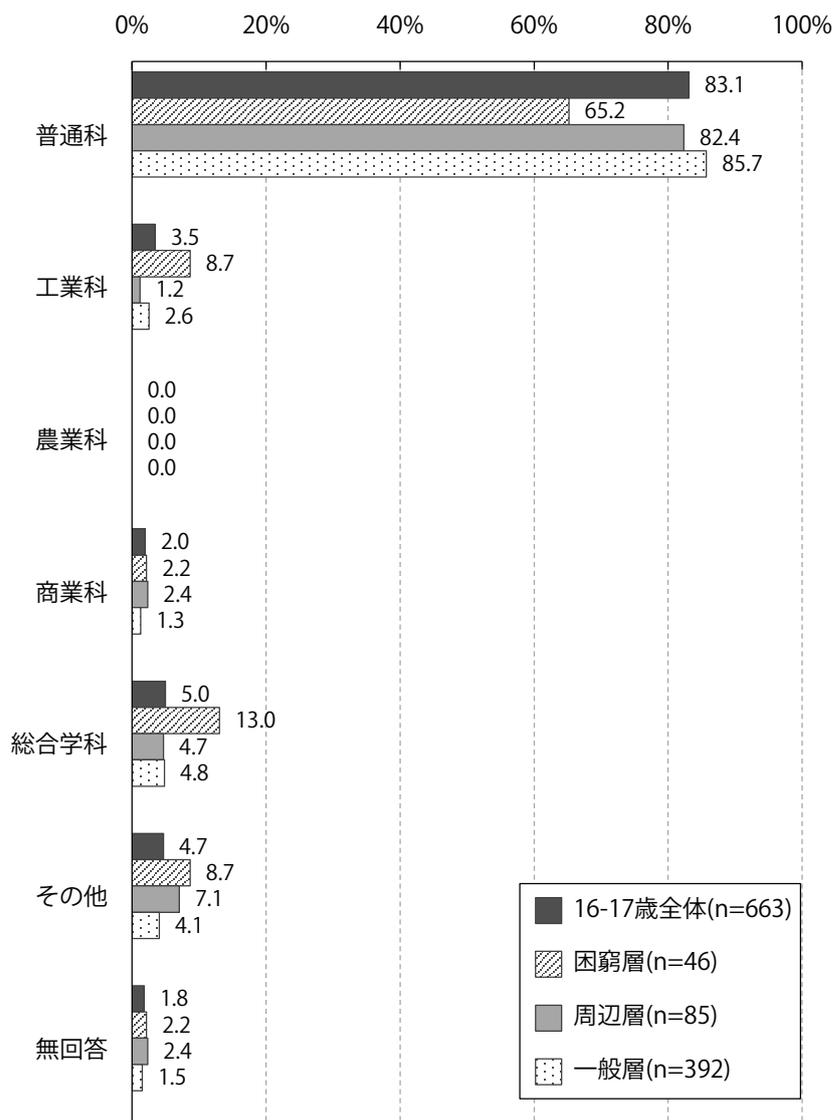
## (2) 16-17歳の就学の状況

【子ども票】

16-17歳の就学の状況について、「普通科」と回答した割合は、困窮層で65.2%、周辺層で82.4%、一般層で85.7%となっている。

「工業科」「総合学科」では困窮層がそれぞれ8.7%、13.0%で最も割合が高くなっている。

## 問2 現在、在籍している学校

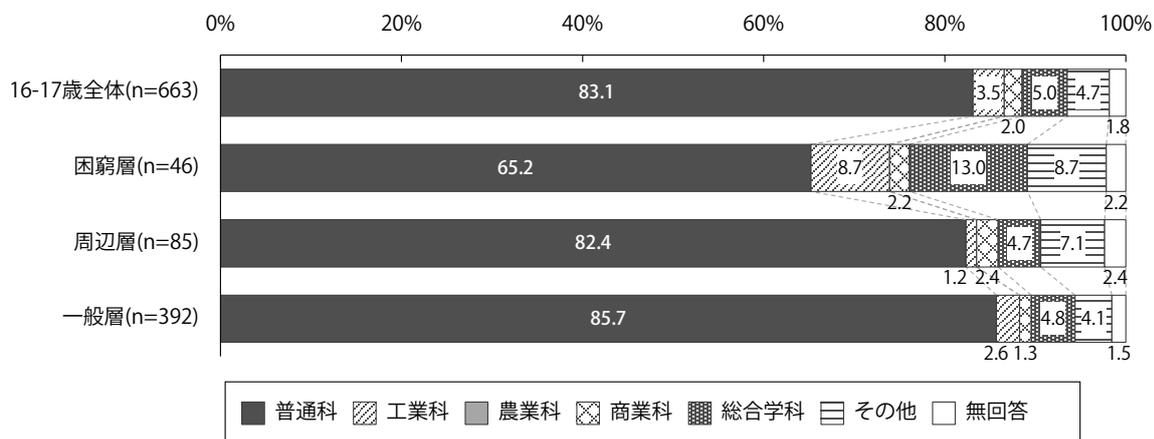


【子ども票】

16-17歳の在籍している（していた）高等学校等の学科について、「普通科」と回答した割合は、困窮層で65.2%、周辺層で82.4%、一般層で85.7%となっている。

「工業科」は困窮層が8.7%と割合が高くなっているが、これは問2と同様の結果である。

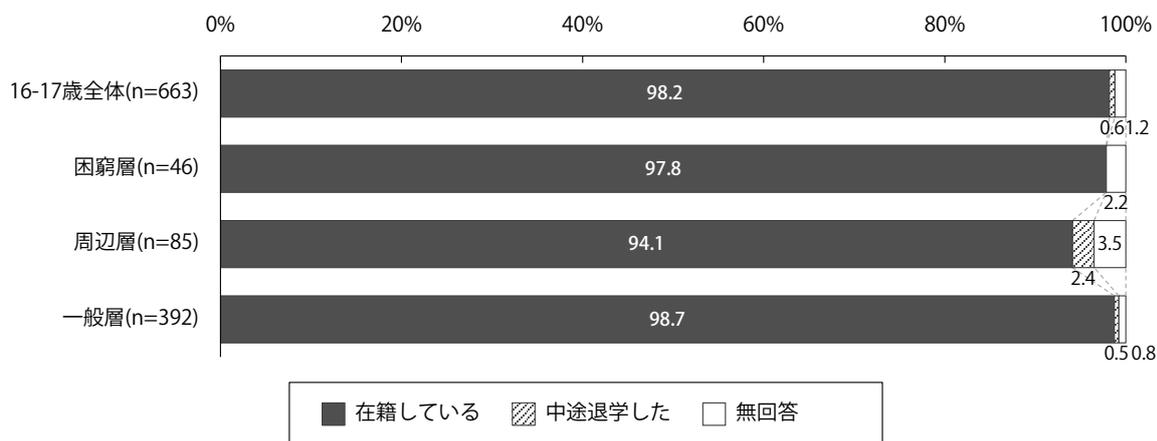
問30-1 在籍している(していた)高等学校等の学科



【子ども票】

高等学校等の、現在の在籍の状況では、周辺層で2.4%が「中途退学した」と回答している。

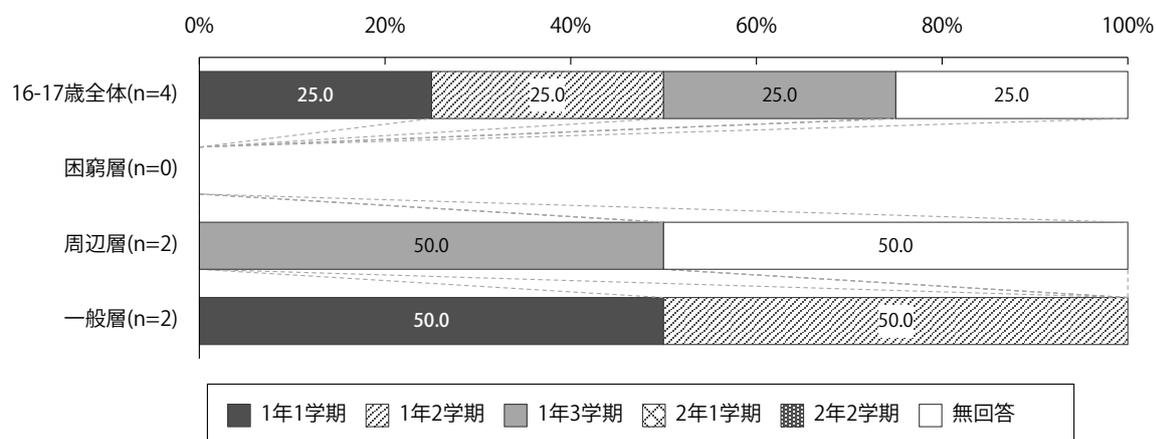
問30-2 その学校に、いまも在籍しているか



## 【子ども票】

中途退学をした時期については、周辺層、一般層とも母数（n）が2であり、有意性をもった分析は困難であるが、いずれも1年のうちに中途退学をしている。

## 問30-2 中途退学の時期

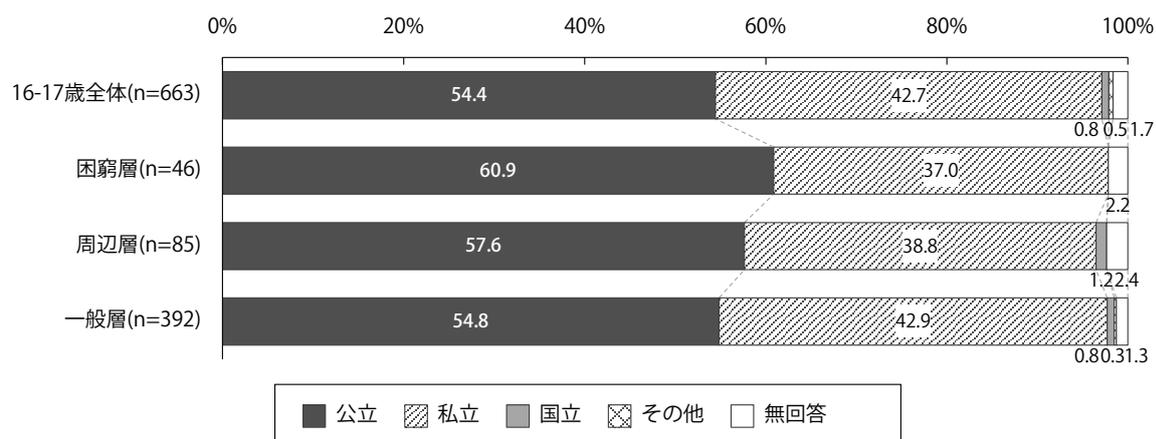


## 【子ども票】

16-17歳の学校の種類について、「公立」と回答した割合は、困窮層で60.9%、周辺層で57.6%、一般層で54.8%となっている。

一方、「私立」は生活困難度が高いほど割合がやや低くなっている。

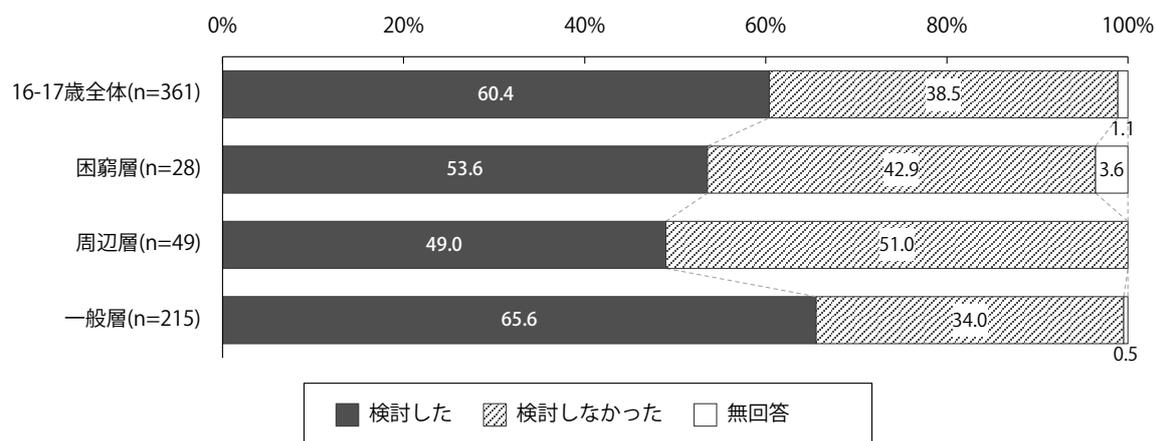
## 問30-3 学校の種類



進学の際、私立高校進学を検討したかについて、「検討した」と回答した割合は、16-17歳の困窮層で53.6%、周辺層で49.0%、一般層で65.6%となっている。

検討の有無については生活困難度との明確な相関はみられない。

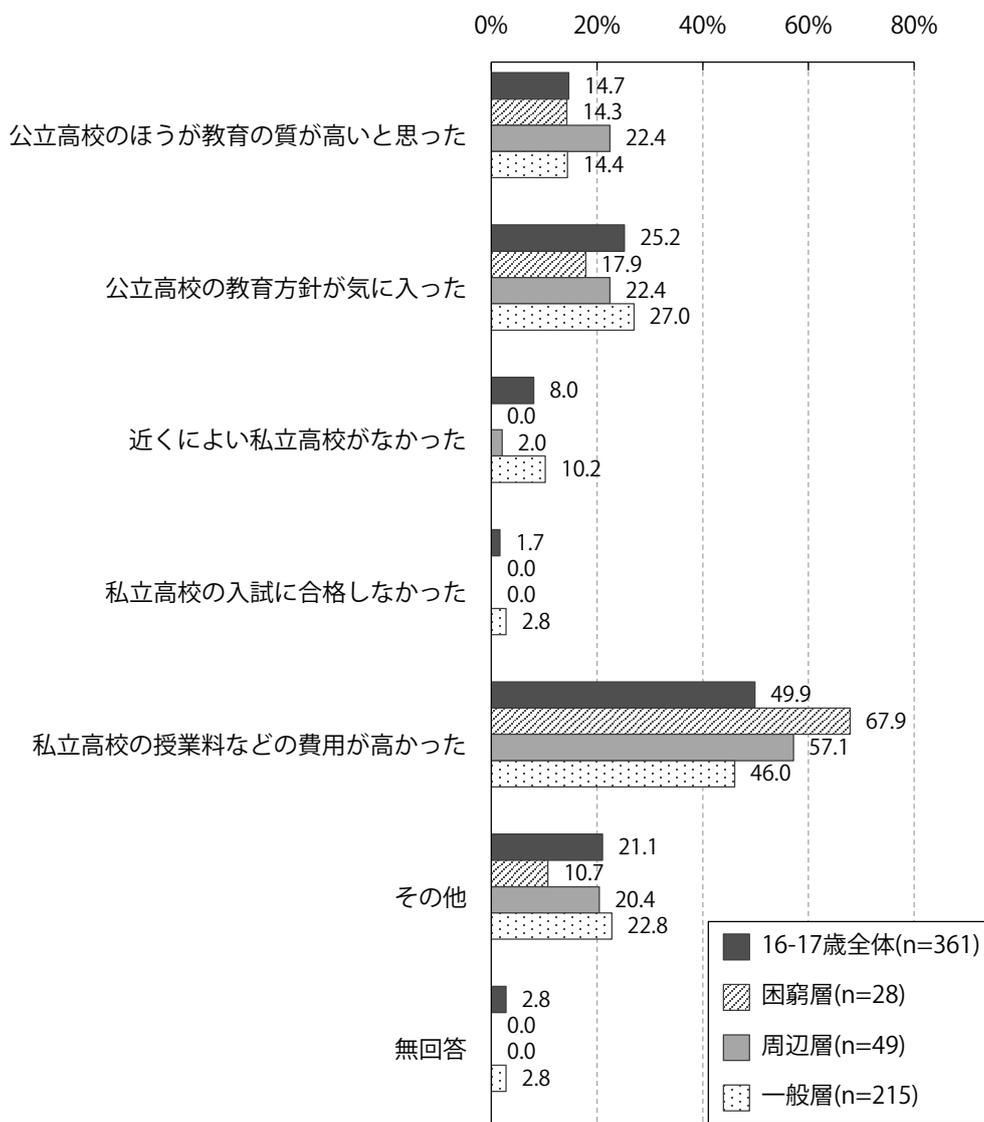
問30-4 私立高校進学を検討したか



## 【子ども票】

学校の種類で公立を選んだ理由について、「私立高校の授業料などの費用が高かった」と経済的な理由をあげた割合は、困窮層で67.9%、周辺層で57.1%、一般層で46.0%となっている。

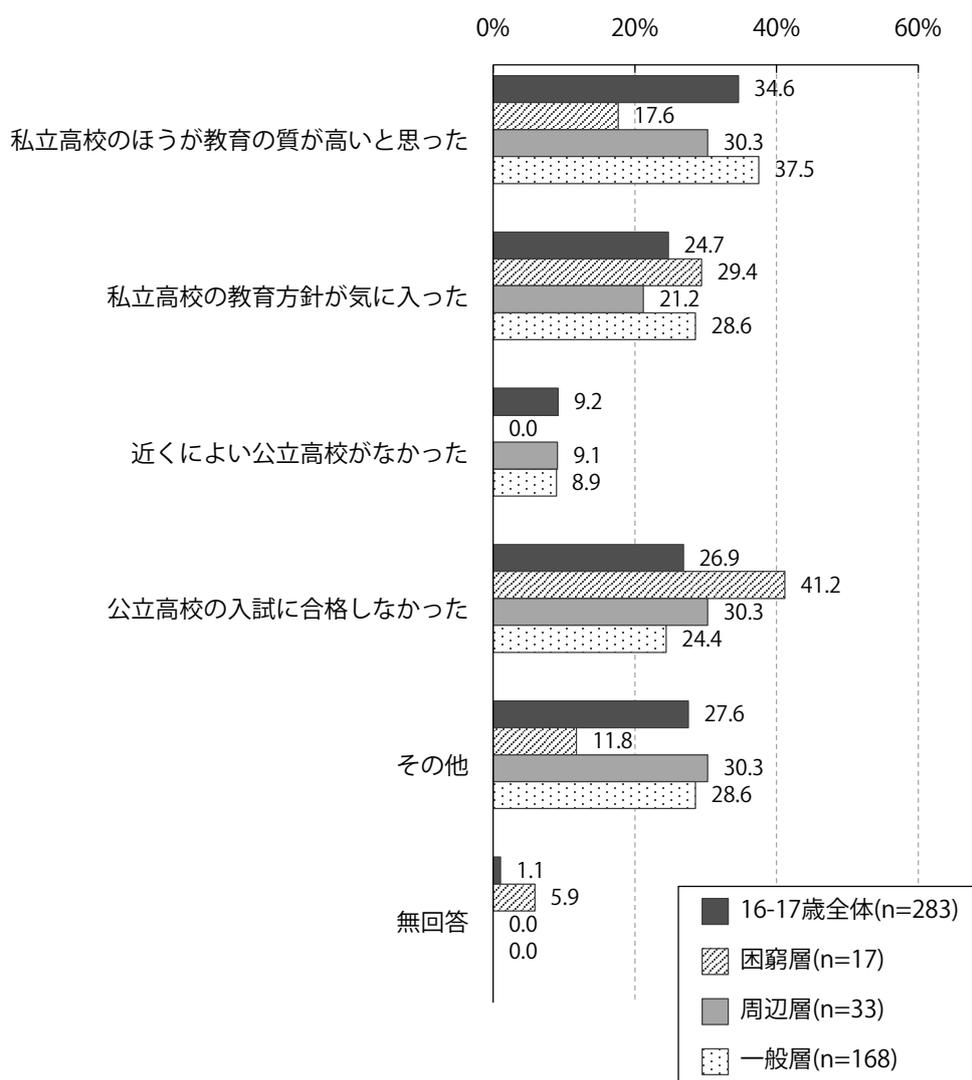
## 問30-5 公立高等学校に進学した理由



学校の種類で私立を選んだ理由について、「公立高校の入試に合格しなかった」と回答した割合は、困窮層で41.2%、周辺層で30.3%、一般層で24.4%となっている。

「私立高校のほうが教育の質が高いと思った」と回答した割合は、困窮層で17.6%、周辺層で30.3%、一般層で37.5%となっている。生活困難度により、教育の質ではなく、入試の合否による選択の理由が強くなるのがうかがえる。

問30-6 私立高等学校に進学した理由

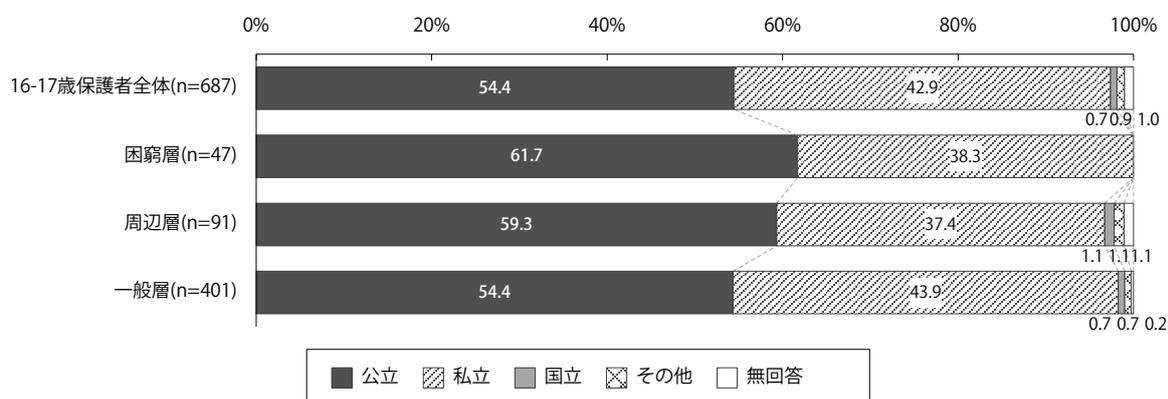


### (3) 16-17 歳子どもの進学先の選択

【保護者票】

16-17 歳の現在の学校の種類について、全体で 54.4%が「公立」、42.9%が「私立」と回答している。

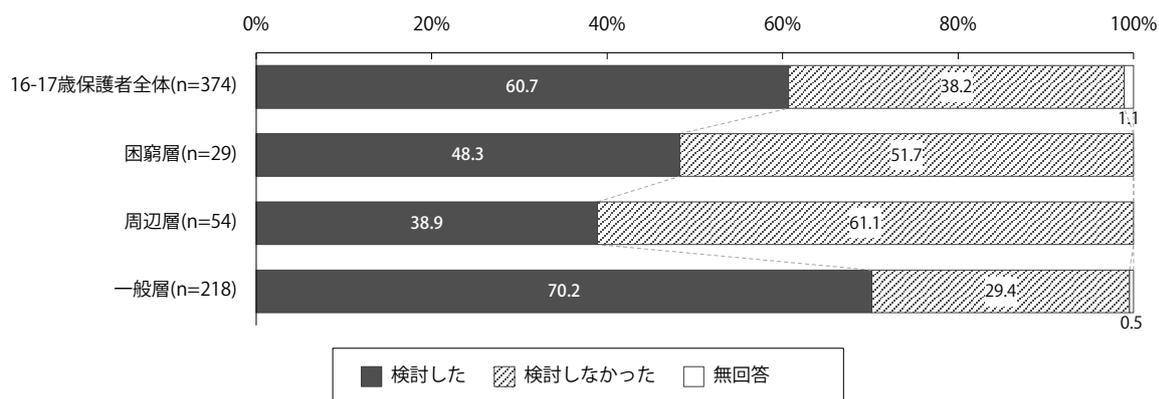
#### 問10-3 学校の種類



【保護者票】

公立に通っている 16-17 歳の保護者が、進学の際に私立高校に行くことを検討したかどうかについて、「検討した」と回答した割合は、困窮層で 48.3%、周辺層で 38.9%、一般層で 70.2%となっている。この点においては生活困難度との明確な相関はみられない。

#### 問10-4 進学の際に、私立高校に行くことを、検討したか

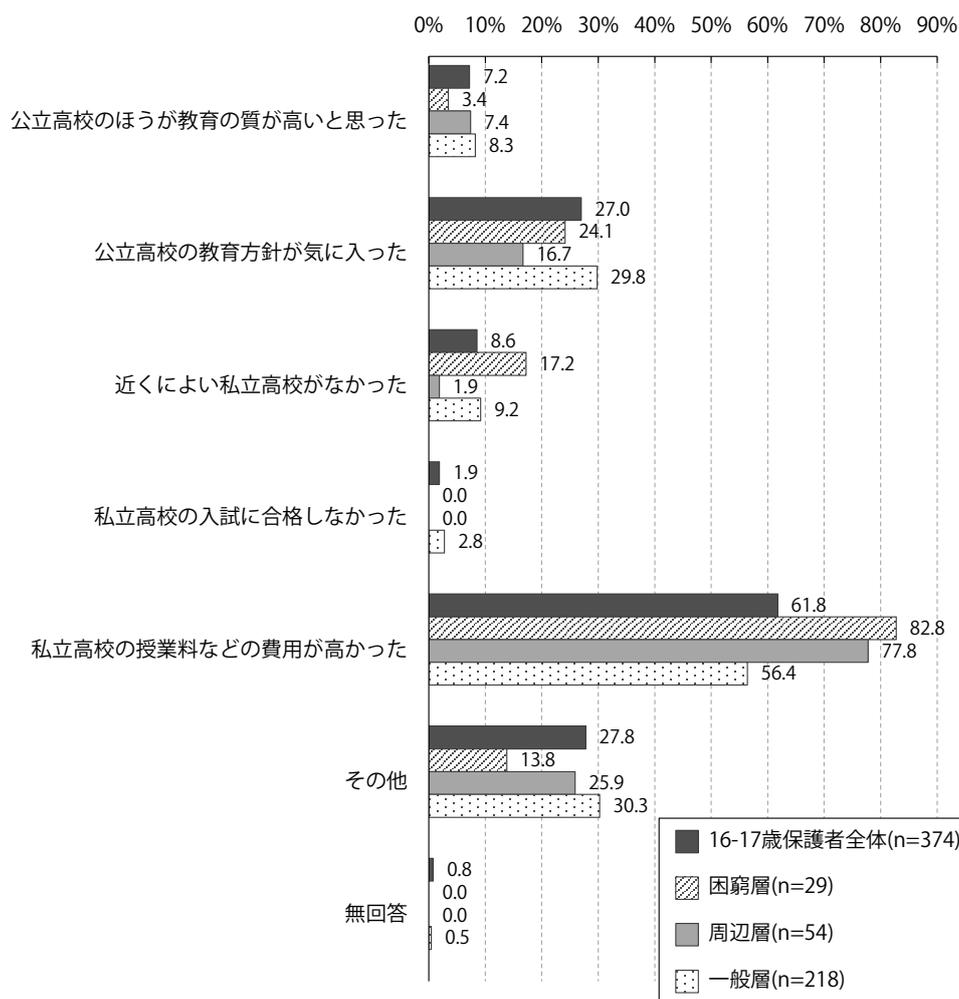


【保護者票】

公立の高等学校に進学した理由について、「私立高校の授業料などの費用が高かった」と経済的な理由をあげた割合は、困窮層で82.8%、周辺層で77.8%、一般層で56.4%となっている。

生活困難度との相関関係が、子ども票の問30-5で「私立高校の授業料などの費用が高かった」との回答と同様の傾向となっており、保護者の選択理由が子どもに影響した可能性も考えられる。

問10-5 公立の高等学校に進学した理由

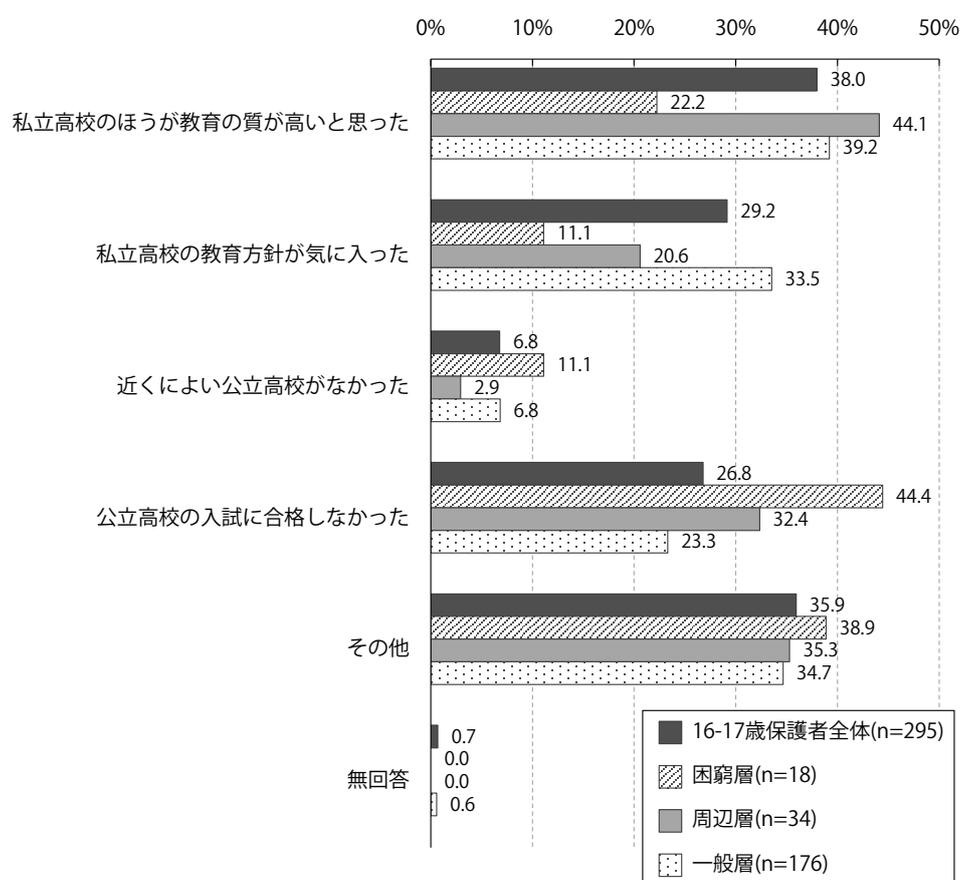


## 【保護者票】

学校の種類で私立を選んだ理由について、「公立高校の入試に合格しなかった」と回答した割合は、困窮層で44.4%、周辺層で32.4%、一般層で23.3%となっている。

「私立高校の教育方針が気に入った」と回答した割合は、困窮層で11.1%、周辺層で20.6%、一般層で33.5%となっている。生活困難度と入試の合否による選択の理由の関連性は子ども票と同様にみられるが、保護者においては、教育の方針からの私立高校の選択が生活困難度と関連性をもつ可能性がうかがえる。

## 問10-6 私立の高等学校に進学した理由

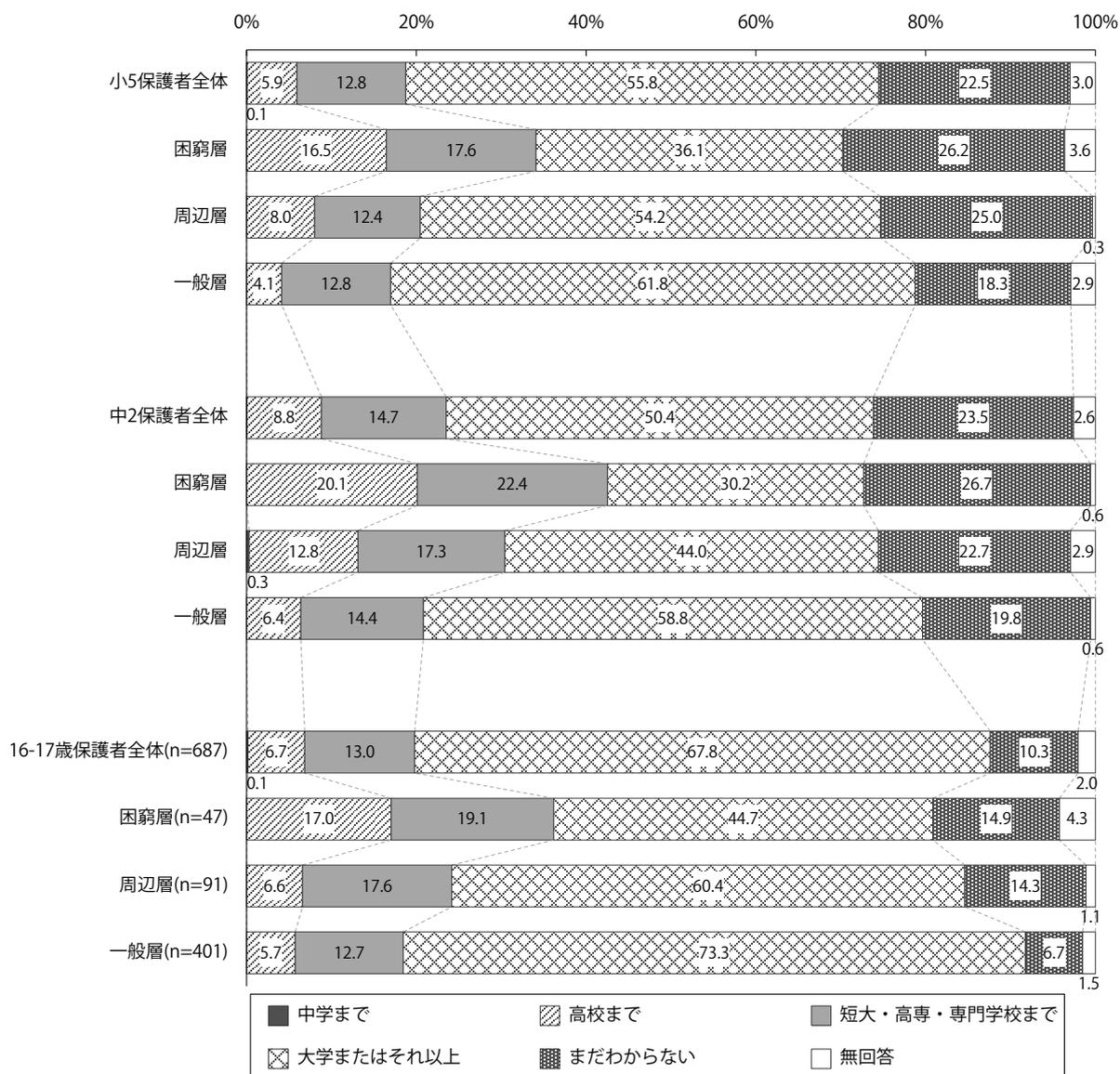


### (4) 子どもに受けさせたい教育段階

【保護者票】

子どもに受けさせたい教育段階について、「大学またはそれ以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.1%、周辺層で54.2%、一般層で61.8%、中学2年生の困窮層で30.2%、周辺層で44.0%、一般層で58.8%、16-17歳の困窮層で44.7%、周辺層で60.4%、一般層で73.3%となっている。

問13 子どもに受けさせたい教育段階



## 2 学校の成績

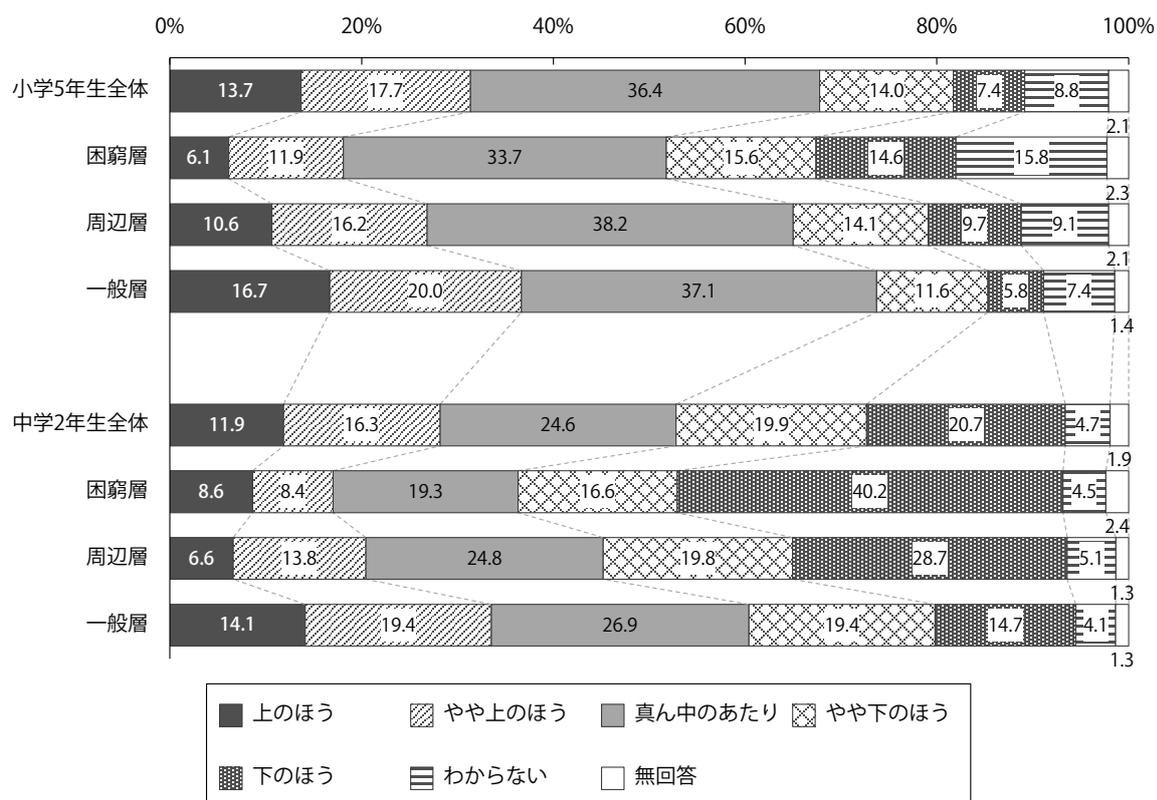
### (1) 成績の主観的評価

【子ども票】

自分の成績をどのように評価しているかについて、「上のほう」「やや上のほう」を合わせて『上のほう』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.0%、周辺層で26.8%、一般層で36.7%、中学2年生の困窮層で17.0%、周辺層で20.4%、一般層で33.5%となっている。

生活困難度が高いほど、成績の主観的評価が低くなっている。

問26 クラスの中での成績評価



## (2) 学校生活の楽しみ

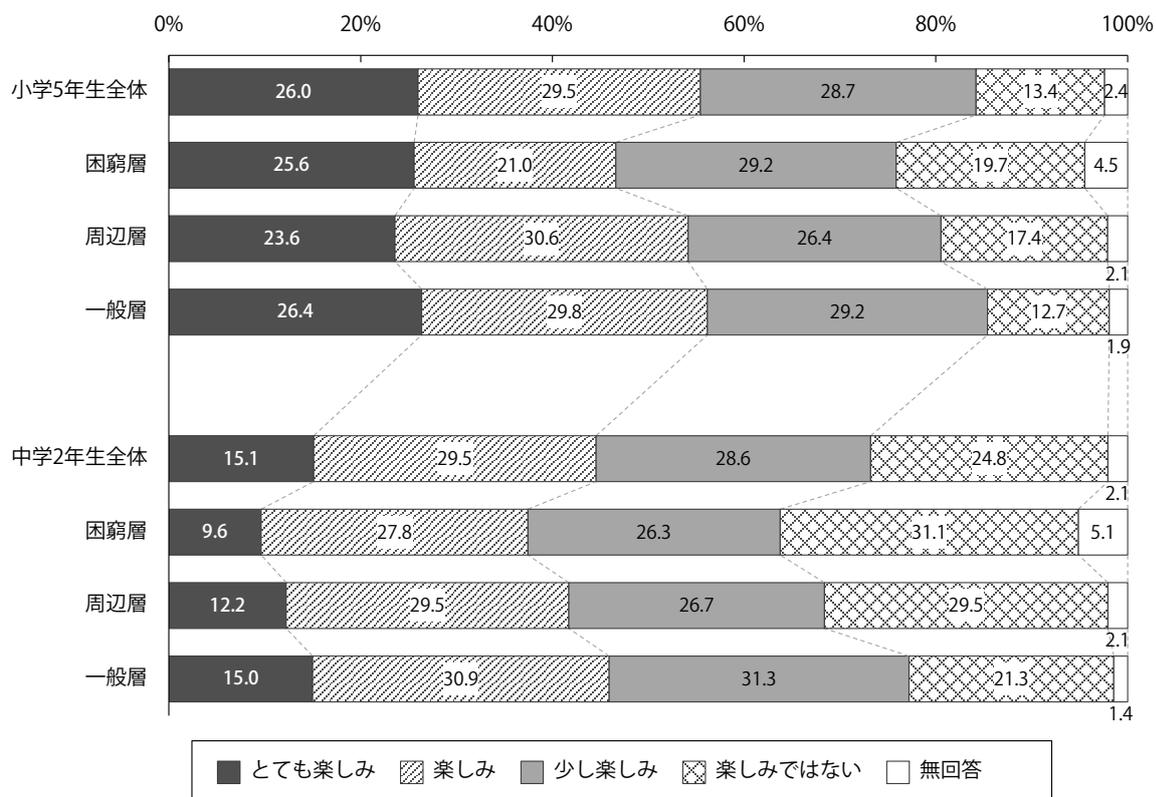
### A 学校の授業（体育・音楽・図工（美術）・（技術）家庭科以外）

【子ども票】

体育や音楽、図工・家庭科以外の学校の授業について「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で46.6%、周辺層で54.2%、一般層で56.2%、中学2年生の困窮層で37.4%、周辺層で41.7%、一般層で45.9%となっている。

生活困難度が高いほど、楽しみとする割合が低くなっている。

問23 学校生活の楽しみ／A 学校の授業（体育・音楽・図工・家庭科以外）

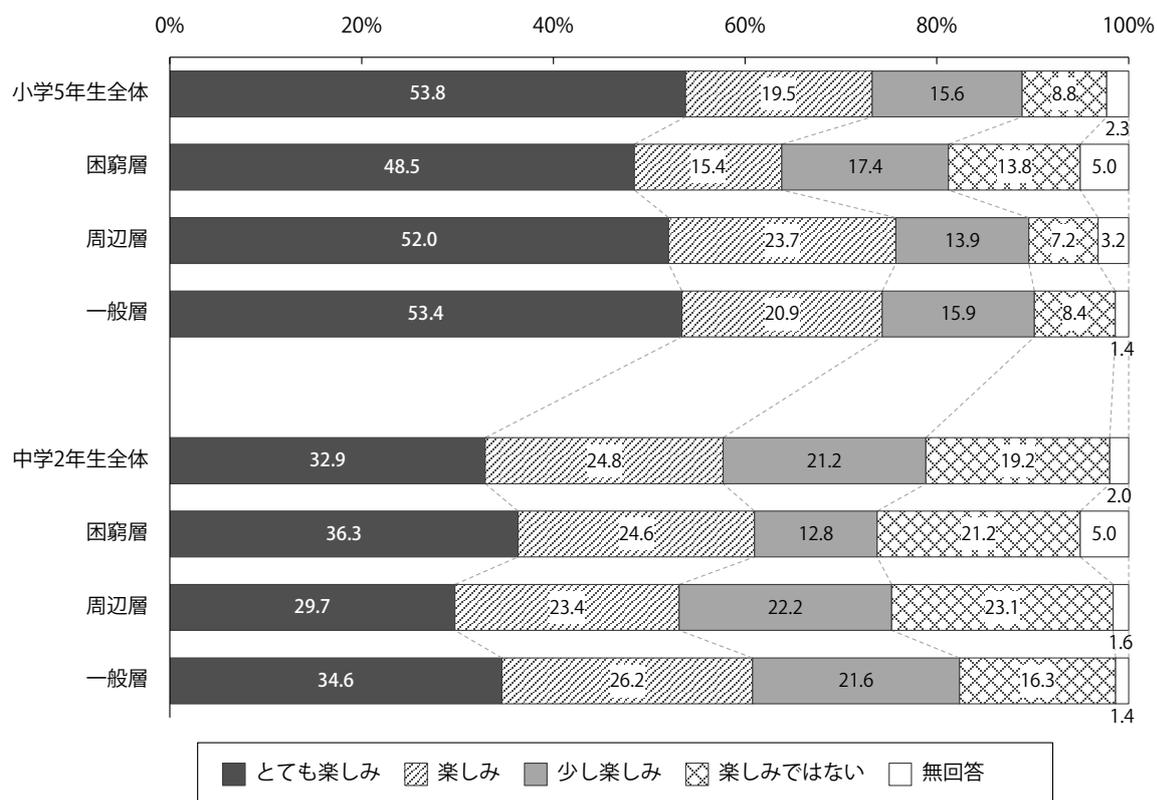


## B 体育／保健体育

【子ども票】

体育／保健体育について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で63.9%、周辺層で75.7%、一般層で74.3%、中学2年生の困窮層で60.9%、周辺層で53.1%、一般層で60.8%となっている。

問23 学校生活の楽しみ／B 体育／保健体育

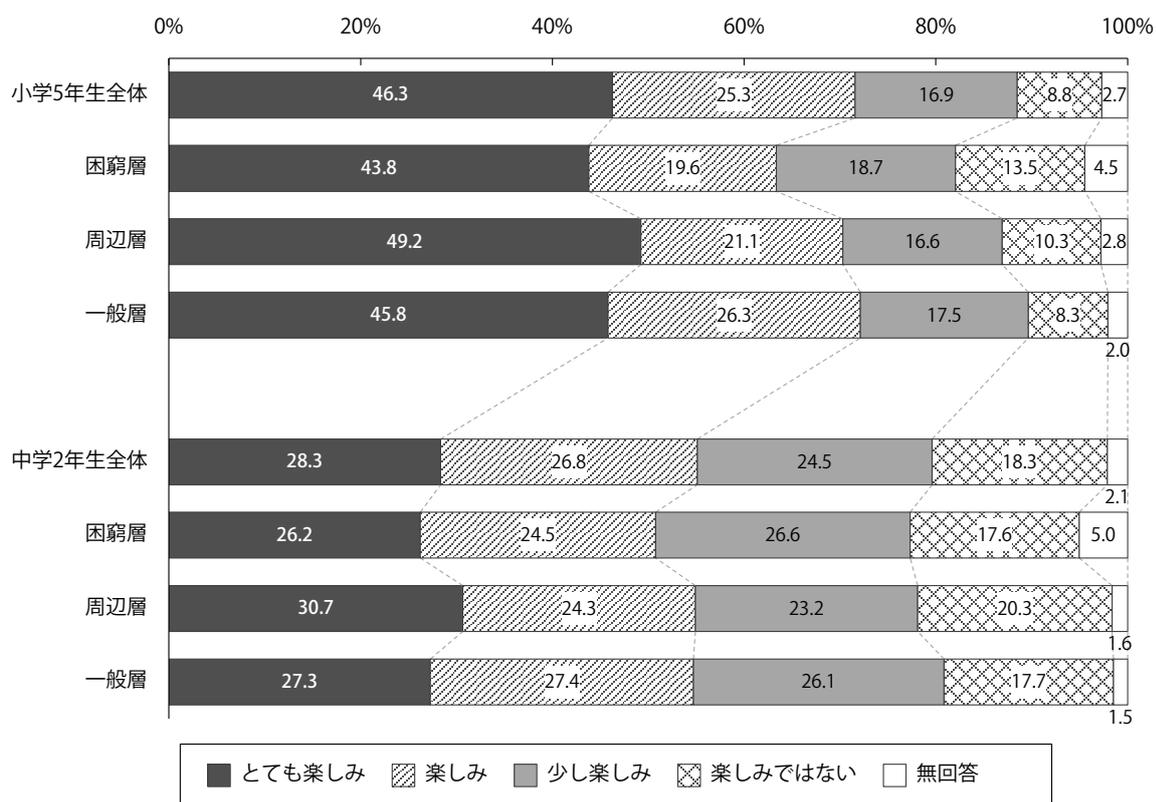


C 音楽

【子ども票】

音楽について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で63.4%、周辺層で70.3%、一般層で72.1%、中学2年生の困窮層で50.7%、周辺層で55.0%、一般層で54.7%となっている。

問23 学校生活の楽しみ／C 音楽

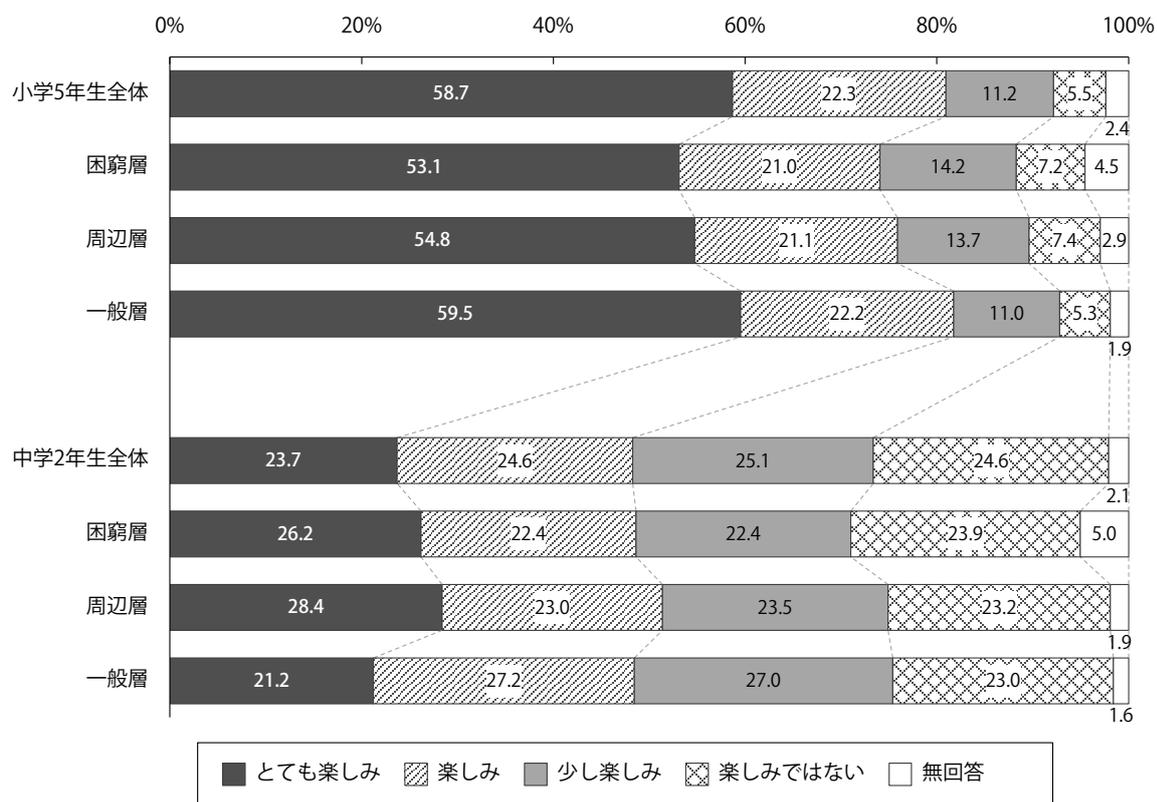


## D 図工／美術

【子ども票】

図工／美術について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で74.1%、周辺層で75.9%、一般層で81.7%、中学2年生の困窮層で48.6%、周辺層で51.4%、一般層で48.4%となっている。

問23 学校生活の楽しみ／D 図工／美術



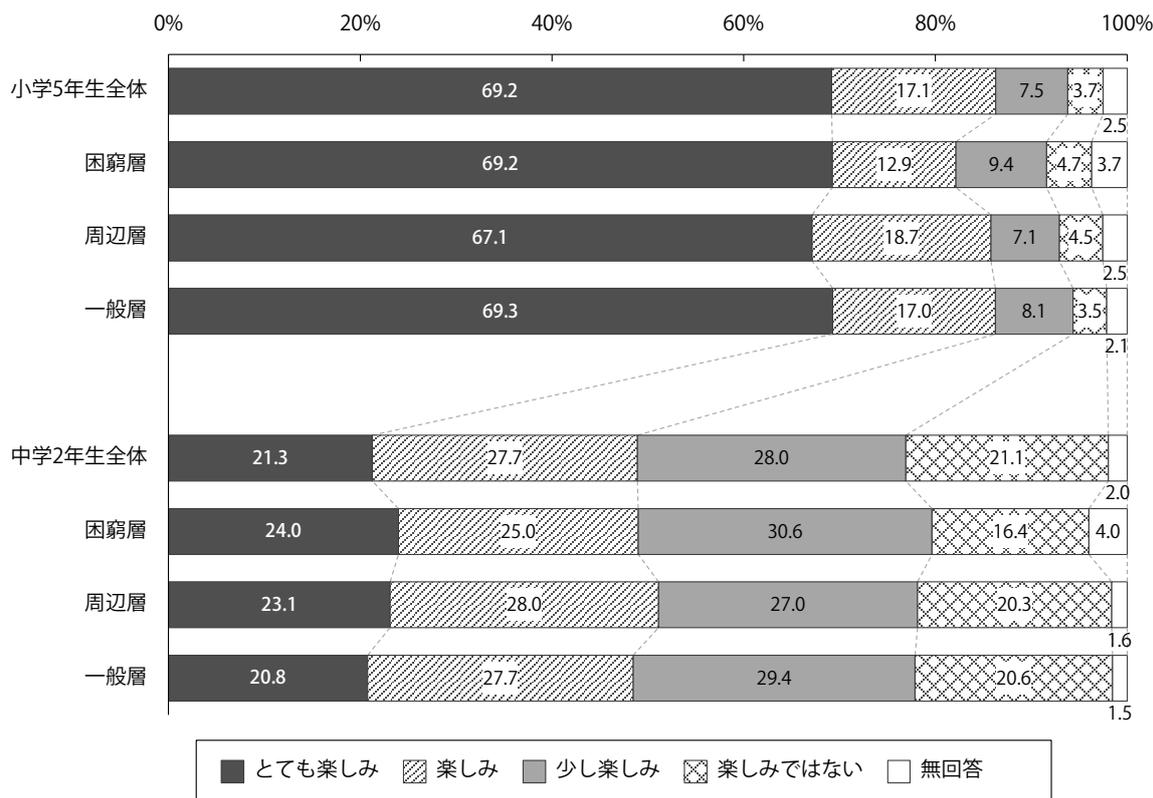
E 家庭科／技術・家庭科

【子ども票】

家庭科／技術・家庭科について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で82.1%、周辺層で85.8%、一般層で86.3%、中学2年生の困窮層で49.0%、周辺層で51.1%、一般層で48.5%となっている。

中学2年生の方が、全体的に『楽しみ』とする回答の割合が低くなっている。

問23 学校生活の楽しみ／E 家庭科／技術・家庭科



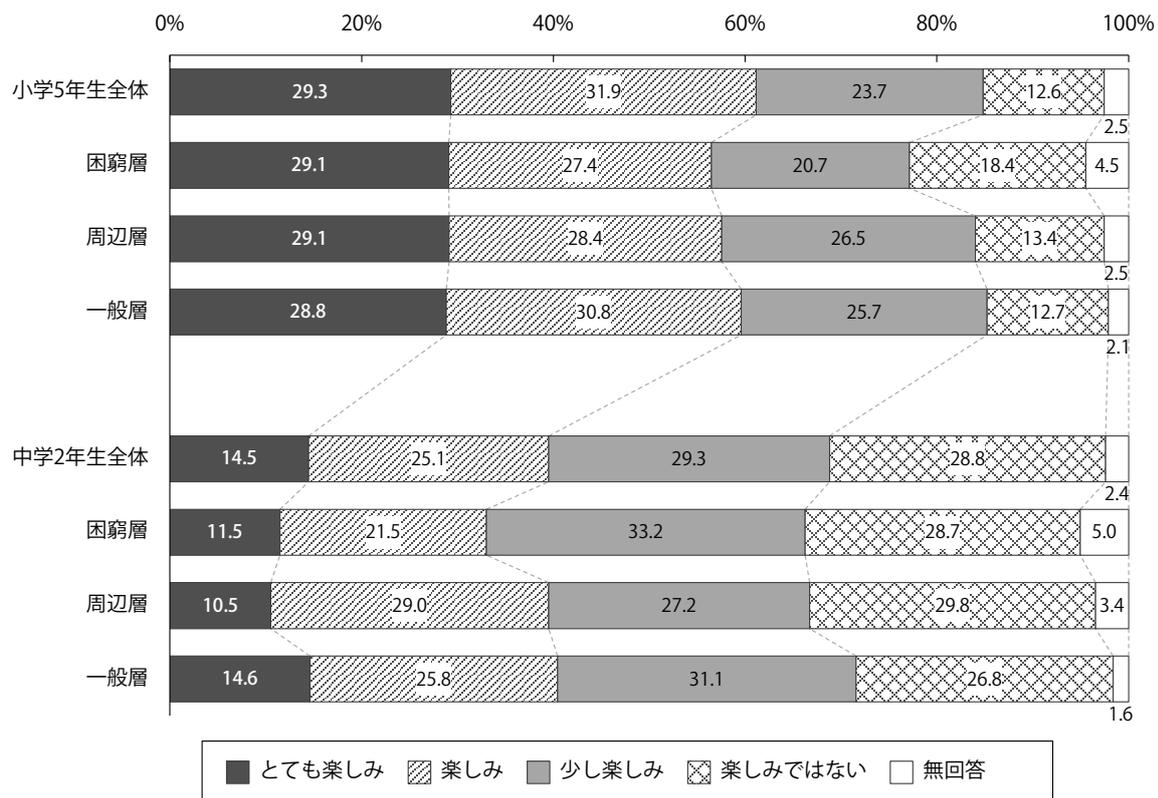
## F 先生に会うこと

【子ども票】

先生に会うことについて、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.5%、周辺層で57.5%、一般層で59.6%、中学2年生の困窮層で33.0%、周辺層で39.5%、一般層で40.4%となっている。

中学2年生の方が、全体的に『楽しみ』とする回答の割合が低くなっている。

問23 学校生活の楽しみ／F 先生に会うこと



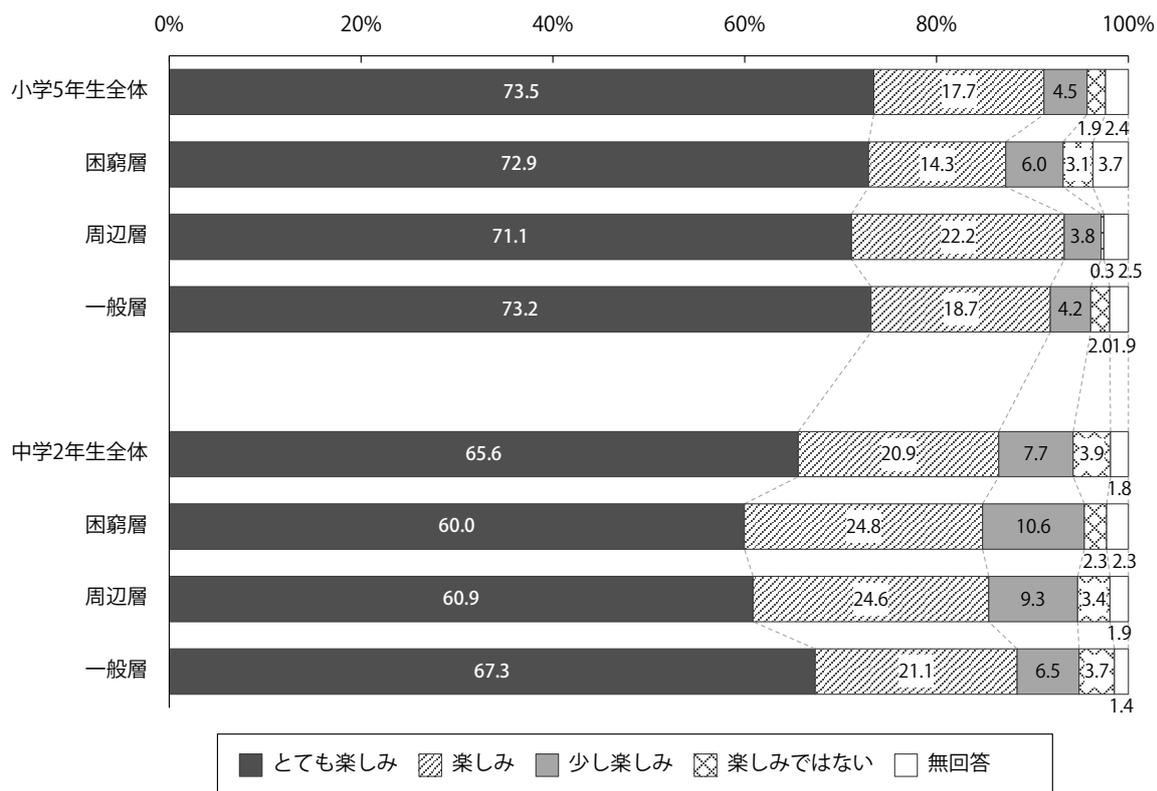
G 学校の友だちに会うこと

【子ども票】

学校の友だちに会うことについて、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で87.2%、周辺層で93.3%、一般層で91.9%、中学2年生の困窮層で84.8%、周辺層で85.5%、一般層で88.4%となっている。

どの層においても、「先生」よりも高い割合となっているが、困窮層では小学5年生、中学2年生とも、他の層よりも『楽しみ』とする割合が低い。

問23 学校生活の楽しみ／G 学校の友だちに会うこと

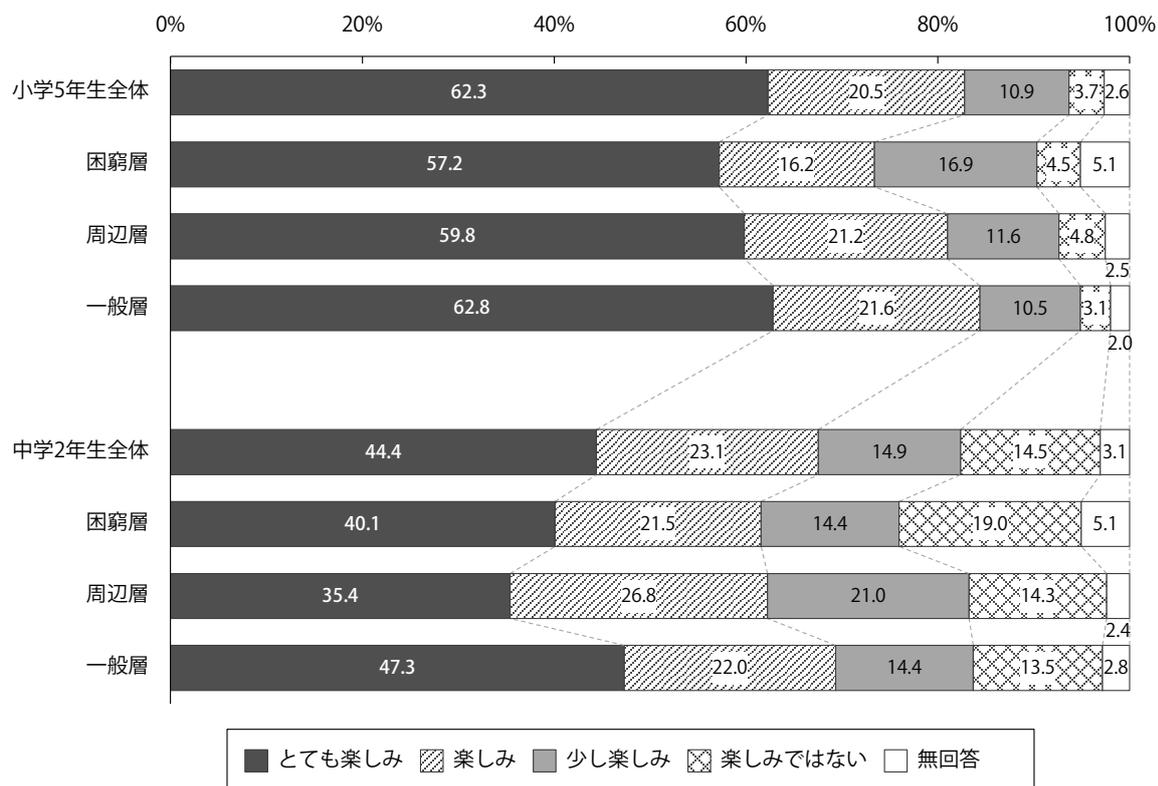


## H 学校のクラブ活動

【子ども票】

学校のクラブ活動について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で73.4%、周辺層で81.0%、一般層で84.4%、中学2年生の困窮層で61.6%、周辺層で62.2%、一般層で69.3%となっている。

問23 学校生活の楽しみ／H 学校のクラブ活動



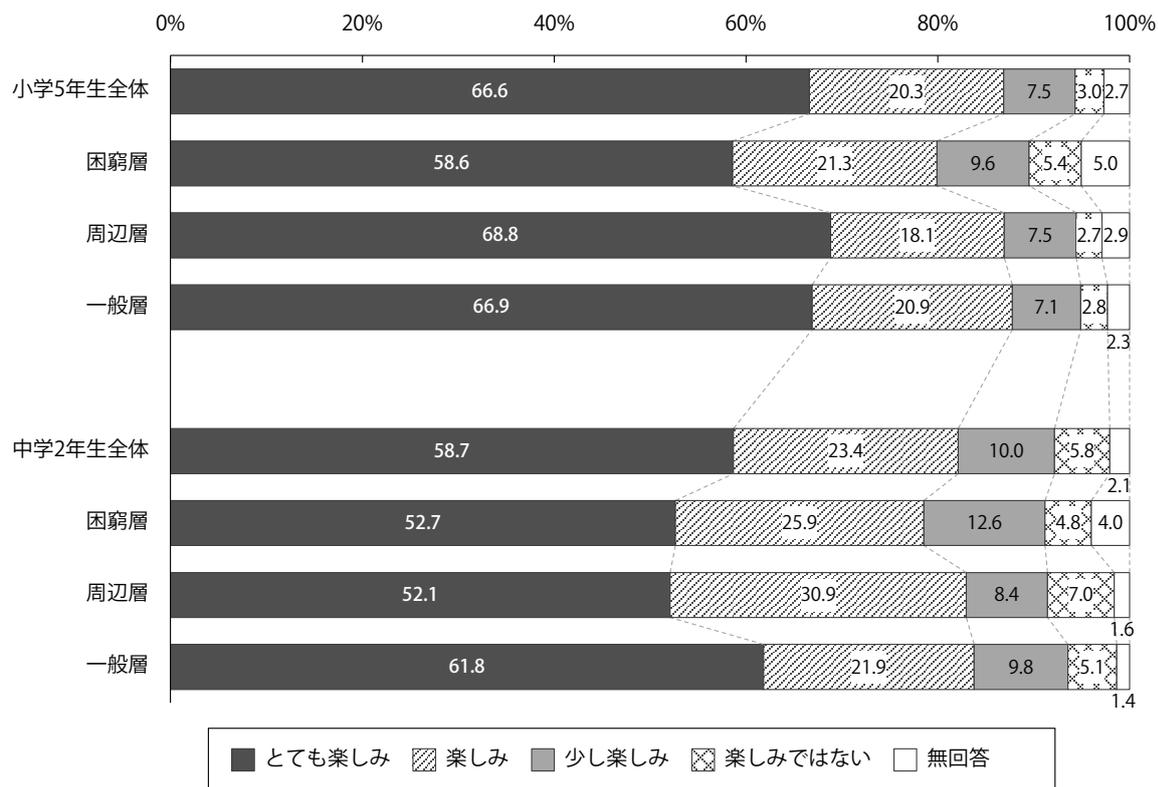
## Ⅰ 学校の休み時間

【子ども票】

学校の休み時間について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で79.9%、周辺層で86.9%、一般層で87.8%、中学2年生の困窮層で78.6%、周辺層で83.0%、一般層で83.7%となっている。

困窮層では小学5年生、中学2年生とも、他の層よりも『楽しみ』とする割合が低い。

問23 学校生活の楽しみ／1 学校の休み時間

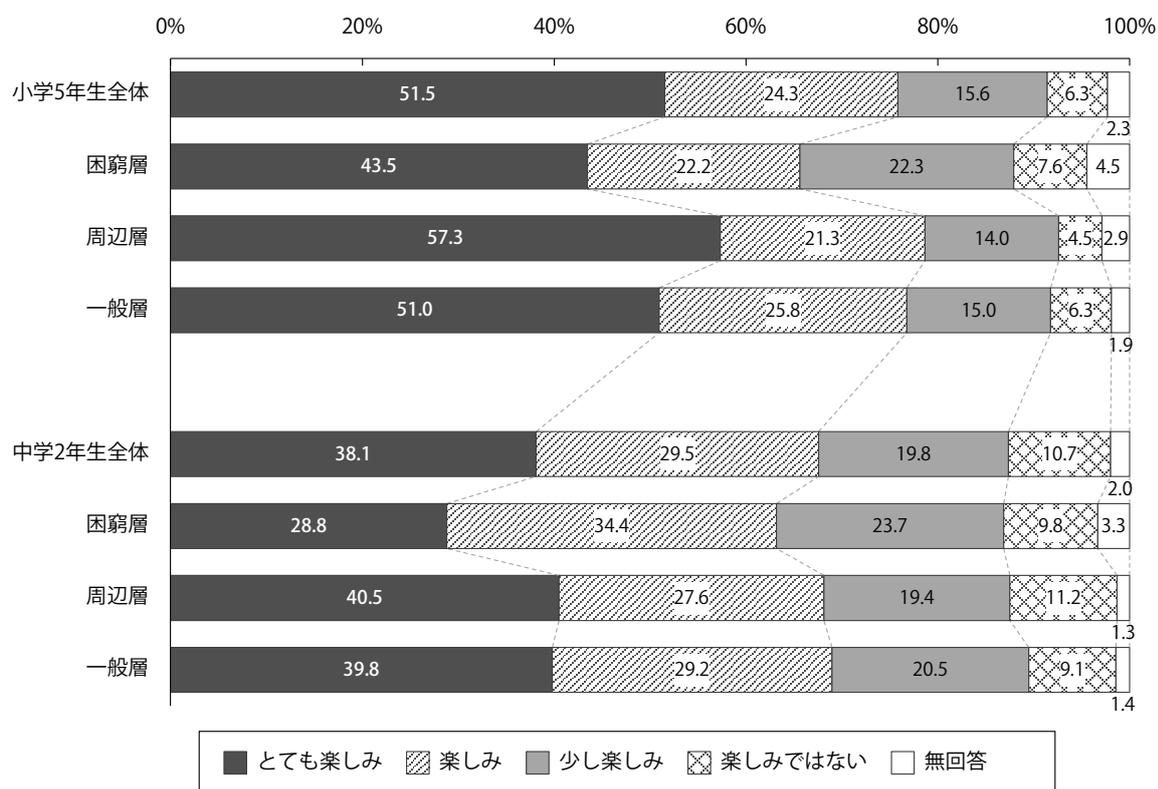


## J 学校の給食

【子ども票】

学校の給食について、「とても楽しみ」「楽しみ」を合わせて『楽しみ』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で65.7%、周辺層で78.6%、一般層で76.8%、中学2年生の困窮層で63.2%、周辺層で68.1%、一般層で69.0%となっている。

問23 学校生活の楽しみ／J 学校の給食

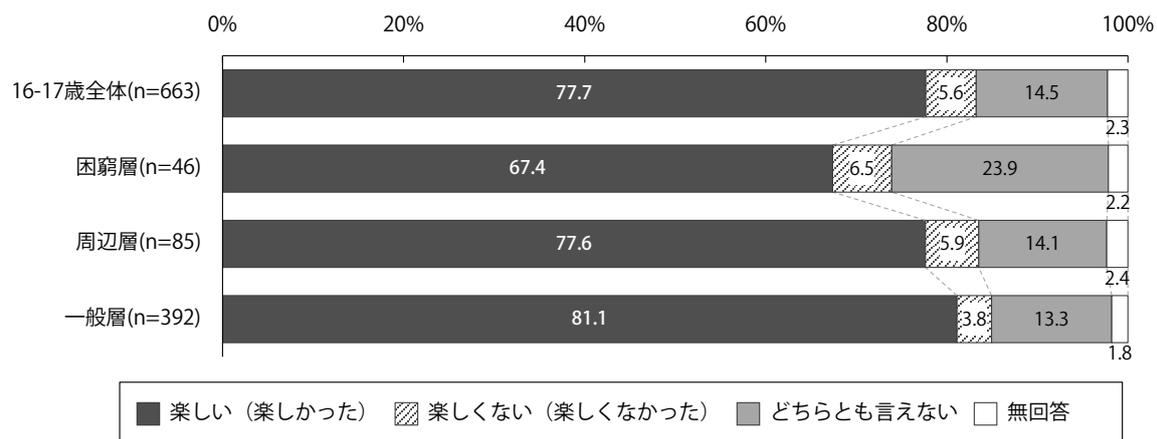


### (3) 16-17歳の学校生活

【子ども票】

16-17歳の、学校生活が楽しいか(楽しかったか)どうかについて、「楽しい(楽しかった)」と回答した割合は、困窮層で67.4%、周辺層で77.6%、一般層で81.1%となっている。生活困難度が高いほど、学校生活を「楽しい(楽しかった)」と感じていないことがうかがえる。

問31 あなたが在籍している(していた)学校は、あなたにとって楽しい(楽しかった)ですか



## (4) 得意教科

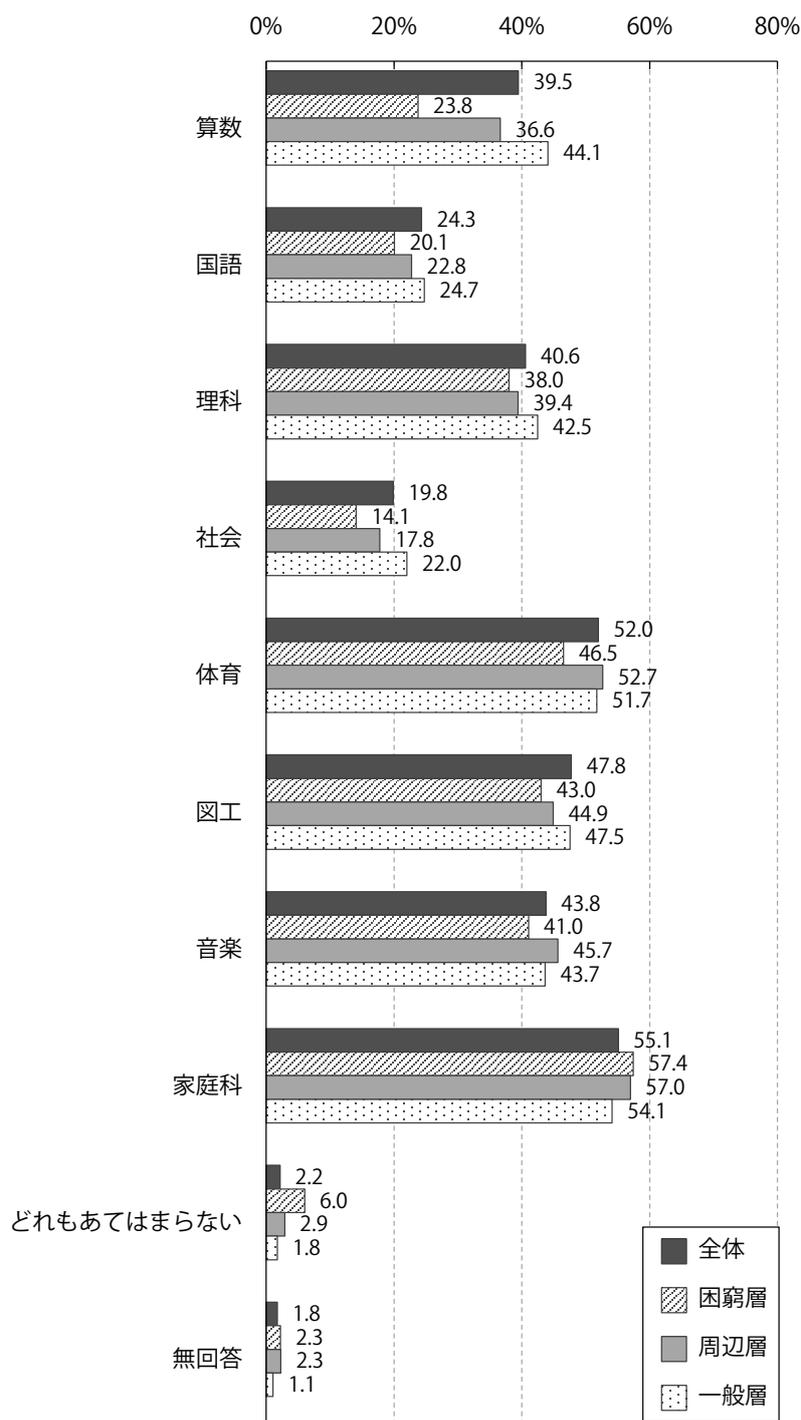
【子ども票】

小学5年生の得意教科では、生活困難度のどの層においても「家庭科」の割合が最も高く全体で55.1%となっている。

「算数」「国語」「理科」「社会」「図工」では、生活困難度が高いほど得意教科としてあげる割合が低くなっている。

問27 得意教科

小学5年生

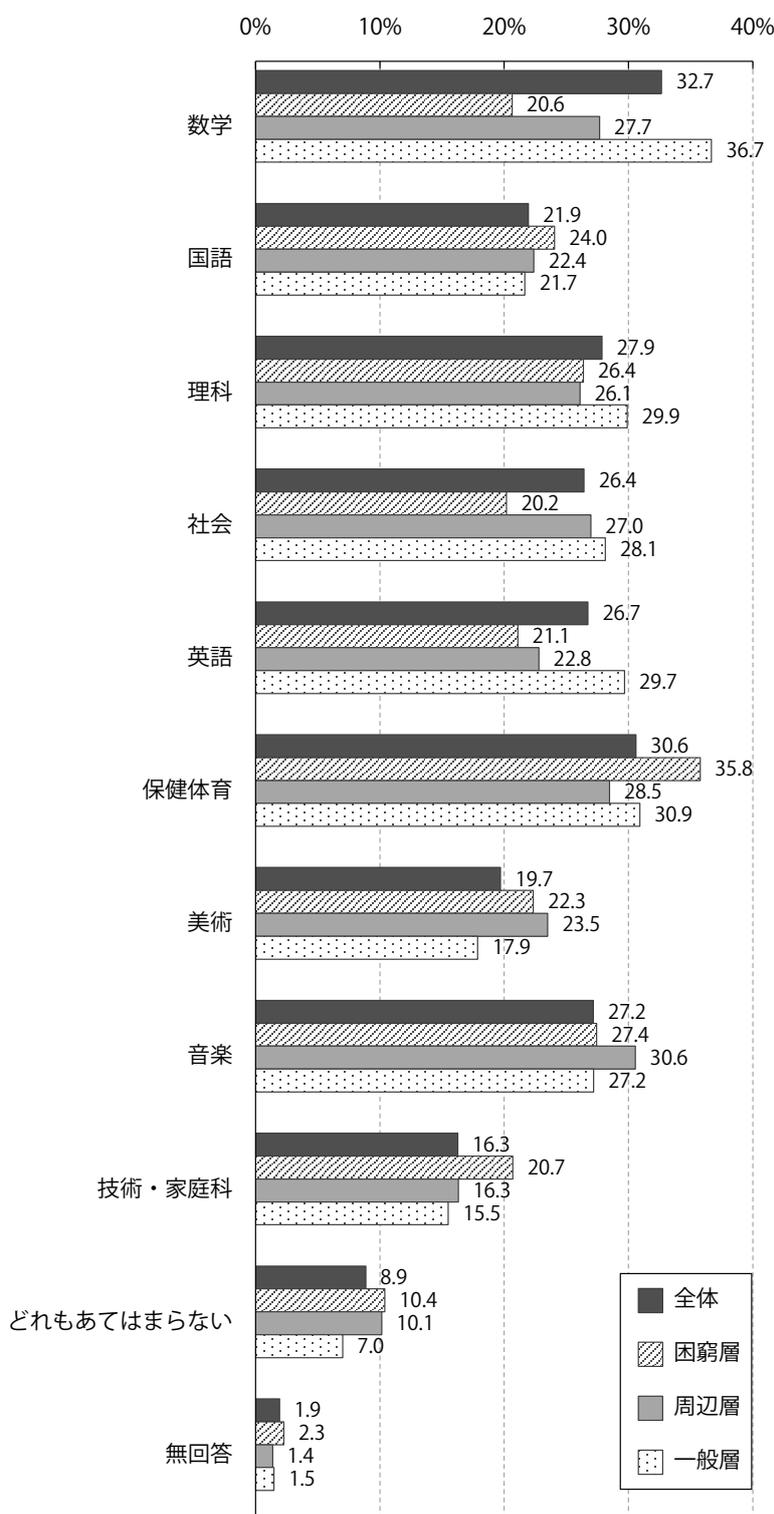


中学2年生の得意教科では、全体では「数学」が32.7%と最も割合が高く、一般層においては同じく「数学」が36.7%で最も高い。

生活困難度により、得意教科としてあげる割合が最も高いものが異なっており、困窮層では「保健体育」が35.8%、周辺層では「音楽」が30.6%で最も高くなっている。

問27 得意教科

中学2年生

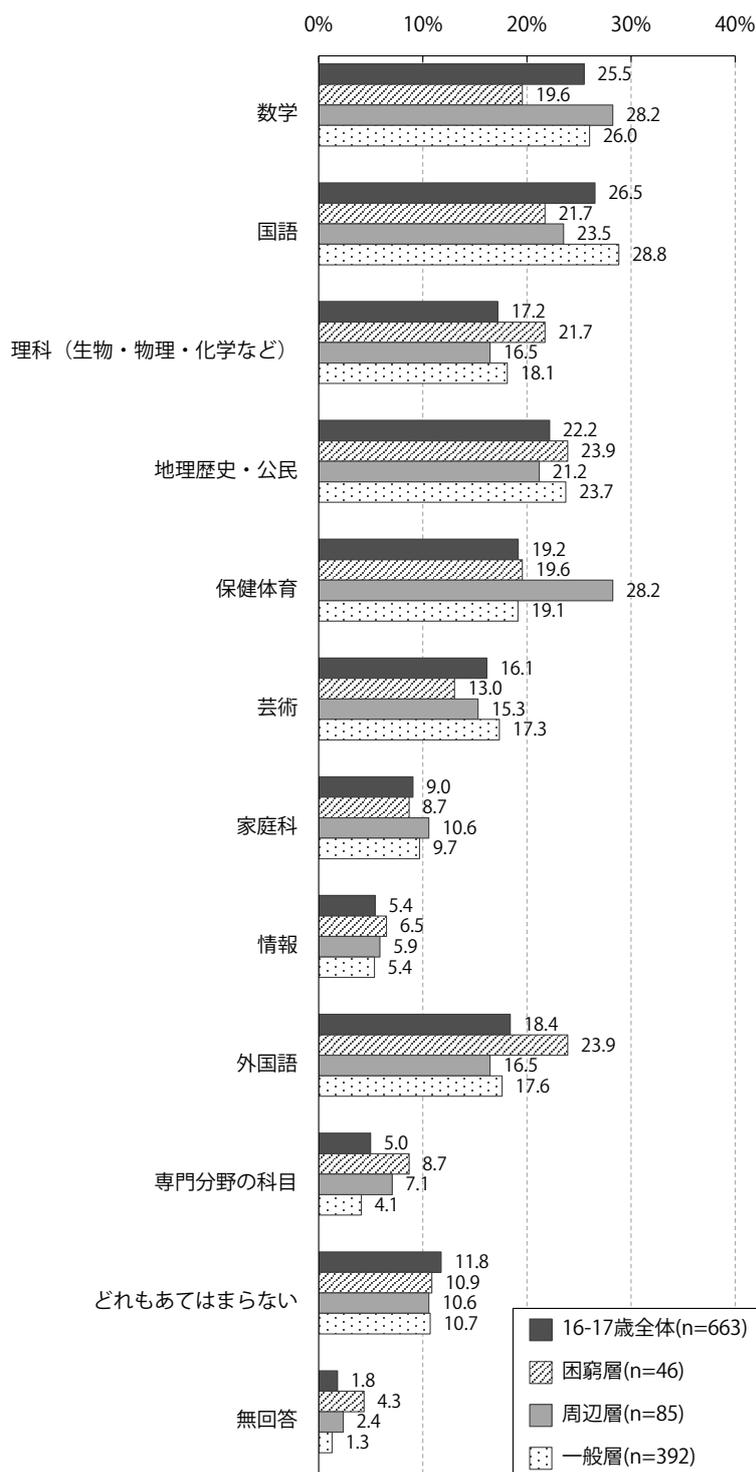


## 【子ども票】

16-17歳の得意教科では、全体では「国語」が26.5%と最も割合が高くなっているが、生活困難度により、得意教科としてあげる割合が最も高いものは異なっている。困窮層では「地理歴史・公民」「外国語」が23.9%、周辺層では「数学」「保健体育」が28.2%、一般層では「国語」が28.8%で最も高くなっている。

## 問32 得意教科

## 16-17歳



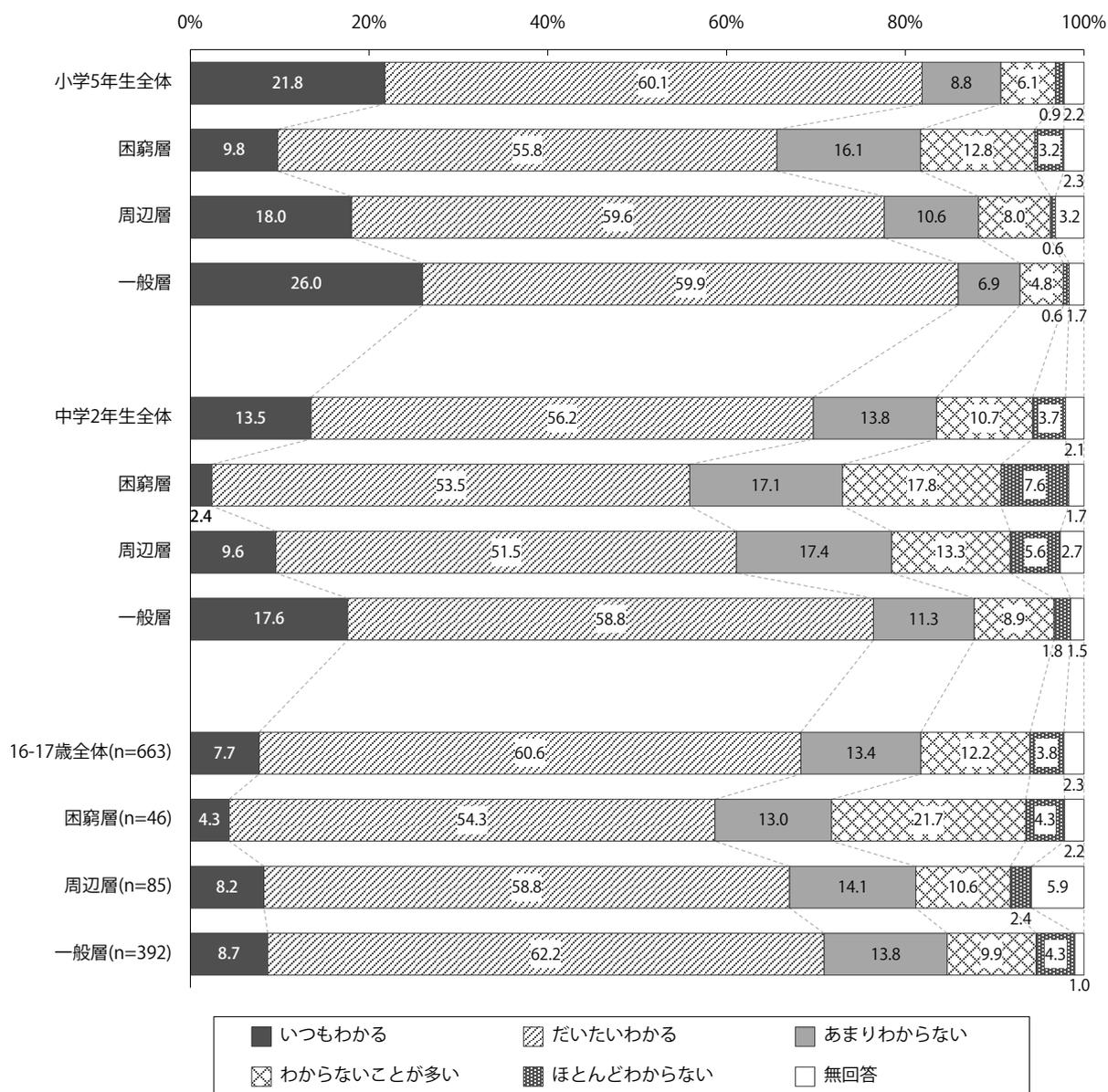
### 3 授業の理解や学習の状況

#### (1) 授業の理解度

【子ども票】

学校の授業の理解度について、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を合わせた『わからない』の割合は、小学5年生の困窮層で16.0%、周辺層で8.6%、一般層で5.4%、中学2年生の困窮層で25.4%、周辺層で18.9%、一般層で10.7%、16-17歳の困窮層で26.0%、周辺層で13.0%、一般層で14.2%となっている。いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

問24/問33 学校の授業の理解度

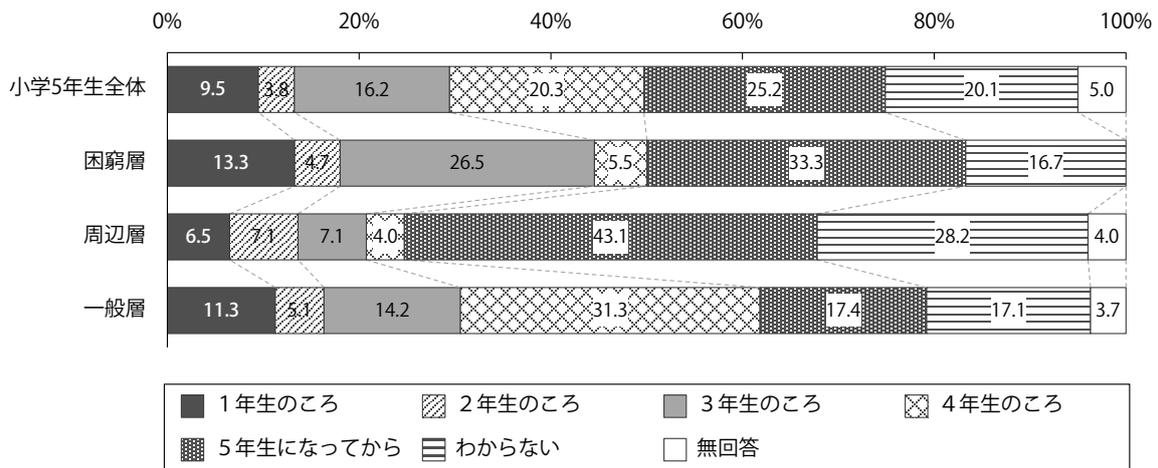


## (2) 授業がわからなくなった時期

【子ども票】

小学5年生の授業がわからなくなった時期について、全体では「5年生になってから」と回答した割合が25.2%で最も高いが、一般層では「4年生のころ」が31.3%で最も高くなっている。

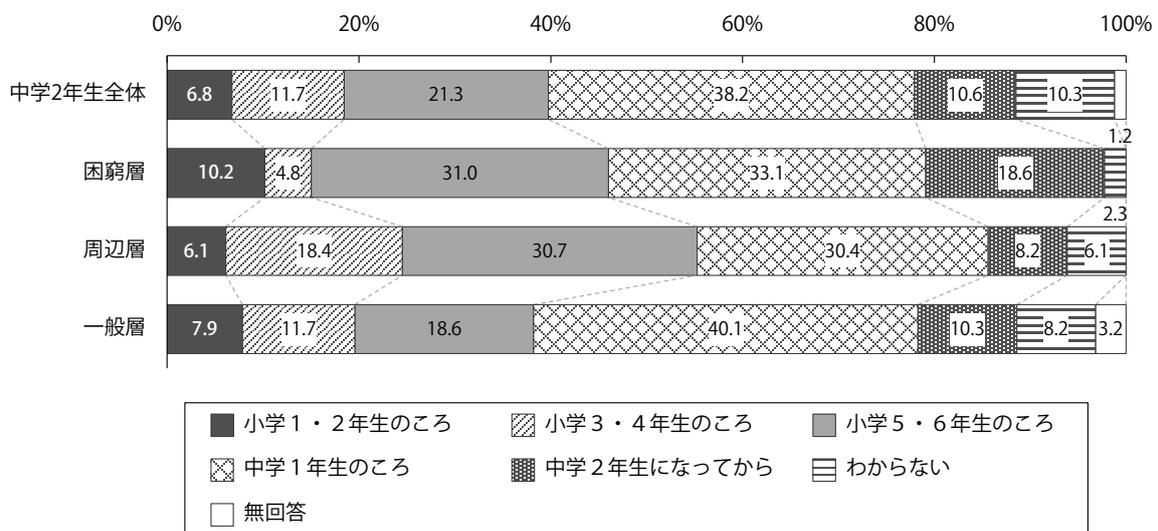
## 問24-1 授業がわからなくなった時期



【子ども票】

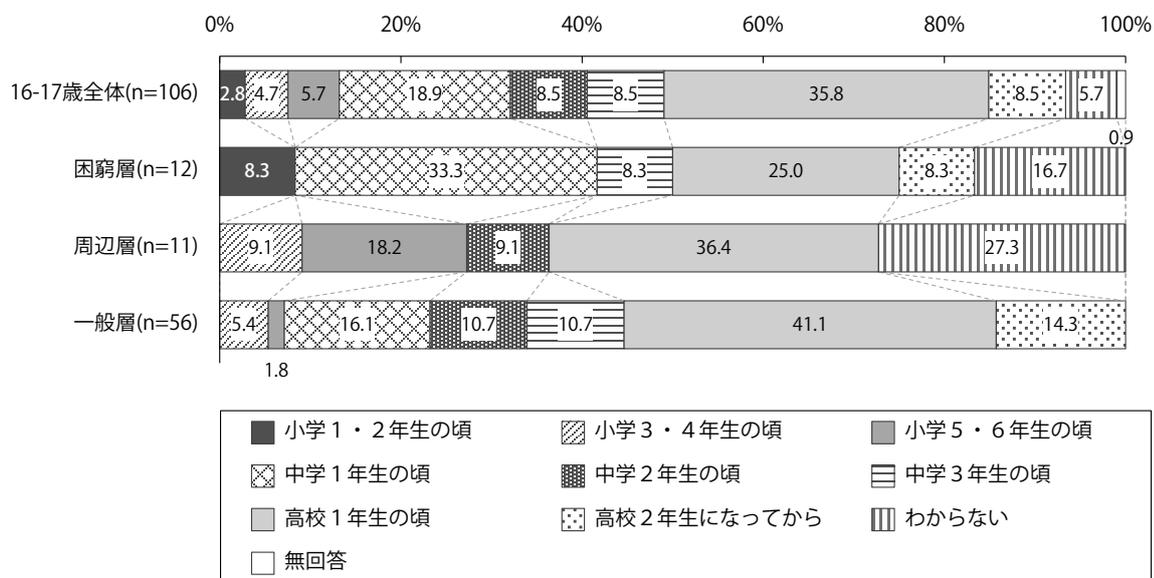
中学2年生の授業がわからなくなった時期について、全体では「中学1年生のころ」と回答した割合が38.2%で最も高いが、周辺層では「小学5・6年生のころ」が30.7%で最も高くなっている。

## 問24-1 授業がわからなくなった時期



16-17歳の授業がわからなくなった時期について、全体では「高校1年生の頃」と回答した割合が35.8%で最も高いが、困窮層では「中学1年生の頃」が33.3%で最も高くなっている。

問33-1 授業が分からなくなった時期



## 4 学校外での学習・勉強の状況

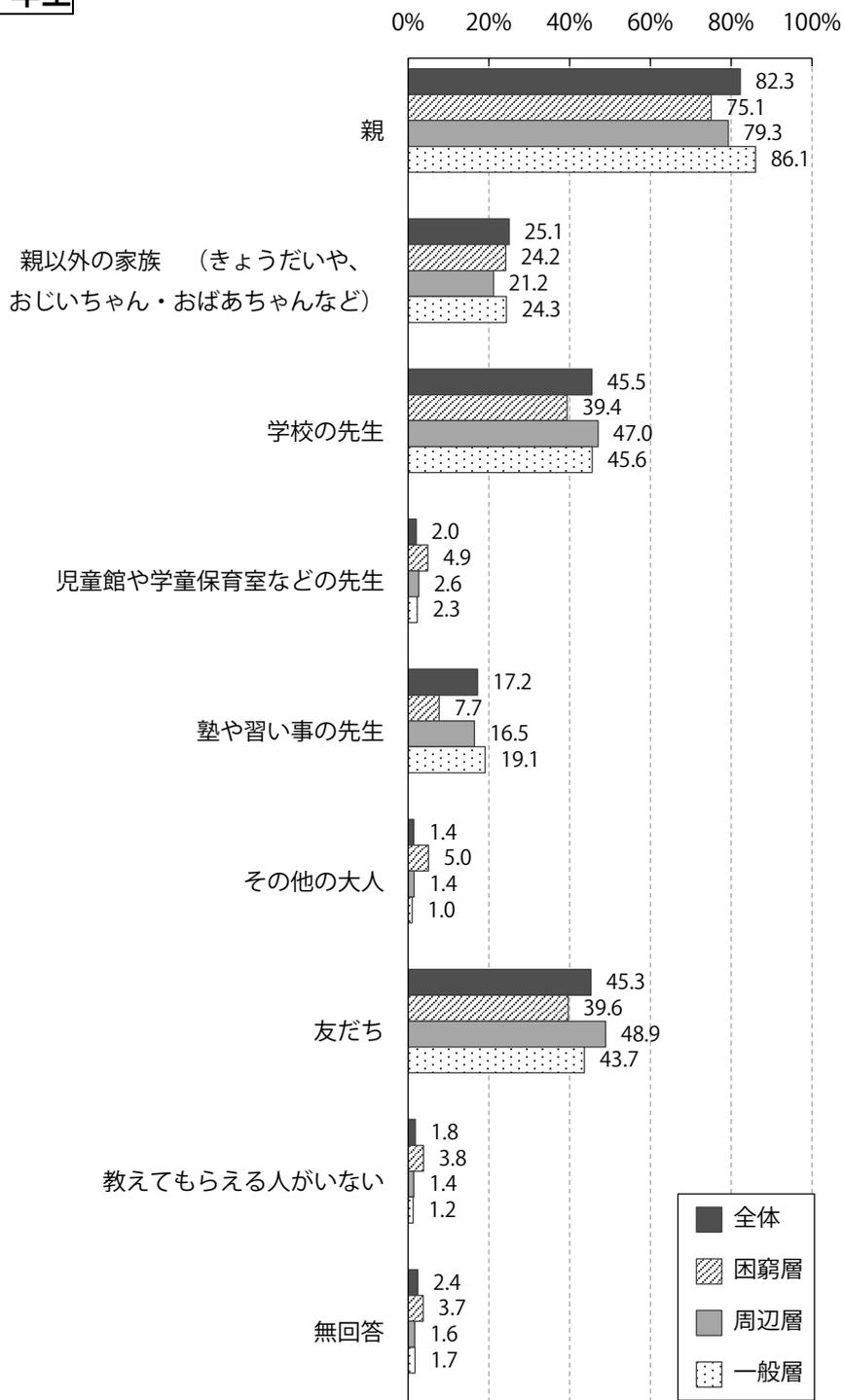
## (1) 勉強を教えてくれる人

【子ども票】

小学5年生の、勉強を教えてくれる人について、「親」と回答した割合は、困窮層で75.1%、周辺層で79.3%、一般層で86.1%となっている。困窮層において「教えてもらえる人がいない」が3.8%みられる。

問25 勉強を教えてくれる人

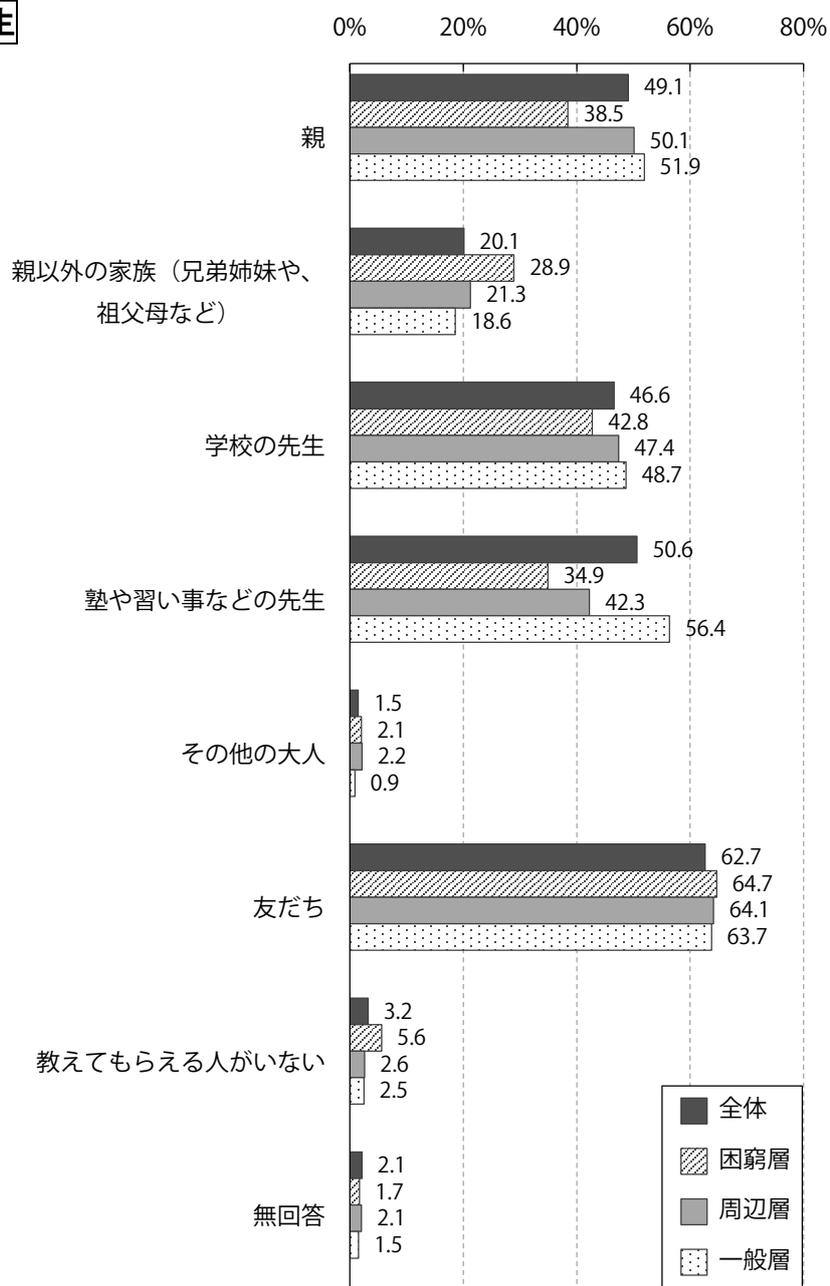
小学5年生



中学2年生の、勉強を教えてくれる人について、「親」と回答した割合は、困窮層で38.5%、周辺層で50.1%、一般層で51.9%となっている。小学5年生と比べると「友だち」の割合が高くなっていることがわかる。困窮層において「教えてもらえる人がいない」が5.6%みられる。

問25 勉強を教えてくれる人

中学2年生



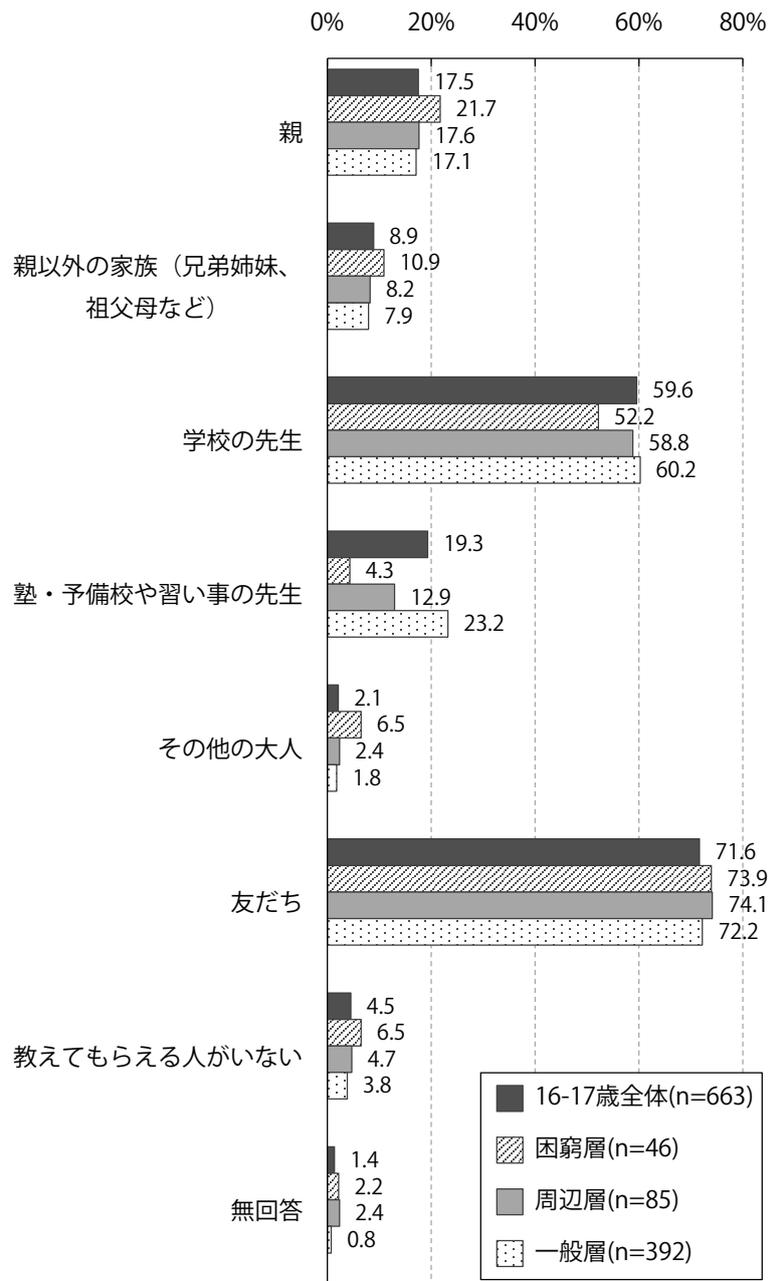
## 【子ども票】

16-17歳の、勉強を教えてくれる人について、「親」と回答した割合は、困窮層で21.7%、周辺層で17.6%、一般層で17.1%となっている。小学5年生、中学2年生と比べると「学校の先生」の割合が高くなっていることがわかる。

困窮層において「教えてもらえる人がいない」が6.5%みられる。

## 問34 勉強を教えてくれる人

## 16-17歳



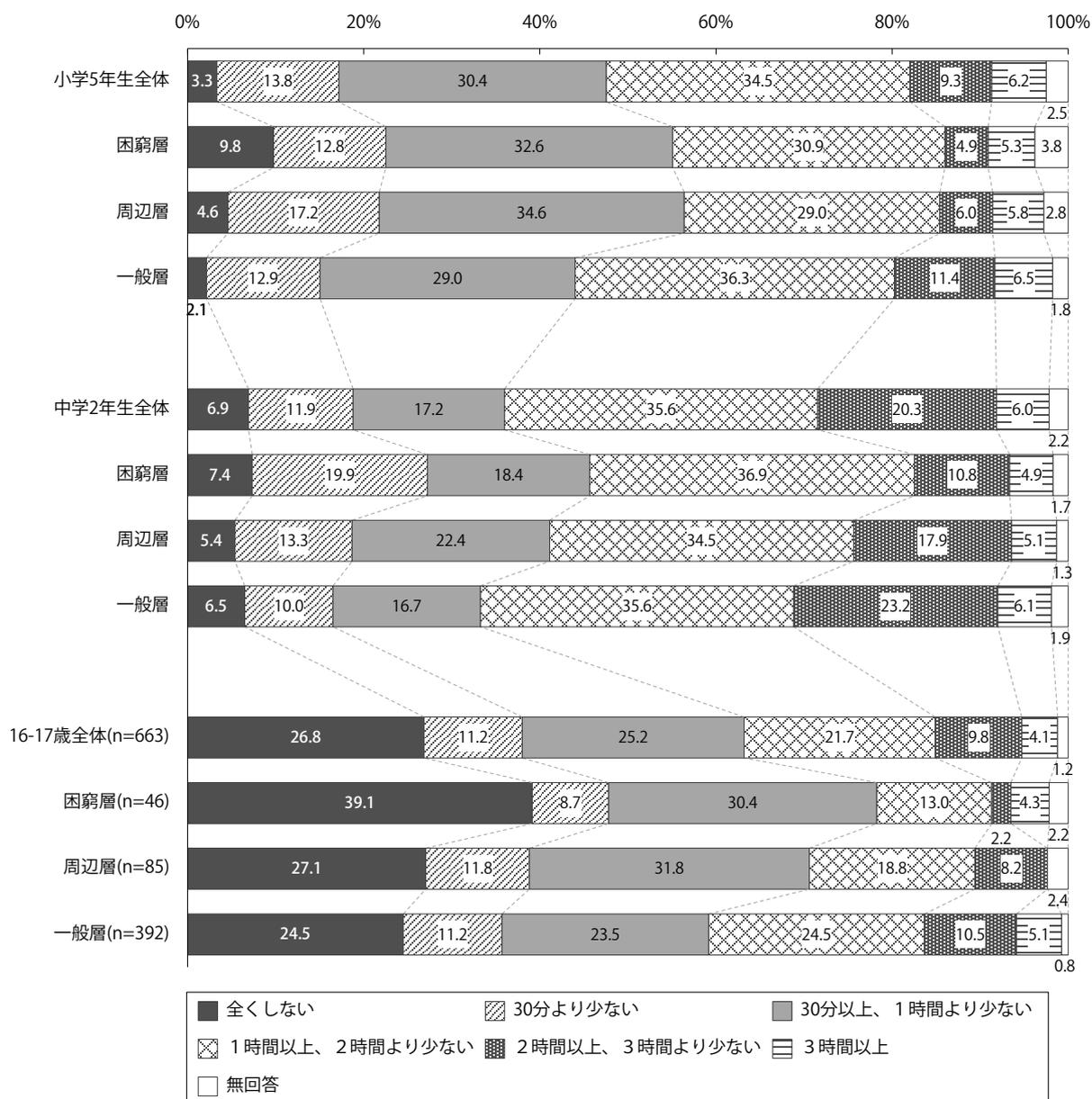
## (2) 学校の授業以外での勉強時間

【子ども票】

学校の授業以外での勉強時間について、「全くしない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で9.8%、周辺層で4.6%、一般層で2.1%、中学2年生の困窮層で7.4%、周辺層で5.4%、一般層で6.5%、16-17歳の困窮層で39.1%、周辺層で27.1%、一般層で24.5%となっている。

全体的に、16-17歳になると「全くしない」が増加している。

問28／問35 学校の授業以外の勉強時間

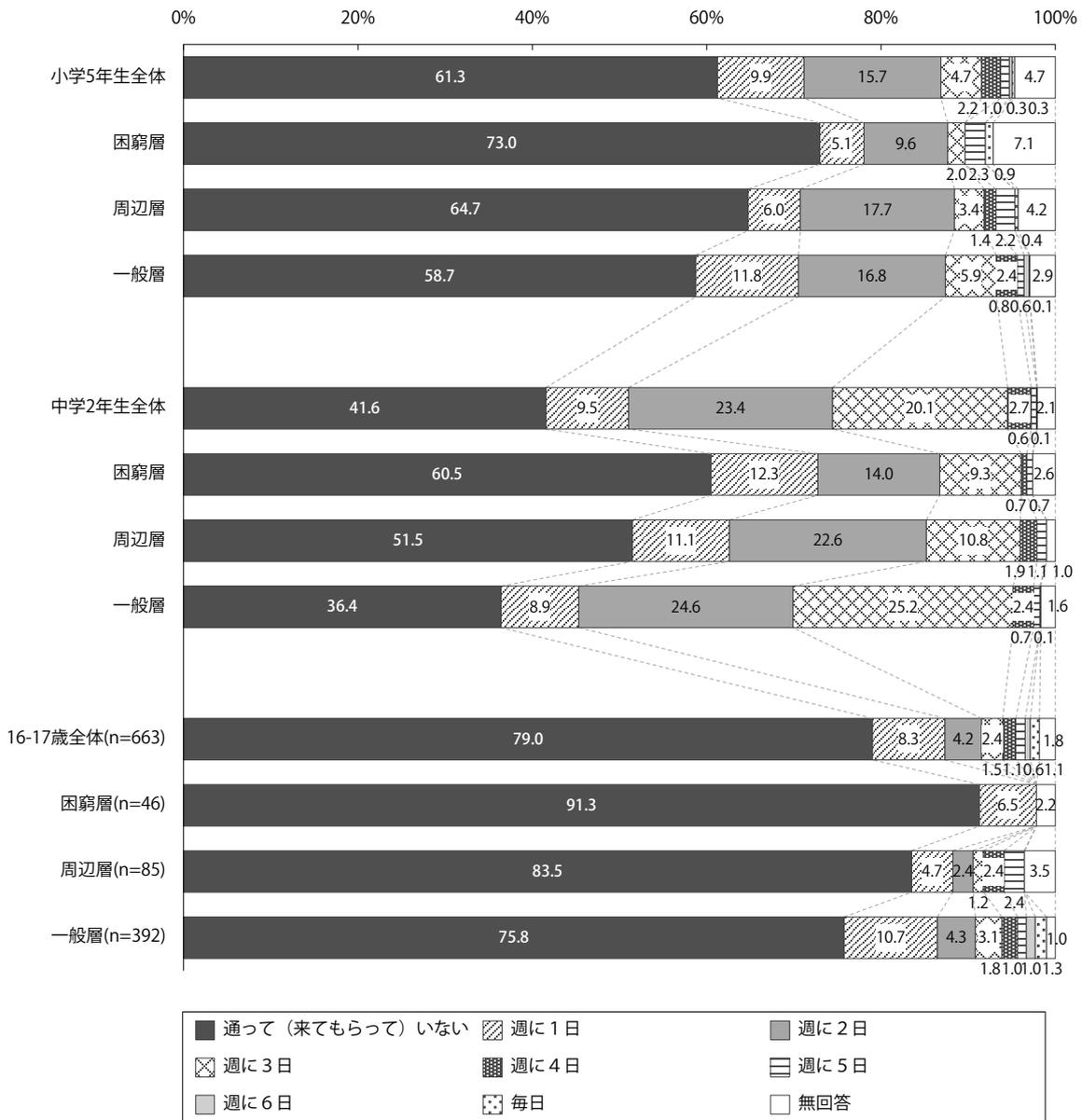


(3) 学習塾・家庭教師の頻度

【子ども票】

学習塾・家庭教師の日数について、「通って（来てもらって）いない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で73.0%、周辺層で64.7%、一般層で58.7%、中学2年生の困窮層で60.5%、周辺層で51.5%、一般層で36.4%、16-17歳の困窮層で91.3%、周辺層で83.5%、一般層で75.8%となっており、生活困難度との明確な相関がみられる。

問29／問36 学習塾や家庭教師の日数



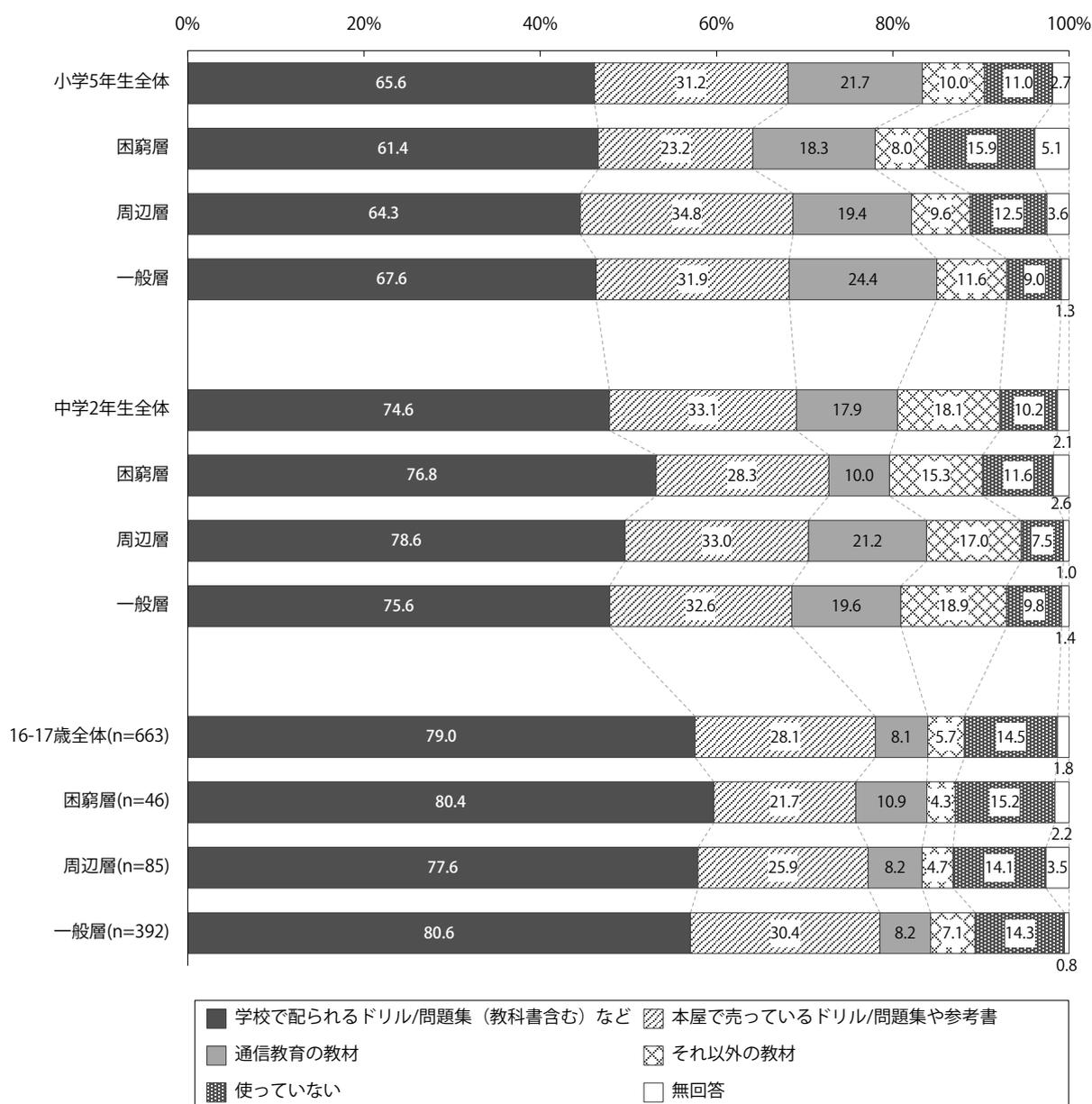
### (4) 自宅での教材使用状況

【子ども票】

自宅での教材使用状況について、「学校で配られるドリル/問題集（教科書含む）など」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で61.4%、周辺層で64.3%、一般層で67.6%、中学2年生の困窮層で76.8%、周辺層で78.6%、一般層で75.6%、16-17歳の困窮層で80.4%、周辺層で77.6%、一般層で80.6%となっている。

中学2年、16-17歳において、生活困難度が高いほど経費のかからない教材の使用の割合が高くなる傾向がみられる。

問30/問37 自宅での使用教材



## 5 将来の夢

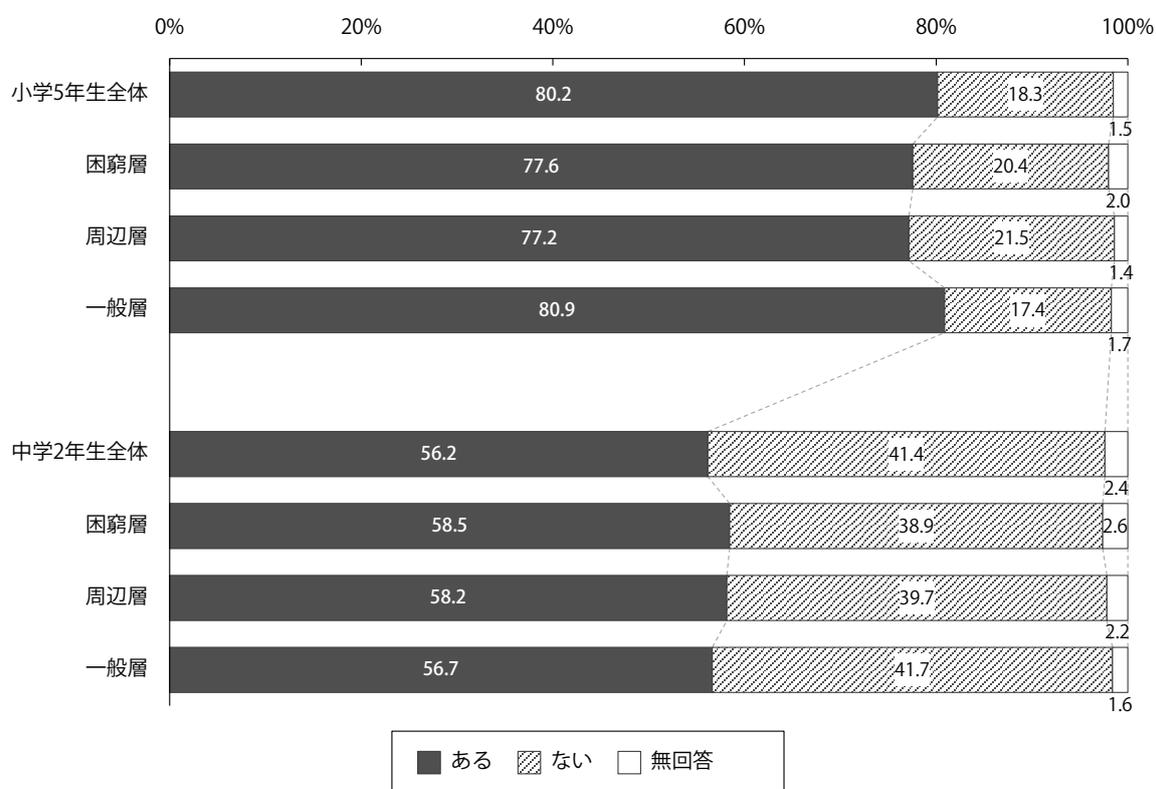
### (1) 夢の有無

【子ども票】

将来の夢について、「ある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で77.6%、周辺層で77.2%、一般層で80.9%、中学2年生の困窮層で58.5%、周辺層で58.2%、一般層で56.7%となっている。夢が「ない」との回答は小学5年生の全体で18.3%、中学2年生の全体で41.4%みられる。

将来の夢の有無については、生活困難度よりも年齢層による違いがみられる。

#### 問4 将来の夢の有無



**(2) 将来の夢**

【子ども票】

問4で将来の夢の有無をたずね、問4-1ではその夢の内容を自由記入方式でたずねた。年齢層別、性別の上位5位は以下の内容となっている。

問4-1 その夢は何ですか

**小学5年生**

男子		女子	
サッカー選手	126	保育士	55
野球選手	80	動物に関する仕事	55
ゲームクリエイター	26	パティシエ	53
バスケットボール選手	24	看護師・助産師	45
ユーチューバー	23	デザイナー	34

上位5位 数字は回答数

**中学2年生**

男子		女子	
サッカー選手	66	看護師・助産師	58
野球選手	31	保育士	53
教師	21	教師	31
ゲームクリエイター	18	幼稚園の先生	20
医師	15	動物に関する仕事	19

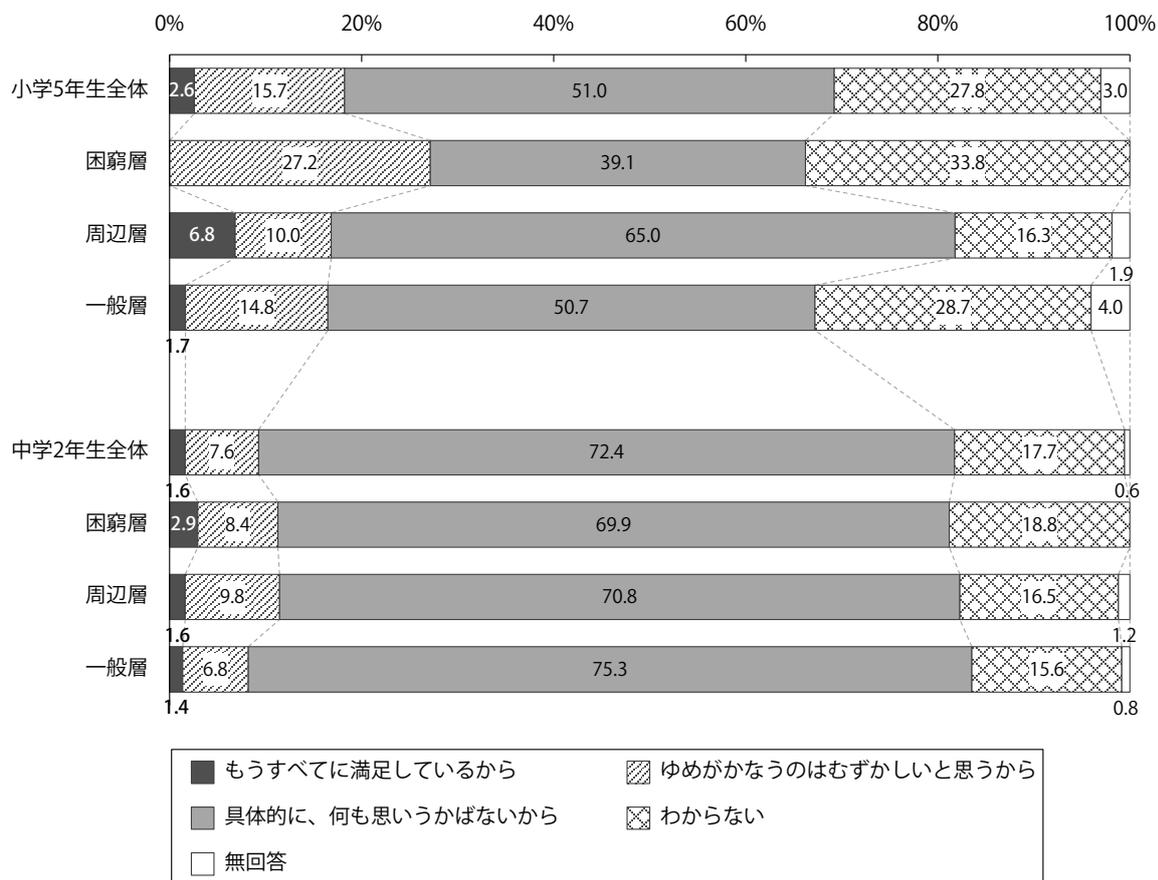
上位5位 数字は回答数

## (3) 夢がない理由

【子ども票】

問4で夢が「ない」とした理由について、「ゆめがかなうのはむずかしいと思うから」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で27.2%、周辺層で10.0%、一般層で14.8%、中学2年生の困窮層で8.4%、周辺層で9.8%、一般層で6.8%となっている。

問4-2 夢がない理由

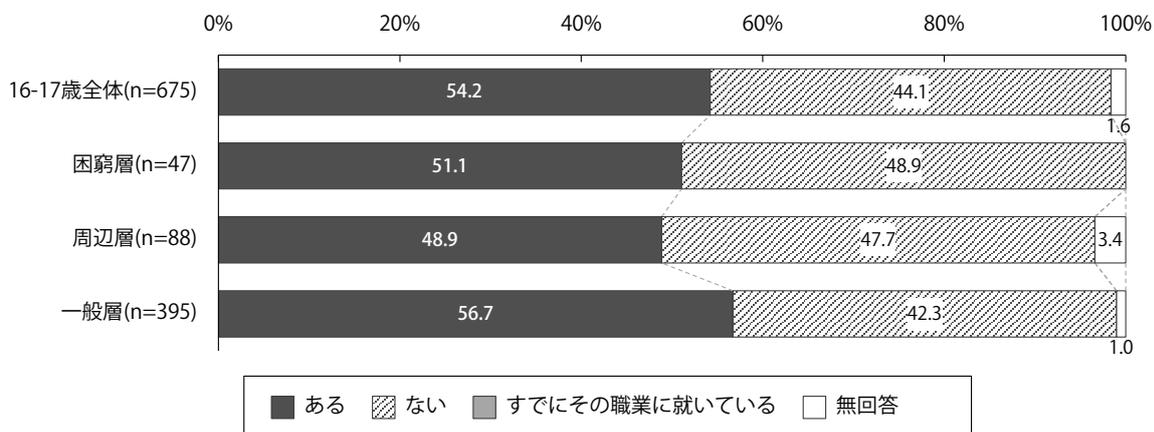


### (4) 将来なりたい職業の有無

【子ども票】

16-17歳の将来なりたい職業の有無について、「ある」と回答した割合は、困窮層で51.1%、周辺層で48.9%、一般層で56.7%となっている。

問5 将来なりたい職業の有無



### (5) なりたい職業

問5で将来なりたい職業の有無をたずね、問5-1ではその職業を自由記入方式でたずねた。性別の上位5位は以下の内容となっている。

#### 16-17歳

男子		女子	
教師	14	教師	15
公務員	13	看護師・助産師	15
医師	7	保育士	13
理学療法士	6	栄養士	7
車の整備・設計	5	公務員	6

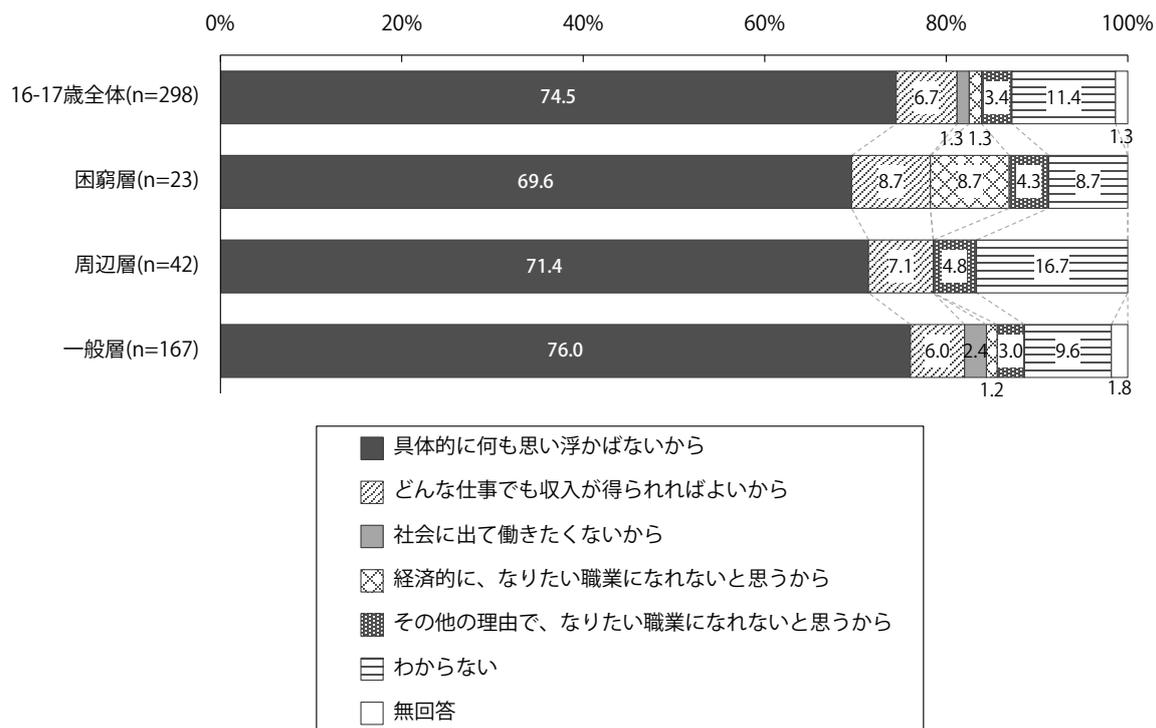
上位5位 数字は回答数

## (6) なりたい職業がない理由

【子ども票】

問5でなりたい職業が「ない」とした理由について、「経済的に、なりたい職業になれないと思うから」と回答した割合は、困窮層で8.7%、周辺層で0.0%、一般層で1.2%となっている。

## 問5-2 なりたい職業がない理由

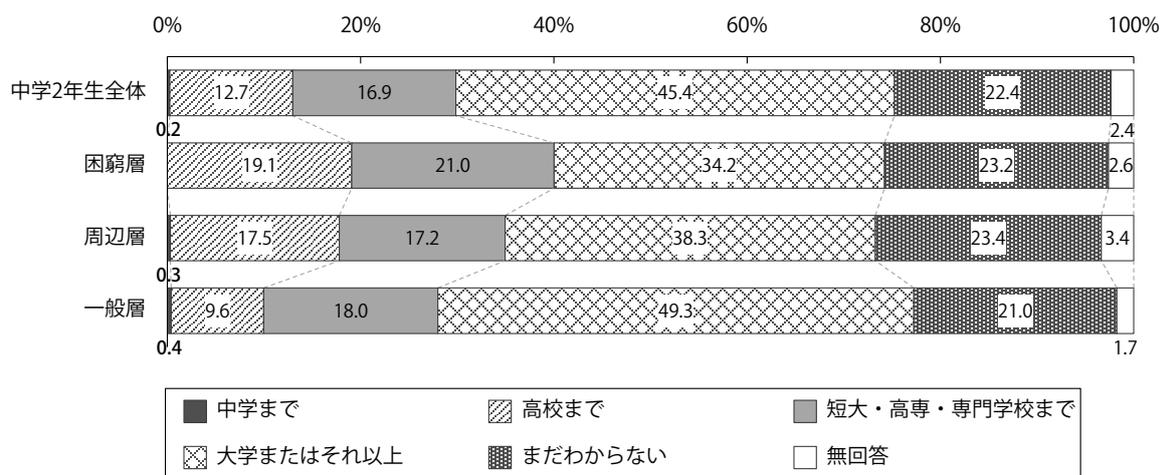


### (7) 中学生の将来の進学希望

【子ども票】

中学2年生の、将来の進学希望について、「高校まで」と回答した割合は、困窮層で19.1%、周辺層で17.5%、一般層で9.6%となっている。「大学またはそれ以上」と回答した割合は、困窮層で34.2%、周辺層で38.3%、一般層で49.3%となっている。生活困難度との相関がみられる。

問4-3 将来、進学したい段階

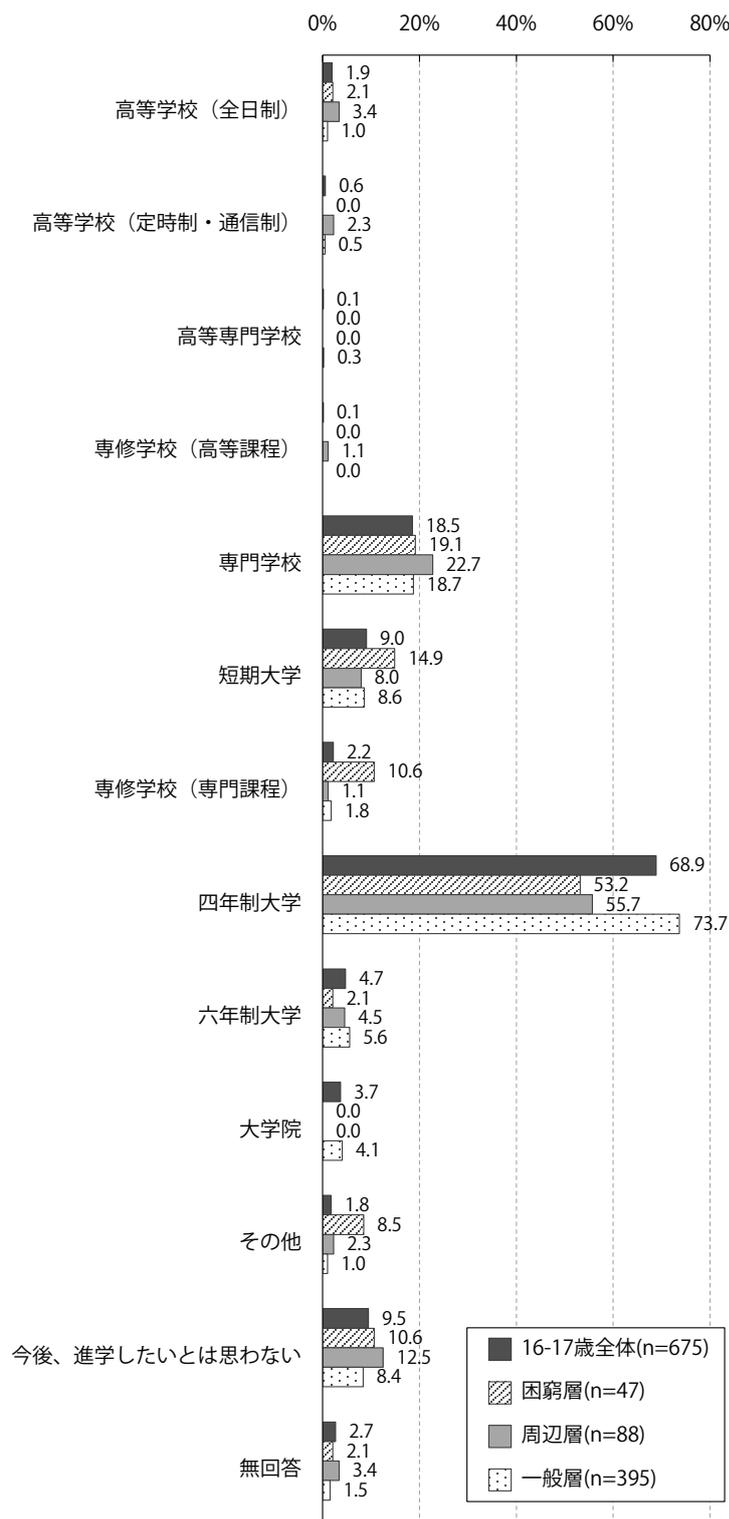


## (8) 16-17歳の今後の進学希望と予定

【子ども票】

16-17歳の、今後通いたいと希望する学校について、「四年制大学」と回答した割合は、困窮層で53.2%、周辺層で55.7%、一般層で73.7%となっている。「今後、進学したいとは思わない」と回答した割合は、困窮層で10.6%、周辺層で12.5%、一般層で8.4%となっている。四年制大学や六年制大学の選択で、生活困難度との相関がみられる。

## 問6 今後、通いたいと希望する学校

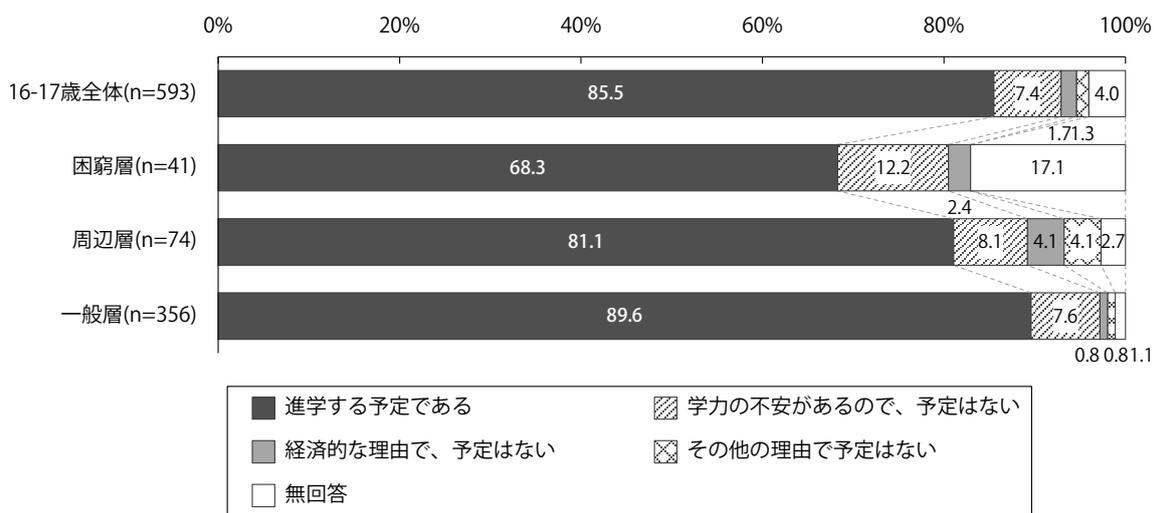


【子ども票】

16-17歳の、希望する学校への進学予定について、「進学する予定である」と回答した割合は、困窮層で68.3%、周辺層で81.1%、一般層で89.6%となっている。

「経済的な理由で、予定はない」と回答した割合は、困窮層で2.4%、周辺層で4.1%、一般層で0.8%となっており、この点では生活困難度との明確な相関はみられない。

問6-1 希望する学校への進学予定



## 第7章 子どもの生活・友人関係

### 1 家族や友だち

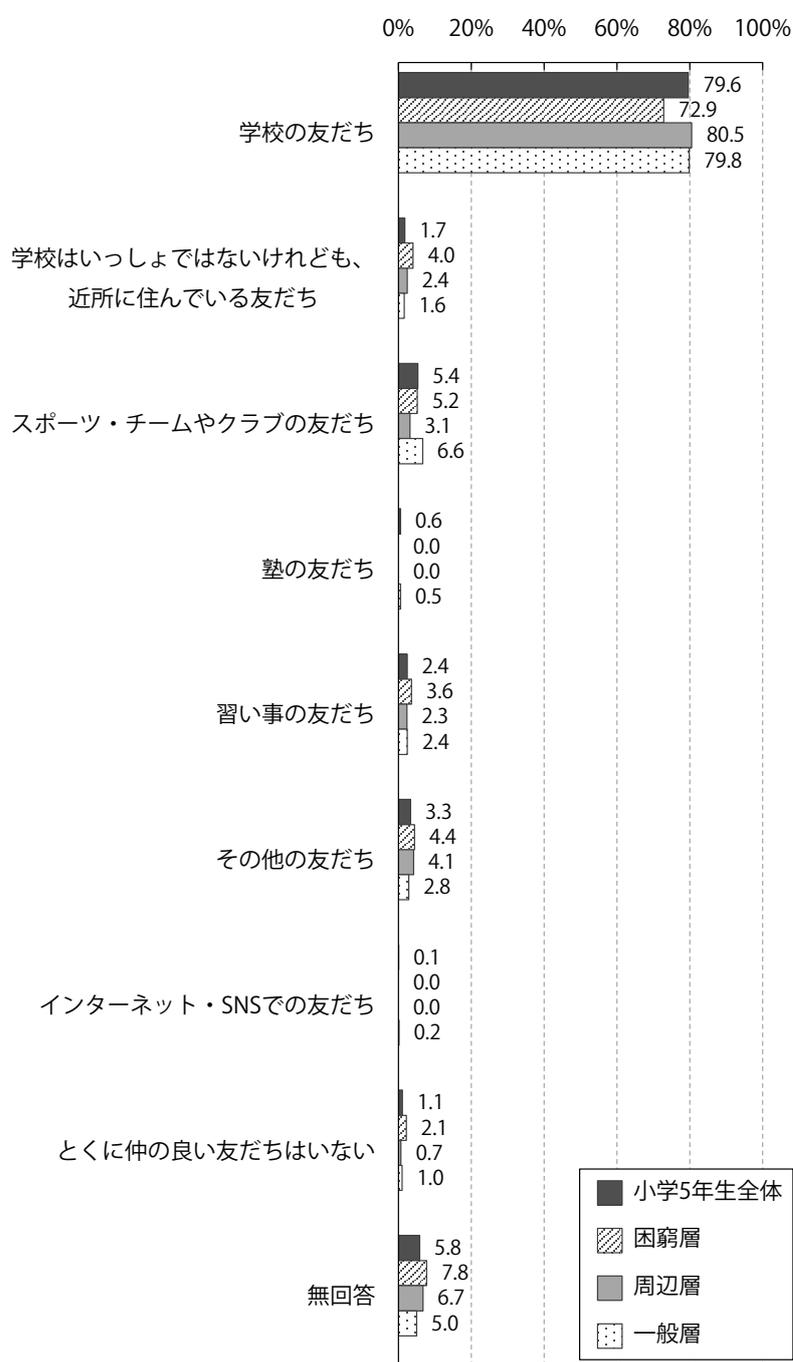
#### (1) 一番仲が良い友だち

【子ども票】

小学5年生の一番仲が良い友だちは、どの層でも「学校の友だち」が最も多い。困窮層で72.9%、周辺層で80.5%、一般層で79.8%となっており、生活困難度との明確な相関はみられない。

問5 一番仲が良い友だちは、どのような友だちか

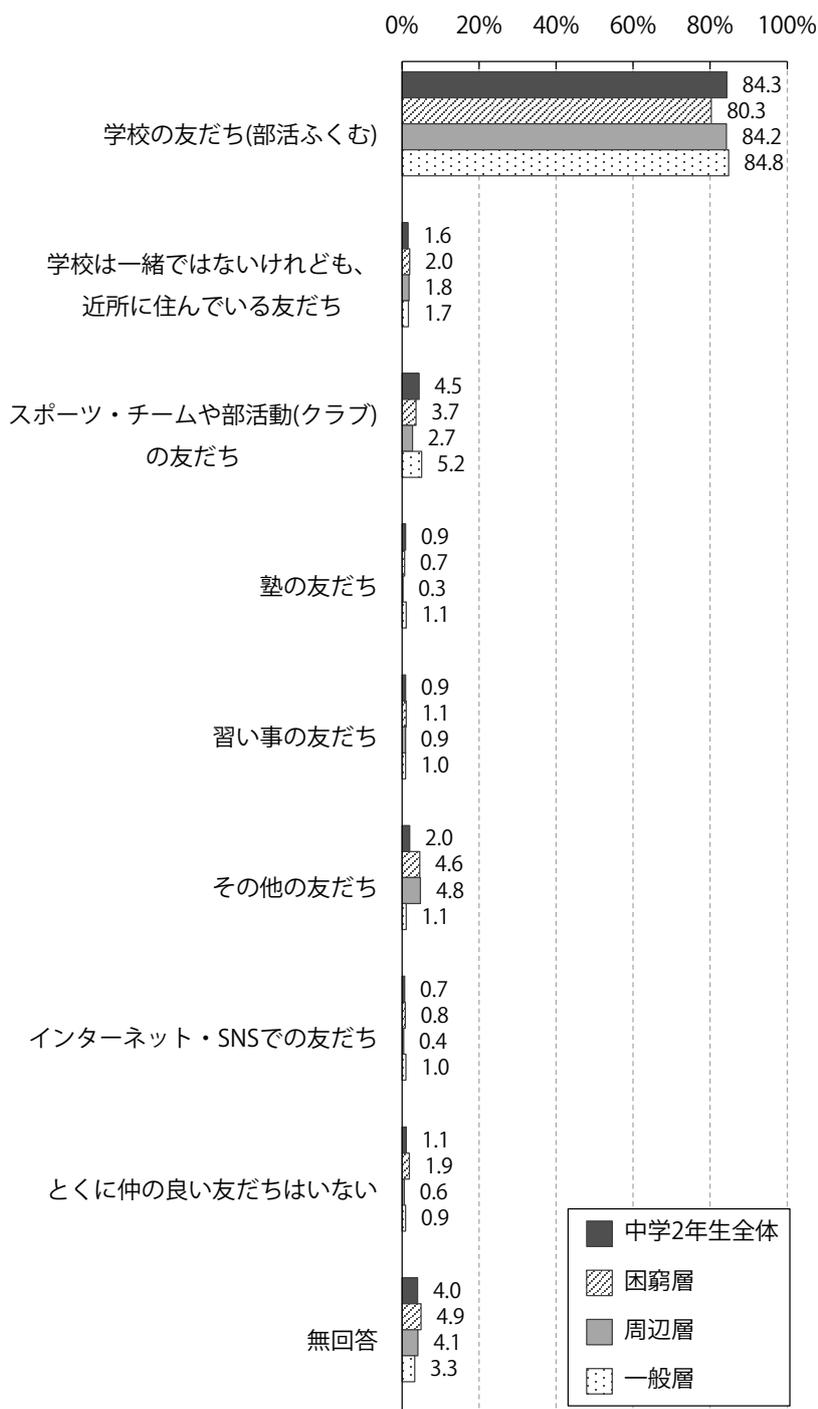
**小学5年生**



中学2年生の一番仲が良い友だちは、小学5年生と同様、どの層でも「学校の友だち（部活ふくむ）」が最も多い。困窮層で80.3%、周辺層で84.2%、一般層で84.8%となっており、わずかながら、生活困難度が高いほど低い割合となっている。

問5 一番仲が良い友だちは、どのような友だちか

**中学2年生**



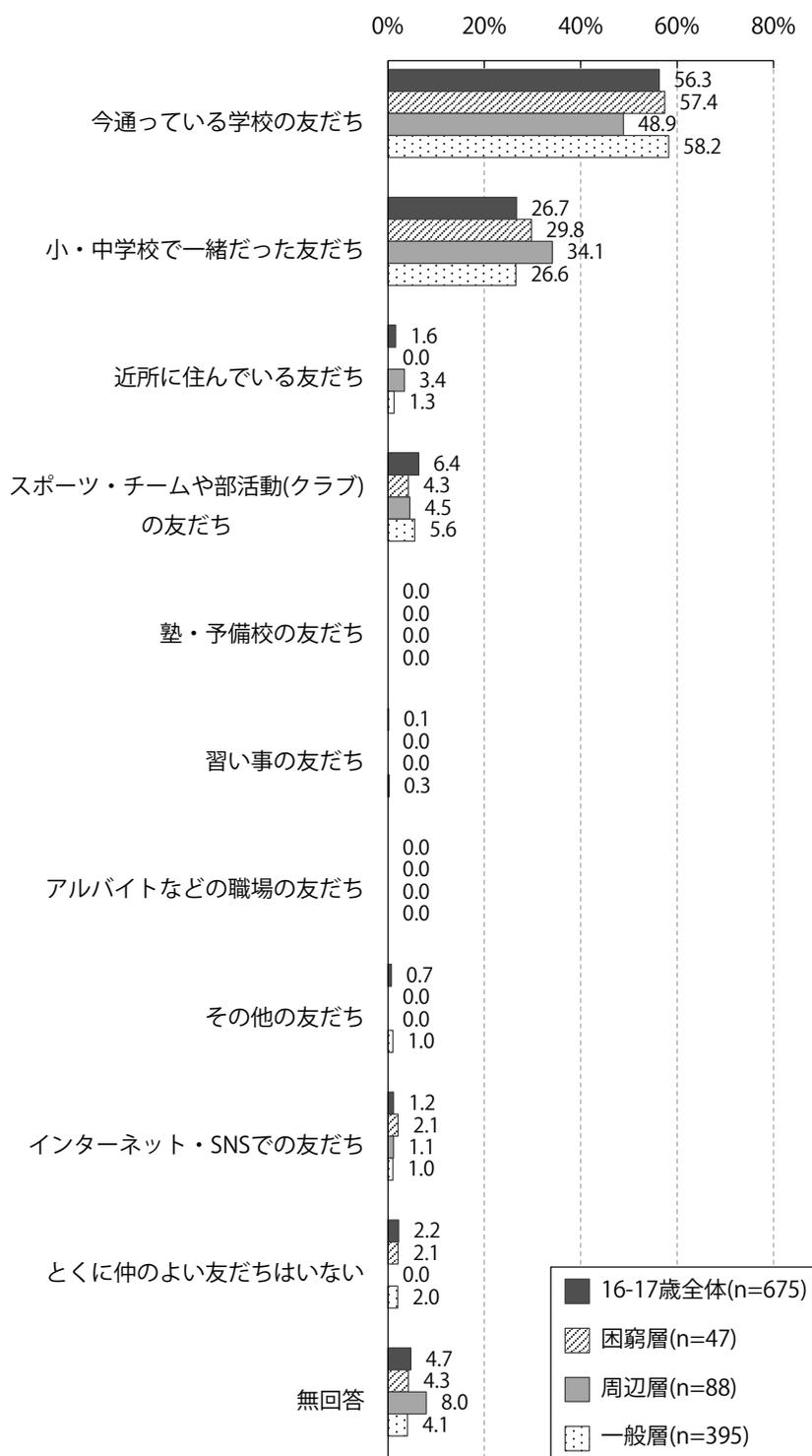
## 【子ども票】

16-17 歳の一番仲が良い友だちでは、「今通っている学校の友だち」が全体で 56.3%、「小・中学校で一緒だった友だち」が全体で 26.7%となっている。

参加に費用がかかることが想定される「スポーツ・チームや部活動（クラブ）の友だち」は全体で 6.4%と学校関係の友人より少ないが、その中では困窮層で 4.3%、周辺層で 4.5%、一般層で 5.6%となっており、わずかながら、生活困難度との相関がみられる。

## 問7 一番仲がよい友だちは、どのような友だちか

16-17 歳



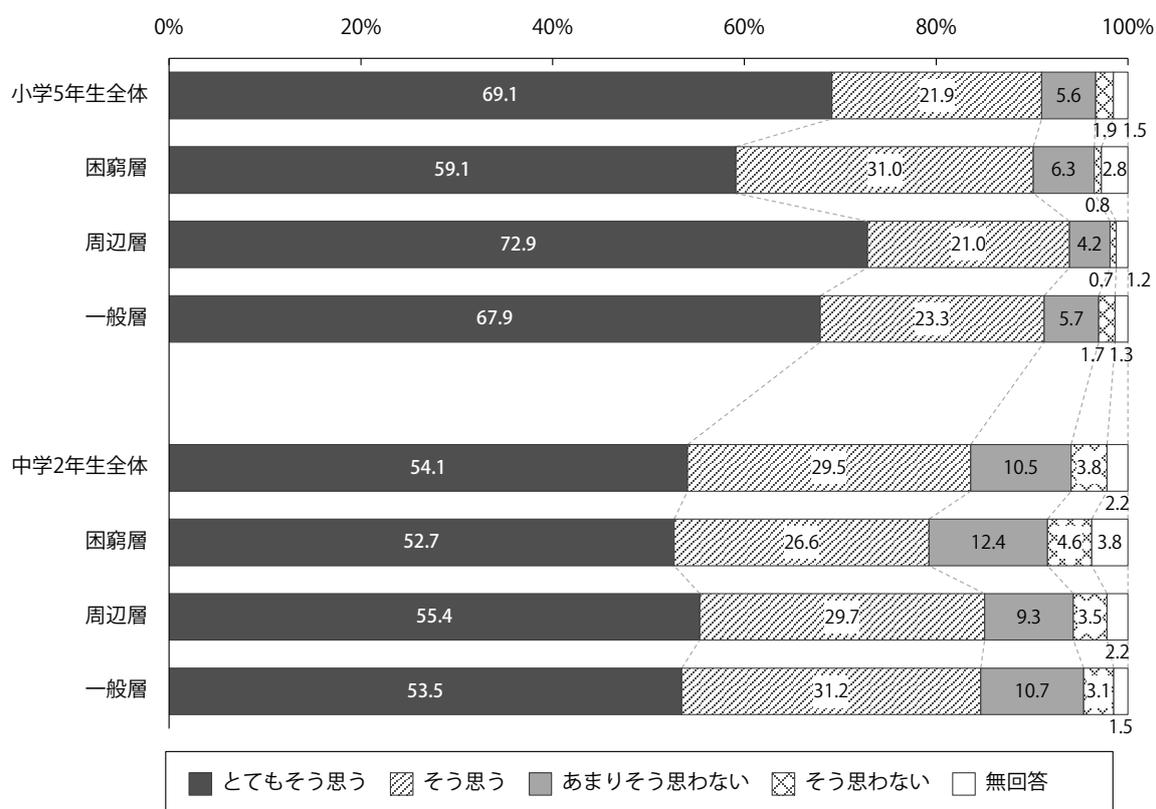
## (2) 友だちとの関係

### A 友だちといっしょにたくさん遊んでいると思う

【子ども票】

友だちとの関係で、友だちといっしょにたくさん遊んでいると思うについて、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で90.1%、周辺層で93.9%、一般層で91.2%、中学2年生の困窮層で79.3%、周辺層で85.1%、一般層で84.7%となっている。

問6 友だちとの関係/A 友だちといっしょにたくさん遊んでいると思う

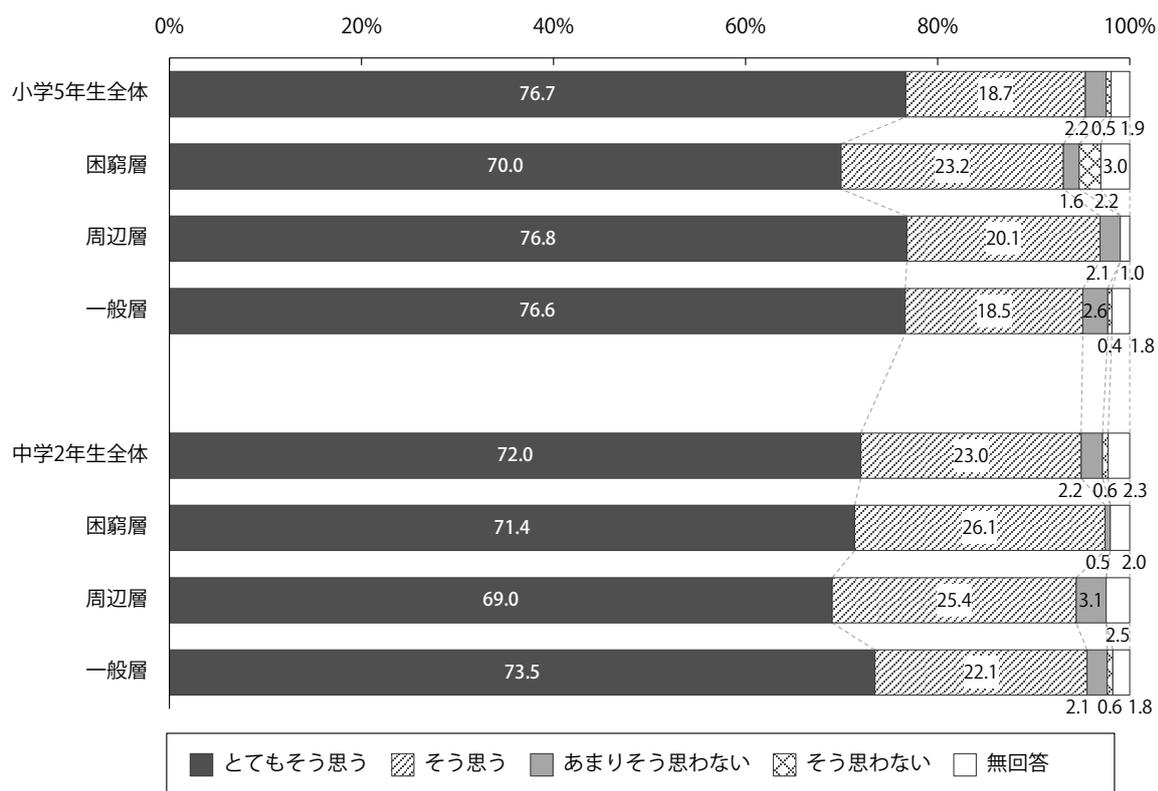


## B 友だちと仲良くしていると思う

【子ども票】

友だちとの関係で、友だちと仲良くしていると思うかどうかについて、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で93.2%、周辺層で96.9%、一般層で95.1%、中学2年生の困窮層で97.5%、周辺層で94.4%、一般層で95.6%となっている。

## 問6 友だちとの関係／B 友だちと仲良くしていると思う



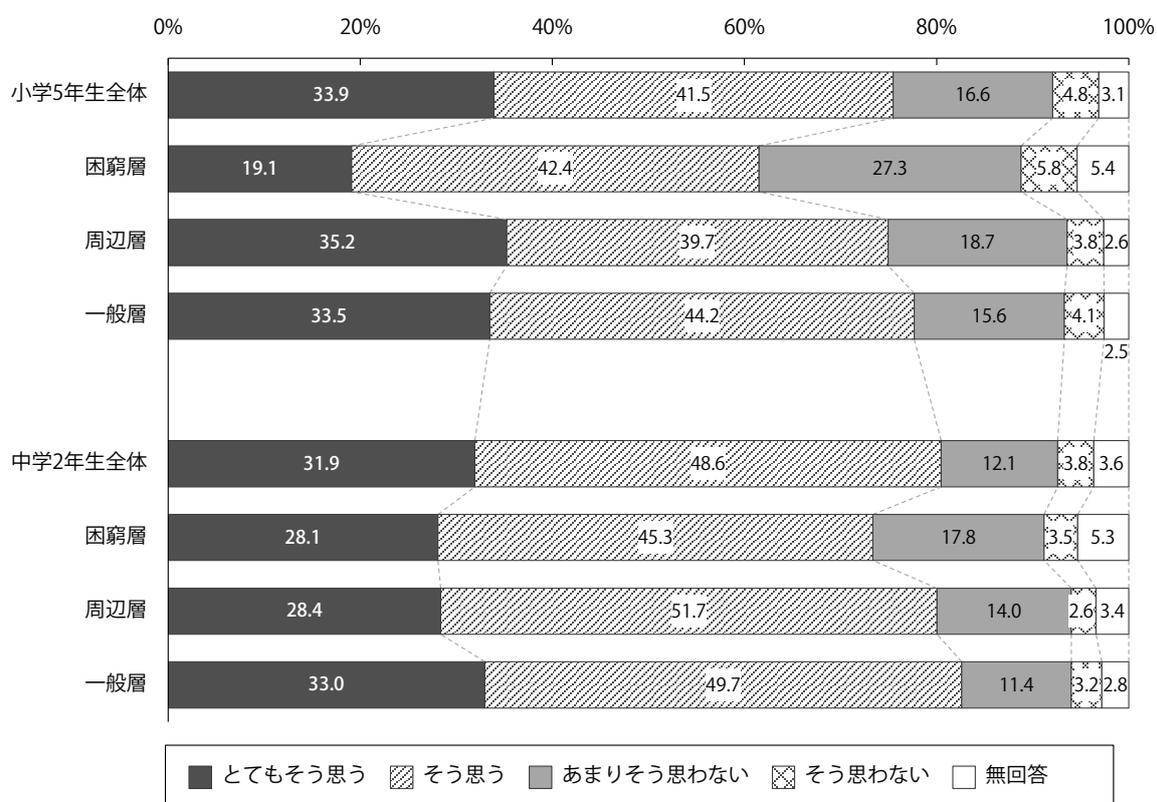
### C 友だちに好かれていると思う

【子ども票】

友だちとの関係で、友だちに好かれていると思うかどうかについて、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で61.5%、周辺層で74.9%、一般層で77.7%、中学2年生の困窮層で73.4%、周辺層で80.1%、一般層で82.7%となっている。

前問までの「遊ぶ」「仲良くしている」と比べると、生活困難度との相関があらわれている。

#### 問6 友だちとの関係／C 友だちに好かれていると思う



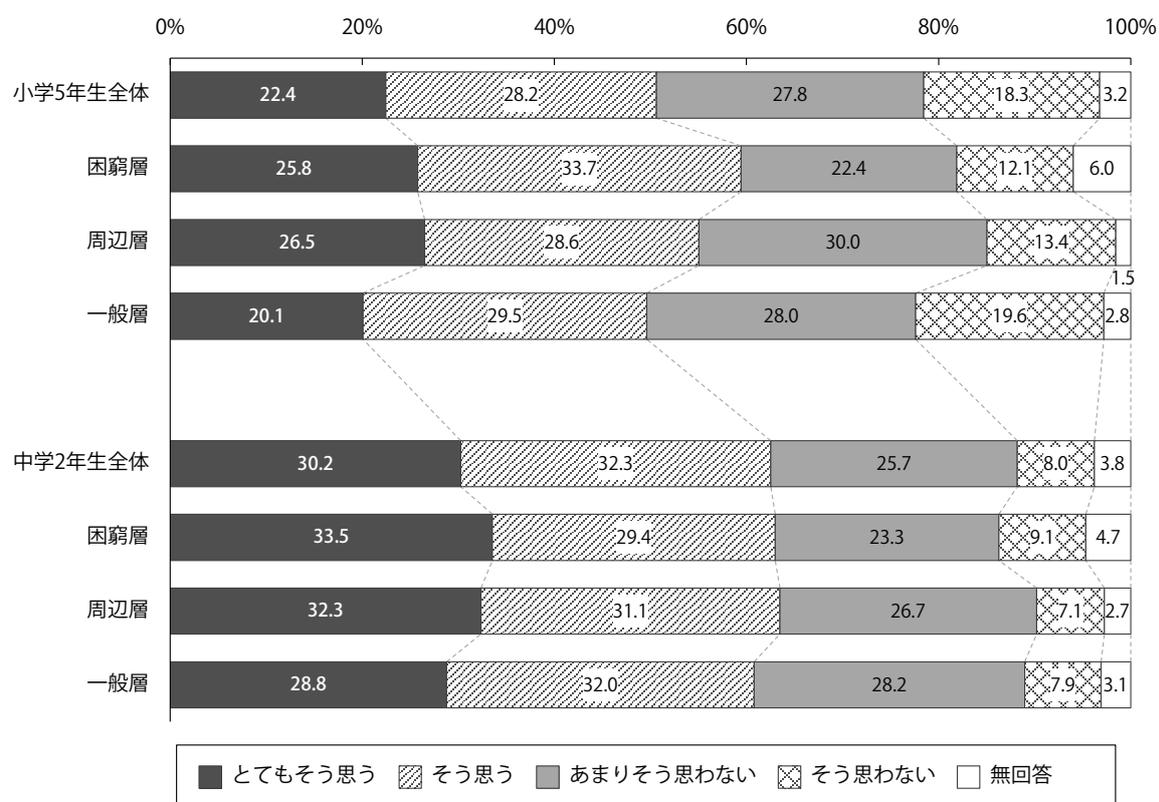
## D 自分は友だちとくらべて違うと思う

【子ども票】

友だちとの関係で、自分は友だちとくらべて違うと思うかどうかについて、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて『思う』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で59.5%、周辺層で55.1%、一般層で49.6%、中学2年生の困窮層で62.9%、周辺層で63.4%、一般層で60.8%となっている。

小学5年生において、生活困難度との相関がみられる。

## 問6 友だちとの関係/D 自分は友だちとくらべて違うと思う



## 2 平日の食事

### (1) 朝食を一緒にとる人

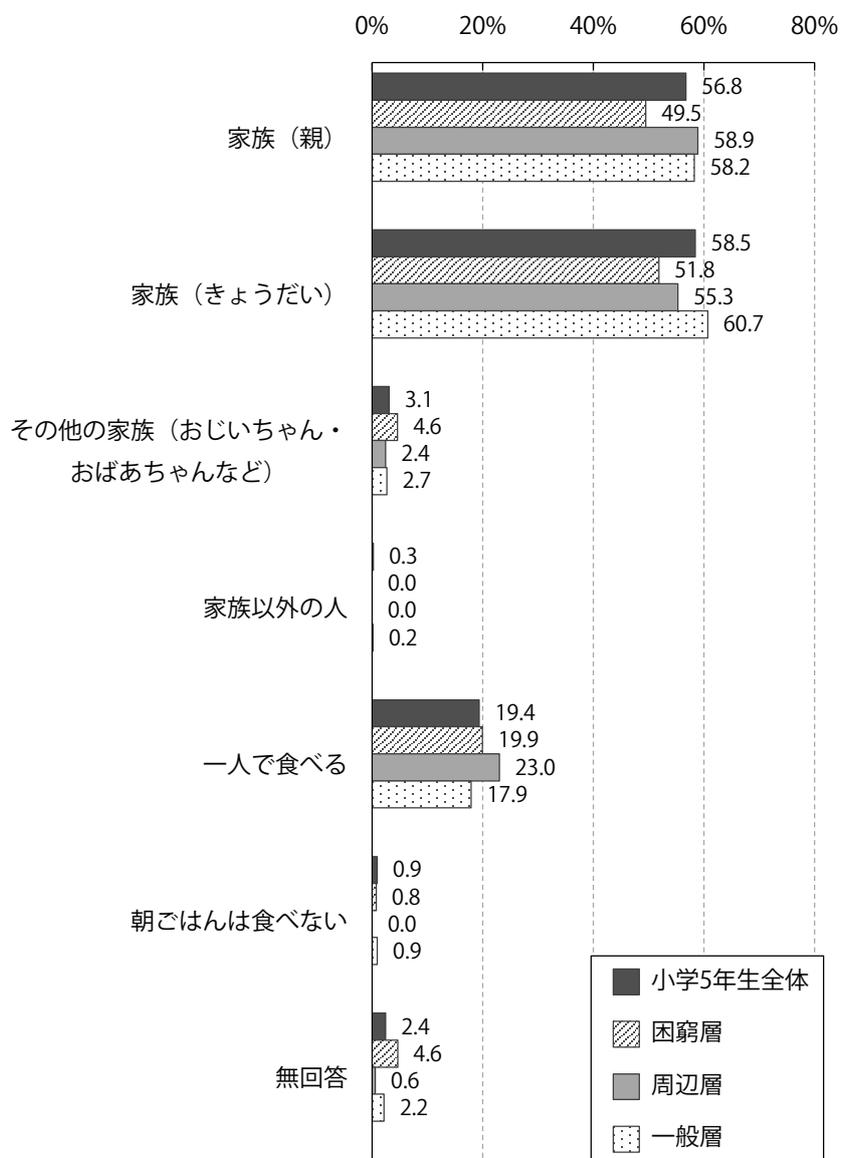
【子ども票】

平日に朝ごはんを一緒に食べる人について、小学5年生全体では「家族（きょうだい）」が58.5%で最も多く、次いで「家族（親）」が56.8%となっている。

「一人で食べる」と回答した割合は、困窮層で19.9%、周辺層で23.0%、一般層で17.9%となっている。

問18 平日に朝ごはんを一緒に食べる人

**小学5年生**



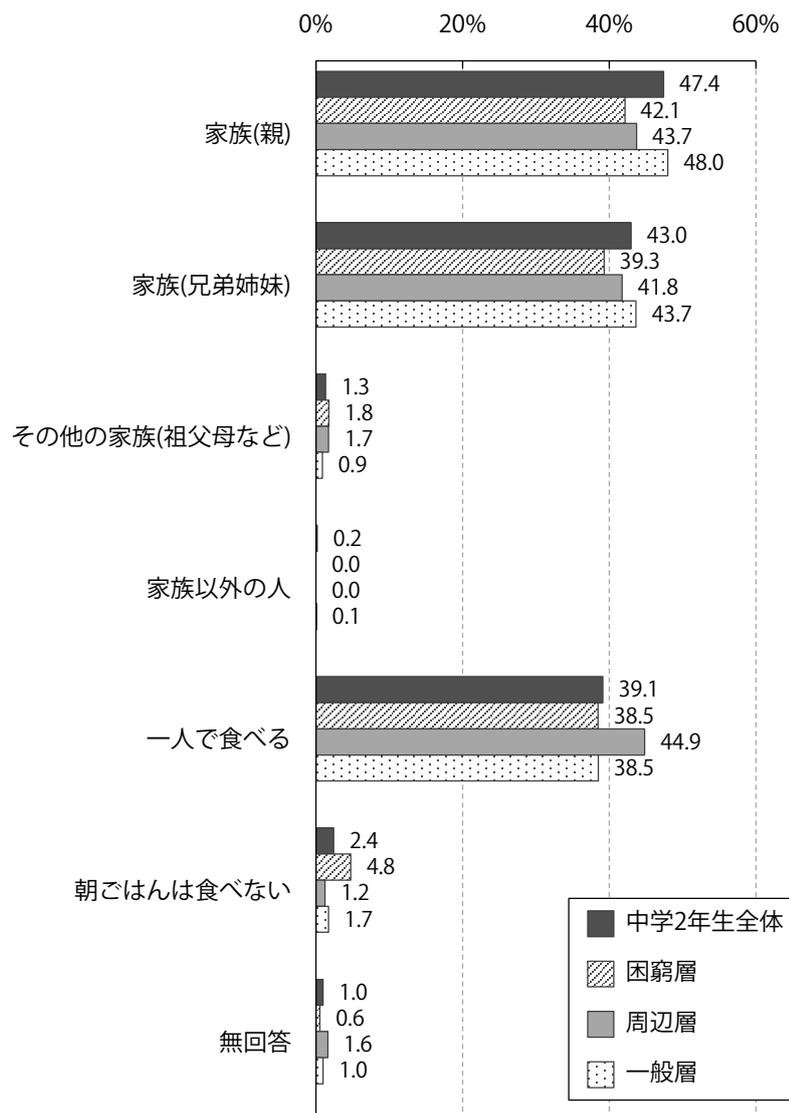
## 【子ども票】

平日に朝ごはんを一緒に食べる人について、中学2年生全体では「家族(親)」が47.4%で最も多く、次いで「家族(兄弟姉妹)」が43.0%となっている。

「一人で食べる」と回答した割合は、困窮層で38.5%、周辺層で44.9%、一般層で38.5%となっている。小学5年生と比べると、「一人で食べる」の割合が高くなっている。

問18 平日に朝ごはんを一緒に食べる人

**中学2年生**



## (2) 夕食を一緒にとる人

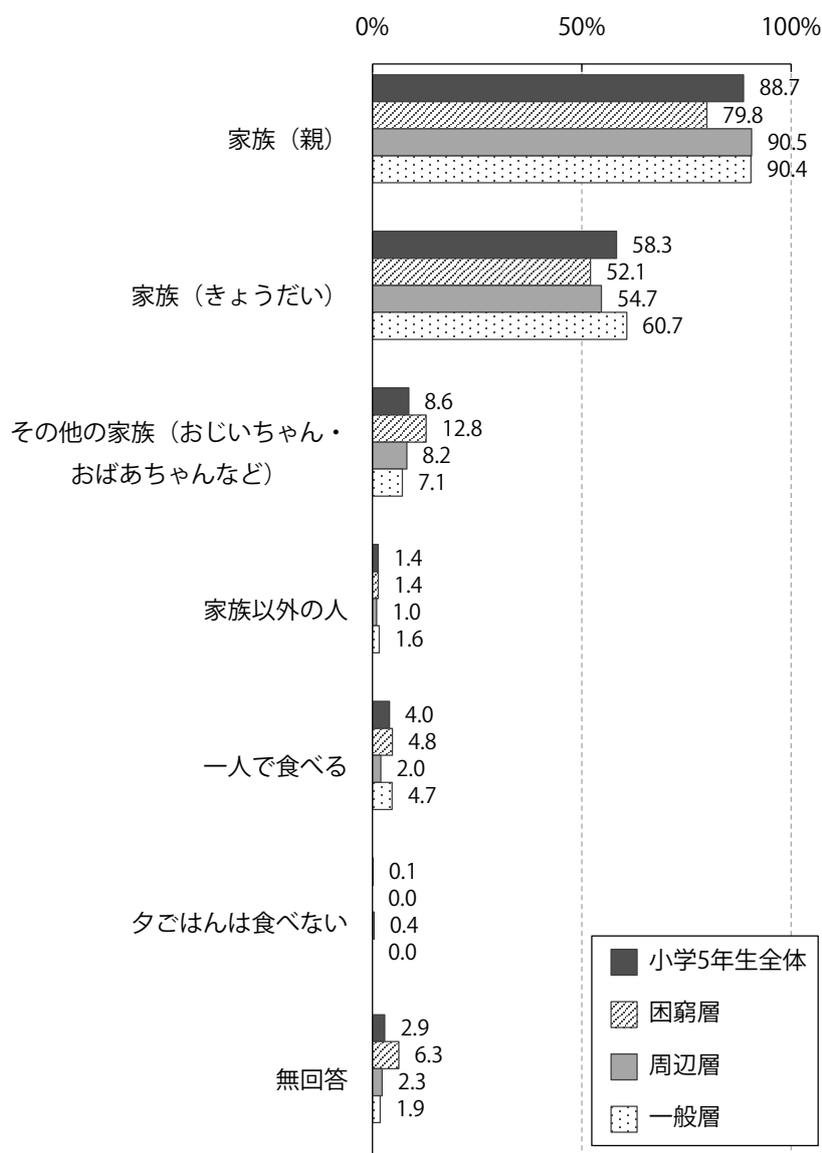
【子ども票】

平日に夕ごはんを一緒に食べる人について、小学5年生全体では「家族（親）」が88.7%で最も多く、次いで「家族（きょうだい）」が58.3%となっている。朝食よりも「家族（親）」の割合は高くなっている。

「一人で食べる」と回答した割合は、困窮層で4.8%、周辺層で2.0%、一般層で4.7%となっている。

問19 平日に夕ごはんを一緒に食べる人

**小学5年生**



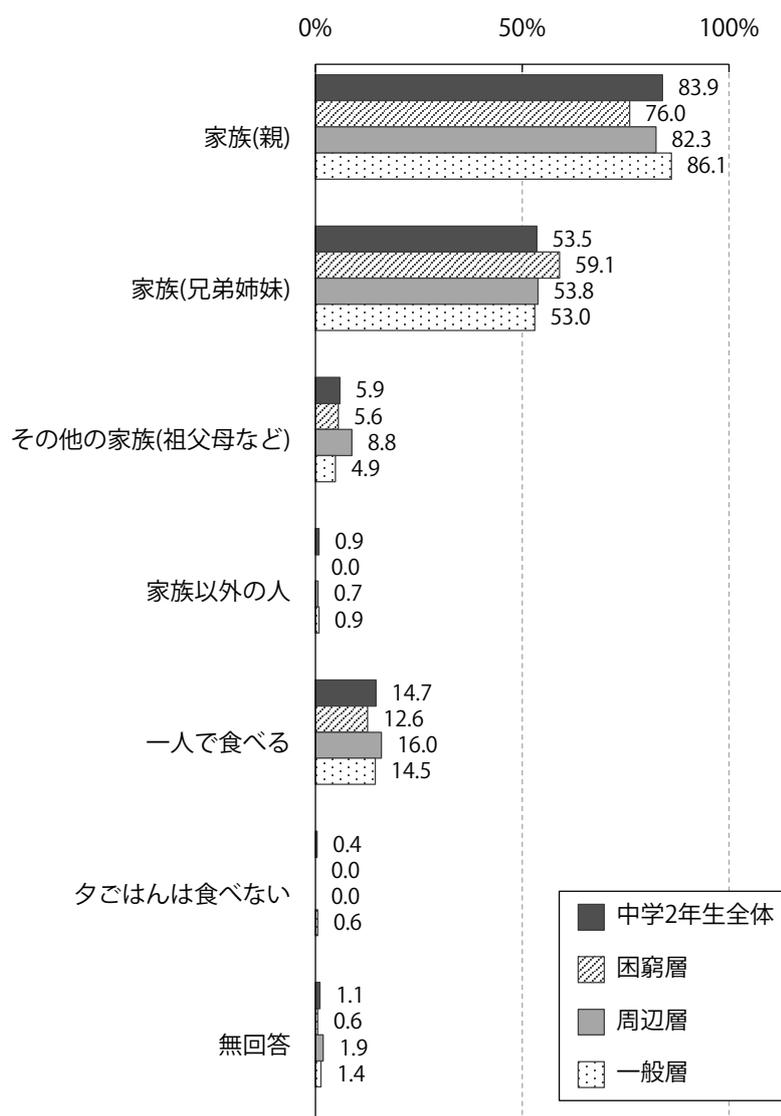
## 【子ども票】

平日に夕ごはんを一緒に食べる人について、中学2年生全体では「家族(親)」が83.9%で最も多く、次いで「家族(兄弟姉妹)」が53.5%となっている。朝食よりも「家族(親)」の割合は高くなっている。

「一人で食べる」と回答した割合は、困窮層で12.6%、周辺層で16.0%、一般層で14.5%となっている。「一人で食べる」は、朝食よりも割合が低くなっている。

## 問19 平日に夕ごはんを一緒に食べる人

## 中学2年生



【保護者票】【子ども票】

平日に夕ごはんを一緒に食べる人について、母親の1週間の平均就労時間との関連性をみると、小学5年生で「一人で食べる」の割合は母親の週当たり平均就労時間が「40～50時間未満」で最も高くなっている。小学5年生で、「夕ごはんは食べない」の回答数は2と少ないが、その2名は「30～40時間未満」「40～50時間未満」の家庭の子どもである。

平日に夕ごはんを一緒に食べる人（母親の1週間の平均就労時間別）

小学5年生

上段：回答者数 下段：%	合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						
		10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体	1344 100.0	105 <sup>1</sup> 7.8 <sup>1</sup>	313 <sup>1</sup> 23.3 <sup>1</sup>	347 <sup>1</sup> 25.8 <sup>1</sup>	190 <sup>1</sup> 14.2 <sup>1</sup>	274 <sup>1</sup> 20.4 <sup>1</sup>	65 <sup>1</sup> 4.8 <sup>1</sup>	49 <sup>1</sup> 3.7 <sup>1</sup>
【子ども票】 問19 平日に夕ごはんを一緒に食べる人								
家族（親）	1205 100.0	97 <sup>1</sup> 8.1 <sup>1</sup>	296 <sup>1</sup> 24.6 <sup>1</sup>	318 <sup>1</sup> 26.4 <sup>1</sup>	164 <sup>1</sup> 13.6 <sup>1</sup>	242 <sup>1</sup> 20.1 <sup>1</sup>	49 <sup>1</sup> 4.1 <sup>1</sup>	38 <sup>1</sup> 3.2 <sup>1</sup>
家族（きょうだい）	791 100.0	64 <sup>1</sup> 8.1 <sup>1</sup>	197 <sup>1</sup> 25.0 <sup>1</sup>	207 <sup>1</sup> 26.2 <sup>1</sup>	119 <sup>1</sup> 15.1 <sup>1</sup>	141 <sup>1</sup> 17.8 <sup>1</sup>	34 <sup>1</sup> 4.3 <sup>1</sup>	28 <sup>1</sup> 3.5 <sup>1</sup>
その他の家族（おじいちゃん・おばあちゃんなど）	129 100.0	8 <sup>1</sup> 6.3 <sup>1</sup>	21 <sup>1</sup> 16.6 <sup>1</sup>	23 <sup>1</sup> 17.9 <sup>1</sup>	22 <sup>1</sup> 17.2 <sup>1</sup>	37 <sup>1</sup> 28.9 <sup>1</sup>	13 <sup>1</sup> 9.9 <sup>1</sup>	4 <sup>1</sup> 3.2 <sup>1</sup>
家族以外の人	18 100.0	3 <sup>1</sup> 18.2 <sup>1</sup>	3 <sup>1</sup> 16.0 <sup>1</sup>	4 <sup>1</sup> 24.3 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 8.2 <sup>1</sup>	3 <sup>1</sup> 17.7 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 10.5 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 5.0 <sup>1</sup>
一人で食べる	53 100.0	2 <sup>1</sup> 4.6 <sup>1</sup>	12 <sup>1</sup> 23.5 <sup>1</sup>	7 <sup>1</sup> 13.5 <sup>1</sup>	5 <sup>1</sup> 10.2 <sup>1</sup>	15 <sup>1</sup> 28.8 <sup>1</sup>	7 <sup>1</sup> 12.9 <sup>1</sup>	3 <sup>1</sup> 6.6 <sup>1</sup>
夕ごはんは食べない	2 100.0	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 53.8 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 46.2 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>
無回答	38 100.0	2 <sup>1</sup> 4.4 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 5.1 <sup>1</sup>	14 <sup>1</sup> 36.9 <sup>1</sup>	12 <sup>1</sup> 31.6 <sup>1</sup>	6 <sup>1</sup> 15.3 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 2.3 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 4.4 <sup>1</sup>

中学2年生

上段：回答者数 下段：%	合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						
		10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体	1424 100.0	71 <sup>1</sup> 5.0 <sup>1</sup>	291 <sup>1</sup> 20.5 <sup>1</sup>	413 <sup>1</sup> 29.0 <sup>1</sup>	200 <sup>1</sup> 14.0 <sup>1</sup>	312 <sup>1</sup> 21.9 <sup>1</sup>	96 <sup>1</sup> 6.8 <sup>1</sup>	40 <sup>1</sup> 2.8 <sup>1</sup>
【子ども票】 問19 平日に夕ごはんを一緒に食べる人								
家族（親）	1192 100.0	62 <sup>1</sup> 5.2 <sup>1</sup>	252 <sup>1</sup> 21.1 <sup>1</sup>	355 <sup>1</sup> 29.8 <sup>1</sup>	180 <sup>1</sup> 15.1 <sup>1</sup>	244 <sup>1</sup> 20.5 <sup>1</sup>	68 <sup>1</sup> 5.7 <sup>1</sup>	32 <sup>1</sup> 2.7 <sup>1</sup>
家族（兄弟姉妹）	764 100.0	30 <sup>1</sup> 4.0 <sup>1</sup>	167 <sup>1</sup> 21.9 <sup>1</sup>	233 <sup>1</sup> 30.5 <sup>1</sup>	93 <sup>1</sup> 12.1 <sup>1</sup>	165 <sup>1</sup> 21.6 <sup>1</sup>	53 <sup>1</sup> 7.0 <sup>1</sup>	22 <sup>1</sup> 2.9 <sup>1</sup>
その他の家族（祖父母など）	86 100.0	2 <sup>1</sup> 2.1 <sup>1</sup>	15 <sup>1</sup> 17.2 <sup>1</sup>	10 <sup>1</sup> 11.5 <sup>1</sup>	19 <sup>1</sup> 22.1 <sup>1</sup>	28 <sup>1</sup> 32.5 <sup>1</sup>	11 <sup>1</sup> 12.8 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 1.8 <sup>1</sup>
家族以外の人	13 100.0	1 <sup>1</sup> 5.7 <sup>1</sup>	3 <sup>1</sup> 25.2 <sup>1</sup>	3 <sup>1</sup> 24.3 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 17.0 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 14.8 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 6.5 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 6.5 <sup>1</sup>
一人で食べる	225 100.0	15 <sup>1</sup> 6.7 <sup>1</sup>	45 <sup>1</sup> 20.2 <sup>1</sup>	56 <sup>1</sup> 25.0 <sup>1</sup>	22 <sup>1</sup> 9.6 <sup>1</sup>	55 <sup>1</sup> 24.6 <sup>1</sup>	22 <sup>1</sup> 9.8 <sup>1</sup>	9 <sup>1</sup> 4.0 <sup>1</sup>
夕ごはんは食べない	6 100.0	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 36.9 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 19.1 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 30.0 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 14.0 <sup>1</sup>	0 <sup>1</sup> 0.0 <sup>1</sup>
無回答	17 100.0	1 <sup>1</sup> 4.9 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 4.9 <sup>1</sup>	8 <sup>1</sup> 48.7 <sup>1</sup>	2 <sup>1</sup> 9.1 <sup>1</sup>	4 <sup>1</sup> 24.3 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 4.2 <sup>1</sup>	1 <sup>1</sup> 4.0 <sup>1</sup>

### 3 平日の放課後の過ごし方

#### (1) 平日の放課後を過ごす場所と頻度

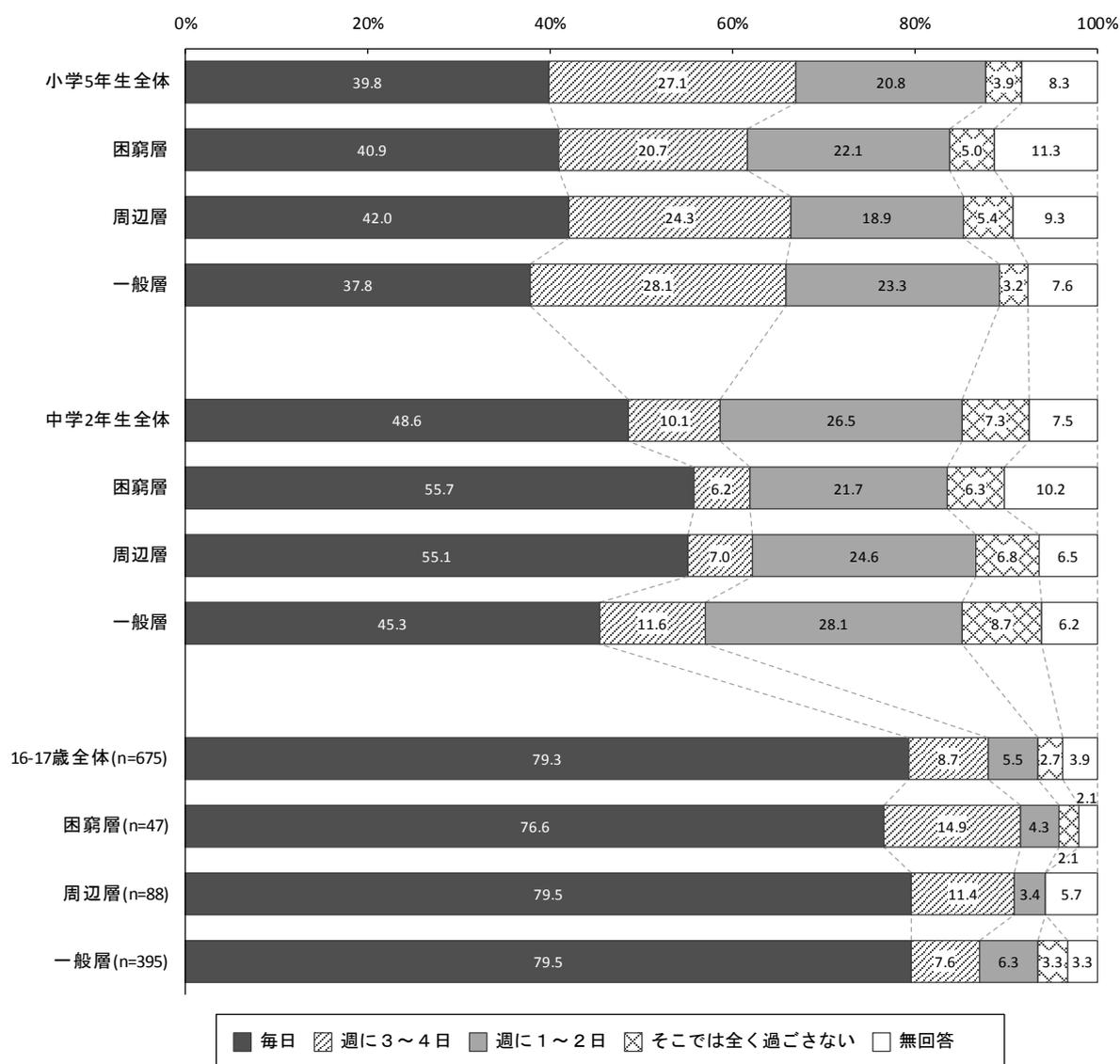
##### ① 自分の家

【子ども票】

平日の放課後を「自分の家」で過ごす頻度について、「毎日」「週に3～4日」を合わせた回答の割合は、小学5年生の困窮層で61.6%、周辺層で66.3%、一般層で65.9%、中学2年生の困窮層で61.9%、周辺層で62.1%、一般層で56.9%、16-17歳の困窮層で91.5%、周辺層で90.9%、一般層で87.1%となっている。

16-17歳では、小学5年生、中学2年生と比べると割合が高くなっている。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／① 自分の家



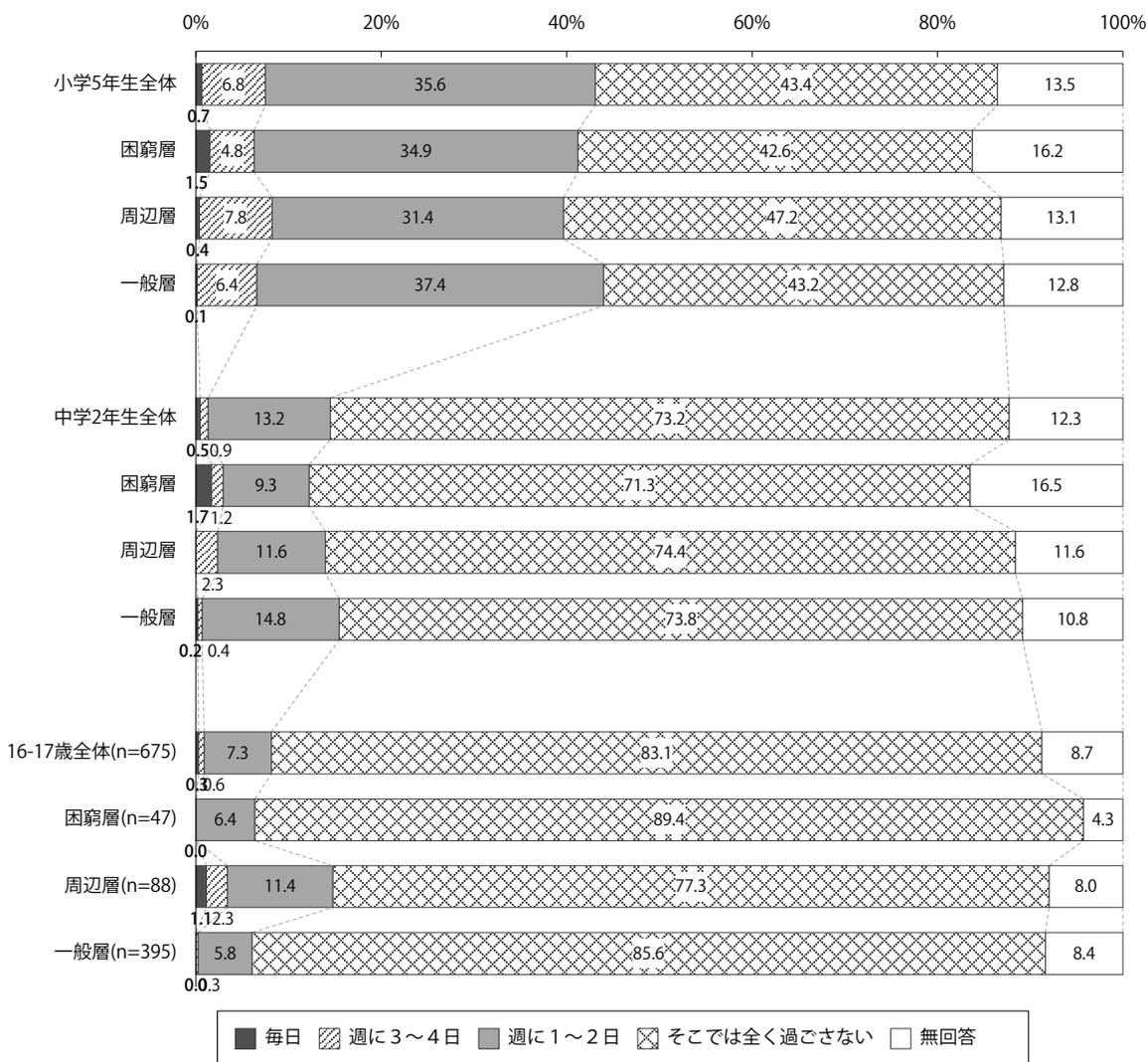
② 友だちの家

【子ども票】

平日の放課後を「友だちの家」で過ごす頻度について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で42.6%、周辺層で47.2%、一般層で43.2%、中学2年生の困窮層で71.3%、周辺層で74.4%、一般層で73.8%、16-17歳の困窮層で89.4%、周辺層で77.3%、一般層で85.6%となっている。

小学5年生の全体では35.6%が「週に1~2日」と回答しているが、中学2年生、16-17歳になるとその割合は低くなっている。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／② 友だちの家



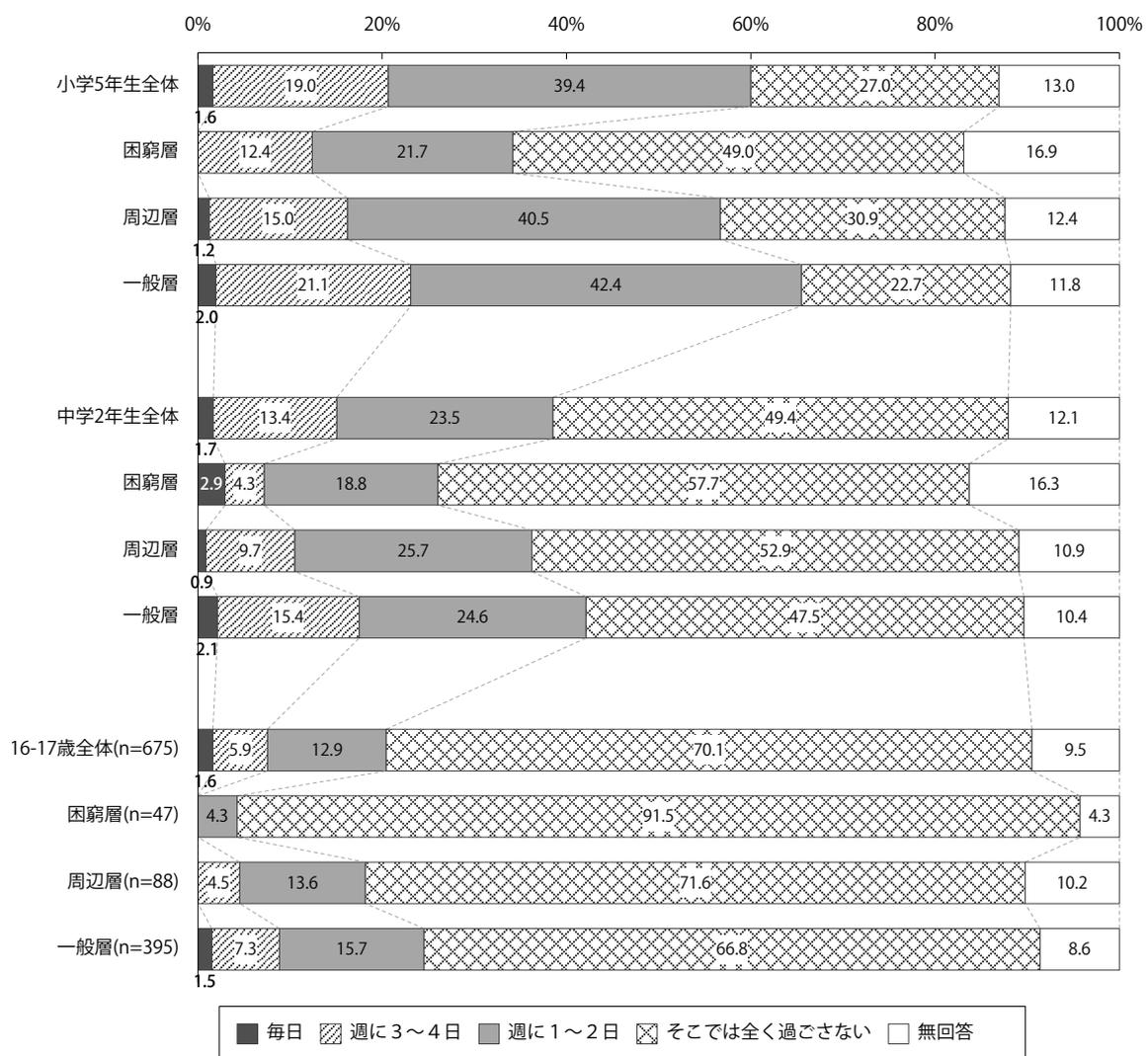
## ③ 塾や習い事

【子ども票】

平日の放課後を「塾や習い事」で過ごす頻度について、「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」を合わせた回答の割合は、小学5年生の困窮層で34.1%、周辺層で56.7%、一般層で65.5%、中学2年生の困窮層で26.0%、周辺層で36.3%、一般層で42.1%、16-17歳の困窮層で4.3%、周辺層で18.1%、一般層で24.5%となっており、生活困難度が高いほど割合が低くなっている。

「そこでは全く過ごさない」は16-17歳になると小学5年生、中学2年生と比べて割合が高くなっている。

問8/問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度/③ 塾や習い事

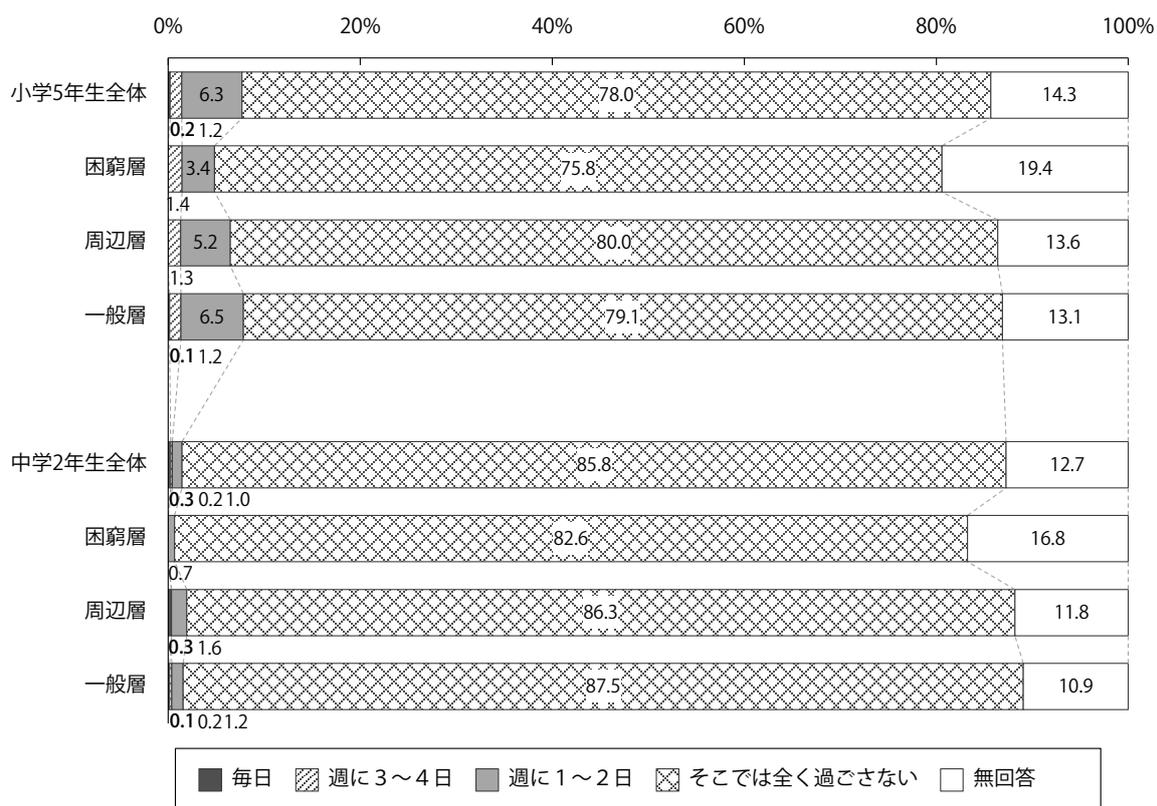


④ 児童館・児童センター

【子ども票】

平日の放課後を「児童館・児童センター」で過ごす頻度について、「毎日」は非常に少なく、「週に3～4日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で1.4%、周辺層で1.3%、一般層で1.2%となっており、生活困難度が高くなるほど割合が高くなっている。中学2年生では全体で85.8%が、「そこでは全く過ごさない」と回答している。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／④ 児童館・児童センター

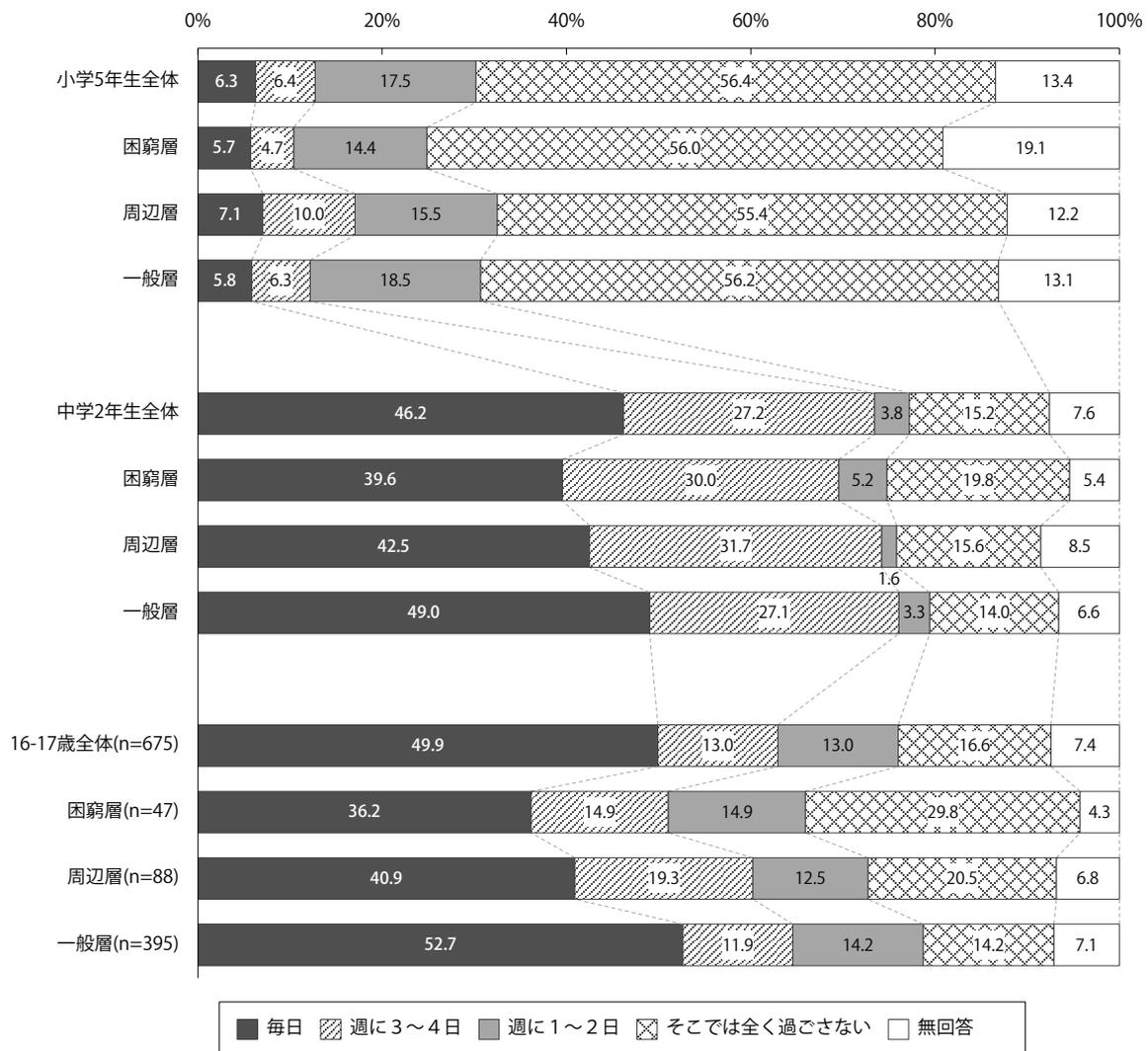


## ⑤ 学校（部活など）

【子ども票】

平日の放課後を「学校（部活など）」で過ごす頻度について、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.0%、周辺層で55.4%、一般層で56.2%、中学2年生の困窮層で19.8%、周辺層で15.6%、一般層で14.0%、16-17歳の困窮層で29.8%、周辺層で20.5%、一般層で14.2%となっている。生活困難度との明確な相関はみられないが、年齢があがるほど困窮層では学校で過ごさなくなる傾向がみられる。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／⑤ 学校(部活など)

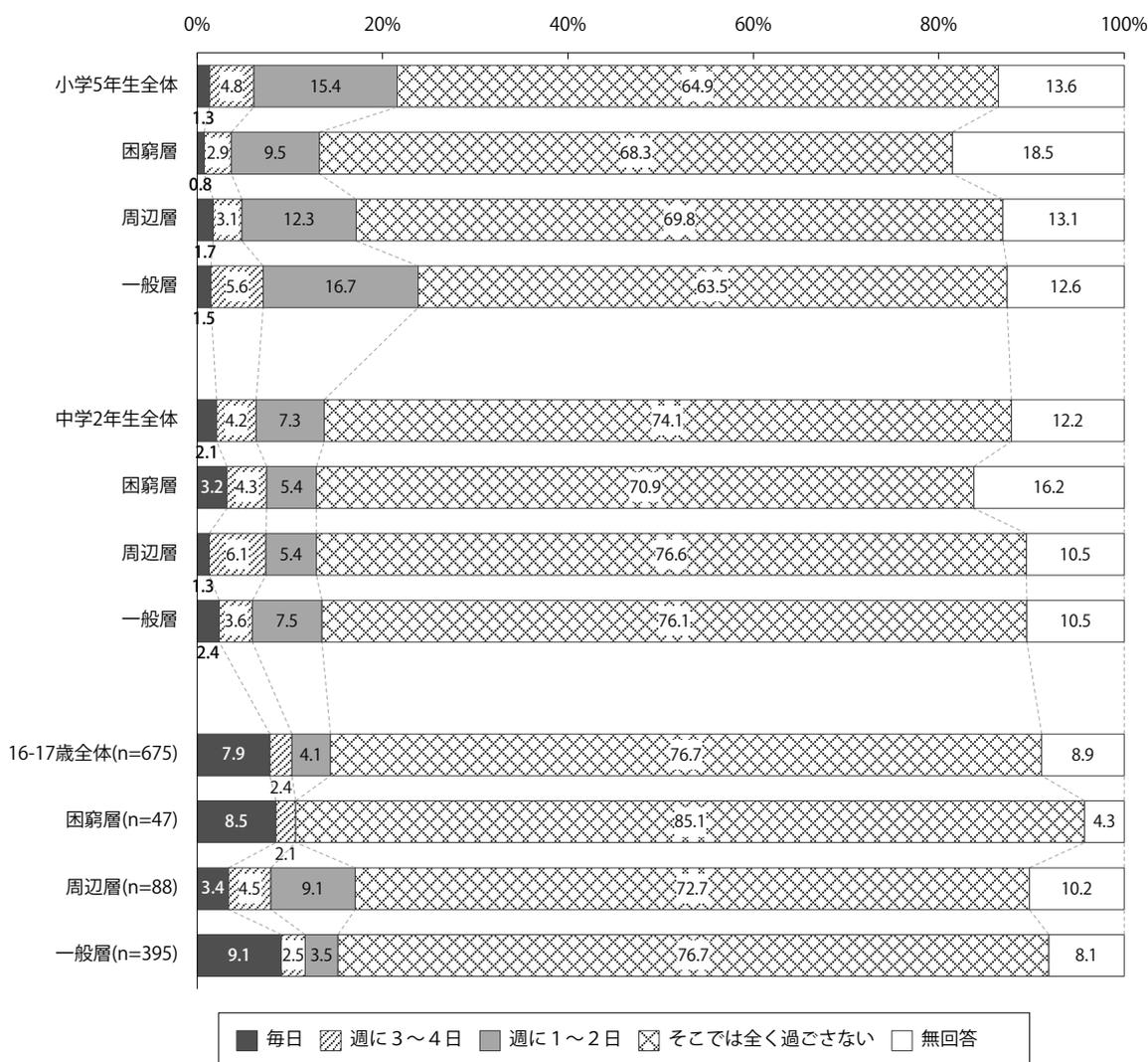


⑥ スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）

【子ども票】

平日の放課後を「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」で過ごす頻度について、「週に3～4日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で2.9%、周辺層で3.1%、一般層で5.6%となっており、生活困難度が高くなるほど割合が低い。中学2年生では全体で74.1%が、「そこでは全く過ごさない」と回答している。16-17歳においては困窮層の「毎日」で8.5%の回答がみられ、「そこでは全く過ごさない」の割合をみても、生活困難度との明確な相関はみられない。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／⑥ スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）



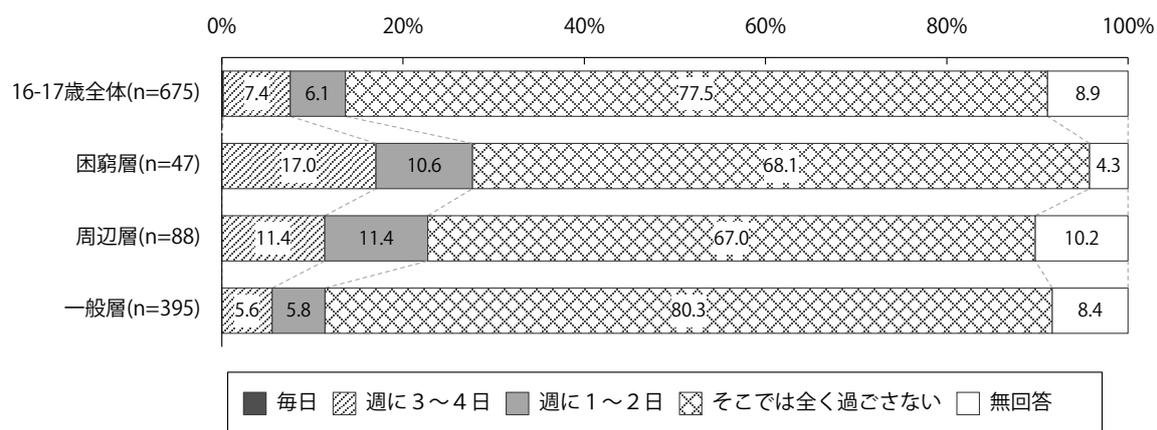
## ⑦ アルバイトなどの職場

【子ども票】

平日の放課後を「アルバイトなどの職場」で過ごす頻度については16-17歳のみの設問となっている。

「週に3~4日」「週に1~2日」を合わせた回答の割合は、困窮層で27.6%、周辺層で22.8%、一般層で11.4%となっており、生活困難度が高くなるほど割合が高い。

問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／⑦ アルバイトなどの職場



⑧ 公園

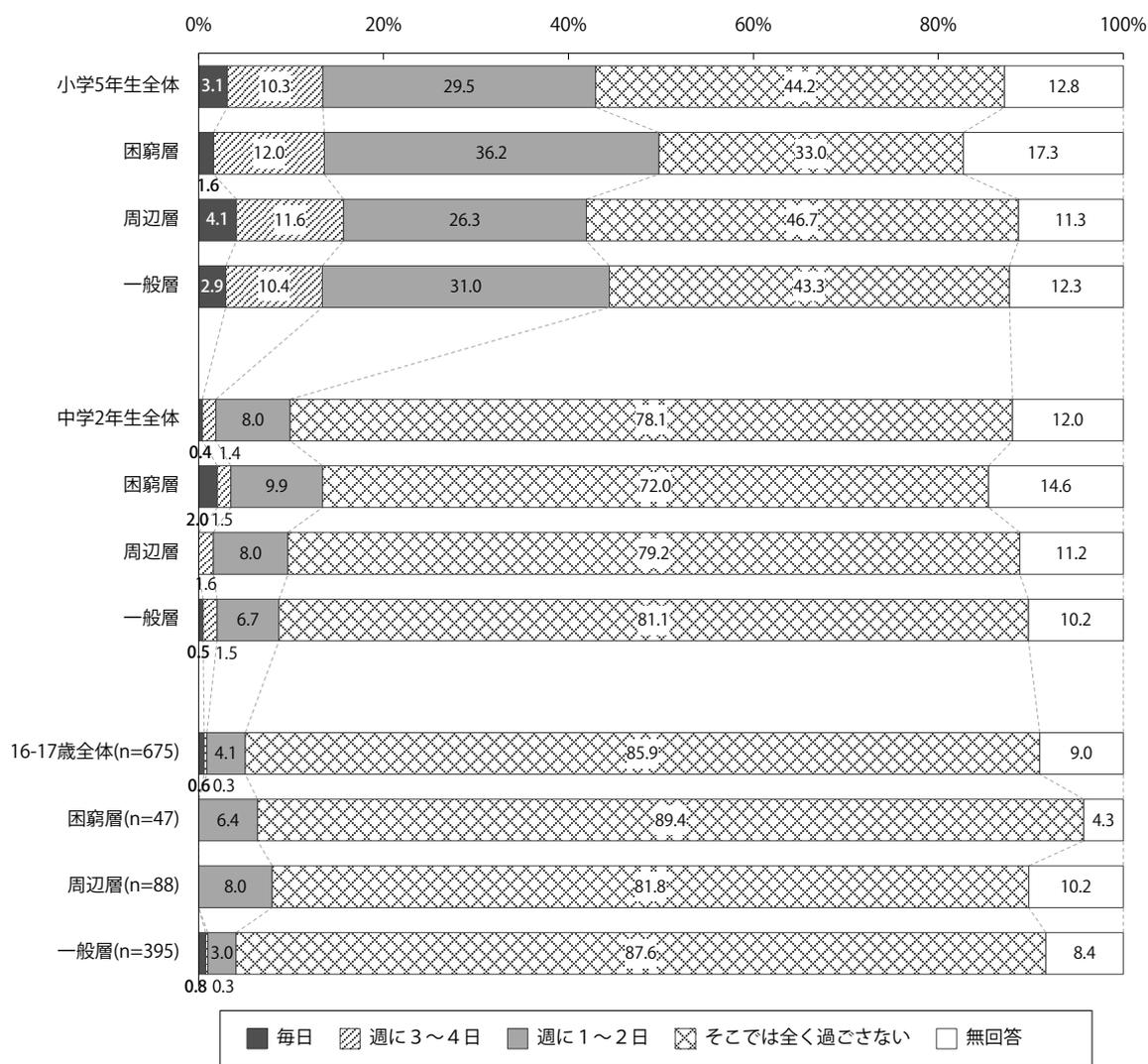
【子ども票】

平日の放課後を「公園」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.2%、周辺層で26.3%、一般層で31.0%となっている。

小学5年生では全体で10.3%が、「週に3～4日」と回答している。

小学生と比べ、中学生以上になると放課後を「公園」で過ごすことが少なくなっている。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／⑧ 公園



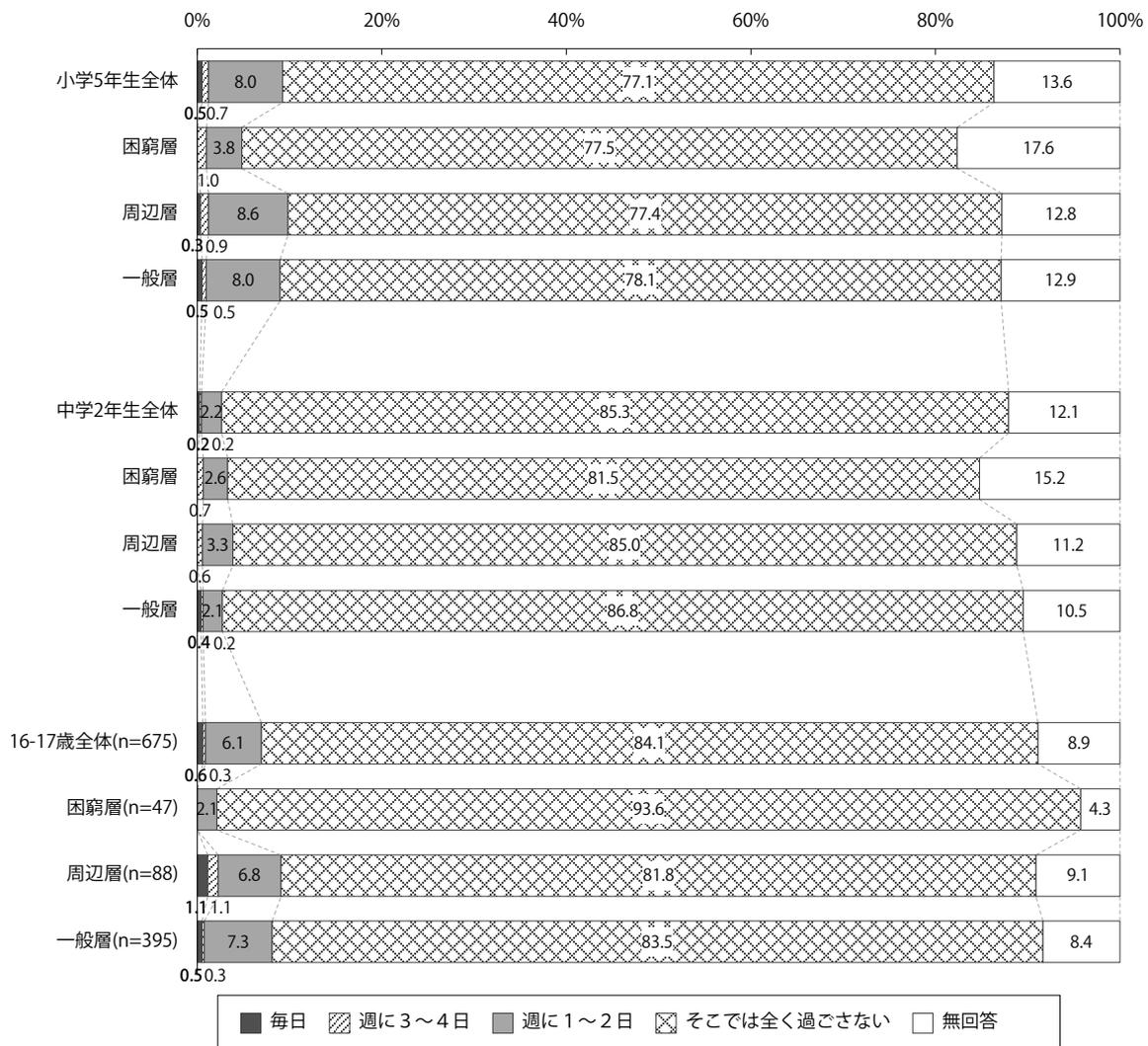
## ⑨ 図書館

【子ども票】

平日の放課後を「図書館」で過ごす頻度については、「そこでは全く過ごさない」と回答した割合が各層で7割を超えており、小学5年生の困窮層で77.5%、周辺層で77.4%、一般層で78.1%、中学2年生の困窮層で81.5%、周辺層で85.0%、一般層で86.8%、16-17歳の困窮層で93.6%、周辺層で81.8%、一般層で83.5%となっている。

16-17歳の困窮層では「週に1~2日」が2.1%みられるのみであり、「図書館」で過ごす頻度が少ないことがわかる。

問8／問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度／⑨ 図書館

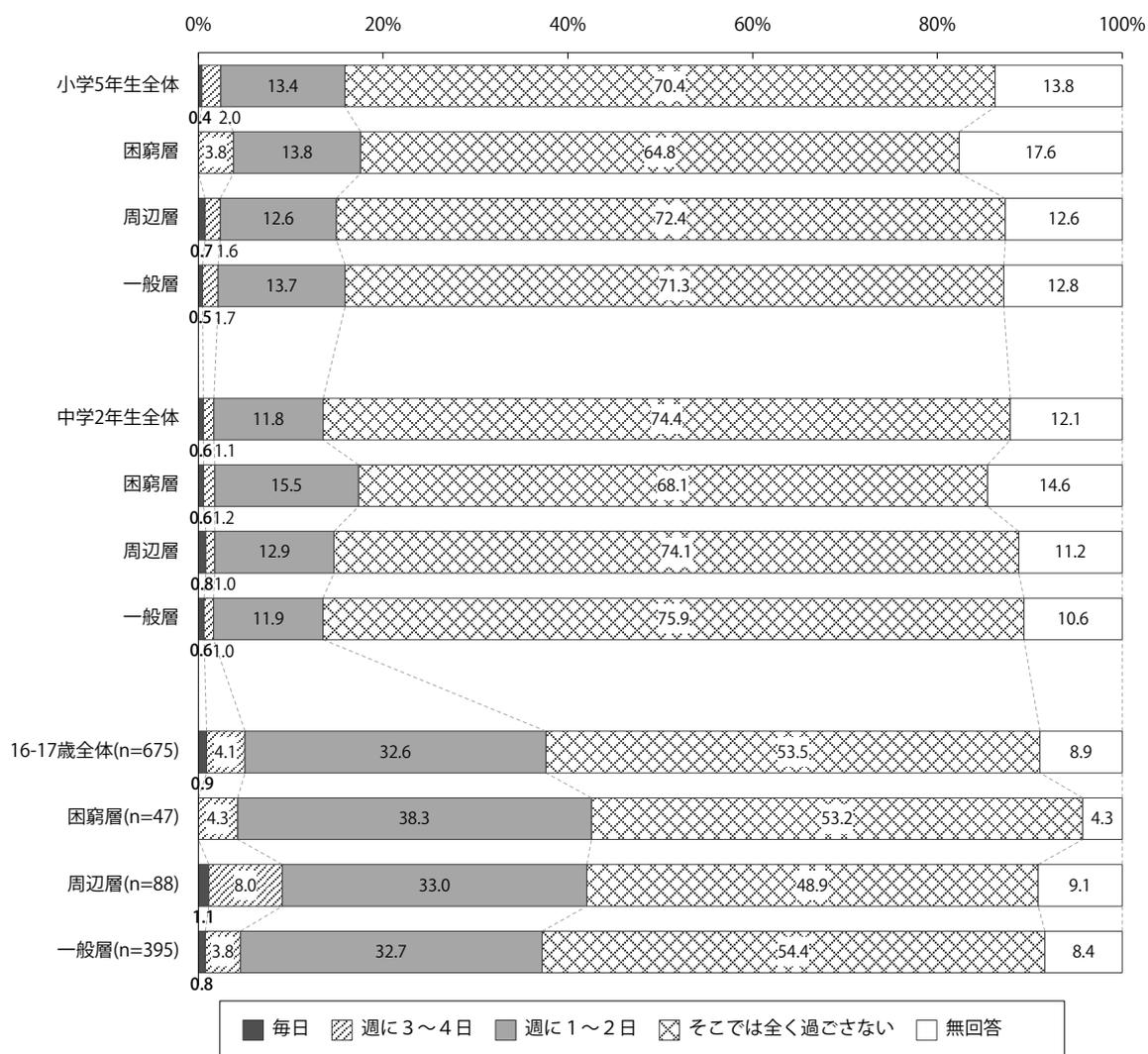


⑩ 商店街やショッピングモール

【子ども票】

平日の放課後を「商店街やショッピングモール」で過ごす頻度について、「週に1～2日」と回答した割合は、小学5年生の全体で13.4%、中学2年生の全体で11.8%であるのに対し、16-17歳では32.6%となっている。頻度の多い16-17歳で「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」を合わせた割合を生活困難度別にみると、困窮層で42.6%、周辺層で42.1%、一般層で37.3%となっており、生活困難度が高くなるほど「商店街やショッピングモール」で過ごす割合が高い。

問8/問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度/⑩ 商店街やショッピングモール



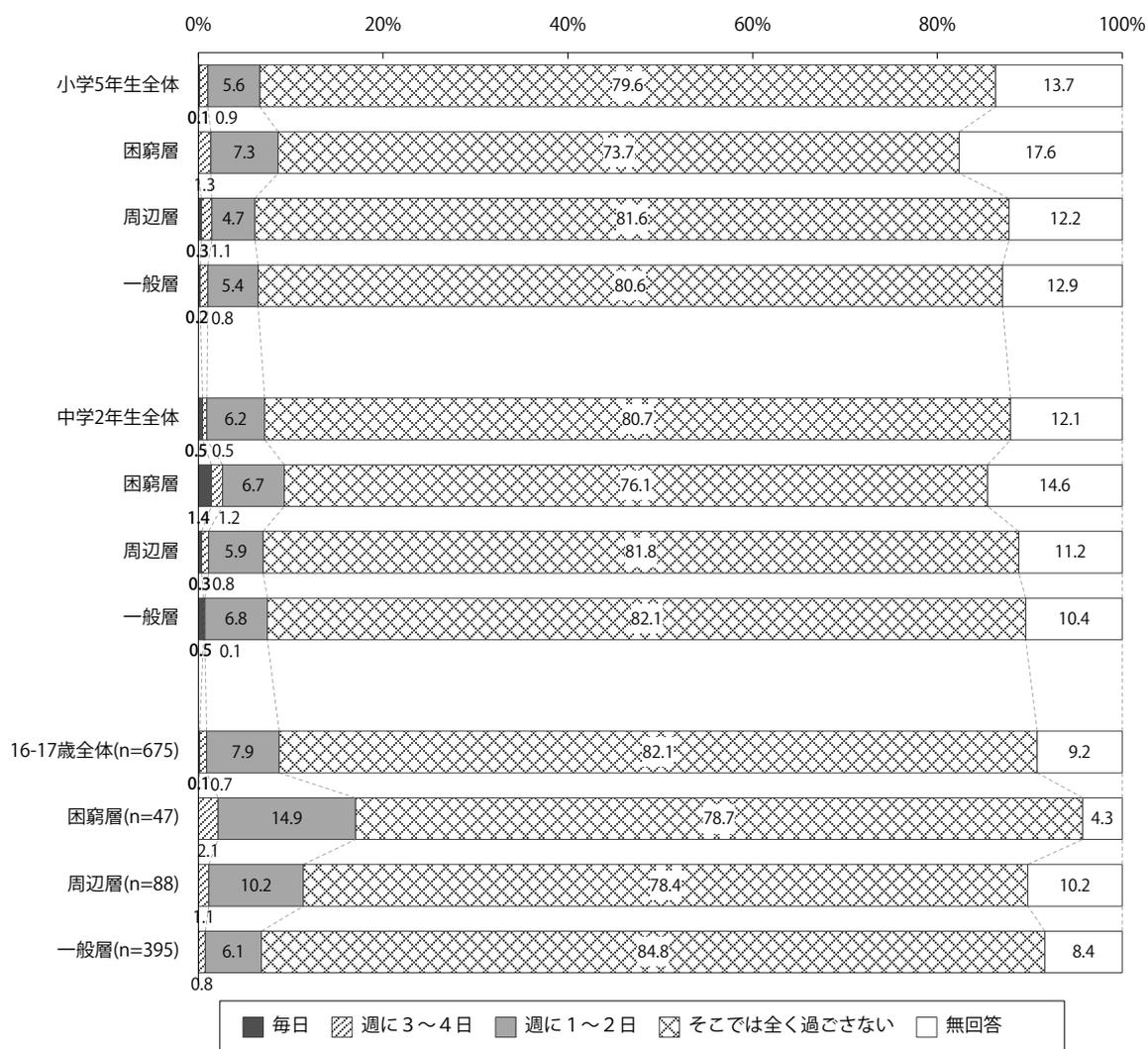
## ⑪ ゲームセンター

【子ども票】

平日の放課後を「ゲームセンター」で過ごす頻度について、「週に1~2日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で7.3%、周辺層で4.7%、一般層で5.4%、中学2年生の困窮層で6.7%、周辺層で5.9%、一般層で6.8%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で10.2%、一般層で6.1%となっている。

「毎日」「週に3~4日」「週に1~2日」を合わせてみると、週に1日以上を「ゲームセンター」で過ごすのは、16-17歳の困窮層が17.0%で最も割合が高い。

問8/問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度/⑪ ゲームセンター

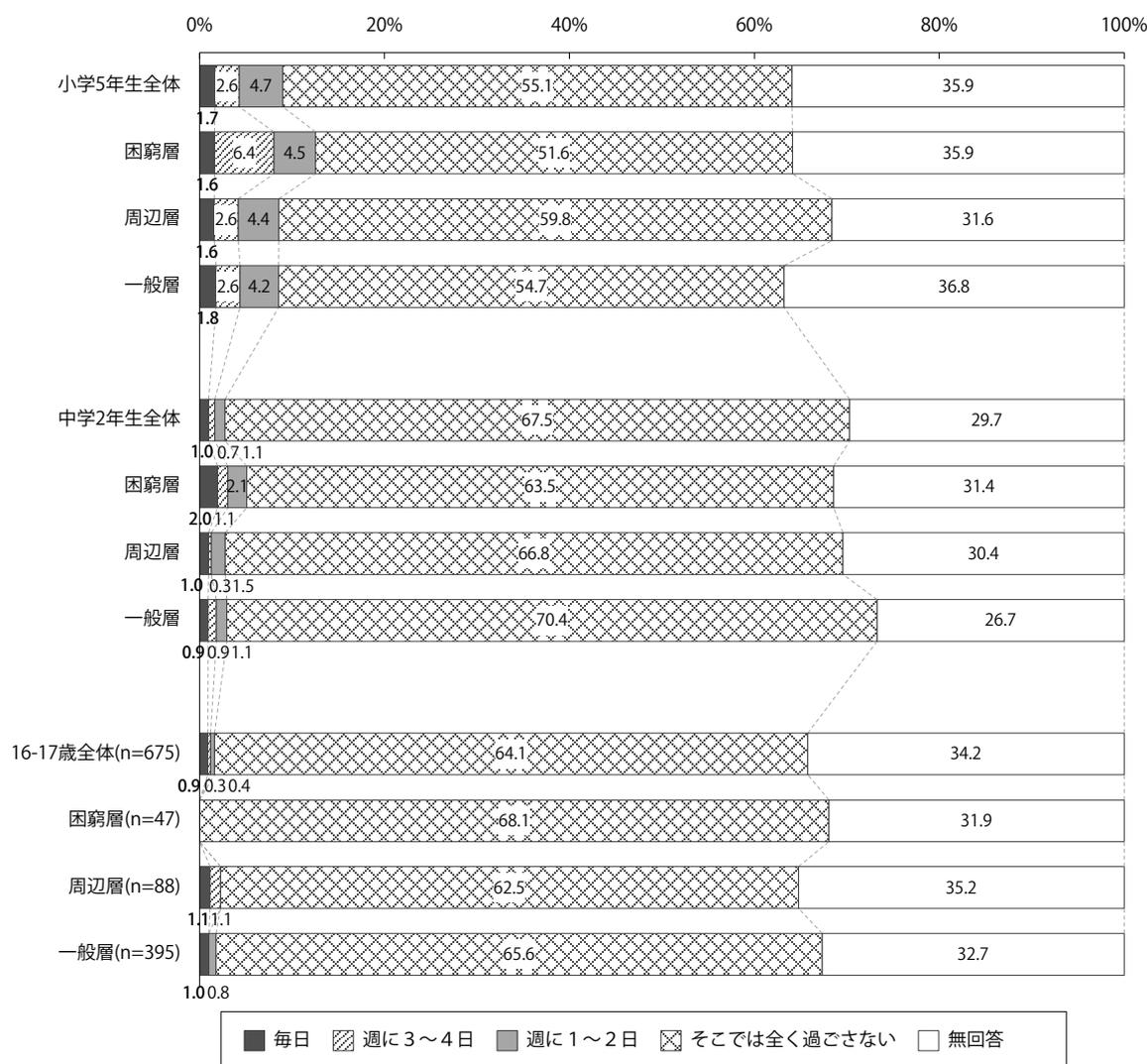


⑫ その他

【子ども票】

平日の放課後を「その他」で過ごす頻度について、「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」を合わせた割合が最も高いのは小学5年生の困窮層となっている。

問8/問9 平日の放課後その場所で過ごす頻度/⑫ その他



小学5年生の「その他」の内容(件): 家の前(22) / 祖母の家(18) / 外ですごす(11) / 学校の校庭(7) / 祖父の家(6) / コンビニ(4) / 公民館(3) / 神社(3) / 通っていた保育園

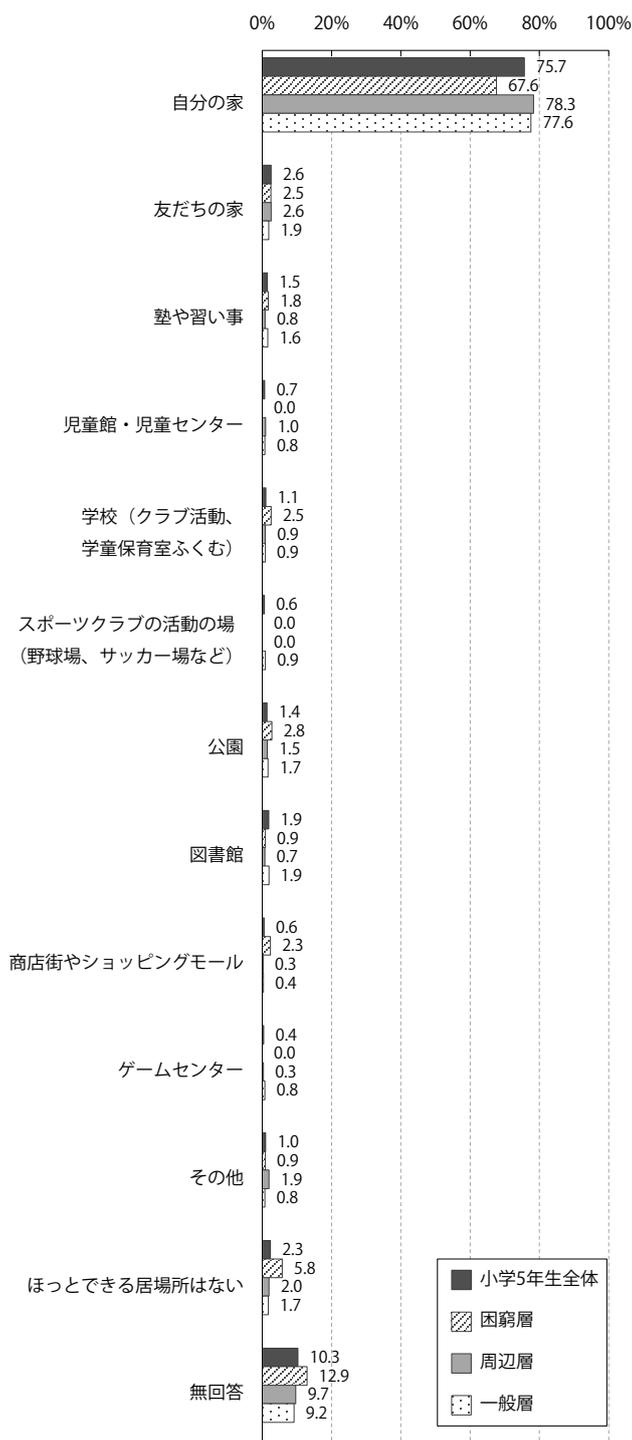
## (2) 一番ほっとできる居場所

【子ども票】

一番ほっとできる居場所について、小学5年生の全体では「自分の家」が75.7%で最も多くなっている。生活困難度別にみると、困窮層で67.6%、周辺層で78.3%、一般層で77.6%となっており、困窮層での割合が低くなっている。困窮層の子どもは他の層よりも「自分の家」を一番ほっとできる居場所としていない率が高いということになる。また、「ほっとできる居場所はない」との回答が困窮層で5.8%みられる。

問9／問8の場所の中で、一番ほっとできる居場所

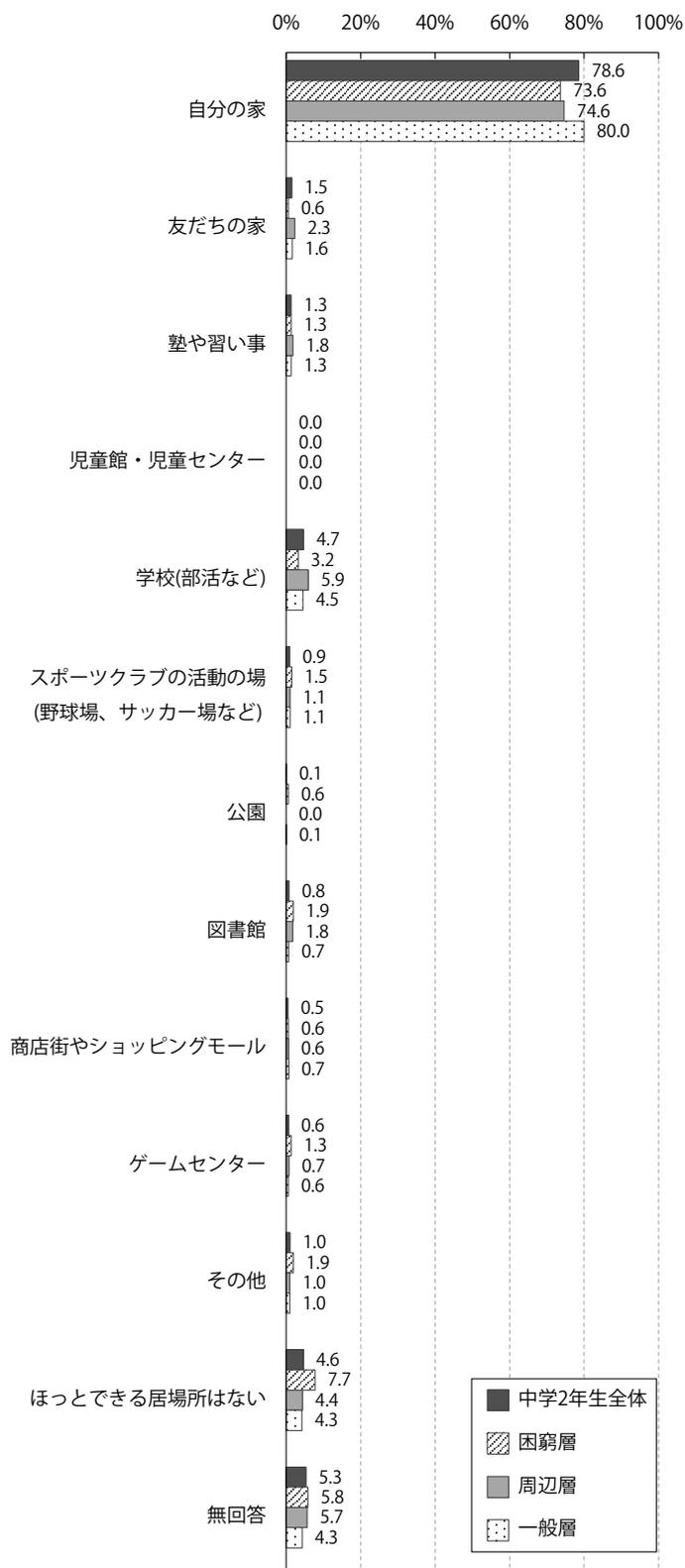
小学5年生



一番ほっとできる居場所について、中学2年生の全体では「自分の家」が78.6%で最も多くなっている。生活困難度別にみると、困窮層で73.6%、周辺層で74.6%、一般層で80.0%となっており、困窮層での割合がやや低くなっている。中学2年生では、「ほっとできる居場所はない」との回答が、困窮層で7.7%みられる。

問9／問8の場所の中で、一番ほっとできる居場所

中学2年生

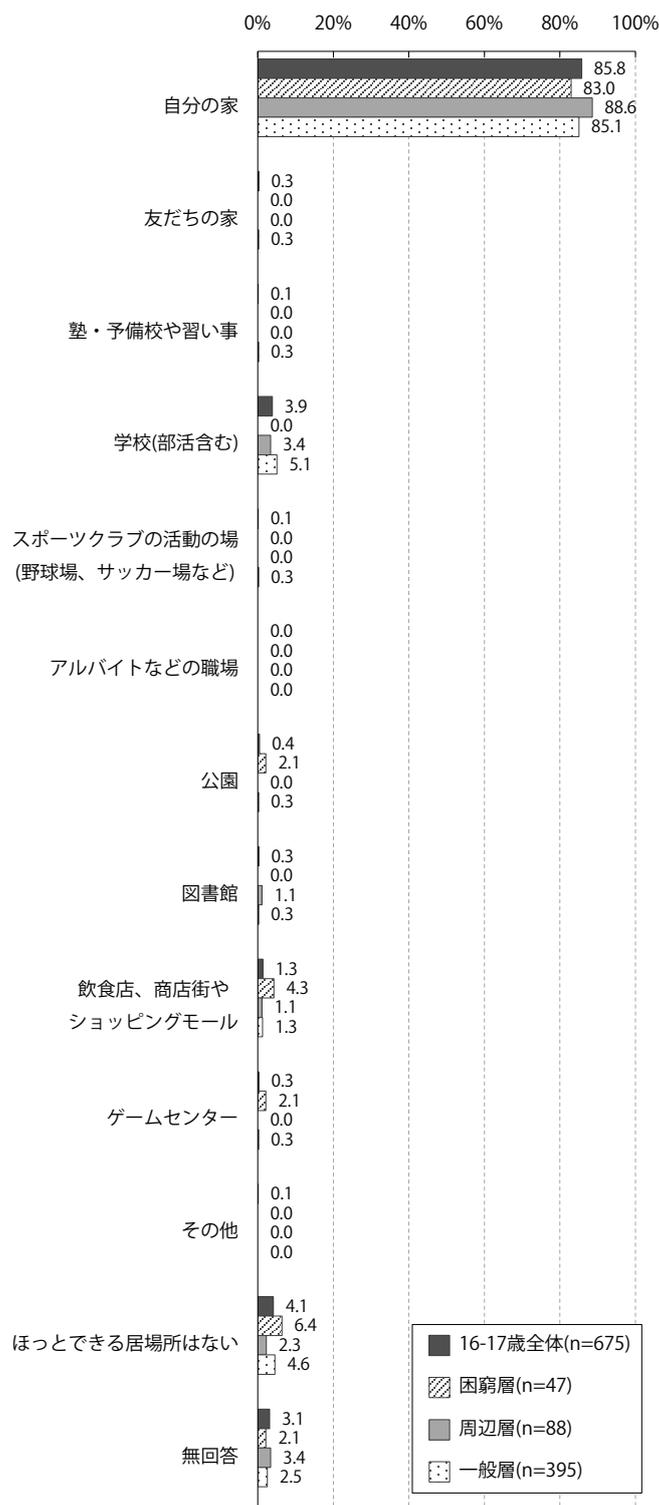


## 【子ども票】

一番ほっとできる居場所について、16-17歳の全体では「自分の家」が85.8%で最も多くなっている。生活困難度別にみると、困窮層で83.0%、周辺層で88.6%、一般層で85.1%となっており、困窮層での割合が低くなっている。また、「ほっとできる居場所はない」との回答が、困窮層で6.4%みられる。

問10／問9の場所の中で、一番ほっとできる居場所

16-17歳

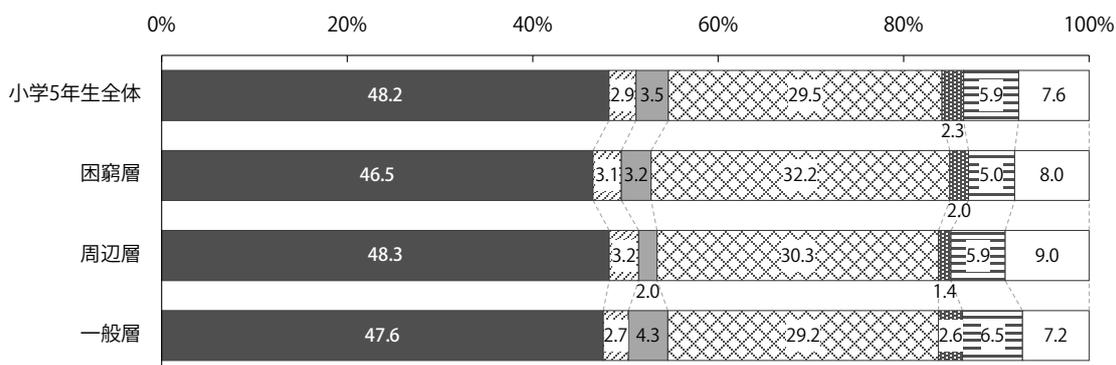


### (3) 放課後・自由時間を一緒に過ごす人

【子ども票】

小学5年生の、平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で5.0%、周辺層で5.9%、一般層で6.5%となっている。

問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人

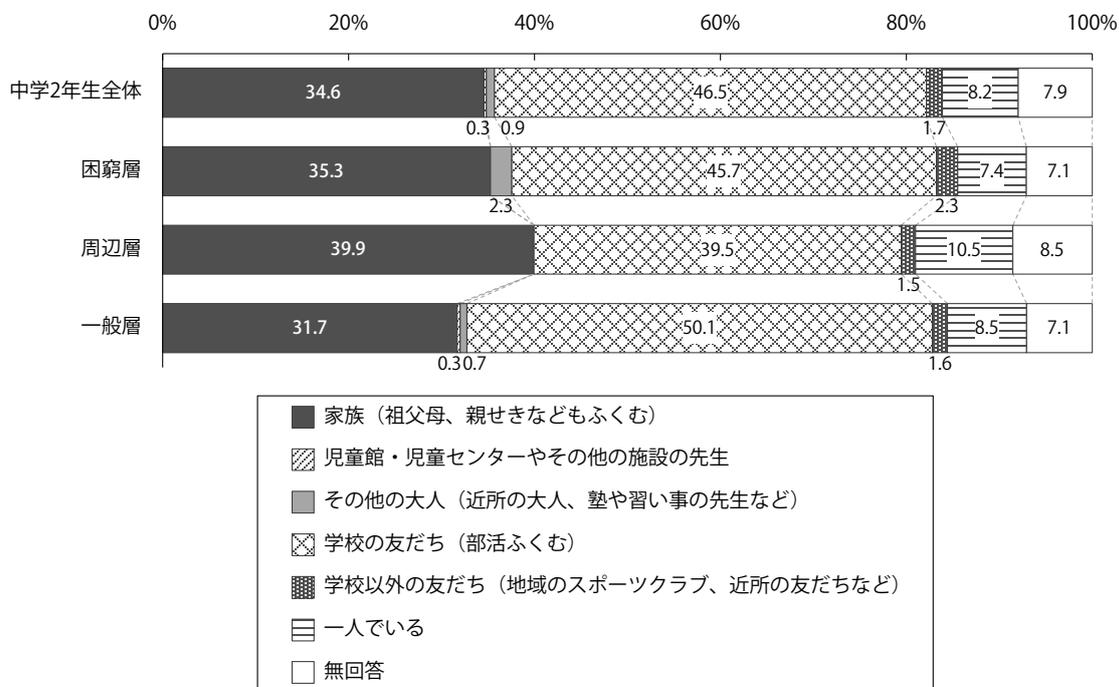


- 家族 (おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなどもふくむ)
- ▨ 学童保育室、その他の施設の先生
- その他の大人 (近所の大人、塾や習い事の先生など)
- ▨ 学校の友だち
- ▨ 学校以外の友だち (地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど)
- ▨ 一人である
- 無回答

## 【子ども票】

中学2年生の、平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で7.4%、周辺層で10.5%、一般層で8.5%となっている。

## 問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人

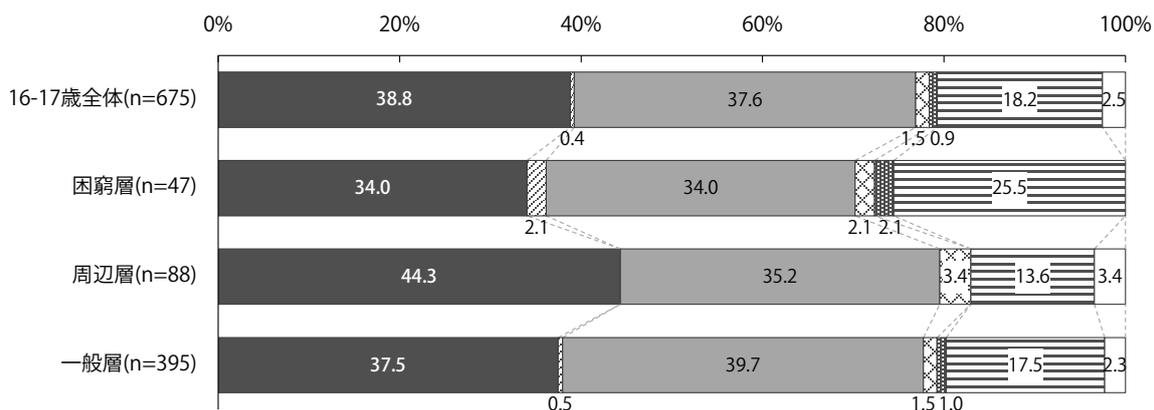


16-17歳の、平日の自由時間に一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で25.5%、周辺層で13.6%、一般層で17.5%となっている。

全体的に小学5年生や中学2年生よりも「一人である」の割合は高い。

また、「アルバイトなどの職場の人」が、困窮層で2.1%、一般層で1.0%みられる。

問8 平日の自由時間に一緒に過ごすことが一番多い人



- 家族（祖父母、親せきなども含む）
- ▨ 家族以外の大人（近所の大人、塾・予備校や習い事の先生、スポーツクラブのコーチなど）
- 学校の友だち（部活含む）
- ▨ 学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だち、小・中学校で一緒だった友だちなど）
- ▨ アルバイトなどの職場の人
- ▨ 一人である
- 無回答

## 【保護者票】【子ども票】

平日の放課後、小学5年生と中学2年生で「一人である」子どもについて、母親の1週間の平均就労時間との関連性をみると、母親の週当たり平均就労時間が長く「40～50時間未満」の層で「一人である」割合が高くなる。

平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人（母親の1週間の平均就労時間別）

## 小学5年生

上段：回答者数 下段：%	合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						
		10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体	1344 100.0	105 7.8	313 23.3	347 25.8	190 14.2	274 20.4	65 4.8	49 3.7
【子ども票】問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人								
家族（おじいちゃん・おばあちゃん、親せきなどもふくむ）	617 100.0	49 7.9	173 28.0	168 27.3	83 13.5	96 15.6	21 3.5	26 4.2
学童保育室、その他の施設の先生	51 100.0	1 2.1	1 1.5	5 10.5	10 20.0	23 45.4	8 16.5	2 4.1
その他の大人（近所の大人、塾や習い事の先生など）	45 100.0	2 4.7	9 19.3	15 33.4	4 9.0	11 23.9	3 7.5	1 2.3
学校の友だち	407 100.0	37 9.1	99 24.3	113 27.7	55 13.6	73 17.9	15 3.7	15 3.7
学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど）	30 100.0	5 17.9	4 13.2	3 10.1	8 27.2	6 20.5	2 8.3	1 2.6
一人である	93 100.0	6 6.1	7 7.3	17 17.9	13 13.9	43 46.4	6 6.4	2 2.1
無回答	101 100.0	5 4.9	21 21.1	26 26.1	17 16.5	21 21.1	8 8.0	2 2.4

## 中学2年生

上段：回答者数 下段：%	合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						
		10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体	1424 100.0	71 5.0	291 20.5	413 29.0	200 14.0	312 21.9	96 6.8	40 2.8
【子ども票】問7 平日の放課後に一緒に過ごすことが一番多い人								
家族（祖父母、親せきなどもふくむ）	478 100.0	25 5.2	115 24.0	137 28.7	64 13.3	93 19.5	29 6.1	15 3.2
児童館・児童センターやその他の施設の先生	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他の大人（近所の大人、塾や習い事の先生など）	15 100.0	1 7.1	4 25.7	5 30.5	0 0.0	4 27.7	1 9.0	0 0.0
学校の友だち（部活ふくむ）	667 100.0	36 5.4	137 20.5	209 31.4	97 14.6	141 21.1	35 5.2	12 1.8
学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だちなど）	25 100.0	1 2.8	0 0.0	10 40.5	5 20.8	1 4.4	6 24.1	2 7.4
一人である	128 100.0	2 1.7	15 11.9	21 16.5	21 16.2	46 35.6	18 13.8	5 4.2
無回答	110 100.0	6 5.7	21 19.1	31 28.4	12 10.7	27 24.7	7 6.6	5 4.8

16-17 歳

上段：回答者数 下段：%	合計	【保護者票】問11-1 母親の1週間の平均就労時間							
		10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答	
全体	517 100.0	18.3 3.5%	100.0 19.3%	137.0 26.5%	91.0 17.6%	130.0 25.1%	31.0 6.0%	10.0 1.9%	
【子ども票】 問8 平日の自由時間に一緒に過ごすことが一番多い人	家族（祖父母、親せきなども含む）	183 100.0	7.1 3.8%	42.0 23.0%	55.0 30.1%	30.0 16.4%	39.0 21.3%	9.0 4.9%	1.0 0.5%
	家族以外の大人（近所の大人、塾・予備校や習い事の先生、スポーツクラブのコーチなど）	3 100.0	0.0 0.0%	1.0 33.3%	0.0 0.0%	1.0 33.3%	1.0 33.3%	0.0 0.0%	0.0 0.0%
	学校の友だち（部活含む）	202 100.0	5.0 2.5%	45.0 22.3%	61.0 30.2%	33.0 16.3%	41.0 20.3%	13.0 6.4%	4.0 2.0%
	学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だち、小・中学校で一緒だった友だちなど）	7 100.0	0.0 0.0%	2.0 28.6%	0.0 0.0%	1.0 14.3%	2.0 28.6%	1.0 14.3%	1.0 14.3%
	アルバイトなどの職場の人	5 100.0	0.0 0.0%	0.0 0.0%	1.0 20.0%	1.0 20.0%	3.0 60.0%	0.0 0.0%	0.0 0.0%
	一人である	105 100.0	6.7 5.7%	9.0 8.6%	18.0 17.1%	24.0 22.9%	37.0 35.2%	7.0 6.7%	4.0 3.8%
	無回答	12 100.0	0.0 0.0%	1.0 8.3%	2.0 16.7%	1.0 8.3%	7.0 58.3%	1.0 8.3%	0.0 0.0%

## 4 休日の過ごし方

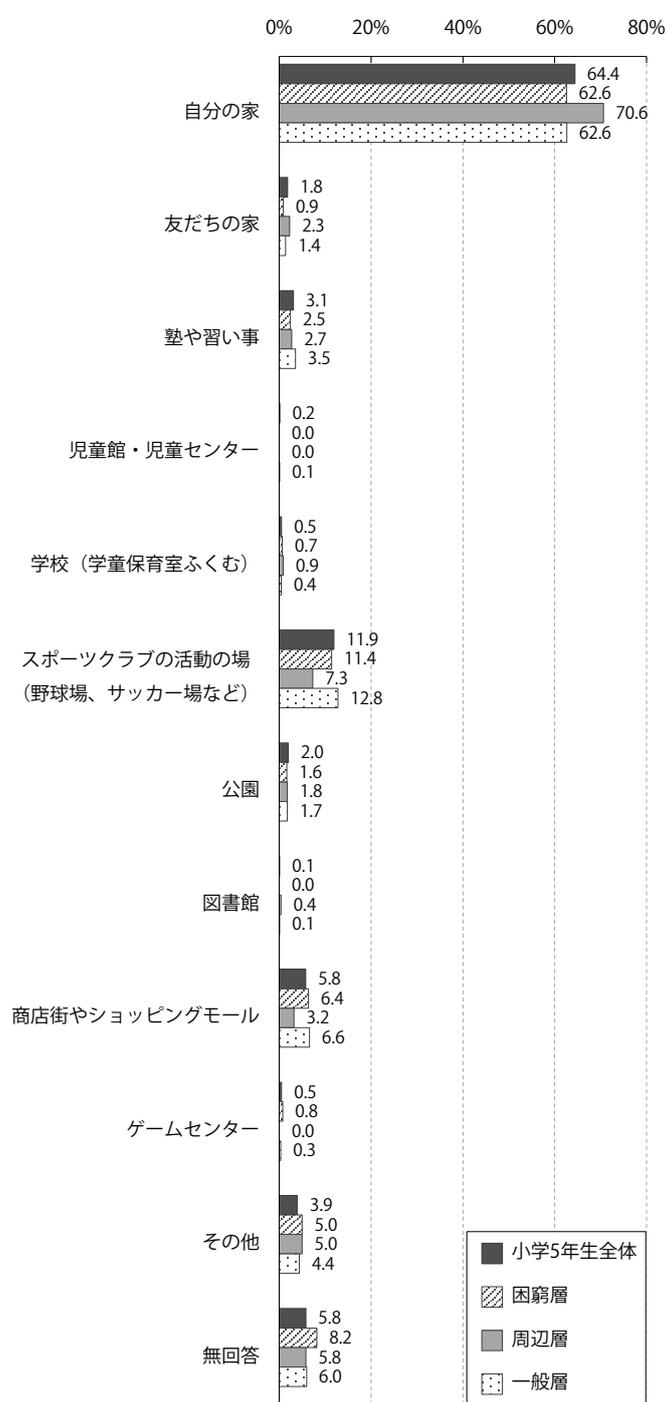
## (1) 休日を過ごす場所

【子ども票】

休日を過ごす場所について、小学5年生の全体では「自分の家」が64.4%で最も多く、次いで「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」が11.9%となっている。「塾や習い事」では生活困難度との相関がみられ、困窮層で2.5%、周辺層で2.7%、一般層で3.5%となっている。

問12 休日を過ごす場所

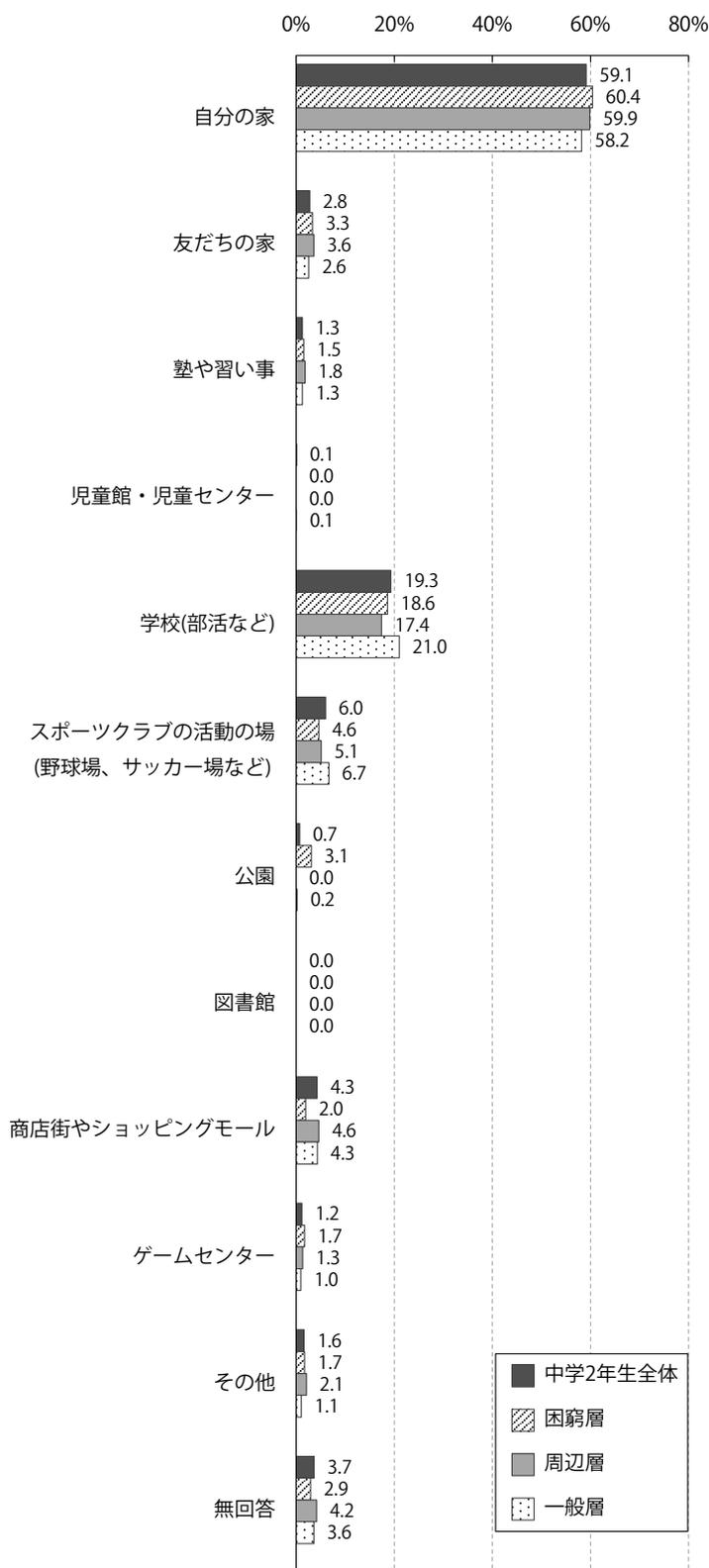
小学5年生



休日を過ごす場所について、中学2年生の全体では「自分の家」が59.1%で最も多く、次いで「学校（部活など）」が19.3%となっている。「スポーツクラブの活動の場（野球場、サッカー場など）」では生活困難度との相関がみられ、困窮層で4.6%、周辺層で5.1%、一般層で6.7%となっている。

問12 休日を過ごす場所

中学2年生

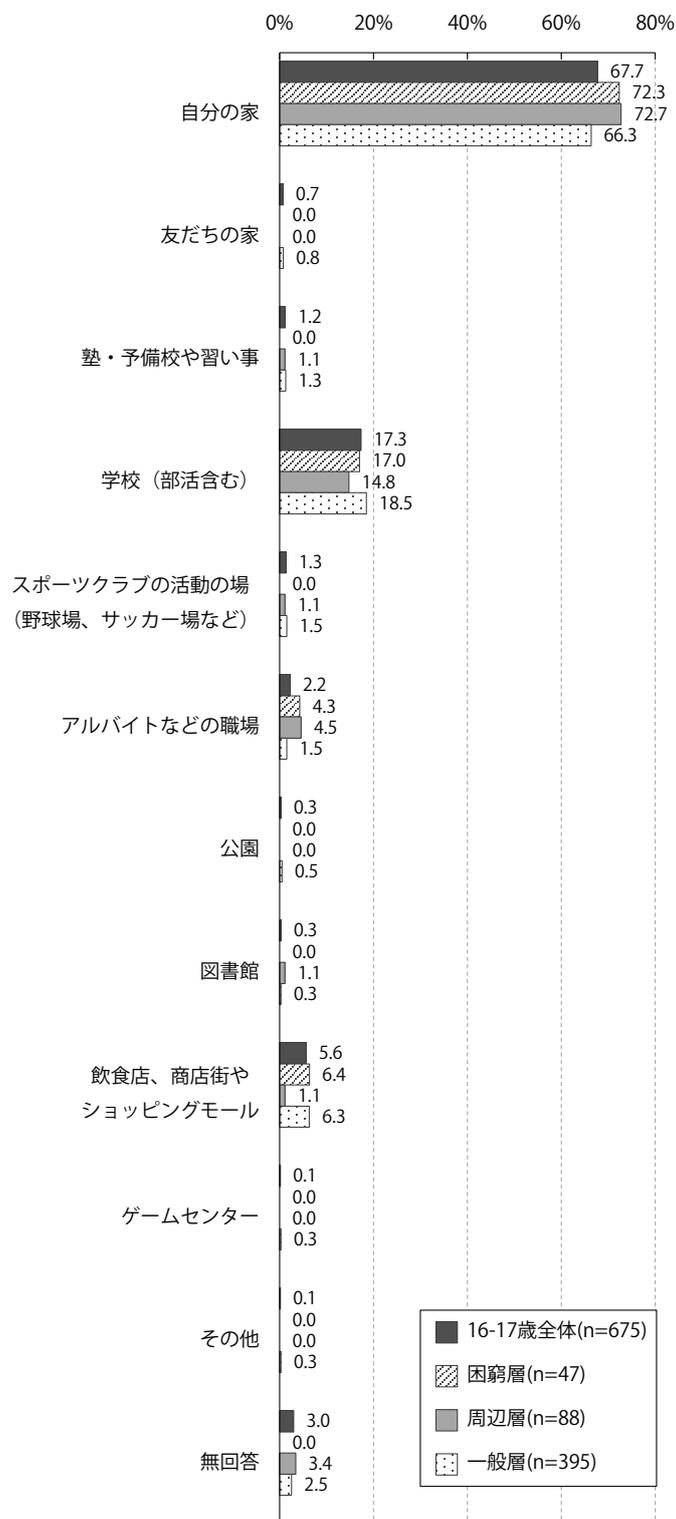


## 【子ども票】

休日に一番多く過ごす場所について、16-17歳の全体では「自分の家」が67.7%で最も多く、次いで「学校（部活含む）」が17.3%となっている。16-17歳で設けられている選択肢「アルバイトなどの職場」は、困窮層で4.3%、周辺層で4.5%、一般層で1.5%となっている。

## 問13 休日に一番多く過ごす場所

16-17歳

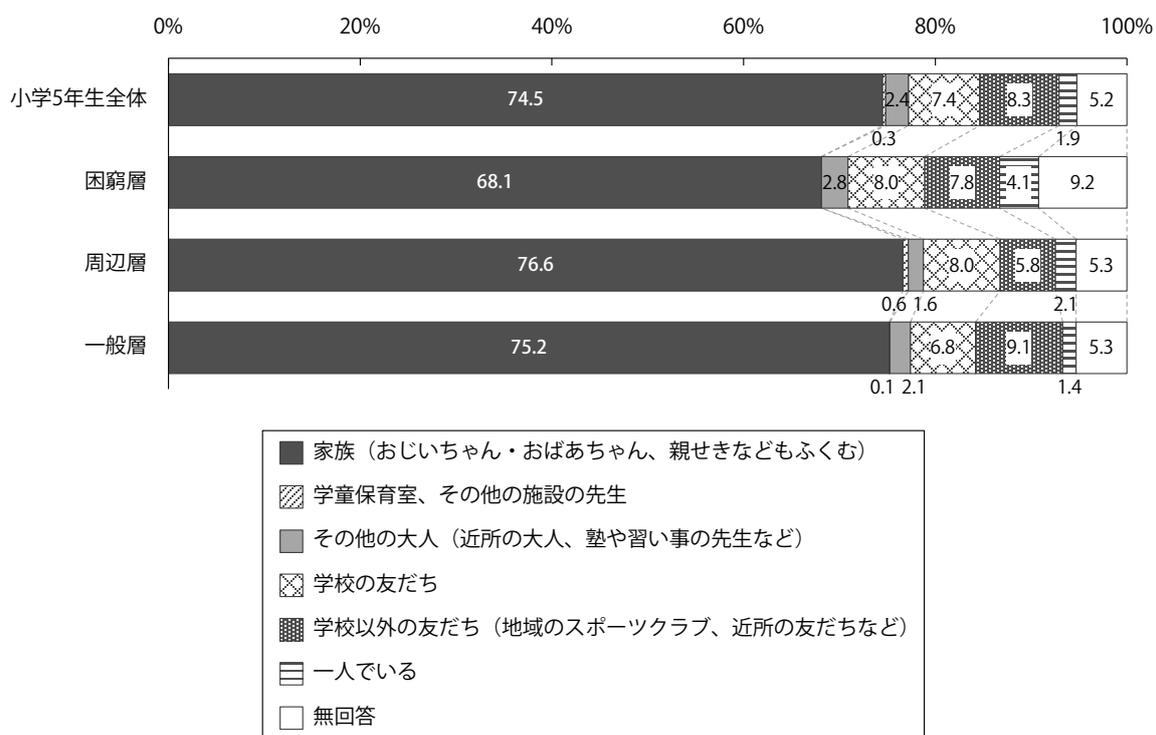


## (2) 休日と一緒に過ごす人

【子ども票】

小学5年生の、休日と一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で4.1%、周辺層で2.1%、一般層で1.4%となっている。

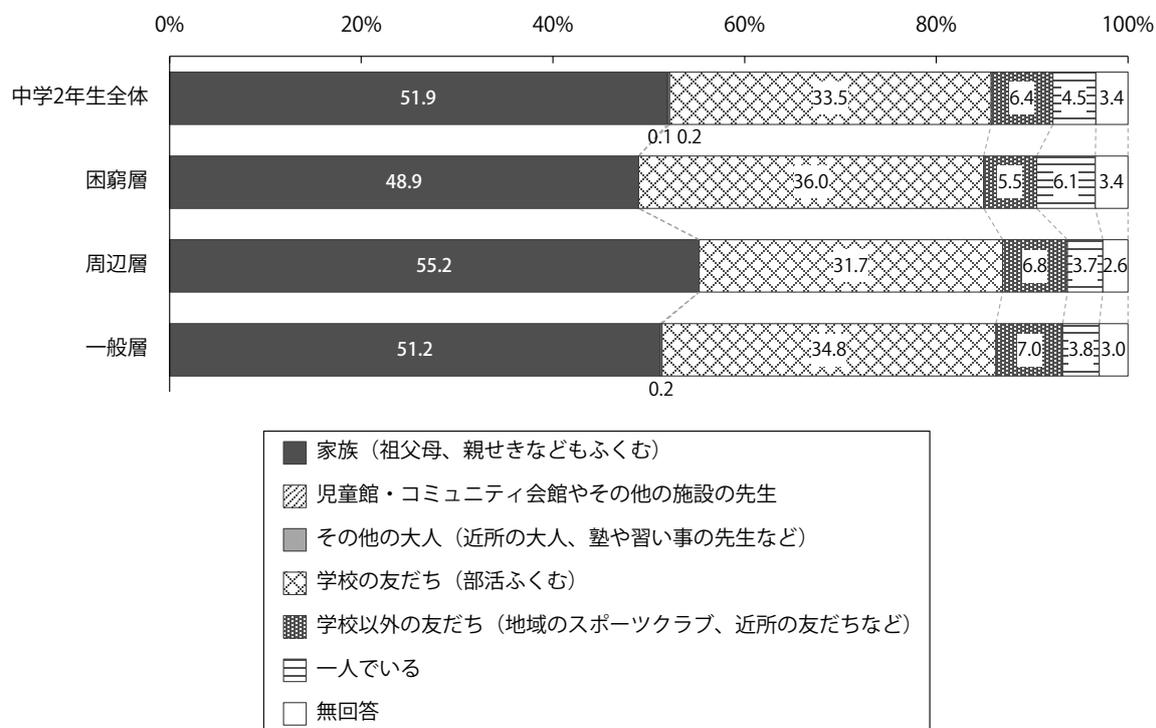
問11 休日と一緒に過ごす人



## 【子ども票】

中学2年生の、休日と一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で6.1%、周辺層で3.7%、一般層で3.8%となっている。

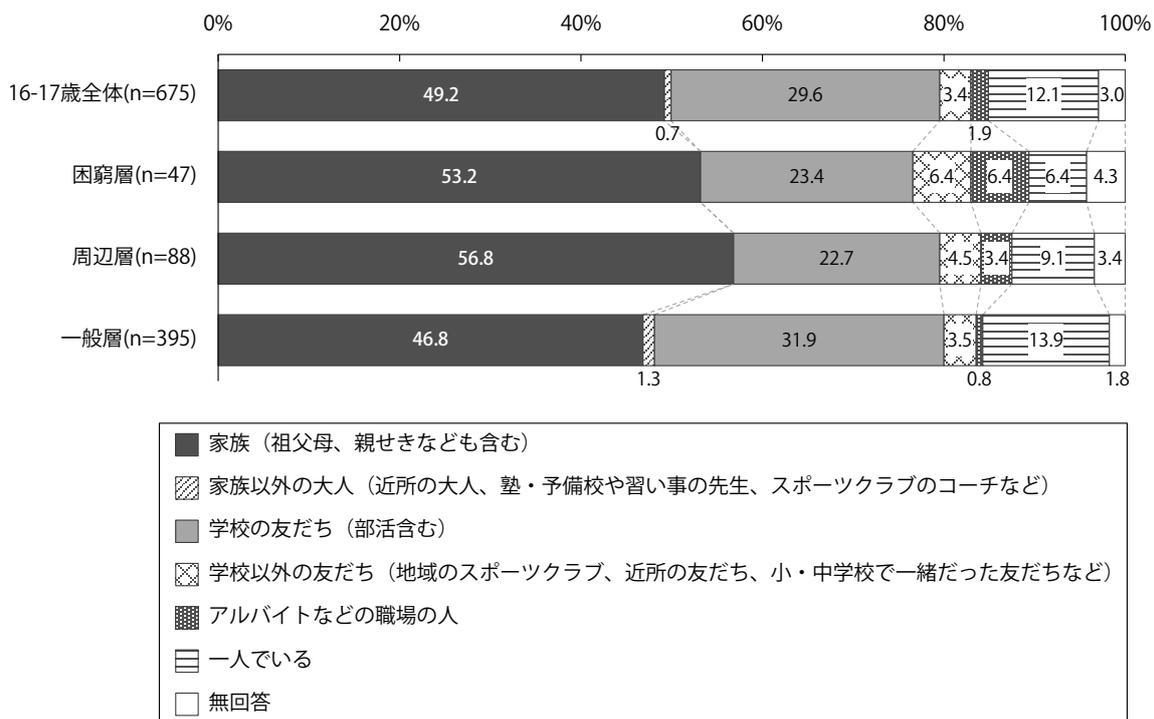
## 問11 休日と一緒に過ごす人



16-17歳の、休日と一緒に過ごすことが一番多い人について、「一人である」と回答した割合は、困窮層で6.4%、周辺層で9.1%、一般層で13.9%となっている。

16-17歳では、小学5年生と比べて、「学校の友だち（部活含む）」の割合が全体的に高くなっている。

問12 休日と一緒に過ごすことが一番多い人



## 5 放課後子供教室・クラブ活動

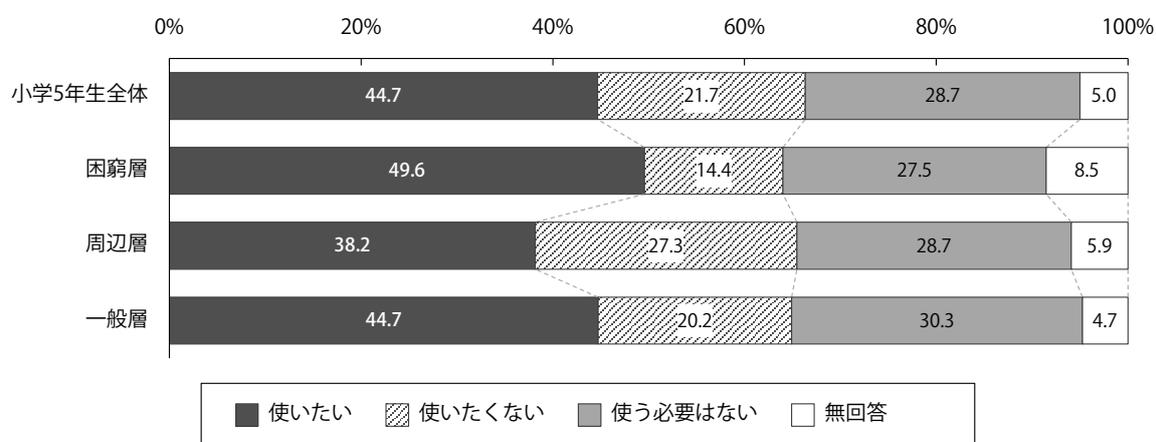
### (1) 放課後子供教室の参加意向

#### ① 子ども

【子ども票】

小学5年生の「放課後子供教室」の参加意向について、「使う必要はない」と回答した割合は、困窮層で27.5%、周辺層で28.7%、一般層で30.3%となっている。わずかながら、生活困難度との相関がみられ、生活困難度が低いほど「使う必要はない」の割合が高くなっている。

問10 「放課後子供教室」の参加意向

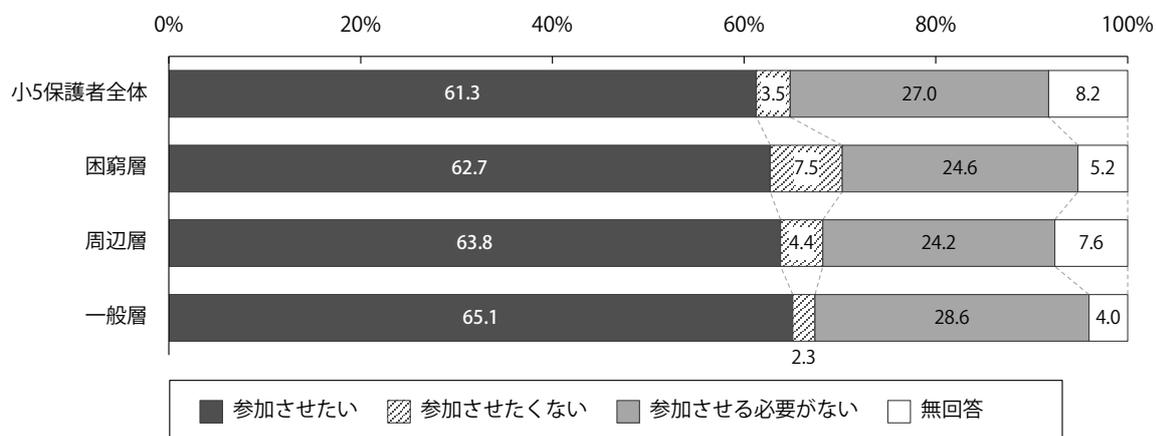


#### ② 保護者

【保護者票】

小学5年生の保護者の「放課後子供教室」の参加意向について、「参加させる必要がない」と回答した割合は、困窮層で24.6%、周辺層で24.2%、一般層で28.6%となっている。「参加させたくない」の割合は、困窮層で7.5%、周辺層で4.4%、一般層で2.3%となっている。

問43-2 「放課後子供教室」の参加意向

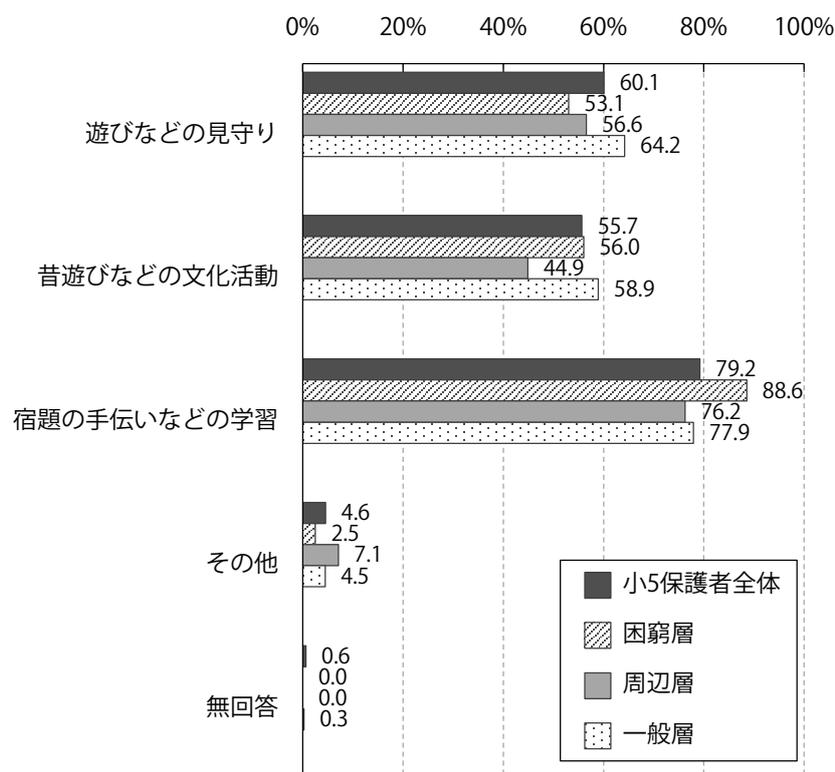


## (2) 参加させたい活動

【保護者票】

問43-2で「放課後子供教室」としているのは、「放課後に、学校以外で学習や遊びができる場所」という意味合いでの質問となっている。ここで「参加させたい」とした保護者の、参加させたい活動については、「宿題の手伝いなどの学習」の割合が高い。生活困難度別にみると、困窮層で88.6%、周辺層で76.2%、一般層で77.9%となっており、困窮層での割合が高くなっている。

問43-3 参加させたい活動

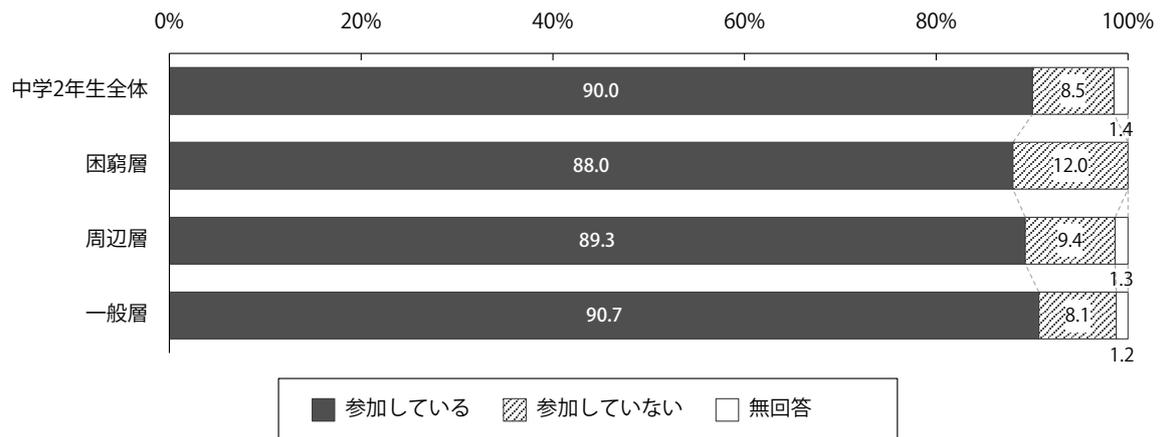


### (3) 部活動への参加状況

【子ども票】

中学2年生の部活動への参加状況について、「参加している」と回答した割合は、困窮層で88.0%、周辺層で89.3%、一般層で90.7%となっている。わずかながら、生活困難度が高いほど「参加している」の割合が低くなっている。

問10 学校の部活動の参加状況

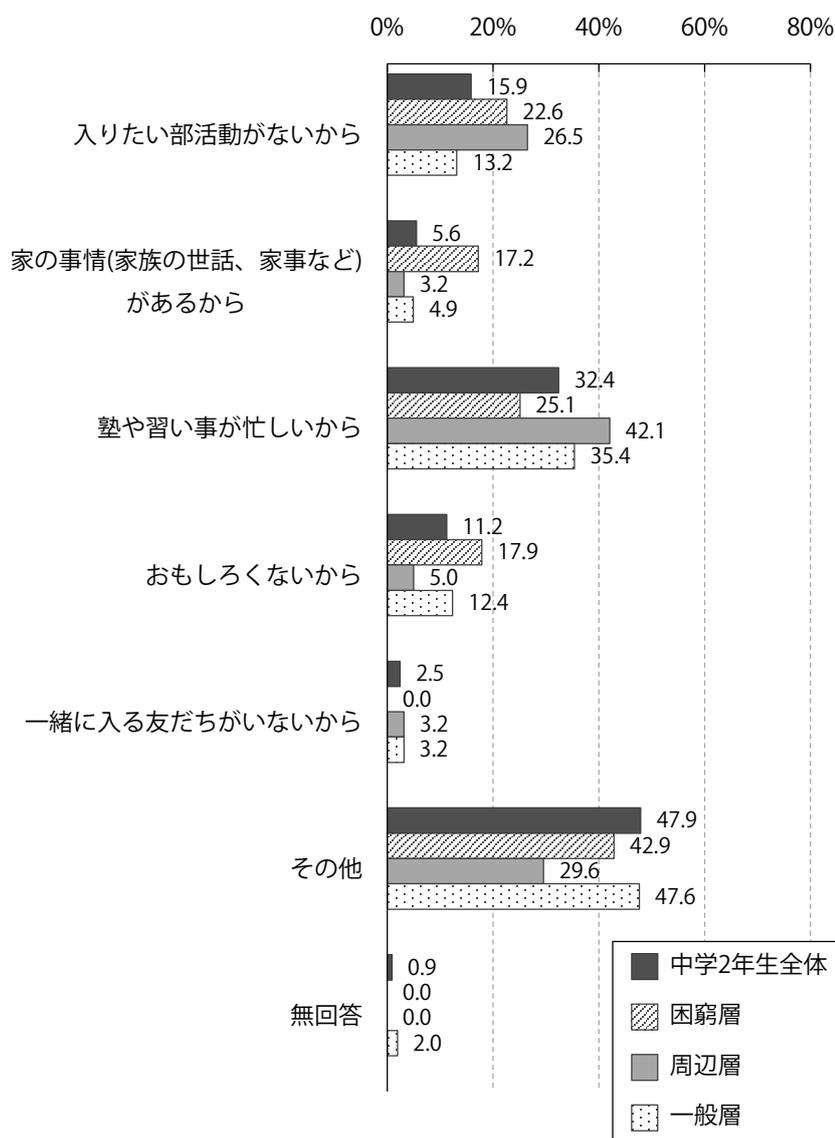


### (4) 部活動に参加しない理由

【子ども票】

問10で「参加していない」とした中学2年生の、参加しない理由について、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」と回答した割合は、困窮層で17.2%、周辺層で3.2%、一般層で4.9%となっており、困窮層においてその割合が高くなっている。

問10-1 部活動に参加しない理由

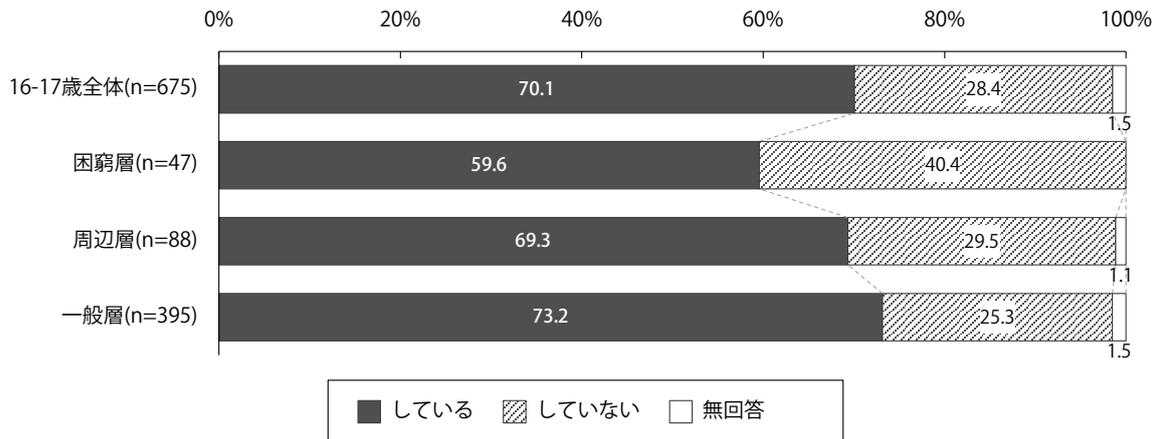


### (5) 学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動の参加状況

【子ども票】

16-17歳の、学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動の参加状況について、「参加している」と回答した割合は、困窮層で59.6%、周辺層で69.3%、一般層で73.2%となっている。生活困難度が高いほど「参加している」の割合が低くなっている

問11 学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動の参加状況

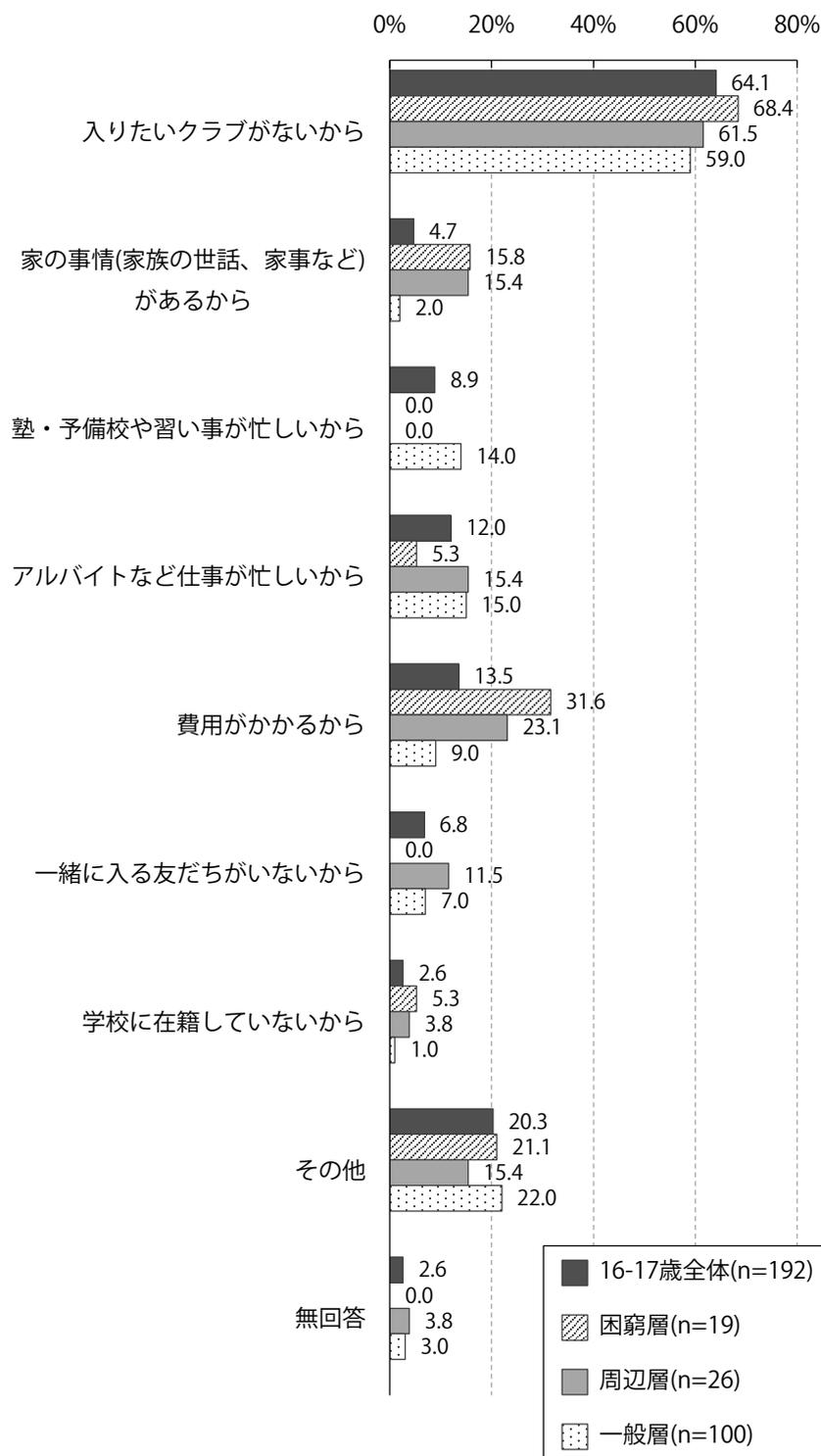


### (6) 学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動に参加しない理由

【子ども票】

問11で「(参加)していない」とした16-17歳の、参加しない理由について、「費用がかかるから」と回答した割合は、困窮層で31.6%、周辺層で23.1%、一般層で9.0%となっている。また「入りたいクラブがないから」と回答した割合は、困窮層で68.4%、周辺層で61.5%、一般層で59.0%となっている。いずれも生活困難度との相関がみられる。

問11-1 学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動に参加しない理由



## 6 活動の状況

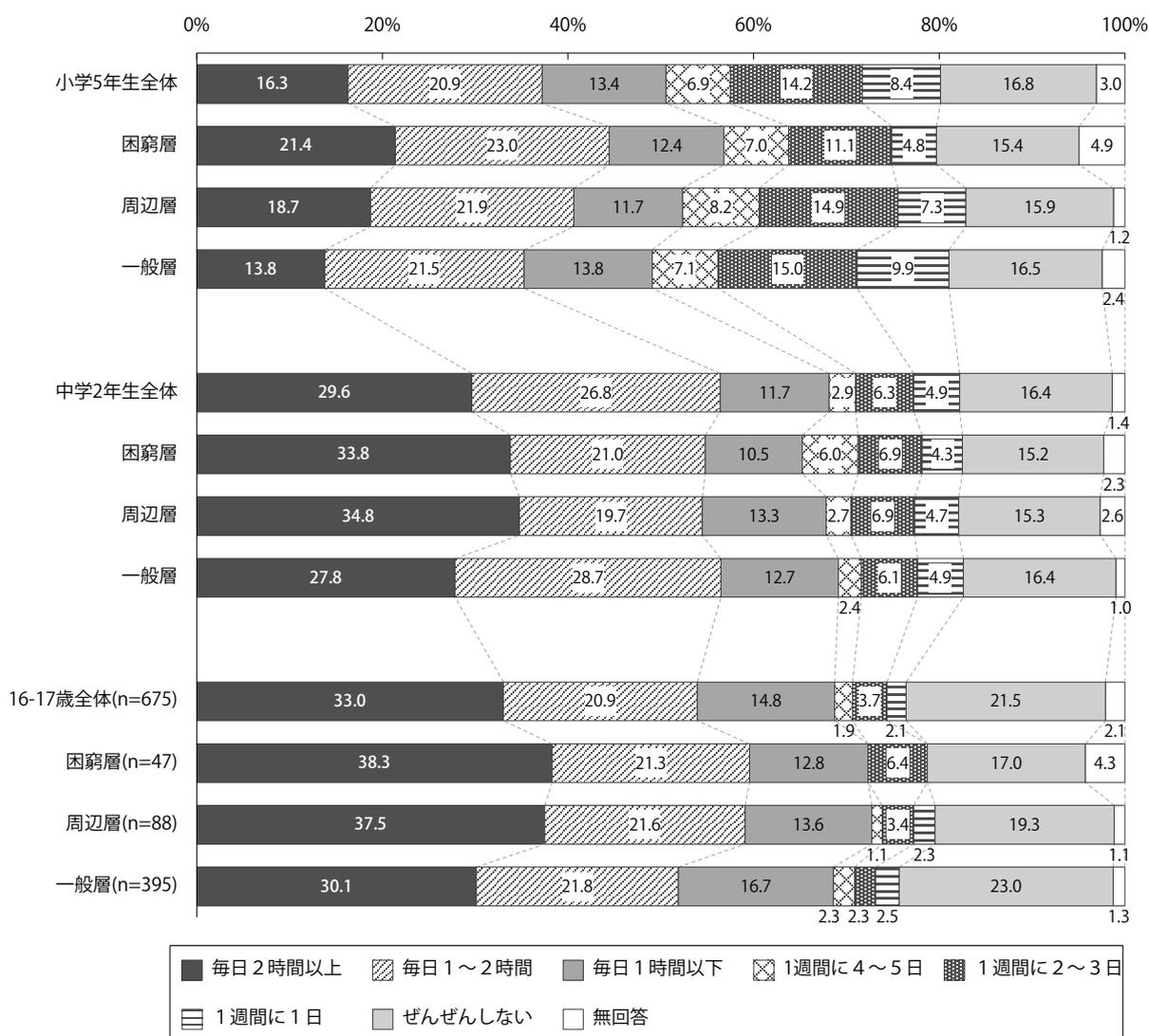
## (1) 活動の状況

## ゲーム機で遊ぶ

【子ども票】

ゲーム機で遊ぶ活動の頻度について、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で44.4%、周辺層で40.6%、一般層で35.3%、中学2年生の困窮層で54.8%、周辺層で54.5%、一般層で56.5%、16-17歳の困窮層で59.6%、周辺層で59.1%、一般層で51.9%となっている。小学5年生と16-17歳では、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問13/問14 活動頻度/ゲーム機で遊ぶ

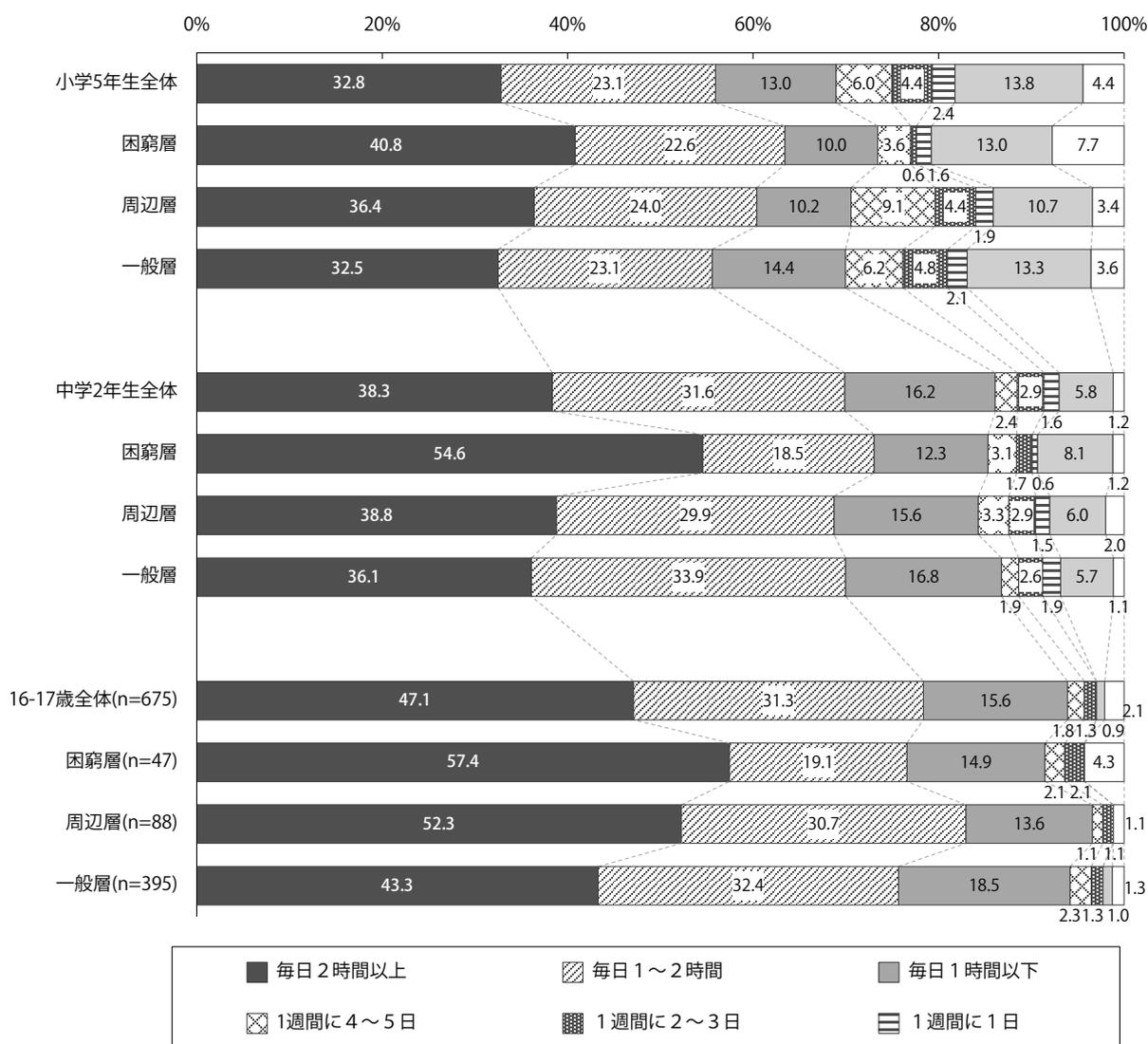


### テレビ・インターネットを見る

【子ども票】

テレビ・インターネットを見る活動の頻度について、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で63.4%、周辺層で60.4%、一般層で55.6%、中学2年生の困窮層で73.1%、周辺層で68.7%、一般層で70.0%、16-17歳の困窮層で76.5%、周辺層で83.0%、一般層で75.7%となっている。小学5年生では、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問13/問14 活動頻度/テレビ・インターネットを見る

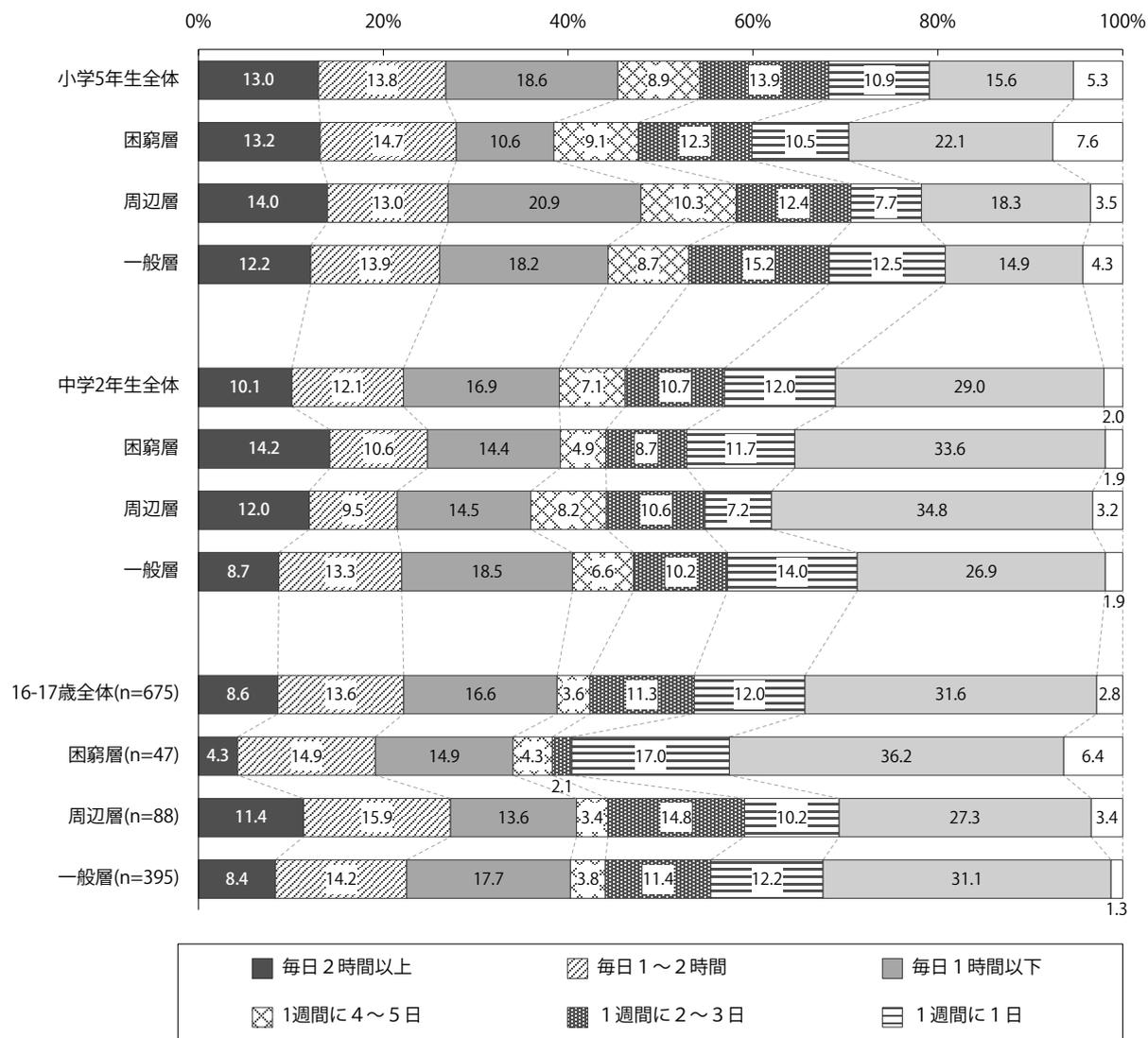


## 室内でのほかの活動（読書、室内遊びなど）

【子ども票】

室内でのほかの活動（読書、室内遊びなど）の頻度について、「毎日2時間以上」「毎日1～2時間」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で27.9%、周辺層で27.0%、一般層で26.1%、中学2年生の困窮層で24.8%、周辺層で21.5%、一般層で22.0%、16-17歳の困窮層で19.2%、周辺層で27.3%、一般層で22.6%となっている。小学5年生では、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問13／問14 活動頻度／室内でのほかの活動（読書、室内遊びなど）

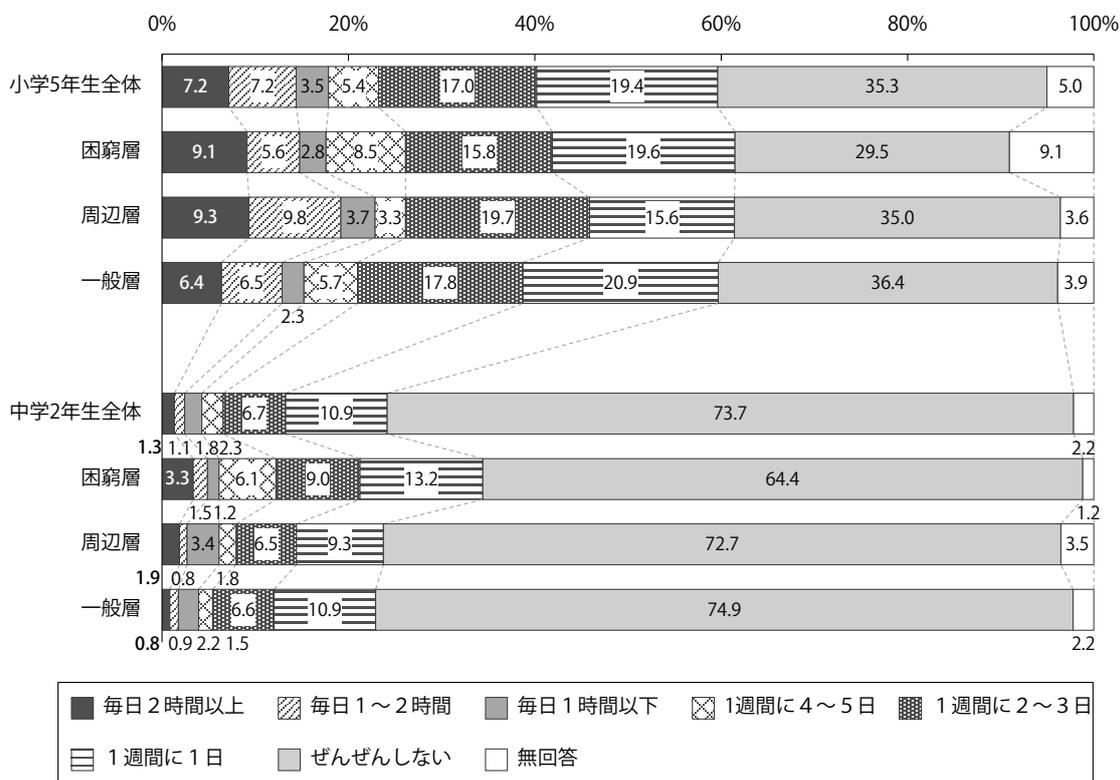


公園で遊ぶ

【子ども票】

公園で遊ぶ頻度について、「ぜんぜんしない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.5%、周辺層で35.0%、一般層で36.4%、中学2年生の困窮層で64.4%、周辺層で72.7%、一般層で74.9%となっている。中学2年生では、公園で遊ぶことが少なくなることがわかる。

問13/問14 活動頻度/公園で遊ぶ

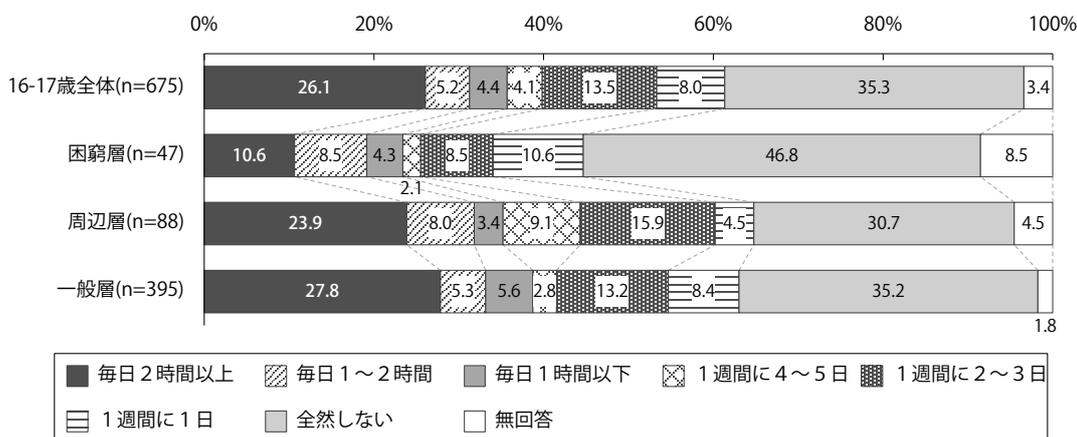


屋外での運動

【子ども票】

16-17歳の屋外での運動について、「毎日2時間以上」「毎日1~2時間」を合わせた割合は、困窮層で19.1%、周辺層で31.9%、一般層で33.1%となっており、生活困難度が高いほど屋外での運動をしていない。

問14 活動頻度/屋外での運動

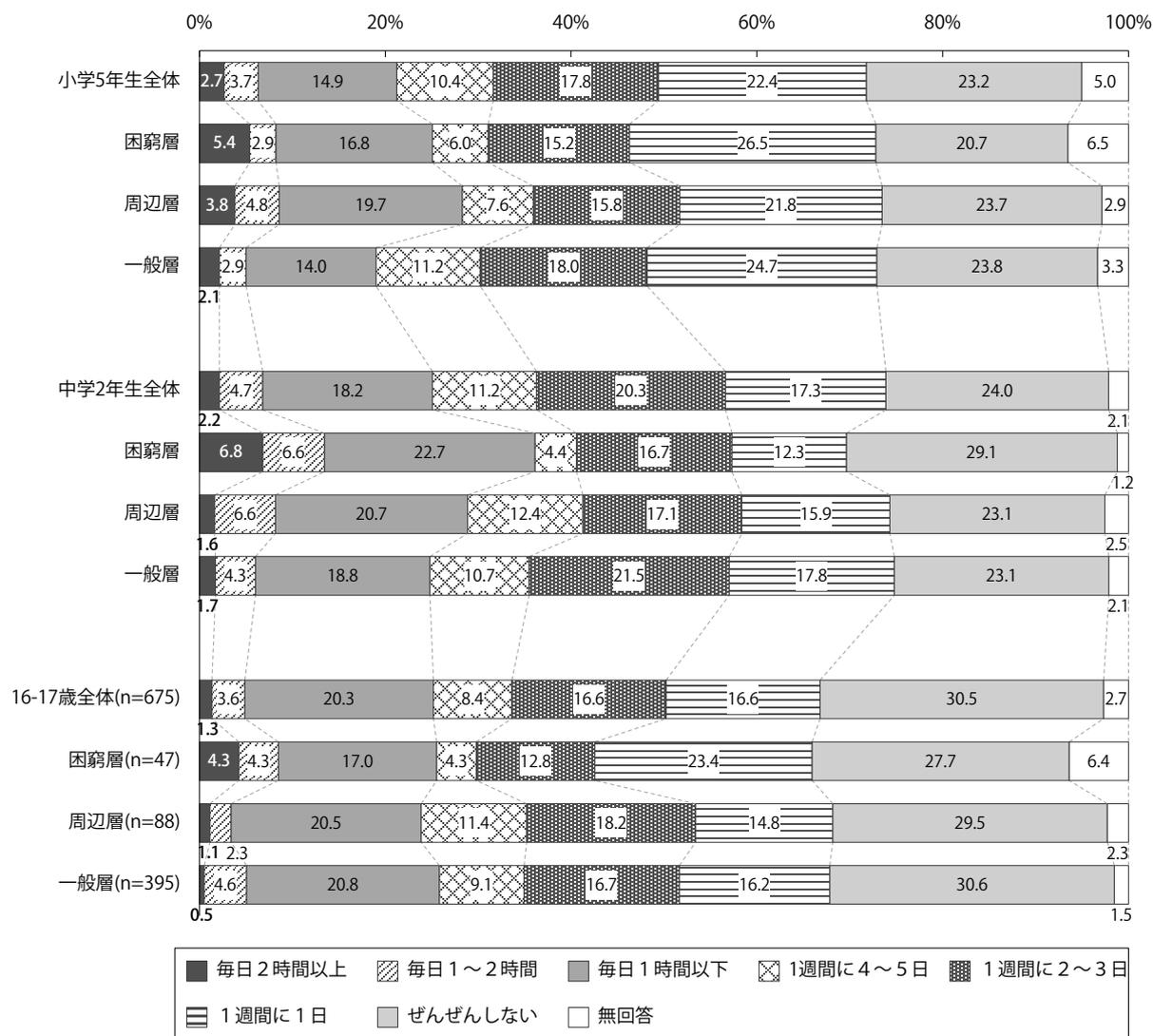


## 家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）

【子ども票】

家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）の頻度について、「1週間に1日」「ぜんぜんしない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で47.2%、周辺層で45.5%、一般層で48.5%、中学2年生の困窮層で41.4%、周辺層で39.0%、一般層で40.9%、16-17歳の困窮層で51.1%、周辺層で44.3%、一般層で46.8%となっている。毎日2時間以上家事をしている割合は、困窮層での割合がどの年齢でも高くなっている。

問13／問14 活動頻度／家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)

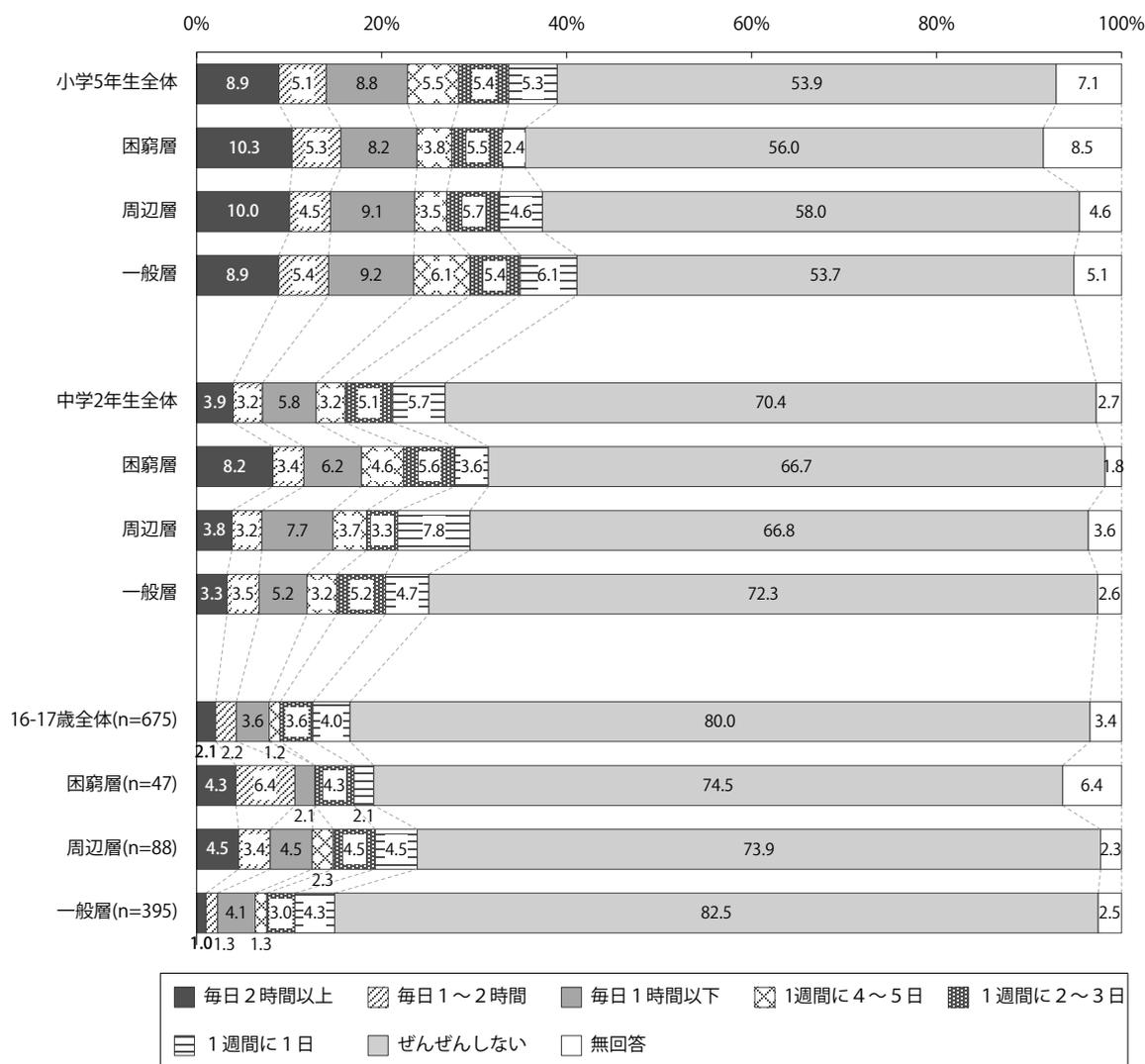


兄弟姉妹の世話や祖父母の介護

【子ども票】

兄弟姉妹の世話や祖父母の介護の頻度について、「毎日2時間以上」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で10.3%、周辺層で10.0%、一般層で8.9%、中学2年生の困窮層で8.2%、周辺層で3.8%、一般層で3.3%、16-17歳の困窮層で4.3%、周辺層で4.5%、一般層で1.0%となっている。年齢別で多く行っているのは小学生であり、中学生では生活困難度が高いほど、兄弟姉妹の世話や祖父母の介護について毎日ある程度の時間を使っていることがわかる。

問13/問14 活動頻度/兄弟姉妹の世話や祖父母の介護

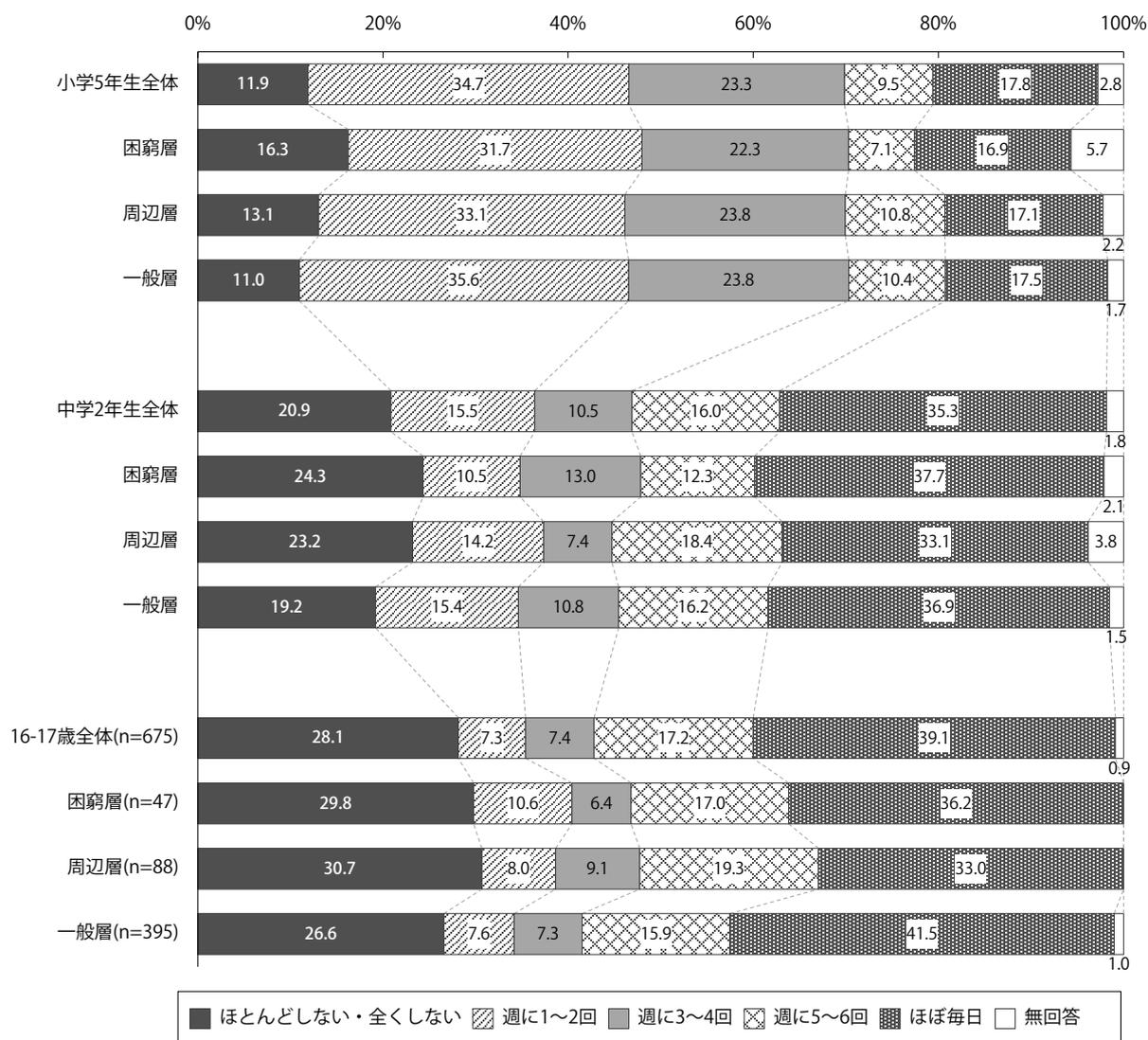


## (2) 運動(30分以上からだを動かす遊びや習い事)の状況

【子ども票】

運動(30分以上からだを動かす遊びや習い事)について、「ほとんどしない・全くしない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で16.3%、周辺層で13.1%、一般層で11.0%、中学2年生の困窮層で24.3%、周辺層で23.2%、一般層で19.2%、16-17歳の困窮層で29.8%、周辺層で30.7%、一般層で26.6%となっている。小学5年生と中学2年生では生活困難度との相関がみられる。

問13/問14 活動頻度/運動(30分以上からだを動かす遊びや習い事)



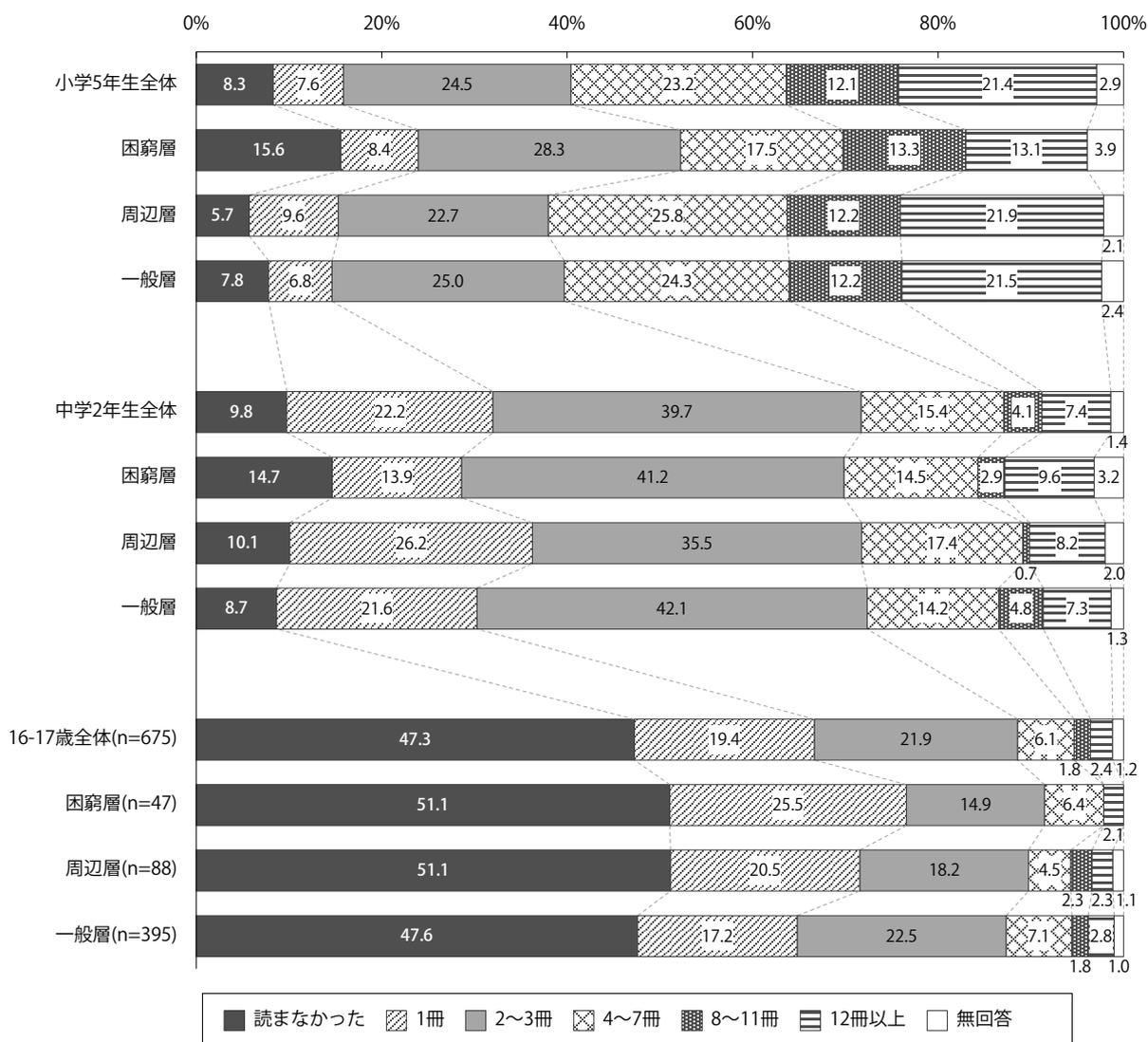
### (3) 読書（1か月の間に読んだ本）の状況

【子ども票】

読書（1か月の間に読んだ本）については、16-17歳で「読まなかった」が多くなる。

「読まなかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で15.6%、周辺層で5.7%、一般層で7.8%、中学2年生の困窮層で14.7%、周辺層で10.1%、一般層で8.7%、16-17歳の困窮層で51.1%、周辺層で51.1%、一般層で47.6%となっている。どの年齢層でも困窮層で本を読まない割合が高くなっている。

問13/問14 活動頻度/読書(1か月の間に読んだ本)



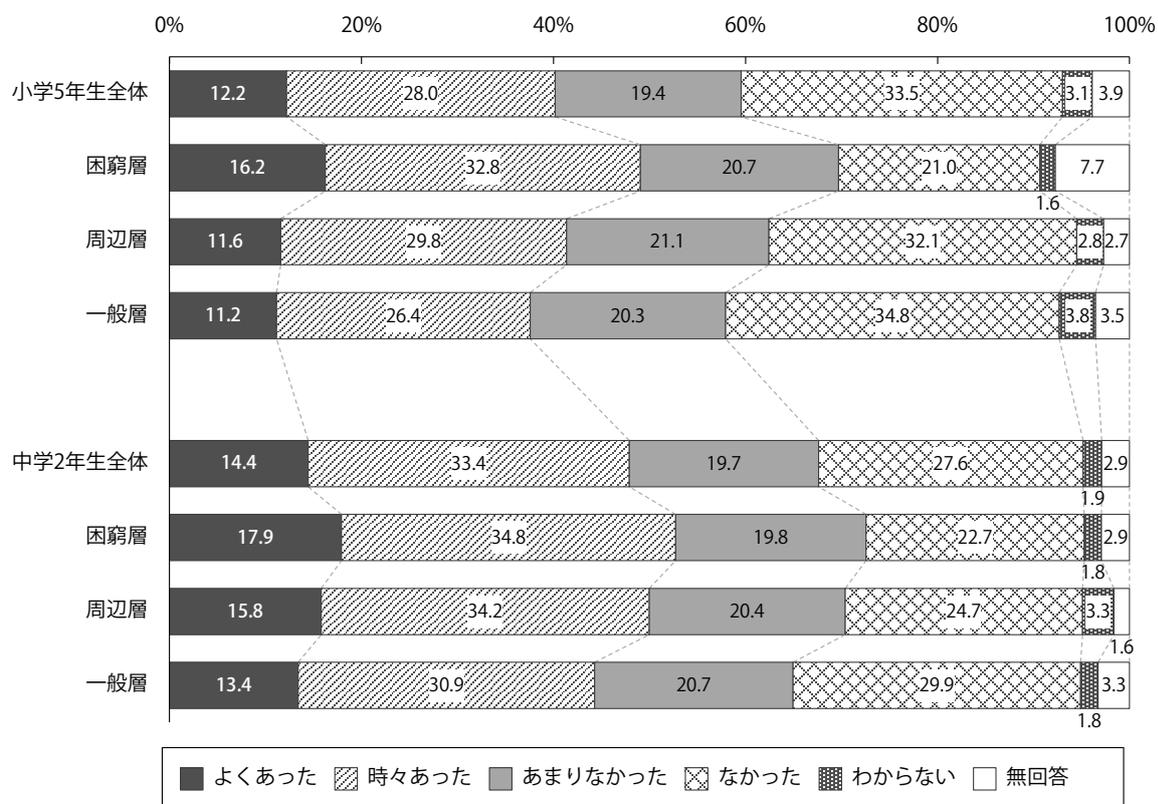
## 7 経験の状況

## A 学校に行きたくないと思った

【子ども票】

これまでの、学校に行きたくないと思った経験について、「よくあった」「時々あった」を合わせて『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で49.0%、周辺層で41.4%、一般層で37.6%、中学2年生の困窮層で52.7%、周辺層で50.0%、一般層で44.3%となっている。生活困難度が高いほど経験をしていることがわかる。

問32 これまでにこのようなことがあったか／学校に行きたくないと思った



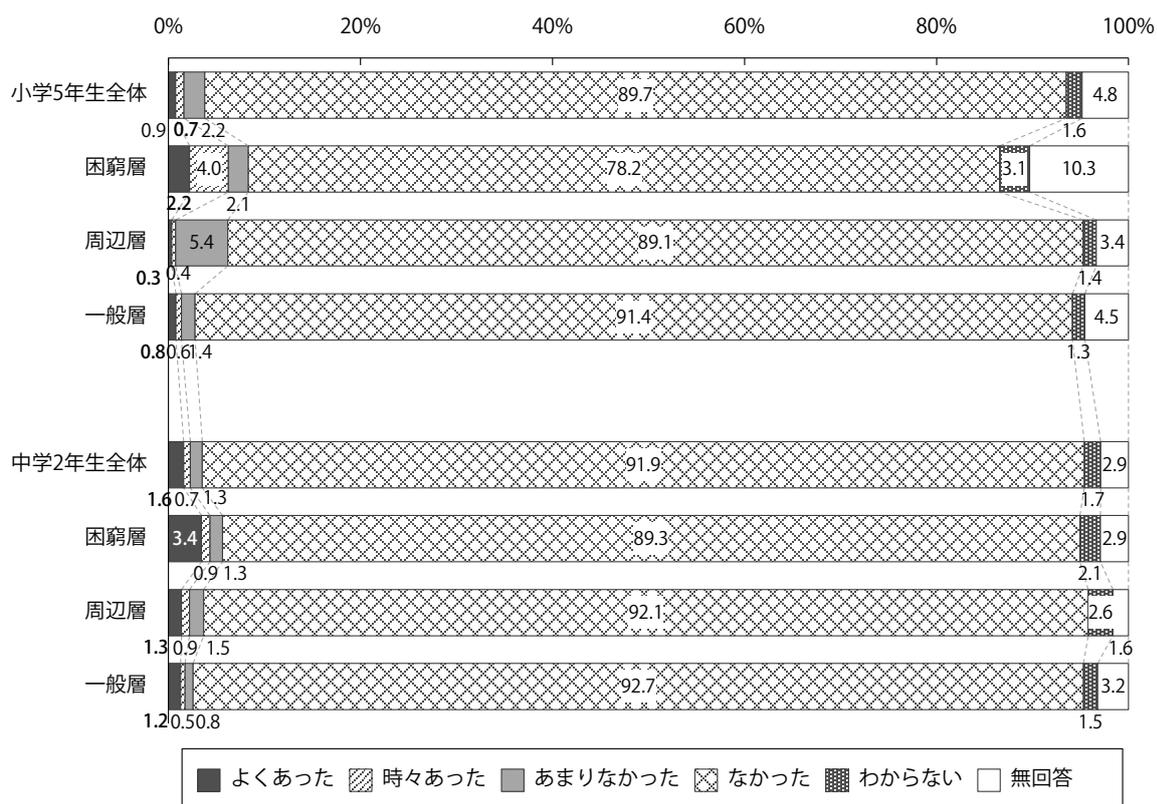
**B 1か月以上学校を休んだ（病気のときをのぞく）**

【子ども票】

これまでの、病気のときをのぞいて1か月以上学校を休んだ経験については、小学5年生の全体で89.7%、中学2年生の全体で91.9%が「なかった」と回答している。

「よくあった」と回答した割合は困窮層において他の層より多くみられ、小学5年生の困窮層で2.2%、中学2年生の困窮層で3.4%となっている。

問32 これまでにこのようなことがあったか／1か月以上学校を休んだ(病気のときをのぞく)

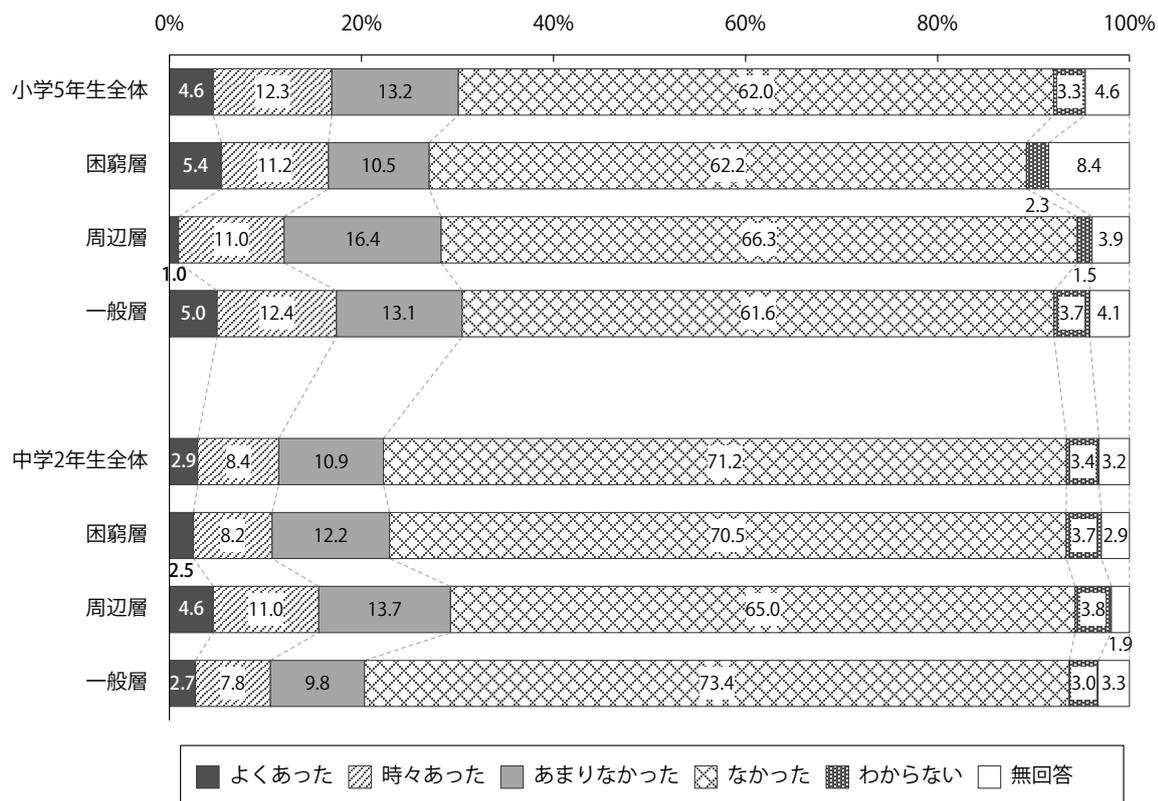


## C いじめられた

【子ども票】

これまでの、いじめられた経験について、「よくあった」「時々あった」を合わせて『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で16.6%、周辺層で12.0%、一般層で17.4%、中学2年生の困窮層で10.7%、周辺層で15.6%、一般層で10.5%となっている。

問32 これまでにこのようなことがあったか／いじめられた

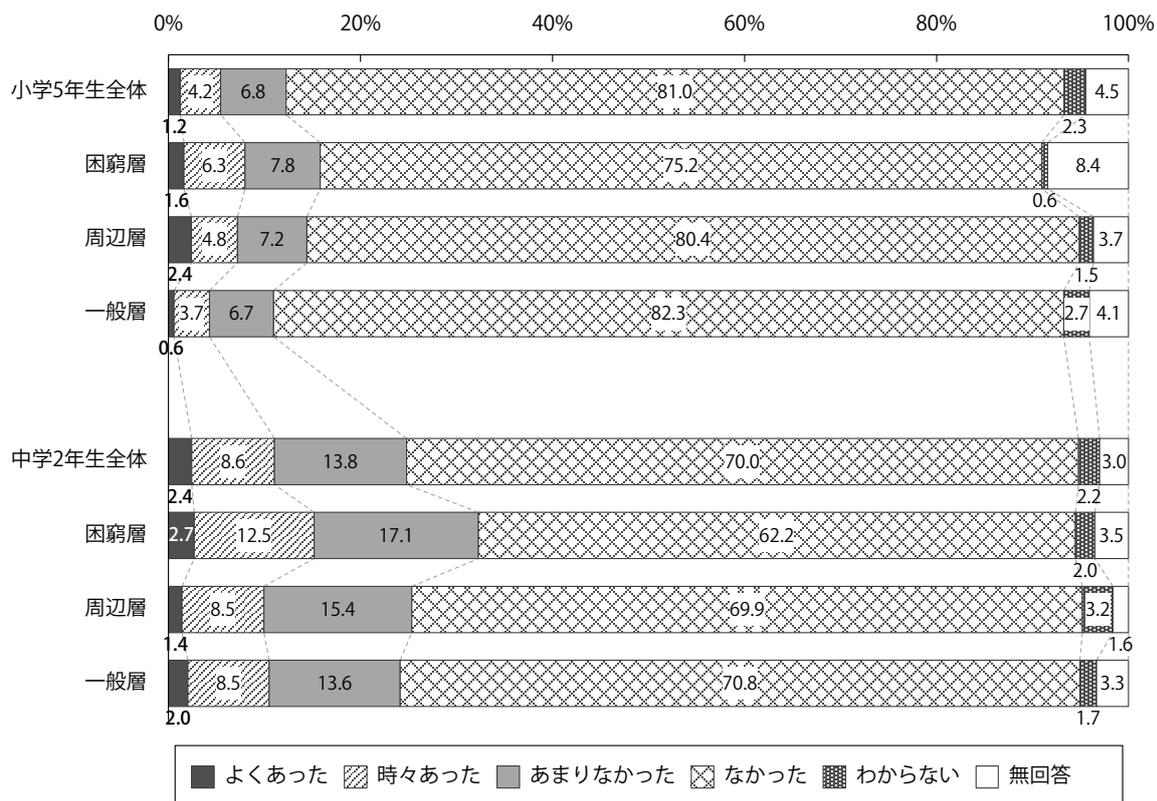


### D 夜遅くまで子どもだけで過ごした

【子ども票】

これまでの、夜遅くまで子どもだけで過ごした経験について、「よくあった」「時々あった」を合わせて『あった』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で7.9%、周辺層で7.2%、一般層で4.3%、中学2年生の困窮層で割合が高くなっている。

問32 これまでにこのようなことがあったか／夜遅くまで子どもだけで過ごした



## 8 会話の頻度

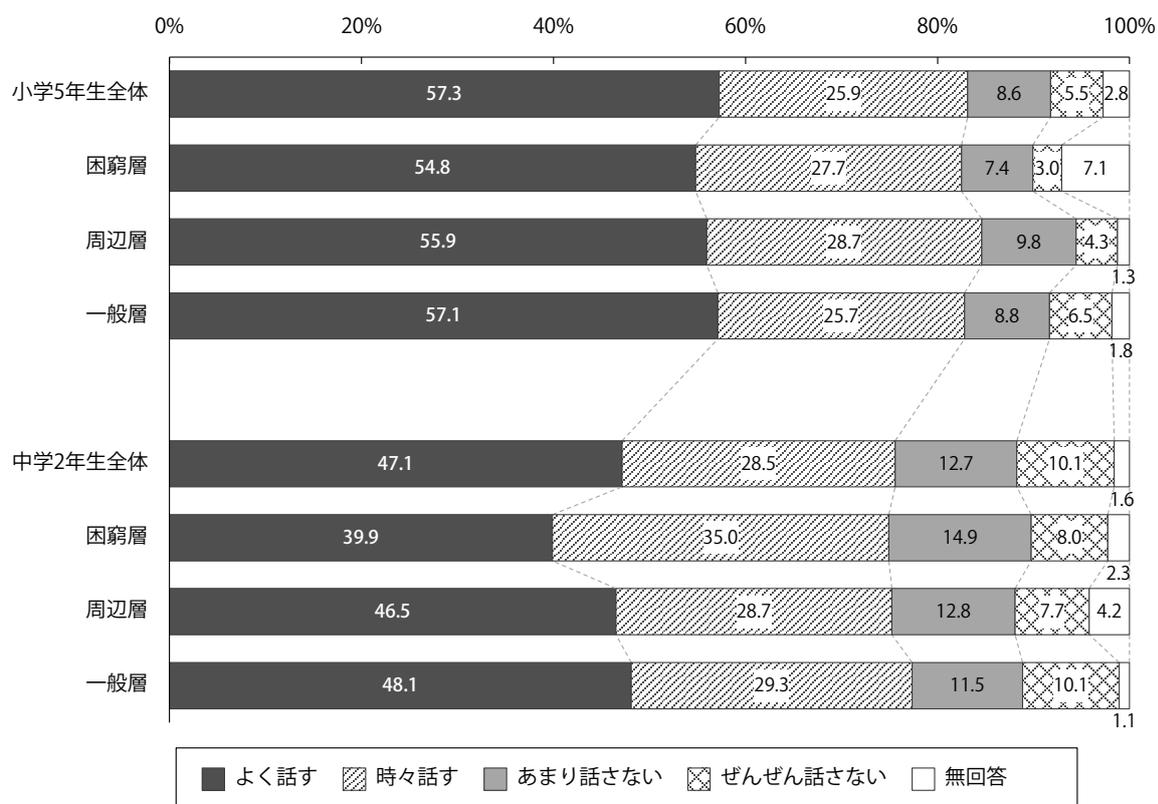
## 小・中学生

## A 家族（親）

【子ども票】

家族（親）との会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で82.5%、周辺層84.6%、一般層で82.8%、中学2年生の困窮層で74.9%、周辺層で75.2%、一般層で77.4%となっている。

## 問16 ふだんどのくらい話をしているか／A 家族（親）

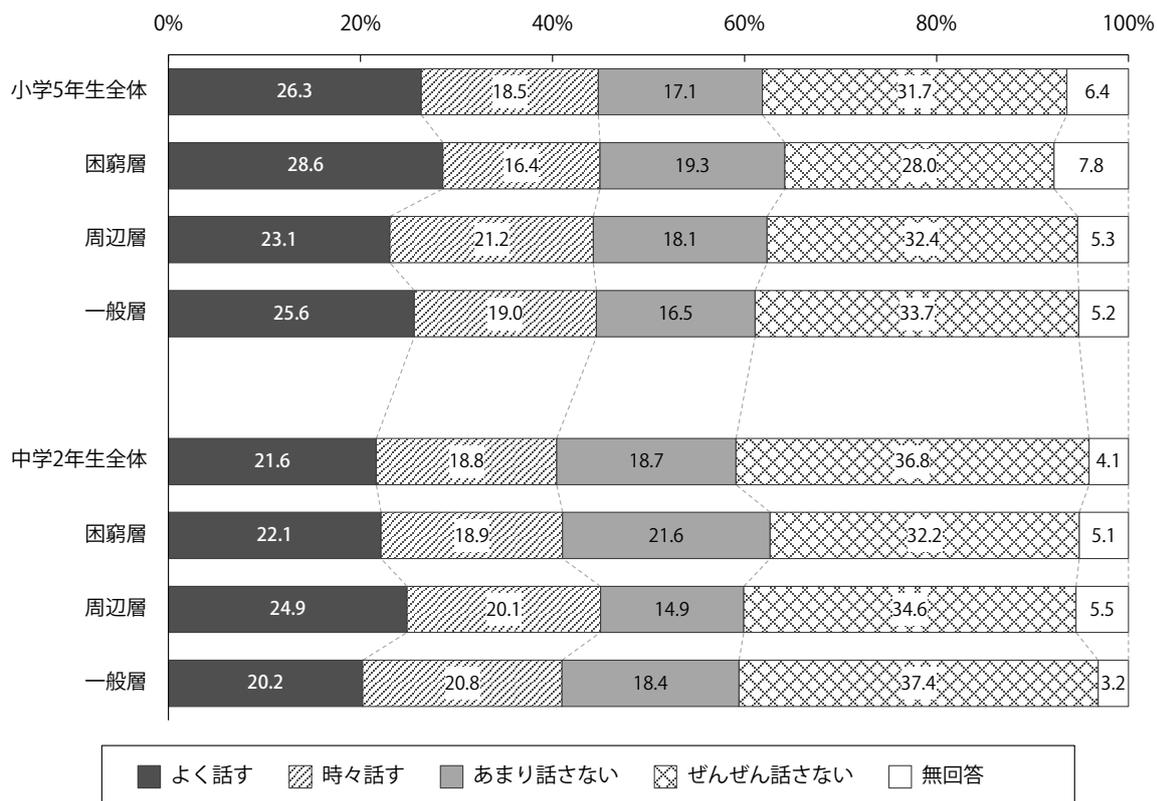


**B 家族（兄弟姉妹）**

【子ども票】

家族（兄弟姉妹）との会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で45.0%、周辺層で44.3%、一般層で44.6%、中学2年生の困窮層で41.0%、周辺層で45.0%、一般層で41.0%となっている。

問16 ふだんどのくらい話しているか／B 家族(兄弟姉妹)

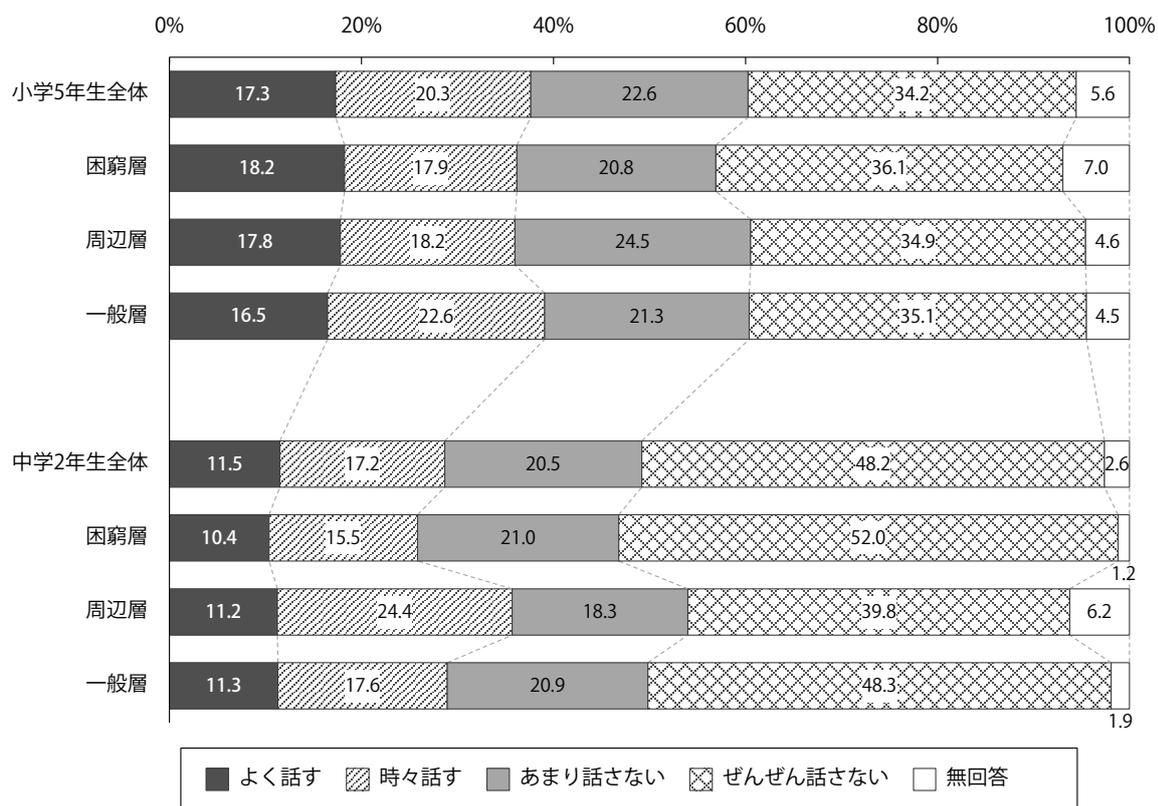


## C 家族（祖父母など）

【子ども票】

家族（祖父母など）との会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.1%、周辺層で36.0%、一般層で39.1%、中学2年生の困窮層で25.9%、周辺層で35.6%、一般層で28.9%となっている。

問16 ふだんどのくらい話をしているか／C 家族(祖父母など)



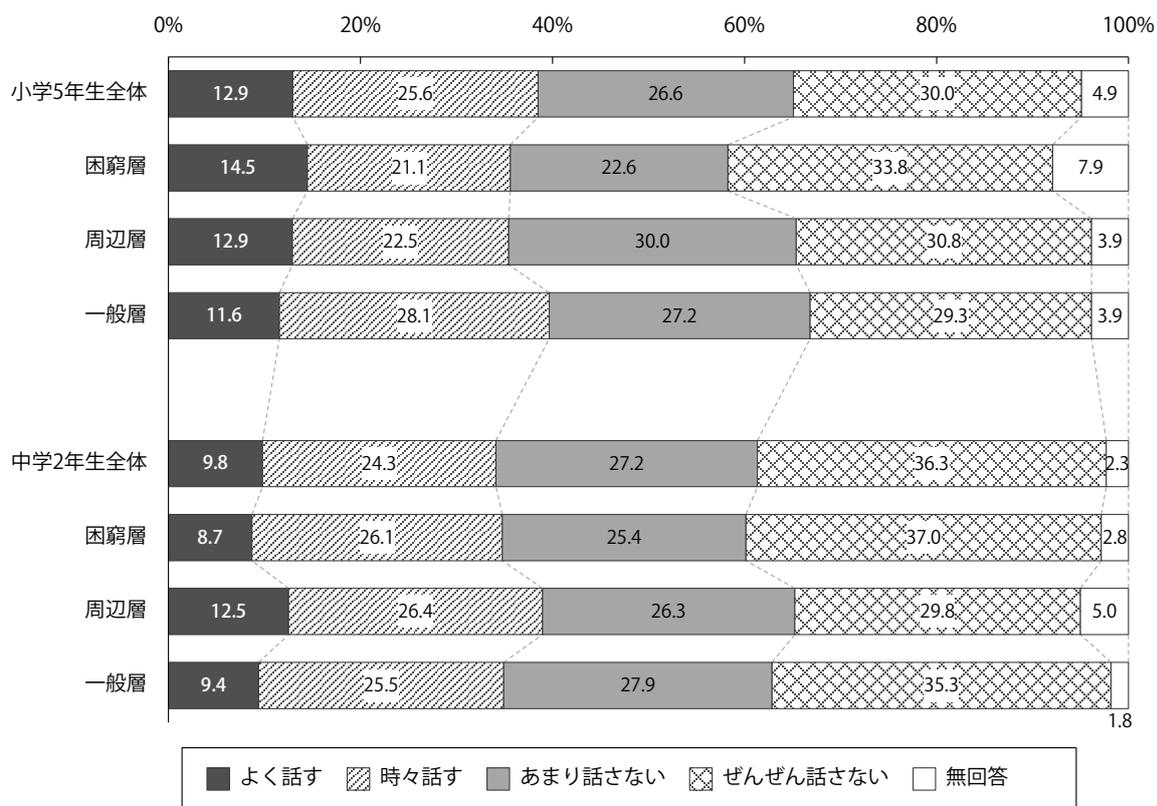
D 学校の先生

【子ども票】

学校の先生との会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で35.6%、周辺層で35.4%、一般層で39.7%、中学2年生の困窮層で34.8%、周辺層で38.9%、一般層で34.9%となっている。

「ぜんぜん話さない」は、小学5年生と中学2年生のいずれも困窮層で他の層と比べて割合が高くなっている。

問16 ふだんどのくらい話をしているか/D 学校の先生

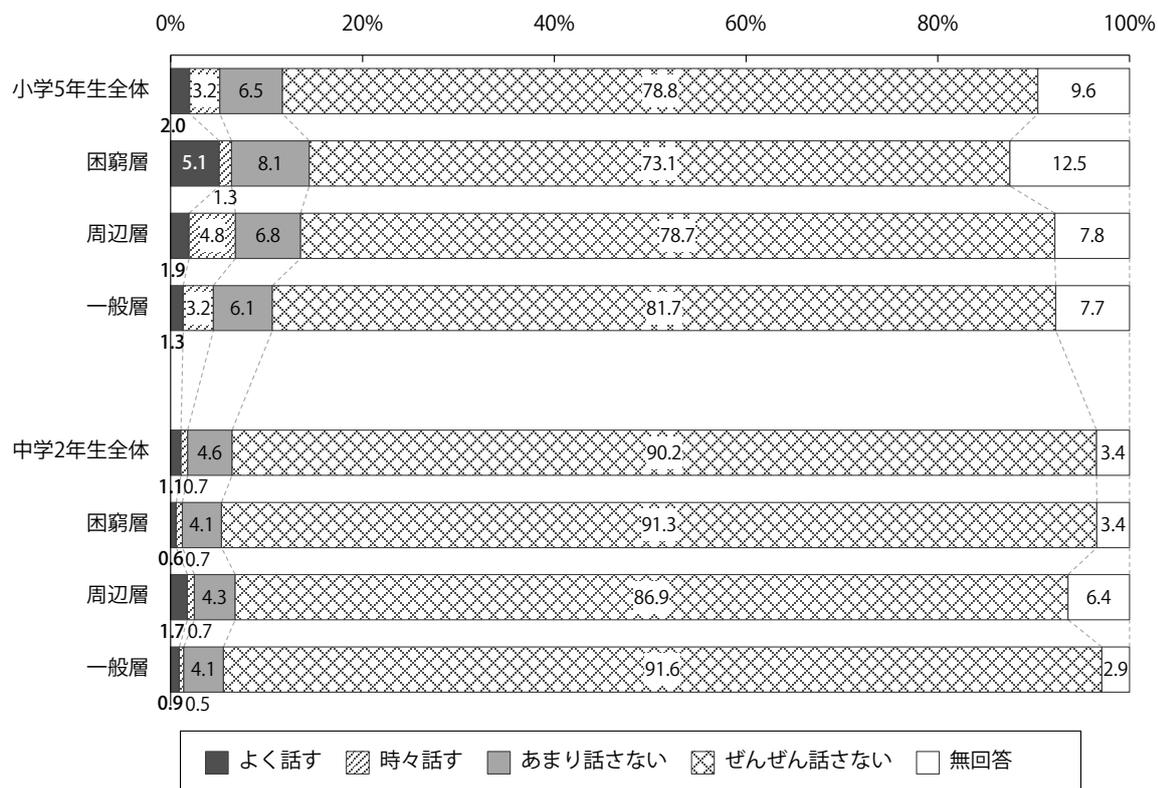


## E 児童館・児童センター、学童保育室の先生

【子ども票】

児童館・児童センター、学童保育室の先生との会話については、「ぜんぜん話さない」の回答の割合が、小学5年生の全体で78.8%、中学2年生の全体で90.2%と高くなっている。

問16 ふだんどのくらい話しているか／E 児童館・児童センター、学童保育室の先生



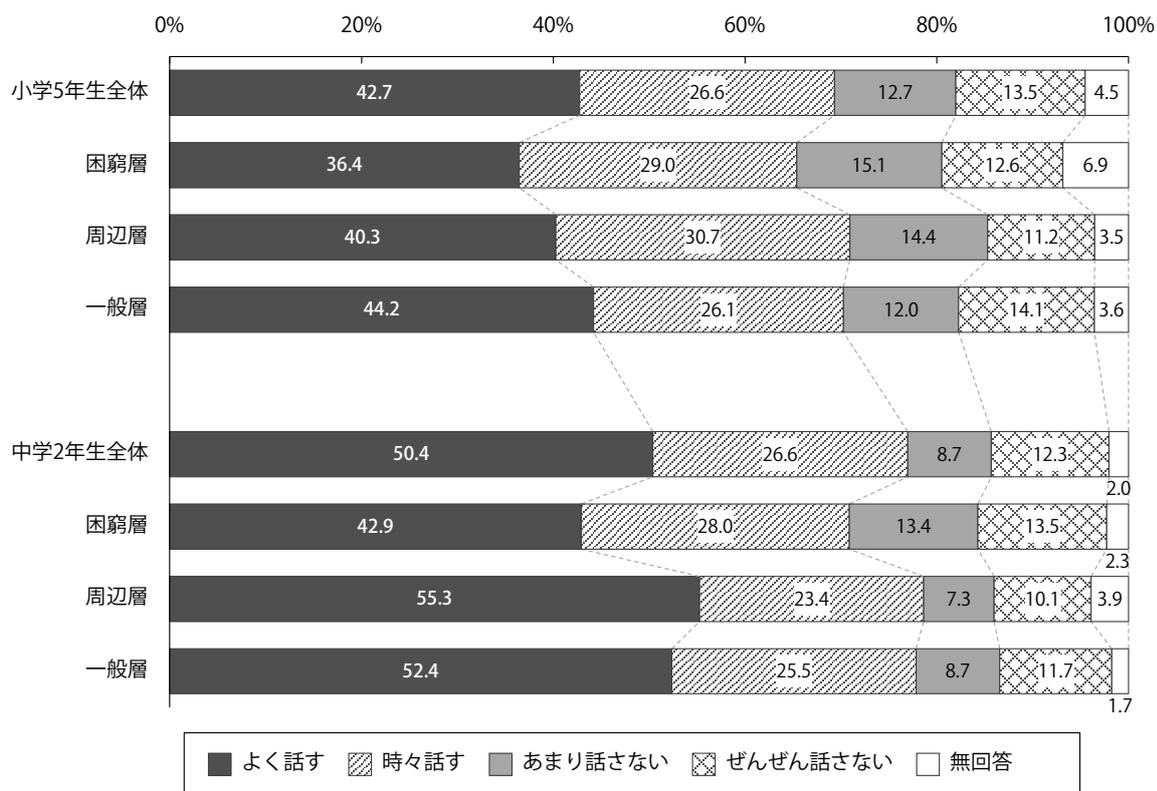
F 友だち

【子ども票】

友だちとの会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で65.4%、周辺層で71.0%、一般層で70.3%、中学2年生の困窮層で70.9%、周辺層で78.7%、一般層で77.9%となっている。

小学5年生と中学2年生のいずれも困窮層では他の層と比べて『話す』割合が低くなっている。

問16 ふだんどのくらい話しているか/F 友だち



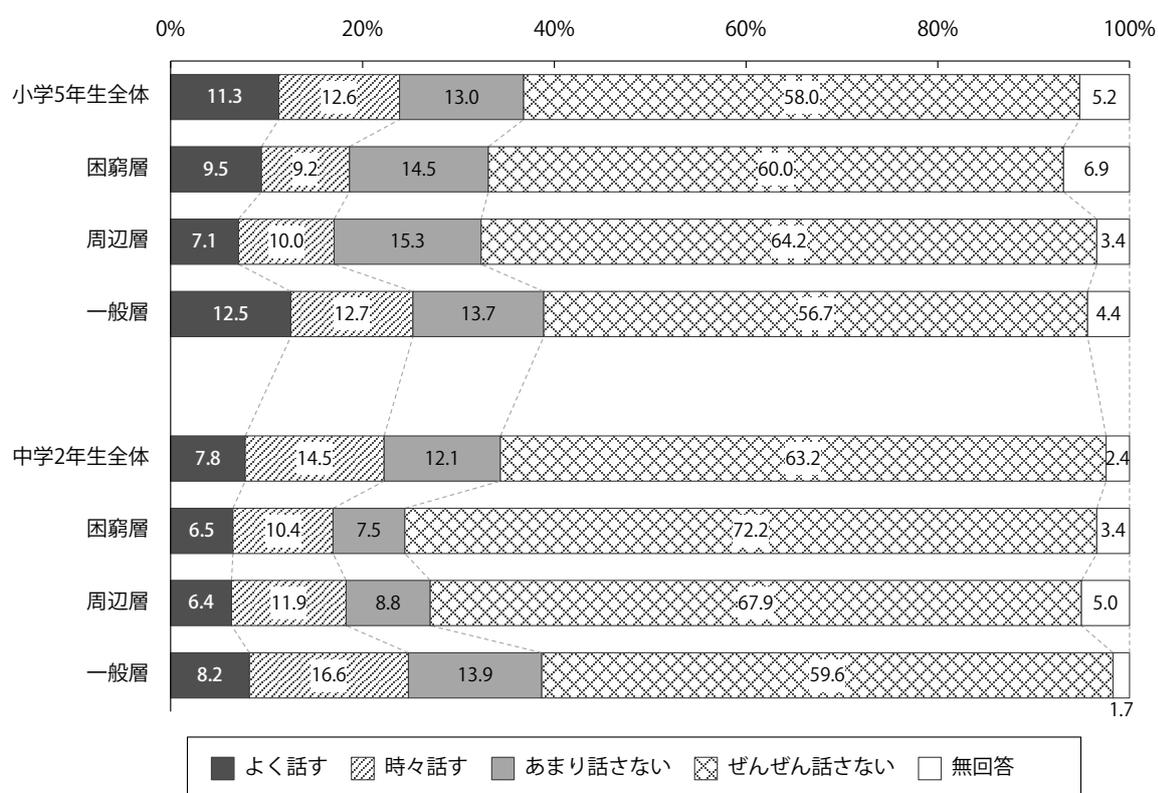
## G その他の大人（地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）

【子ども票】

その他の大人（地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）との会話について、「よく話す」「時々話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、小学5年生の困窮層で18.7%、周辺層で17.1%、一般層で25.2%、中学2年生の困窮層で16.9%、周辺層で18.3%、一般層で24.8%となっている。

中学2年生では生活困難度との相関がみられる。

## 問16 ふだんどのくらい話をしているか／G その他の大人（地域のスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生など）



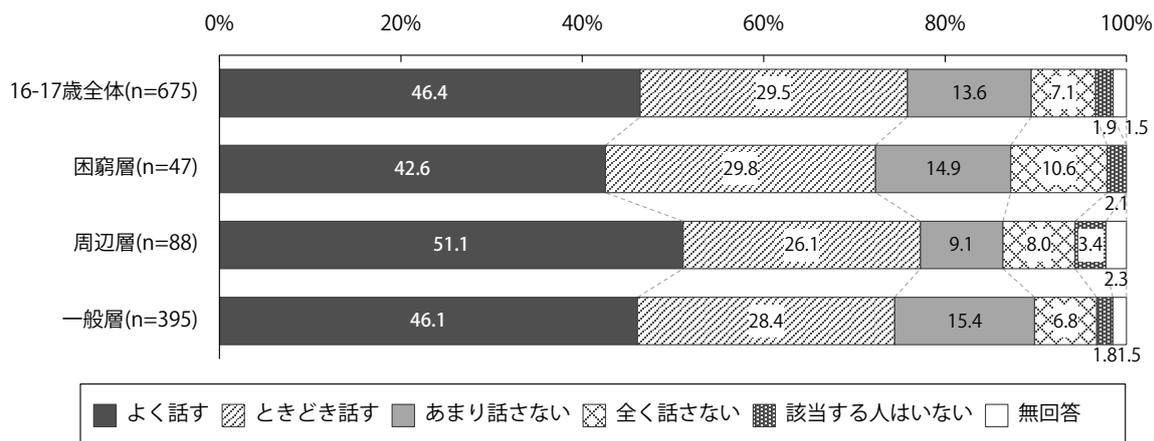
**16-17 歳**

**A 家族（親）**

【子ども票】

16-17 歳の、家族（親）との会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で 72.4%、周辺層で 77.2%、一般層で 74.5%となっている。

問17 ふだんどのくらい話をしているか／A 家族（親）

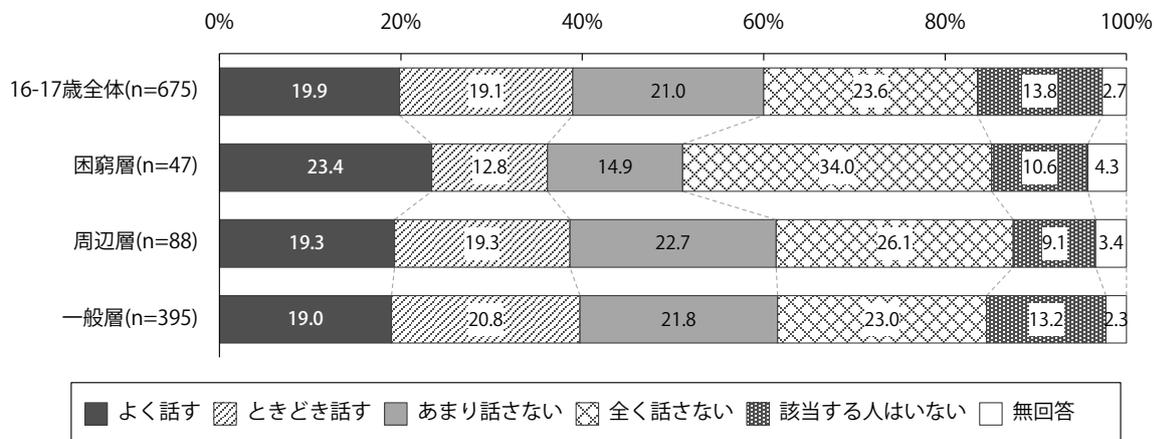


**B 家族（兄弟姉妹）**

【子ども票】

16-17 歳の、家族（兄弟姉妹）との会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で 36.2%、周辺層で 38.6%、一般層で 39.8%となっている。

問17 ふだんどのくらい話をしているか／B 家族（兄弟姉妹）

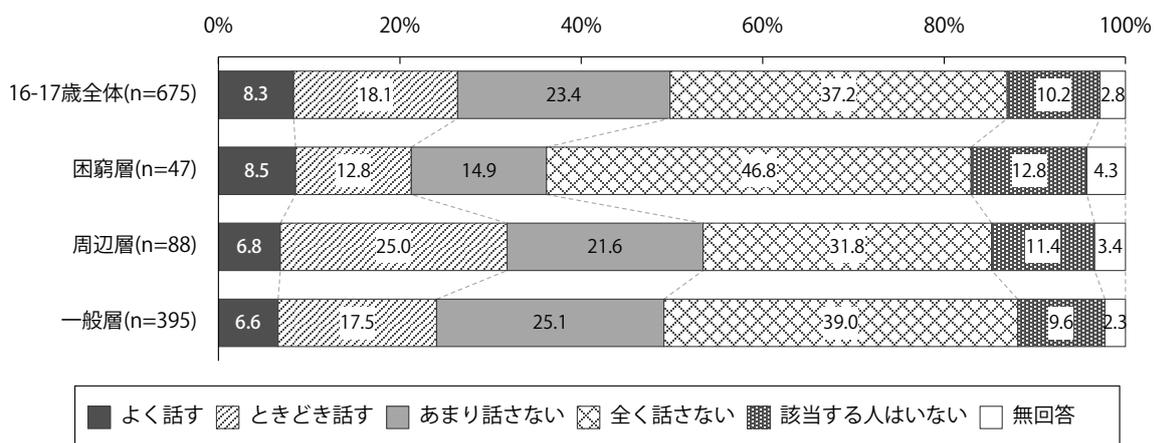


## C 家族(祖父母など)

【子ども票】

16-17歳の、家族(祖父母など)との会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で21.3%、周辺層で31.8%、一般層で24.1%となっている。

問17 ふだんどのくらい話をしているか／C 家族(祖父母など)

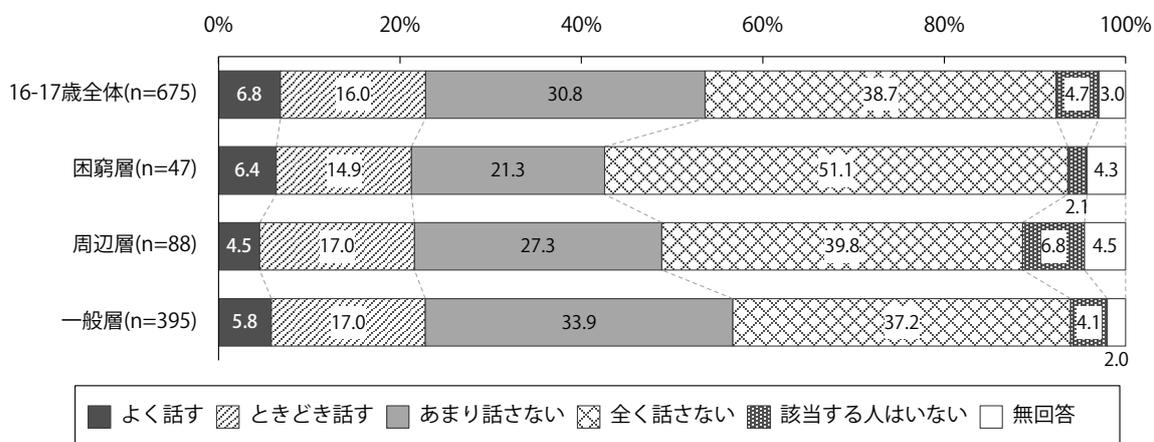


## D 学校の先生

【子ども票】

16-17歳の、学校の先生との会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で21.3%、周辺層で21.5%、一般層で22.8%となっている。「全く話さない」は生活困難度が高いほど割合が高い。

問17 ふだんどのくらい話をしているか／D 学校の先生

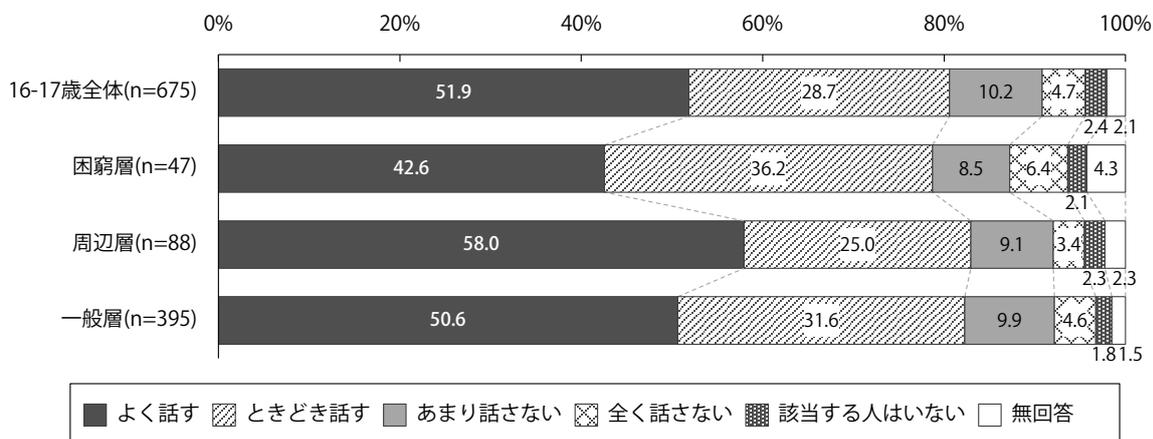


### E 友だち

【子ども票】

16-17歳の、友だちとの会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で78.8%、周辺層で83.0%、一般層で82.2%となっている。

問17 ふだんどのくらい話しているか/E 友だち

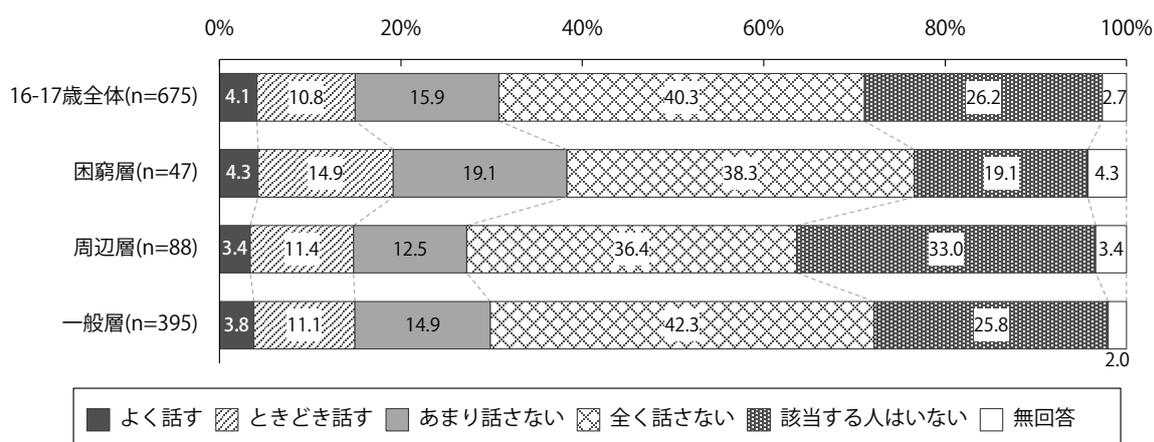


### F 家族・学校の先生以外の大人

【子ども票】

16-17歳の、家族・学校の先生以外の大人との会話について、「よく話す」「ときどき話す」を合わせて『話す』と回答した割合は、困窮層で19.2%、周辺層で14.8%、一般層で14.9%となっている。「該当する人はいない」が全体で26.2%となっている。

問17 ふだんどのくらい話しているか/F 家族・学校の先生以外の大人

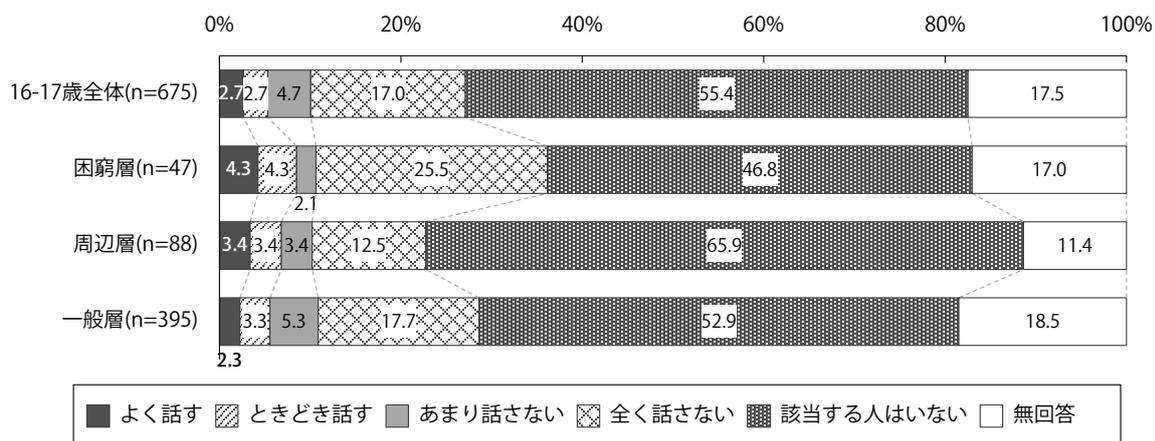


## G その他

【子ども票】

16-17歳の、他の人との会話については「該当する人はいない」が全体で55.4%となっている。

## 問17 ふだんどのくらい話しているか／G その他



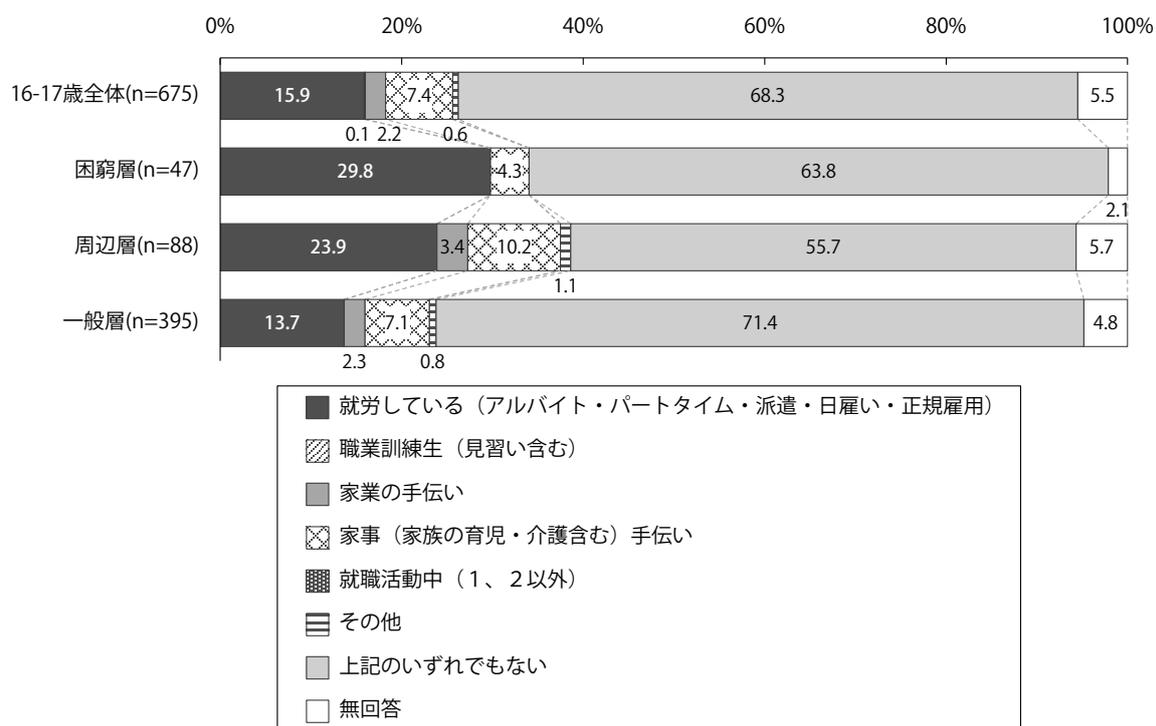
## 9 16-17歳の就労状況

### (1) 就労状況

【子ども票】

16-17歳の就労状況、現在、働いているかについて、「就労している（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用）」と回答した割合は、困窮層で29.8%、周辺層で23.9%、一般層で13.7%となっている。生活困難度が高いほど、何らかの形で就労している割合が高い。

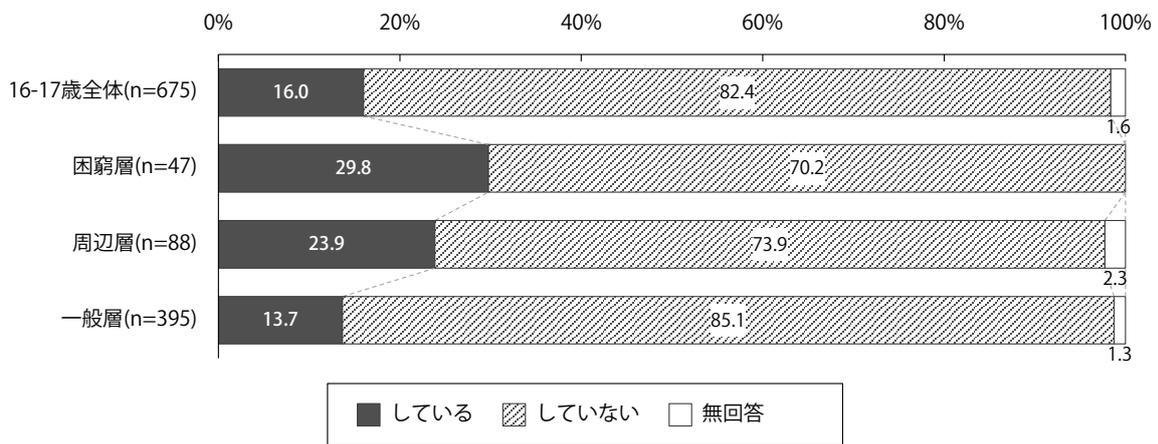
#### 問3 現在、働いているか



【子ども票】

16-17歳の、収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしているかについて、「している」と回答した割合は、困窮層で29.8%、周辺層で23.9%、一般層で13.7%となっている。生活困難度が高いほど、収入を伴う仕事をしている割合が高い。

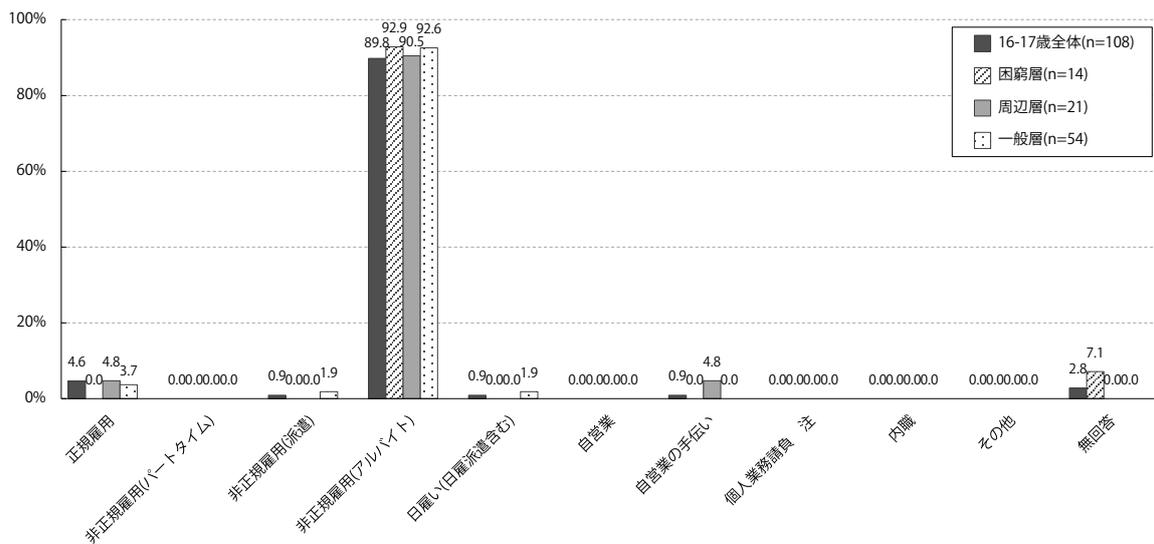
問28 収入を伴う仕事(学生のアルバイトを含む)をしているか



【子ども票】

雇用形態については、非正規雇用（アルバイト）が全体で89.8%と、最も割合が高くなっている。

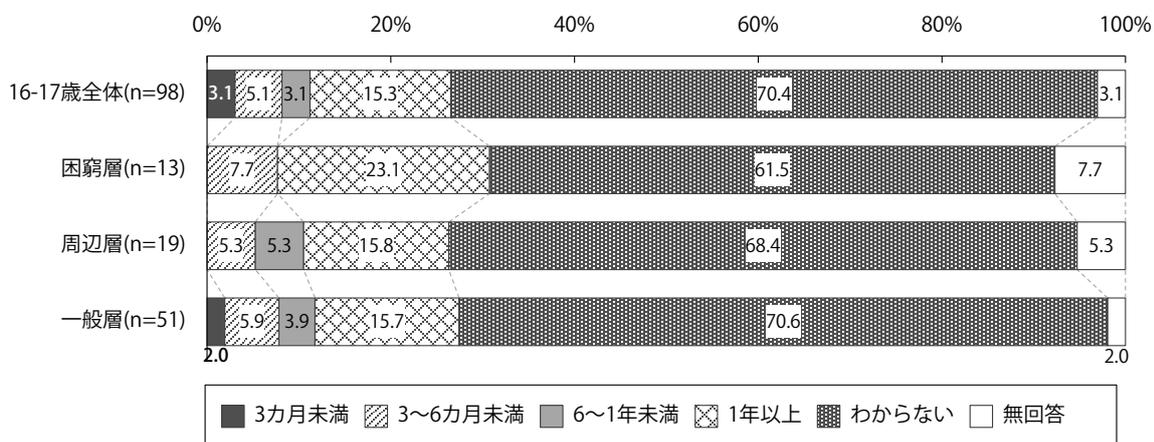
問28-1 雇用形態



【子ども票】

契約期間について、「1年以上」と回答した割合は、困窮層で23.1%、周辺層で15.8%、一般層で15.7%となっている。困窮層では、より長期の契約で仕事をしている。

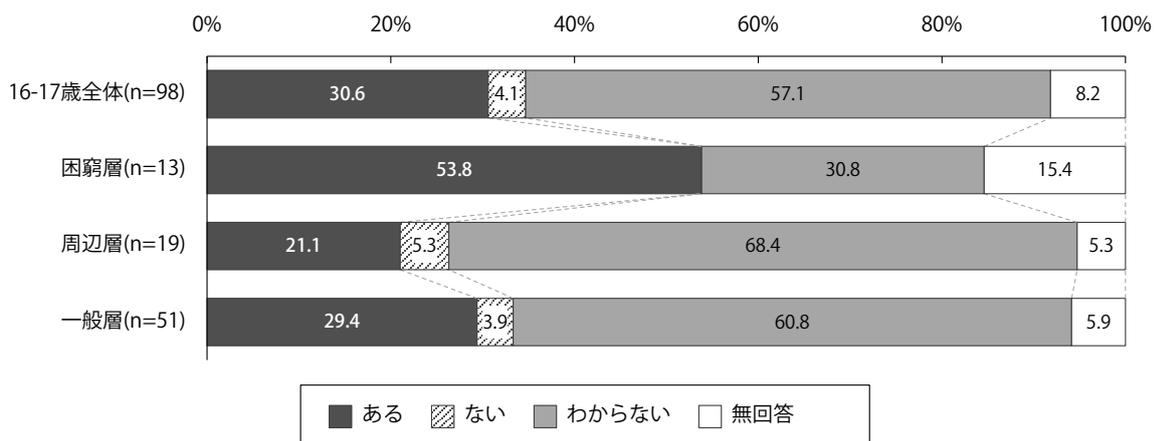
問28-2 契約期間



【子ども票】

契約更新の有無について、「ある」と回答した割合は、困窮層で53.8%、周辺層で21.1%、一般層で29.4%となっている。困窮層では、継続的に続けられる仕事を選択していることがうかがえる。

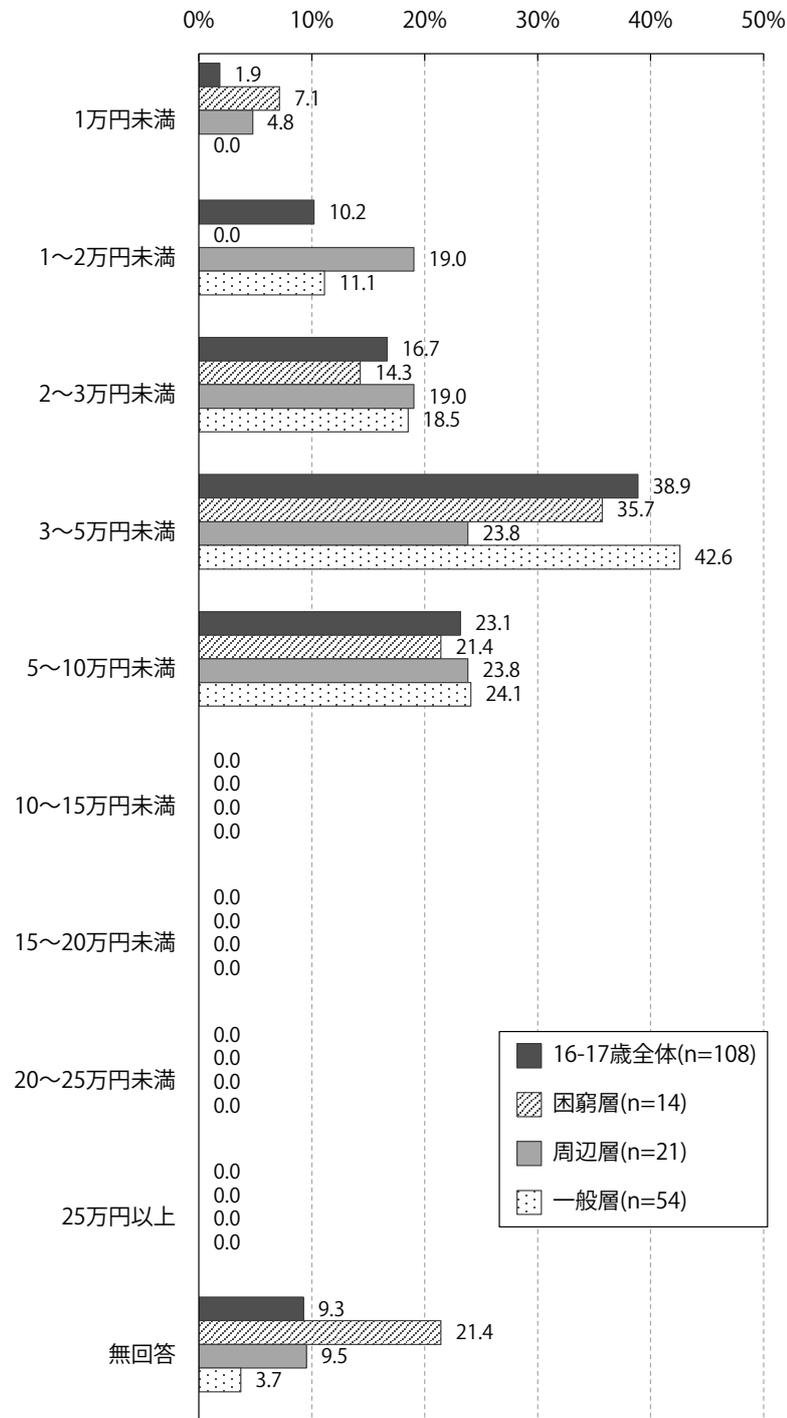
問28-3 契約更新の有無



【子ども票】

1か月当たりの平均収入については、「3～5万円未満」が全体で38.9%と最も多い。

## 問28-4 1か月当たりの平均収入

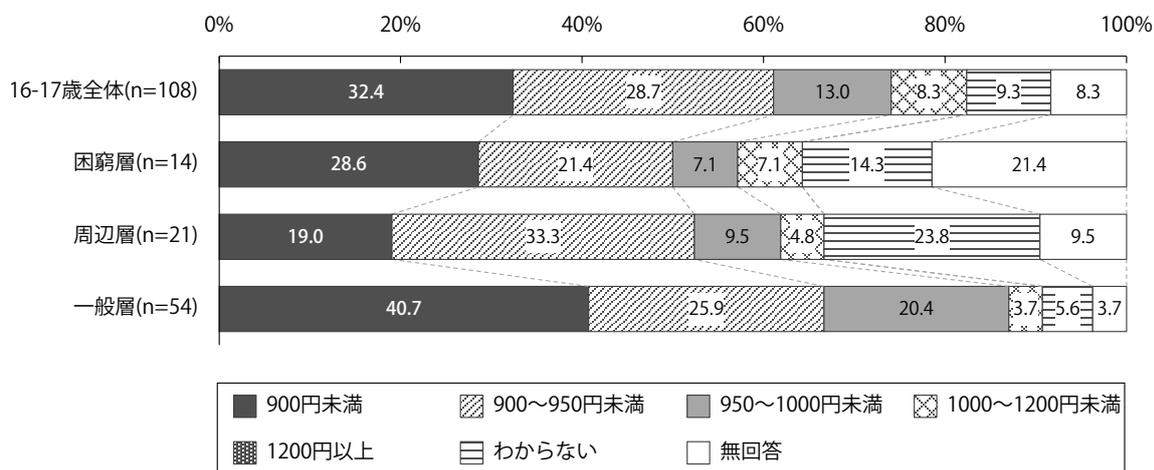


【子ども票】

時給について、「900円未満」「900～950円未満」「950～1000円未満」を合わせた、『1000円未満』の割合は、困窮層で57.1%、周辺層で61.8%、一般層で87.0%となっている。

生活困難度が高いほど、時給の高い仕事を選択していると思われる。

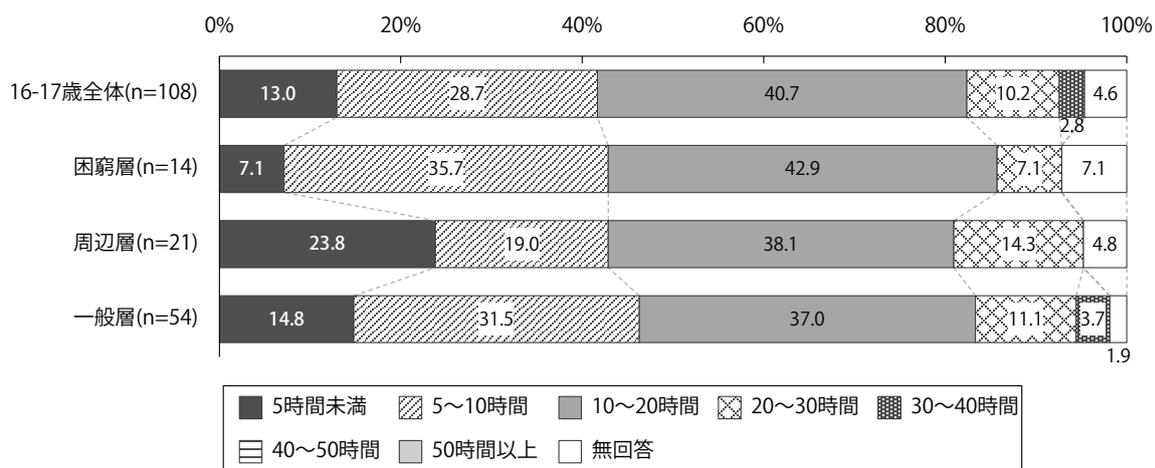
問28-5 時給



【子ども票】

1週間あたりの平均勤務時間について、「5時間未満」では困窮層の7.1%が最も割合が低く、「5～10時間」は困窮層の35.7%、「10～20時間」も困窮層の42.9%が最も割合が高い。

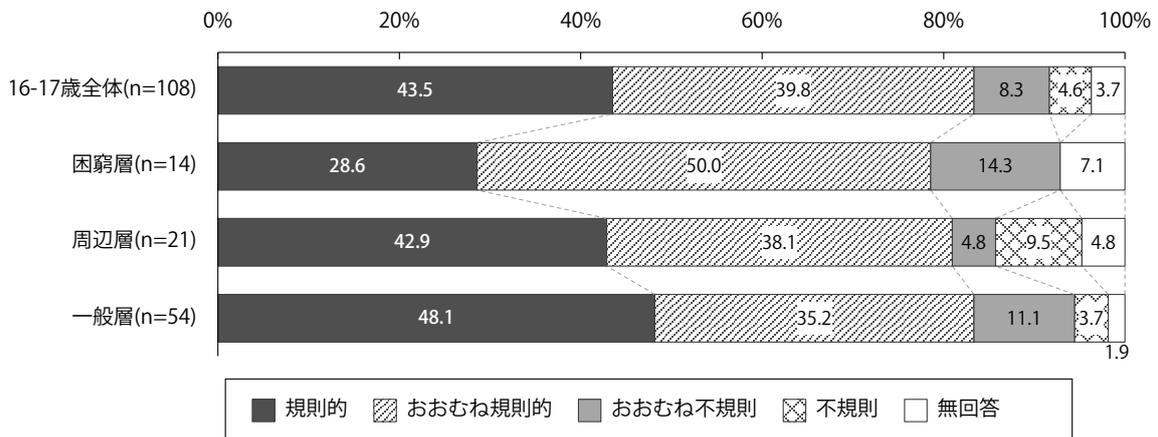
問28-6 1週間あたりの平均勤務時間



【子ども票】

勤務時間が規則的かどうかについて、「規則的」と回答した割合は、困窮層で28.6%、周辺層で42.9%、一般層で48.1%となっている。規則的な勤務時間で仕事をしている割合は困窮層で低くなっている。

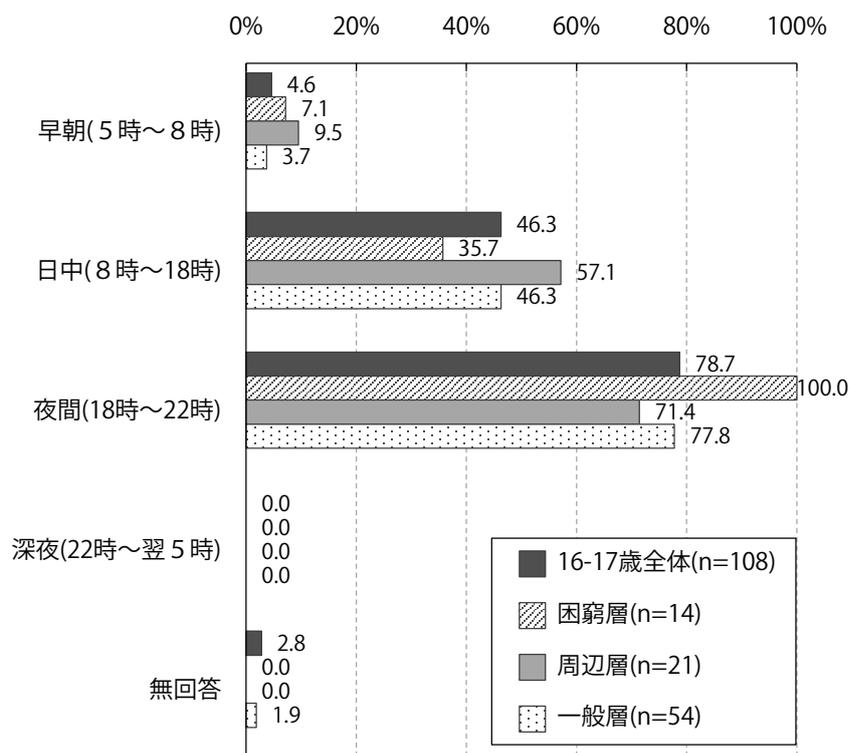
問28-7 勤務時間は規則的か



【子ども票】

ふだん働いている時間帯について、「夜間(18時~22時)」と回答した割合は、困窮層で100%、周辺層で71.4%、一般層で77.8%となっている。困窮層で、夜間に働く割合が高い。

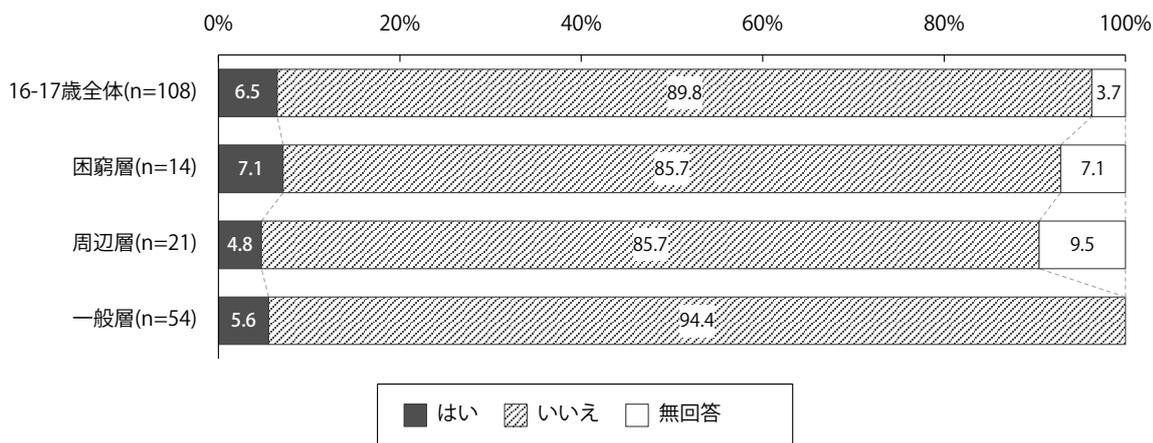
問28-8 普段働いている時間帯



【子ども票】

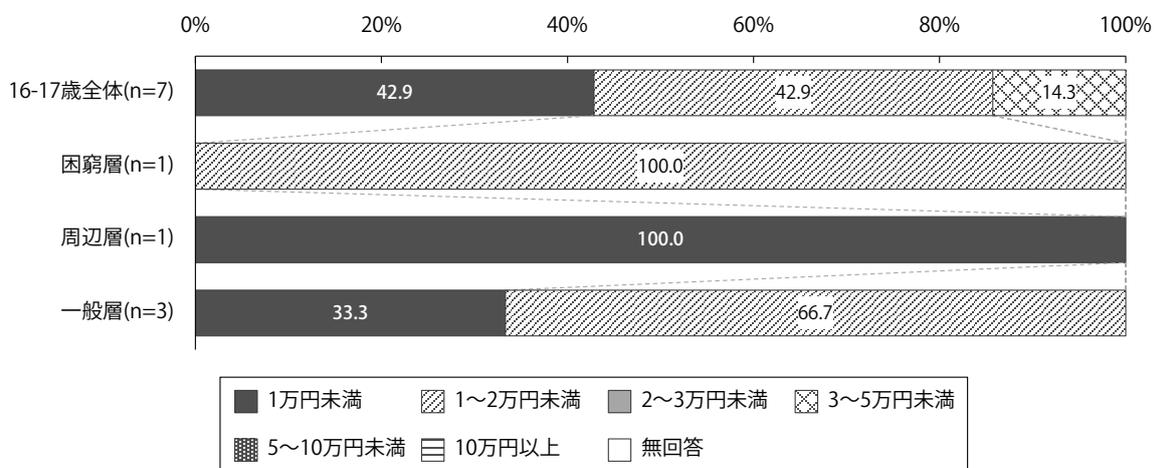
16-17歳が生活費を家族に渡しているかについて、「はい」と回答した割合は、困窮層で7.1%、周辺層で4.8%、一般層で5.6%となっている。困窮層において、全体よりも0.6ポイント高くなっている。

問29 生活費を家族に渡しているか



平均して毎月どれくらい家族に渡しているかでは、「1万円未満」から「3~5万円未満」までの回答がみられるが、回答数(n)が少ないため生活困難度との相関を判断することは難しい。

問29-1 平均して毎月どれくらい家族に渡しているか



## 第8章 子どもの健康と自己肯定感

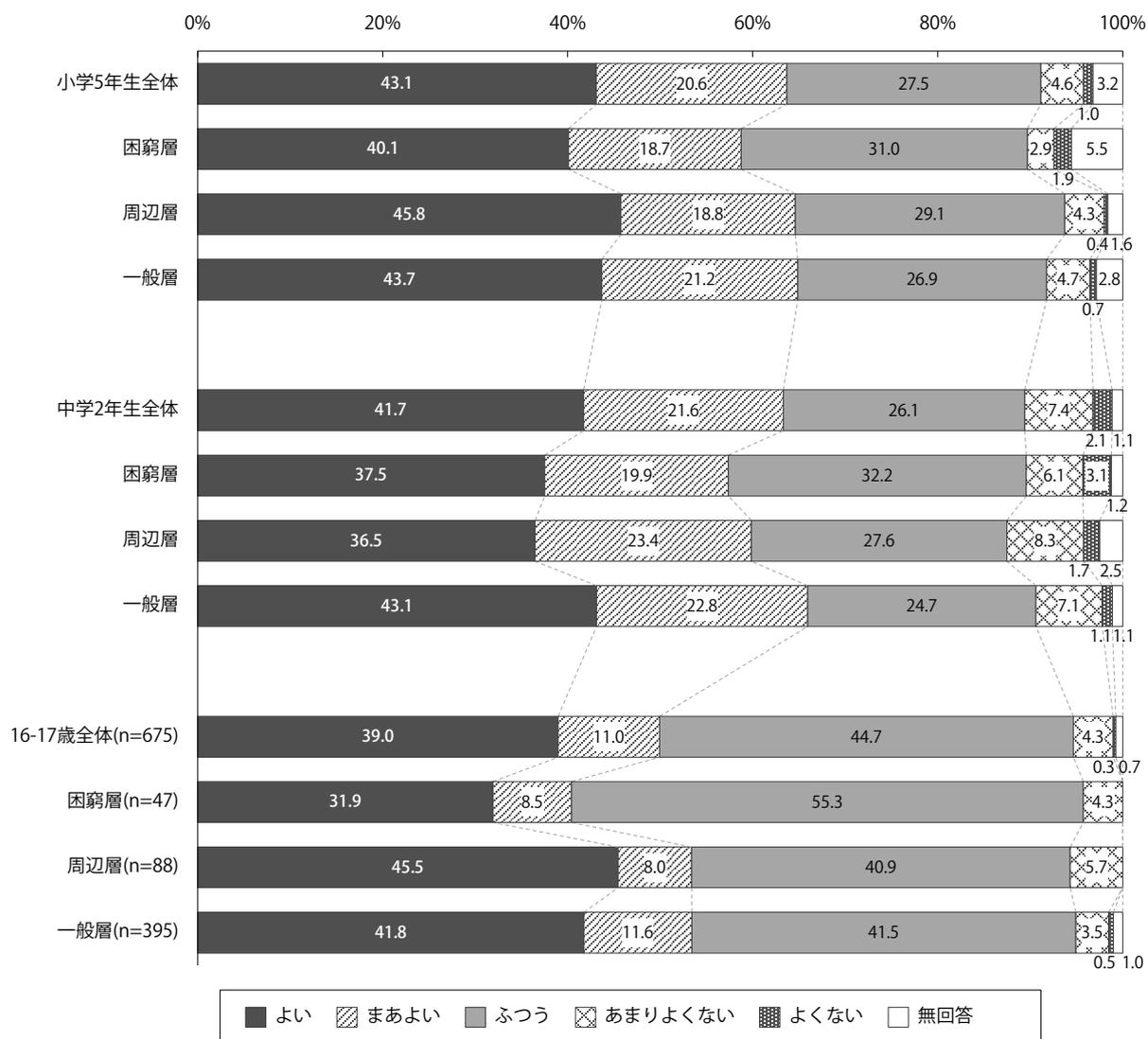
### 1 子どもの健康状態

#### (1) 子どもの主観的健康状態

【子ども票】

子どもの健康状態について、「あまりよくない」「よくない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で4.8%、周辺層で4.7%、一般層で5.4%、中学2年生の困窮層で9.2%、周辺層で10.0%、一般層で8.2%、16-17歳の困窮層で4.3%、周辺層で5.7%、一般層で4.0%となっている。

問21／問25 健康状態

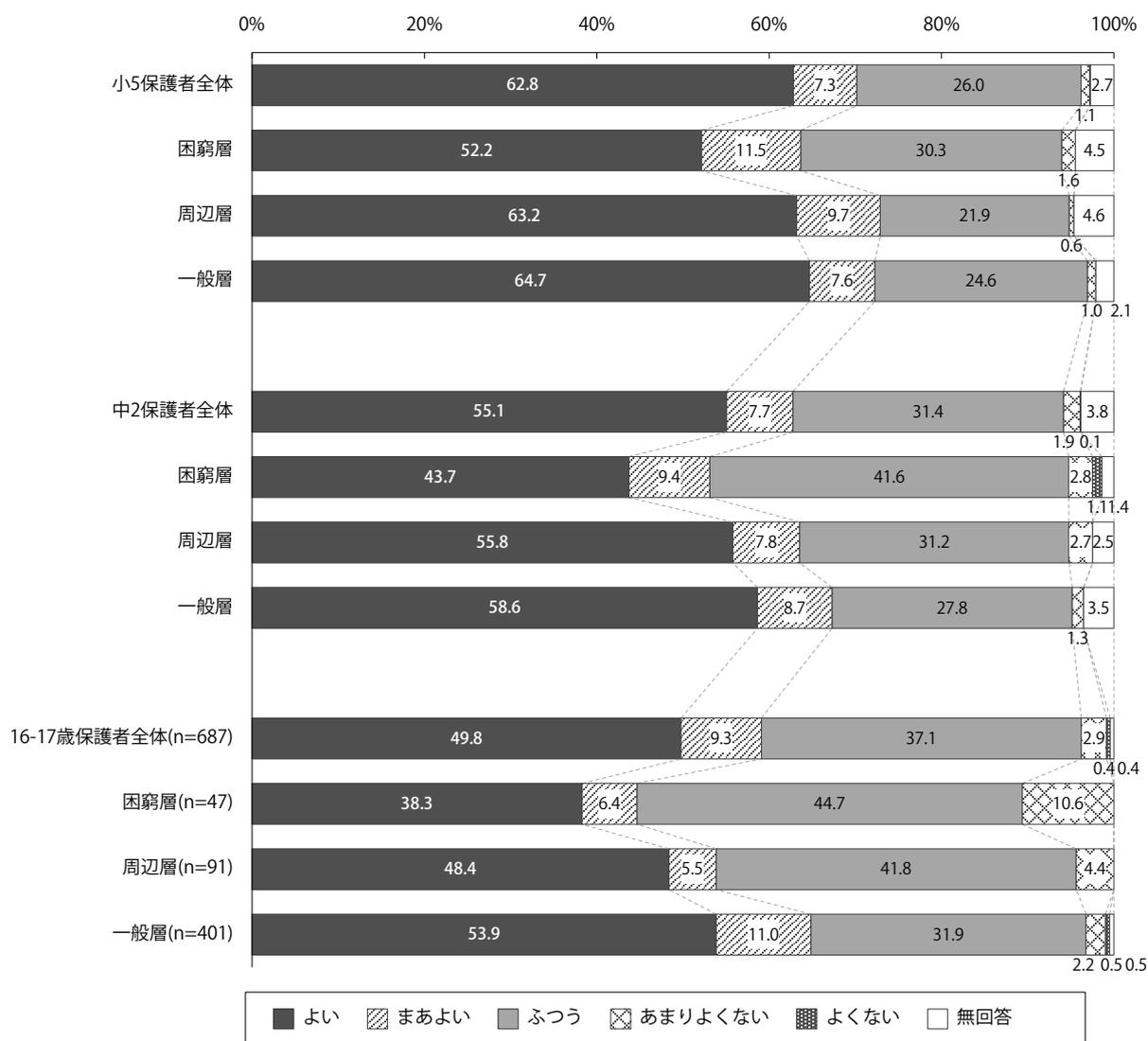


## (2) 保護者から見た子どもの健康状態

【保護者票】

保護者から見た子どもの健康状態について、「よい」「まあよい」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で63.7%、周辺層で72.9%、一般層で72.3%、中学2年生の困窮層で53.1%、周辺層で63.6%、一般層で67.3%、16-17歳の困窮層で44.7%、周辺層で53.9%、一般層で64.9%となっている。生活困難度が高いほど、子どもの健康状態をよいと捉える保護者の割合が低くなる。

問15-2 健康状態／子ども

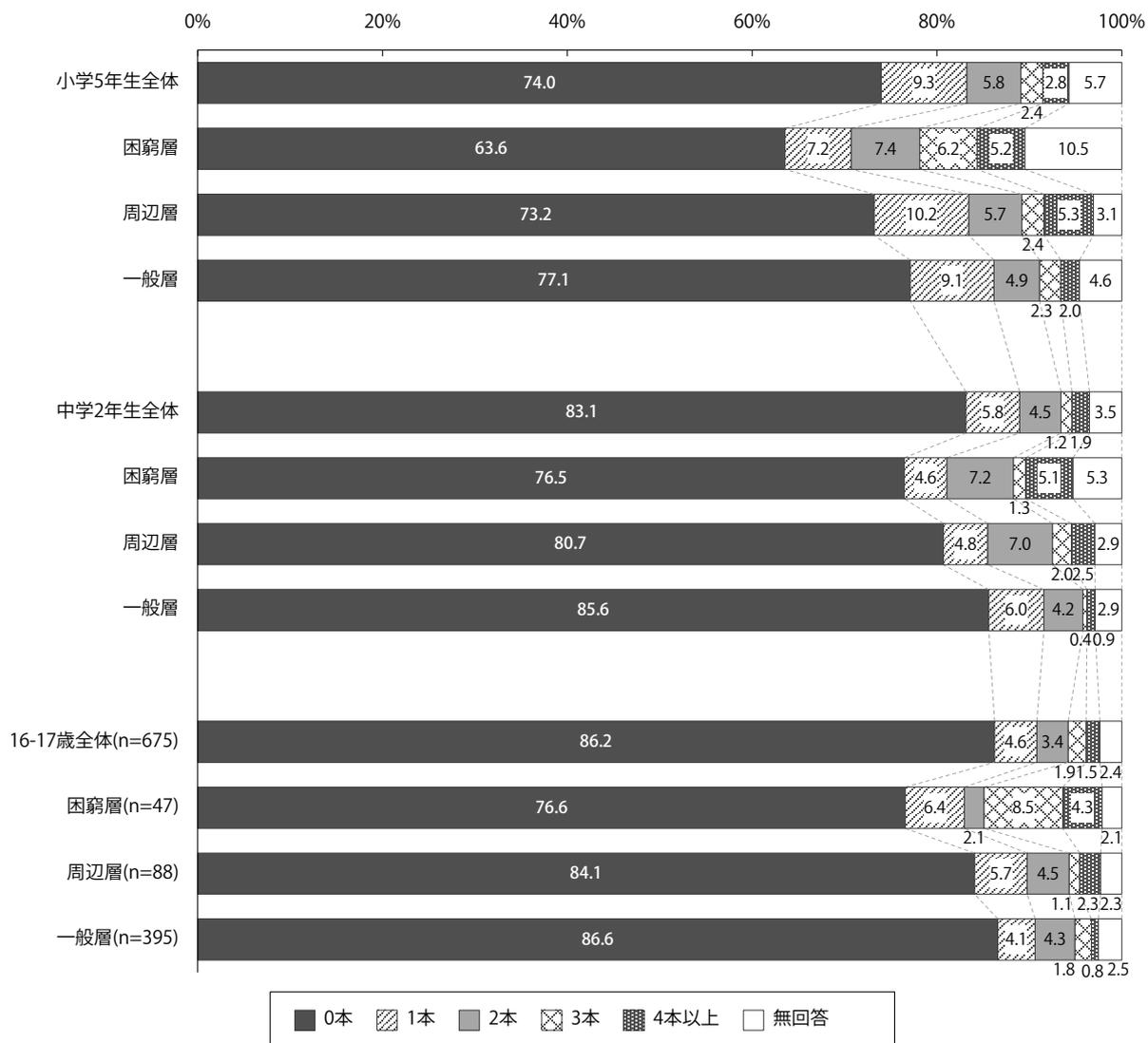


### (3) むし歯の本数

【子ども票】

子ども自身が回答したむし歯の本数について、「0本」つまりむし歯はないと回答した割合は、小学5年生の困窮層で63.6%、周辺層で73.2%、一般層で77.1%、中学2年生の困窮層で76.5%、周辺層で80.7%、一般層で85.6%、16-17歳の困窮層で76.6%、周辺層で84.1%、一般層で86.6%となっている。生活困難度が高いほど、むし歯があることがわかる。

問22／問23 むし歯が何本くらいあるか

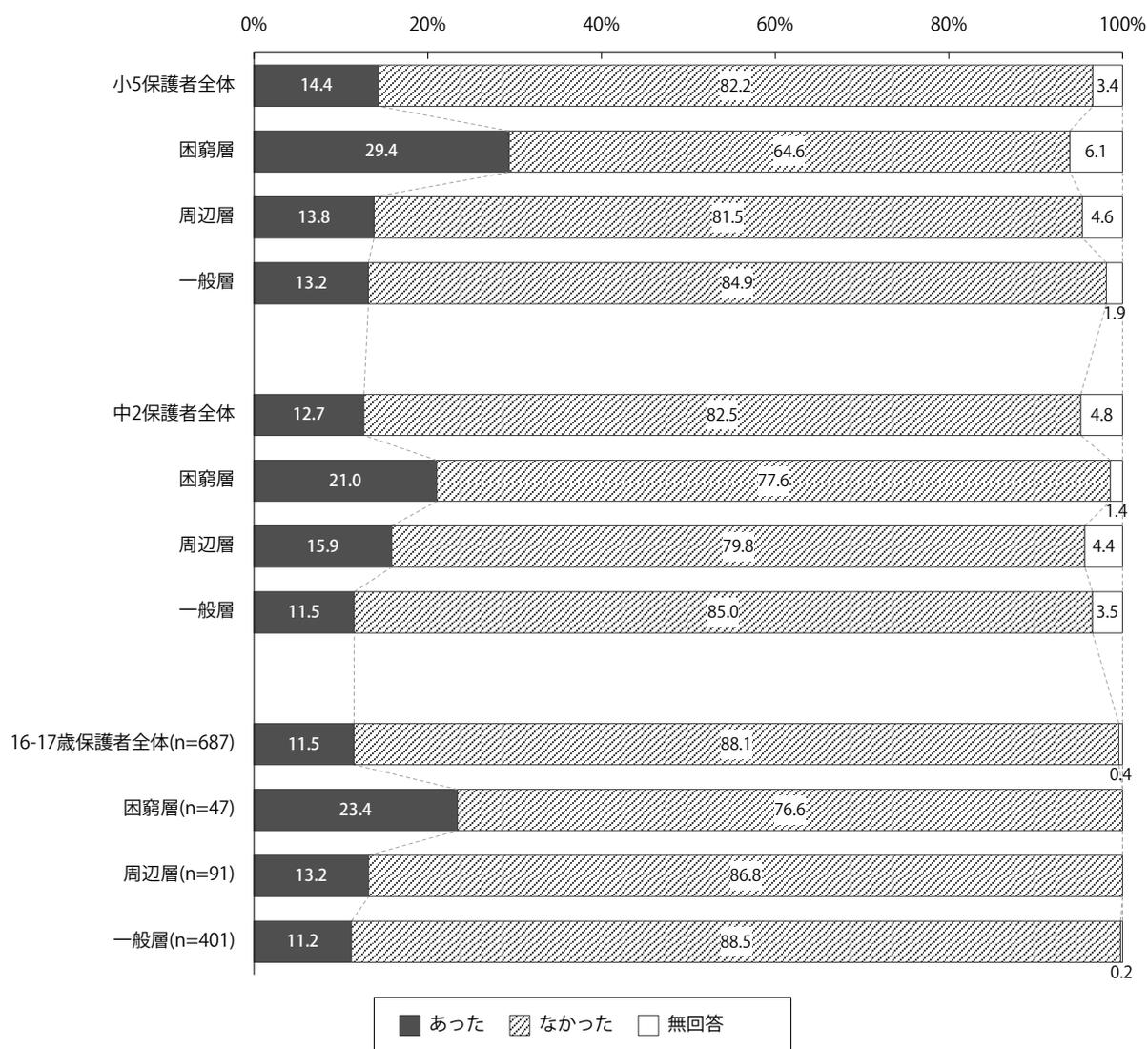


### (4) 子どもの医療受診抑制経験とその理由

【保護者票】

受診させた方がよいと思ったにもかかわらず、子どもを受診させなかった経験について、「あった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で29.4%、周辺層で13.8%、一般層で13.2%、中学2年生の困窮層で21.0%、周辺層で15.9%、一般層で11.5%、16-17歳の困窮層で23.4%、周辺層で13.2%、一般層で11.2%となっている。生活困難度が高いほど、医療受診を抑制していることがわかる。

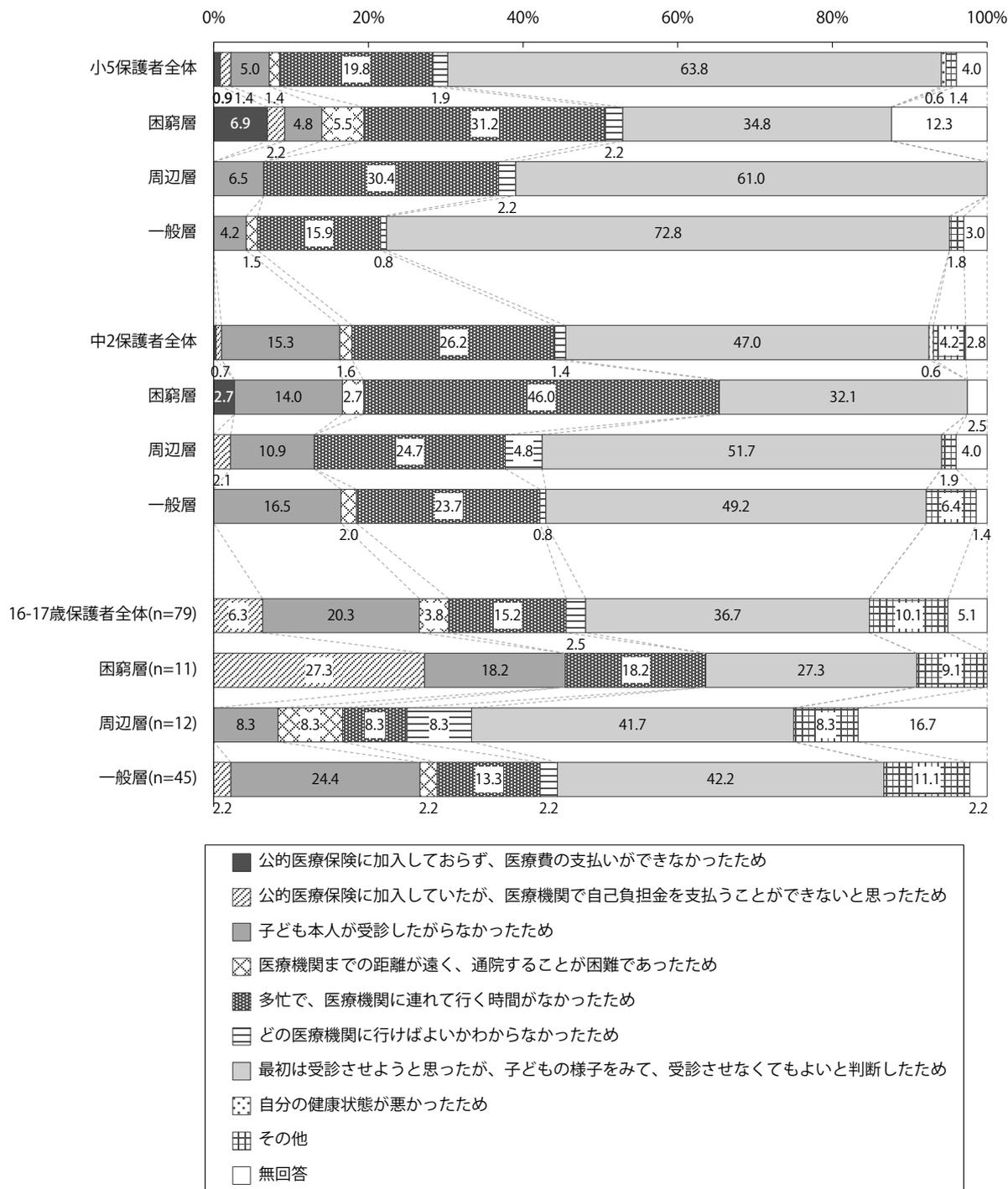
問16/18 過去1年間に子どもを医療機関で受診させなかった経験



【保護者票】

子どもを医療機関で受診させなかった理由について、「公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため」については、小学5年生の困窮層で6.9%、中学2年生の困窮層で2.7%の回答がみられる。

問16-1 子どもを医療機関で受診させなかった理由



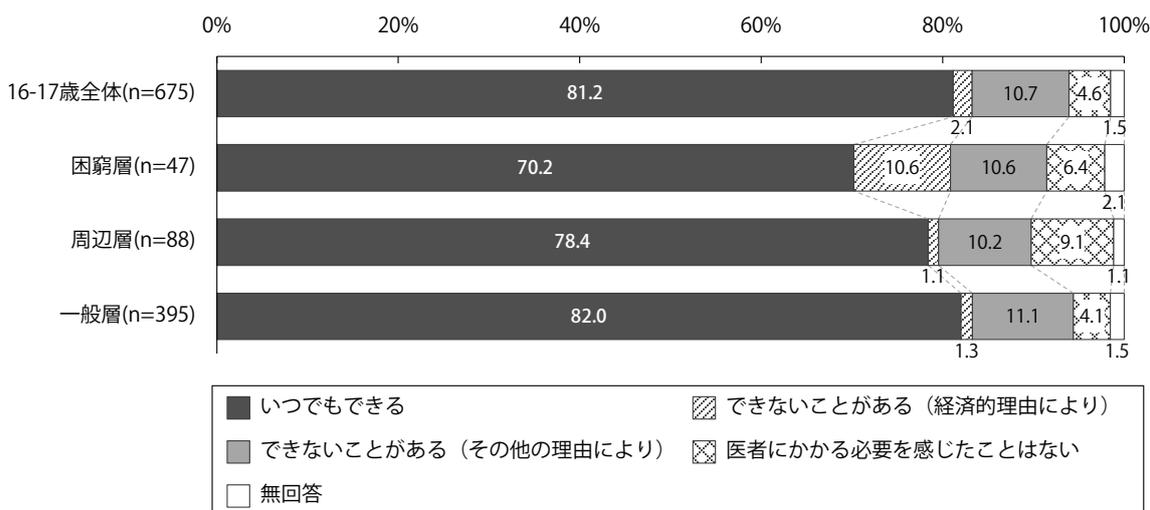
### (5) 医療機関への受診状況

#### ① 医者

【子ども票】

16-17歳の、自分が必要だと思うときに、医者にかかれるかについて、「いつでもできる」と回答した割合は、困窮層で70.2%、周辺層で78.4%、一般層で82.0%となっている。生活困難度が高いほどその割合は低くなっている。

問26 自分が必要だと思うときに、医者にかかれるか

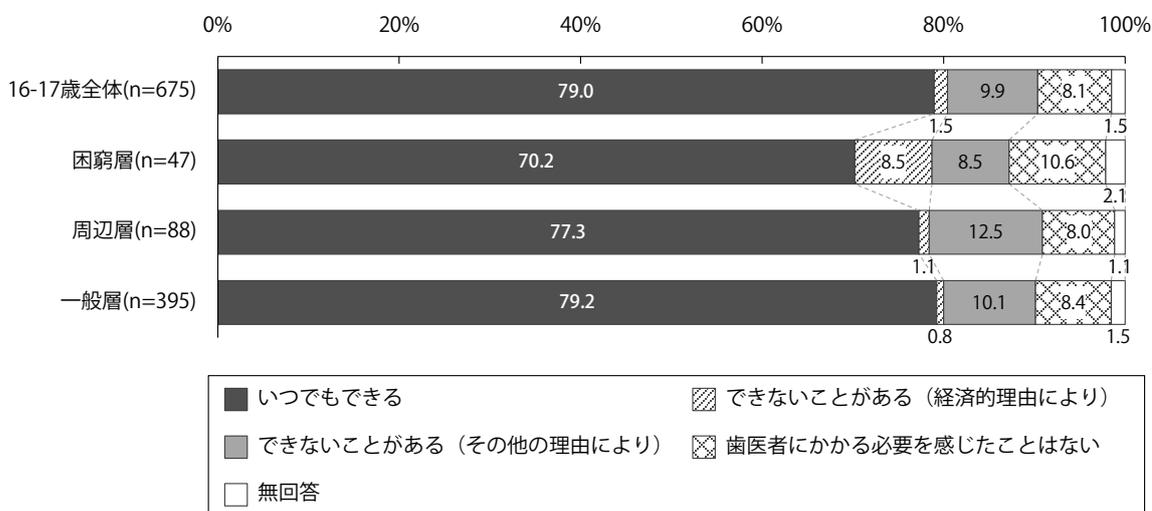


#### ② 歯医者

【子ども票】

16-17歳の、自分が必要だと思うときに、歯医者にかかれるかについて、「いつでもできる」と回答した割合は、困窮層で70.2%、周辺層で77.3%、一般層で79.2%となっている。生活困難度が高いほどその割合は低くなっている。

問27 自分が必要だと思うときに、歯医者にかかれるか



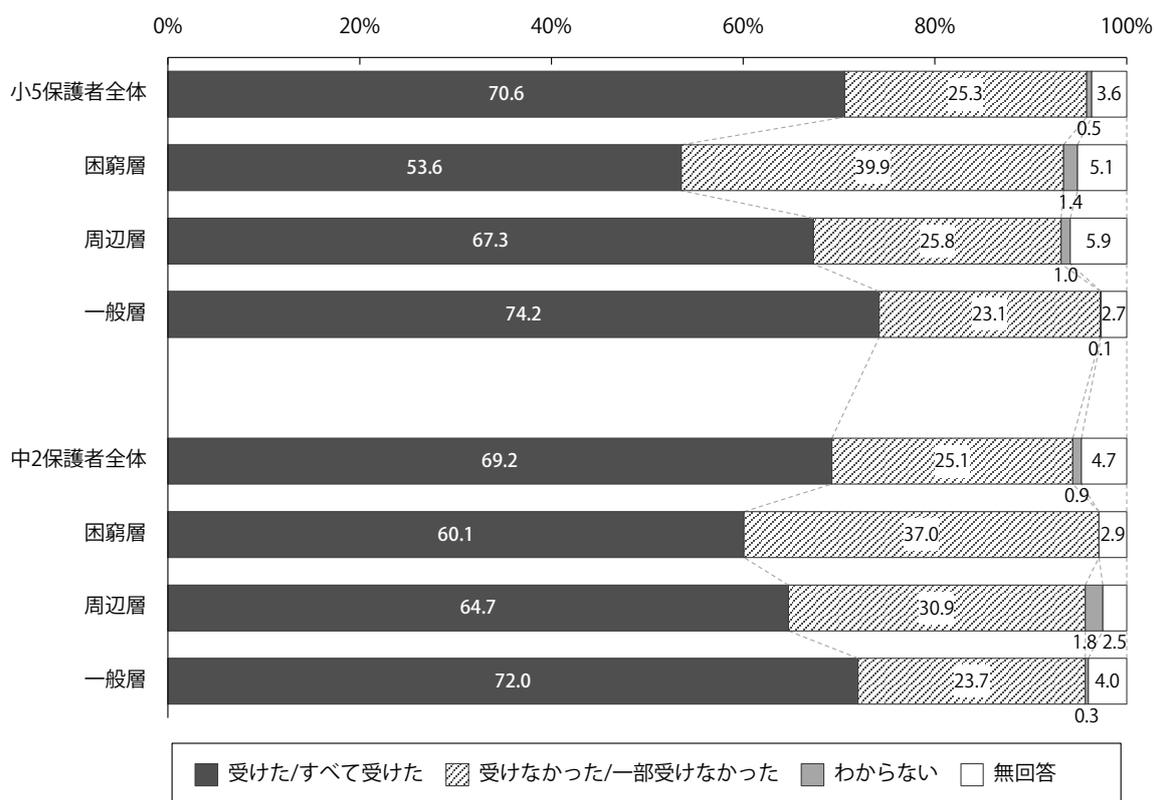
## (6) 予防接種状況

## A 定期予防接種

【保護者票】

定期予防接種の受診状況について、「受けた/すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で53.6%、周辺層で67.3%、一般層で74.2%、中学2年生の困窮層で60.1%、周辺層で64.7%、一般層で72.0%となっている。生活困難度が高いほどその割合が低くなっている。

問17 予防接種の受診状況/A 定期予防接種

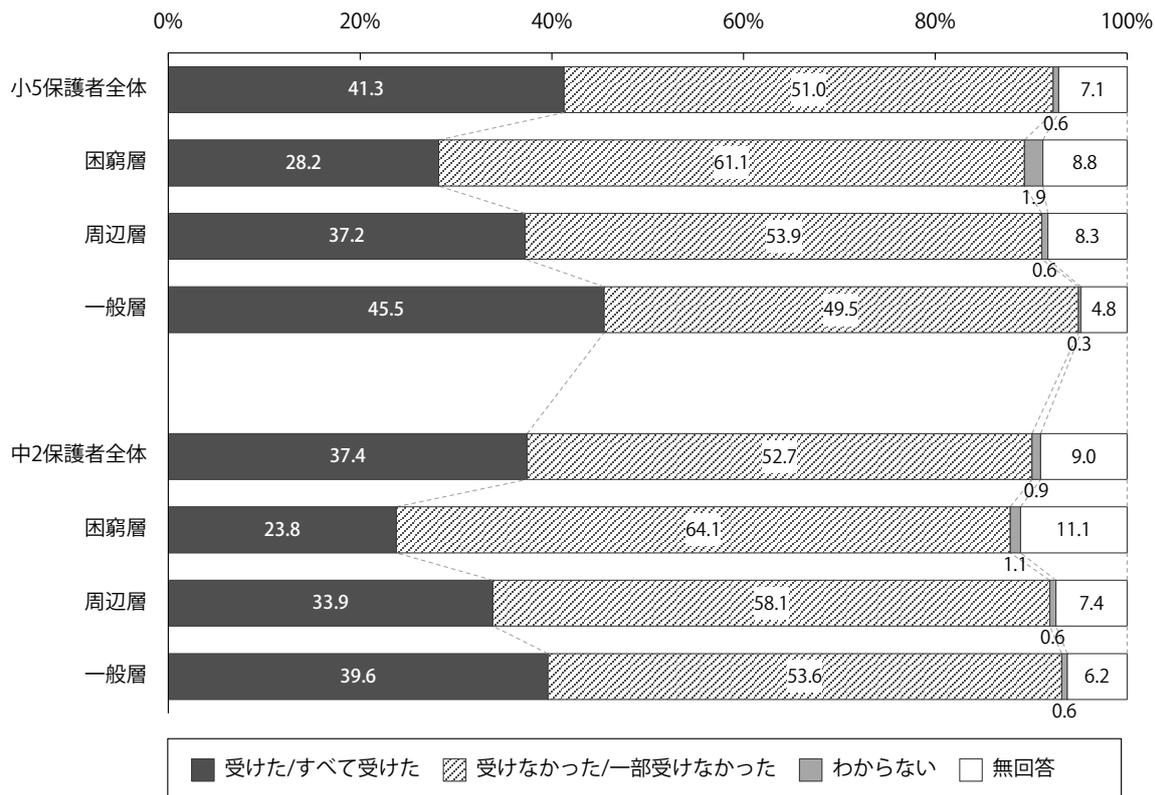


**B 任意接種（インフルエンザ）**

【保護者票】

任意接種（インフルエンザ）の受診状況について、「受けた/すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.2%、周辺層で37.2%、一般層で45.5%、中学2年生の困窮層で23.8%、周辺層で33.9%、一般層で39.6%となっている。生活困難度が高いほどその割合が低くなっている。

問17 予防接種の受診状況／B 任意接種(インフルエンザ)

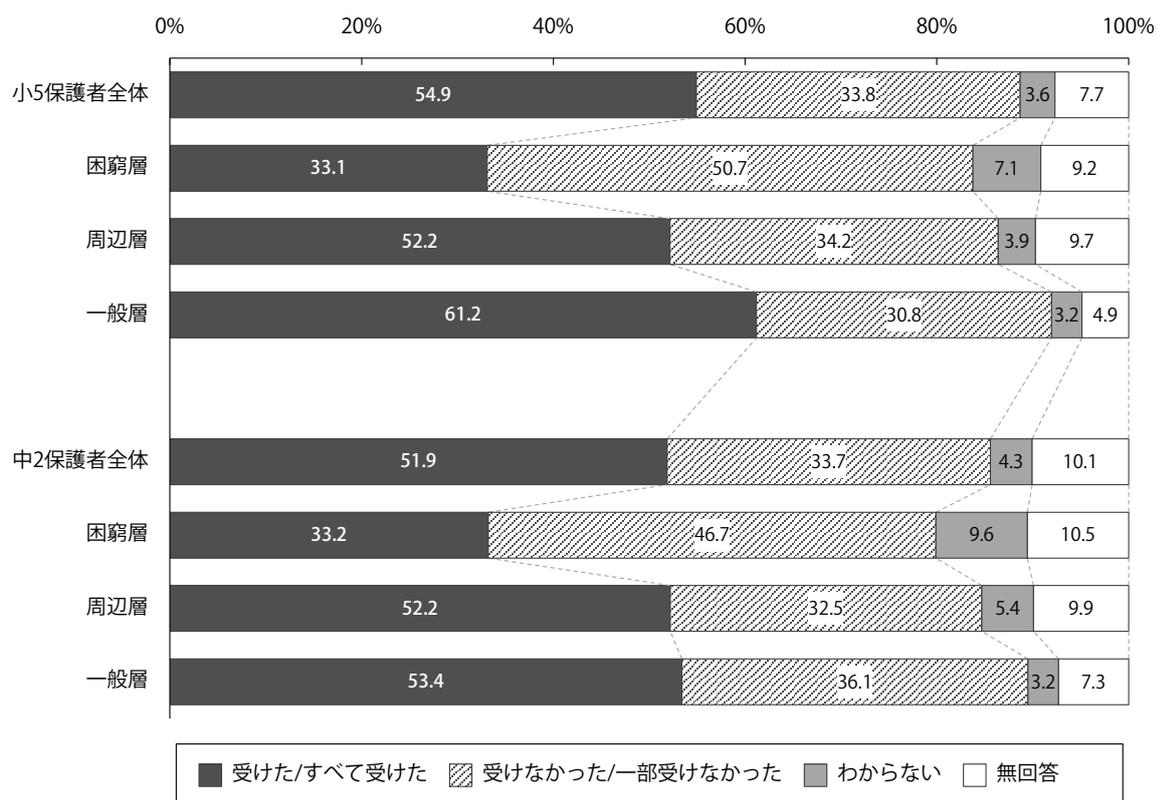


## C 任意接種（おたふくかぜ）

【保護者票】

任意接種（おたふくかぜ）の受診状況について、「受けた/すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で33.1%、周辺層で52.2%、一般層で61.2%、中学2年生の困窮層で33.2%、周辺層で52.2%、一般層で53.4%となっている。生活困難度が高いほどその割合が低くなっている。

問17 予防接種の受診状況／C 任意接種（おたふくかぜ）

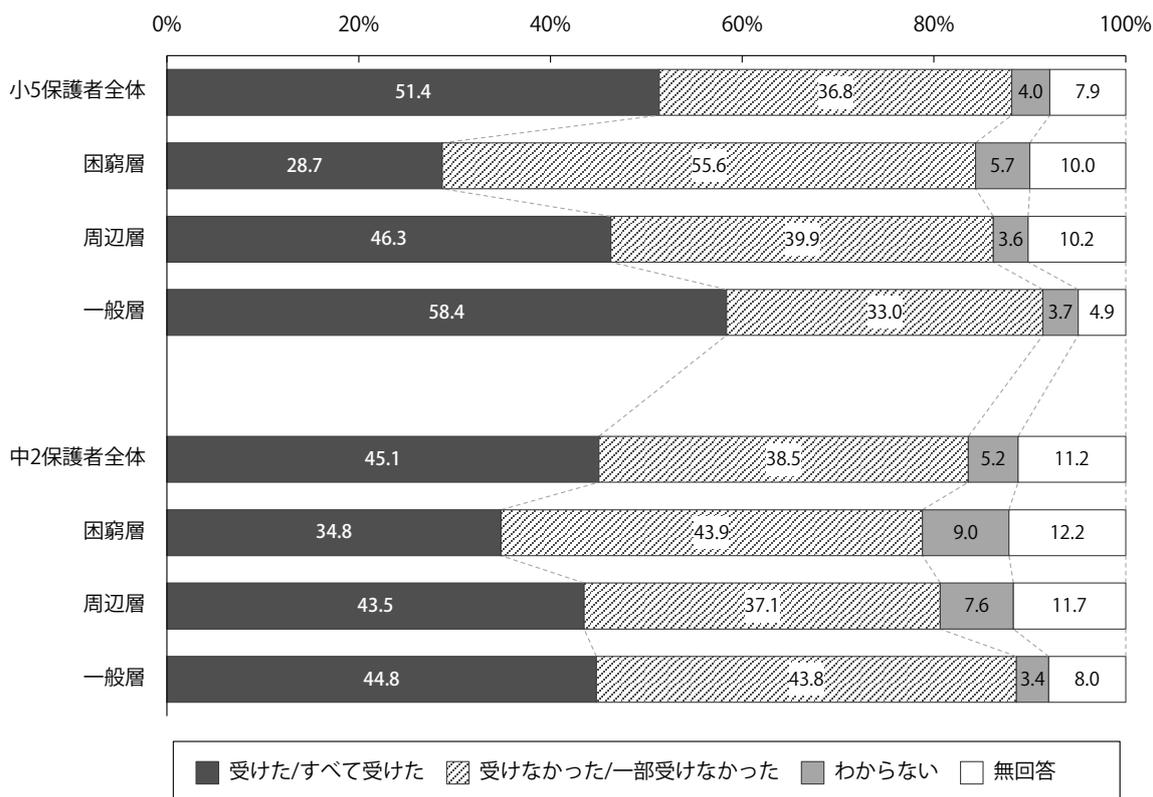


### D 任意接種（水ぼうそう）

【保護者票】

任意接種（水ぼうそう）の受診状況について、「受けた/すべて受けた」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で28.7%、周辺層で46.3%、一般層で58.4%、中学2年生の困窮層で34.8%、周辺層で43.5%、一般層で44.8%となっている。生活困難度が高いほどその割合が低くなっている。

問17 予防接種の受診状況/D 任意接種(水ぼうそう)



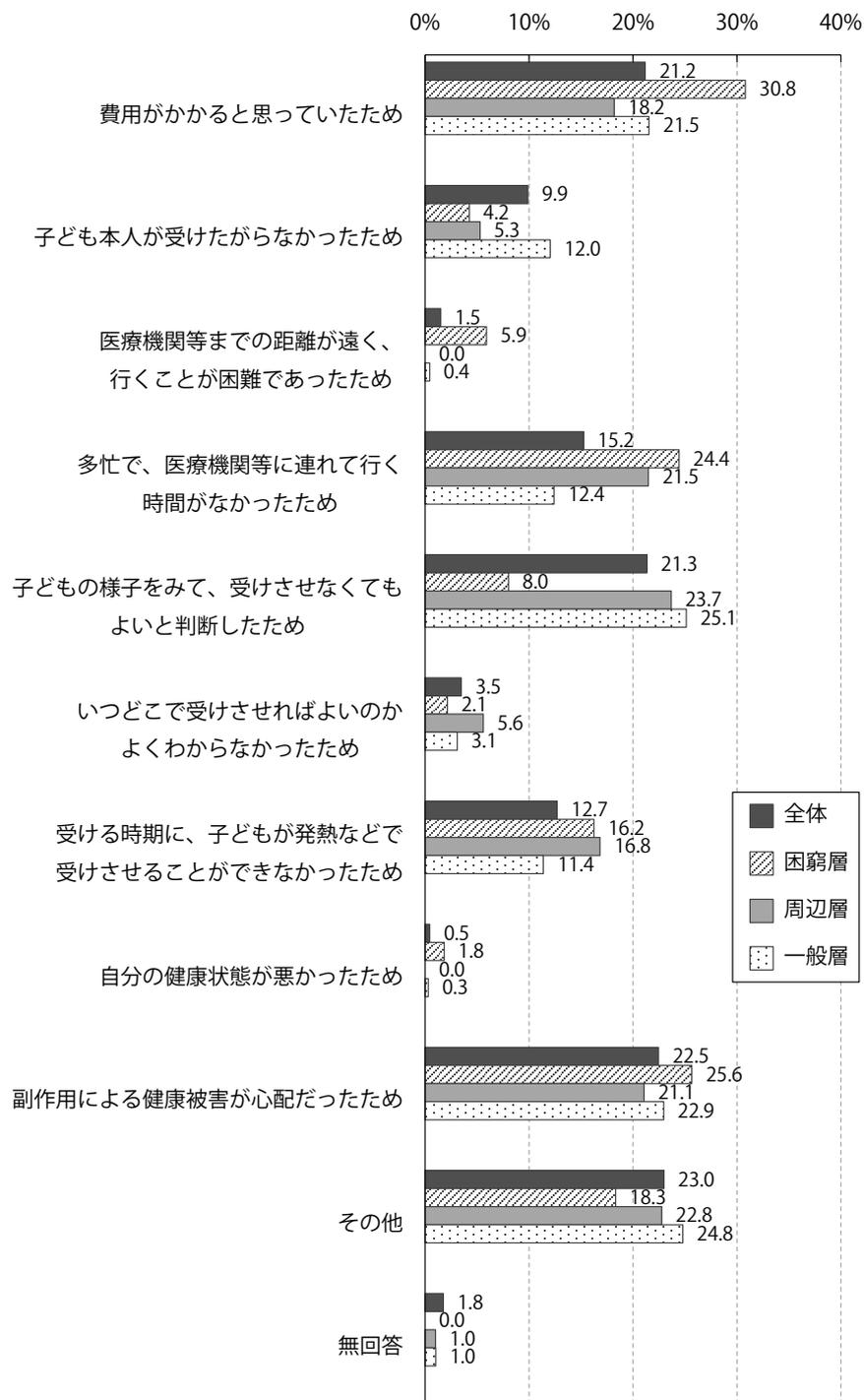
## (7) 未接種の理由

【保護者票】

小学5年生の、定期予防接種を受けないことがあった理由で、「費用がかかると思っていたため」は、困窮層で30.8%の回答がみられる。困窮層において、他の層よりも割合が高かった理由としては、他に「多忙で、医療機関等に連れて行く時間がなかったため」24.4%、「副作用による健康被害が心配だったため」25.6%がみられた。

問17-1 定期予防接種を受けないことがあった理由

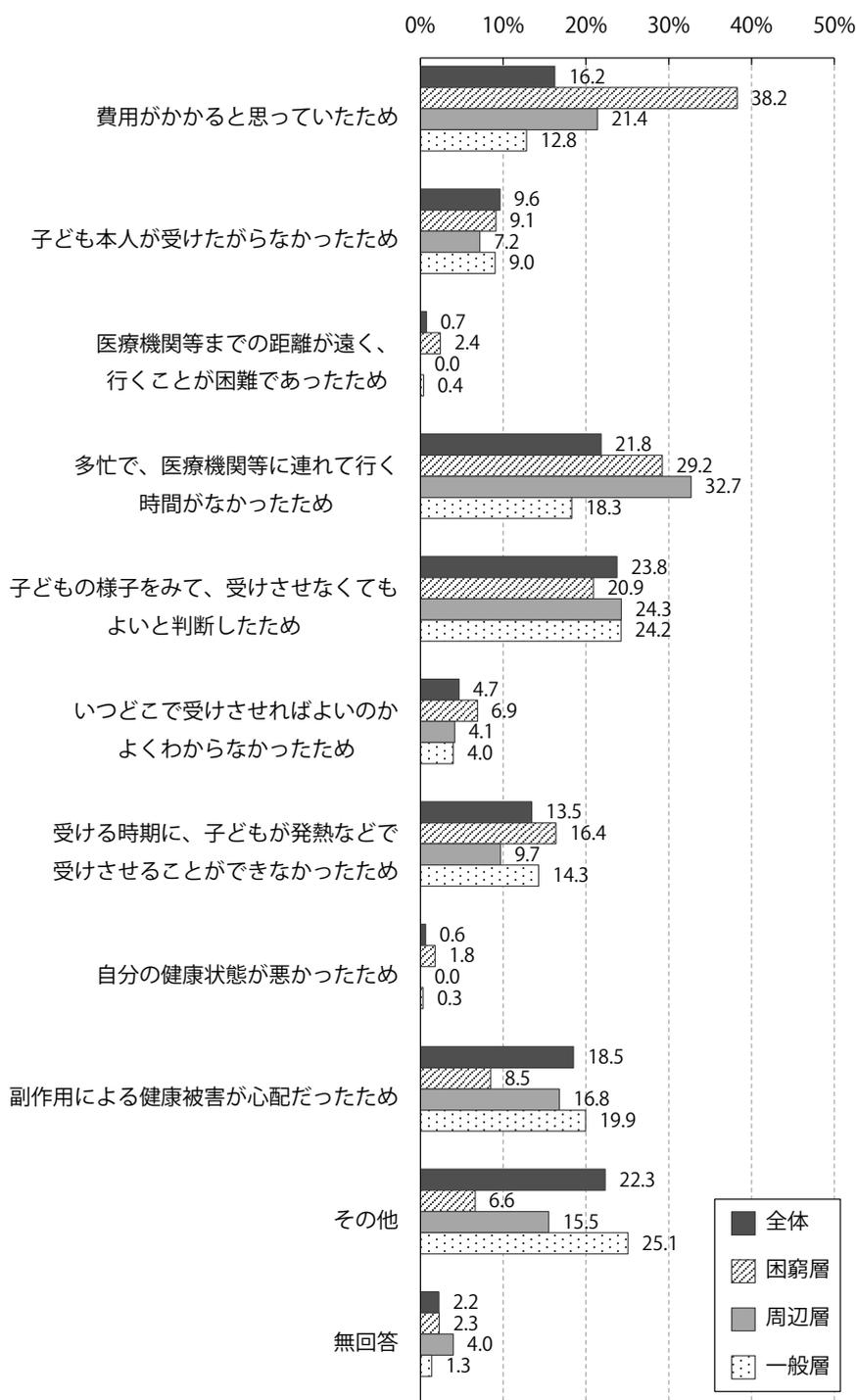
小学5年生



中学2年生の、定期予防接種を受けないことがあった理由で、「費用がかかると思っていたため」は、困窮層で38.2%の回答がみられる。困窮層において、他の層よりも割合が高かった理由としては、他に「受ける時期に、子どもが発熱などで受けさせることができなかったため」16.4%がみられた。

問17-1 定期予防接種を受けないことがあった理由

中学2年生

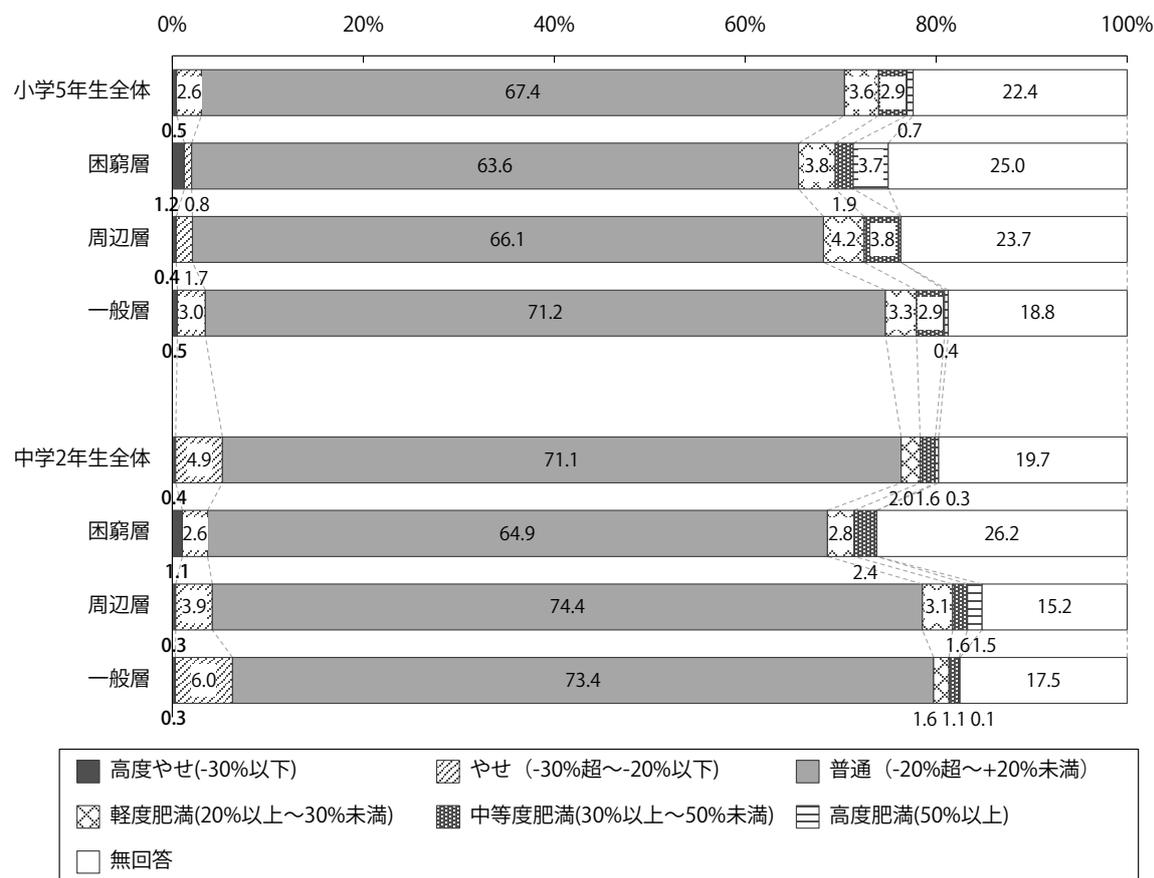


## (8) 肥満度

【子ども票】

子どもの身長、体重、計測年月から肥満度<sup>3</sup>を算出した結果、小学5年生では困窮層、周辺層において「肥満」の側で割合が高くなる傾向がみられた。

### 問2 身長・体重(測った月)



(%)

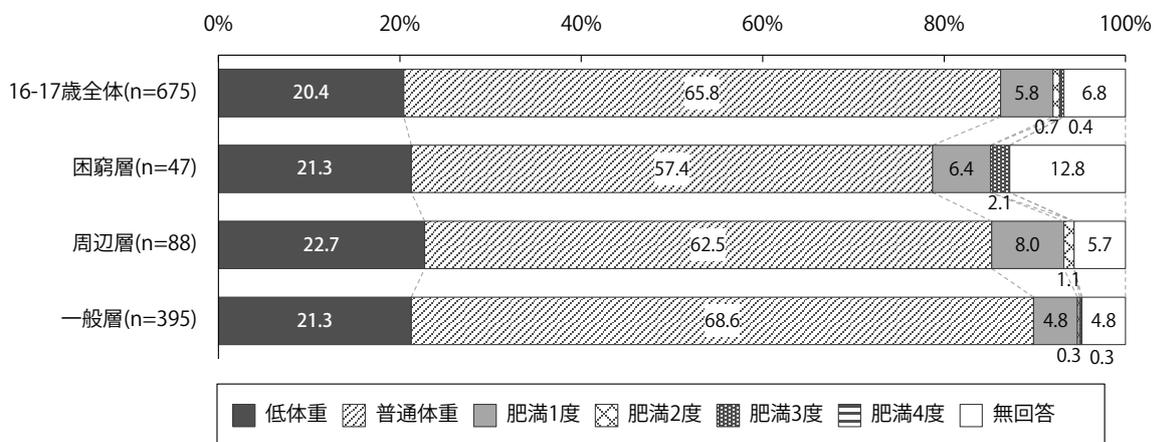
	高度やせ	やせ	普通	軽度肥満	中等度肥満	高度肥満	無回答
小学5年生全体	0.5	2.6	67.4	3.6	2.9	0.7	22.4
困窮層	1.2	0.8	63.6	3.8	1.9	3.7	25.0
周辺層	0.4	1.7	66.1	4.2	3.8	0.0	23.7
一般層	0.5	3.0	71.2	3.3	2.9	0.4	18.8
中学2年生全体	0.4	4.9	71.1	2.0	1.6	0.3	19.7
困窮層	1.1	2.6	64.9	2.8	2.4	0.0	26.2
周辺層	0.3	3.9	74.4	3.1	1.6	1.5	15.2
一般層	0.3	6.0	73.4	1.6	1.1	0.1	17.5

※網ふせは横軸で上位3位

3 肥満度判定方法：学校保健統計調査で用いられる計算方法で、子どもの性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下をやせ傾向、-20%超~+20%未満を普通、20%以上を肥満傾向としている。

身長・体重からBMI<sup>4</sup>を算出したところ、困窮層で「肥満3度」が2.1%みられた。

問22 身長・体重



4 BMI 指数：体重 kg ÷ (身長 m)<sup>2</sup>

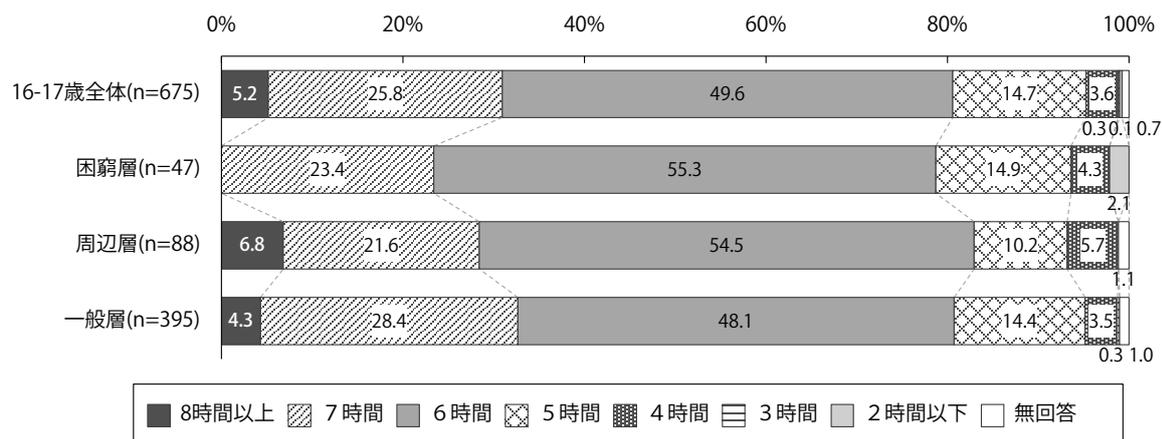
身長と体重に基づいて太り具合を指数化した値。日本肥満学会では、統計的にもっとも病気にかかりにくい BMI 指数 22 を標準体重としてその前後の 18.5 から 25 未満を普通体重、18.5 未満を低体重、25 以上の場合を肥満とし 4 つの段階に分けている。

## (9) 睡眠時間

【子ども票】

16-17歳の平日の平均睡眠時間について、最も多い割合を占めているのは「6時間」となっている。「8時間以上」との回答は周辺層と一般層にしかみられない。「4時間」と回答した割合は、困窮層で4.3%、周辺層で5.7%、一般層で3.5%となっている。

問24 平日の平均睡眠時間



## 2 自己肯定感

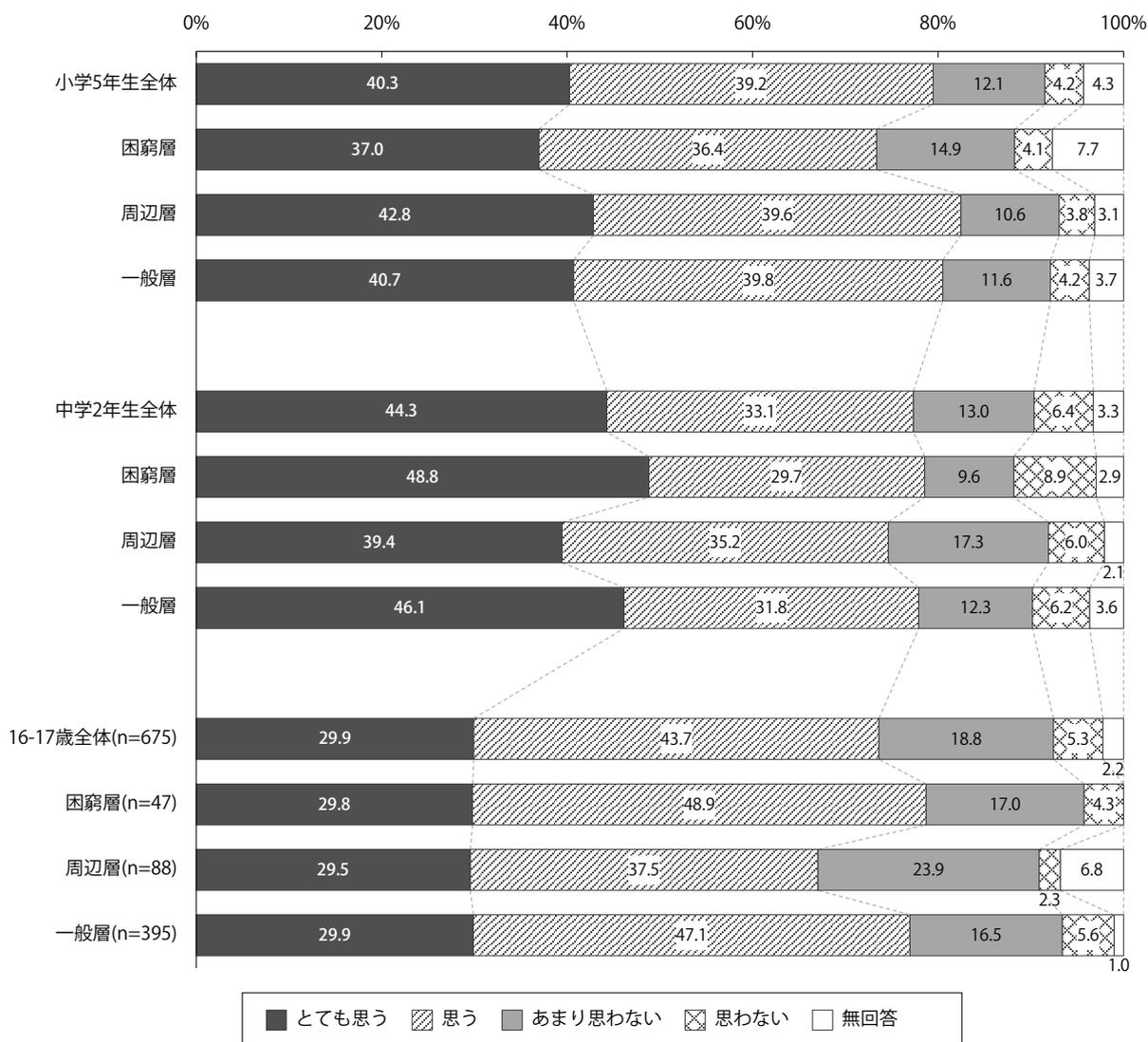
### (1) 自己肯定感

#### A がんばれば、むくわれると思う

【子ども票】

子どもの自己肯定感、がんばれば、むくわれると思うかどうかについて、「あまり思わない」「思わない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で19.0%、周辺層で14.4%、一般層で15.8%、中学2年生の困窮層18.5%、周辺層で23.3%、一般層で18.5%、16-17歳の困窮層で21.3%、周辺層で26.2%、一般層で22.1%となっている。生活困難度との明確な相関はみられない。

問31 思いや気持ちについて/A がんばれば、むくわれると思う

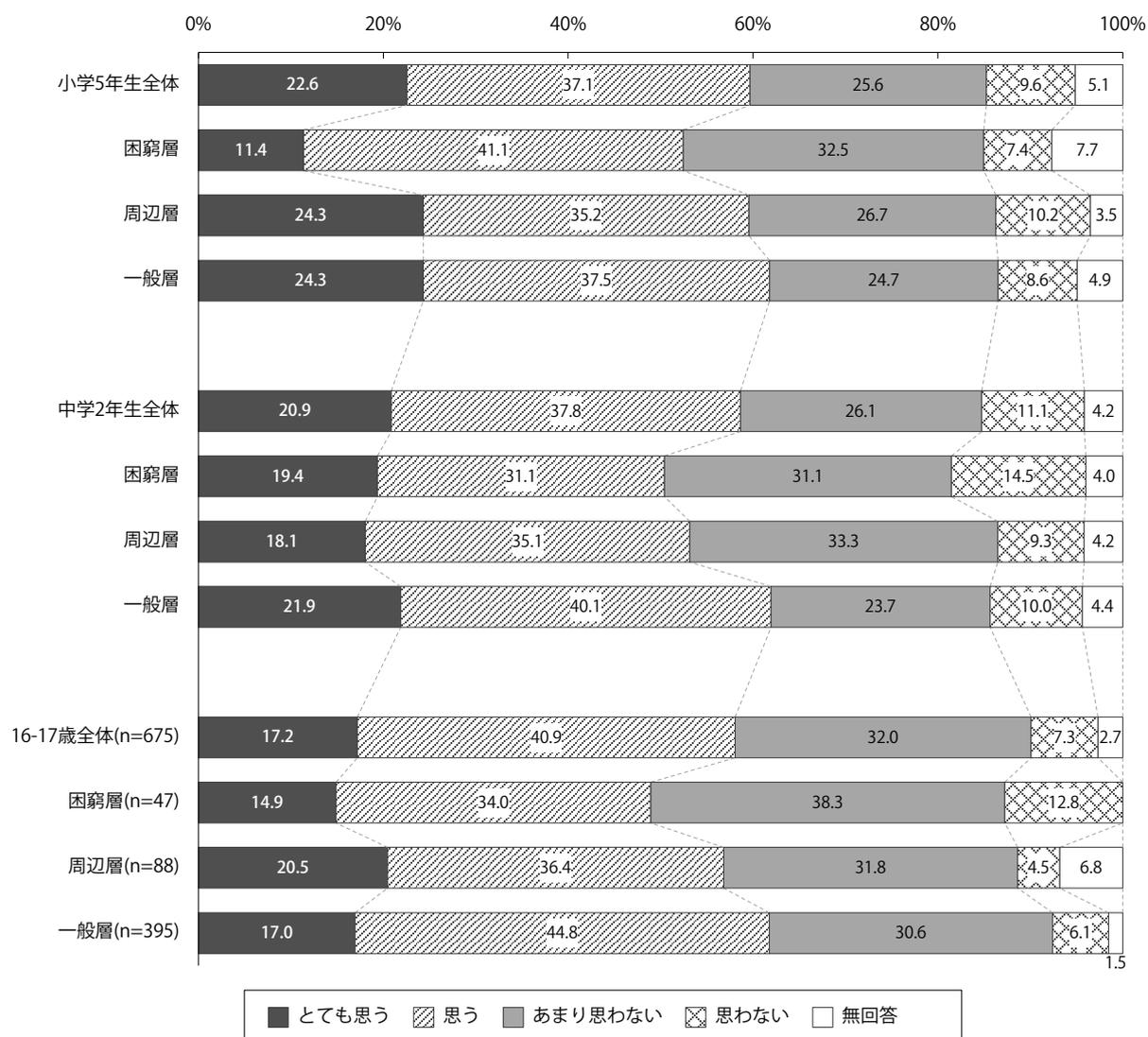


## B 自分は価値のある人間だと思う

【子ども票】

子どもの自己肯定感、自分は価値のある人間かどうかについて、「あまり思わない」「思わない」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で39.9%、周辺層で36.9%、一般層で33.3%、中学2年生の困窮層で45.6%、周辺層で42.6%、一般層で33.7%、16-17歳の困窮層で51.1%、周辺層で36.3%、一般層で36.7%となっている。16-17歳の周辺層を除いて生活困難度との相関がみられ、いずれの年齢層でも困窮層で自分に価値を見出せていない傾向がある。

問31 思いや気持ちについて／B 自分は価値のある人間だと思う

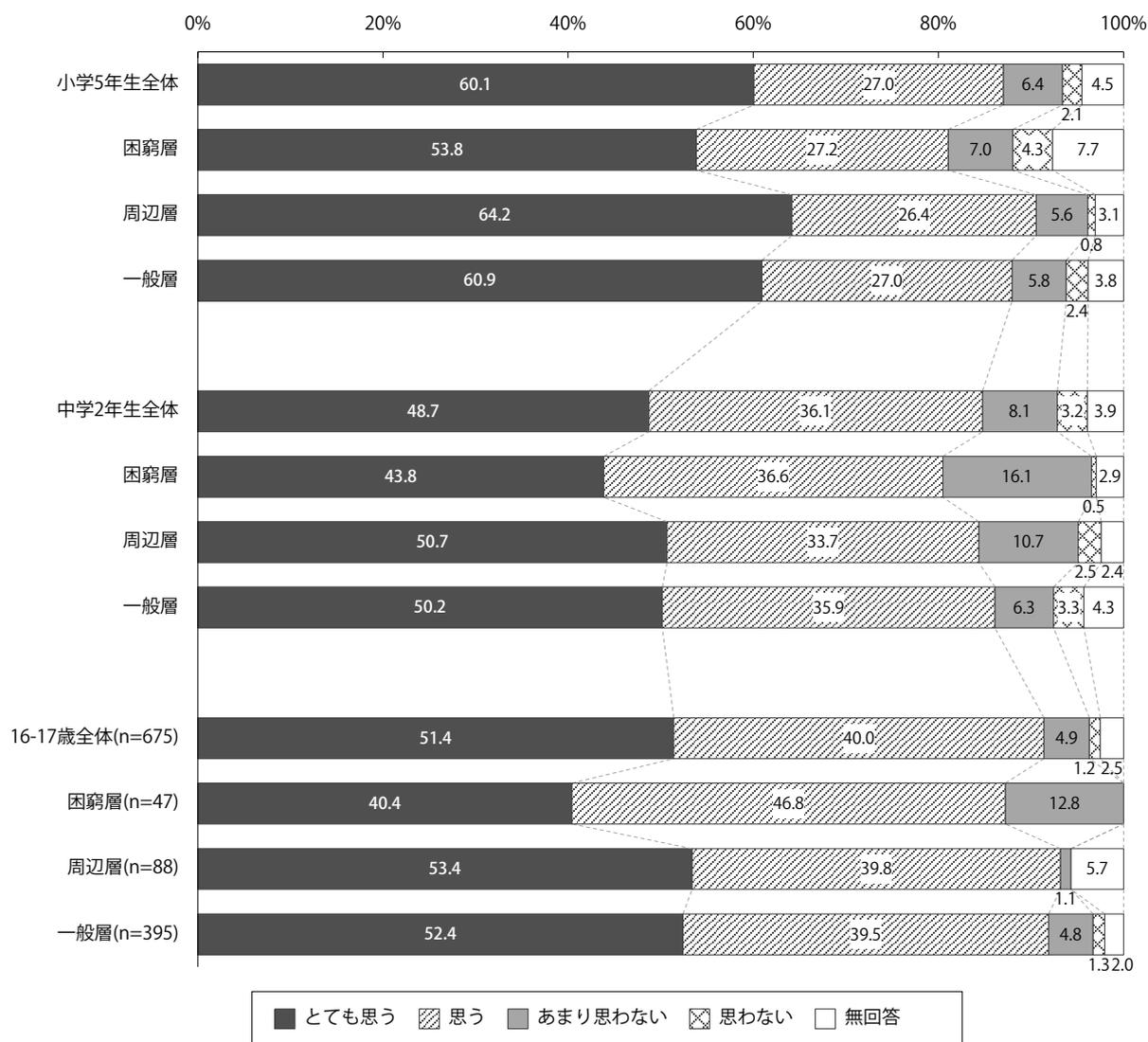


### C 自分は家族に大事にされていると思う

【子ども票】

子どもの自己肯定感、自分は家族に大事にされていると思うかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で81.0%、周辺層で90.6%、一般層で87.9%、中学2年生の困窮層で80.4%、周辺層で84.4%、一般層で86.1%、16-17歳の困窮層で87.2%、周辺層で93.2%、一般層で91.9%となっている。

問31 思いや気持ちについて／C 自分は家族に大事にされていると思う

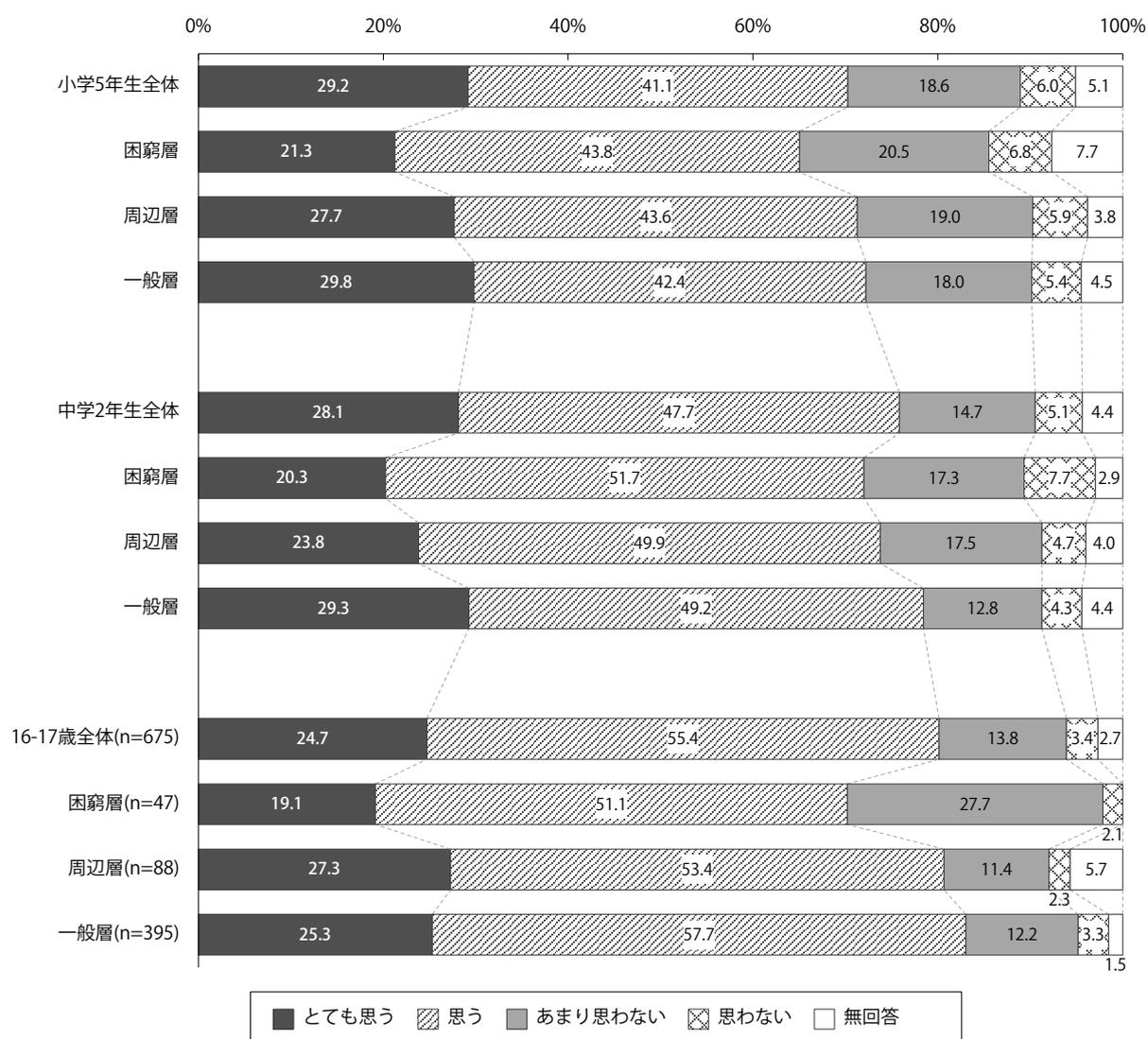


## D 自分は友だちに好かれていると思う

【子ども票】

子どもの自己肯定感、自分は友だちに好かれていると思うかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で65.1%、周辺層で71.3%、一般層で72.2%、中学2年生の困窮層で72.0%、周辺層で73.7%、一般層で78.5%、16-17歳の困窮層で70.2%、周辺層で80.7%、一般層で83.0%となっている。どの年齢層でも、生活困難度が高いほど友だちに好かれていると思う割合が低くなる。

問31 思いや気持ちについて／D 自分は友だちに好かれていると思う

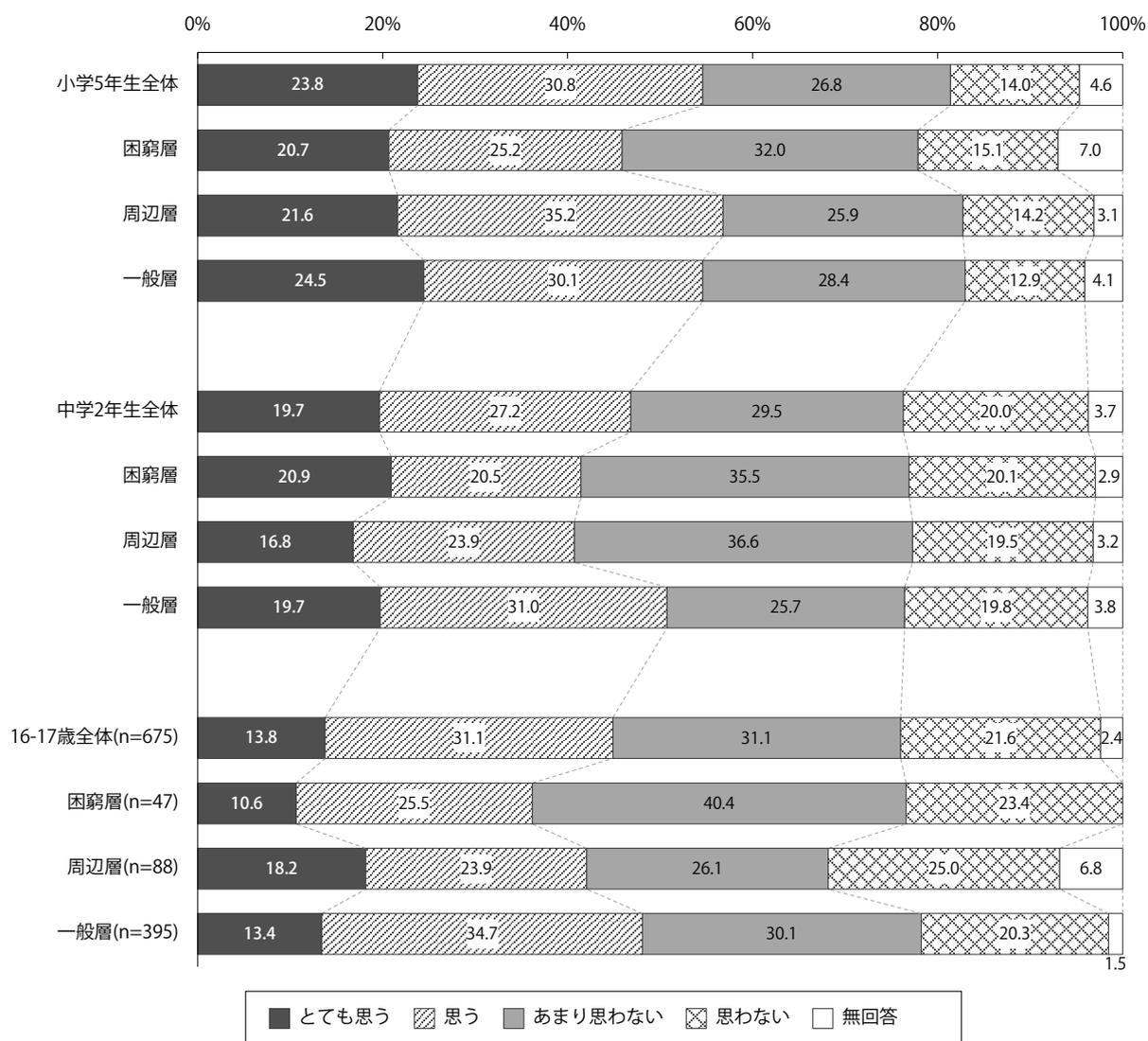


### E 不安に感じることはないと思う

【子ども票】

子どもの自己肯定感、不安に感じることはないと思うかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で45.9%、周辺層で56.8%、一般層で54.6%、中学2年生の困窮層で41.4%、周辺層で40.7%、一般層で50.7%、16-17歳の困窮層で36.1%、周辺層で42.1%、一般層で48.1%となっている。年齢の上がった16-17歳において生活困難度との相関がみられ、生活困難度が高いほど不安感に対して平静な気持ちをもてる割合が低くなる。

問31 思いや気持ちについて/E 不安に感じることはないと思う

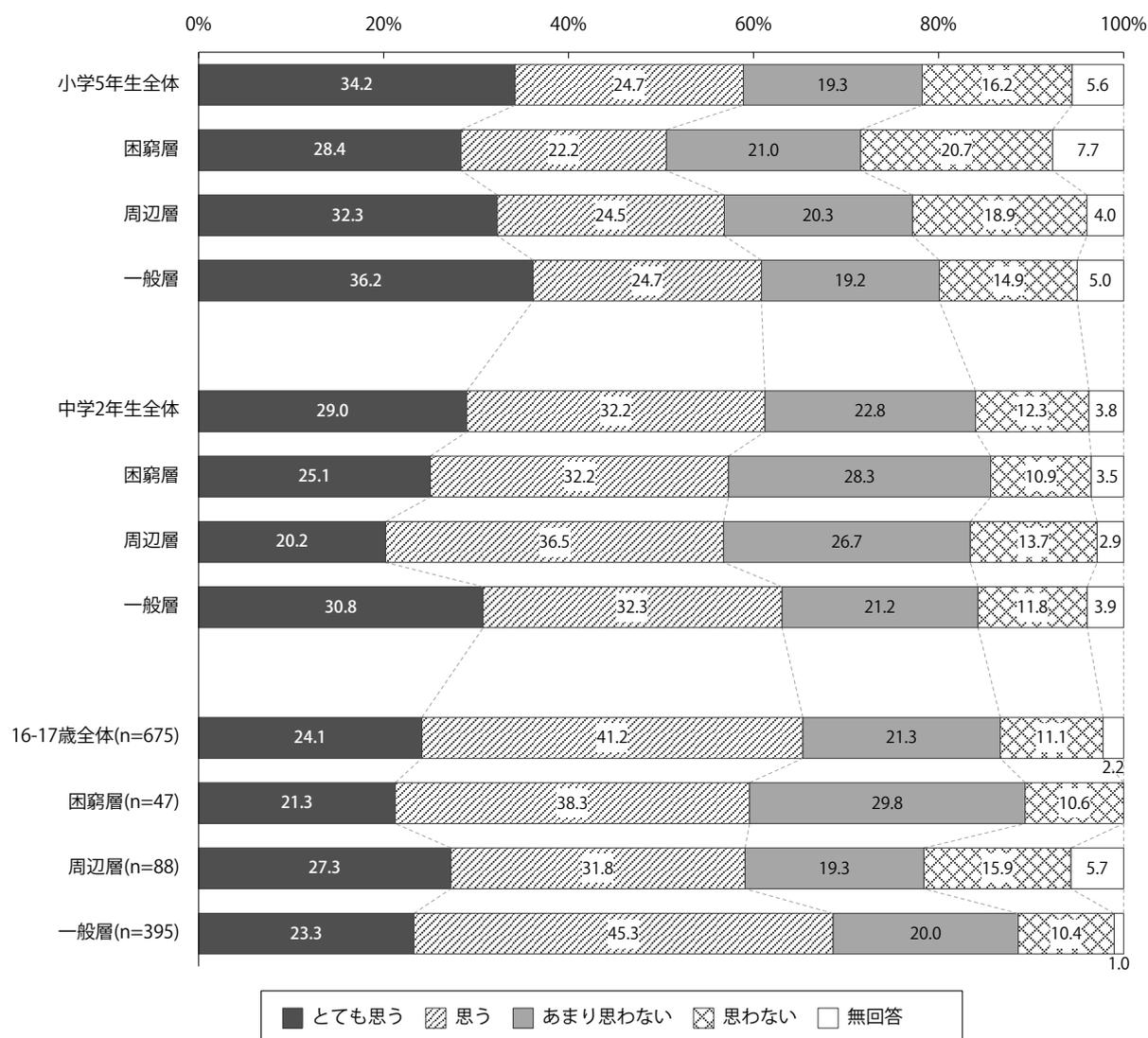


## F 孤独を感じることはない

【子ども票】

子どもの自己肯定感、孤独を感じることはないかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で50.6%、周辺層で56.8%、一般層で60.9%、中学2年生の困窮層で57.3%、周辺層で56.7%、一般層で63.1%、16-17歳の困窮層で59.6%、周辺層で59.1%、一般層で68.6%となっている。小学5年生において生活困難度との相関がみられ、年齢の低い子どもでは生活困難度が孤独感に影響を与えている可能性がうかがえる。

問31 思いや気持ちについて／F 孤独を感じることはない

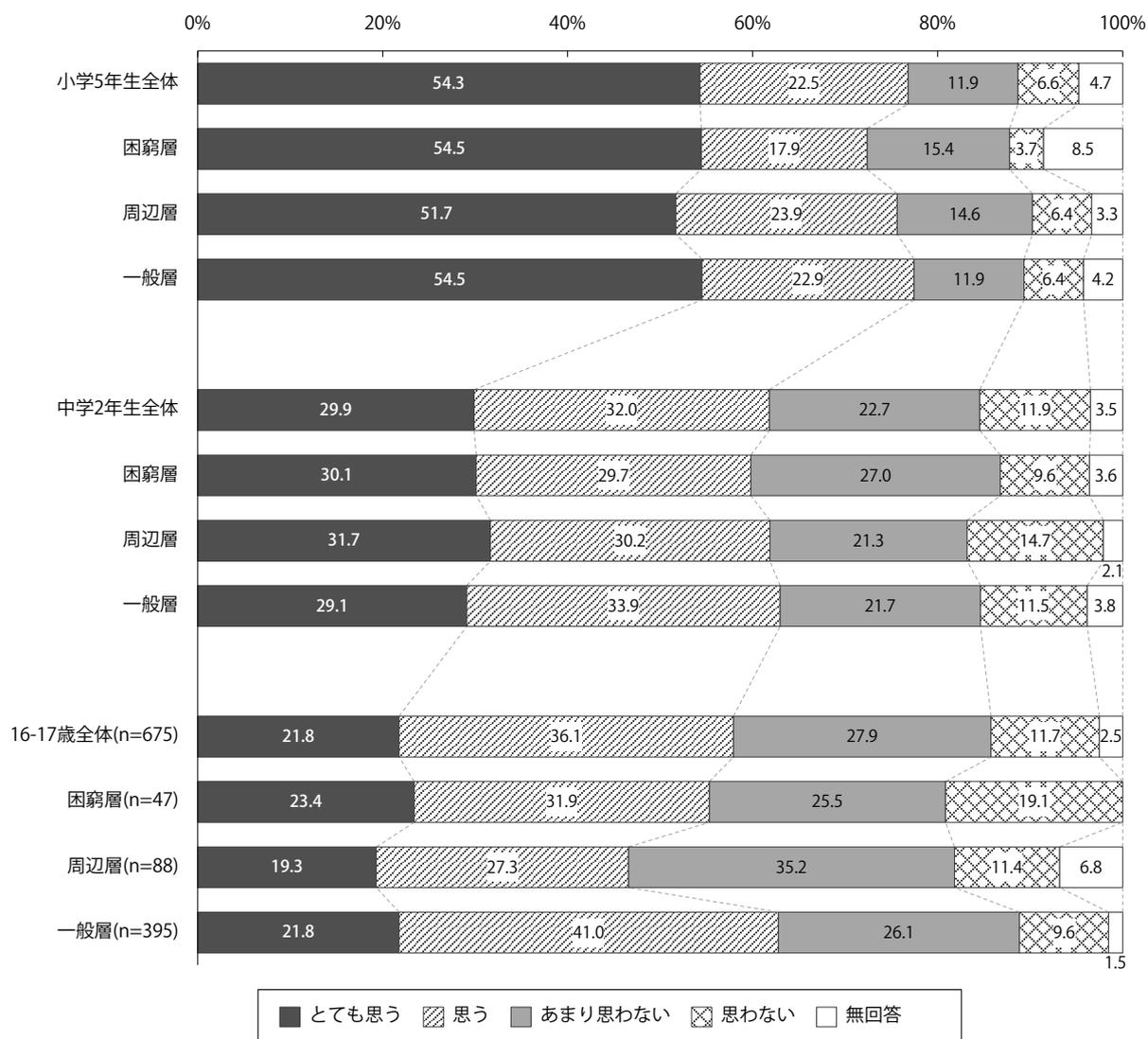


### G 自分の将来が楽しみだ

【子ども票】

子どもの自己肯定感、自分の将来が楽しみかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で72.4%、周辺層で75.6%、一般層で77.4%、中学2年生の困窮層で59.8%、周辺層で61.9%、一般層で63.0%、16-17歳の困窮層で55.3%、周辺層で46.6%、一般層で62.8%となっている。小学5年生と中学2年生において生活困難度との相関がみられ、生活困難度が高いほど自分の将来を楽しみにする割合が低くなる。

問31 思いや気持ちについて／G 自分の将来が楽しみだ

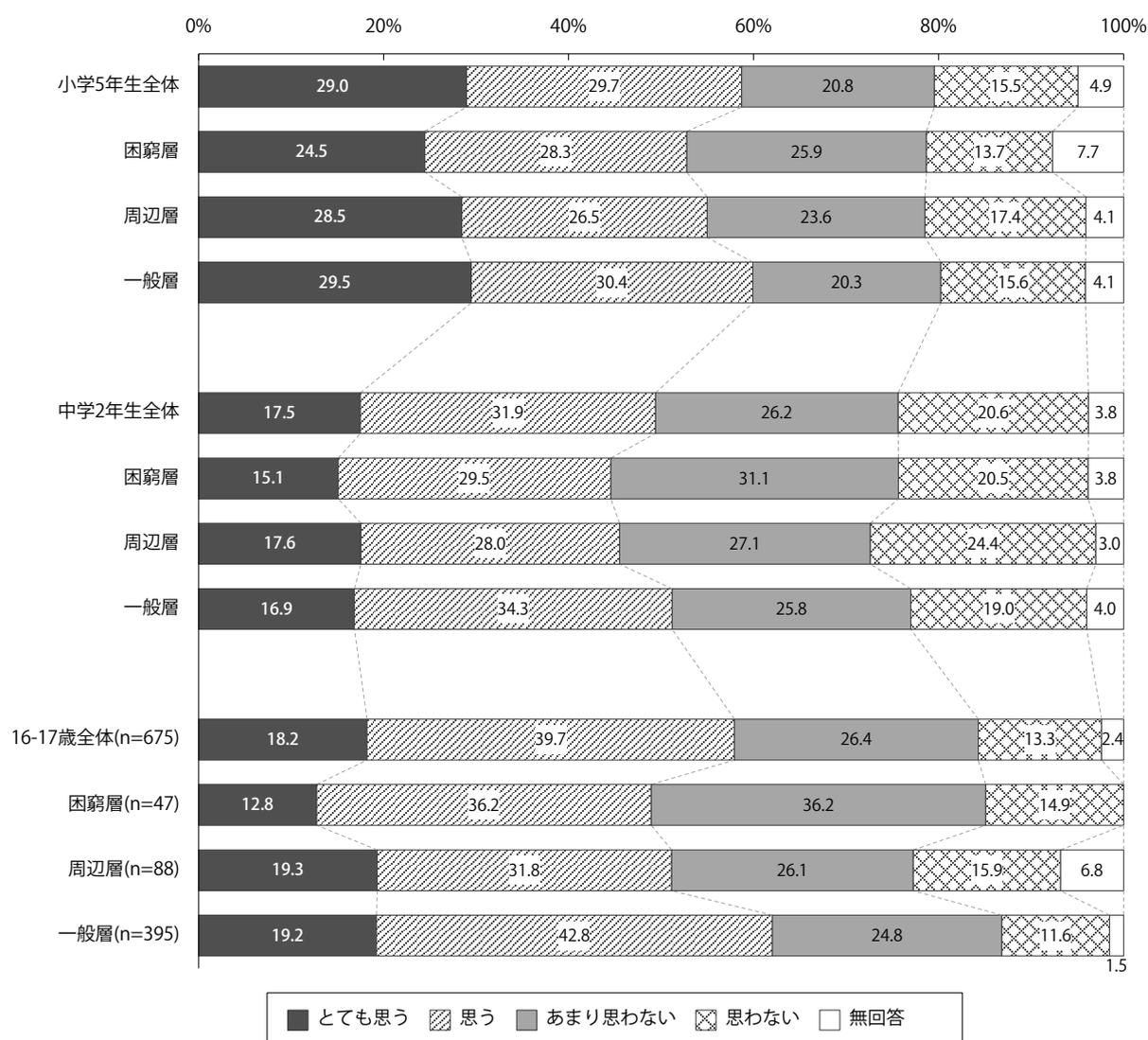


## H 自分のことが好きだ

【子ども票】

子どもの自己肯定感、自分のことが好きかどうかについて、「とても思う」「思う」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で52.8%、周辺層で55.0%、一般層で59.9%、中学2年生の困窮層で44.6%、周辺層で45.6%、一般層で51.2%、16-17歳の困窮層で49.0%、周辺層で51.1%、一般層で62.0%となっている。どの年齢層においても生活困難度との相関がみられ、生活困難度が高いほど自分のことを好きだと思える割合が低くなる。

問31 思いや気持ちについて／H 自分のことが好きだ

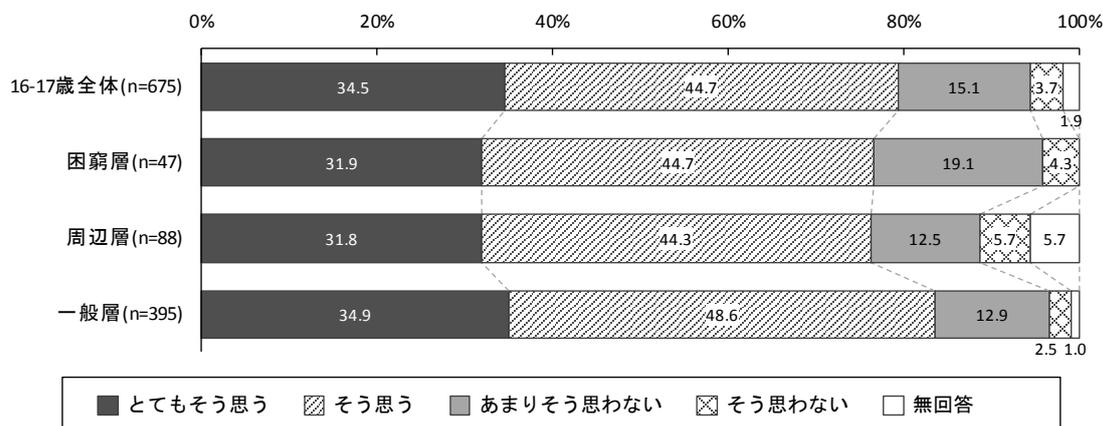


## H 毎日の生活が楽しい（16-17歳のみ）

【子ども票】

16-17歳の、毎日の生活が楽しいかどうかについて、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせた割合は、困窮層で76.6%、周辺層で76.1%、一般層で83.5%となっており、一般層で高くなっている。

問38 思いや気持ちについて／毎日の生活が楽しい

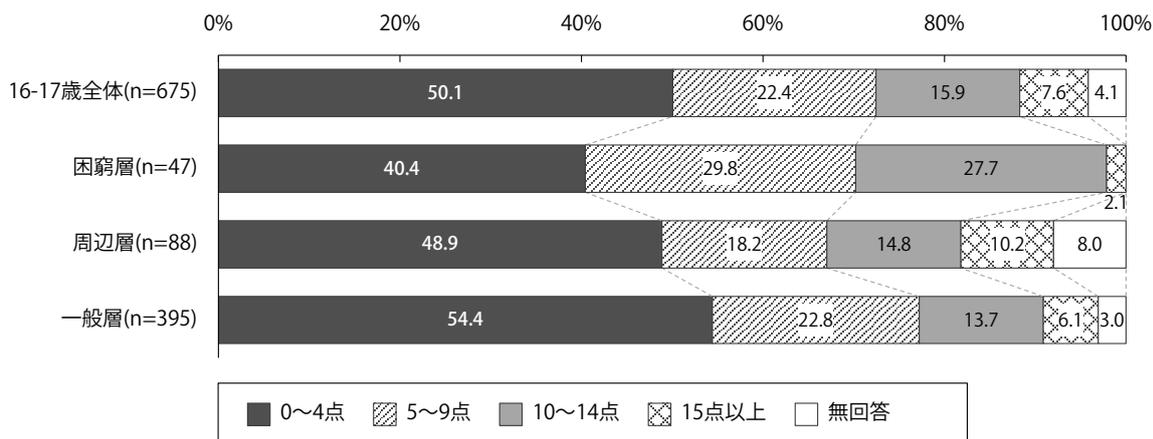


## (2) 抑うつ傾向

【子ども票】

一般的にうつ傾向をはかる指標として普及している K6 指標を用いて 16-17 歳本人の抑うつ傾向を計った。抑うつ傾向がないと判断できる「0~4点」は、困窮層で40.4%、周辺層で48.9%、一般層で54.4%となっている。生活困難度との明確な相関がみられる。

問39 直近1か月での経験



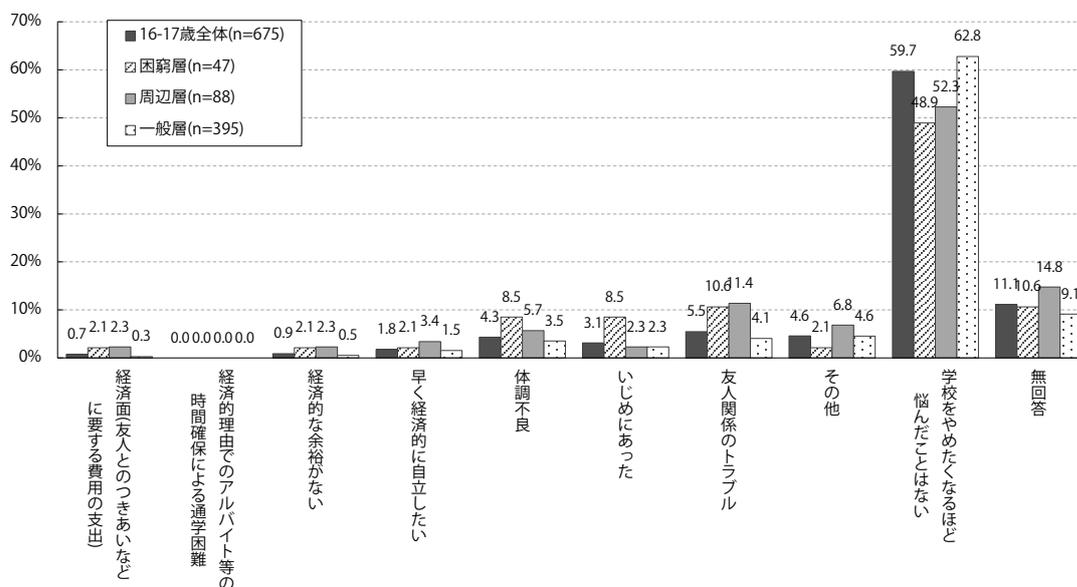
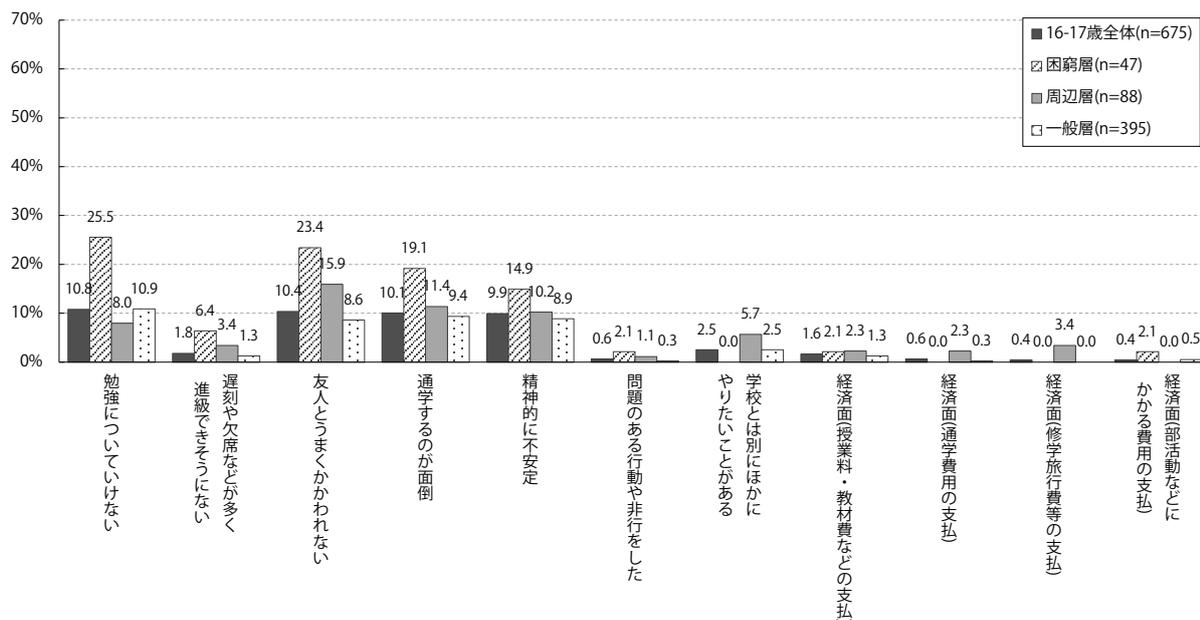
【参考】 K6における6つの設問：直近1か月で以下を感じたかどうかを「いつも／たいてい／ときどき／少しだけ／全くない」の5段階で回答してもらう。  
 A 神経過敏に感じましたか  
 B 絶望的だと感じましたか  
 C そわそわ、落ち着かなく感じましたか  
 D 気分が沈み込んで、何が起っても気が晴れないように感じましたか  
 E 何をするのも骨折りと感じましたか  
 F 自分は価値のない人間だと感じましたか

## (3) 学校をやめたくなくなるほどの悩み

【子ども票】

学校をやめたくなくなるほど、悩んだ理由について、いずれの層でも最も多いのは「学校をやめたくなくなるほど悩んだことはない」となっている。困窮層において他の層と5ポイント程度以上の差で最も大きな割合を示しているものは「勉強についていけない」「友人とうまくかかわれない」「通学するのが面倒」「精神的に不安定」「いじめにあった」となっている。

問40 学校をやめたくなくなるほど、悩んだ理由

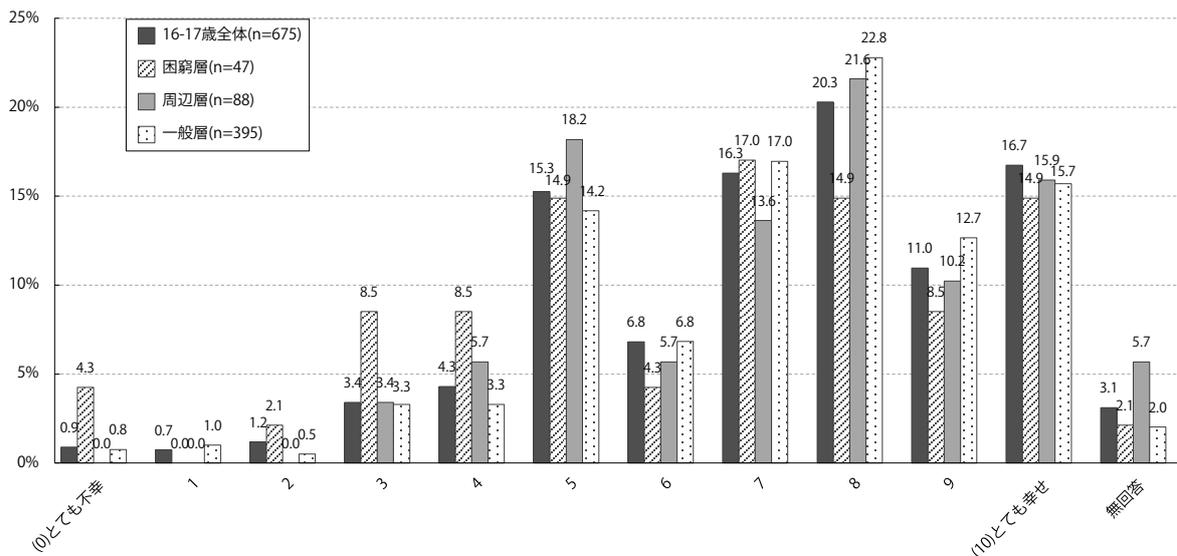


### (4) 幸福度

【子ども票】

この1年を振り返っての幸福度を、10段階で回答してもらった。中央の「5」よりも小さい「0」（とても不幸）、「2」「3」「4」で、困窮層が最も高い割合を示している。

問41 この1年を振り返っての幸福度



## 第9章 保護者の状況

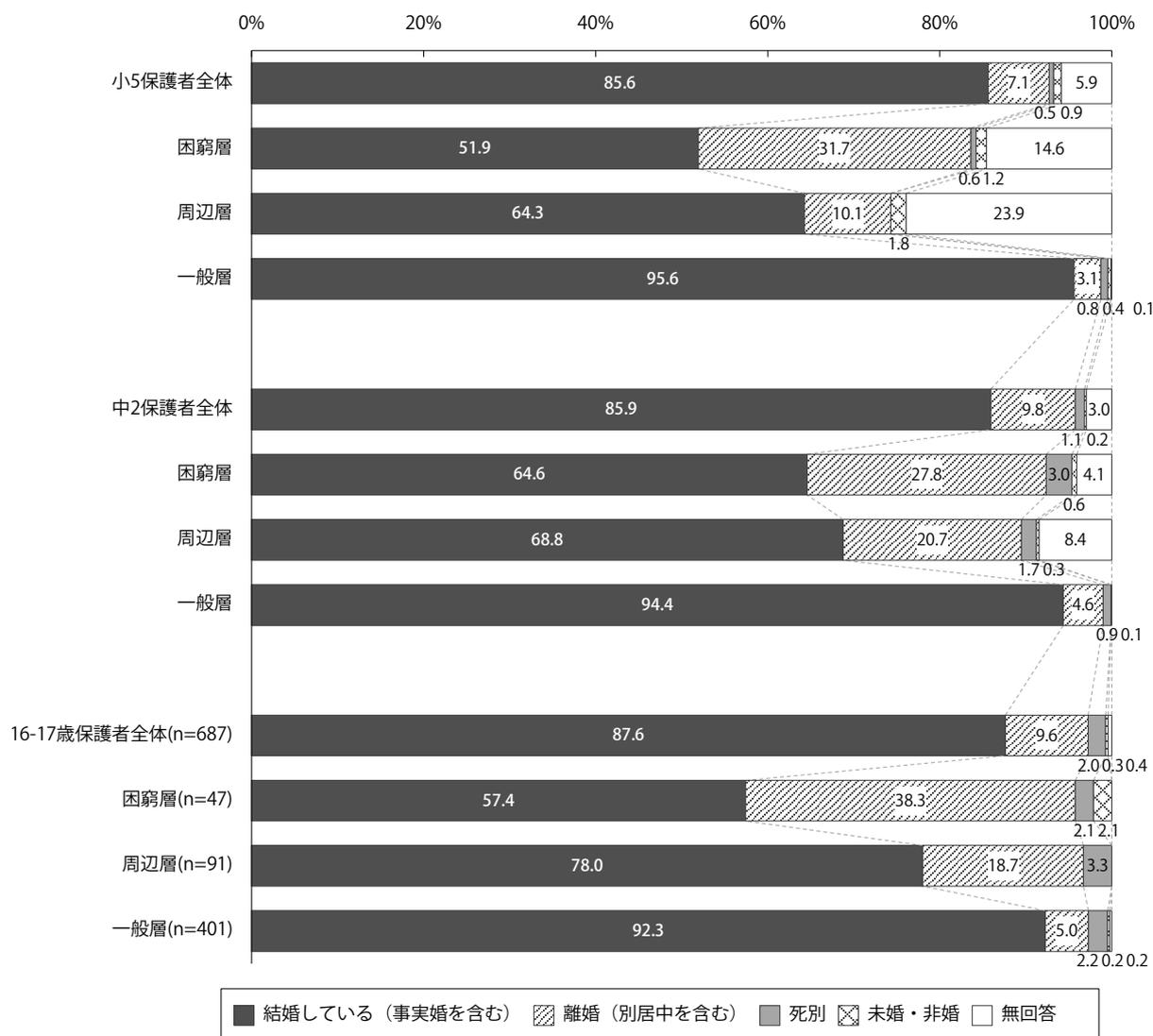
### 1 回答者の状況

#### (1) 婚姻状況

【保護者票】

保護者の婚姻状況について、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で51.9%、周辺層で64.3%、一般層で95.6%、中学2年生の困窮層で64.6%、周辺層で68.8%、一般層で94.4%、16-17歳の困窮層で57.4%、周辺層で78.0%、一般層で92.3%となっている。生活困難度との明確な相関がみられる。

#### 問3 婚姻状況

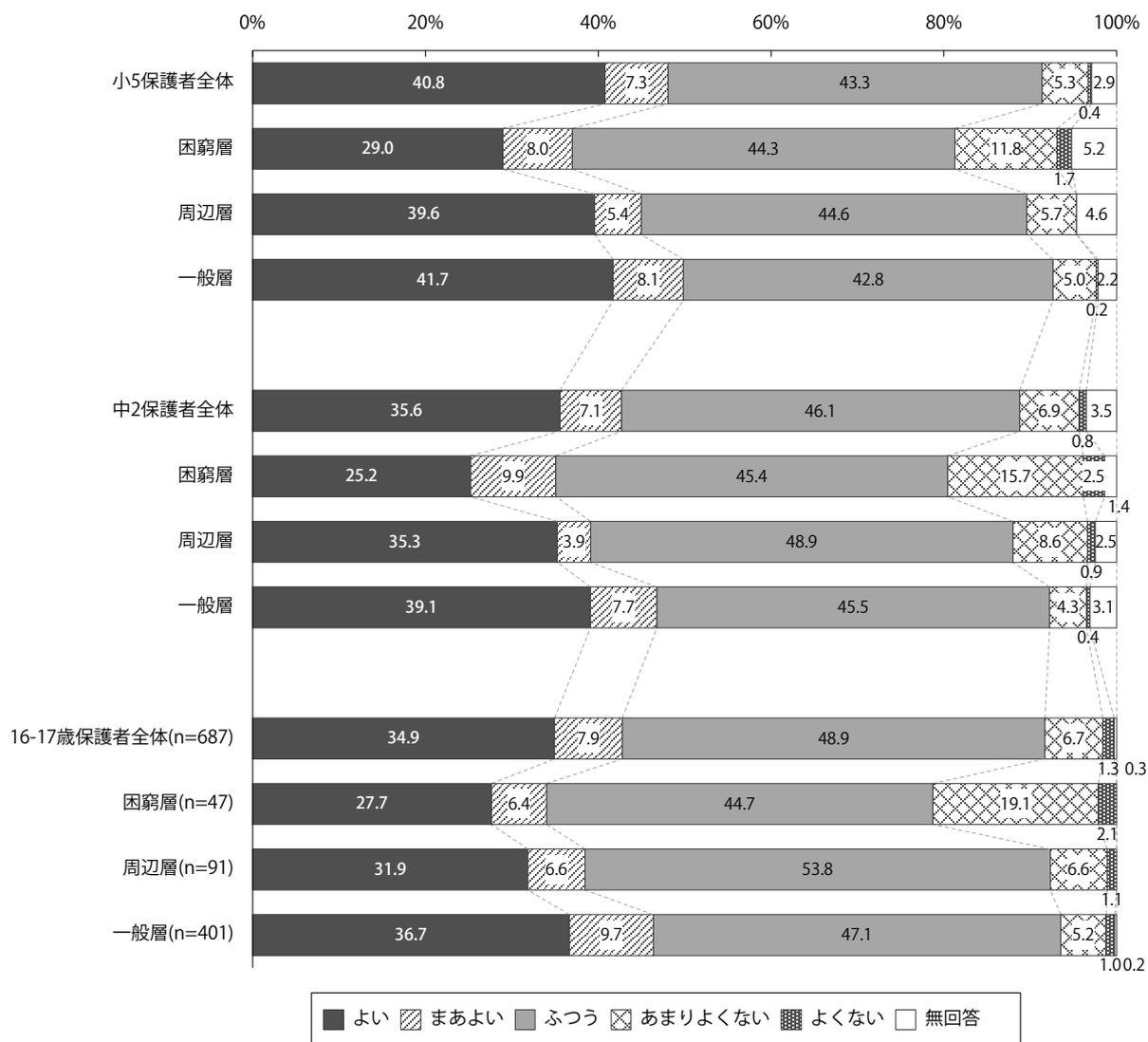


(2) 健康状態

【保護者票】

保護者の主観的な健康状況について、「よい」「まあよい」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で37.0%、周辺層で45.0%、一般層で49.8%、中学2年生の困窮層で35.1%、周辺層で39.2%、一般層で46.8%、16-17歳の困窮層で34.1%、周辺層で38.5%、一般層で46.4%となっている。生活困難度との明確な相関がみられる。

問15-1 健康状態／保護者

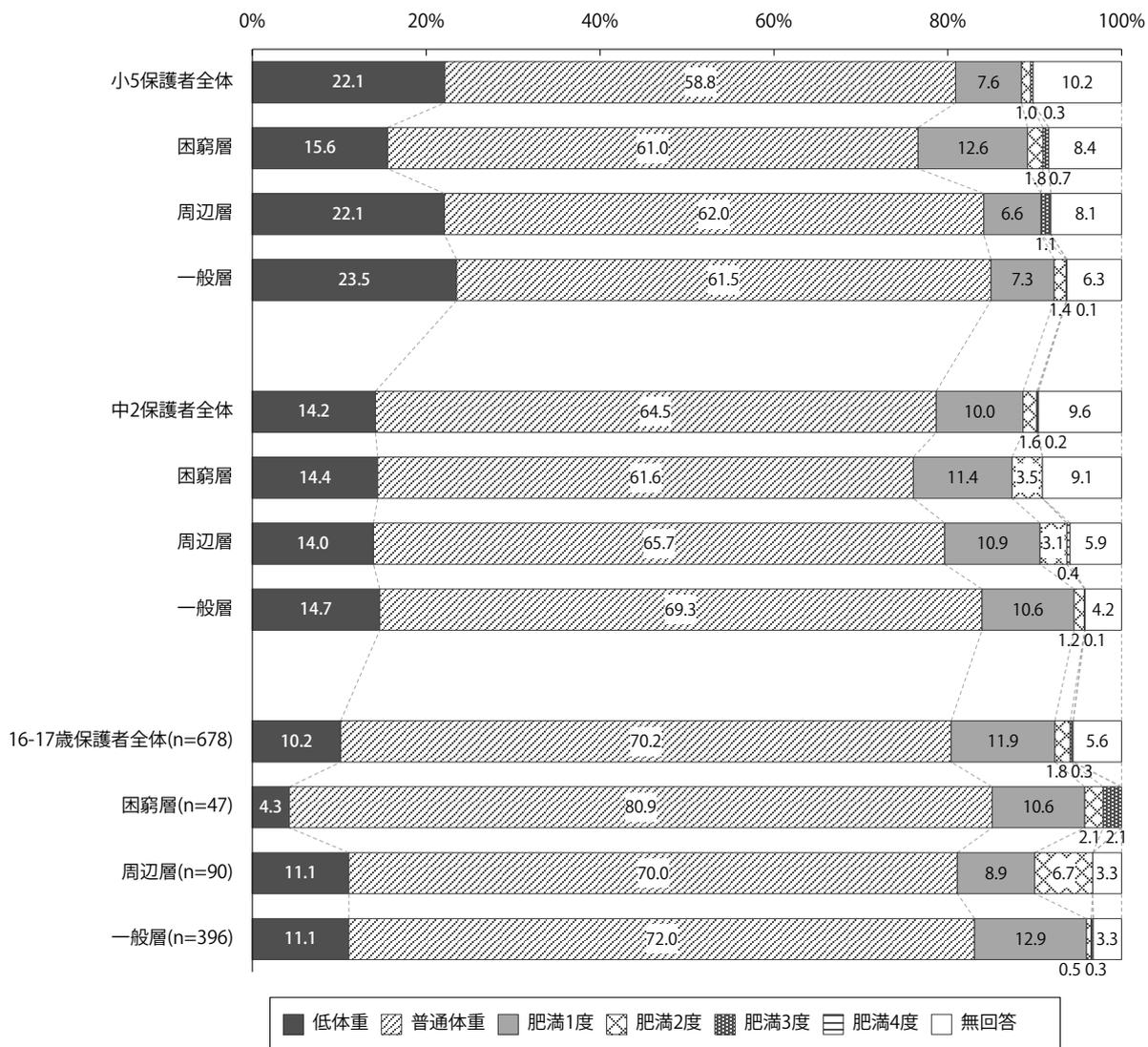


### (3) 肥満度

【保護者票】

保護者の身長・体重からBMIを算出した結果、16-17歳の困窮層で「肥満3度」が2.1%みられた。

問14 身長・体重

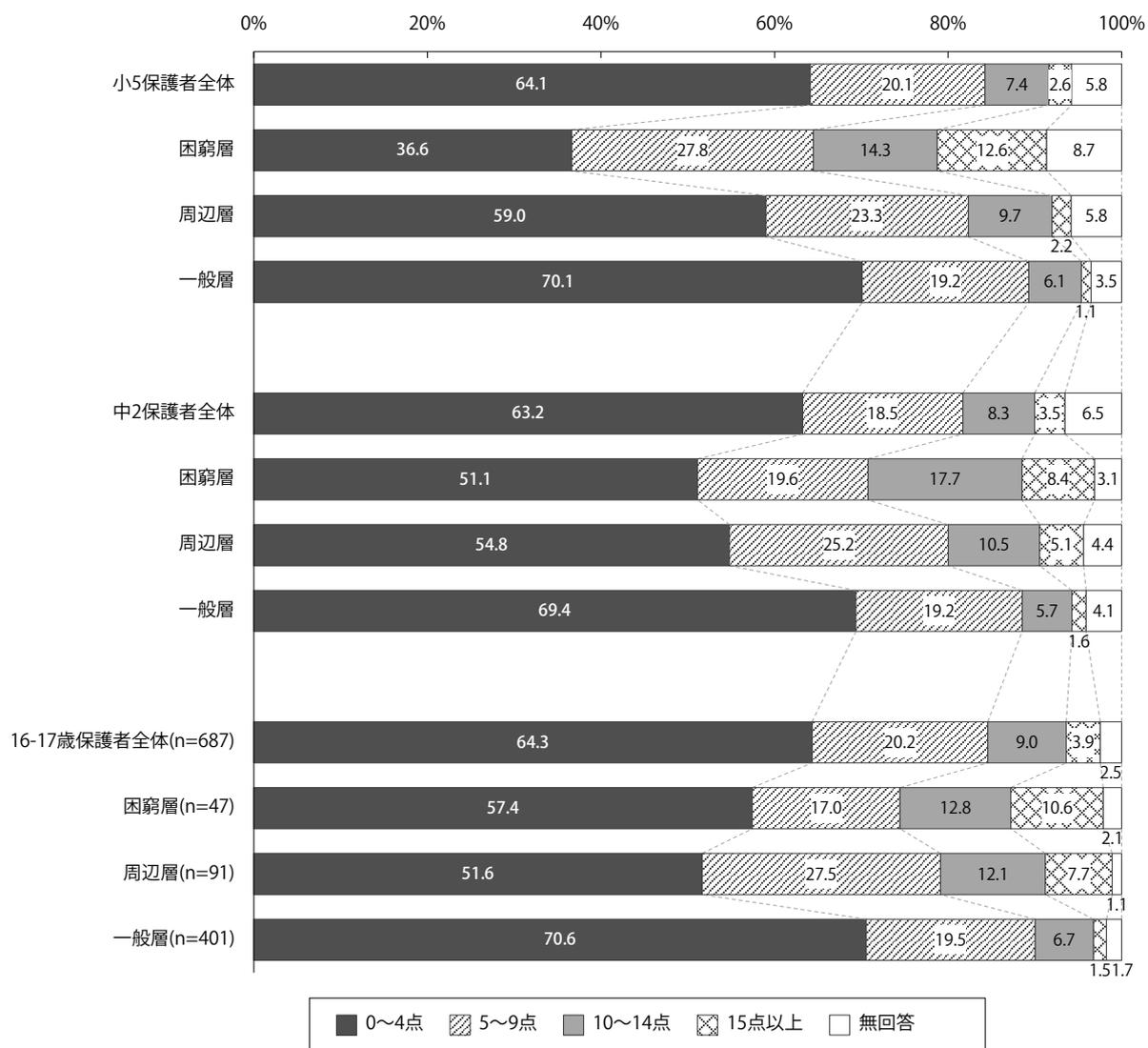


### (4) 抑うつ傾向

【保護者票】

一般的にうつ傾向をはかる指標として普及しているK6指標を用いて保護者(回答者)の抑うつ傾向を計った結果、抑うつ傾向がないと判断できる「0~4点」は、小学5年生の困窮層で36.6%、周辺層で59.0%、一般層で70.1%、中学2年生の困窮層で51.1%、周辺層で54.8%、一般層で69.4%、16-17歳の困窮層で57.4%、周辺層で51.6%、一般層で70.6%となっている。小学5年生と中学2年生で生活困難度との明確な相関がみられる。

問18 直近1か月での経験



※K6指標については、第8章「2(2)抑うつ傾向(子ども)」を参照

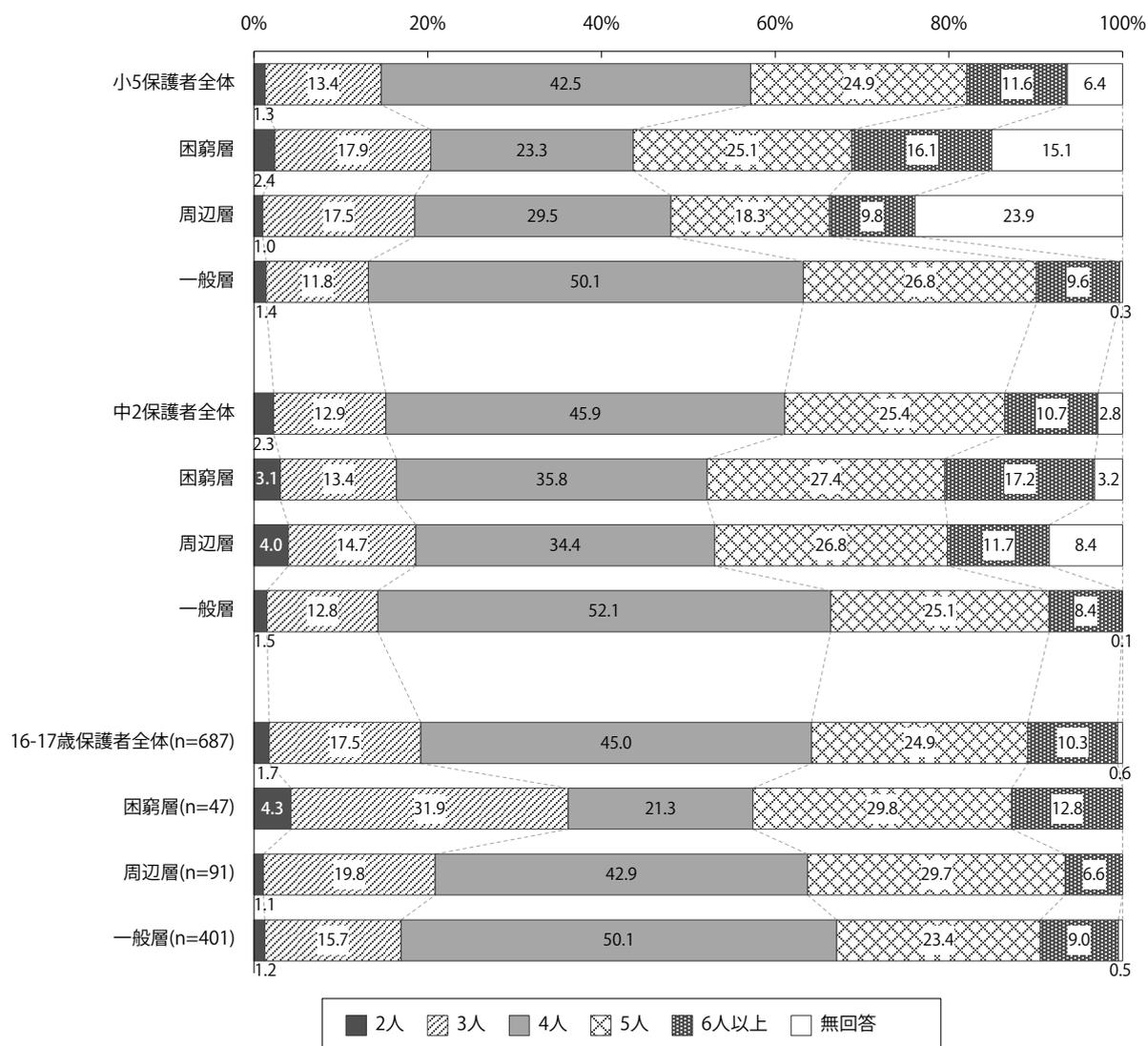
## 2 家族のこと

## (1) 同居人数

【保護者票】

子どもも含む同居家族の人数はいずれの年齢層においても「4人」が最も多い割合となっている。16-17歳の困窮層では、「2人」が4.3%、「3人」が31.9%となっており、いずれも他の年齢層や生活困難度の層と比べて割合が高くなっている。また、「6人以上」は、いずれの年齢層でも困窮層でその割合が高くなっている。

## 問4 同居人数



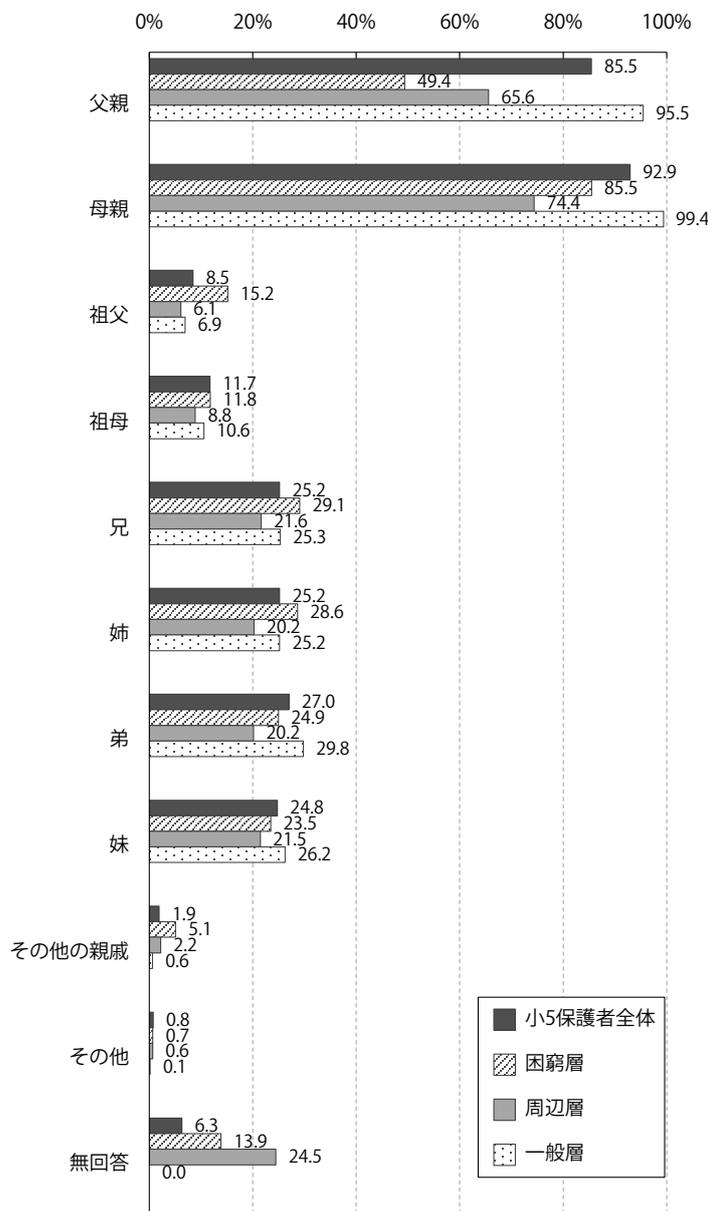
(2) 世帯構成

【保護者票】

小学5年生では、困窮層の「父親」が49.4%と、周辺層、一般層と比べて割合が低くなっている。父親の同居の有無と生活困難度との相関がみられる。

問5 同居している家族

小学5年生



【再掲】回答者の基本属性／(5)世帯タイプ

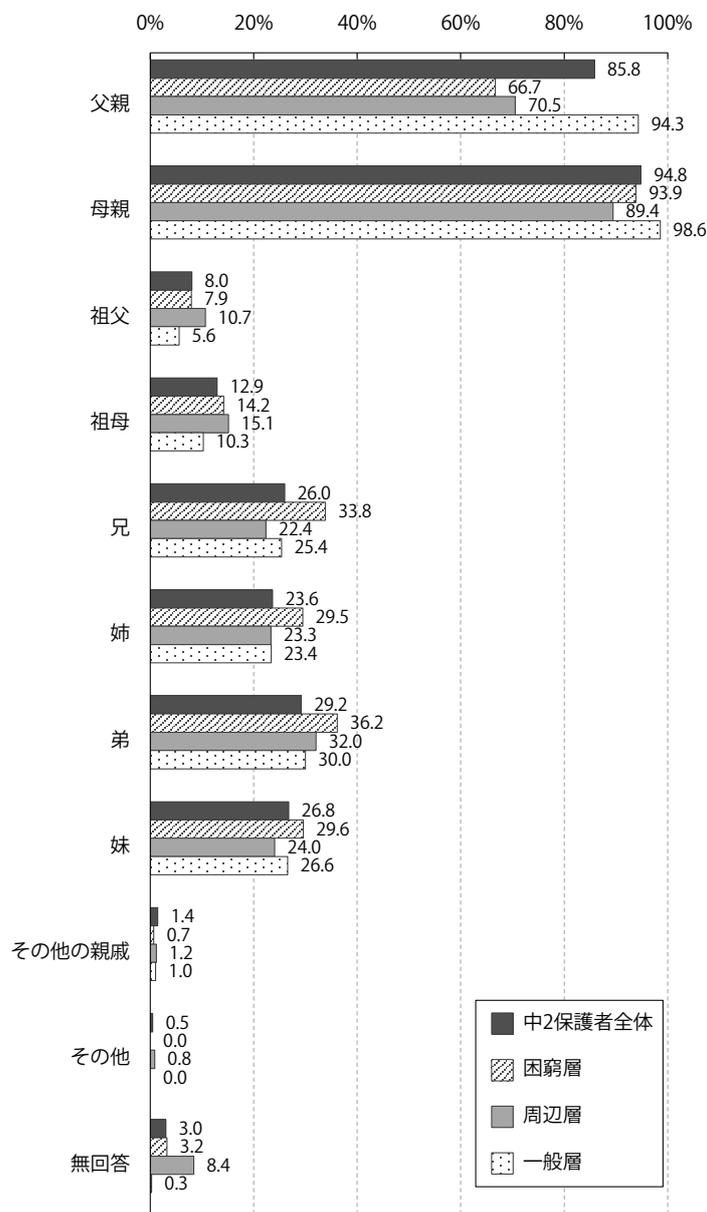
	ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
	二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
小学5年生	1507	207	121	57	2	4	117	2015
	74.8%	10.3%	6.0%	2.8%	0.1%	0.2%	5.8%	100.0

## 【保護者票】

中学2年生では、困窮層の「父親」が66.7%と、周辺層、一般層と比べて割合が低くなっている。父親の同居の有無と生活困難度との相関がみられる。

## 問5 同居している家族

## 中学2年生



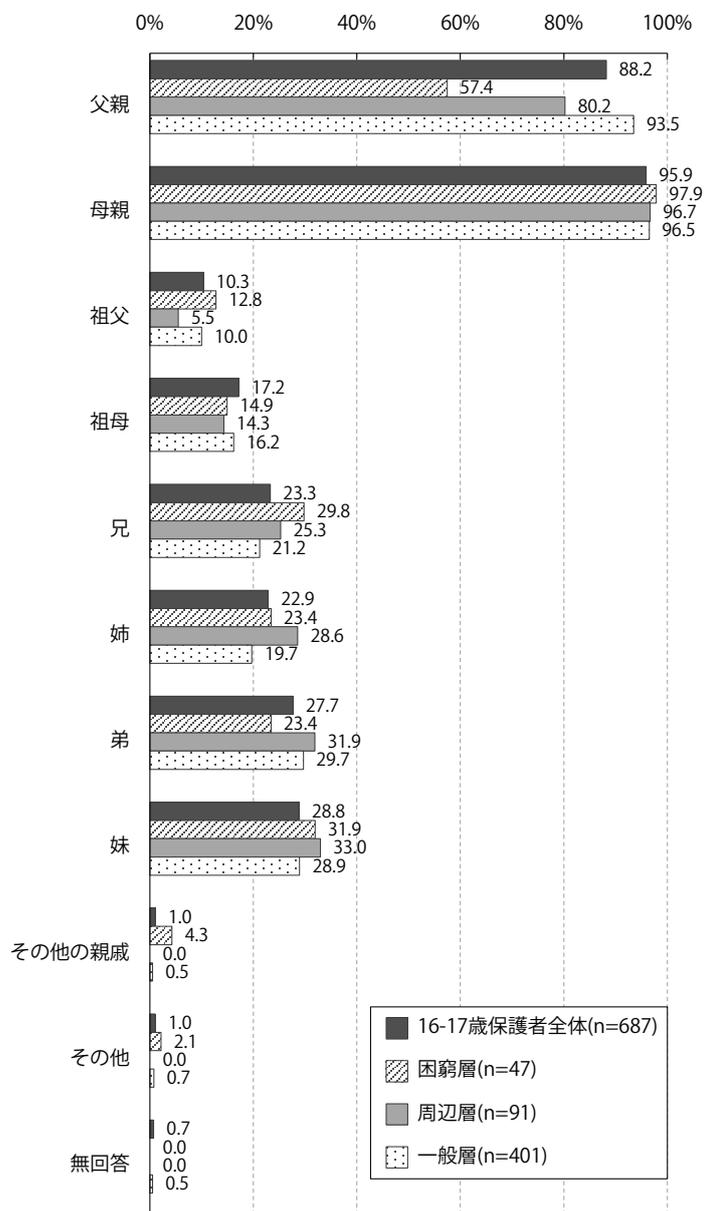
## 【再掲】回答者の基本属性／(5)世帯タイプ

	ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
	二世代	三世代	二世代	三世代				
中学2年生	1408	200	180	62	6	7	55	1918
	73.4%	10.4%	9.4%	3.2%	0.3%	0.4%	2.9%	100.0%

16-17歳では、困窮層の「父親」が57.4%と、周辺層、一般層と比べて割合が低くなっている。父親の同居の有無と生活困難度との相関がみられる。

問6 同居している家族

16-17歳



【再掲】回答者の基本属性／(5)世帯タイプ

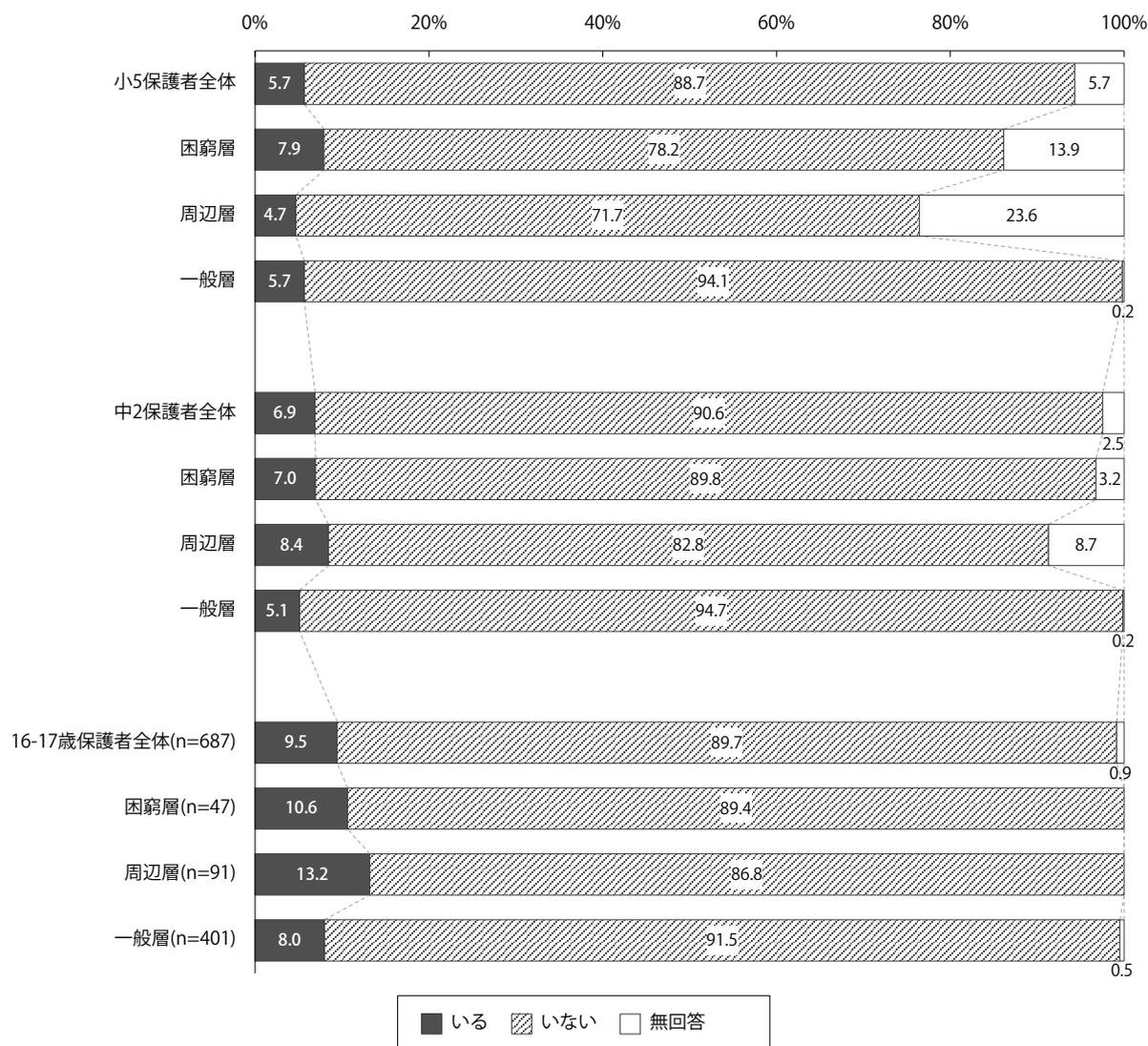
	ふたり親		ひとり親		親がいない世帯	施設	無回答	合計
	二世帯	三世帯	二世帯	三世帯				
16-17歳	489	99	65	27	7	0	0	687
	71.2%	14.4%	9.5%	3.9%	1.0%	0.0%	0.0%	100.0%

## (3) 介護が必要な同居家族の有無

【保護者票】

介護が必要な同居家族の有無については、「いない」が各層で最も多い。「いる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で7.9%、周辺層で4.7%、一般層で5.7%、中学2年生の困窮層で7.0%、周辺層で8.4%、一般層で5.1%、16-17歳の困窮層で10.6%、周辺層で13.2%、一般層で8.0%となっている。

## 問6 介護が必要な同居家族の有無

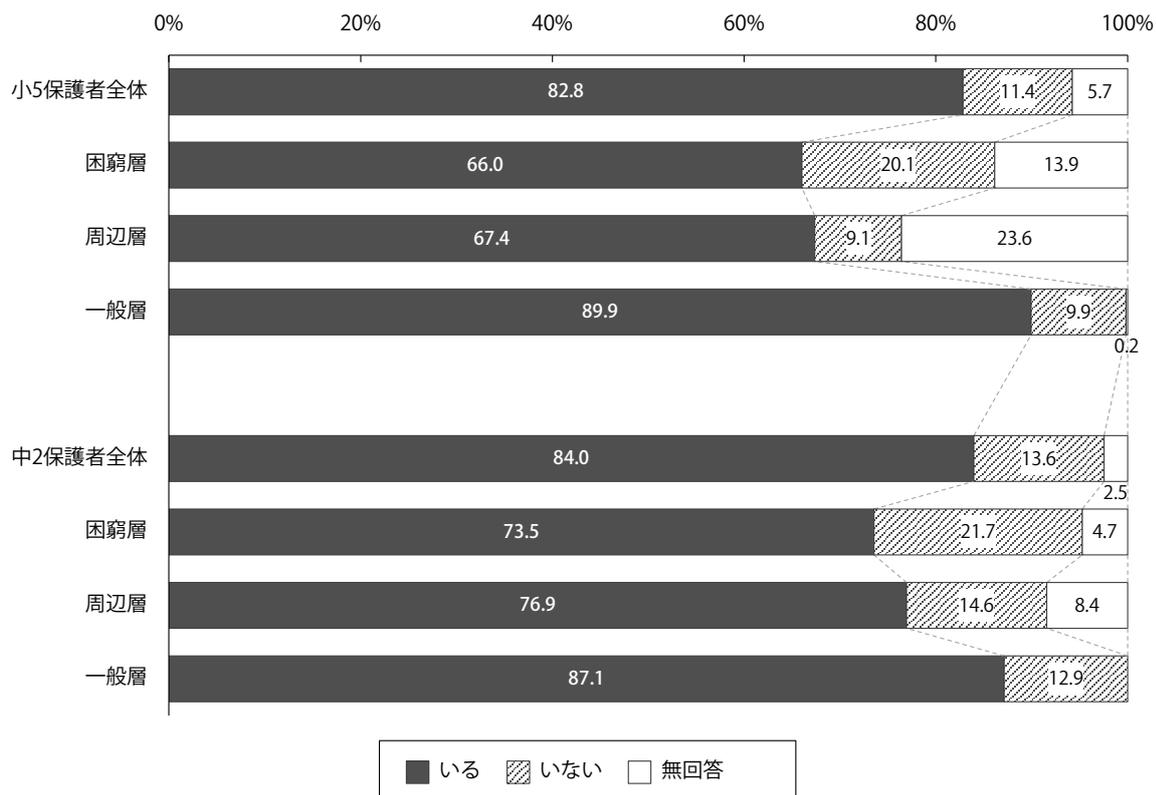


### (4) 頼れる親族・友人の有無

【保護者票】

頼れる親族・友人の有無について、「いる」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で66.0%、周辺層で67.4%、一般層で89.9%、中学2年生の困窮層で73.5%、周辺層で76.9%、一般層で87.1%となっている。生活困難度が高いほど、頼れる親族・友人がいるとする割合が低くなっている。

問7 子どもの病気や、自身の用事するときなどに頼れる親族や友人などがあるか

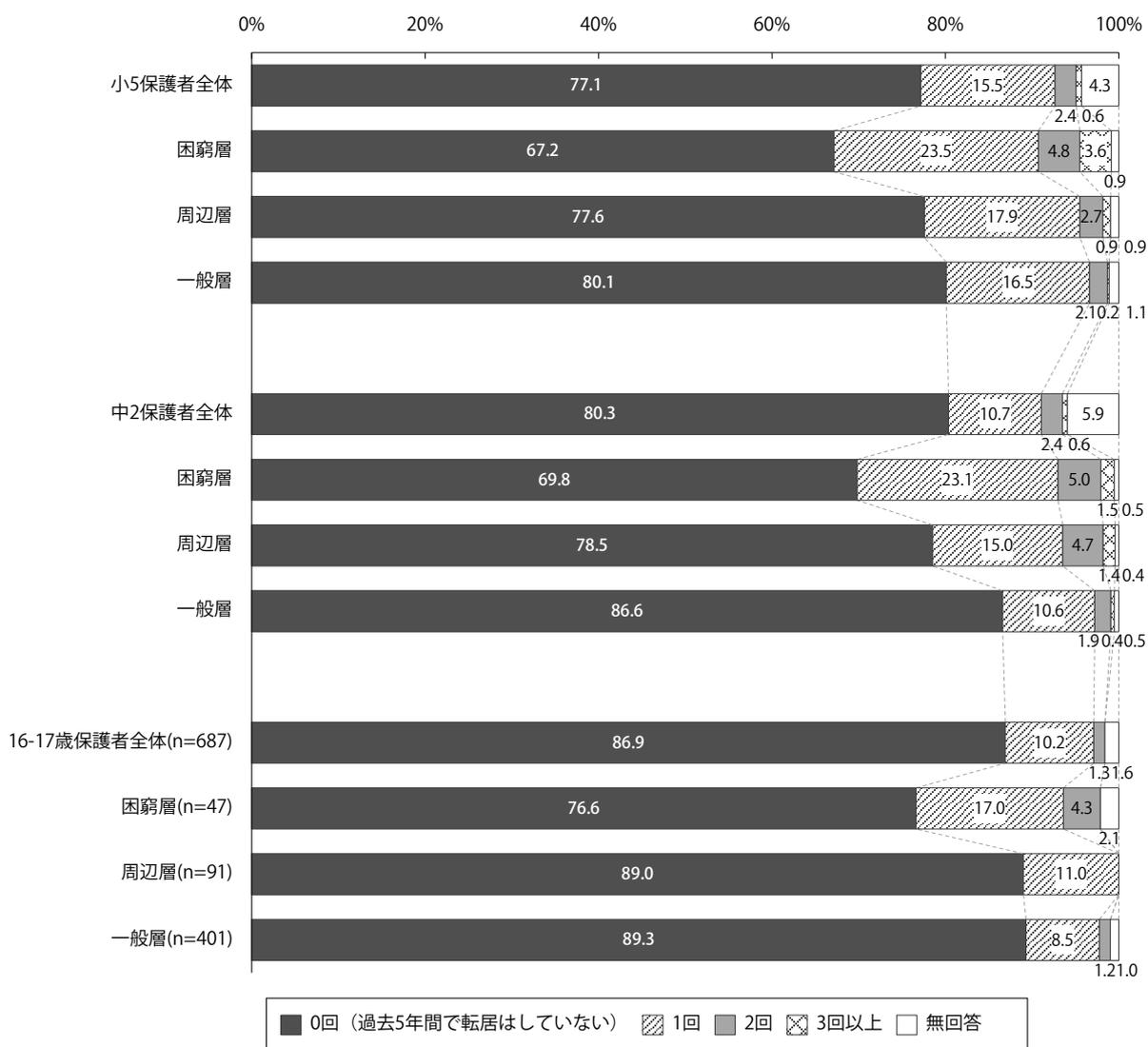


## (5) 転居経験

【保護者票】

過去5年間の転居回数について、「0回（過去5年間で転居はしていない）」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で67.2%、周辺層で77.6%、一般層で80.1%、中学2年生の困窮層で69.8%、周辺層で78.5%、一般層で86.6%、16-17歳の困窮層で76.6%、周辺層で89.0%、一般層で89.3%となっている。生活困難度が高いほど、5年以内に転居をしている割合が高い。

問32 過去5年間の転居回数

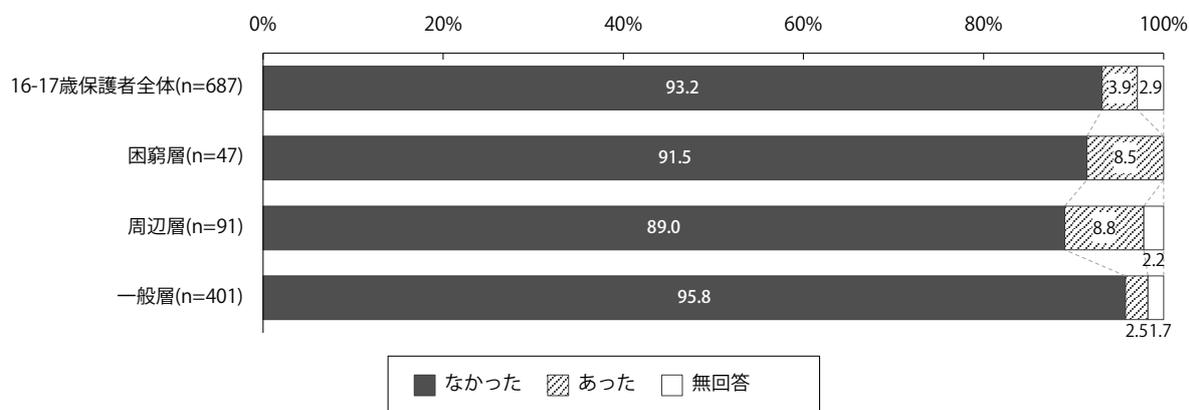


### (6) 家計主の失業の状況

【保護者票】

16-17歳の、過去3年間の家計を主に担っている方の失業期間の有無について、「あった」と回答した割合は、困窮層で8.5%、周辺層で8.8%、一般層で2.5%となっている。

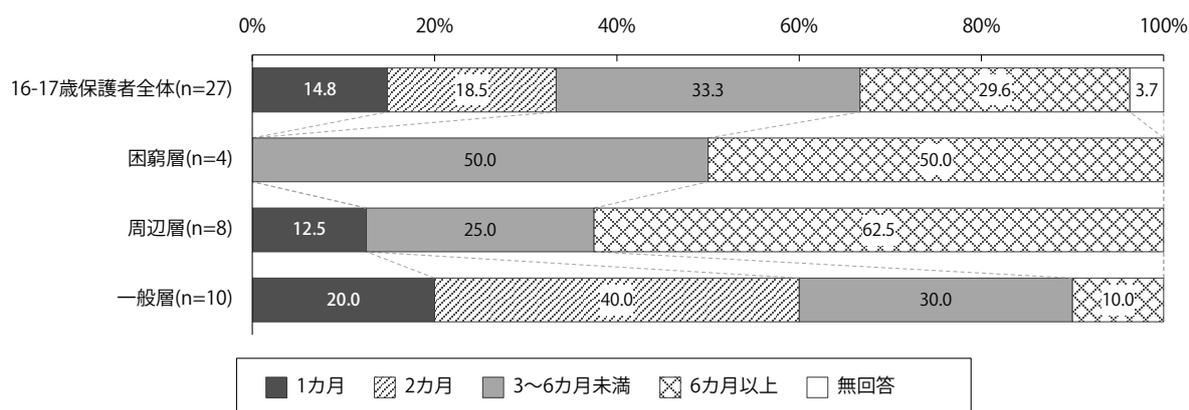
問13 過去3年間の家計を主に担っている方の失業期間の有無



【保護者票】

問13で失業期間があった場合の失業期間については、周辺層と一般層で見られる「1カ月」や一般層で見られる「2カ月」の回答が困窮層ではなく、「3~6カ月未満」が50.0%、「6カ月以上」が50.0%となっている。母数の少ない回答の中ではあるが、困窮層では相対的に失業期間が長かった傾向がみられる。

問13 失業期間



## 3 父親のこと

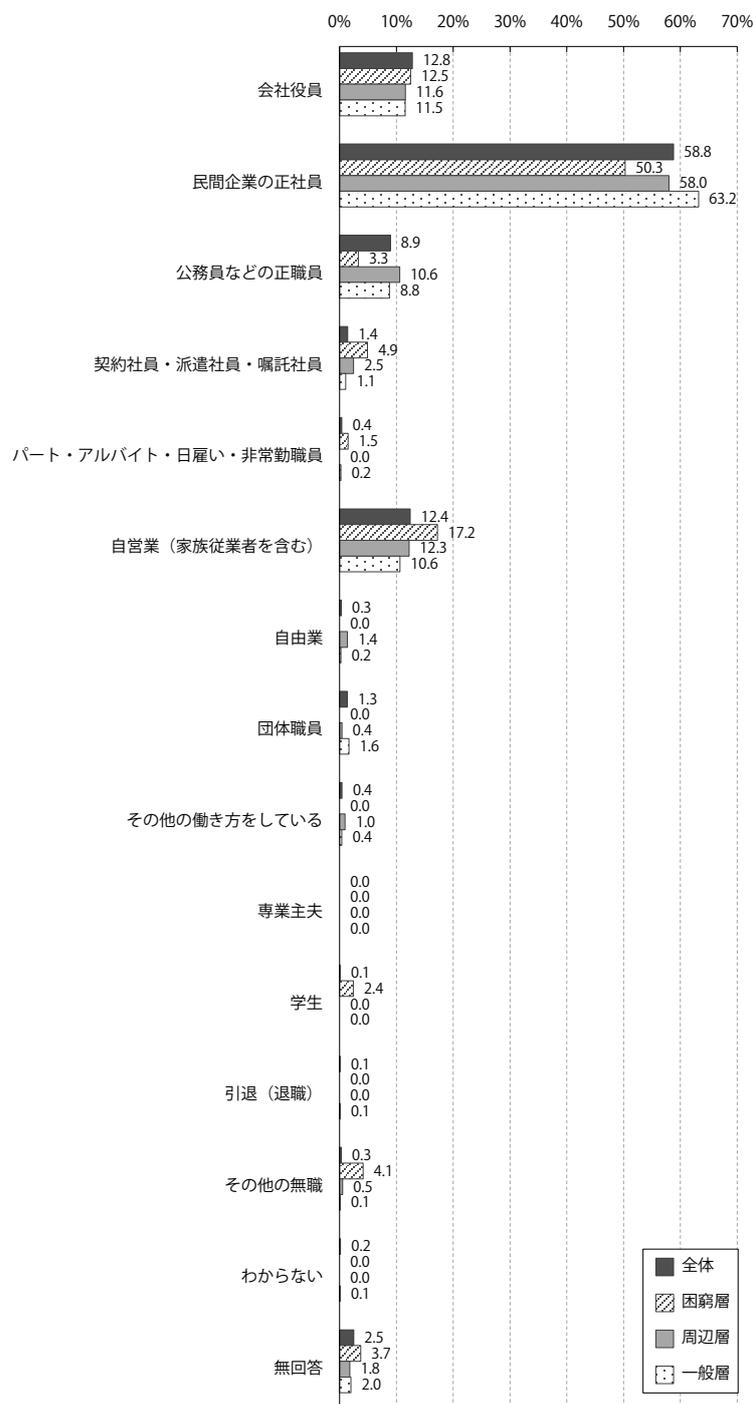
## (1) 職業

【保護者票】

小学5年生の父親の職業は、どの層でも「民間企業の正社員」が最も多い。「契約社員・派遣社員・嘱託社員」と回答した割合は、困窮層で4.9%、周辺層で2.5%、一般層で1.1%となっている。

問11 父親の現在の職業

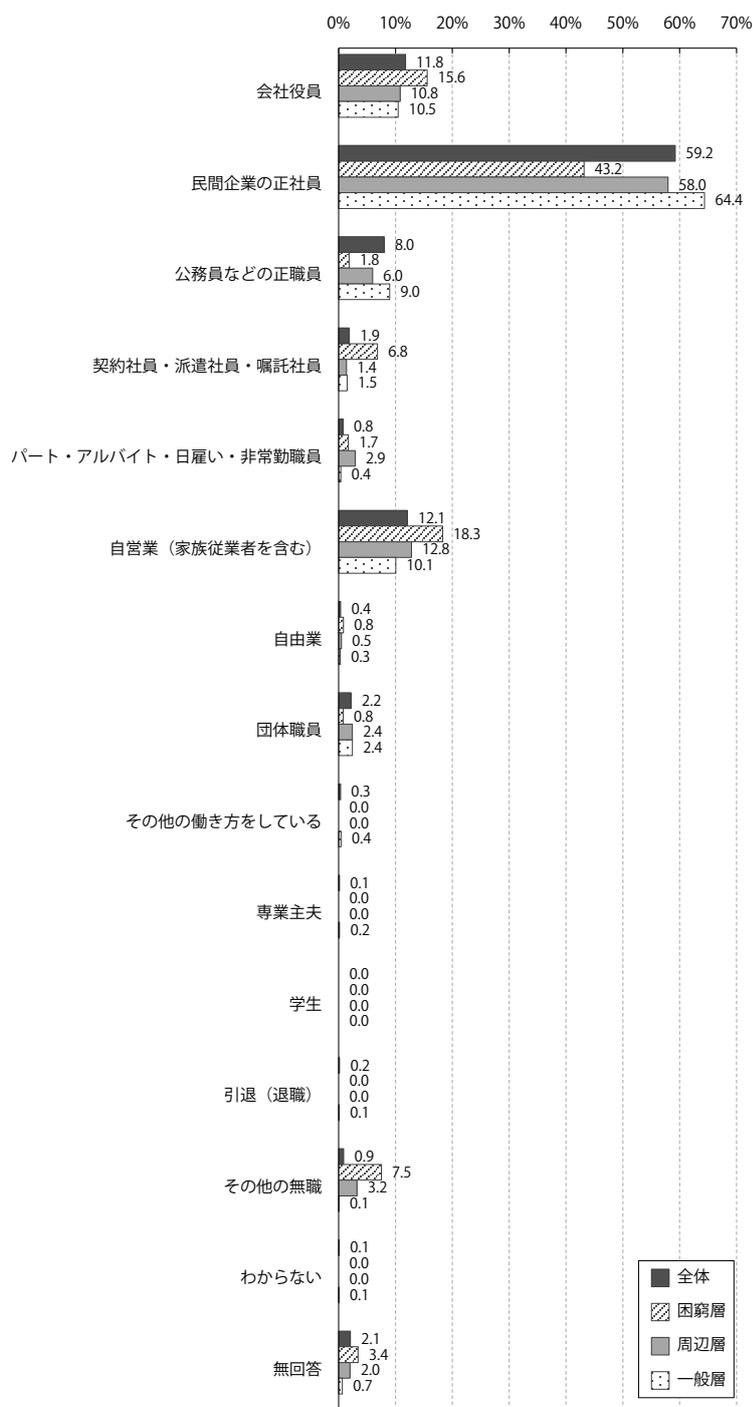
小学5年生



中学2年生の父親の職業は、どの層でも「民間企業の正社員」が最も多い。「契約社員・派遣社員・嘱託社員」と回答した割合は、困窮層で6.8%、周辺層で1.4%、一般層で1.5%となっている。

問11 父親の現在の職業

**中学2年生**

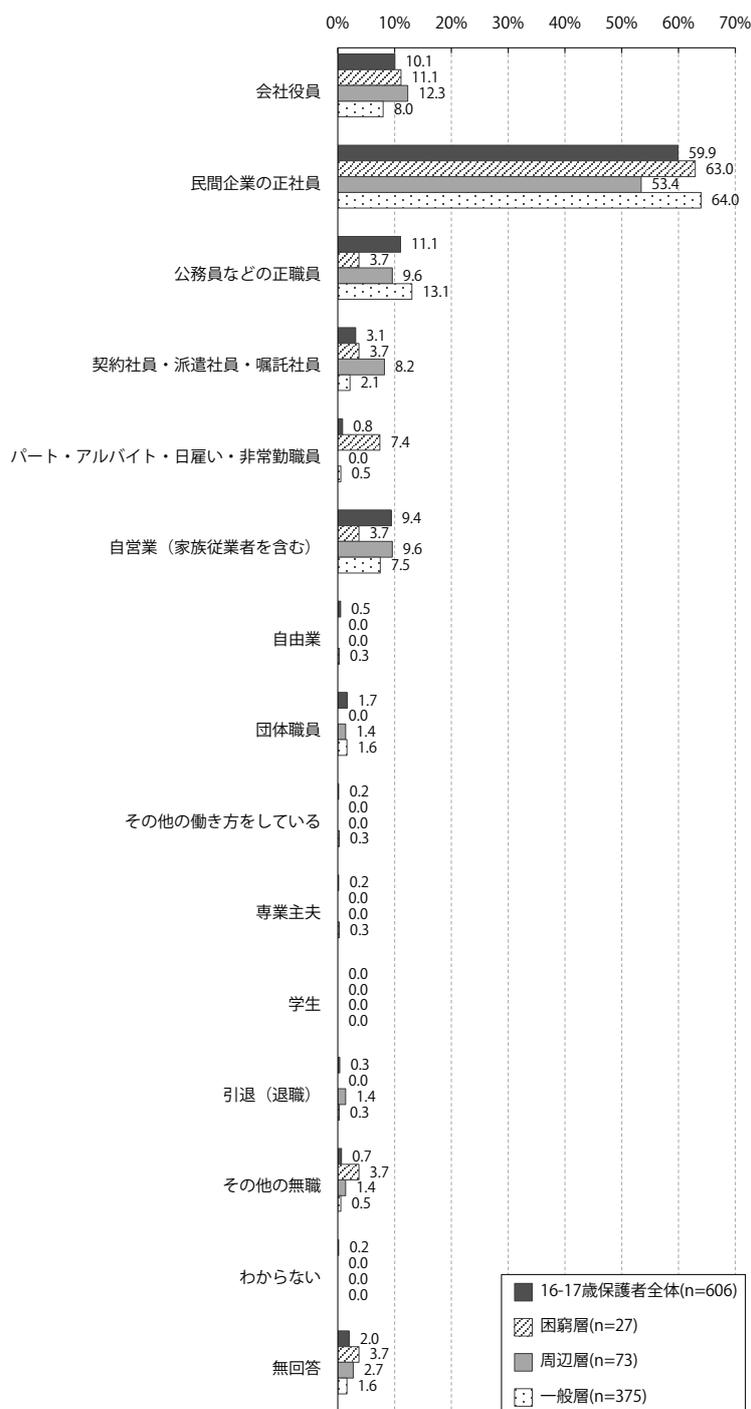


## 【保護者票】

16-17歳の父親の職業は、どの層でも「民間企業の正社員」が最も多い。「契約社員・派遣社員・嘱託社員」と回答した割合は、困窮層で3.7%、周辺層で8.2%、一般層で2.1%となっている。

## 問12 父親の現在の職業

16-17歳

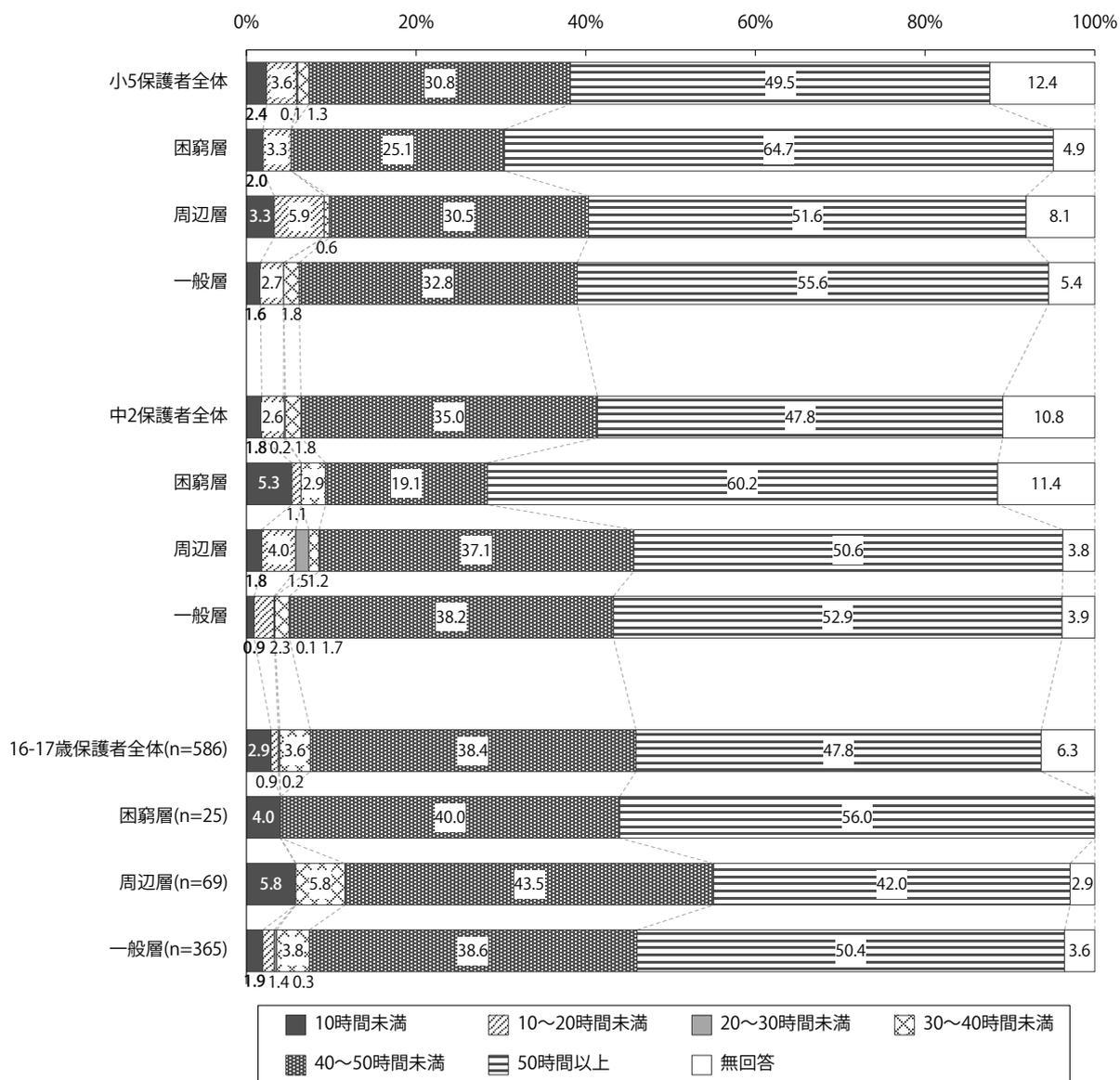


## (2) 就労時間

【保護者票】

父親の1週間の平均就労時間は、どの年齢層でも「50時間以上」の回答の割合が最も高くなっている。「50時間以上」の割合を全体と困窮層で比較すると、小学5年生では15.2ポイント、中学2年生では12.4ポイント、16-17歳では8.2ポイントの差で困窮層で割合が高く、子どもが小さい方が「50時間以上」就労している父親の割合が高くなっている。

問11-1 父親の1週間の平均就労時間



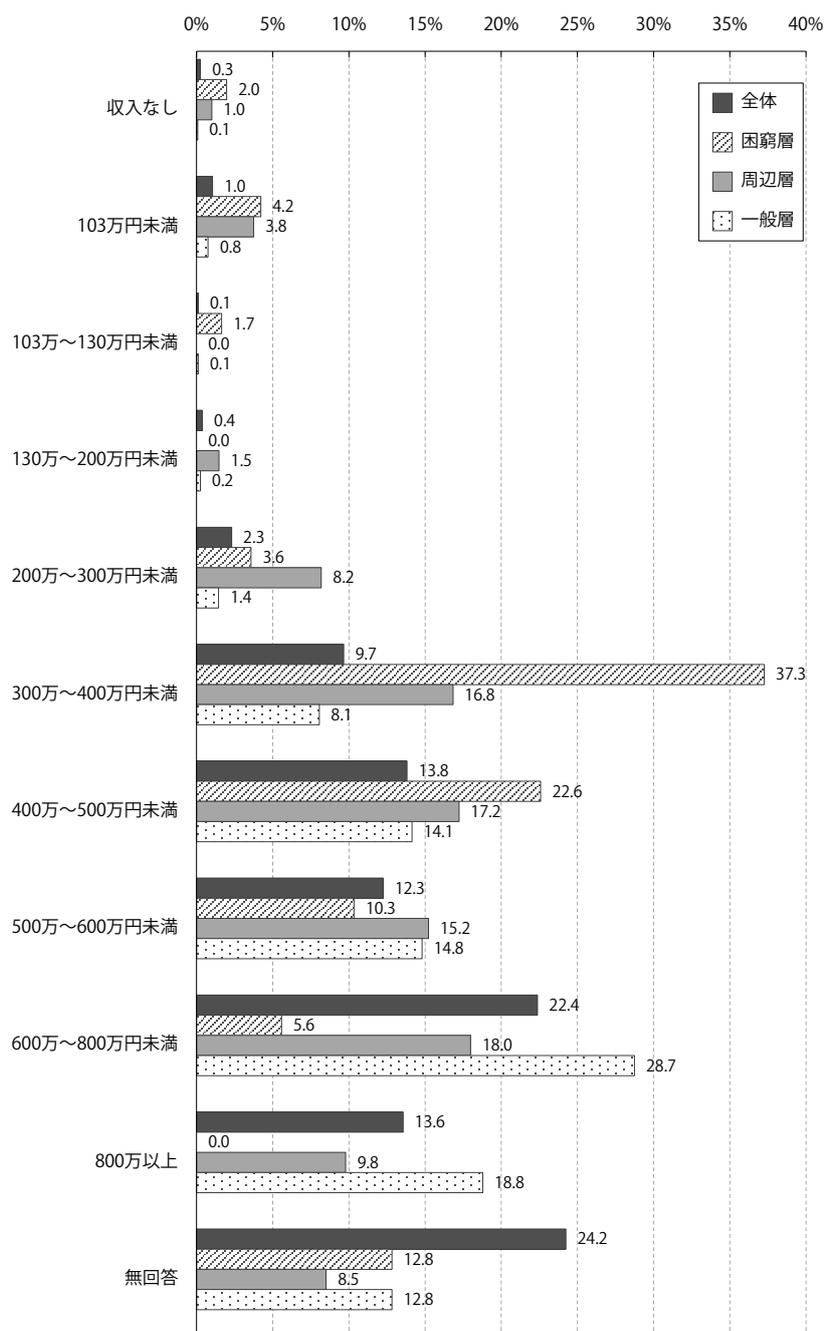
## (3) 税込収入

【保護者票】

小学5年生の父親の昨年の税込年収について、困窮層と一般層でそれぞれ最も高い割合を示している税込年収をみると、困窮層では「収入なし」「103万円未満」「103万～130万円未満」「300万～400万円未満」「400万～500万円未満」となっており、一般層では「600万～800万円未満」「800万以上」となっている。

問11-2 父親の昨年の税込年収

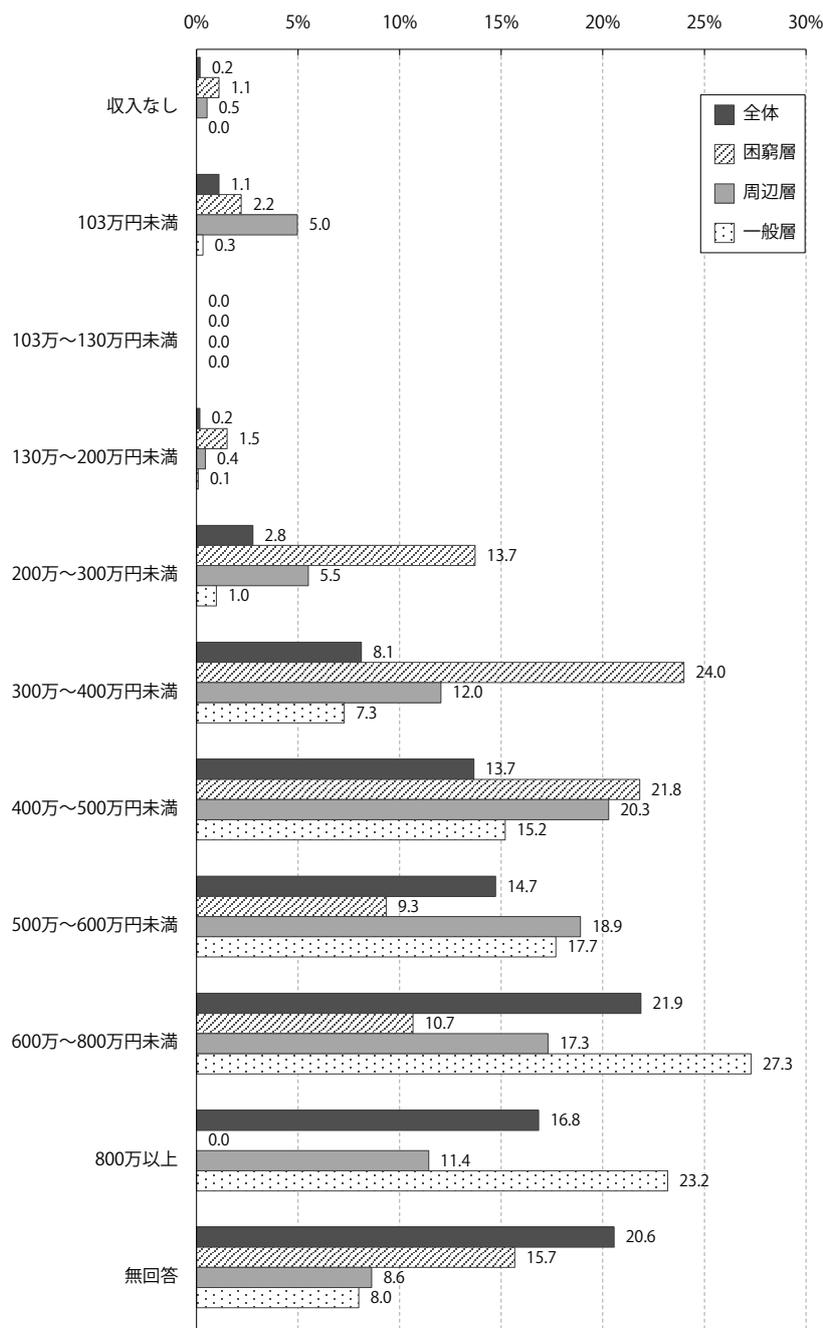
## 小学5年生



中学2年生の父親の昨年の税込年収について、困窮層と一般層でそれぞれ最も高い割合を示している税込年収をみると、困窮層では「収入なし」「130万～200万円未満」「200万～300万円未満」「300万～400万円未満」「400万～500万円未満」となっており、一般層では「600万～800万円未満」「800万以上」となっている。

問11-2 父親の昨年の税込年収

中学2年生

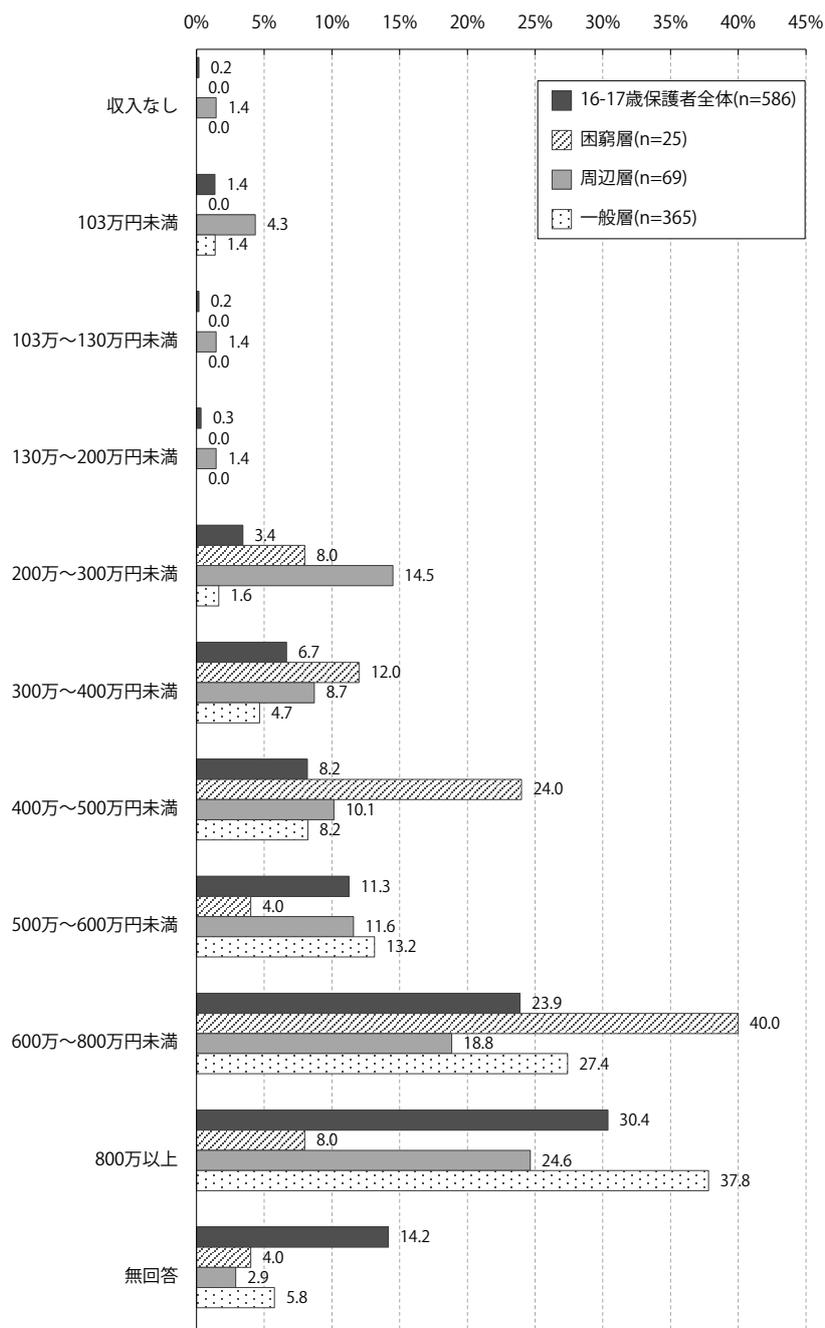


## 【保護者票】

16-17歳の父親の昨年の税込年収について、困窮層と一般層でそれぞれ最も高い割合を示している税込年収をみると、困窮層では「300万～400万円未満」「400万～500万円未満」「600万～800万円未満」となっており、一般層では「500万～600万円未満」「800万以上」となっている。

## 問12-2 父親の昨年の税込年収

## 16-17歳



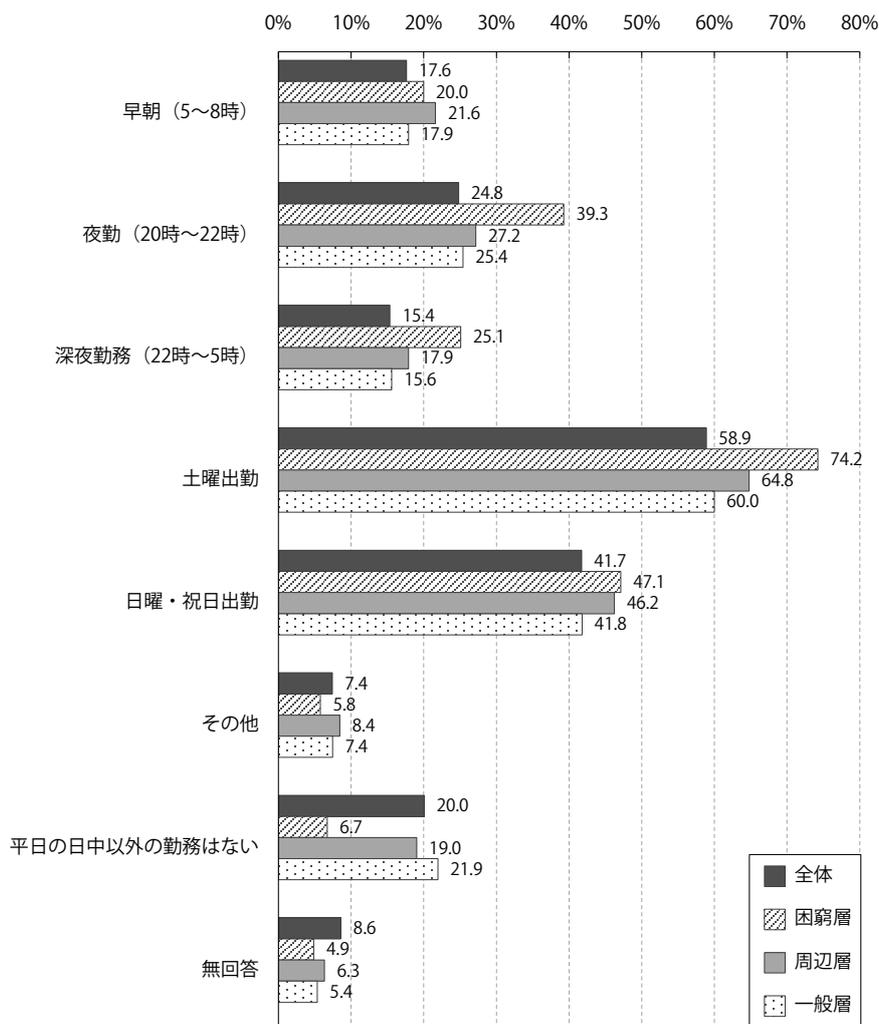
(4) 平日日中以外の勤務状況

【保護者票】

小学5年生の父親の平日の日中以外の勤務形態について、「早朝（5～8時）」は周辺層の割合が最も高く、「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」では困窮層の割合が最も高くなっている。

問11-3 父親の平日の日中以外の勤務形態

小学5年生

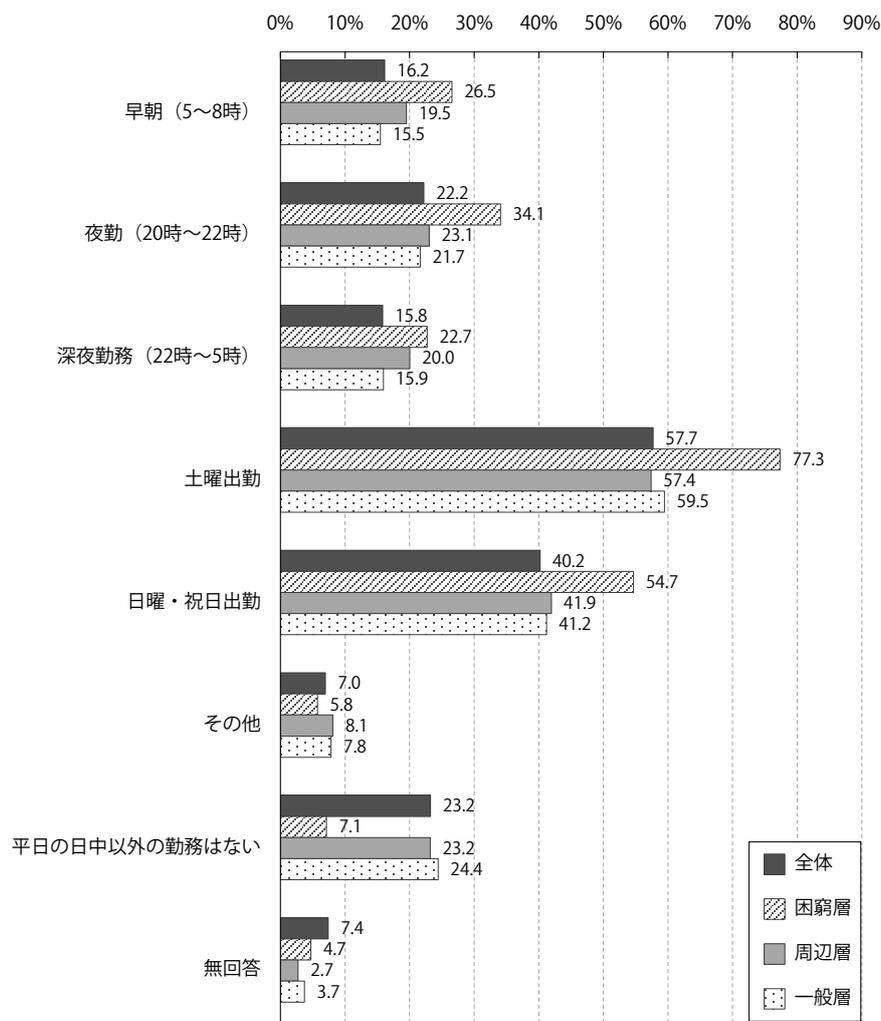


## 【保護者票】

中学2年生の父親の平日の日中以外の勤務形態について、「早朝（5～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」のいずれも困窮層の割合が最も高くなっている。

## 問11-3 父親の平日の日中以外の勤務形態

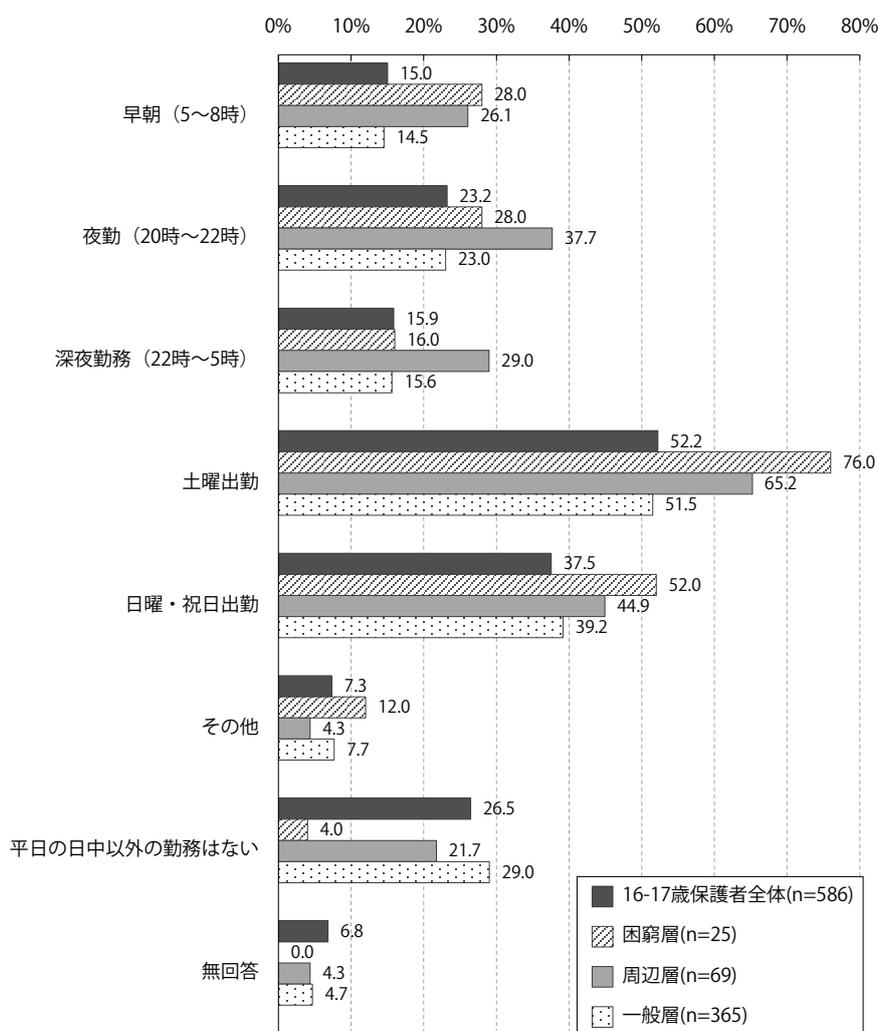
## 中学2年生



16-17歳の父親の平日の日中以外の勤務形態について、「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」では周辺層の割合が最も高く、「早朝（5～8時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」では困窮層の割合が最も高くなっている。

問12-3 父親の平日の日中以外の勤務形態

**16-17歳**



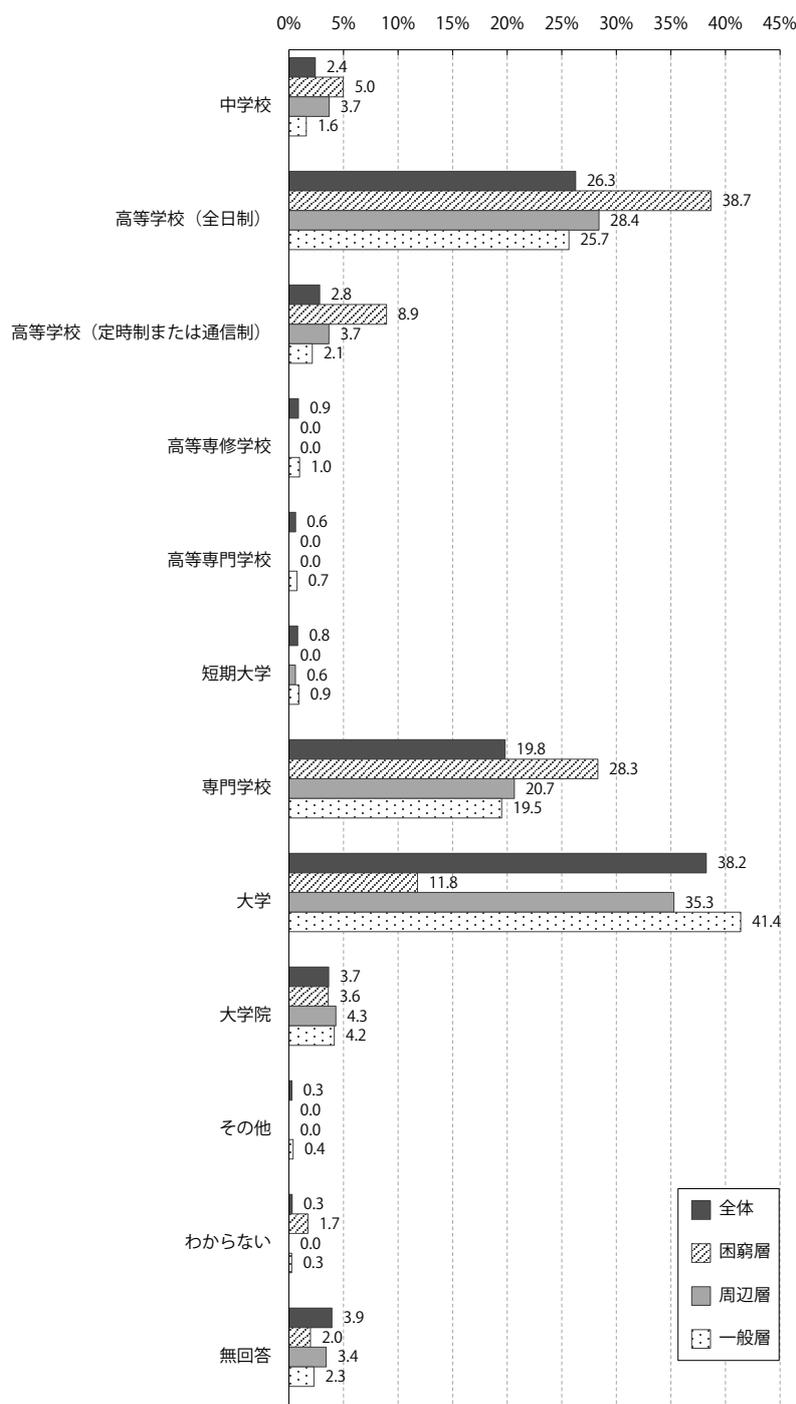
## (5) 最終学歴

【保護者票】

小学5年生の父親が最後に通った学校について、「中学校」「高等学校（全日制）」「高等学校（定時制または通信制）」「専門学校」では生活困難度が高いほど割合が高くなり、「大学」では生活困難度が低いほど割合が高くなっている。

問36 父親の最終学校

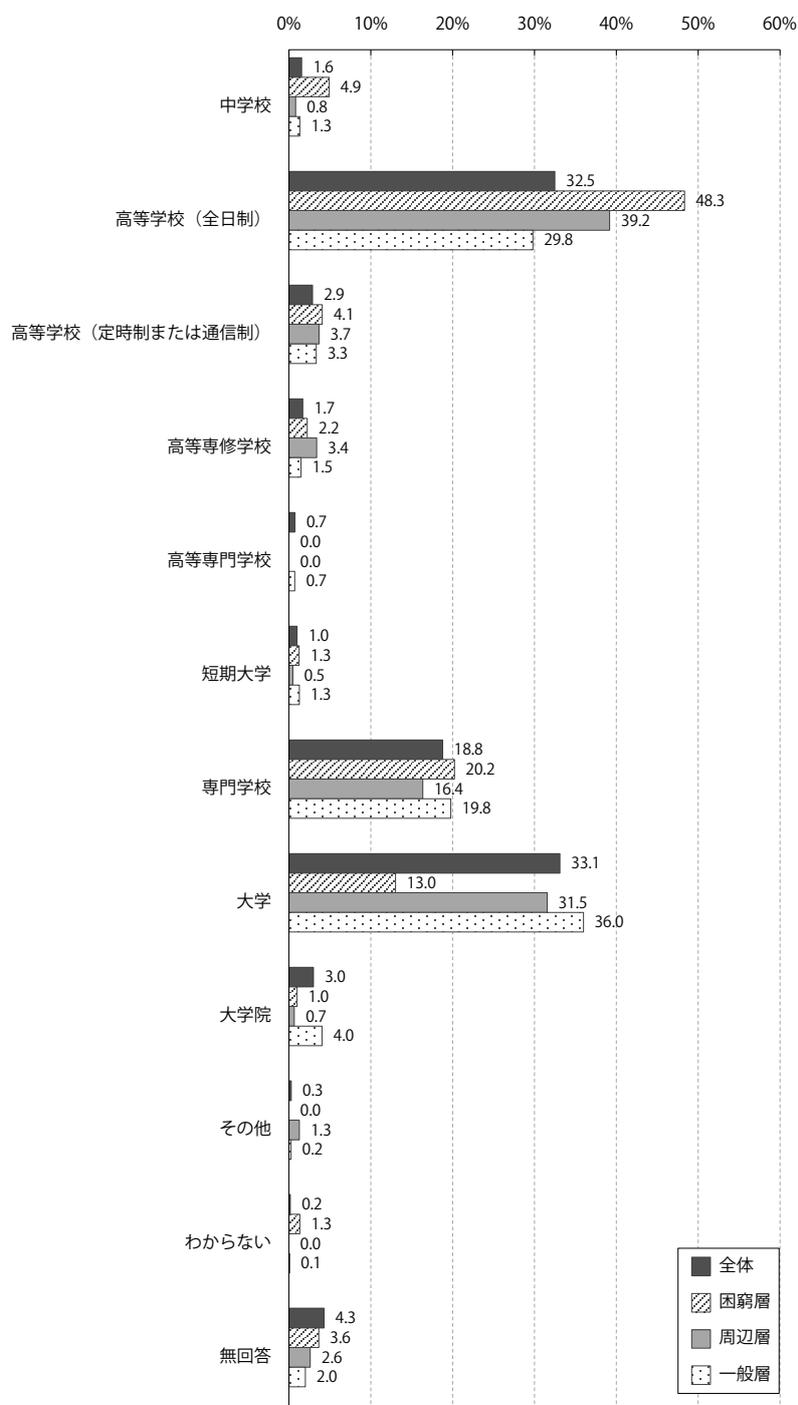
小学5年生



中学2年生の父親が最後に通った学校について、「中学校」「高等学校（全日制）」「高等学校（定時制または通信制）」では生活困難度が高いほど割合が高くなり、「大学」では生活困難度が低いほど割合が高くなっている。

問36 父親の最終学校

**中学2年生**

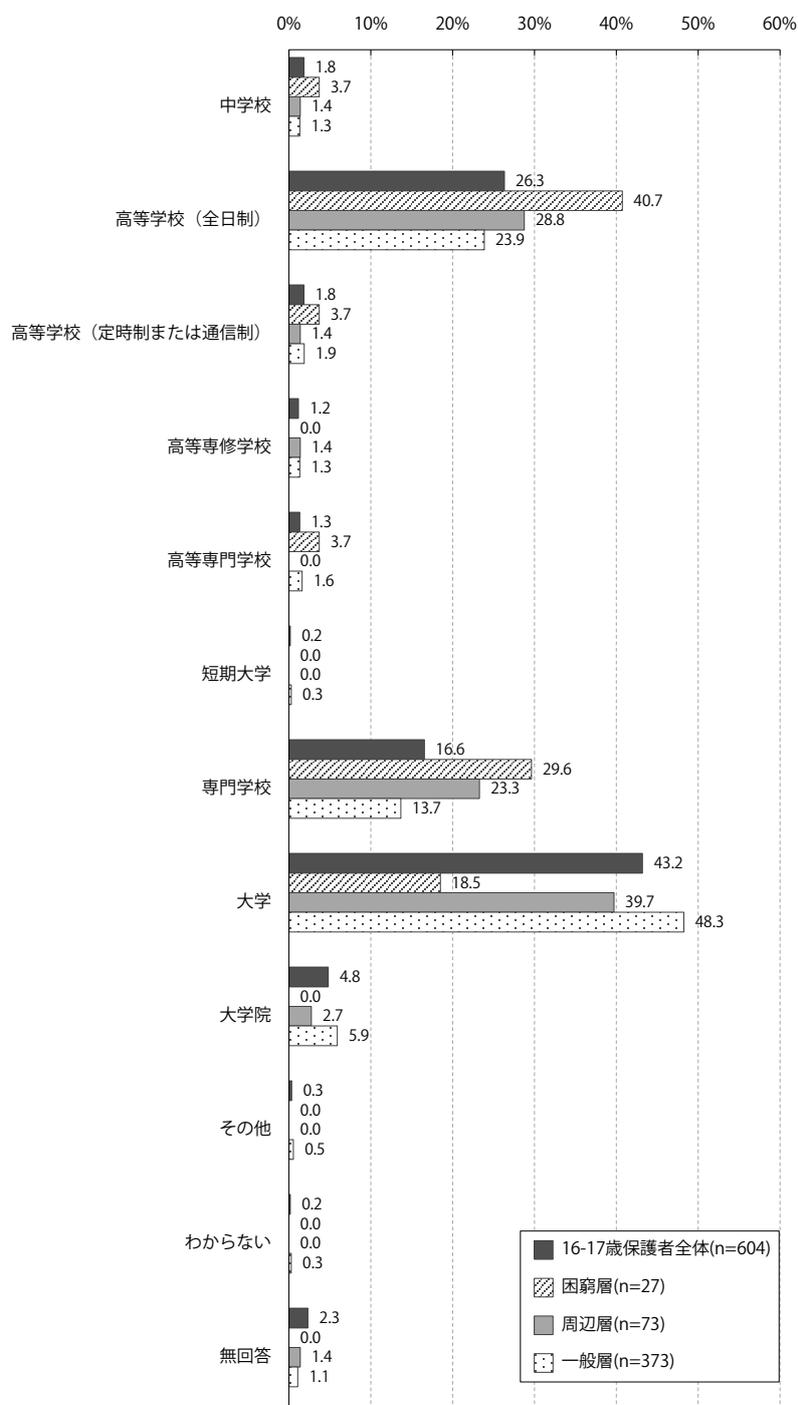


## 【保護者票】

16-17歳の父親が最後に通った学校について、「中学校」「高等学校（全日制）」「高等学校（定時制または通信制）」「専門学校」では生活困難度が高いほど割合が高くなり、「大学」「大学院」では生活困難度が低いほど割合が高くなっている。

## 問37 父親の最終学校

16-17歳

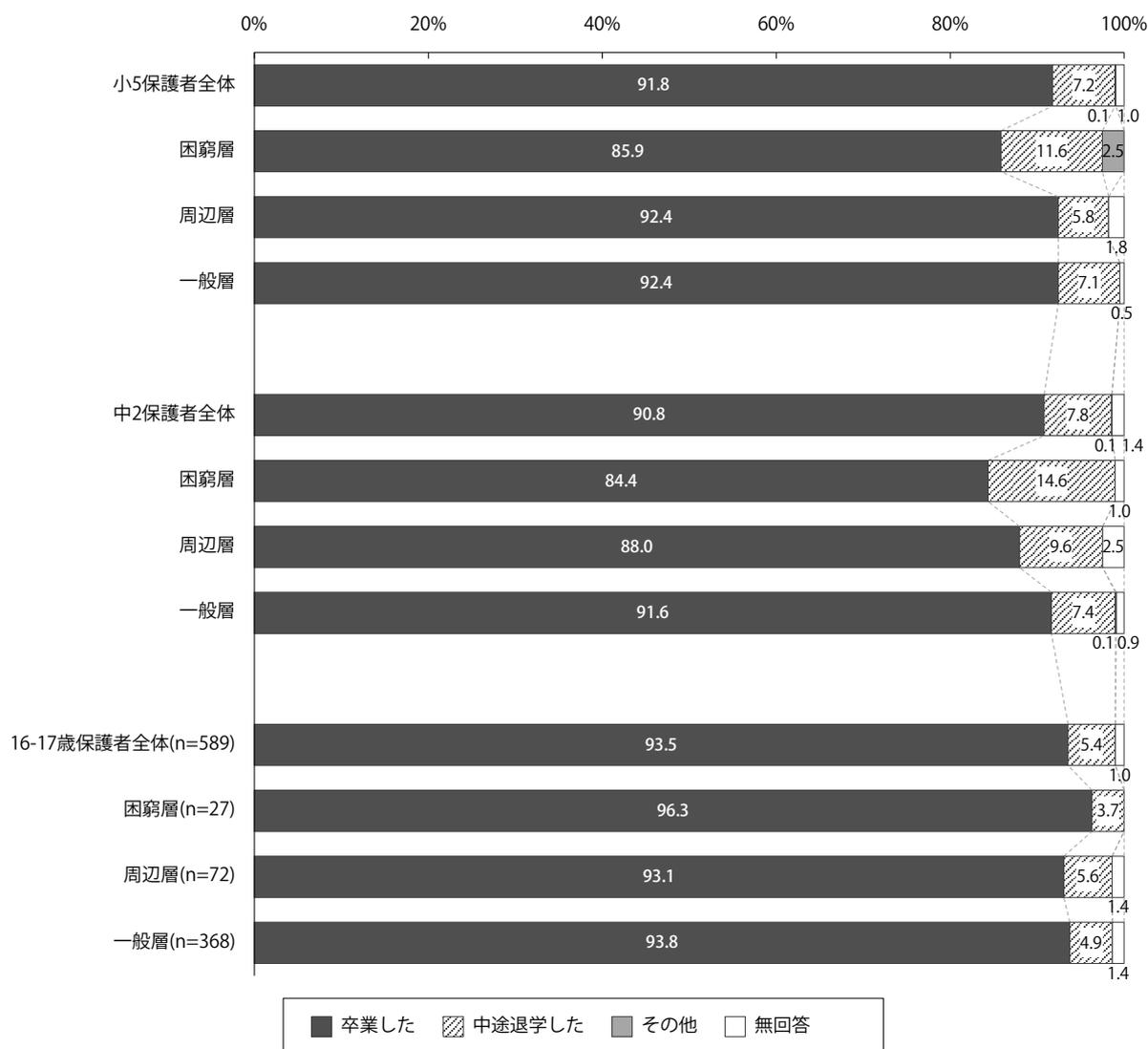


(6) 最終学校の卒業の有無

【保護者票】

小学5年生の父親の最終学校の卒業の有無で、「中途退学した」の回答をみると、小学5年生の困窮層で11.6%、中学2年生の困窮層で14.6%の回答がみられる。

問36-1 父親の最終学校の卒業状況



## 4 母親のこと

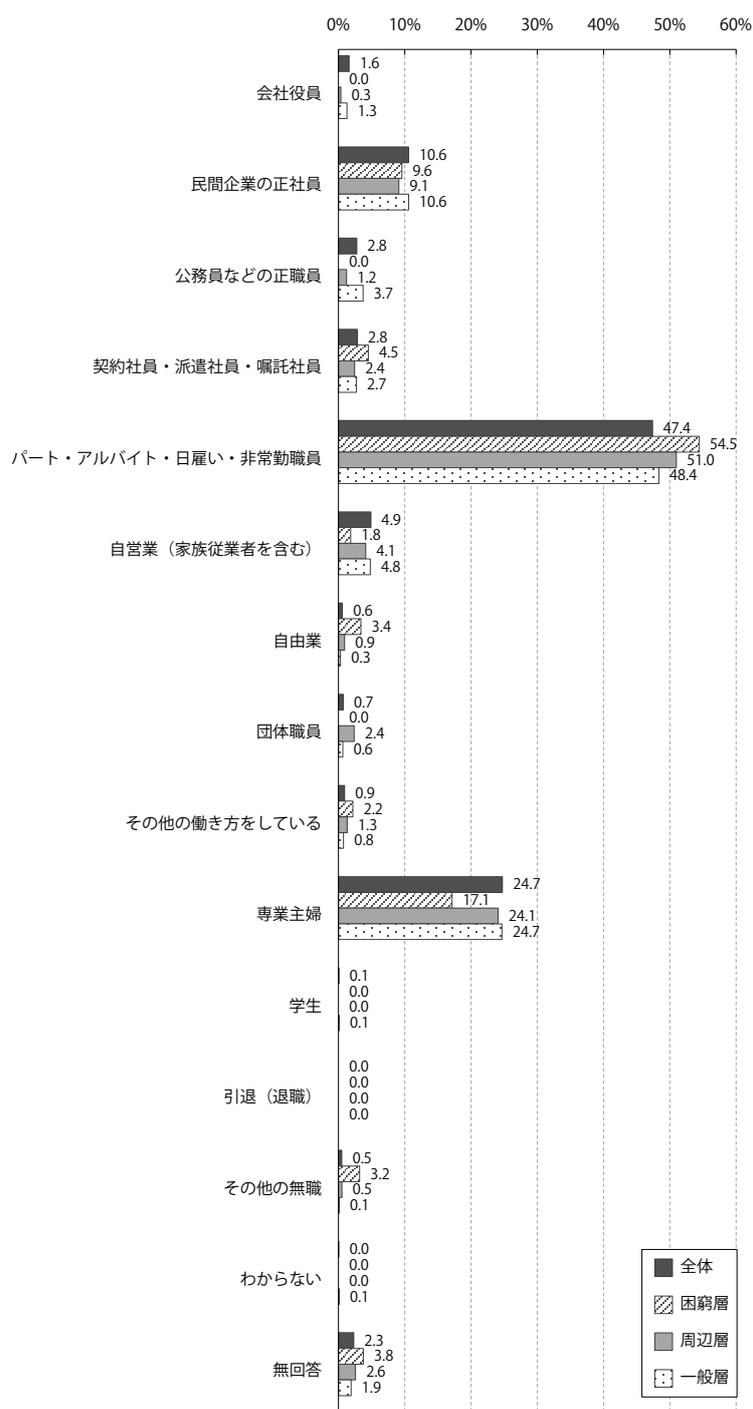
## (1) 職業

【保護者票】

小学5年生の母親の職業は、どの層でも「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も多い。「専業主婦」と回答した割合は、困窮層で17.1%、周辺層で24.1%、一般層で24.7%となっている。

問10 母親の現在の職業

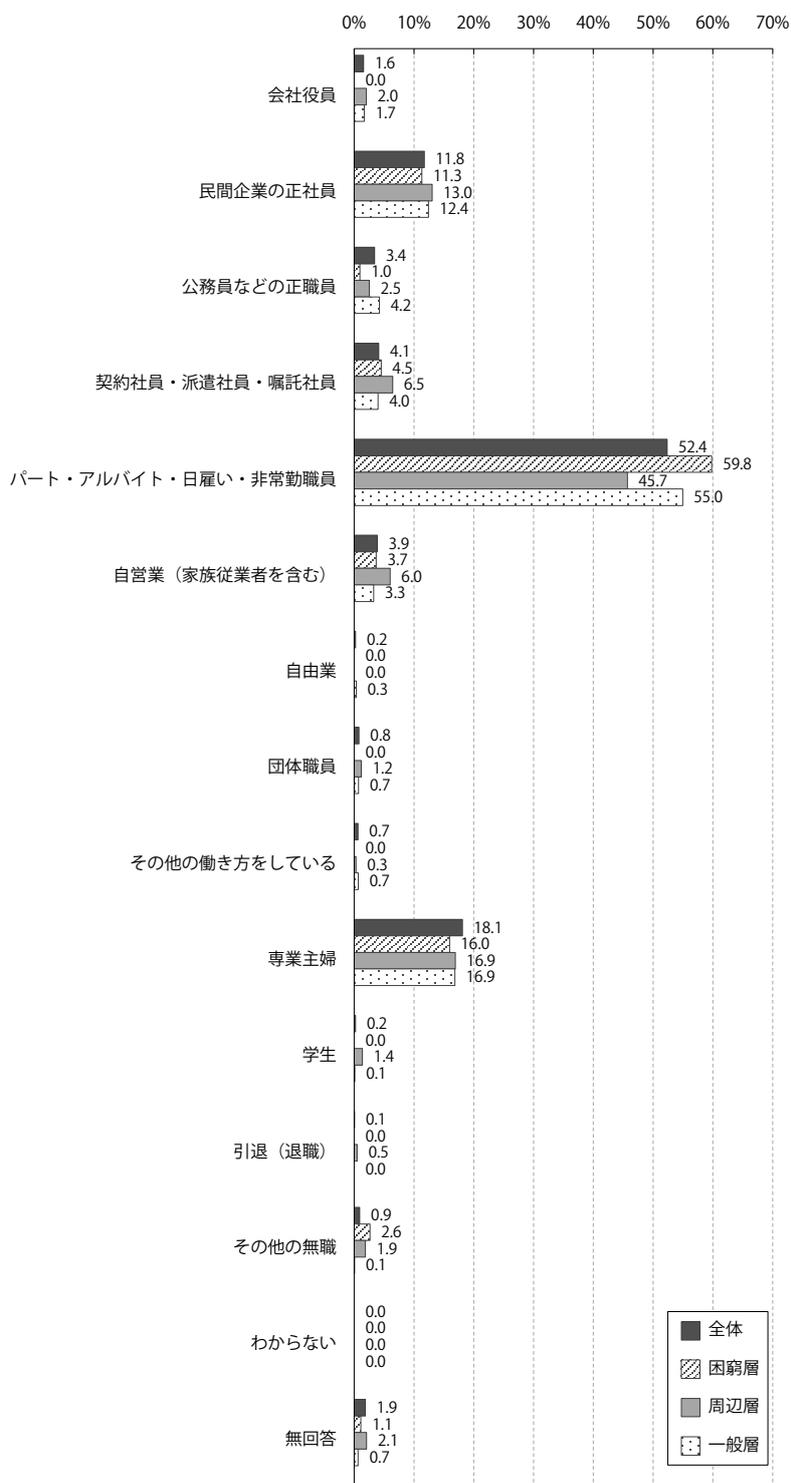
小学5年生



中学2年生の母親の職業は、どの層でも「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も多い。「専業主婦」と回答した割合は、困窮層で16.0%、周辺層で16.9%、一般層で16.9%となっている。

問10 母親の現在の職業

**中学2年生**

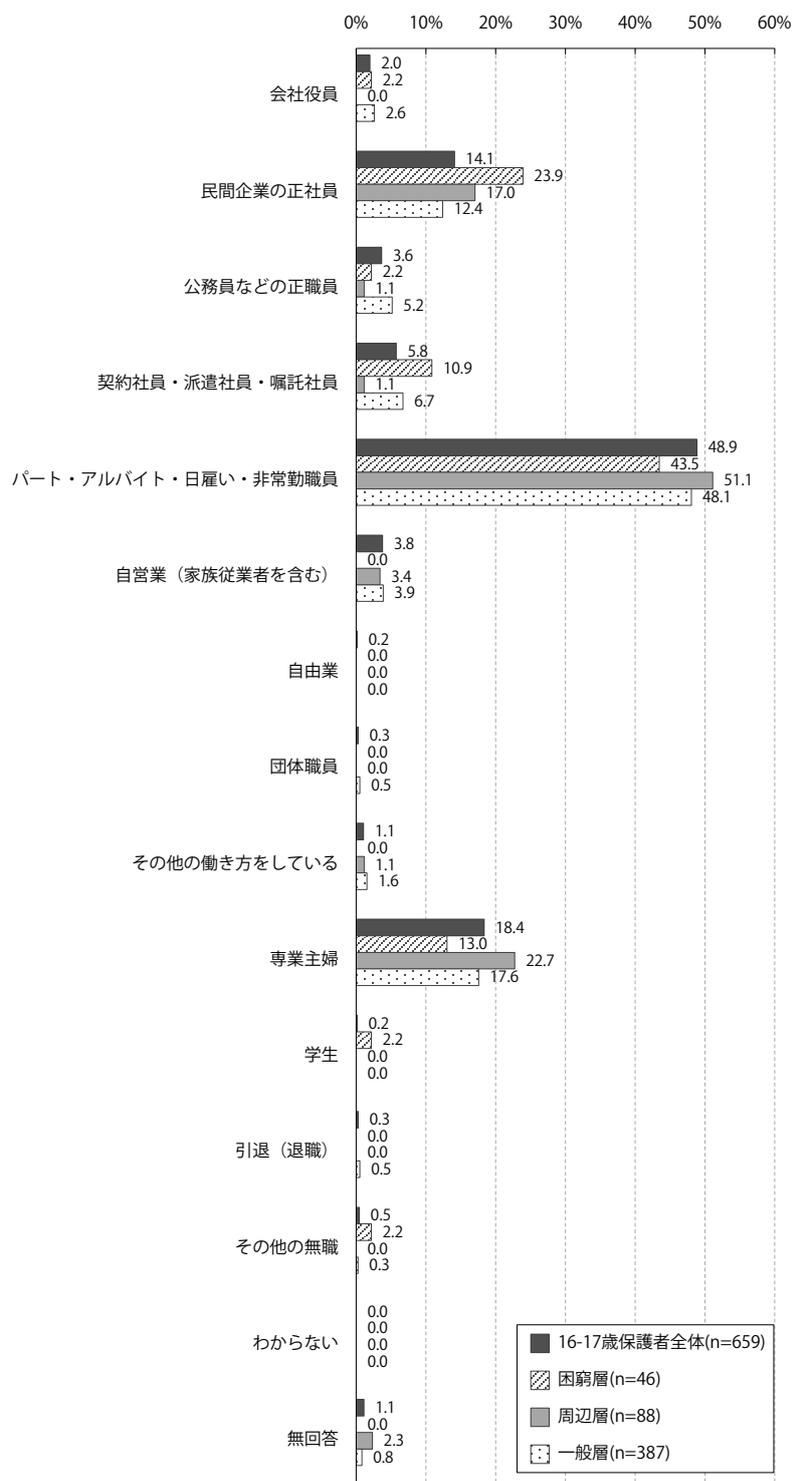


## 【保護者票】

16-17歳の母親の職業は、どの層でも「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が最も多い。「専業主婦」と回答した割合は、困窮層で13.0%、周辺層で22.7%、一般層で17.6%となっている。

## 問11 母親の現在の職業

## 16-17歳

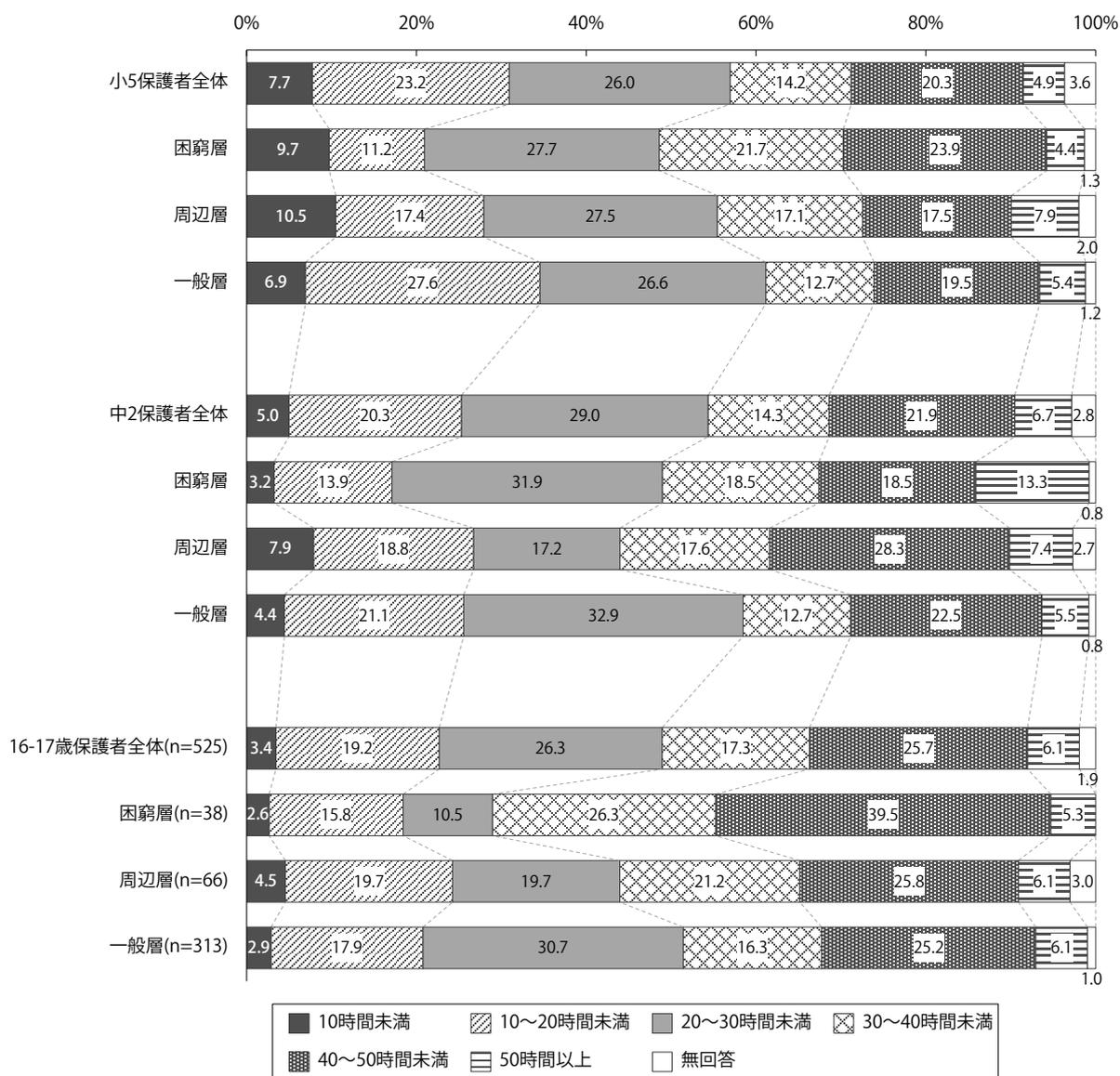


## (2) 就労時間

【保護者票】

母親の1週間の平均就労時間について、「40～50時間未満」と「50時間以上」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で28.3%、周辺層で25.4%、一般層で24.9%、中学2年生の困窮層で31.8%、周辺層で35.7%、一般層で28.0%、16-17歳の困窮層で44.8%、周辺層で31.9%、一般層で31.3%となっている。16-17歳において、生活困難度が高いほど就労時間が長い傾向がうかがえる。

問10-1 母親の1週間の平均就労時間



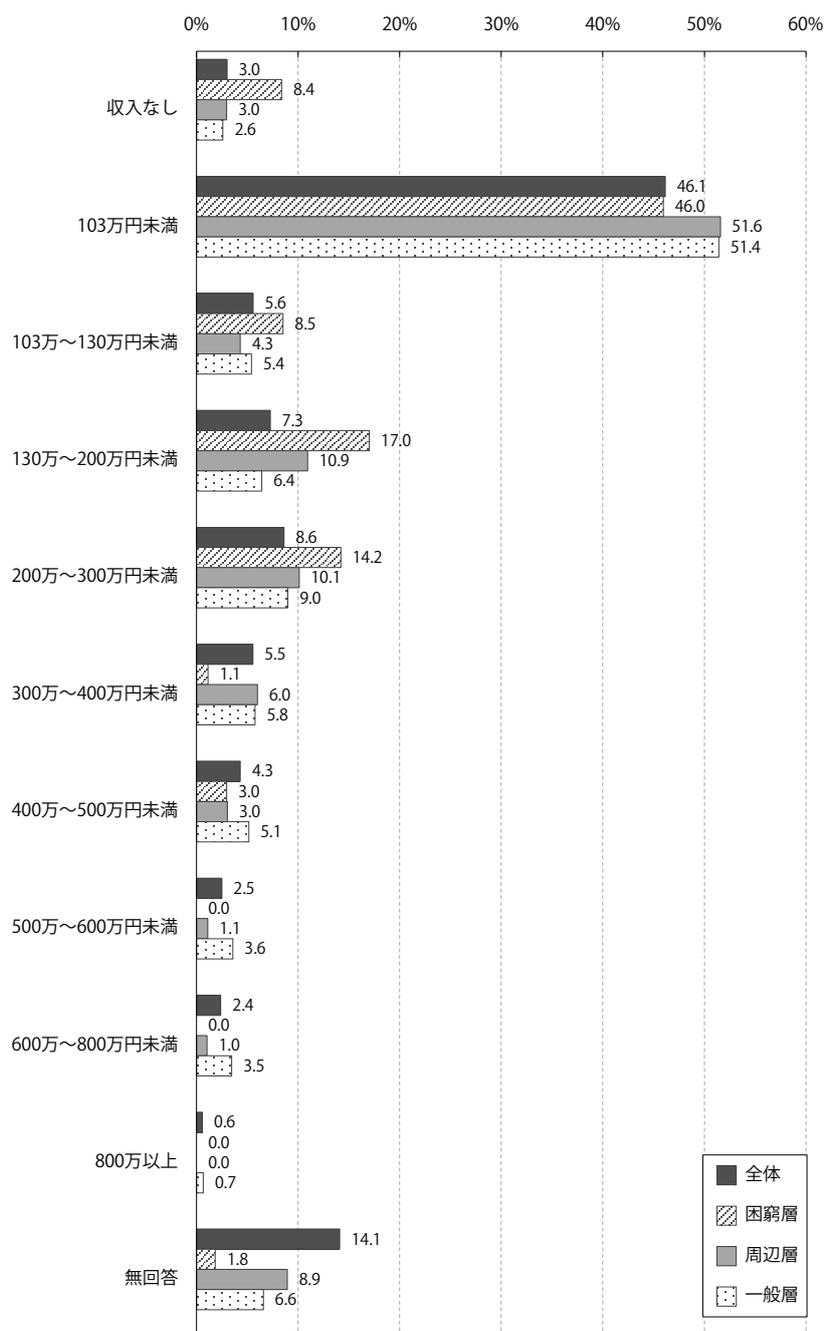
## (3) 税込収入

【保護者票】

小学5年生の母親の昨年の税込年収について、困窮層で最も割合が高くなっているのは「収入なし」「103万～130万円未満」「130万～200万円未満」「200万～300万円未満」である。一般層で最も割合が高くなっているのは「400万～500万円未満」「500万～600万円未満」「600万～800万円未満」「800万以上」となっている。

問10-2 母親の昨年の税込年収

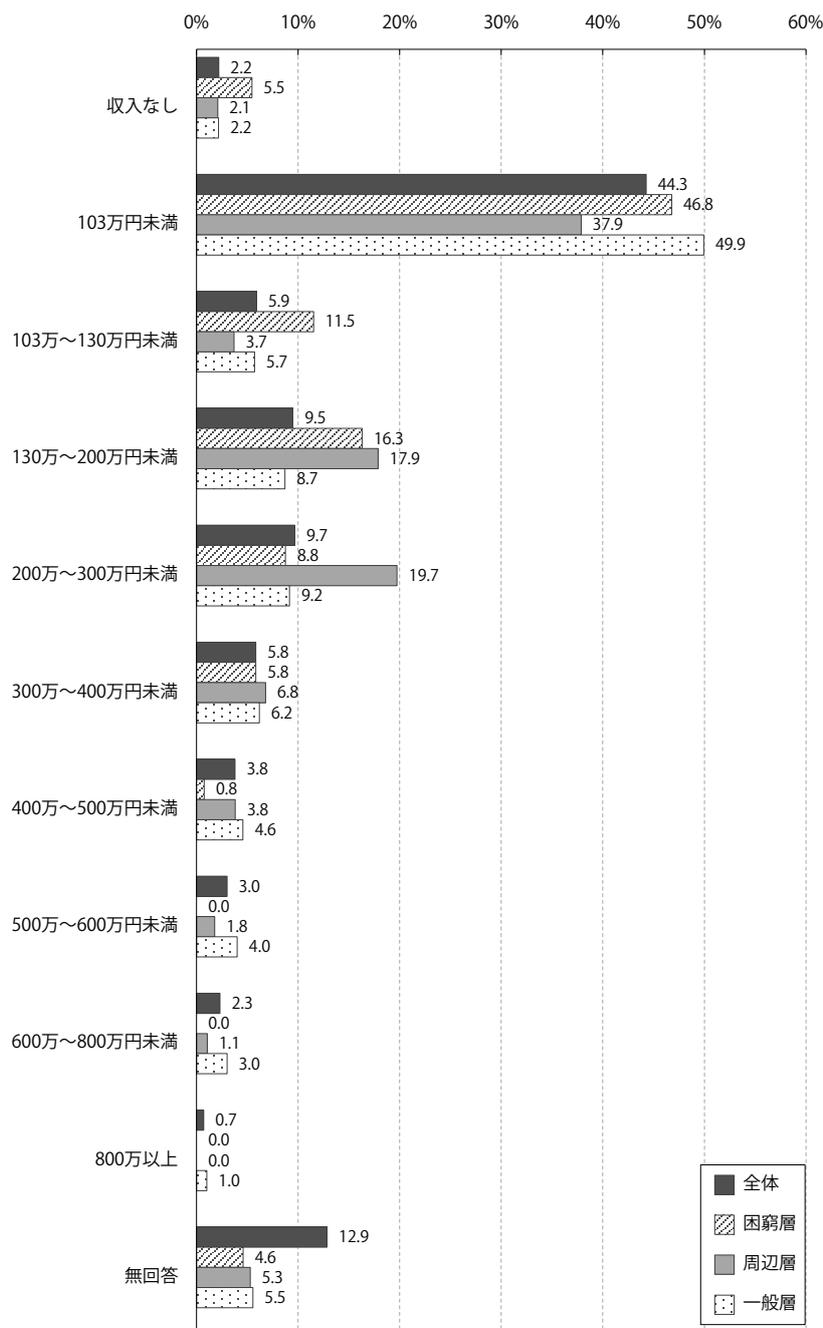
## 小学5年生



中学2年生の母親の昨年の税込年収について、困窮層で最も割合が高くなっているのは「収入なし」「103万～130万円未満」である。一般層で最も割合が高くなっているのは「103万円未満」「400万～500万円未満」「500万～600万円未満」「600万～800万円未満」「800万以上」となっている。

問10-2 母親の昨年の税込年収

**中学2年生**

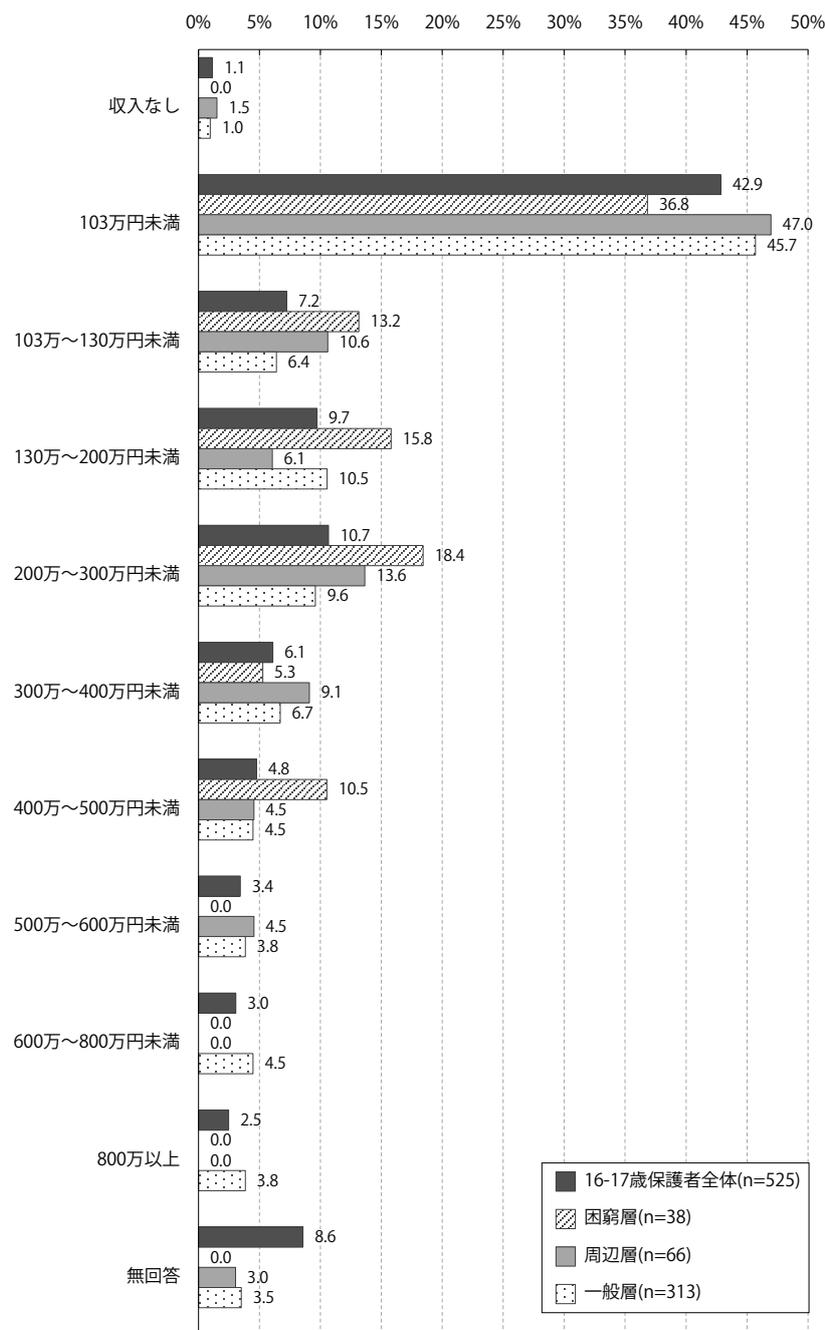


## 【保護者票】

16-17歳の母親の昨年の税込年収について、困窮層で最も割合が高くなっているのは「103万～130万円未満」「130万～200万円未満」「200万～300万円未満」「400万～500万円未満」である。一般層で最も割合が高くなっているのは「600万～800万円未満」「800万以上」となっている。

## 問11-2 母親の昨年の税込年収

## 16-17歳



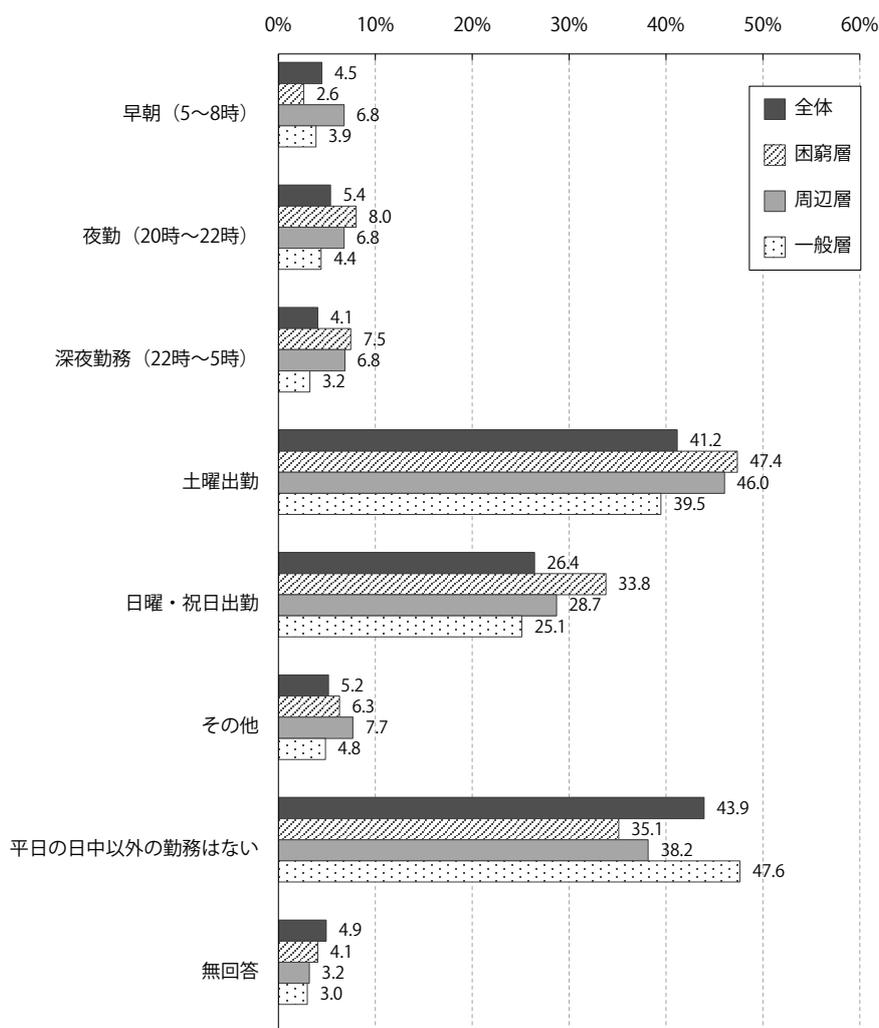
(4) 平日日中以外の勤務状況

【保護者票】

小学5年生の母親の平日の日中以外の勤務形態について、「早朝（5～8時）」は周辺層の割合が最も高く、「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」では困窮層の割合が最も高くなっている。また、「平日の日中以外の勤務はない」では、一般層での割合が最も高くなっている。

問10-3 母親の平日の日中以外の勤務形態

**小学5年生**

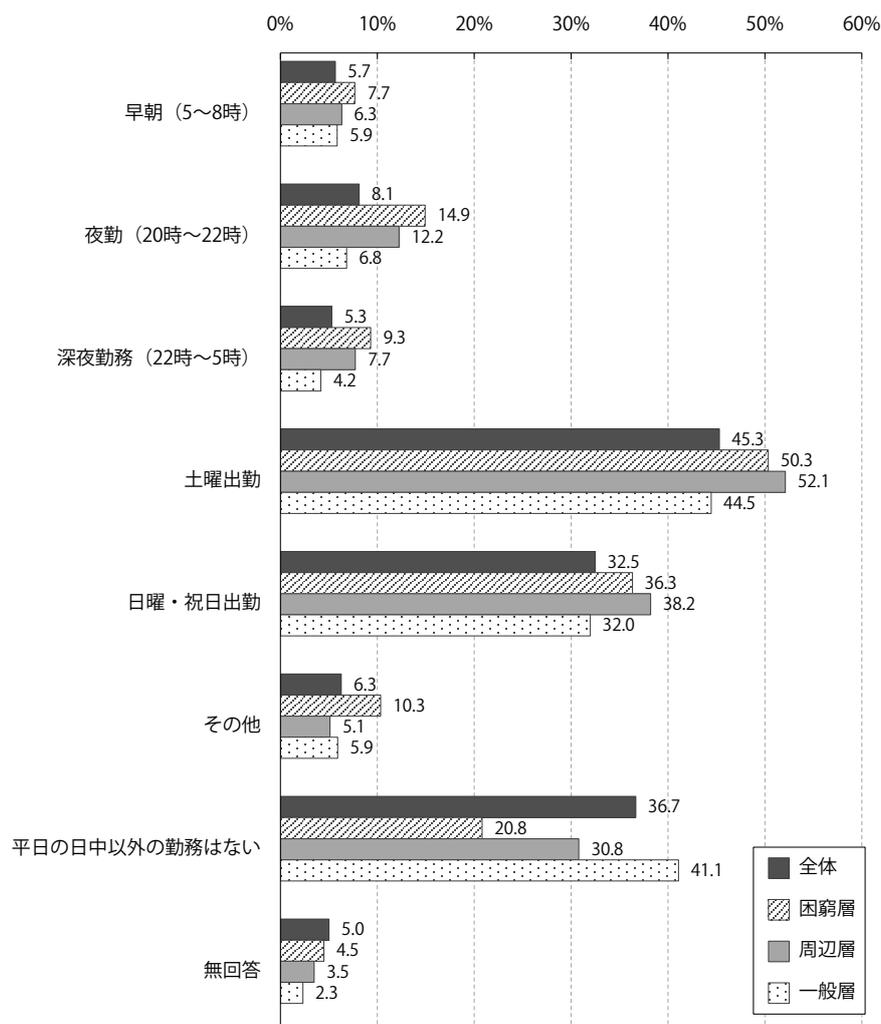


## 【保護者票】

中学2年生の母親の平日の日中以外の勤務形態について、「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」は周辺層の割合が最も高く、「早朝（5～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」では困窮層の割合が最も高くなっている。また、「平日の日中以外の勤務はない」では、一般層での割合が最も高くなっている。

## 問10-3 母親の平日の日中以外の勤務形態

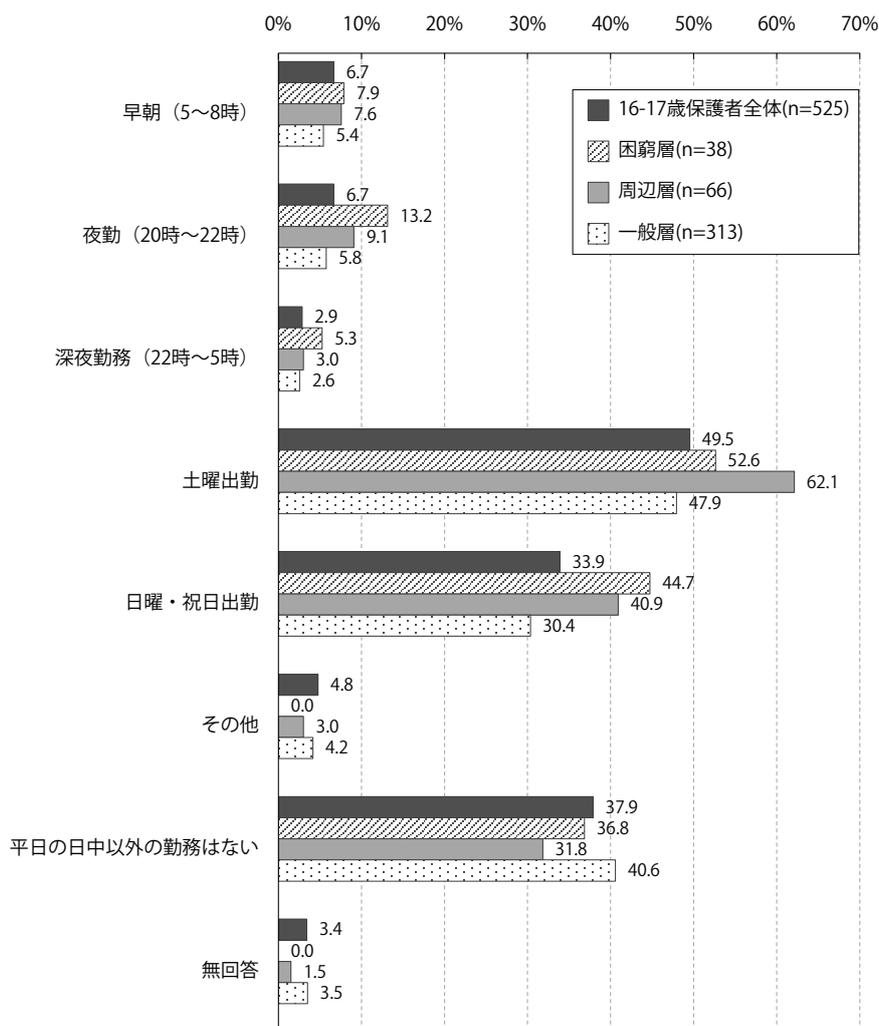
## 中学2年生



16-17歳の母親の平日の日中以外の勤務形態について、「土曜出勤」は周辺層の割合が最も高く、「早朝（5～8時）」「夜勤（20時～22時）」「深夜勤務（22時～5時）」「日曜・祝日出勤」では困窮層の割合が最も高くなっている。また、「平日の日中以外の勤務はない」では、一般層での割合が最も高くなっている。

問11-3 母親の平日の日中以外の勤務形態

**16-17歳**



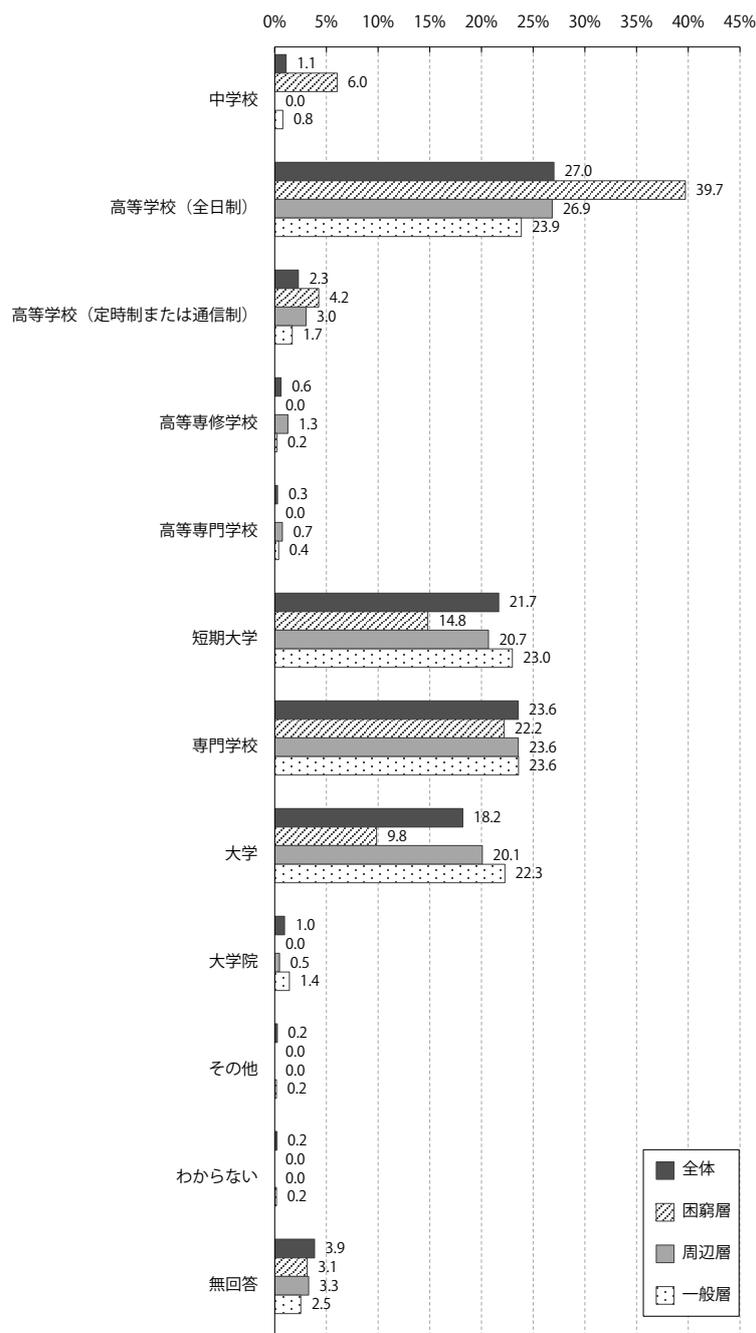
## (5) 最終学歴

【保護者票】

小学5年生の母親が最後に通った学校について、「高等学校（全日制）」「高等学校（定時制または通信制）」では生活困難度が高いほど割合が高くなり、「短期大学」「大学」では生活困難度が低いほど割合が高くなっている。

問35 母親の最終学校

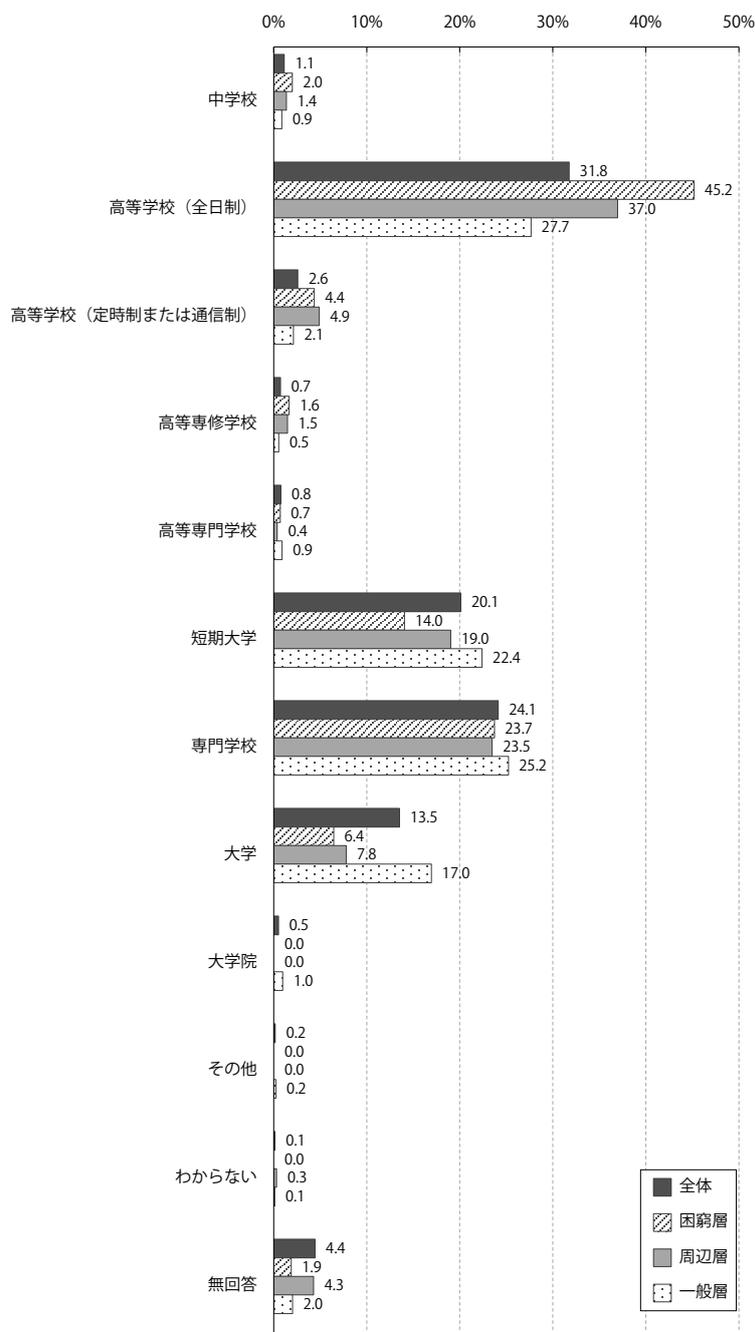
小学5年生



中学2年生の母親が最後に通った学校について、「高等学校（全日制）」では生活困難度が  
高いほど割合が高くなり、「短期大学」「大学」では生活困難度が低いほど割合が高くなっ  
ている。

問35 母親の最終学校

**中学2年生**

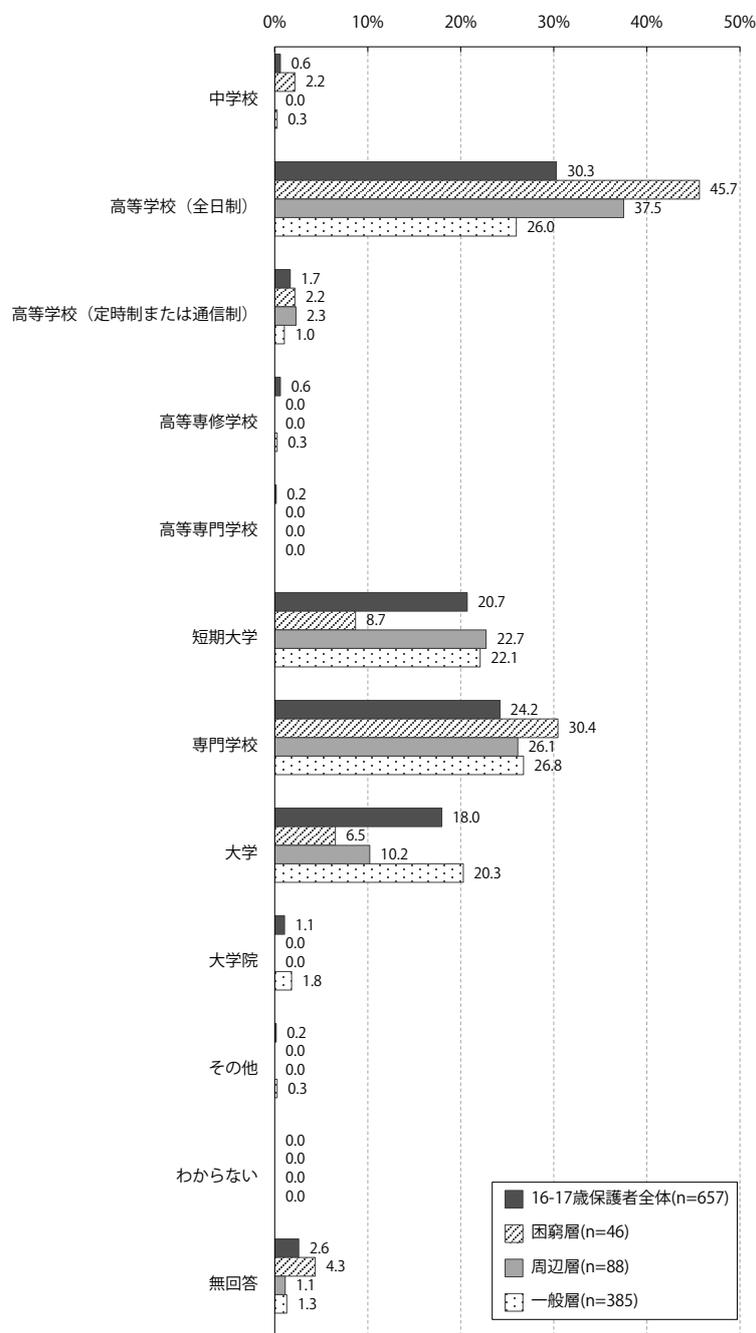


## 【保護者票】

16-17歳の母親が最後に通った学校について、「高等学校（全日制）」では生活困難度が高いほど割合が高くなり、「大学」では生活困難度が低いほど割合が高くなっている。

## 問36 母親の最終学校

16-17歳

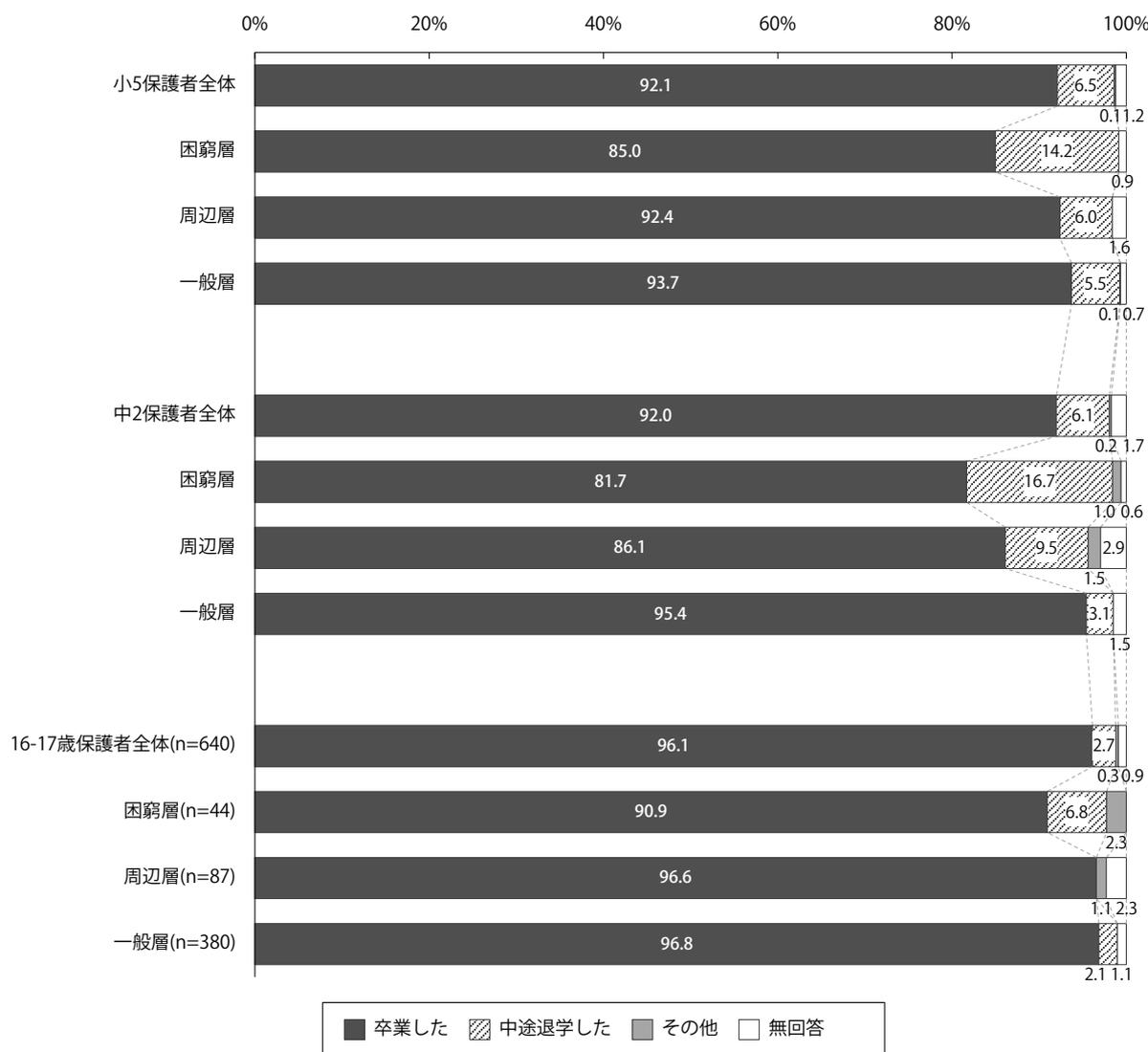


(6) 最終学校の卒業の有無

【保護者票】

母親の最終学校の卒業の有無で、「中途退学した」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で14.2%、周辺層で6.0%、一般層で5.5%、中学2年生の困窮層で16.7%、周辺層で9.5%、一般層で3.1%、16-17歳の困窮層で6.8%、周辺層で0.0%、一般層で2.1%となっている。

問35-1 母親の最終学校の卒業状況



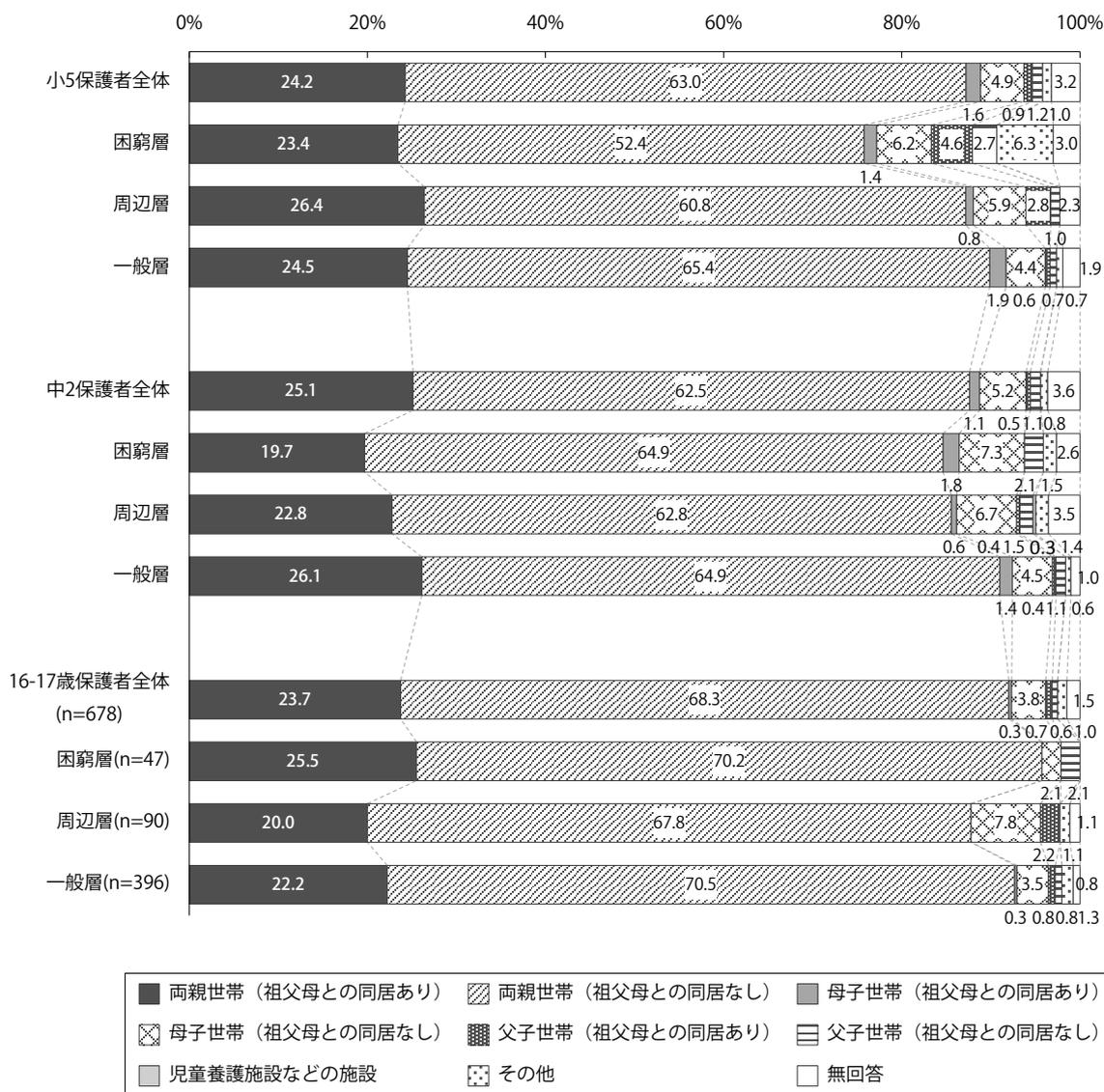
## 5 父親・母親のこれまでの経験

### (1) 15歳の頃の家族構成

【保護者票】

保護者の15歳の頃の家族構成について、「両親世帯（祖父母との同居あり）」「両親世帯（祖父母との同居なし）」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で75.8%、周辺層で87.2%、一般層で89.9%、中学2年生の困窮層で84.6%、周辺層で85.6%、一般層で91.0%、16-17歳の困窮層で95.7%、周辺層で87.8%、一般層で92.7%となっている。

問37/38 15歳の頃の家庭の様子に最も近いもの

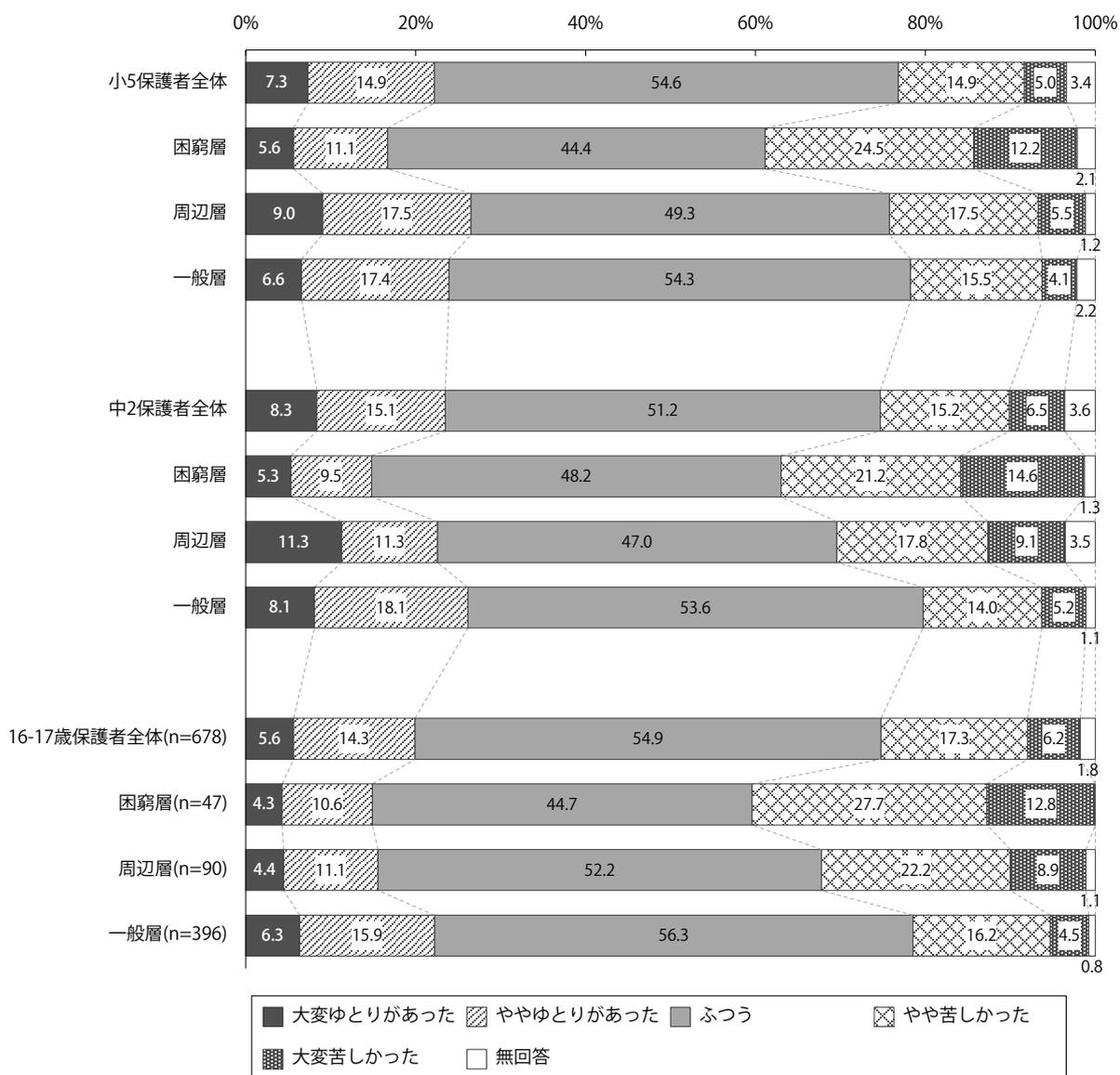


(2) 15歳の頃の(主観的)暮らし向き

【保護者票】

保護者の15歳の頃の(主観的)暮らし向きについて、「大変ゆとりがあった」「ややゆとりがあった」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で16.7%、周辺層で26.5%、一般層で24.0%、中学2年生の困窮層で14.8%、周辺層で22.6%、一般層で26.2%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で15.5%、一般層で22.2%となっている。中学2年生および16-17歳において現在の生活困難度との相関がみられる

問38 15歳の頃の暮らしの状況



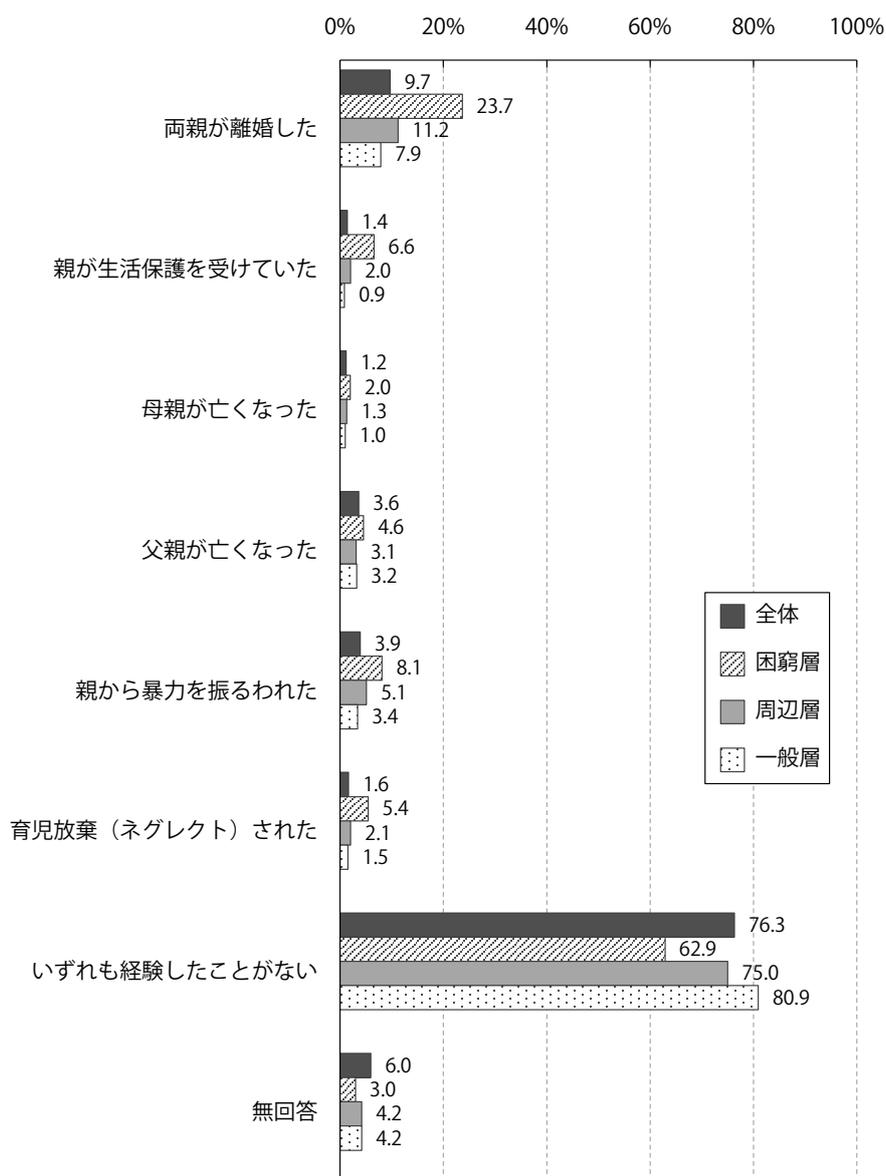
## (3) 成人するまでの体験

【保護者票】

小学5年生の保護者の、成人するまでの体験について、割合の数値が低いものもあるが生活困難度との相関がみられる項目がある。「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「母親が亡くなった」「親から暴力を振るわれた」「育児放棄（ネグレクト）された」と、多くの項目において、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問39 成人するまでにした体験

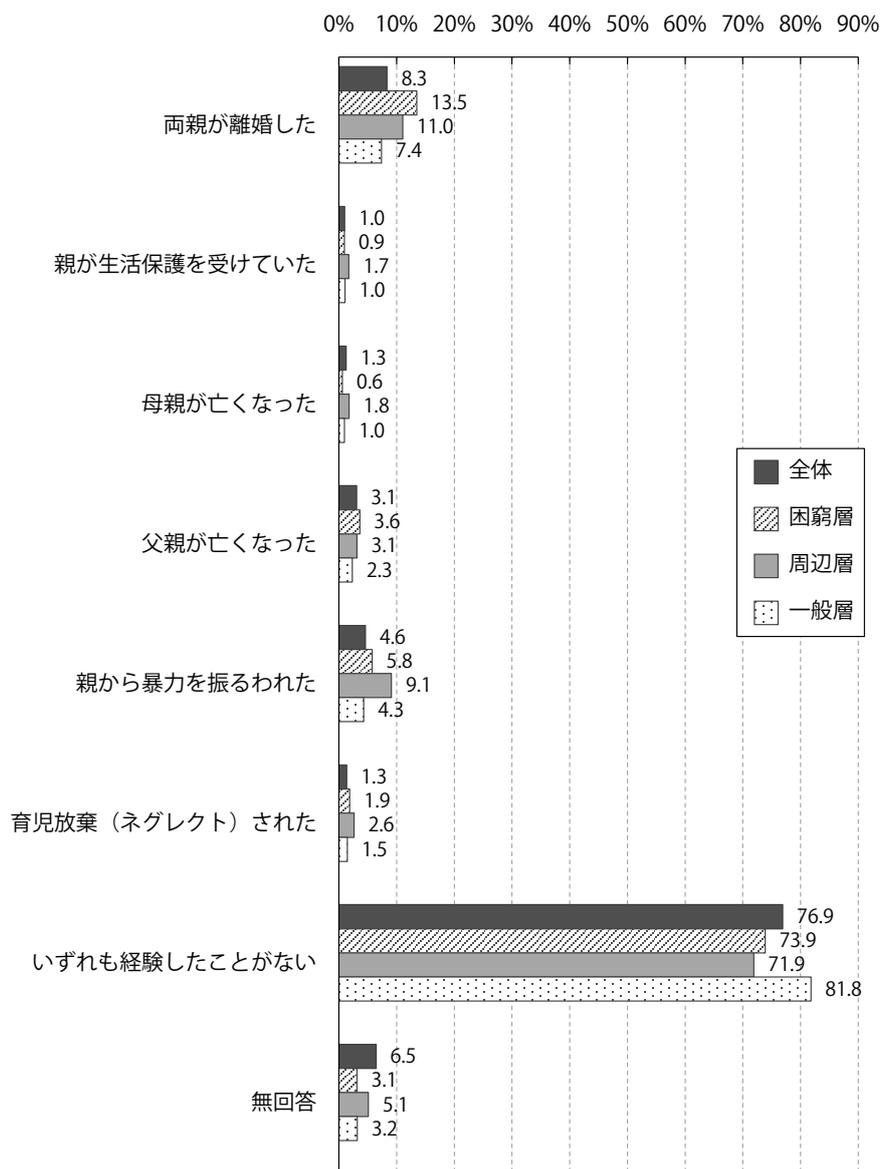
小学5年生



中学2年生の保護者の、成人するまでの体験について、割合の数値が低いものもあるが生活困難度との相関がみられる項目がある。「両親が離婚した」「父親が亡くなった」の項目において、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

問39 成人するまでにした体験

**中学2年生**

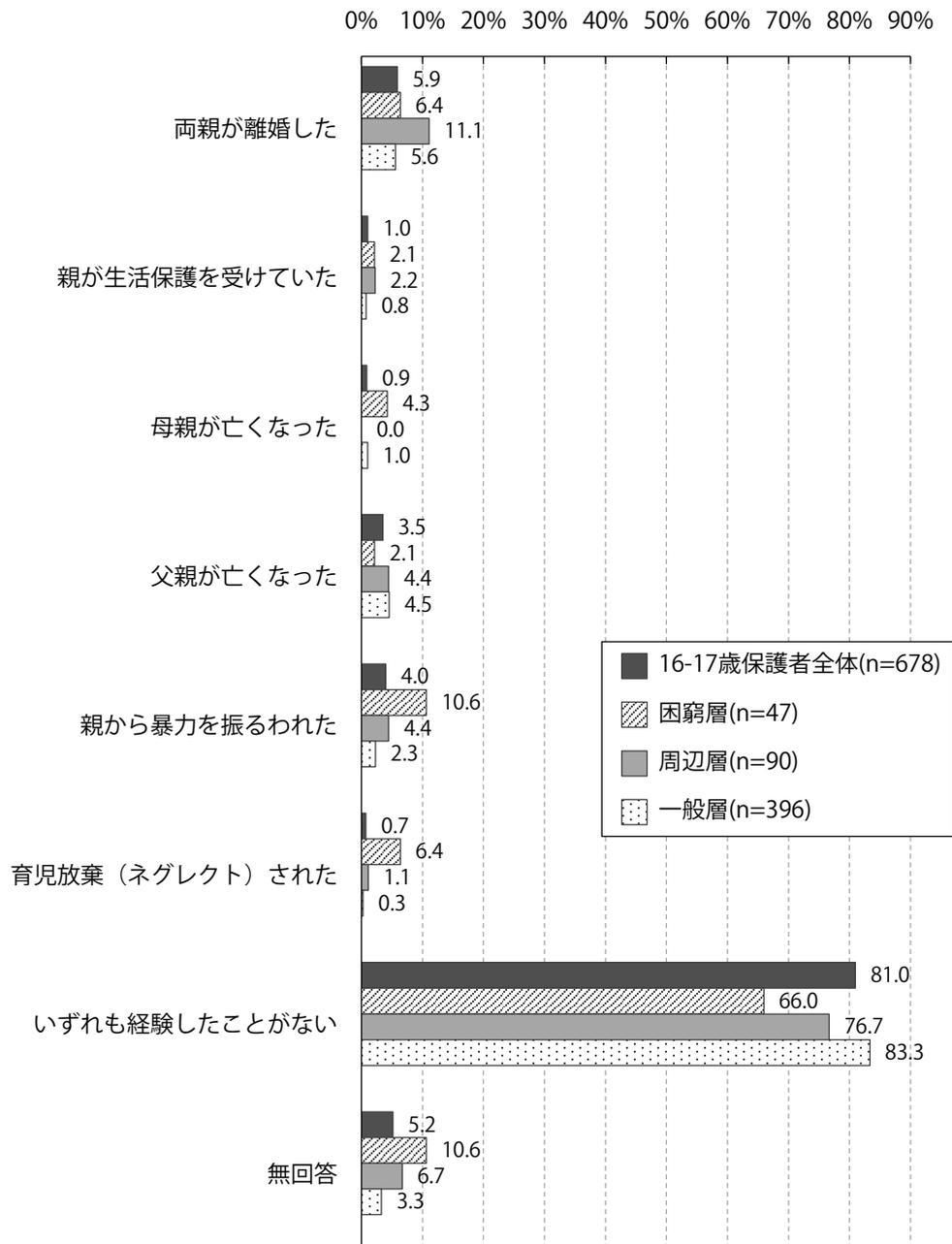


## 【保護者票】

16-17歳の保護者の、成人するまでの体験について、割合の数値が低いものもあるが生活困難度との相関がみられる項目がある。「親から暴力を振るわれた」「育児放棄（ネグレクト）された」の項目において、生活困難度が高いほど割合が高くなっている。

## 問40 成人するまでにした体験

## 16-17歳



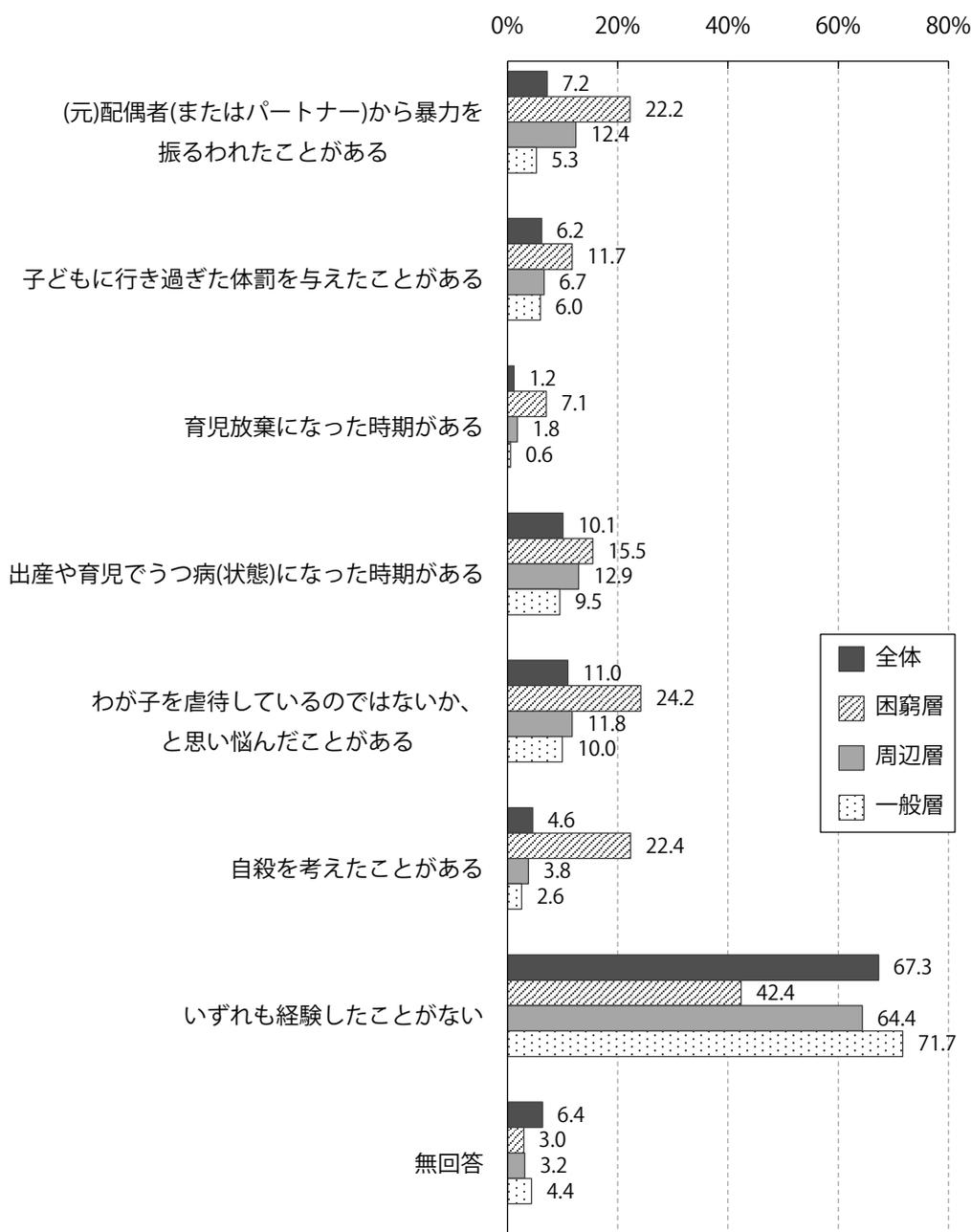
(4) 子育てにかかわってからの経験

【保護者票】

小学5年生の保護者の、子育てにかかわってからの経験では、生活困難度との相関がすべての項目で現れている。困窮層についてみると、「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振るわれたことがある」「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」「自殺を考えたことがある」で割合が20%を超えている。他の項目についても困窮層での割合が相対的に高くなっている。

問40 子育てにかかわってからの経験

小学5年生

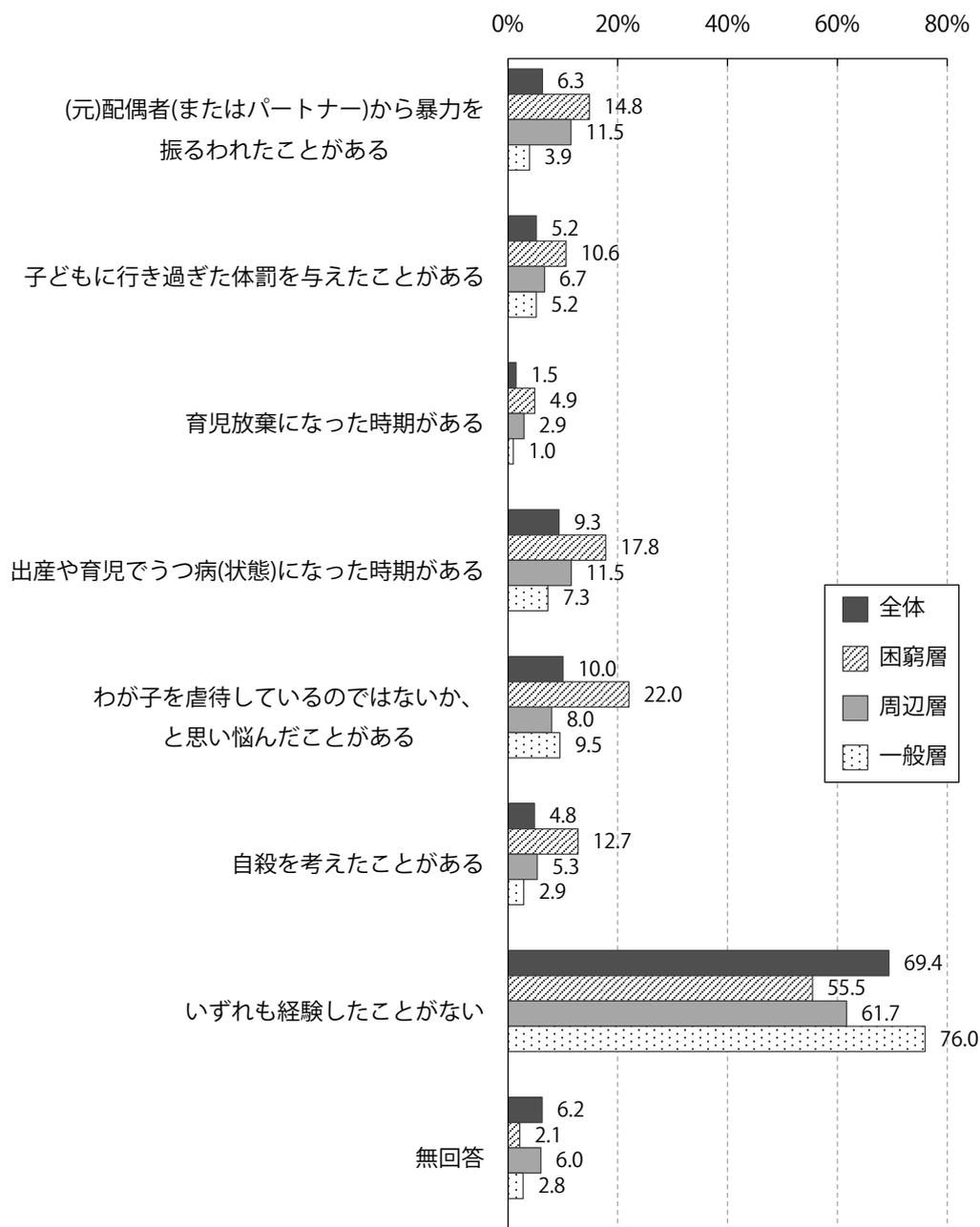


## 【保護者票】

中学2年生の保護者の、子育てにかかわってからの経験についても、生活困難度との相関が多く項目で現れている。困窮層についてみると、「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」で割合が20%を超えている。他の項目についても困窮層での割合が相対的に高くなっている。

## 問40 子育てにかかわってからの経験

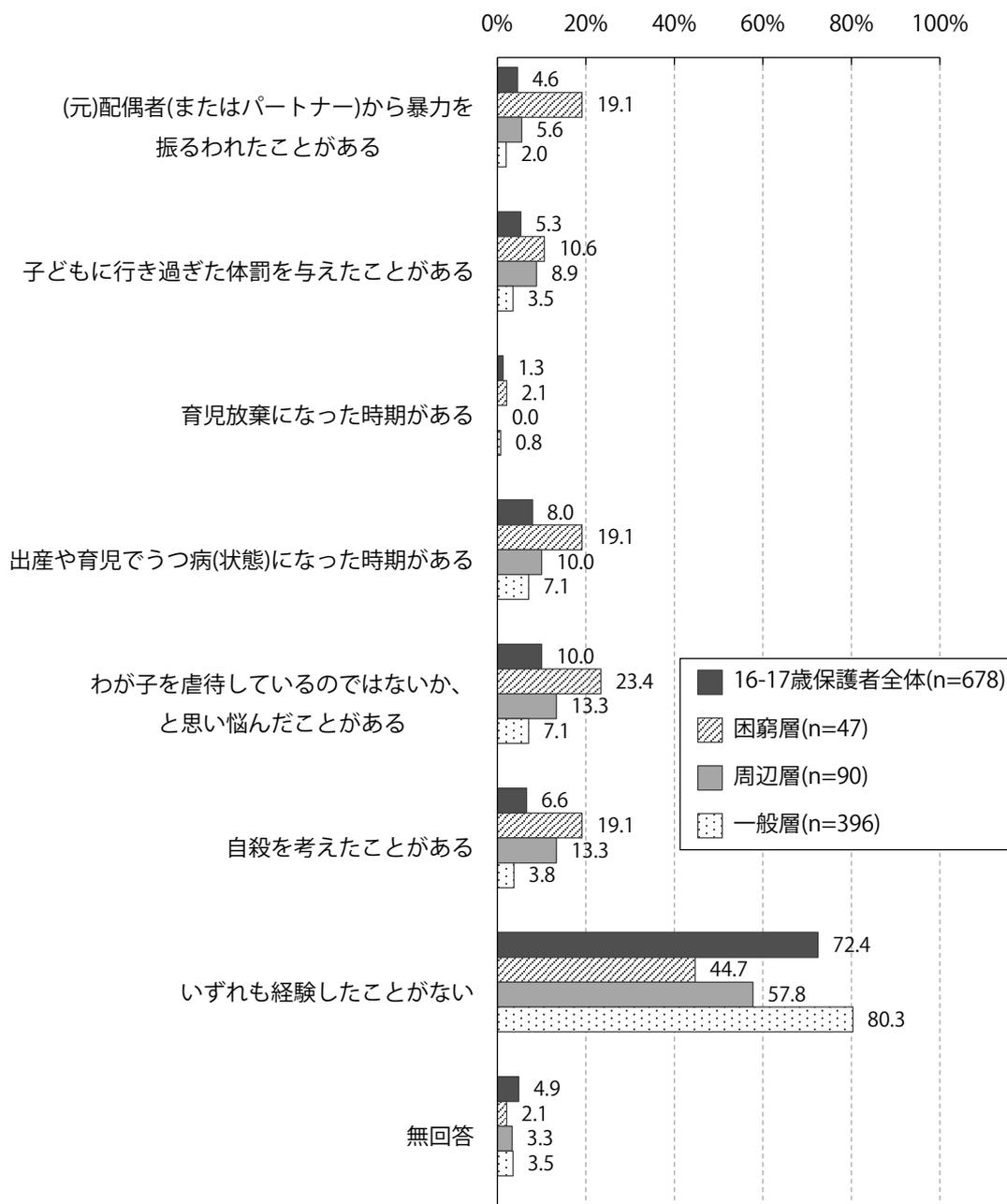
## 中学2年生



16-17歳の保護者の、子育てにかかわってからの経験についても、生活困難度との相関が多く項目で現れている。困窮層についてみると、「わが子を虐待しているのではないか、と思ひ悩んだことがある」で割合が20%を超えている。他の項目についても困窮層での割合が相対的に高くなっている。

問41 子育てにかかわってからの経験

16-17歳



## 6 子どもとのかかわり

### (1) 子どもとのかかわり頻度

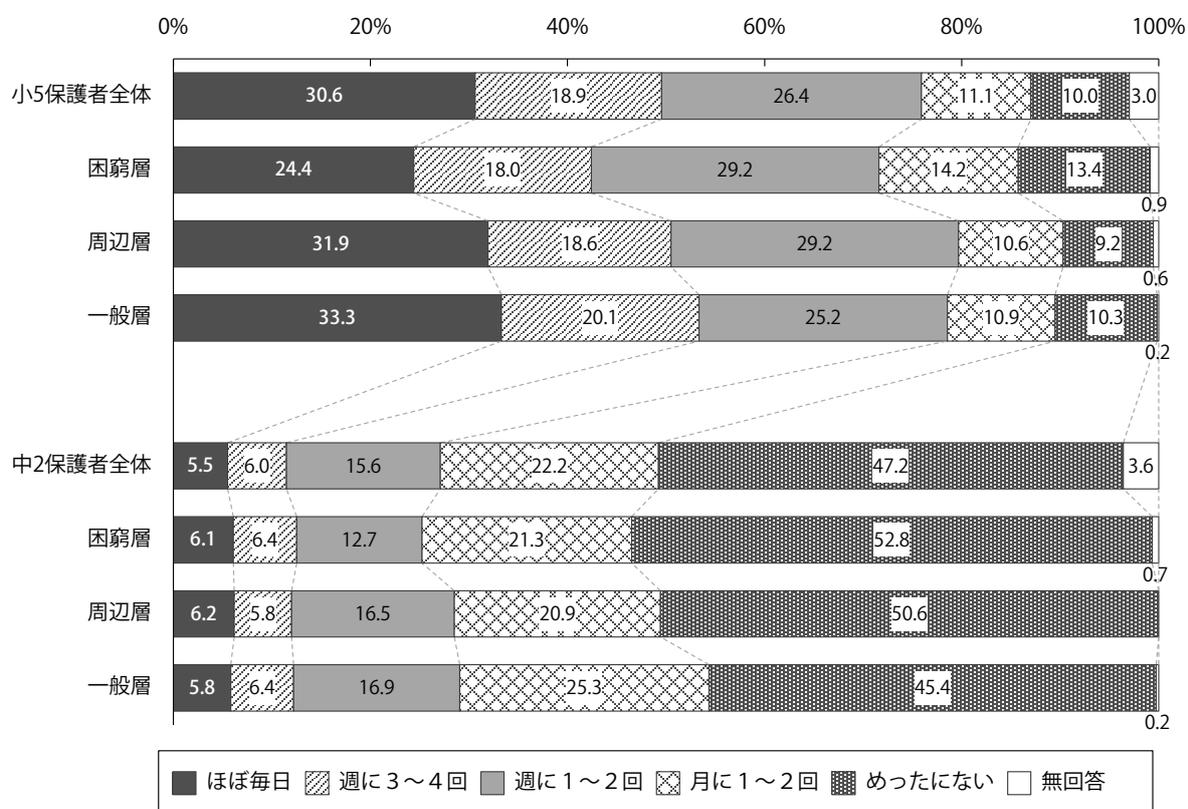
#### 小・中学生

#### A お子さんの勉強をみる

【保護者票】

子どもの勉強をみることについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で42.4%、周辺層で50.5%、一般層で53.4%、中学2年生の困窮層で12.5%、周辺層で12.0%、一般層で12.2%となっている。全体的に小学5年生で割合が高くなっている。

問24 子どもと関わる頻度／A お子さんの勉強をみる

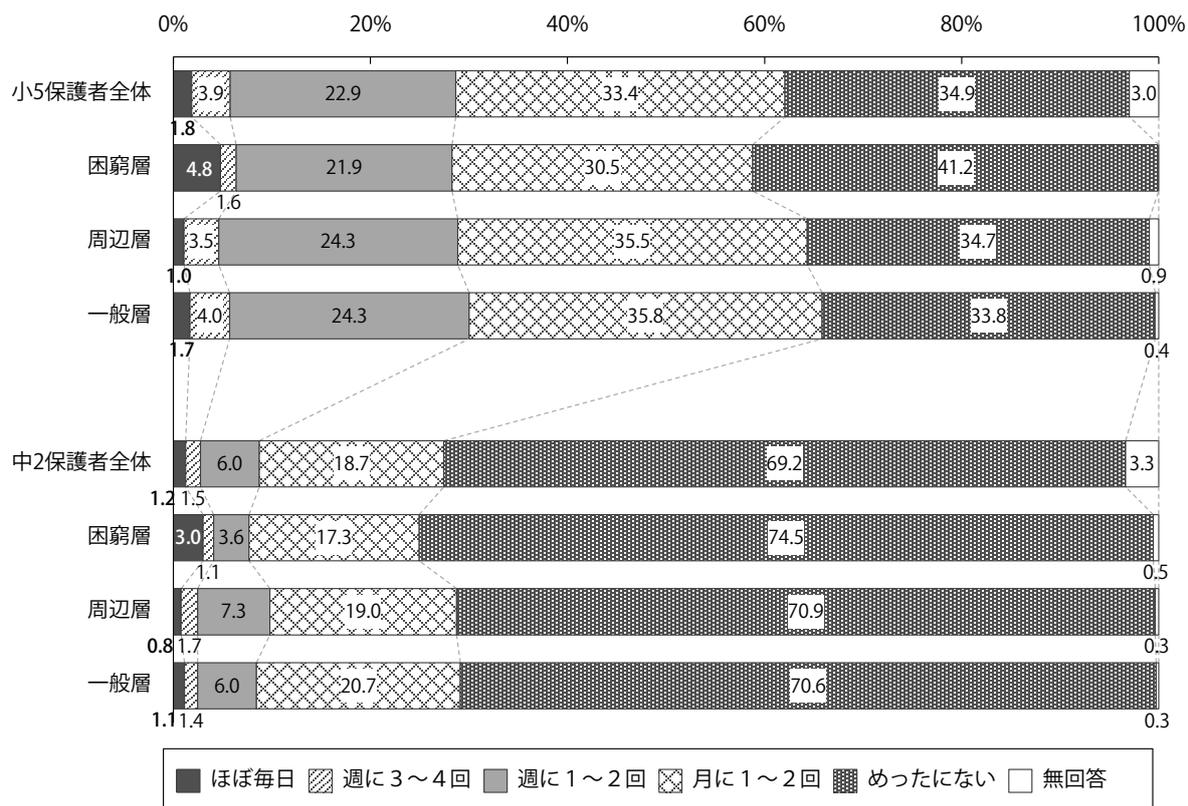


**B お子さんとからだを動かして遊ぶ（キャッチボールなど）**

【保護者票】

からだを動かして遊ぶことについて、「ほぼ毎日」「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で6.4%、周辺層で4.5%、一般層で5.7%、中学2年生の困窮層で4.1%、周辺層で2.5%、一般層で2.5%となっている。中学2年生では「めったにない」が多くなっている。

問24 子どもと関わる頻度／B お子さんとからだを動かして遊ぶ(キャッチボールなど)

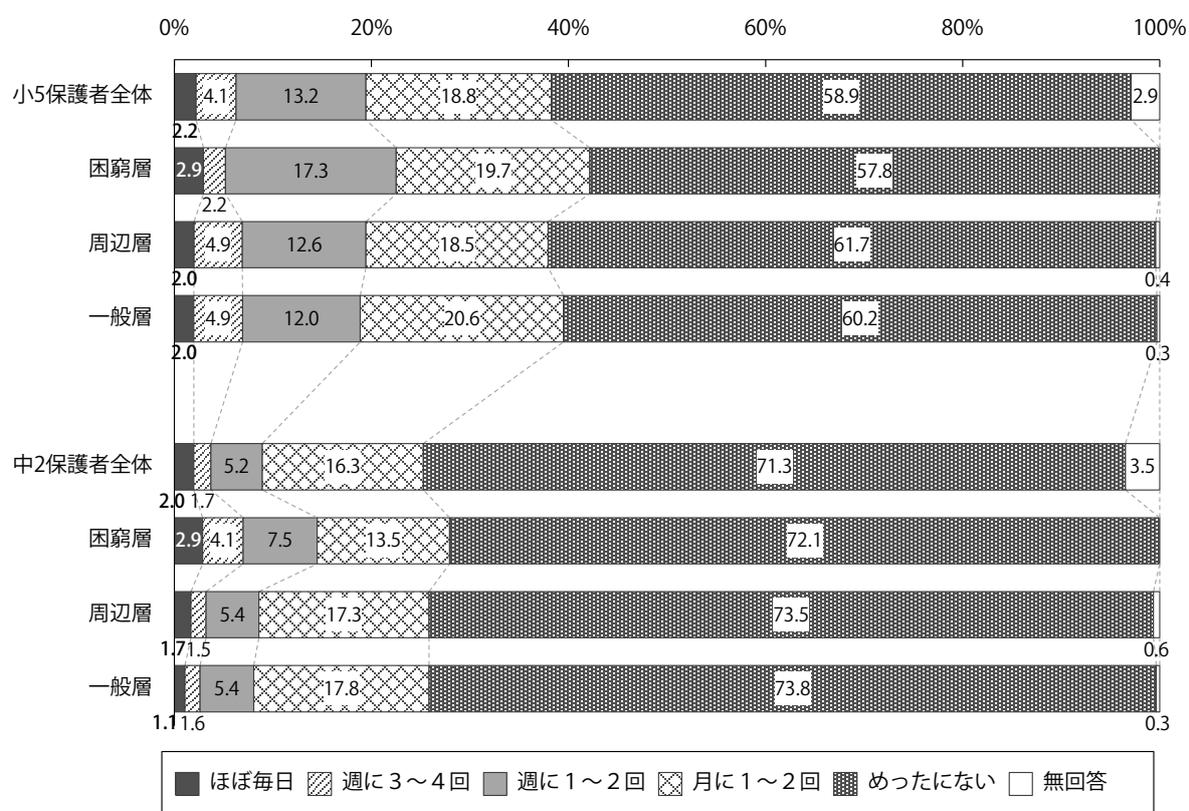


### C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）

【保護者票】

コンピュータゲームで遊ぶことについては、いずれの層でも「めったにない」が最も多くなっている。「週に1～2回」と「週に3～4回」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で19.5%、周辺層で17.5%、一般層で16.9%、中学2年生の困窮層で11.6%、周辺層で6.9%、一般層で7.0%となっている。「ほぼ毎日」はいずれの層でも3%未満で、中学2年生では生活困難度との相関がみられる。

問24 子どもと関わる頻度／C お子さんとコンピュータゲームで遊ぶ（テレビゲーム・パソコンゲーム・携帯ゲームなど）



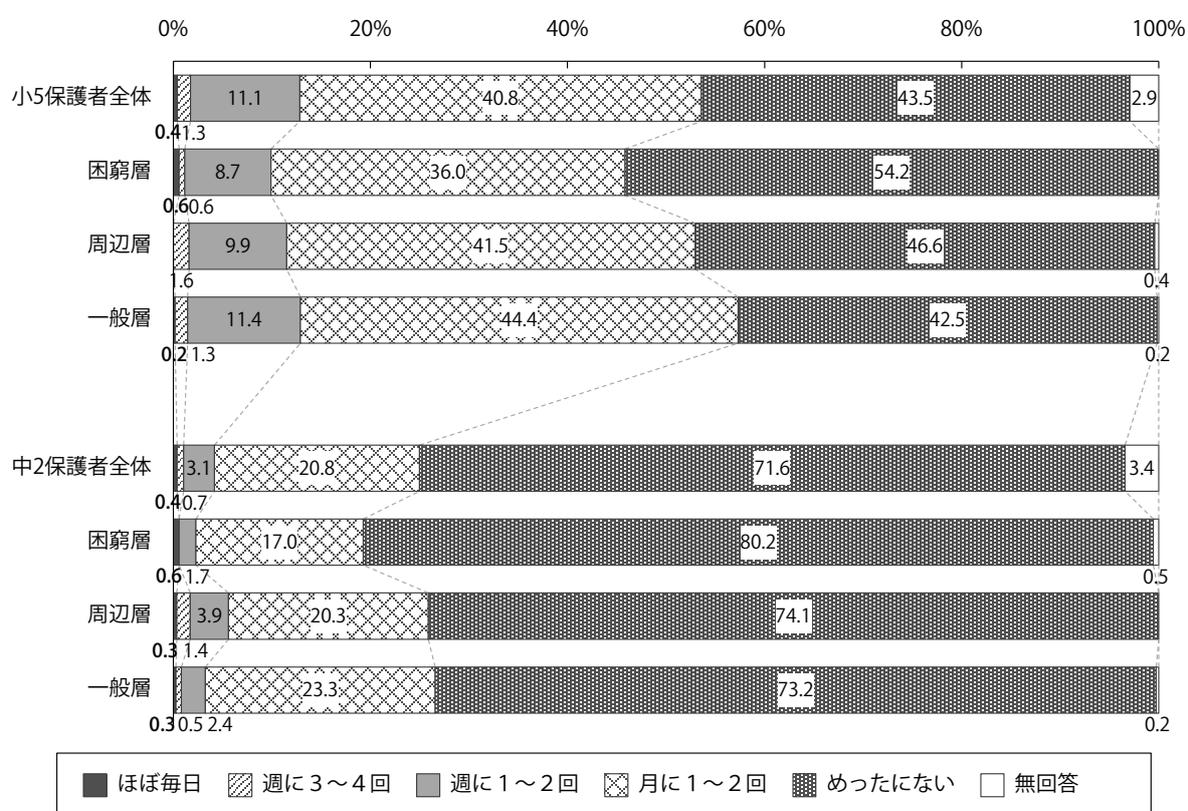
D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ(トランプ・ボードゲーム・将棋など)

【保護者票】

カードゲームなどで遊ぶことについては、中学2年生になると「めったにない」が最も多くなる。「週に3～4回」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で0.6%、周辺層で1.6%、一般層で1.3%、中学2年生の困窮層0.6%、周辺層で1.4%、一般層で0.5%となっている。生活困難度が高いほど、カードゲームなどで一緒に遊ぶことが少なくなる傾向がみられる。

「ほぼ毎日」は最も高い小学5年生の周辺層でも1.6%で、コンピュータゲームと比べると少なくなっている。

問24 子どもと関わる頻度/D お子さんとカードゲームなどで遊ぶ(トランプ・ボードゲーム・将棋など)



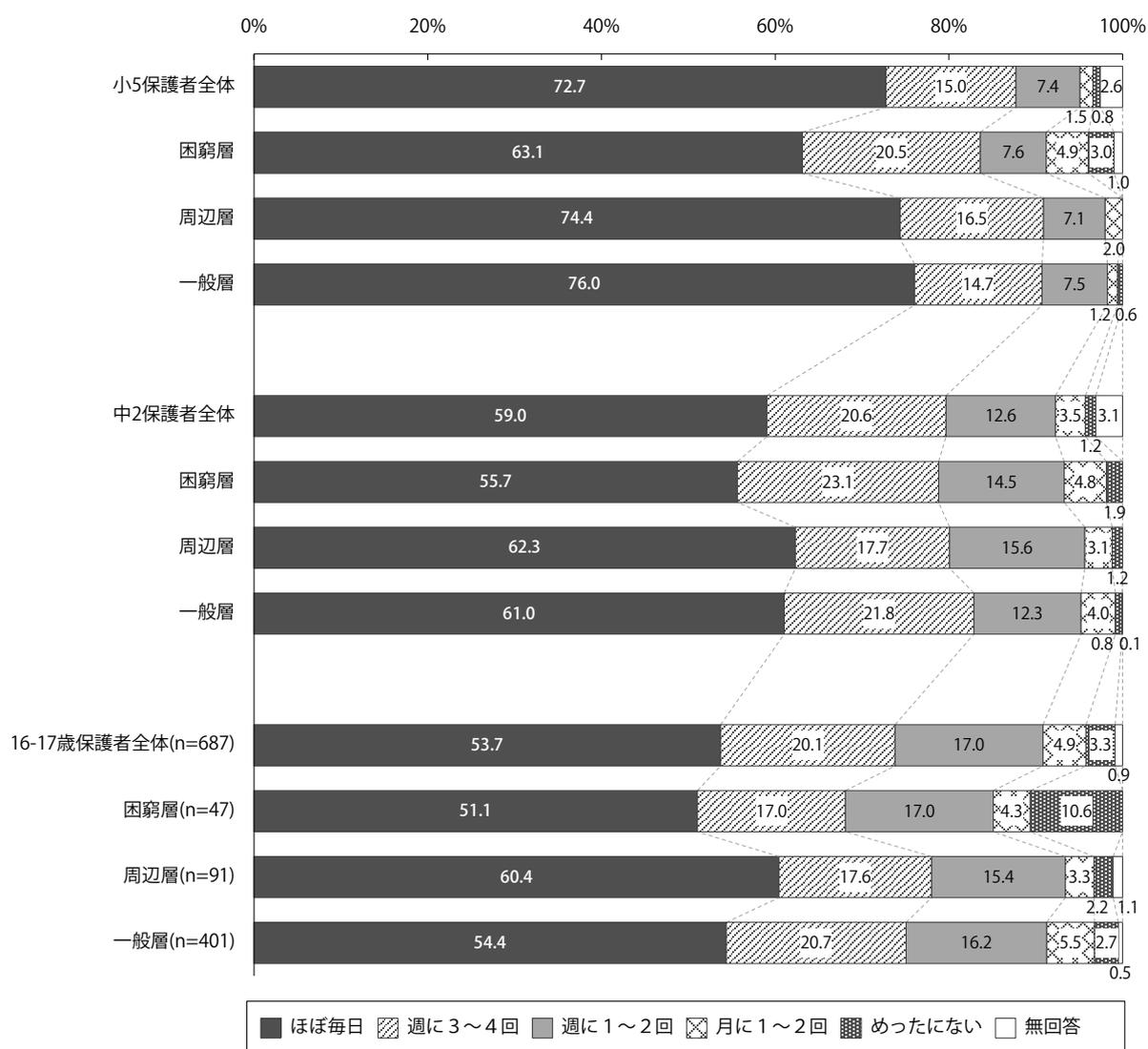
## 小・中学生・16-17歳

## E お子さんと学校生活の話をする

【保護者票】

子どもと学校生活の話をすることについて、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で63.1%、周辺層で74.4%、一般層で76.0%、中学2年生の困窮層で55.7%、周辺層で62.3%、一般層で61.0%、16-17歳の困窮層で51.1%、周辺層で60.4%、一般層で54.4%となっている。全体的に子どもの年齢層があがると学校生活の話をほぼ毎日する割合は低くなる。小学5年生においては、生活困難度と学校生活の話をほぼ毎日する割合に相関がみられる。

問24 子どもと関わる頻度／E お子さんと学校生活の話をする

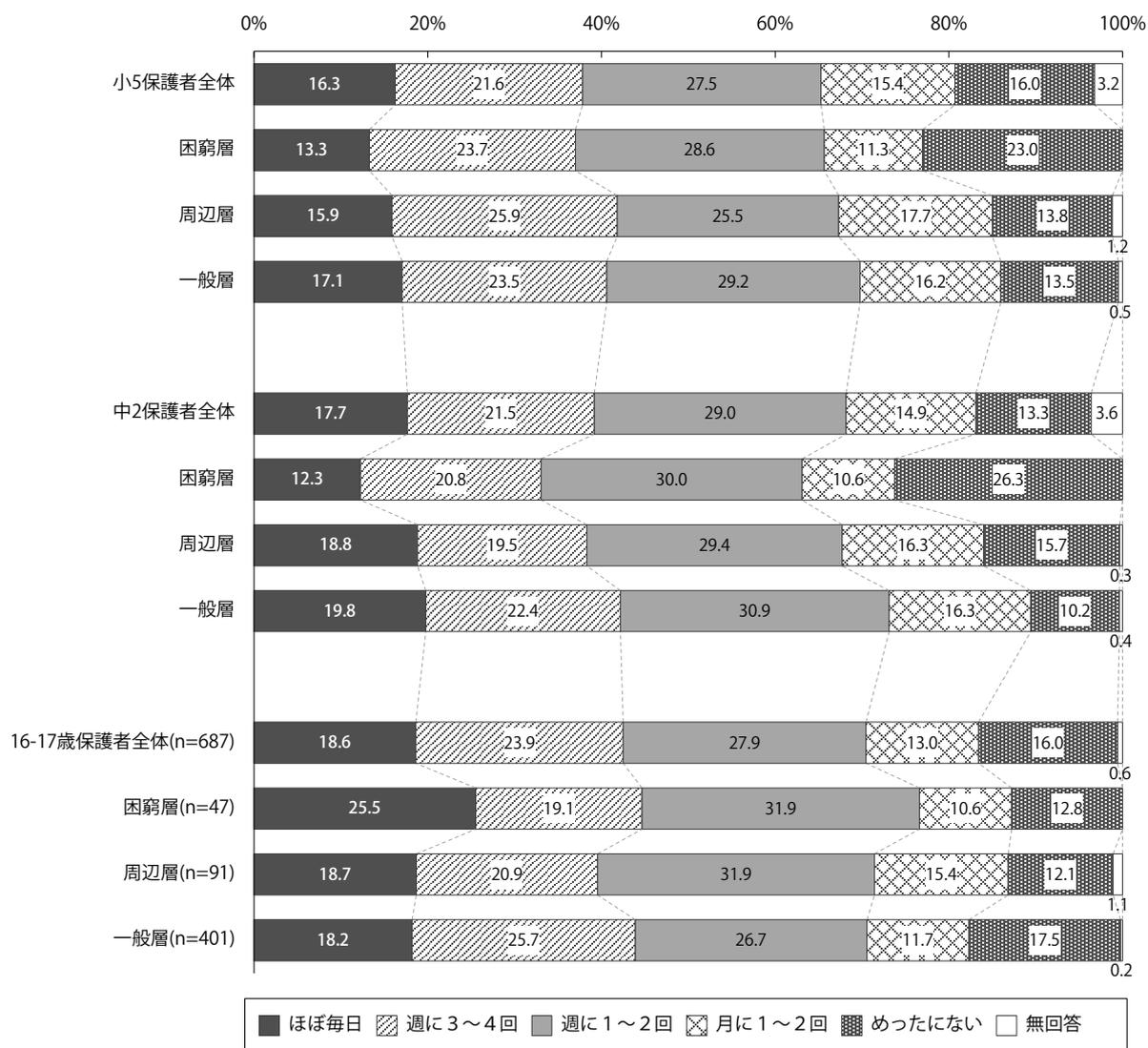


F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする

【保護者票】

子どもと政治経済・社会問題などのニュースの話をすることについて、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で13.3%、周辺層で15.9%、一般層で17.1%、中学2年生の困窮層で12.3%、周辺層で18.8%、一般層で19.8%、16-17歳の困窮層で25.5%、周辺層で18.7%、一般層で18.2%となっている。全体的に、子どもの年齢層があがると政治経済・社会問題などのニュースの話をする頻度は学校生活の話よりも低いことがわかる。

問24 子どもと関わる頻度／F お子さんと政治経済・社会問題などのニュースの話をする

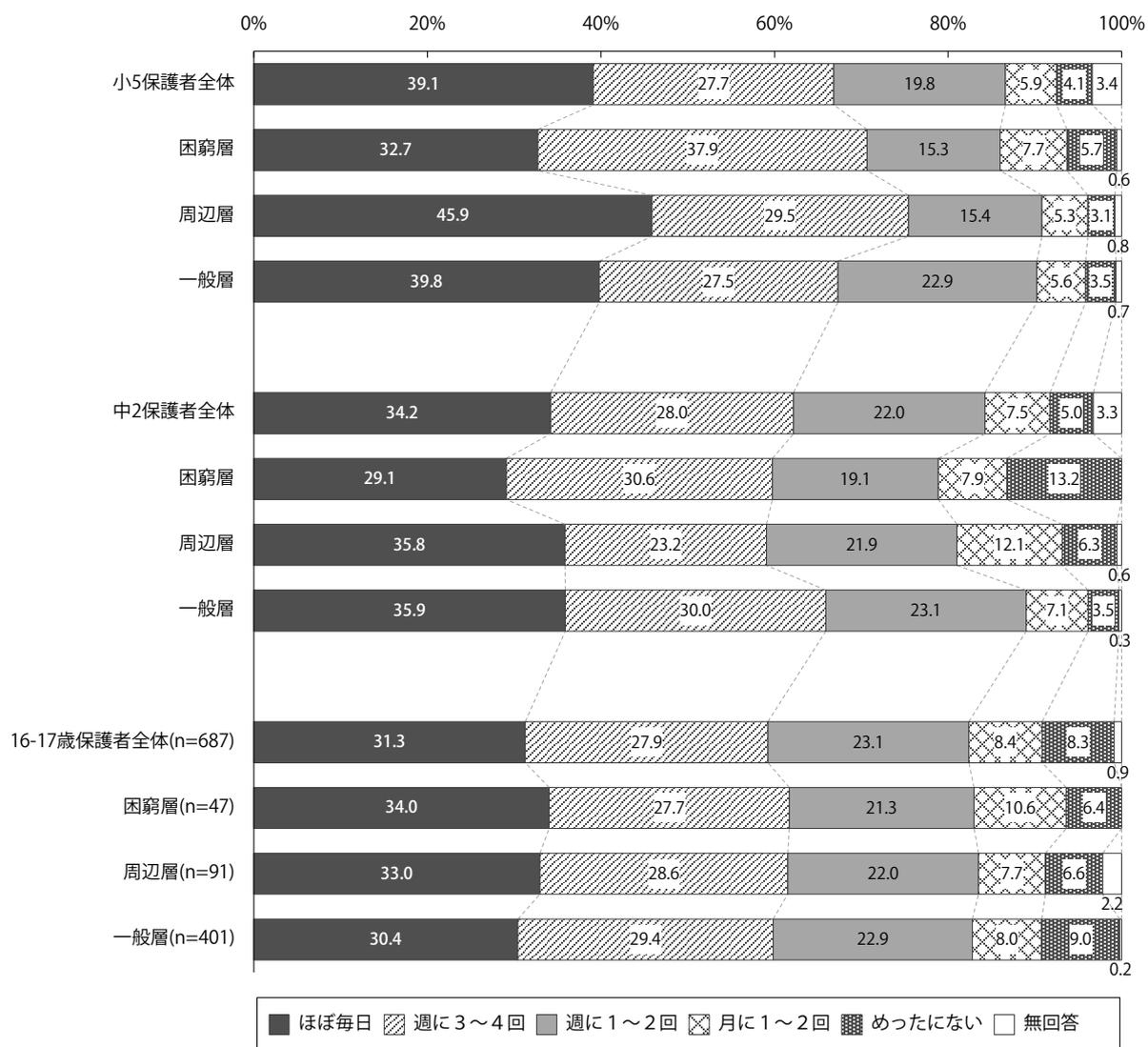


## G お子さんとテレビ番組（ニュースを除く）の話をする

【保護者票】

子どもとテレビ番組（ニュースを除く）の話をすることについて、「ほぼ毎日」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で32.7%、周辺層で45.9%、一般層で39.8%、中学2年生の困窮層で29.1%、周辺層で35.8%、一般層で35.9%、16-17歳の困窮層で34.0%、周辺層で33.0%、一般層で30.4%となっている。全体的に、政治経済・社会問題などのニュースの話をするよりも頻度は高い。

問24 子どもと関わる頻度／G お子さんとテレビ番組(ニュースを除く)の話をする

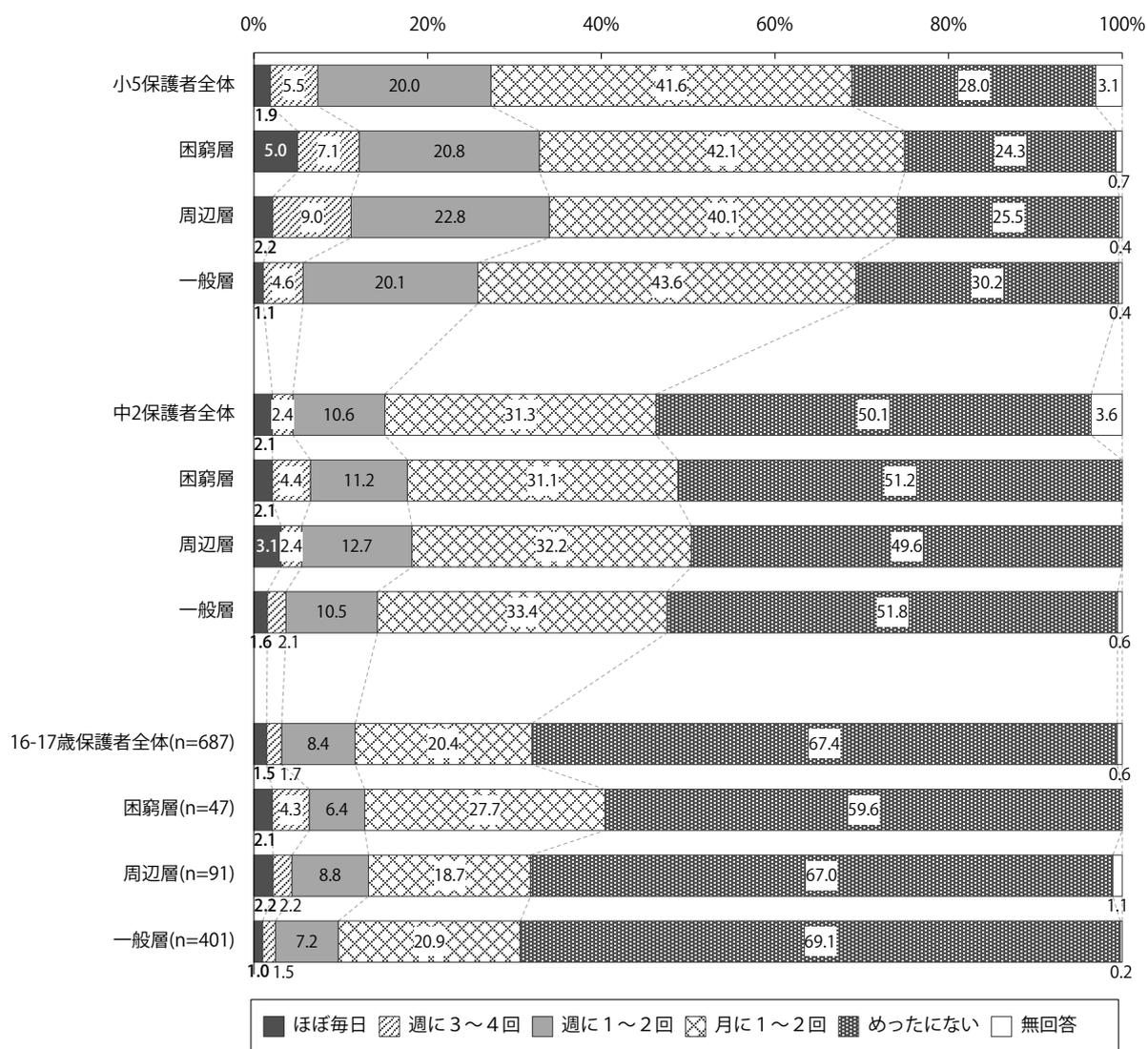


## H お子さんと一緒に料理をする

【保護者票】

子どもと一緒に料理をすることについて、中学2年生および16-17歳では「めったにない」がほとんどの層で過半数となっており、行っている場合でもおおむね子どもの年齢が上がるほど頻度は少なくなっている。「月に1~2回」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で42.1%、周辺層で40.1%、一般層で43.6%、中学2年生の困窮層で31.1%、周辺層で32.2%、一般層で33.4%、16-17歳の困窮層で27.7%、周辺層で18.7%、一般層で20.9%となっている。

問24 子どもと関わる頻度/H お子さんと一緒に料理をする

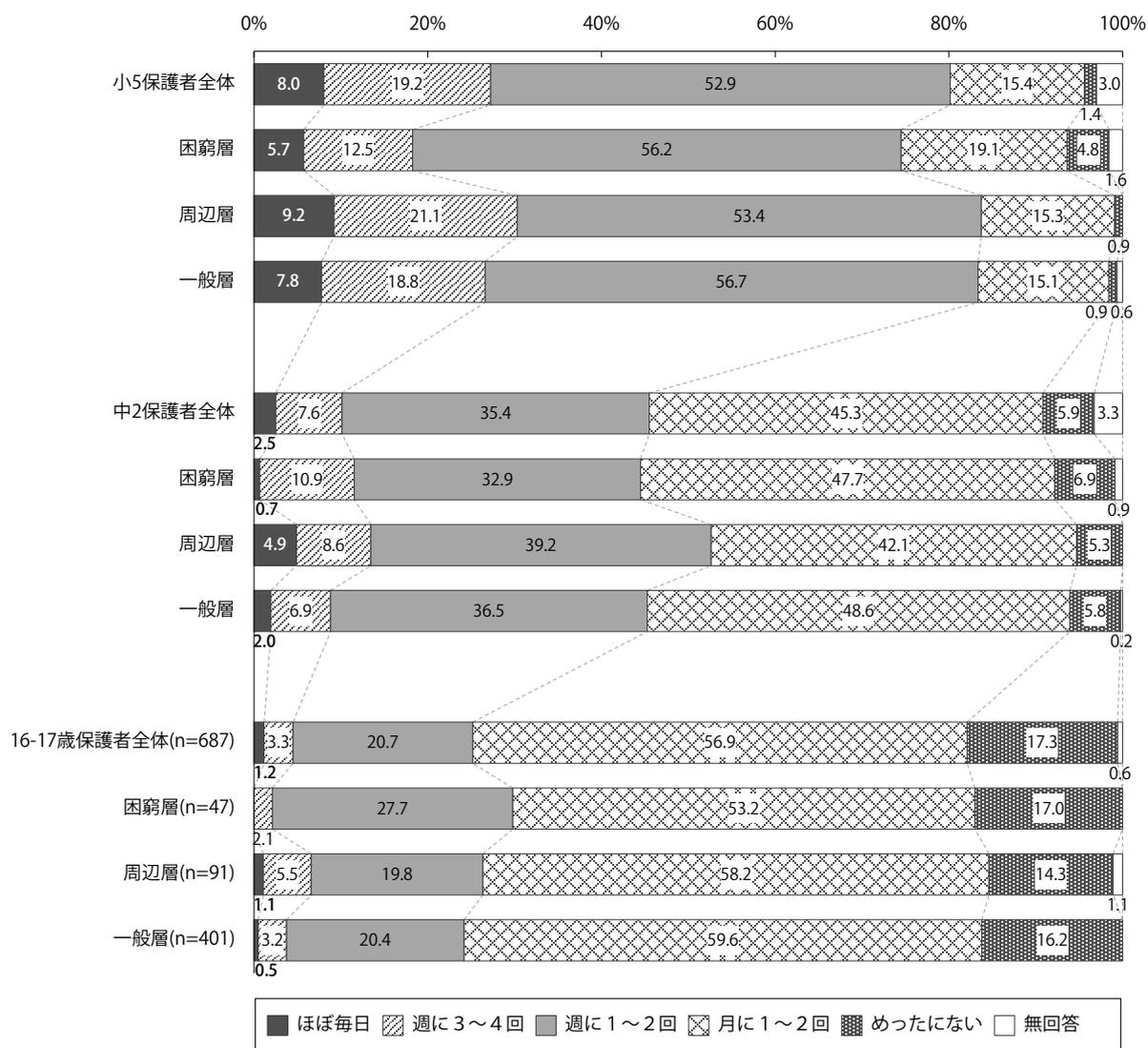


## I お子さんと一緒に外出をする

【保護者票】

子どもと一緒に外出をすることについて、「週に1～2回」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で56.2%、周辺層で53.4%、一般層で56.7%、中学2年生の困窮層で32.9%、周辺層で39.2%、一般層で36.5%、16-17歳の困窮層で27.7%、周辺層で19.8%、一般層で20.4%となっている。全体的に、子どもの年齢があがるほど子どもと一緒に外出の機会は減っていく。

## 問24 子どもと関わる頻度／I お子さんと一緒に外出をする

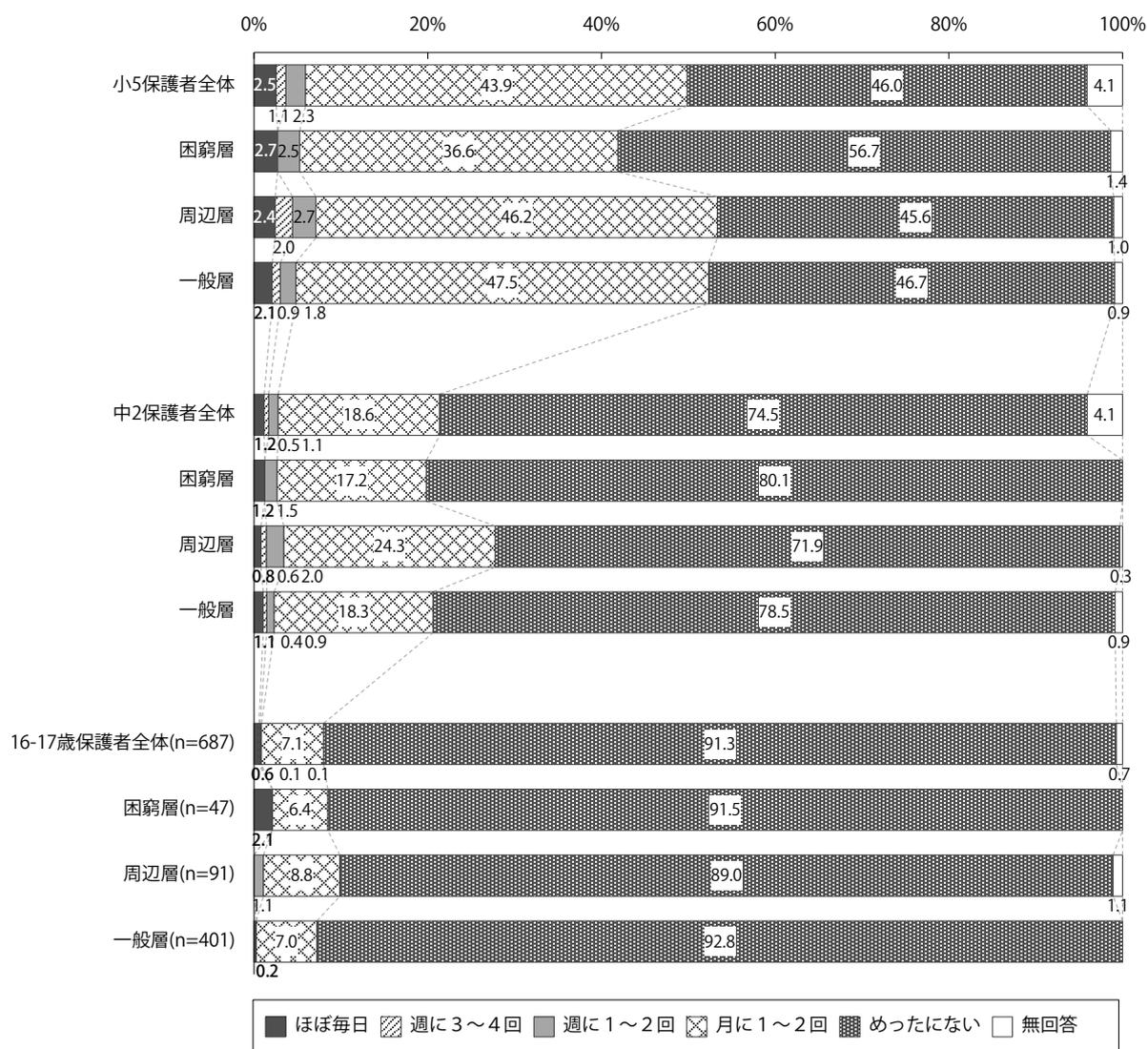


J お子さんと一緒に、住んでいる地域の行事に参加する

【保護者票】

子どもと一緒に、住んでいる地域の行事に参加することについて、「月に1～2回」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で36.6%、周辺層で46.2%、一般層で47.5%、中学2年生の困窮層で17.2%、周辺層で24.3%、一般層で18.3%、16-17歳の困窮層で6.4%、周辺層で8.8%、一般層で7.0%となっている。生活困難度との明確な相関はみられず、全体に、子どもの年齢があがるほどその機会は減っていくことがわかる。「週に1～2回」よりも多いとする回答の割合が低いのは、行事そのものの開催頻度によることも考えられる。

問24 子どもと関わる頻度/J お子さんと一緒に、住んでいる地域の行事に参加する

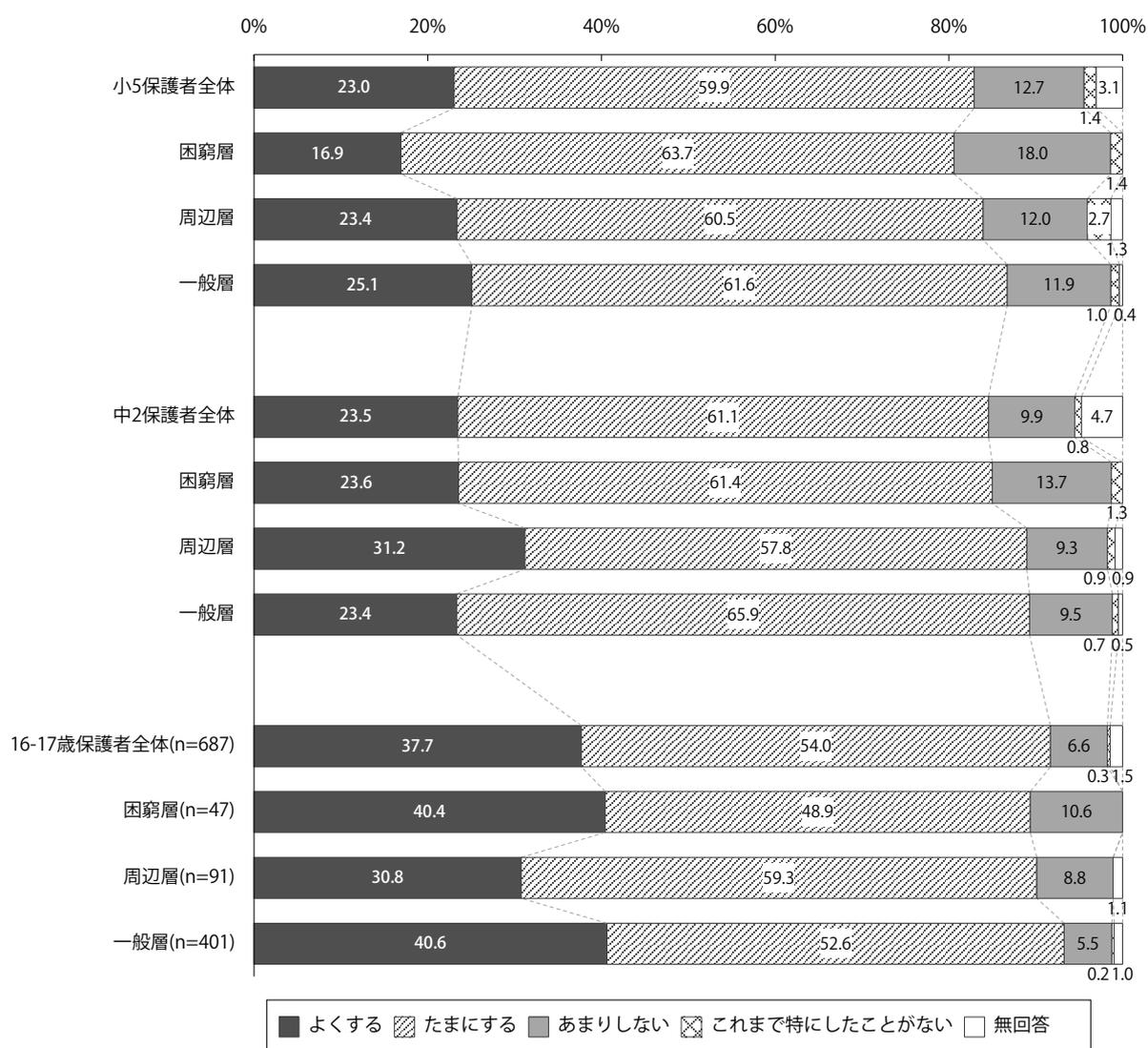


## (2) 子どもの将来についての会話

【保護者票】

子どもと、子どもの将来についての会話をすることについて、「よくする」「たまにする」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で80.6%、周辺層で83.9%、一般層で86.7%、中学2年生の困窮層で85.0%、周辺層で89.0%、一般層で89.3%、16-17歳の困窮層で89.3%、周辺層で90.1%、一般層で93.2%となっている。いずれの年齢層でも困窮層では他の層に比べて子どもの将来についての会話の頻度が少なくなっている。

問26 子どもの将来について、一緒に考えたり話したりする頻度



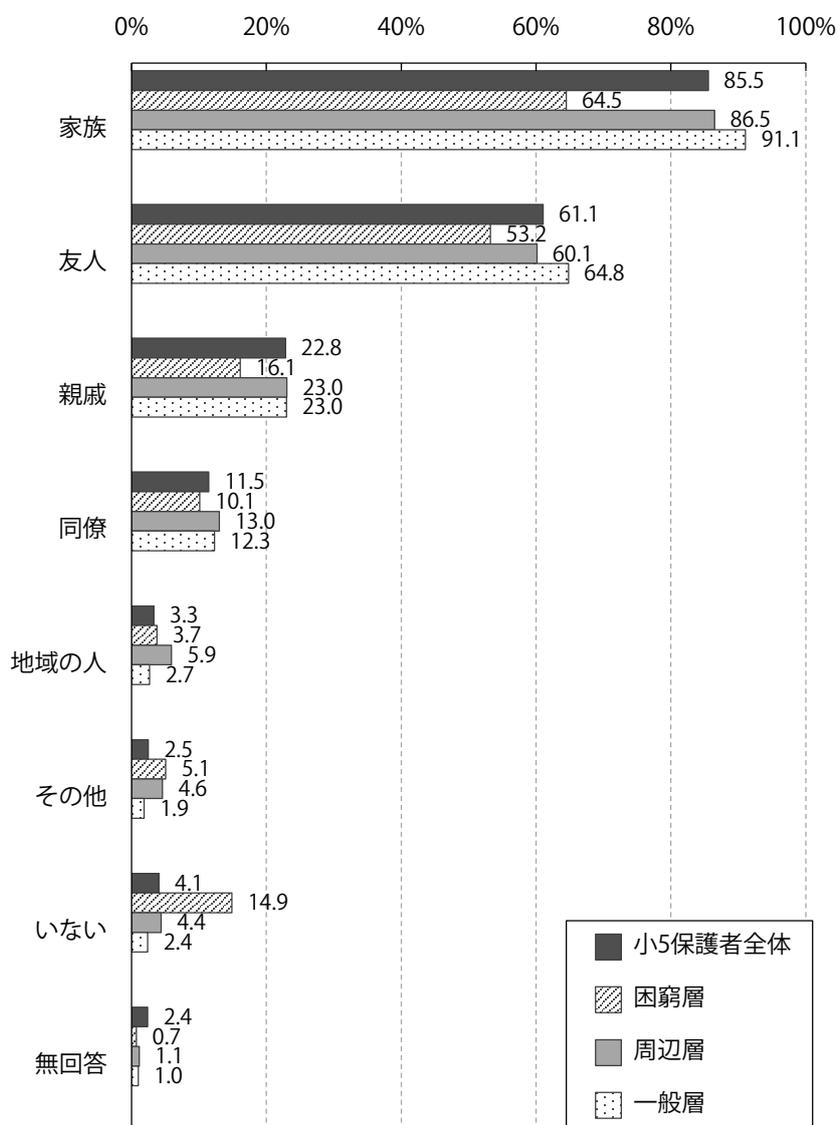
7 保護者の相談相手

【保護者票】

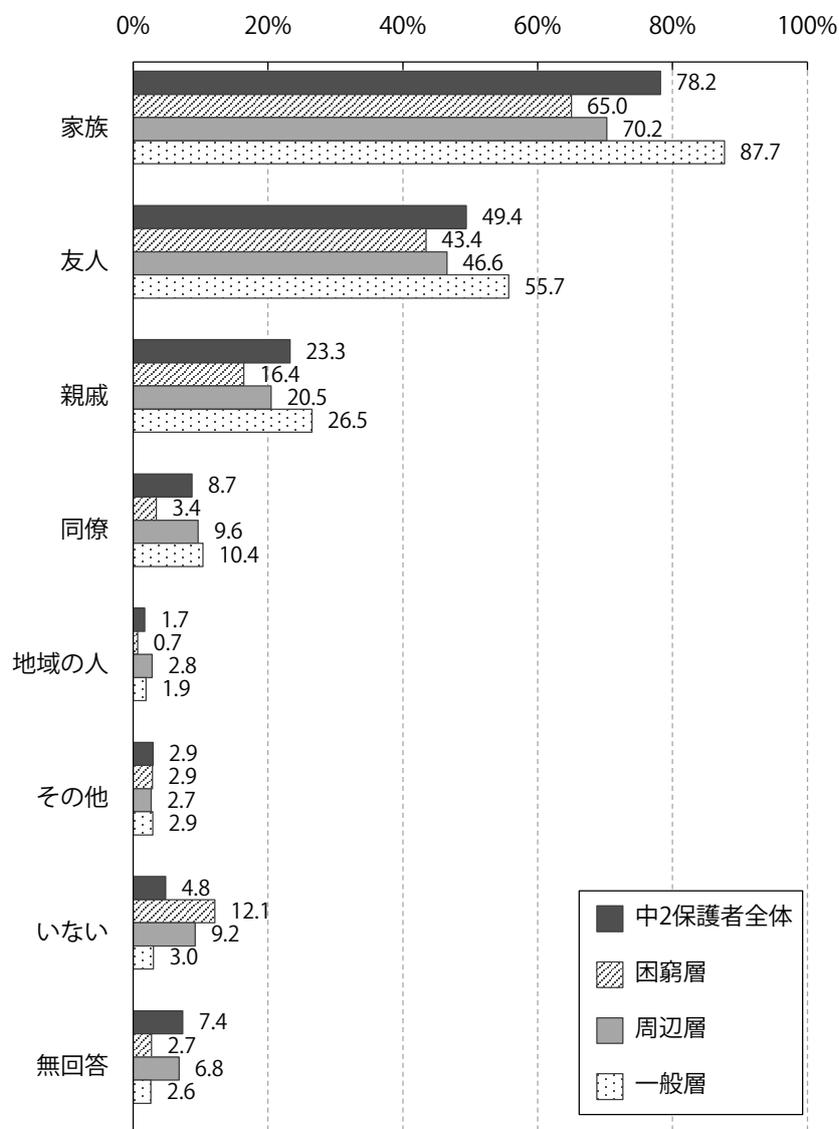
保護者の相談相手についてはどの年齢層の保護者でも「家族」「友人」「親戚」が上位3位を占めている。「いない」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で14.9%、周辺層で4.4%、一般層で2.4%、中学2年生の困窮層で12.1%、周辺層で9.2%、一般層で3.0%、16-17歳の困窮層で14.9%、周辺層で11.0%、一般層で4.5%となっており、生活困難度が高いほど相談相手がないという傾向が現れている。

問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手

小学5年生

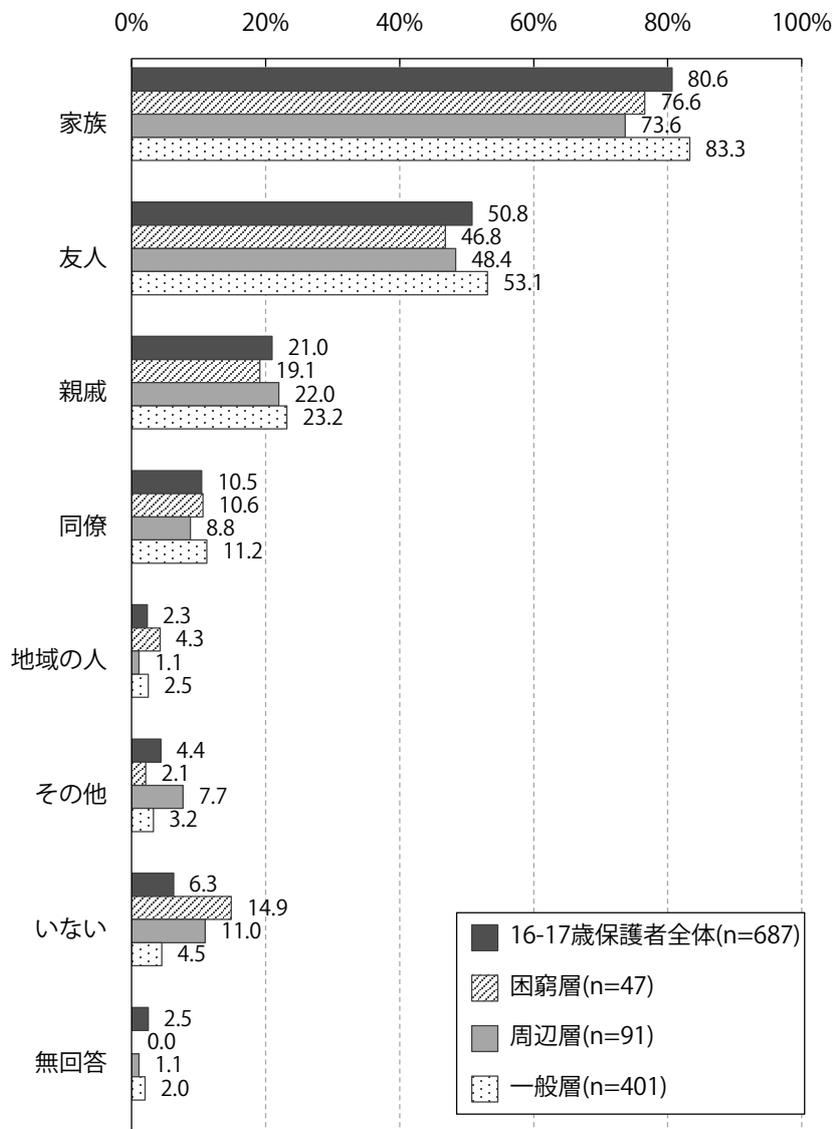


問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手

**中学2年生**

問45 困ったときや悩みがあるときの相談相手

16-17歳



## 【保護者票】

回答者の約85%を占める母親において、困りごとや悩みごとの相談相手と1週間の平均就労時間の関連性をみると、小学5年生保護者の場合、相談先で「地域の人」をあげた人では「10～20時間未満」の割合が27.7%で最も高く、「いない」では「40～50時間未満」が28.8%で最も高い。

中学2年生の保護者では、「地域の人」は「20～30時間未満」の割合が34.7%で最も高く、「いない」では「40～50時間未満」が28.7%で最も高い。

16-17歳保護者では、「地域の人」は「10～20時間未満」「20～30時間未満」「50時間以上」が23.1%と同じ割合であるものの、「いない」では「40～50時間未満」の割合が36.7%で最も高くなっている。

就労時間が長く忙しい人ほど、相談先として「地域の人」が減り、相談先のいない人が増える傾向がみられる。

## 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手(母親の1週間の平均就労時間別)

## 小学5年生

		合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						
			10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	無回答
全体		1355	105	314	353	193	275	66	49
		100.0	7.7	23.2	26.0	14.2	20.3	4.9	3.6
【保護者票】 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	1163	91	275	310	171	225	49	43
		100.0	7.8	23.6	26.6	14.7	19.3	4.2	3.7
	友人	851	66	215	221	126	148	38	39
		100.0	7.7	25.2	26.0	14.8	17.4	4.4	4.5
	親戚	316	21	74	86	41	62	18	13
		100.0	6.7	23.5	27.1	13.1	19.6	5.7	4.3
	同僚	197	9	36	33	32	63	14	11
		100.0	4.5	18.1	16.7	16.4	32.1	6.9	5.3
	地域の人	39	1	11	8	5	9	1	4
	100.0	3.7	27.7	20.3	13.3	23.3	2.3	9.3	
その他	34	1	7	9	5	5	5	3	
	100.0	2.6	20.5	25.3	14.9	13.7	14.4	8.5	
いない	50	6	9	11	6	14	4	0	
	100.0	11.9	17.0	22.6	11.4	28.8	8.3	0.0	
無回答	23	0	6	3	2	10	1	1	
	100.0	0.0	26.0	11.8	8.7	45.7	3.9	3.9	

**中学2年生**

		合計	【保護者票】問10-1 母親の1週間の平均就労時間						無回答
			10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	
全体		1433 100.0	71 5.0	291 20.3	416 29.0	204 14.3	313 21.9	96 6.7	40 2.8
【保護者票】 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	1145 100.0	58 5.1	249 21.8	350 30.6	161 14.1	241 21.1	67 5.8	19 1.6
	友人	737 100.0	44 6.0	165 22.4	226 30.6	101 13.7	143 19.4	46 6.2	13 1.8
	親戚	325 100.0	21 6.3	74 22.6	92 28.4	47 14.3	62 18.9	25 7.6	6 1.7
	同僚	148 100.0	6 3.8	28 19.2	35 23.5	18 12.5	46 31.0	12 8.3	3 1.8
	地域の人	25 100.0	2 6.7	2 6.3	9 34.7	5 19.1	5 20.7	3 12.6	0 0.0
	その他	41 100.0	0 0.0	8 18.9	17 41.3	7 16.2	8 19.5	2 4.1	0 0.0
	いない	57 100.0	3 5.3	10 17.6	9 16.4	9 15.8	16 28.7	8 14.7	1 1.5
	無回答	90 100.0	3 3.7	13 14.8	16 17.5	9 10.2	28 31.4	3 3.4	17 19.2

**16-17歳**

		合計	【保護者票】問11-1 母親の1週間の平均就労時間						無回答
			10時間未満	10～20時間未満	20～30時間未満	30～40時間未満	40～50時間未満	50時間以上	
全体		525 100.0	18 3.4	101 19.2	138 26.3	91 17.3	135 25.7	32 6.1	10 1.9
【保護者票】 問45 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	431 100.0	16 3.7	87 20.2	122 28.3	74 17.2	102 23.7	24 5.6	6 1.4
	友人	271 100.0	8 3.0	60 22.1	74 27.3	46 17.0	61 22.5	16 5.9	6 2.2
	親戚	112 100.0	8 7.1	26 23.2	26 23.2	21 18.8	23 20.5	6 5.4	2 1.8
	同僚	70 100.0	3 4.3	14 20.0	14 20.0	13 18.6	19 27.1	6 8.6	1 1.4
	地域の人	13 100.0	0 0.0	3 23.1	3 23.1	1 7.7	2 15.4	3 23.1	1 7.7
	その他	22 100.0	0 0.0	3 13.6	4 18.2	3 13.6	8 36.4	3 13.6	1 4.5
	いない	30 100.0	1 3.3	4 13.3	3 10.0	6 20.0	11 36.7	4 13.3	1 3.3
	無回答	12 100.0	0 0.0	1 8.3	6 50.0	1 8.3	3 25.0	0 0.0	1 8.3

## 【保護者票】

相談相手と、保護者の子育てに関わってからの経験の関連性について、下表の縦軸で「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振られたことがある」と回答した人の相談先をみると、相談相手が「いない」と回答した割合は、小学5年生で24.6%、中学2年生で14.4%、16-17歳で20.0%となっており、小学5年生と16-17歳では「いない」が最も多くなっている。問44(45)で、相談先としていずれの年齢層、いずれの生活困難度でも「家族」が最も高い割合となっているが、DV(ドメスティック・バイオレンス)の問題を抱えている、あるいは経験したことがある場合は、本来最も相談をしたい身近な相手を失っている可能性が高い。

## 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手(保護者の子育てにかかわってからの経験別)

## 小学5年生

上段：回答者数 下段：%		合計	【保護者票】問40 子育てにかかわってからの経験							
			(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振られたことがある	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	育児放棄になった時期がある	出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある	わが子を虐待しているのではないか、と思ったり悩んだことがある	自殺を考えたことがある	1~6のいずれも経験したことがない	無回答
全体		1886 100.0	136 7.2	118 6.2	23 1.2	190 10.1	207 11.0	86 4.6	1269 67.3	120 6.4
【保護者票】 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	1623 100.0	94 5.8	101 6.2	14 0.8	149 9.2	161 9.9	48 2.9	1151 70.9	83 5.1
	友人	1146 100.0	79 6.9	82 7.2	13 1.1	116 10.1	127 11.1	41 3.5	791 69.0	48 4.2
	親戚	436 100.0	30 7.0	27 6.1	4 0.9	40 9.2	39 9.0	14 3.3	311 71.4	23 5.3
	同僚	211 100.0	16 7.7	24 11.4	3 1.2	14 6.6	26 12.3	8 3.9	146 69.1	8 3.6
	地域の人	57 100.0	3 4.7	4 7.9	1 1.6	10 18.3	7 11.9	6 10.6	35 61.4	3 4.6
	その他	48 100.0	8 15.7	4 7.4	1 1.4	9 19.5	4 9.0	3 6.9	28 59.4	4 7.5
	いない	74 100.0	18 24.6	10 13.1	5 6.5	18 23.8	20 26.5	22 29.0	25 34.2	6 7.4
	無回答	43 100.0	1 3.4	0 0.0	0 0.0	2 4.0	2 5.6	1 2.1	20 45.9	19 45.1

中学2年生

上段：回答者数 下段：%		合計	【保護者票】問40 子育てにかかわってからの経験							
			(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振られたことがある	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	育児放棄になった時期がある	出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある	わが子を虐待しているのではないか、と思いい悩んだことがある	自殺を考えたことがある	1～6のいずれも経験したことがない	無回答
全体		1854 100.0	117 6.3	96 5.2	27 1.5	173 9.3	186 10.0	89 4.8	1287 69.4	115 6.2
【保護者票】 問44 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	1457 100.0	67 4.6	75 5.1	18 1.2	123 8.4	134 9.2	45 3.1	1087 74.6	61 4.2
	友人	923 100.0	52 5.6	49 5.3	12 1.3	70 7.6	97 10.5	32 3.5	669 72.4	39 4.2
	親戚	432 100.0	16 3.6	24 5.6	3 0.8	35 8.1	36 8.2	15 3.5	329 76.2	16 3.7
	同僚	159 100.0	8 4.9	11 7.0	3 2.1	12 7.7	17 10.7	6 3.7	118 74.2	4 2.4
	地域の人	33 100.0	1 2.1	2 4.8	2 4.8	2 7.4	1 4.3	2 7.4	23 69.9	4 13.2
	その他	55 100.0	9 15.7	4 7.8	2 3.3	14 25.3	13 23.5	9 17.1	26 48.1	1 2.5
	いない	86 100.0	12 14.4	10 11.9	4 4.9	13 14.9	13 15.6	18 20.4	46 53.5	2 2.6
	無回答	132 100.0	14 10.3	3 2.6	3 2.3	14 10.5	12 9.0	8 5.8	58 44.0	41 31.0

16-17歳

上段：回答者数 下段：%		合計	【保護者票】問41 子育てにかかわってからの経験							
			(元)配偶者(またはパートナー)から暴力を振られたことがある	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	育児放棄になった時期がある	出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある	わが子を虐待しているのではないか、と思いい悩んだことがある	自殺を考えたことがある	1～6のいずれも経験したことがない	無回答
全体		678 100.0	31 4.6	36 5.3	9 1.3	54 8.0	68 10.0	45 6.6	491 72.4	33 4.9
【保護者票】 問45 困ったときや悩みがあるときの相談相手	家族	550 100.0	16 2.9	28 5.1	7 1.3	41 7.5	48 8.7	24 4.4	424 77.1	22 4.0
	友人	347 100.0	12 3.5	17 4.9	3 0.9	32 9.2	36 10.4	20 5.8	252 72.6	14 4.0
	親戚	142 100.0	5 3.5	5 3.5	1 0.7	12 8.5	13 9.2	7 4.9	110 77.5	3 2.1
	同僚	72 100.0	5 6.9	3 4.2	1 1.4	4 5.6	9 12.5	6 8.3	57 79.2	0 0.0
	地域の人	16 100.0	0 0.0	2 12.5	0 0.0	4 25.0	4 25.0	0 0.0	9 56.3	0 0.0
	その他	29 100.0	2 6.9	2 6.9	1 3.4	5 17.2	3 10.3	3 10.3	18 62.1	2 6.9
	いない	40 100.0	8 20.0	4 10.0	1 2.5	4 10.0	8 20.0	11 27.5	17 42.5	1 2.5
	無回答	16 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	11 68.8	4 25.0

## 第10章 制度・サービスの利用

### 1 子ども本人の支援サービス利用意向

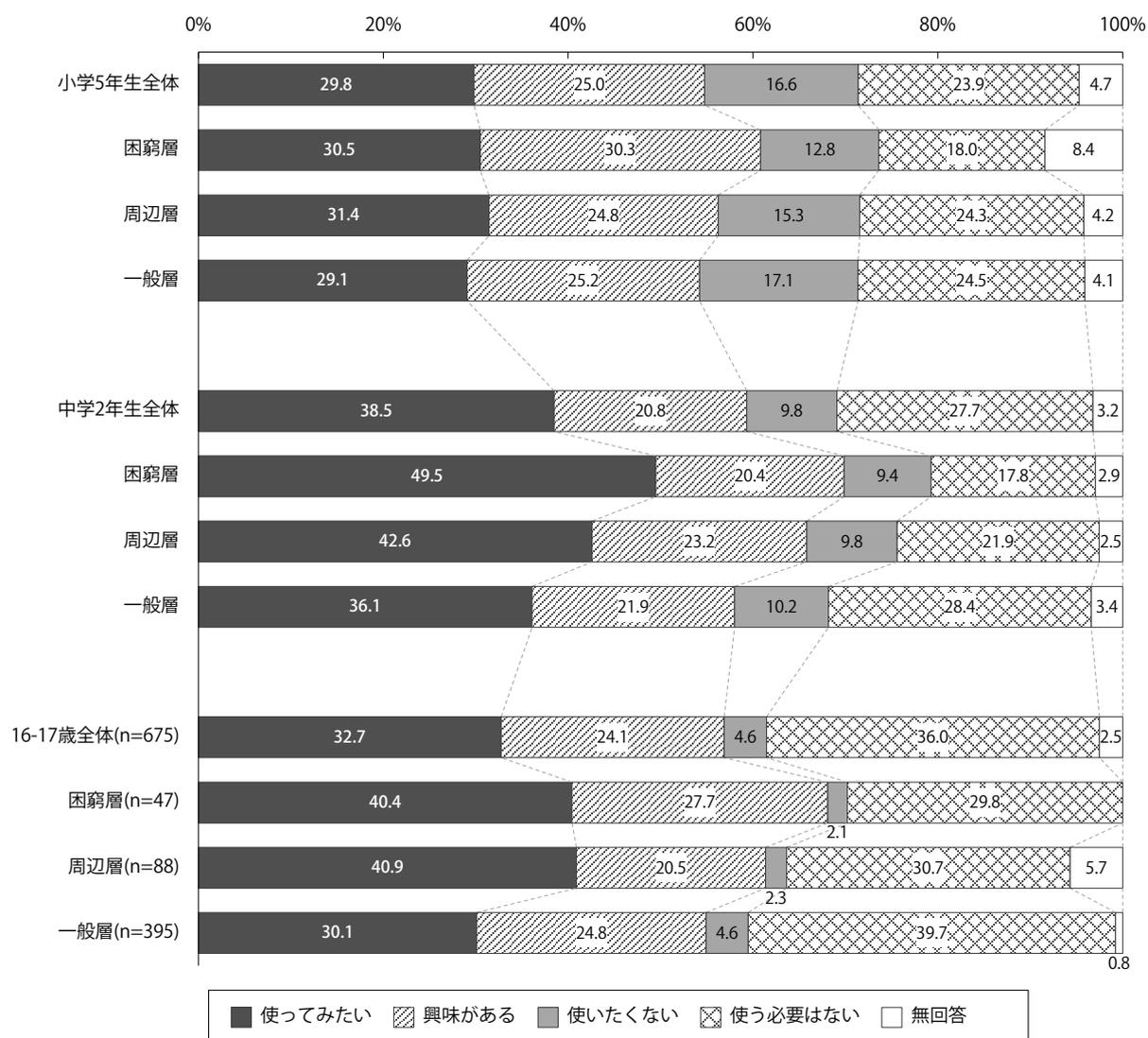
#### 小・中学生・16-17歳

#### A (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所

【子ども票】

(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で60.8%、周辺層で56.2%、一般層で54.3%、中学2年生の困窮層で69.9%、周辺層で65.8%、一般層で58.0%、16-17歳の困窮層で68.1%、周辺層で61.4%、一般層で54.9%となっている。生活困難度が高いほど、利用意向や興味の割合が高くなっている。

問33 利用希望/A (家以外で) 平日の放課後に夜まで安心して居ることができる場所

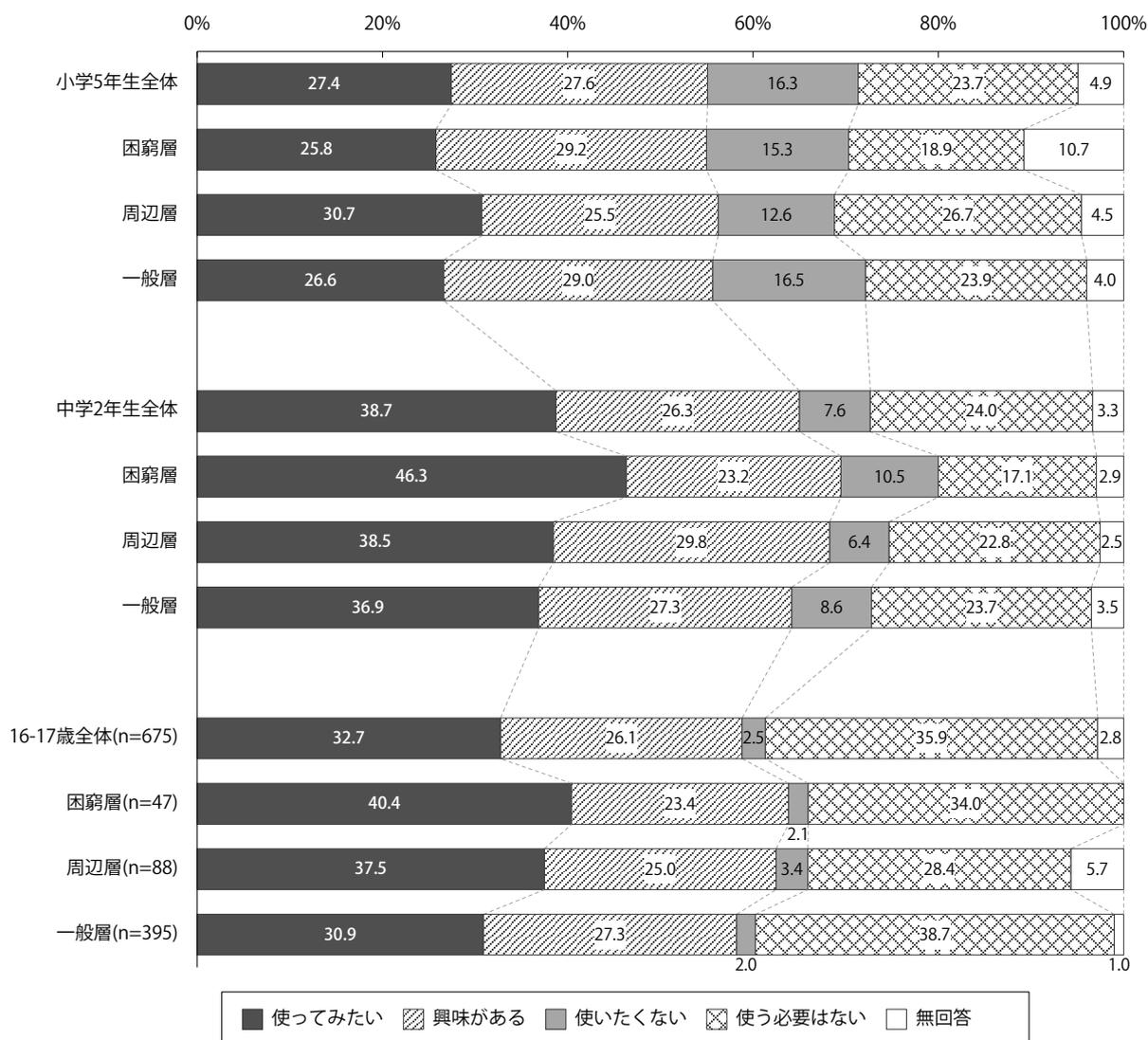


**B (家以外で) 休日にいることができる場所**

【子ども票】

(家以外で) 休日にいることができる場所について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で55.0%、周辺層で56.2%、一般層で55.6%、中学2年生の困窮層で69.5%、周辺層で68.3%、一般層で64.2%、16-17歳の困窮層で63.8%、周辺層で62.5%、一般層で58.2%となっている。休日の居場所について、小学5年生においては生活困難度との明確な相関がみられない。

問33 利用希望/B (家以外で)休日にいることができる場所

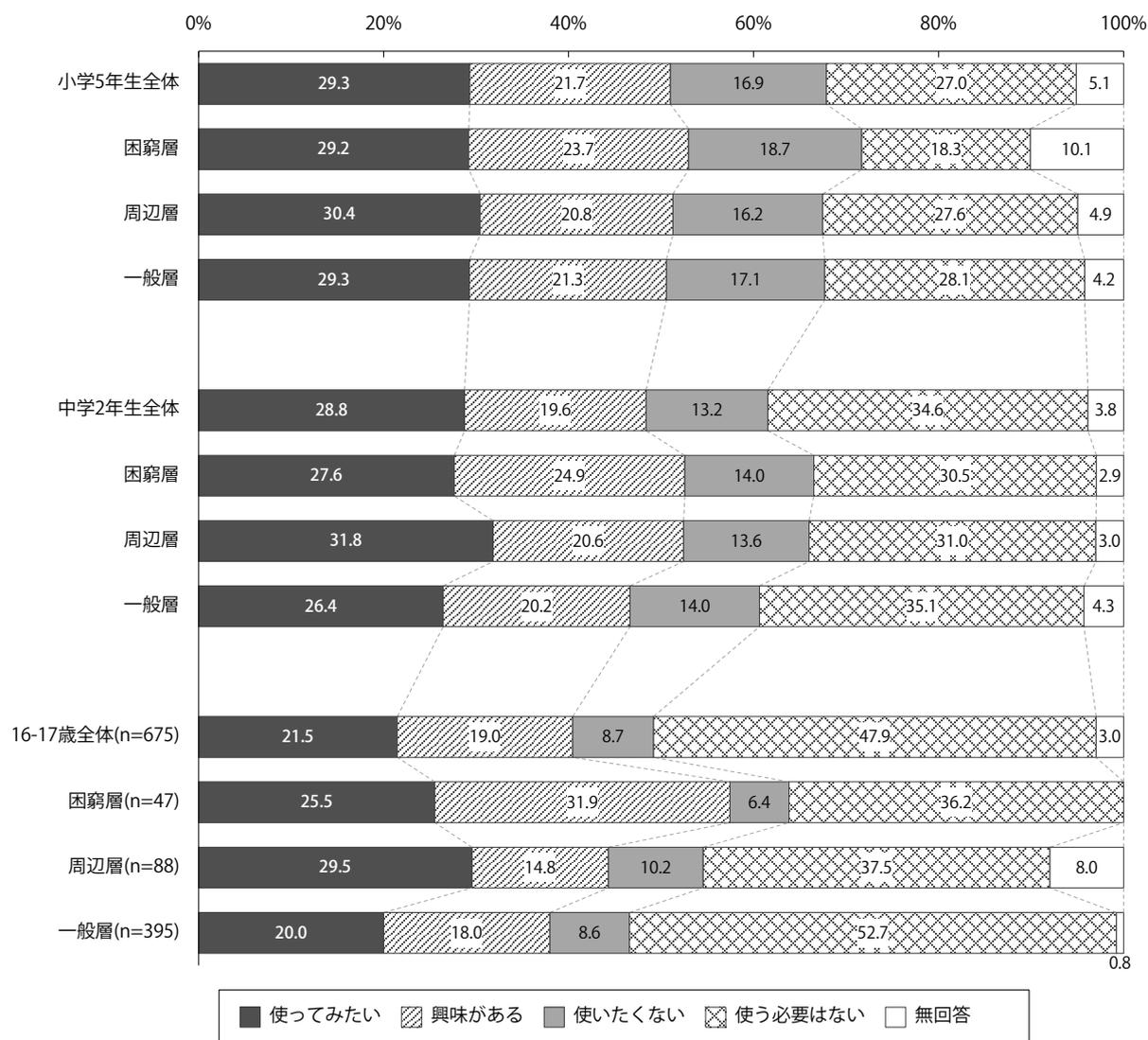


## C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

【子ども票】

家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で52.9%、周辺層で51.2%、一般層で50.6%、中学2年生の困窮層で52.5%、周辺層で52.4%、一般層で46.6%、16-17歳の困窮層で57.4%、周辺層で44.3%、一般層で38.0%となっている。いずれの年齢層でも生活困難度との相関がみられるが、その相関関係は16-17歳において顕著にみられる。

問33 利用希望/C 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所

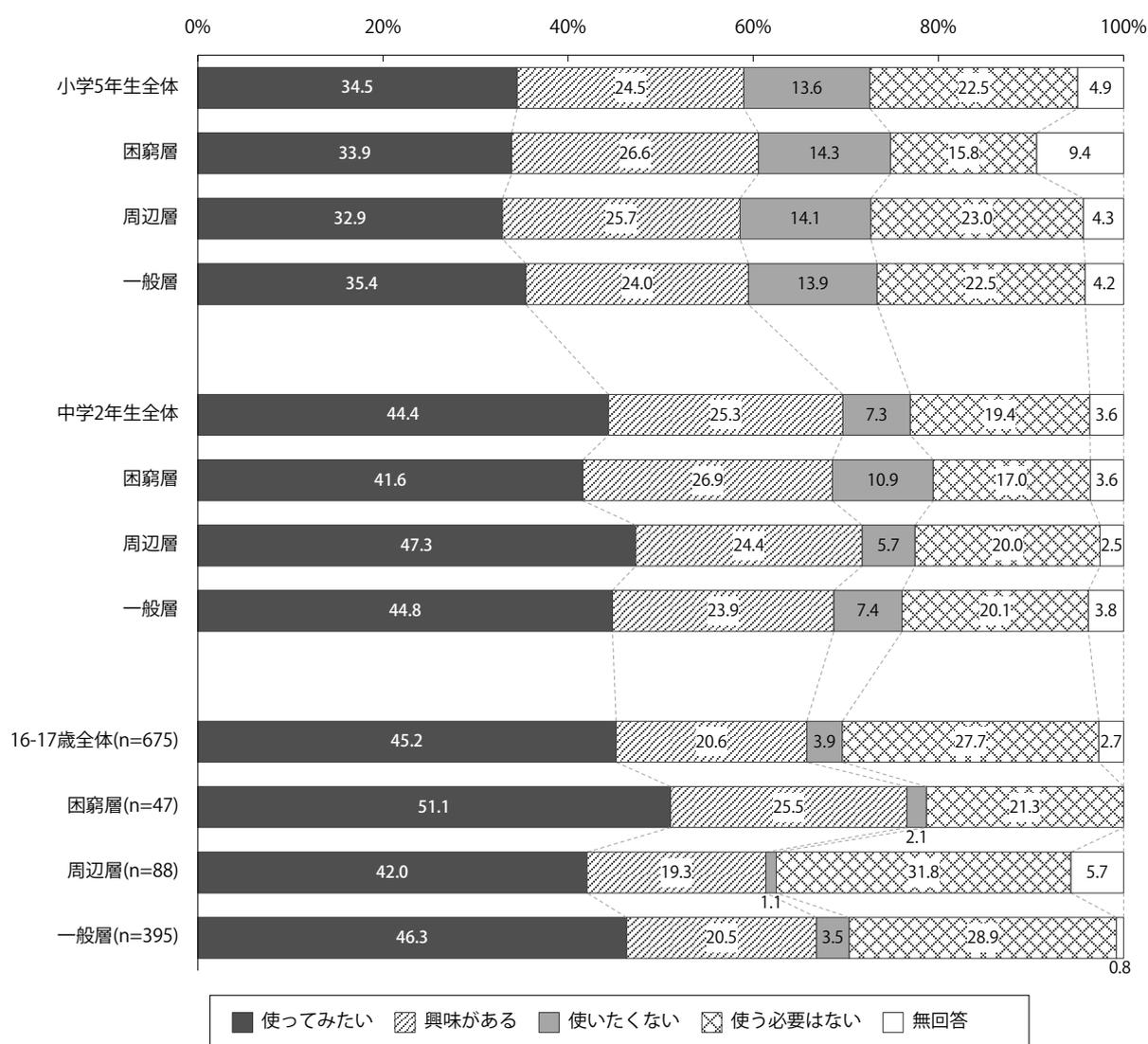


D 家で勉強できないとき、静かに勉強できる場所

【子ども票】

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所について、「使ってみたい」と積極的な意向を回答した割合は、小学5年生の困窮層で33.9%、周辺層で32.9%、一般層で35.4%、中学2年生の困窮層で41.6%、周辺層で47.3%、一般層で44.8%、16-17歳の困窮層で51.1%、周辺層で42.0%、一般層で46.3%となっている。積極的な利用意向において生活困難度との明確な相関はみられないが、「興味がある」の回答をみると小学5年生、中学2年生とも生活困難度が高くなるほど利用の興味があがっていることがわかる。

問33 利用希望/D 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所

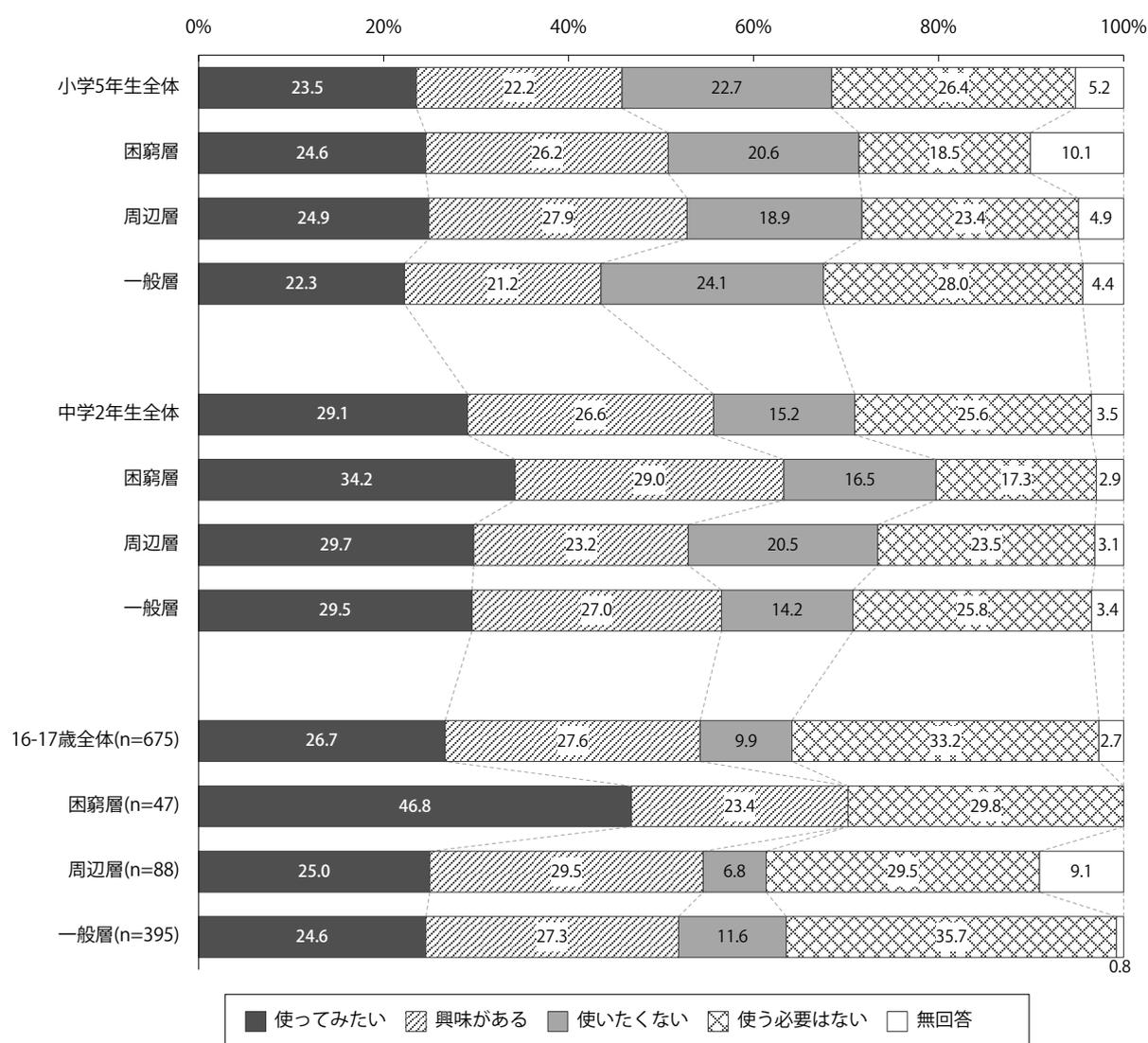


## E 大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所

【子ども票】

大学生のボランティアが勉強を無料でみてくれる場所について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で50.8%、周辺層で52.8%、一般層で43.5%、中学2年生の困窮層で63.2%、周辺層で52.9%、一般層で56.5%、16-17歳の困窮層で70.2%、周辺層で54.5%、一般層で51.9%となっている。小学5年生および中学2年生では生活困難度との明確な相関がみられないが、16-17歳においては相関がみられ、特に困窮層で利用意向の割合が高くなっている。

問33 利用希望/E 大学生のボランティアなどが、勉強を無料でみてくれる場所

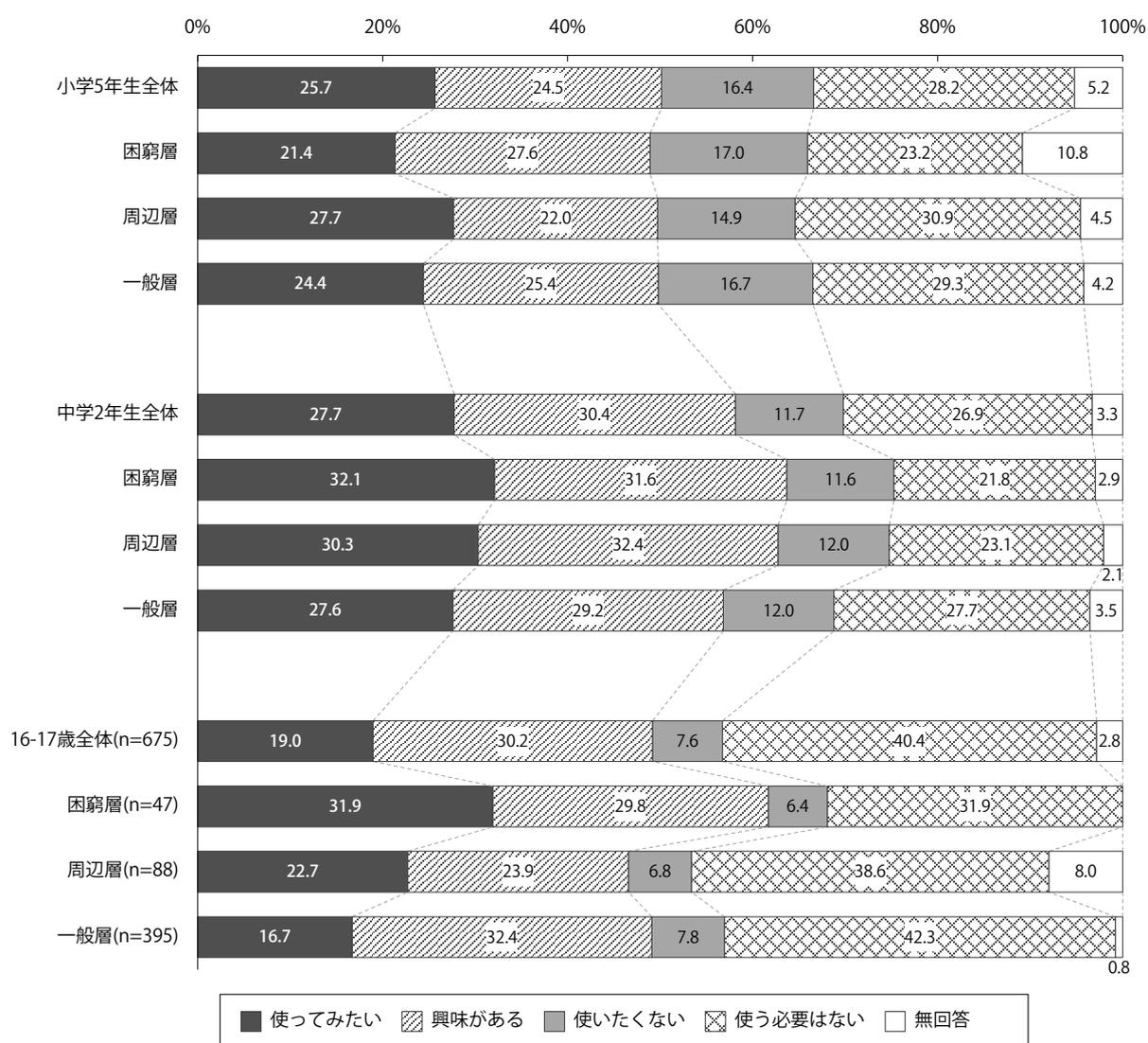


F (学校以外で) 何でも相談できる場所

【子ども票】

(学校以外で) 何でも相談できる場所について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、小学5年生の困窮層で49.0%、周辺層で49.7%、一般層で49.8%、中学2年生の困窮層で63.7%、周辺層で62.7%、一般層で56.8%、16-17歳の困窮層で61.7%、周辺層で46.6%、一般層で49.1%となっている。中学2年生と16-17歳においては「使ってみたい」で生活困難度との相関がみられ、生活困難度が高くなるほど利用意向の割合が高くなっている。

問33 利用希望/F (学校以外で)何でも相談できる場所



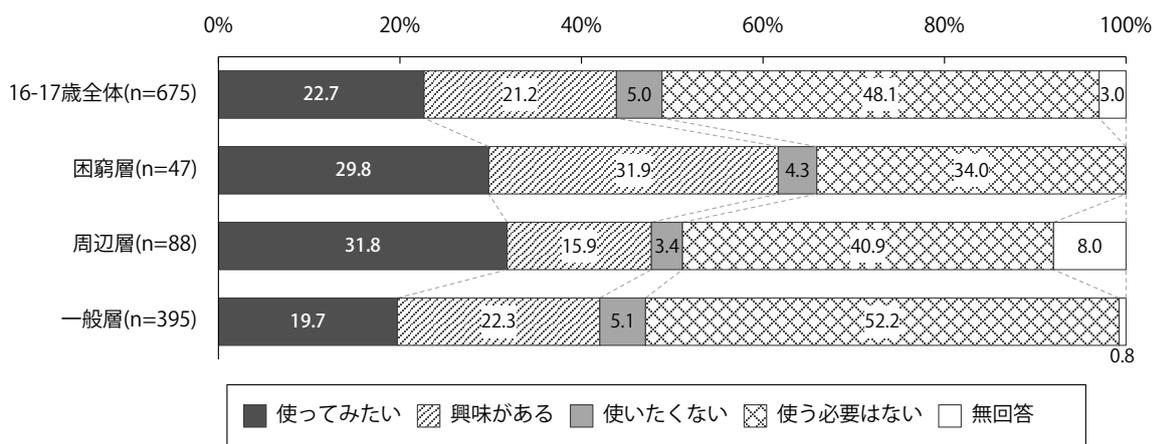
**16～17 歳**

**C 地域の公共施設等における低額・無料の朝食サービス**

【子ども票】

16-17 歳の、地域の公共施設等における低額・無料の朝食サービスの利用意向について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、困窮層で 61.7%、周辺層で 47.7%、一般層で 42.0%となっている。生活困難度が高くなるほど、定額・無料の朝食サービスの利用を求めていることがわかる。

問42 利用希望／C 地域の公共施設等における低額・無料の朝食サービス

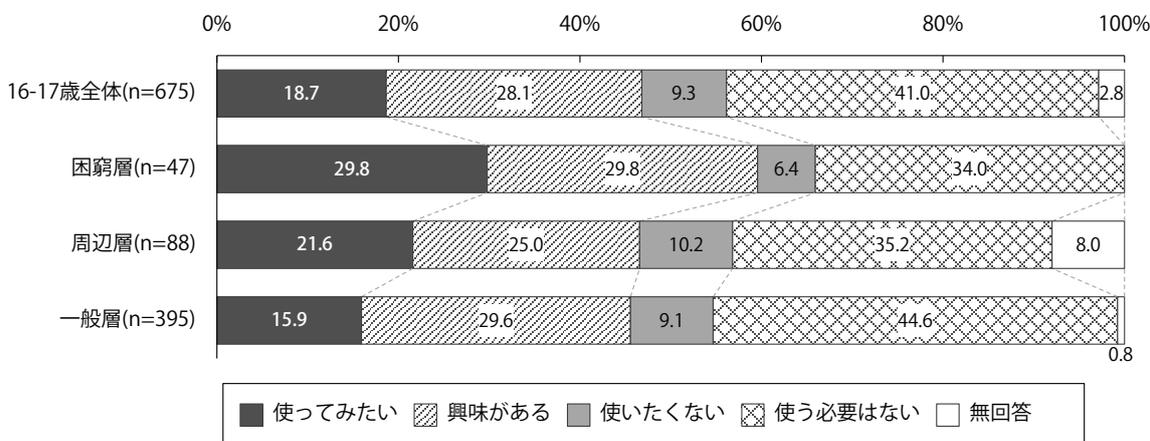


**H 低額・無料で、通信教育が受けられるサービス**

【子ども票】

16-17 歳の、低額・無料で、通信教育が受けられるサービスの利用意向について、「使ってみたい」「興味がある」を合わせた割合は、困窮層で 59.6%、周辺層で 46.6%、一般層で 45.5%となっている。生活困難度が高くなるほど、低額・無料で、通信教育が受けられるサービスの利用を求めていることがわかる。

問42 利用希望／H 低額・無料で、通信教育が受けられるサービス



## 2 制度・サービスの利用

### (1) 子ども関連情報の入手方法の現状と意向

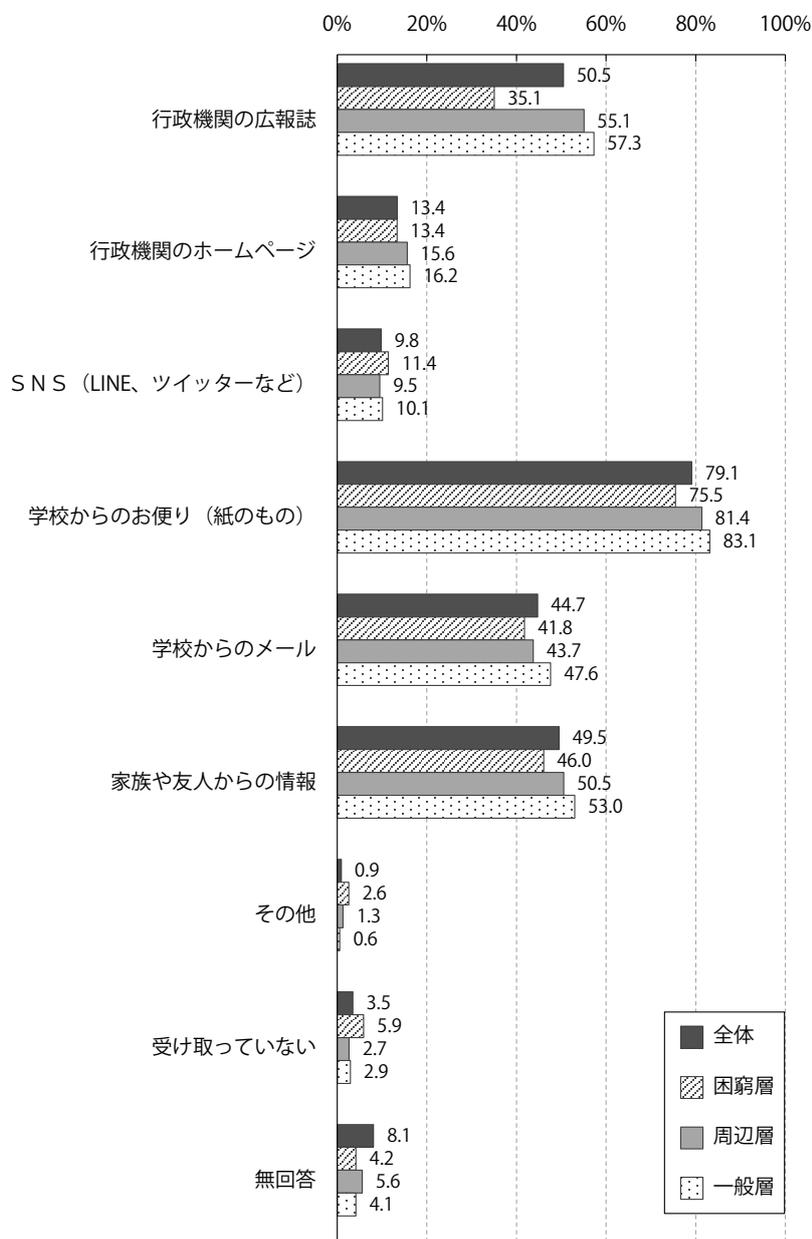
#### A 現在の受け取り方法

【保護者票】

子どもに関する施策等についての現在の受け取り方法は、いずれの年齢層でも「学校からのお便り（紙のもの）」が最も高い割合となっている。広報誌、ホームページとも、行政発信によるものは困窮層において利用の割合が低く、SNSは割合が高くなっている。困窮層では、家族や友人からの情報の割合が低く、リアルな交流による情報交換よりもネットを介しての情報授受の志向が強いことがうかがえる。

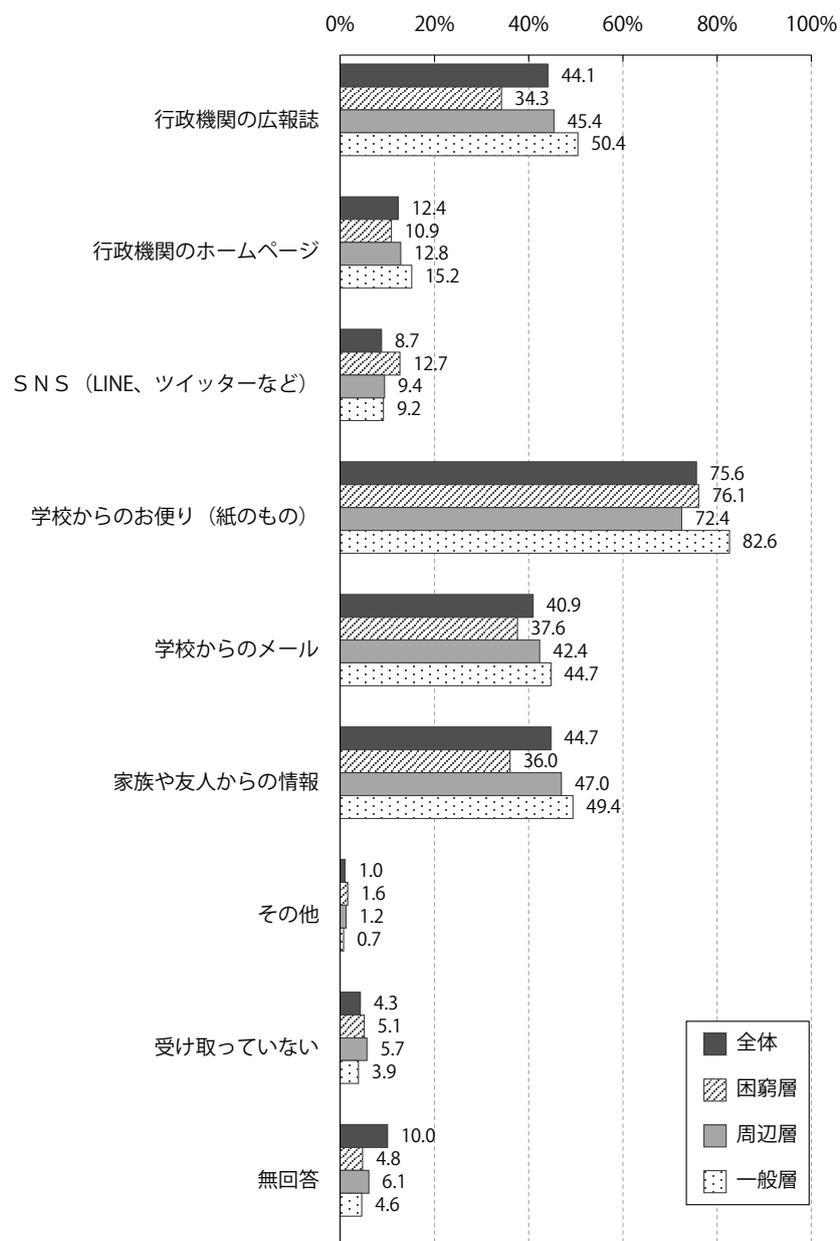
問41 子どもに関する施策等の情報／A 現在の受け取り方法

**小学5年生**



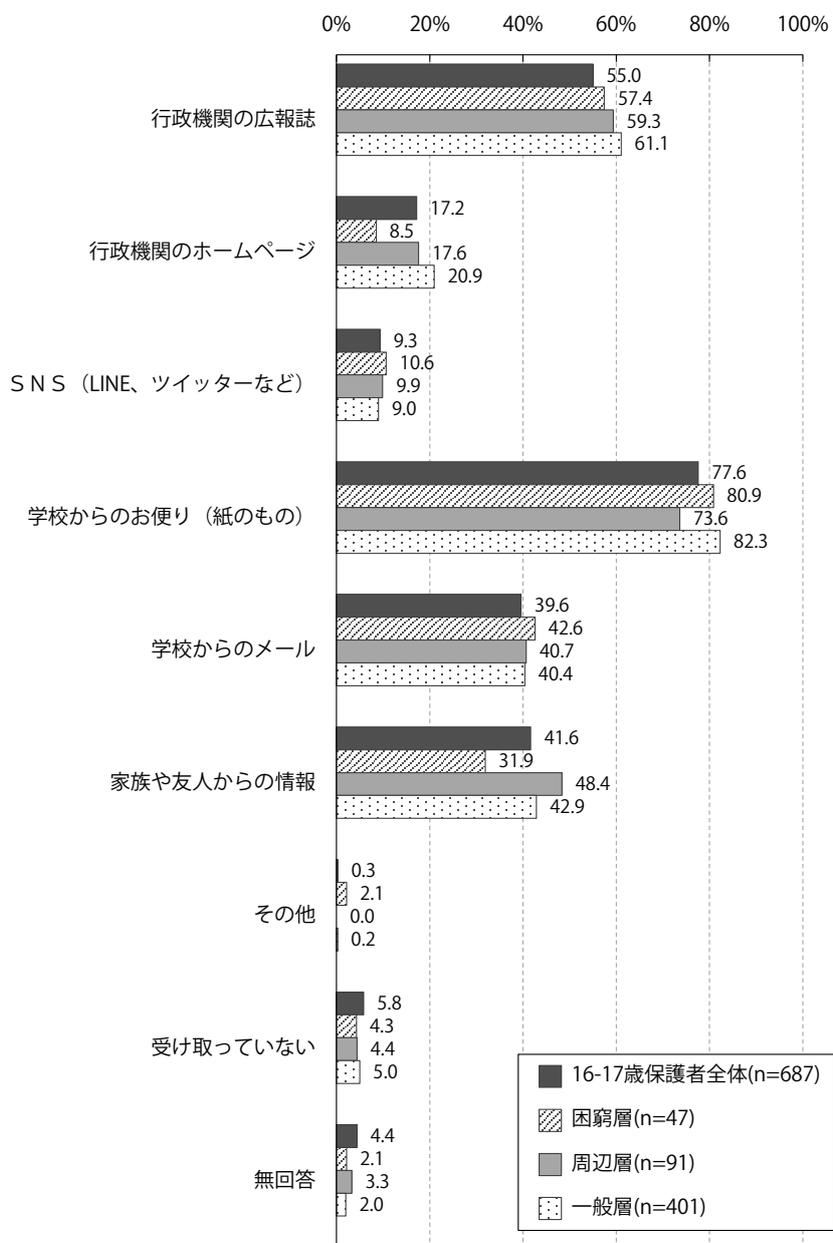
## 問41 子どもに関する施策等の情報／A 現在の受け取り方法

## 中学2年生



問42 子どもに関する施策等の情報/A 現在の受け取り方法

16-17歳



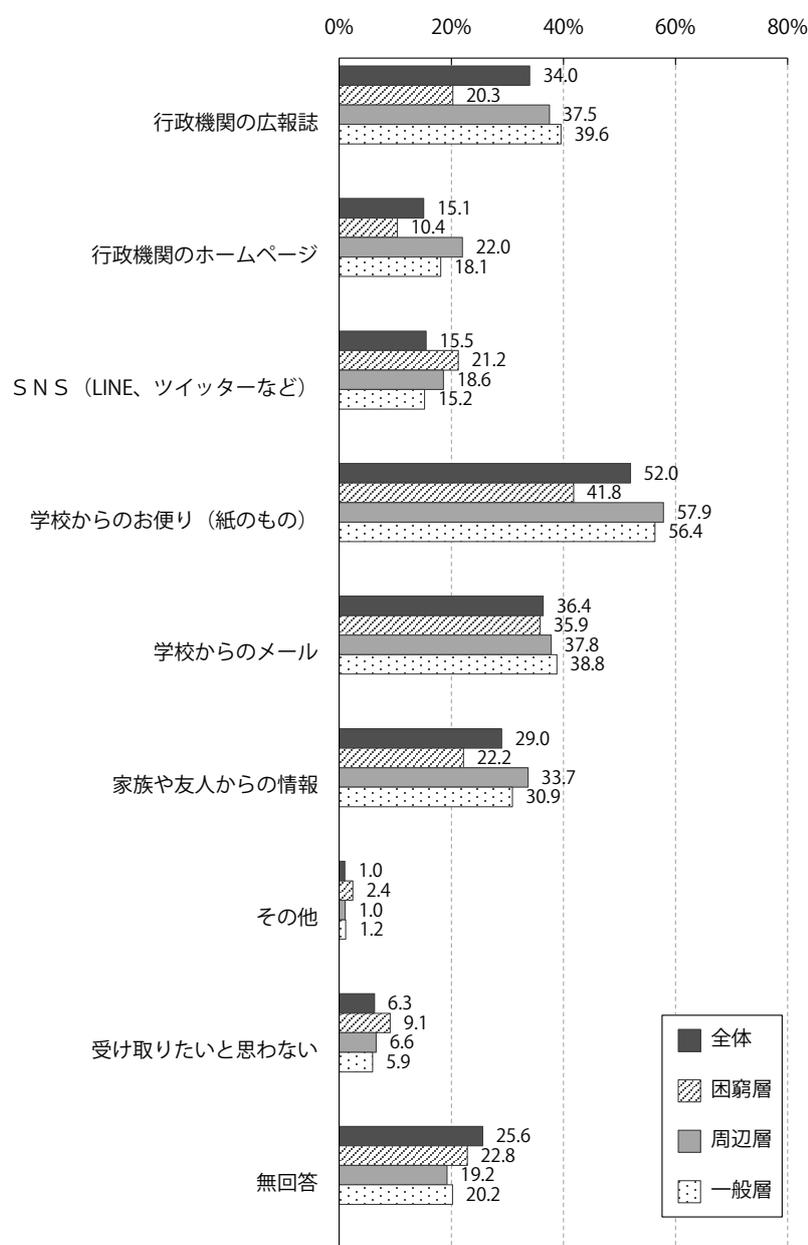
## B 今後、受け取りたい方法

【保護者票】

子どもに関する施策等について、今後受け取りたい方法は、現在の受け取り方法と同じくどの年齢層でも「学校からのお便り（紙のもの）」が最も高い割合となっている。困窮層において利用の割合が高かった SNS は今後の希望ではさらに割合が高くなり、どの年齢層でも20%を超えている。ネット利用でも「行政機関のホームページ」は困窮層において利用意向が低いことと対象的で、情報量よりも、在宅ではない時間帯や忙しい中で隙間の時間に扱える携帯デバイスの利便性が重視されていることも考えられる。

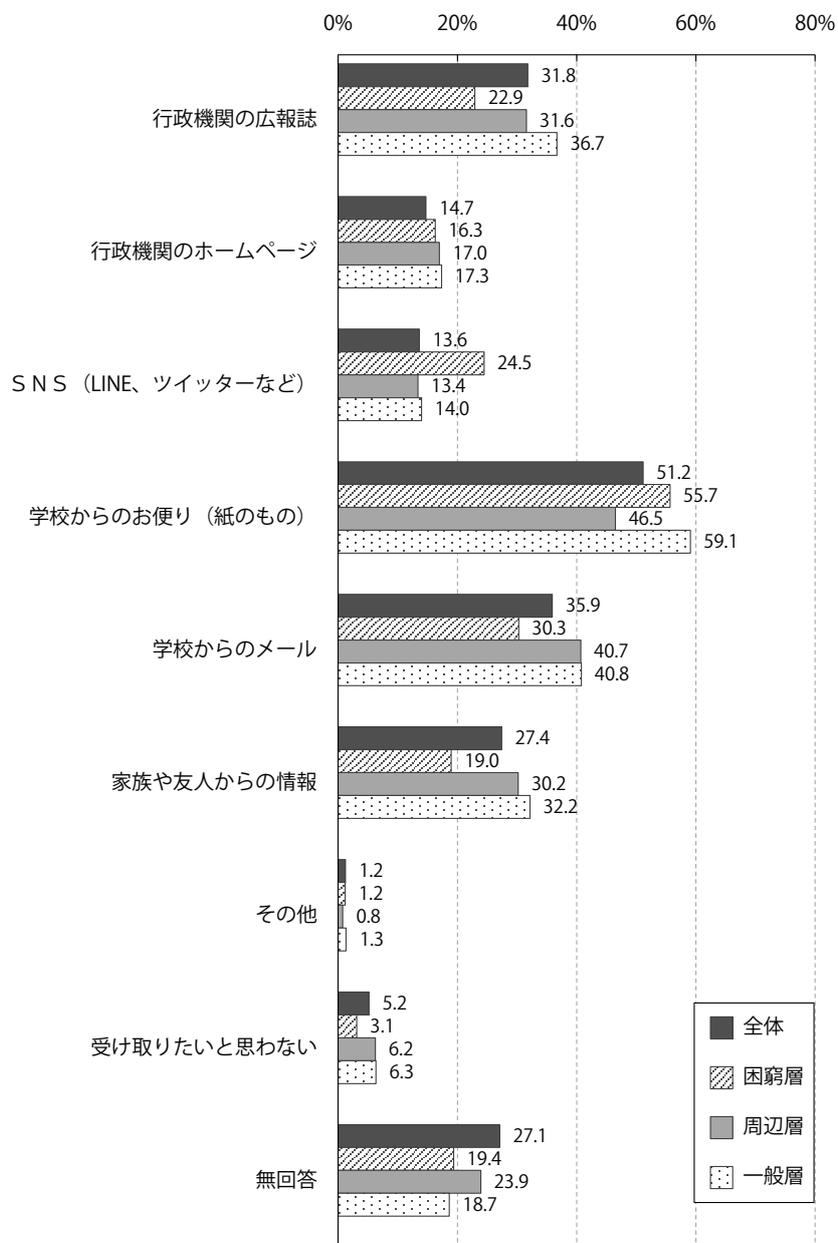
問41 子どもに関する施策等の情報／B 今後、受け取りたい方法

小学5年生



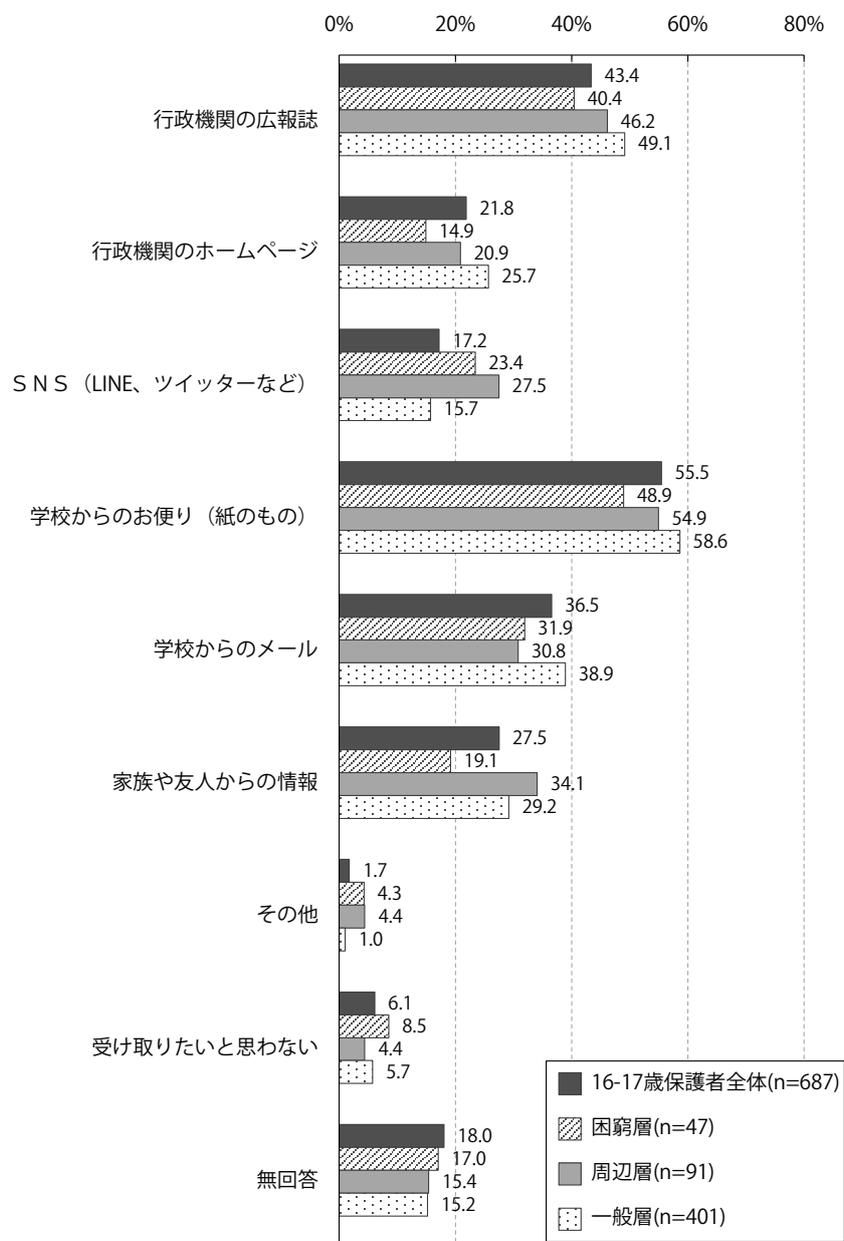
問41 子どもに関する施策等の情報／B 今後、受け取りたい方法

**中学2年生**



## 問42 子どもに関する施策等の情報／B 今後、受け取りたい方法

16-17歳



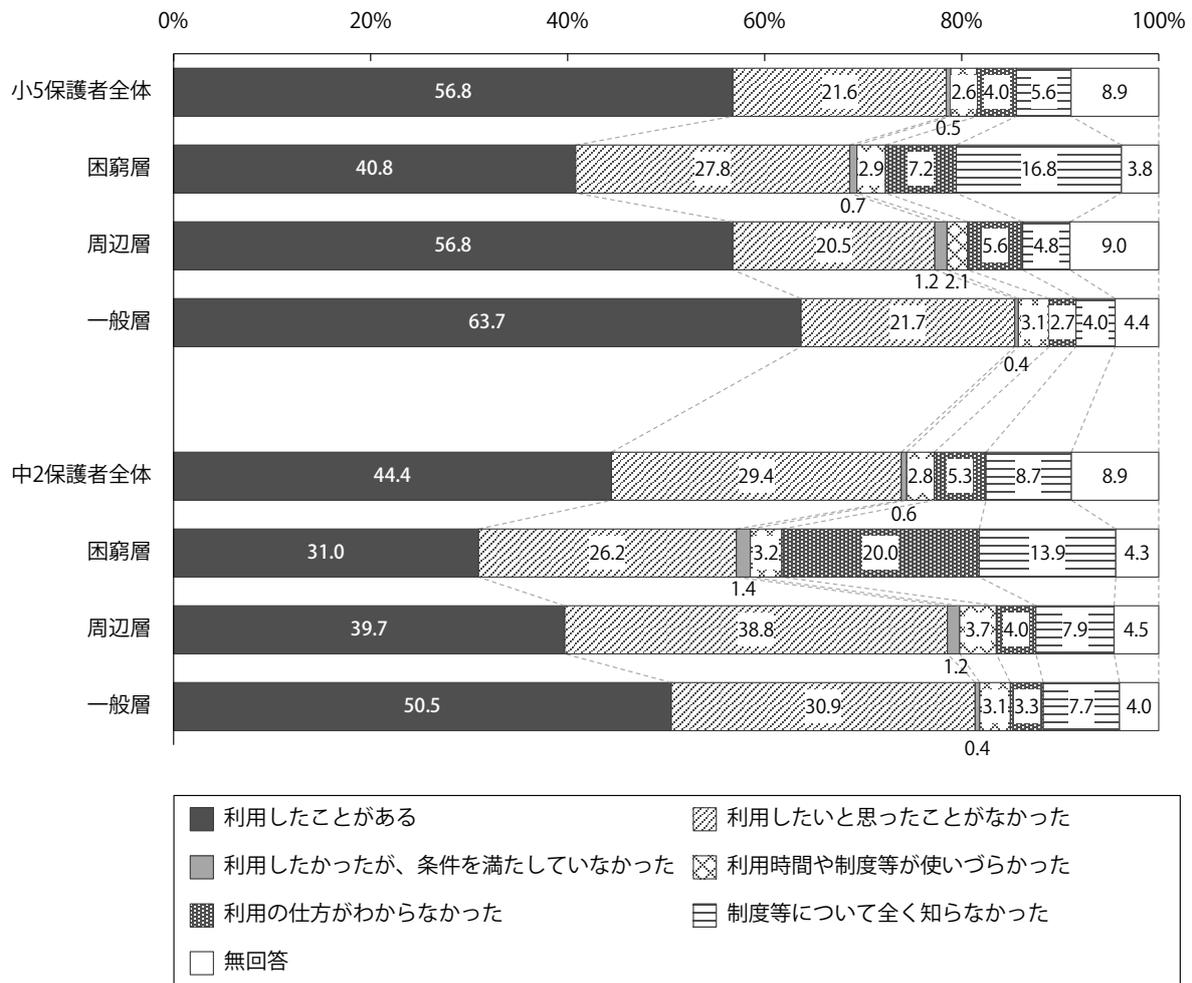
## (2) 子育て支援制度の利用経験

### A 子育て支援施設

【保護者票】

子育て支援施設（子育て支援センター、つどいの広場、わくわく広場）の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で40.8%、周辺層で56.8%、一般層で63.7%、中学2年生の困窮層で31.0%、周辺層で39.7%、一般層で50.5%となっている。生活困難度が高いほど、利用経験が少なくなっている。

問42 支援制度等の利用状況／A 子育て支援施設(子育て支援センター、つどいの広場、わくわく広場)

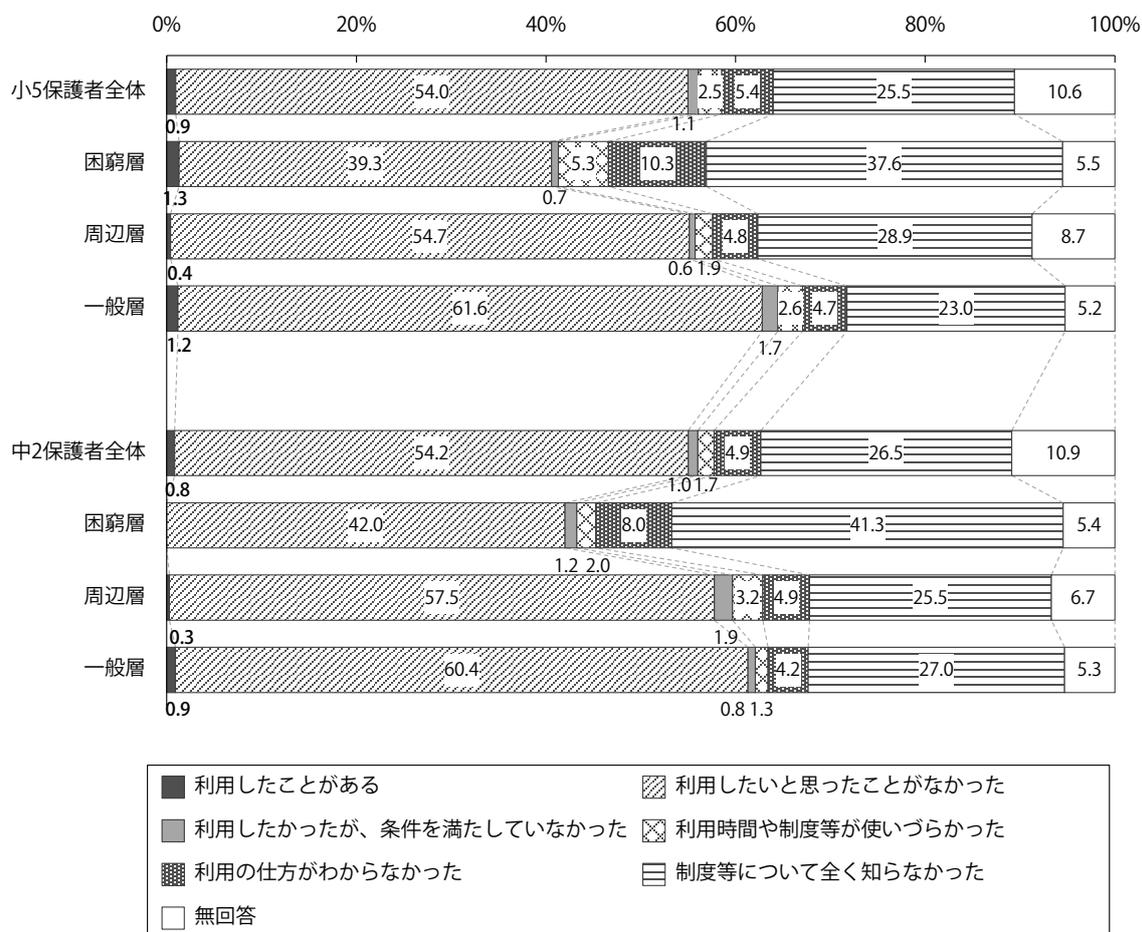


## B 子育て短期支援事業（ショートステイ）

【保護者票】

子育て短期支援事業（ショートステイ）の利用経験については、「利用したいと思ったことがなかった」「制度等について全く知らなかった」と回答した割合がいずれの年齢層でも高い。

問42 支援制度等の利用状況／B 子育て短期支援事業（ショートステイ）

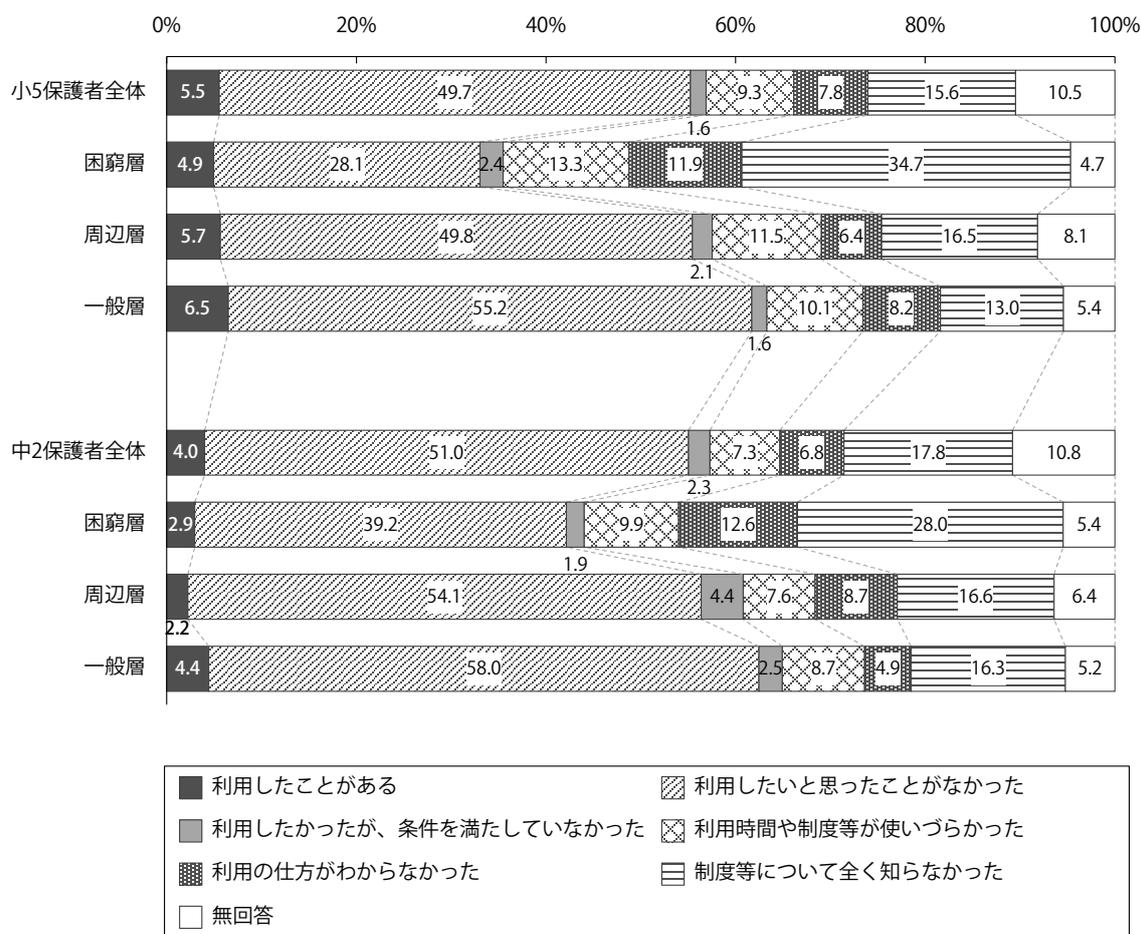


C ファミリー・サポート・センター

【保護者票】

ファミリー・サポート・センターの利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で4.9%、周辺層で5.7%、一般層で6.5%、中学2年生の困窮層で2.9%、周辺層で2.2%、一般層で4.4%となっており、いずれも高い割合ではない。小学5年生では生活困難度が高いほど利用経験が少なくなっている。「利用したいと思ったことがなかった」と回答した割合がいずれの年齢層でも比較的高いが、小学5年生の困窮層では「制度等について全く知らなかった」が34.7%みられる。

問42 支援制度等の利用状況／C ファミリー・サポート・センター

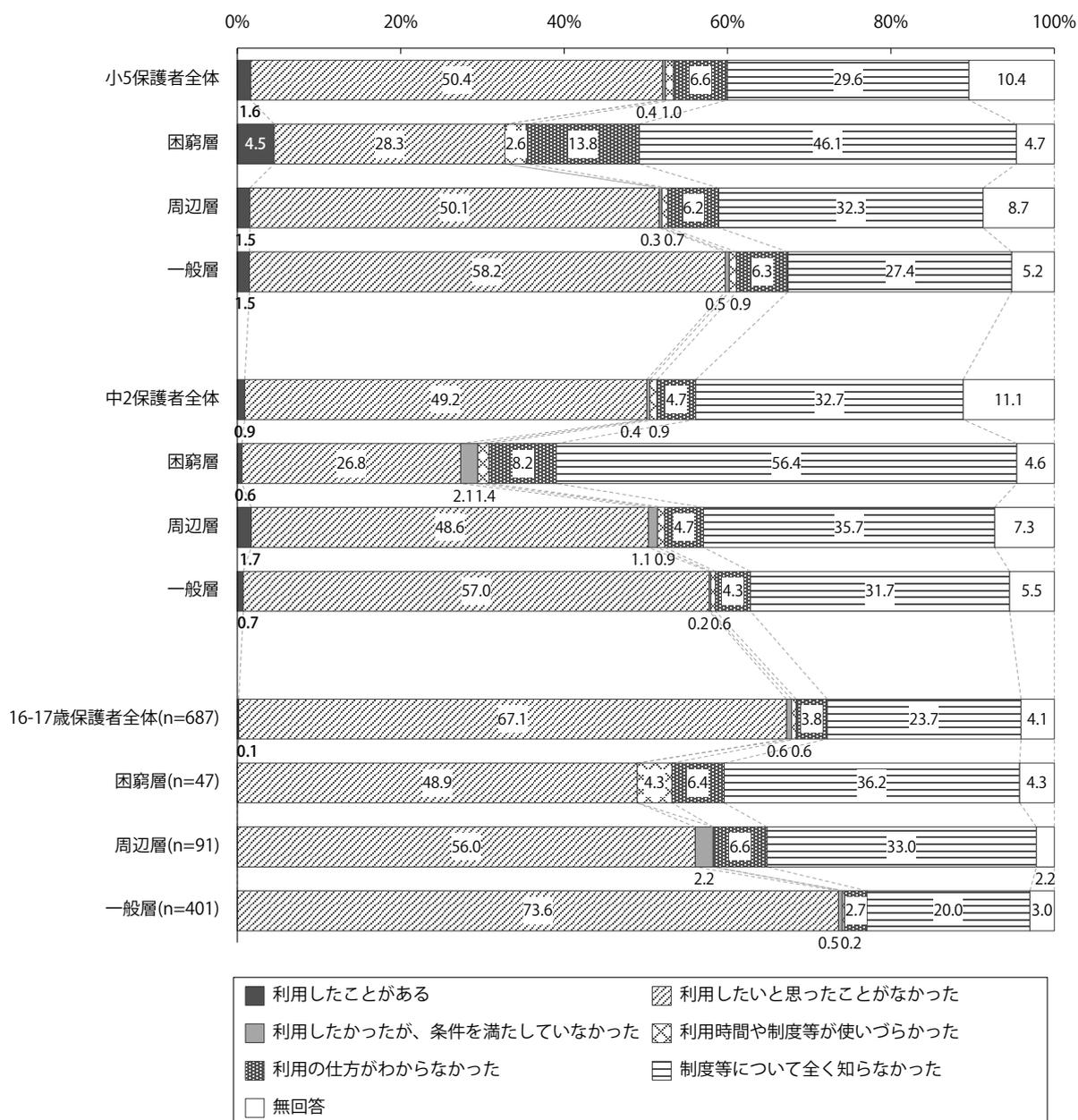


## D 子ども食堂

【保護者票】

子ども食堂の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で4.5%、周辺層で1.5%、一般層で1.5%、中学2年生の周辺層で1.7%となっている。「利用したいと思ったことがなかった」と回答した割合がいずれの年齢層でも比較的高い。困窮層で「制度等について全く知らなかった」とする回答は、小学5年生で46.1%、中学2年生で56.4%、16-17歳で36.2%となっている。子ども食堂は古くからあるものではないことから、まだ認知そのものが進んでいない状況もうかがえる。

問42/43 支援制度等の利用状況/D 子ども食堂

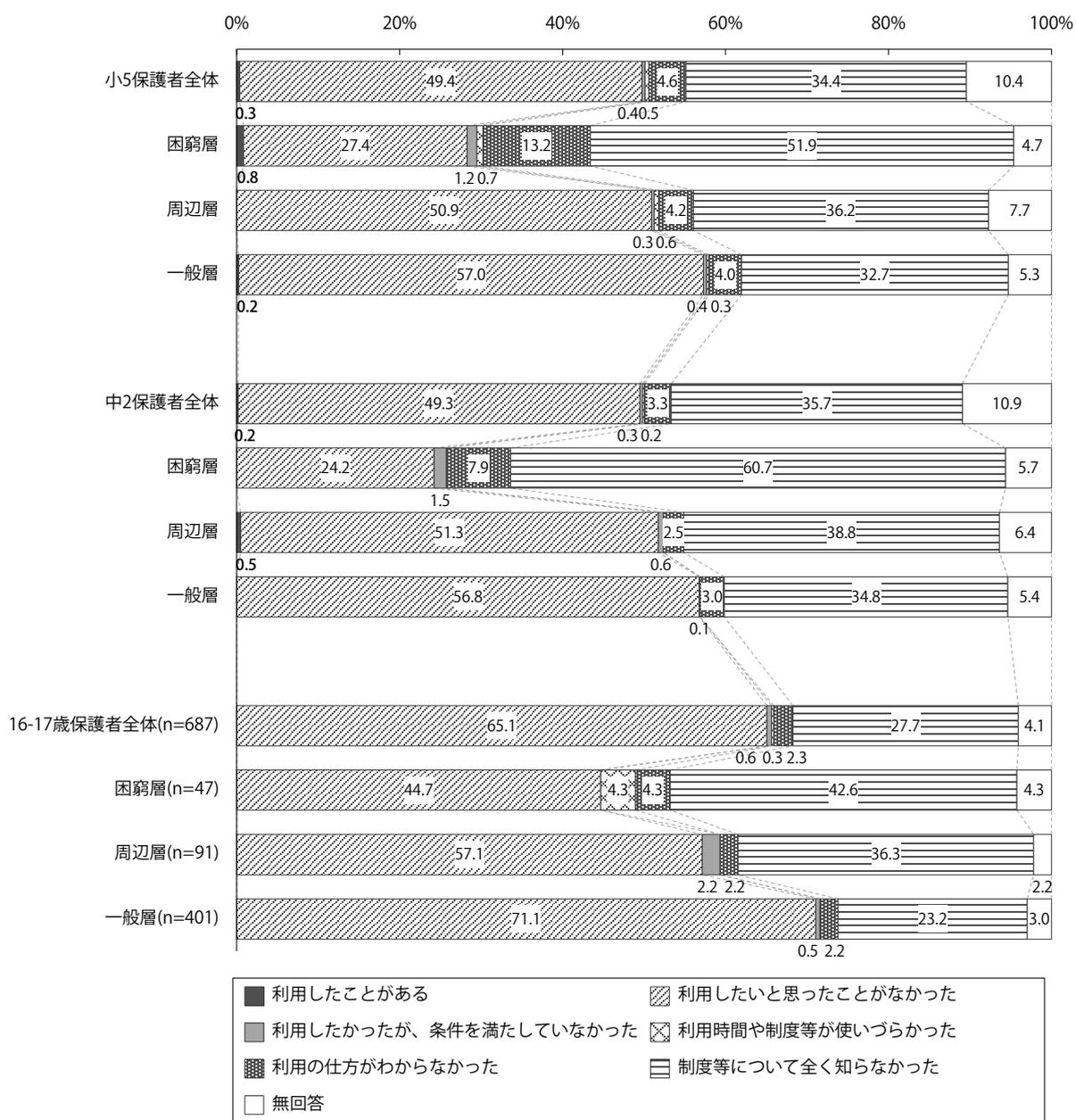


### E フードバンクによる食料支援

【保護者票】

フードバンクによる食料支援の利用経験については、「利用したいと思ったことがなかった」と「制度等について全く知らなかった」と回答した割合がいずれの年齢層でも高い。「制度等について全く知らなかった」の回答の割合は、いずれの年齢層でも困窮層で高くなっている。

問42/43 支援制度等の利用状況/E フードバンクによる食料支援



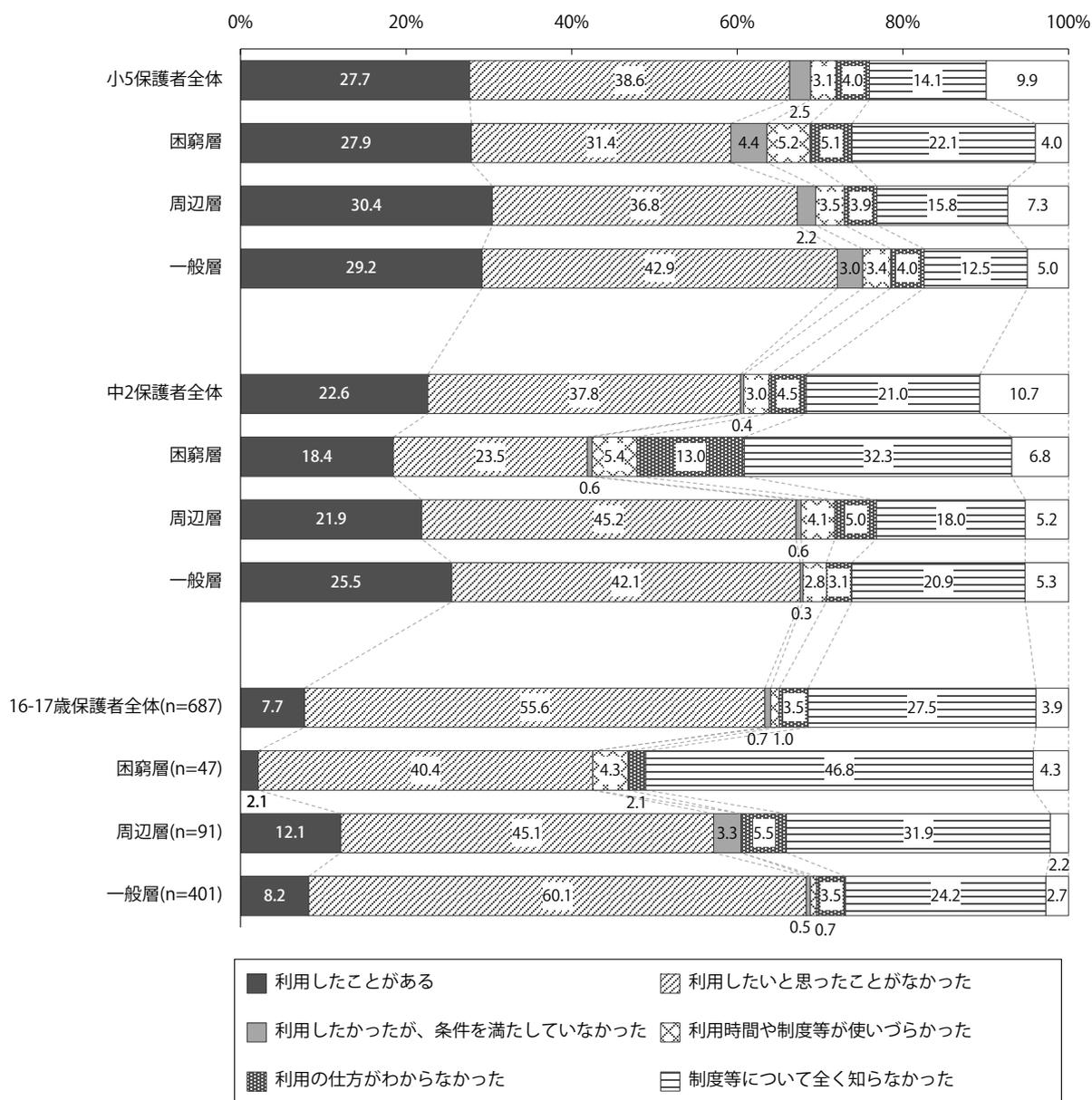
**F 小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ・中学生以上（卒業後）の子どもが自由に時間を過ごせる場所**

【保護者票】

小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ・中学生以上（卒業後）の子どもが自由に時間を過ごせる場所の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で27.9%、周辺層で30.4%、一般層で29.2%、中学2年生の困窮層で18.4%、周辺層で21.9%、一般層で25.5%となっている。

「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所（公共施設など）」として質問した16-17歳では、困窮層で2.1%、周辺層で12.1%、一般層で8.2%となっている。

問42/43 支援制度等の利用状況/F 小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ



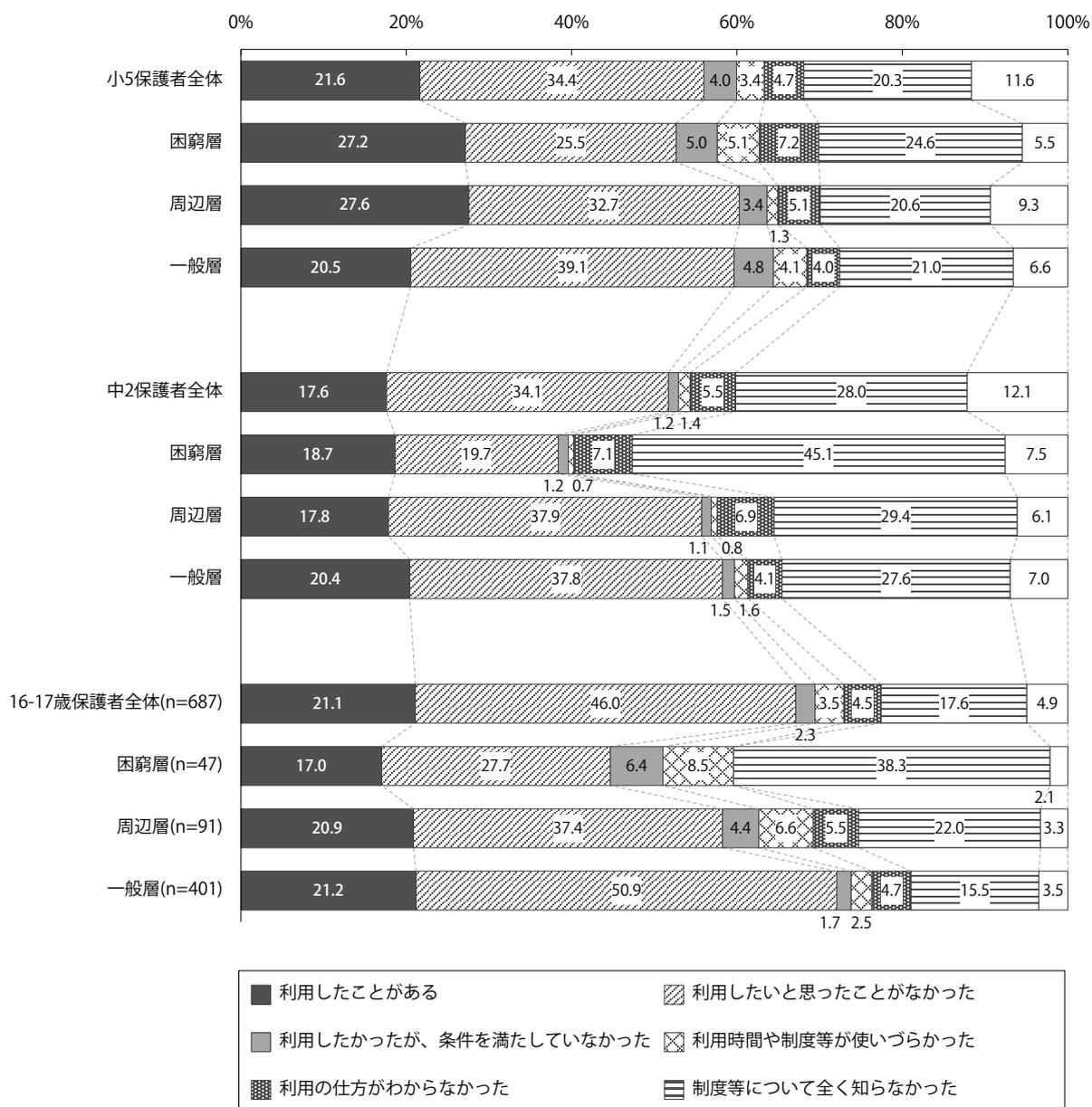
G 学校が実施する補講

【保護者票】

学校が実施する補講の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で27.2%、周辺層で27.6%、一般層で20.5%、中学2年生の困窮層で18.7%、周辺層で17.8%、一般層で20.4%、16-17歳の困窮層で17.0%、周辺層で20.9%、一般層で21.2%となっている。

困窮層の「制度等について全く知らなかった」の回答は、中学2年生で45.1%、16-17歳で38.3%となっている。

問42/43 支援制度等の利用状況/G 学校が実施する補講(夏休みなど)



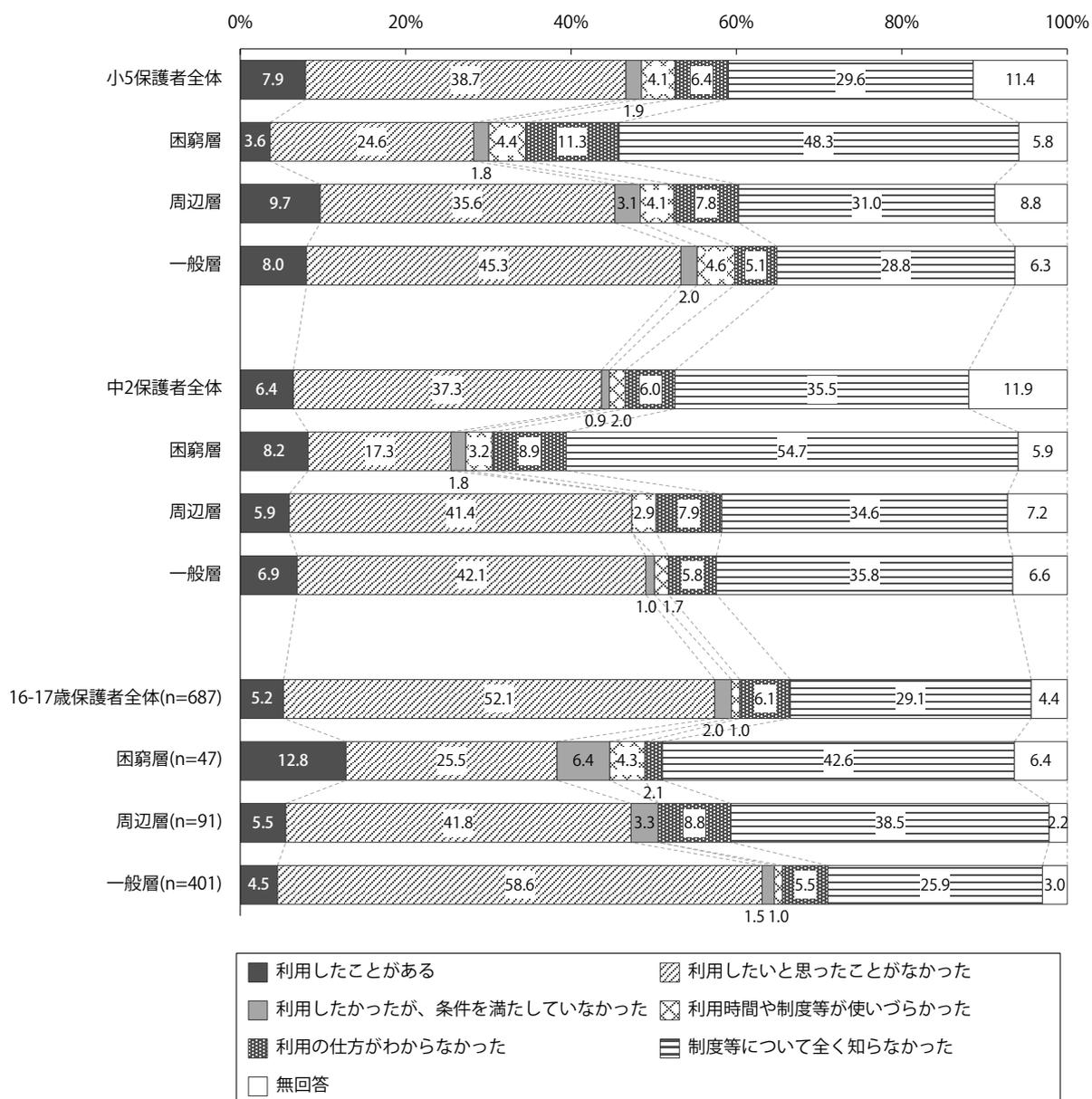
## H 学校以外が実施する学習支援

【保護者票】

学校以外が実施する学習支援の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で3.6%、周辺層で9.7%、一般層で8.0%、中学2年生の困窮層で8.2%、周辺層で5.9%、一般層で6.9%、16-17歳の困窮層で12.8%、周辺層で5.5%、一般層で4.5%となっている。

「利用したいと思ったことがなかった」と「制度等について全く知らなかった」の回答は、いずれの層でも多い。

問42 支援制度等の利用状況／H 学校以外が実施する学習支援



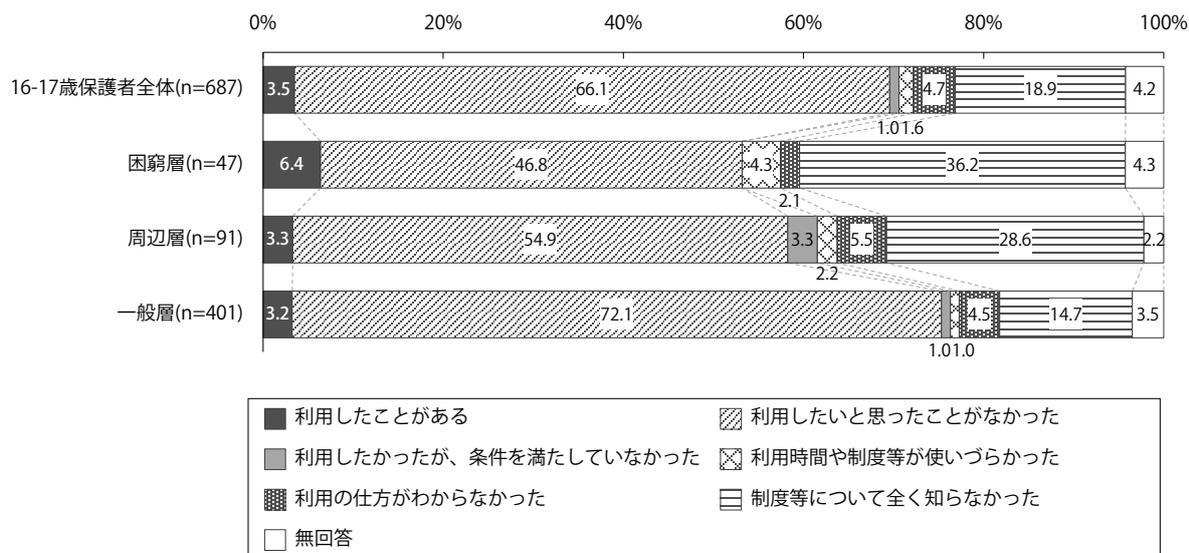
**16-17 歳**

**A (学校以外で) 16~17 歳の子どもについて、何でも相談できる場所**

【保護者票】

(学校以外で) 16-17 歳の子どもについて、何でも相談できる場所の利用経験について、「利用したことがある」と回答した割合は、困窮層で 6.4%、周辺層で 3.3%、一般層で 3.2% となっている。わずかながら、生活困難度が高くなるほど利用経験が増えている。

問43 支援制度等の利用状況 / A (学校以外で) 16-17 歳の子どもについて、何でも相談できる場所



## (3) 子育て支援制度等の利用意向

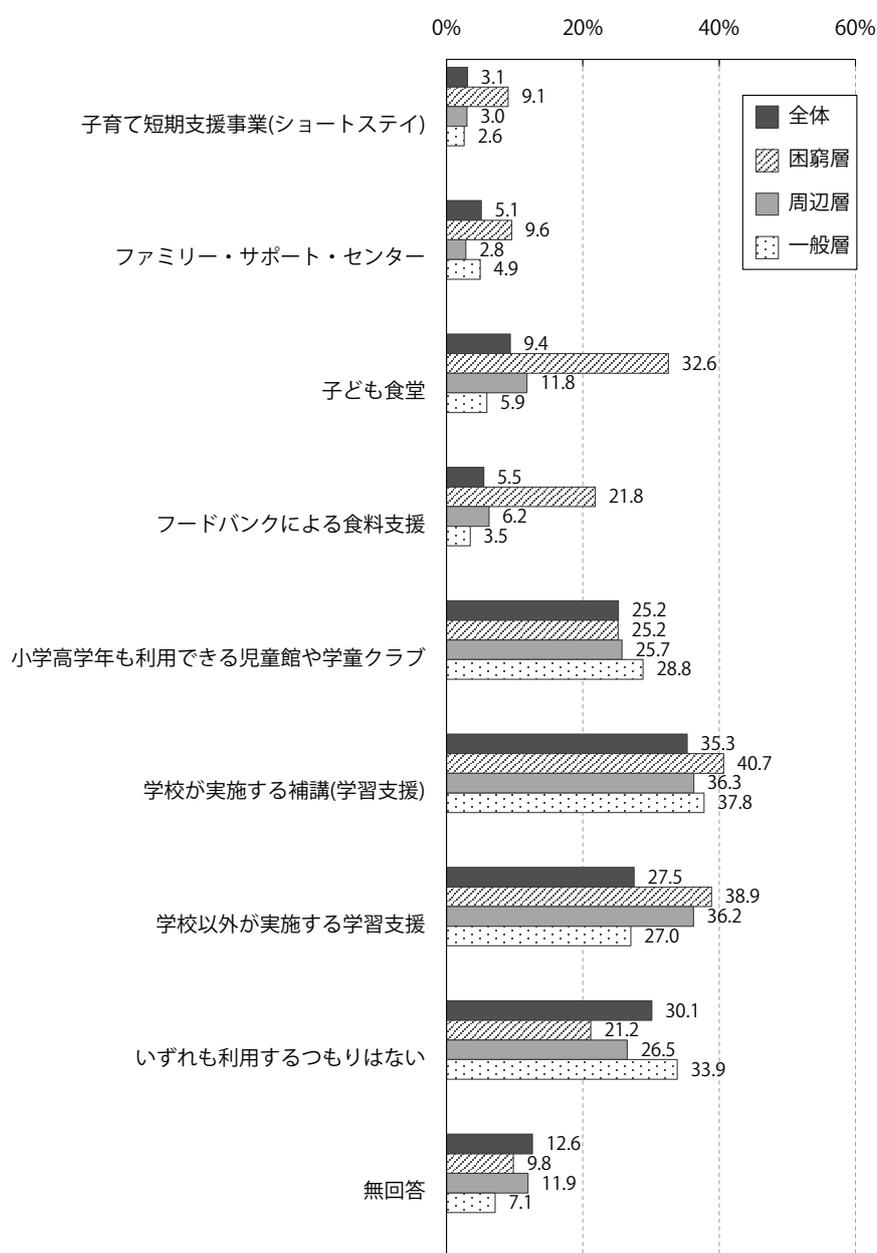
【保護者票】

小学5年生の、今後、利用したいと思う支援制度等について、全体の利用意向割合の上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が35.3%、「学校以外が実施する学習支援」が27.5%、「小学高学年も利用できる児童館や学童クラブ」が25.2%となっている。

困窮層における上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が40.7%、「学校以外が実施する学習支援」が38.9%、「子ども食堂」が32.6%となっている。

困窮層では「子ども食堂」と「フードバンクによる食料支援」の割合が、他の層に比べて10ポイント以上高くなっている。

問42-1 今後、利用したいと思う支援制度等

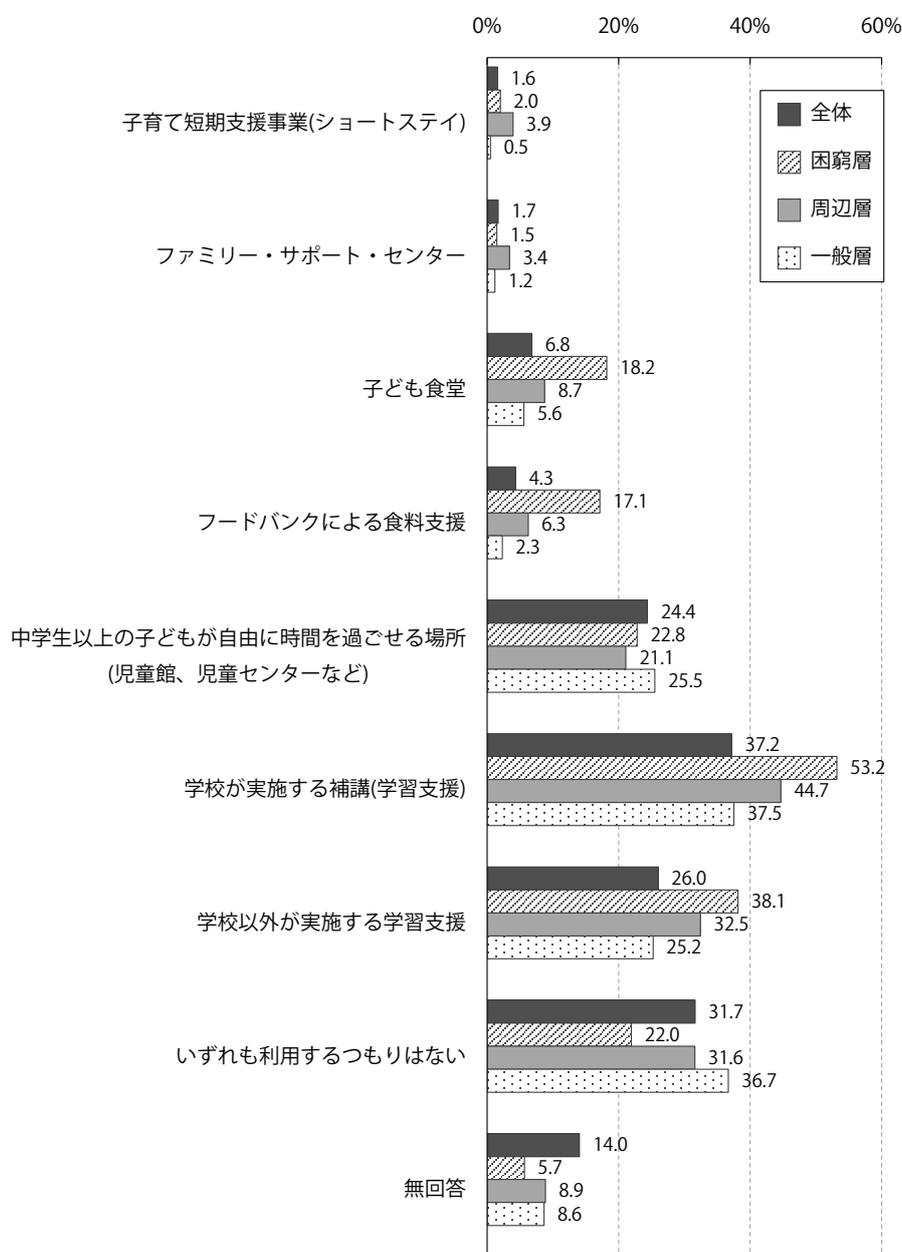
**小学5年生**

中学2年生の、今後、利用したいと思う支援制度等について、全体の利用意向割合の上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が37.2%、「学校以外が実施する学習支援」が26.0%、「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所（児童館、児童センターなど）」が24.4%となっている。

困窮層における上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が53.2%、「学校以外が実施する学習支援」が38.1%、「中学生以上の子どもが自由に時間を過ごせる場所（児童館、児童センターなど）」が22.8%となっている。困窮層では「子ども食堂」と「フードバンクによる食料支援」の割合が、他の層に比べて10ポイント程度高くなっている。

問42-1 今後、利用したいと思う支援制度等

**中学2年生**



## 【保護者票】

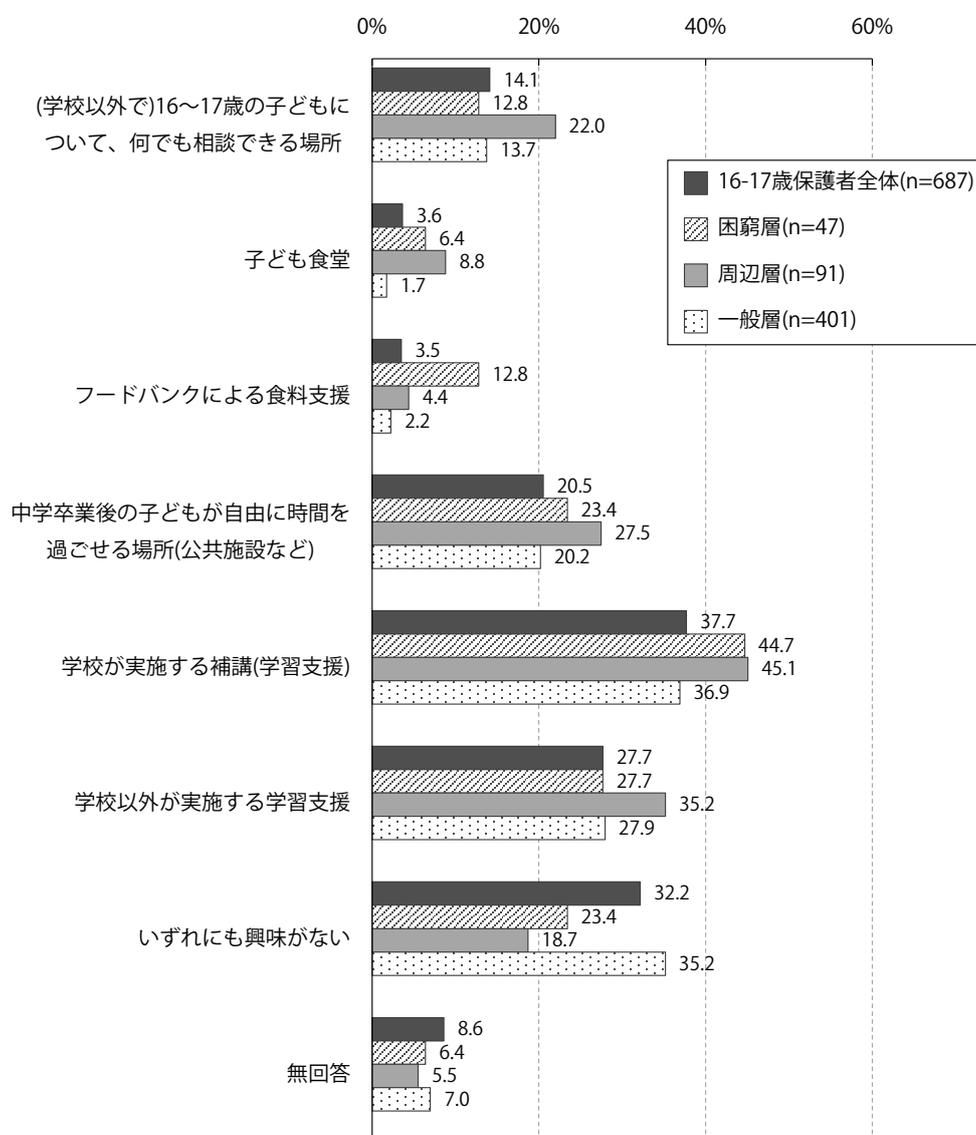
16-17歳の、今後、利用したいと思う支援制度等について、全体の利用意向割合の上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が37.7%、「学校以外が実施する学習支援」が27.7%、「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所（公共施設など）」が20.5%となっている。

困窮層における上位3位では、「学校が実施する補講（学習支援）」が44.7%、「学校以外が実施する学習支援」が27.7%、「中学卒業後の子どもが自由に時間を過ごせる場所（公共施設など）」が23.4%となっている。

困窮層では「フードバンクによる食料支援」の割合が、一般層に比べて10ポイント程度高くなっている。

## 問43-1 今後、利用したいと思う支援制度等

## 16-17歳



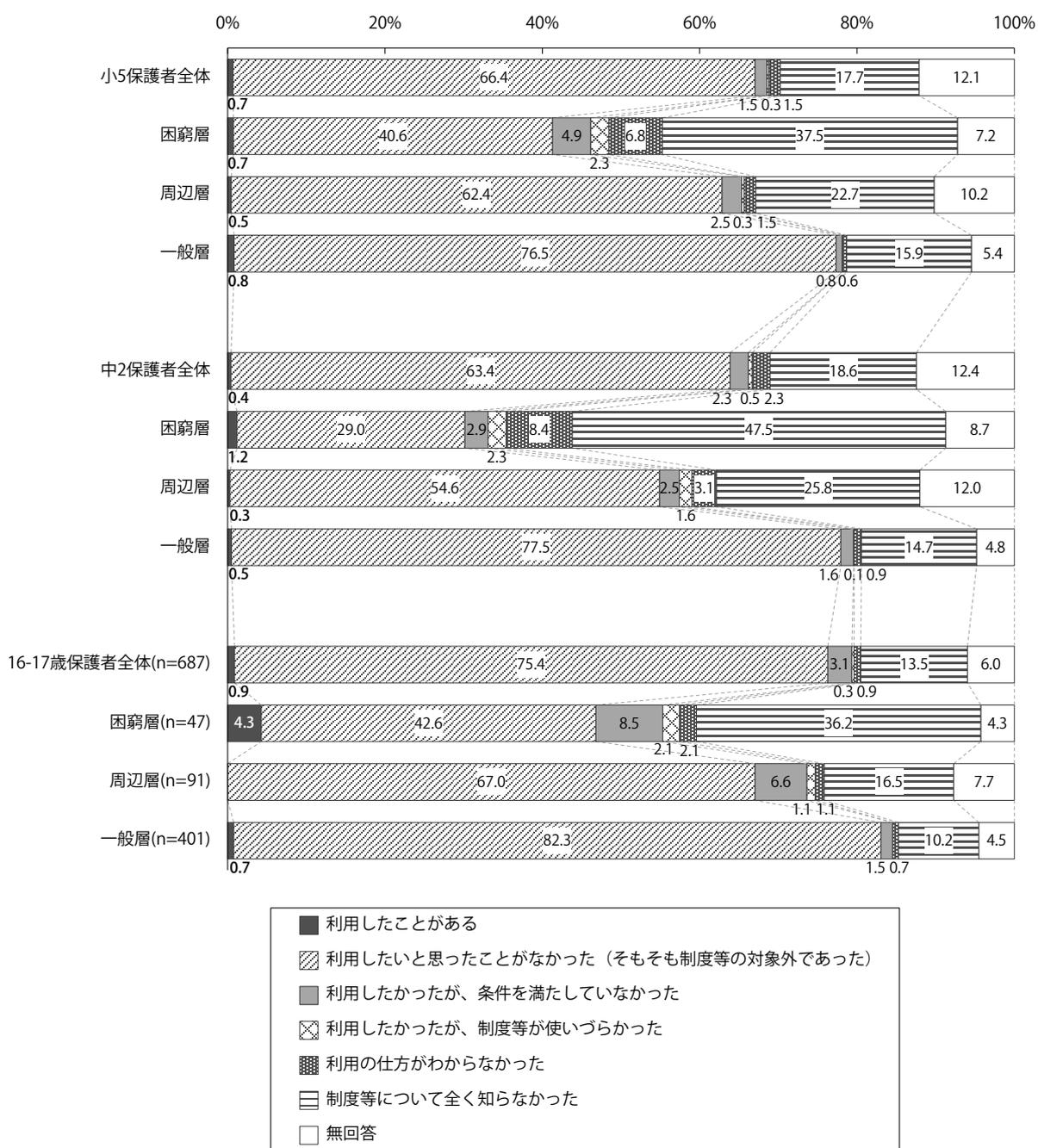
### (4) 経済的支援制度の利用経験

#### 生活福祉資金

【保護者票】

生活福祉資金の利用状況については、「利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度等の対象外であった）」の割合がいずれの年齢層でも高いが、困窮層では他の層よりも低くなっている。「利用したかったが、条件を満たしていなかった」について、16-17歳の困窮層で8.5%、周辺層で6.6%の回答がみられる。

問43 支援制度等の利用状況／生活福祉資金

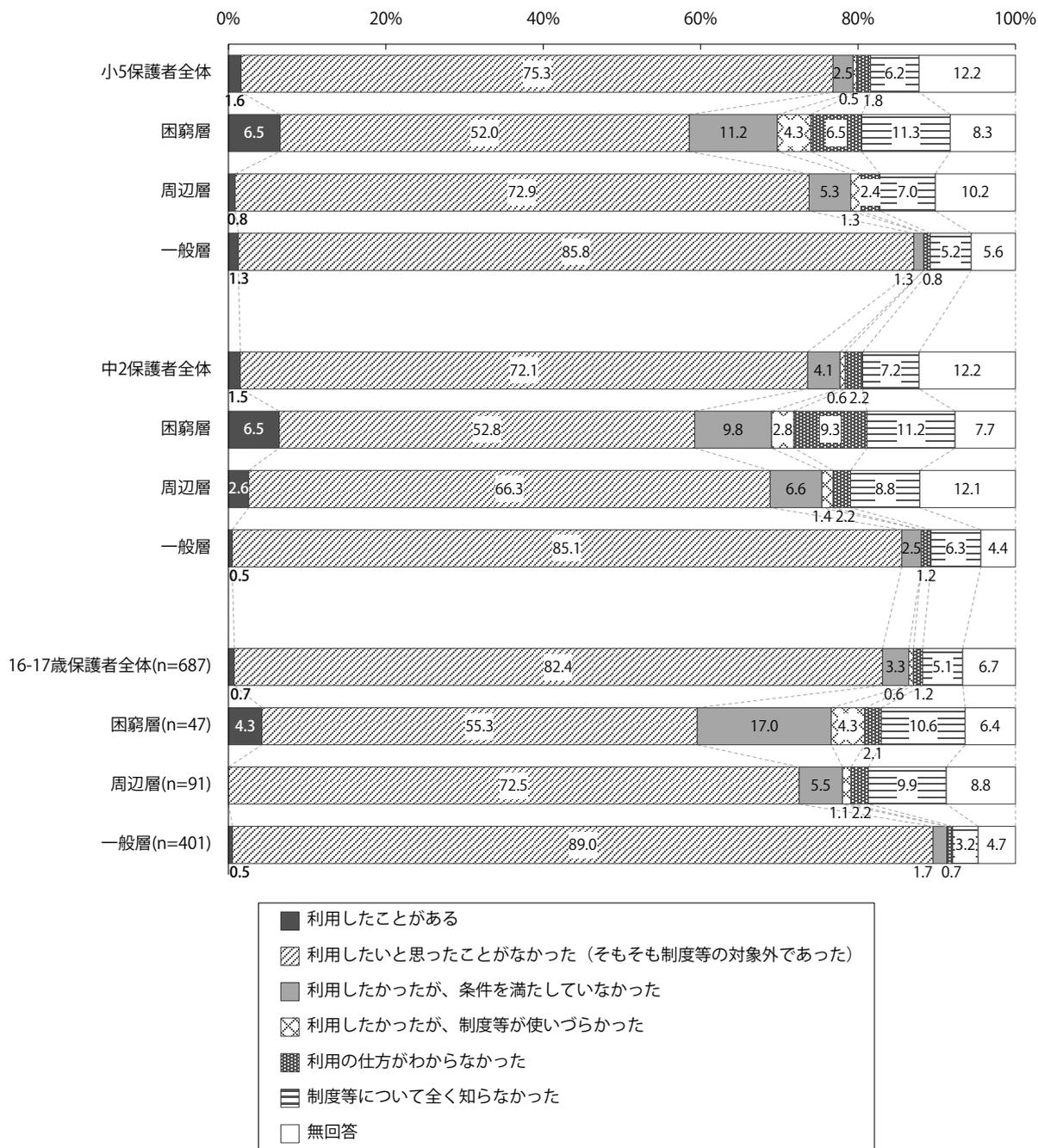


生活保護

【保護者票】

生活保護の利用状況については、「利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度等の対象外であった）」の割合がいずれの層でも高いが、困窮層では他の層よりも低くなっている。「利用したことがある」の回答は、小学5年生の困窮層で6.5%、中学2年生の困窮層で6.5%、16-17歳の困窮層で4.3%となっている。

問43 支援制度等の利用状況／生活保護



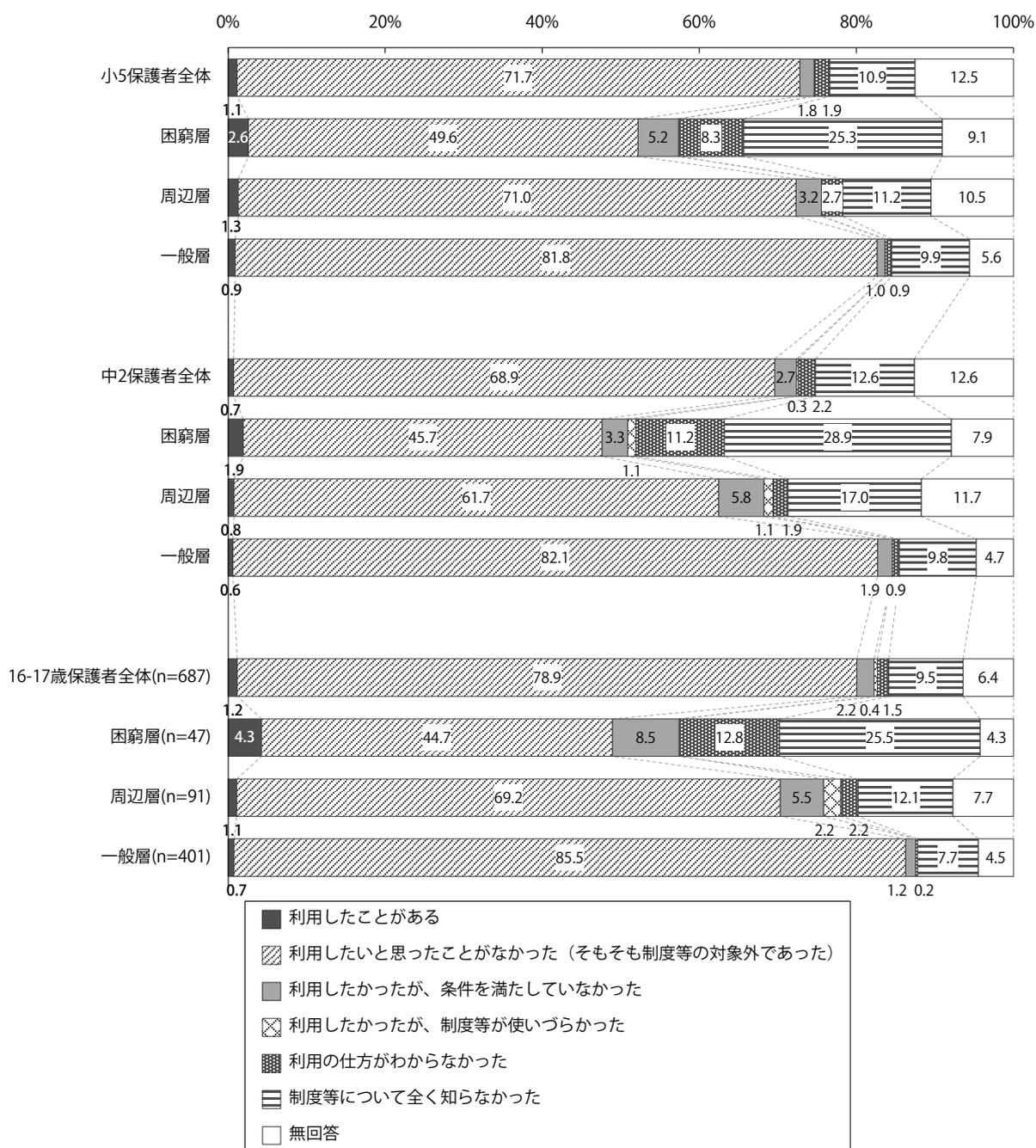
母子父子寡婦福祉資金

【保護者票】

母子父子寡婦福祉資金の利用状況については、「利用したいと思ったことがなかった（そもそも制度等の対象外であった）」の割合がいずれの層でも高いが、困窮層では他の層よりも低くなっている。

「利用したことがある」の回答は、小学5年生の困窮層で2.6%、中学2年生の困窮層で1.9%、16-17歳の困窮層で4.3%となっている。

問43 支援制度等の利用状況／母子父子寡婦福祉資金

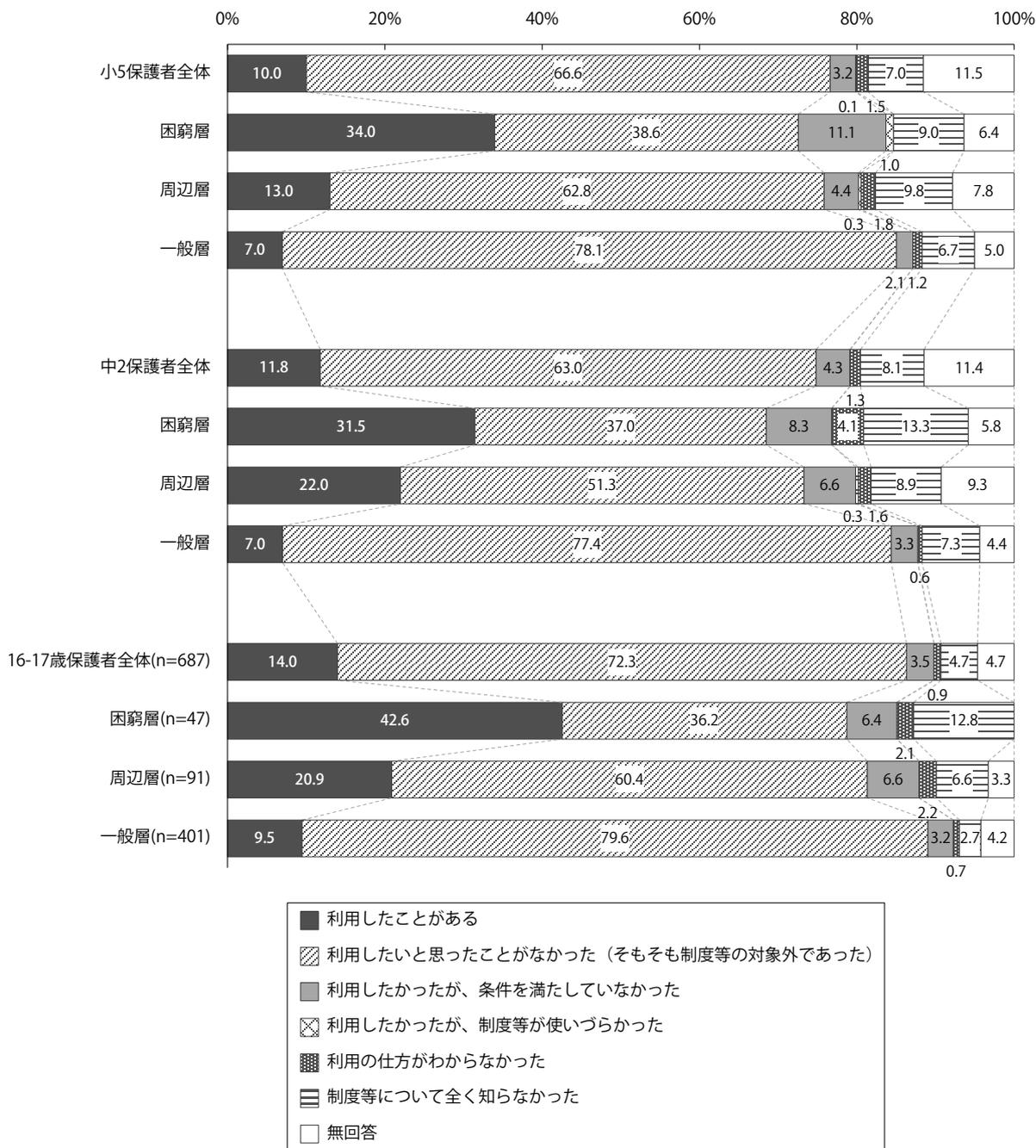


児童扶養手当

【保護者票】

児童扶養手当の利用状況について、「利用したことがある」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で34.0%、周辺層で13.0%、一般層で7.0%、中学2年生の困窮層で31.5%、周辺層で22.0%、一般層で7.0%、16-17歳の困窮層で42.6%、周辺層で20.9%、一般層で9.5%となっている。

問43 支援制度等の利用状況／児童扶養手当



(5) 支援制度等の利用意向

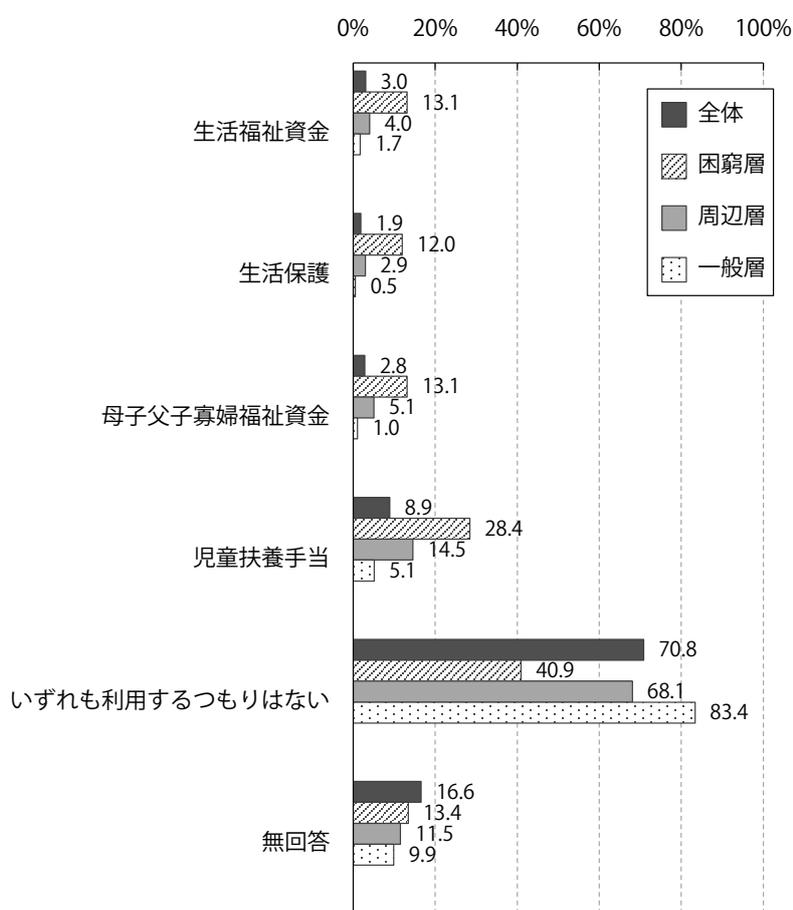
【保護者票】

今後利用したいと思う支援制度等については、「生活福祉資金」「生活保護」「母子父子寡婦福祉資金」「児童扶養手当」のすべてにおいて生活困難度が高いほど今後の利用意向も高くなっている（16-17歳の生活保護のみ除く）。

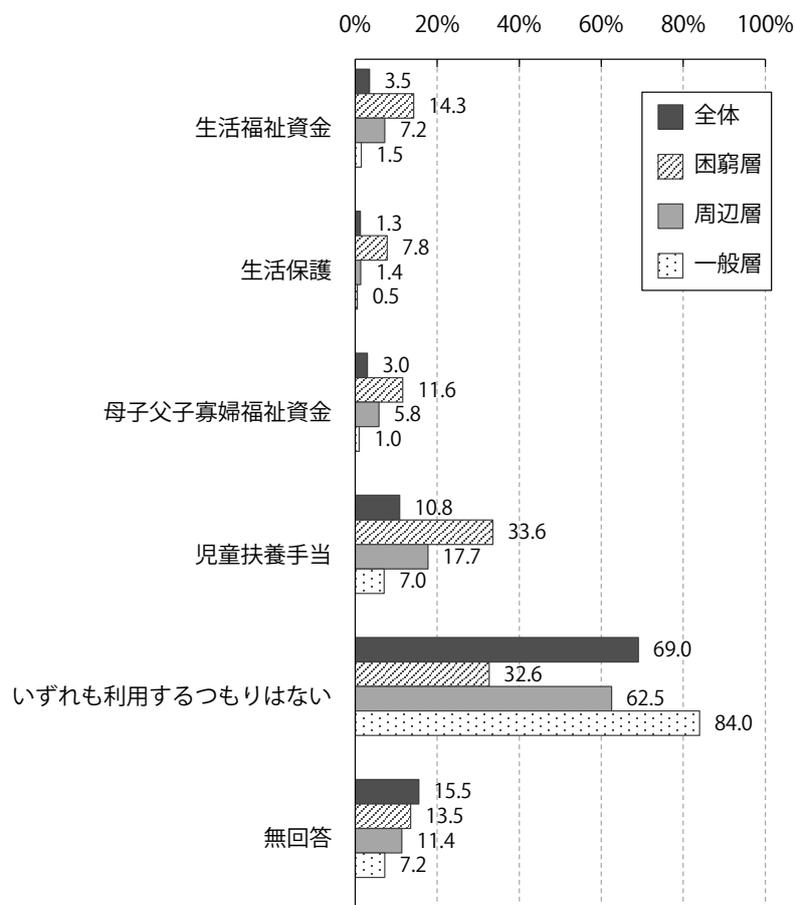
問43では、それぞれの制度において一定の「制度等について全く知らなかった」という回答がみられたことから、制度の認知度の向上についての検討も重要と思われる。

問43-1 今後、利用したいと思う支援制度等

**小学5年生**

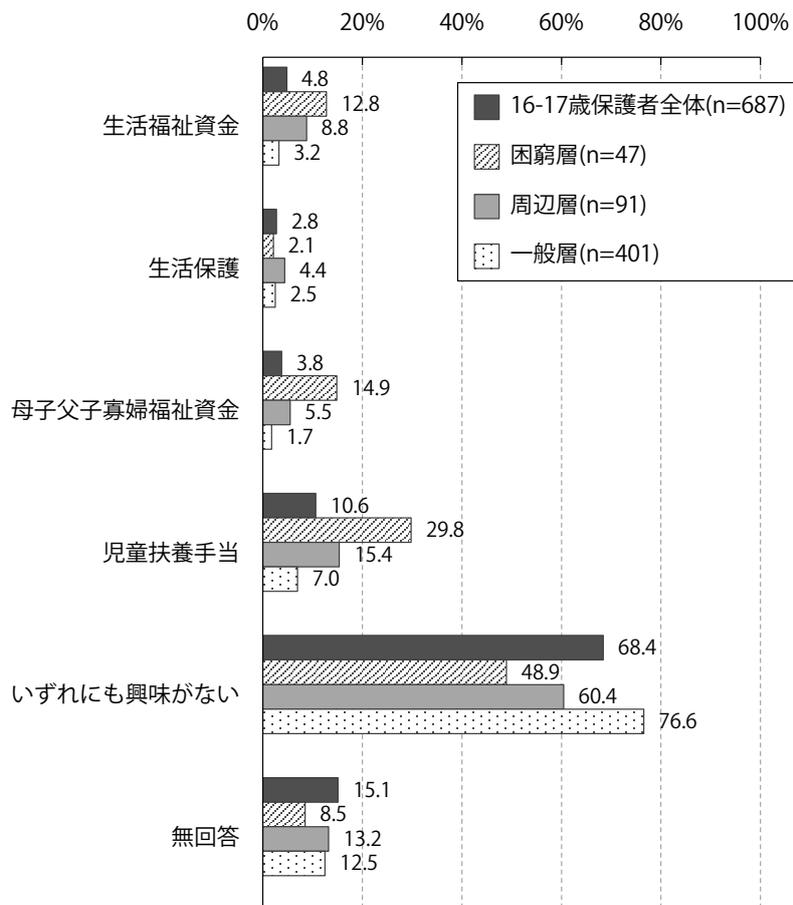


問43-1 今後、利用したいと思う支援制度等

**中学2年生**

問44-1 今後、利用したいと思う支援制度等

**16-17歳**



### 3 相談窓口の利用状況

#### (1) 公的相談機関の利用経験

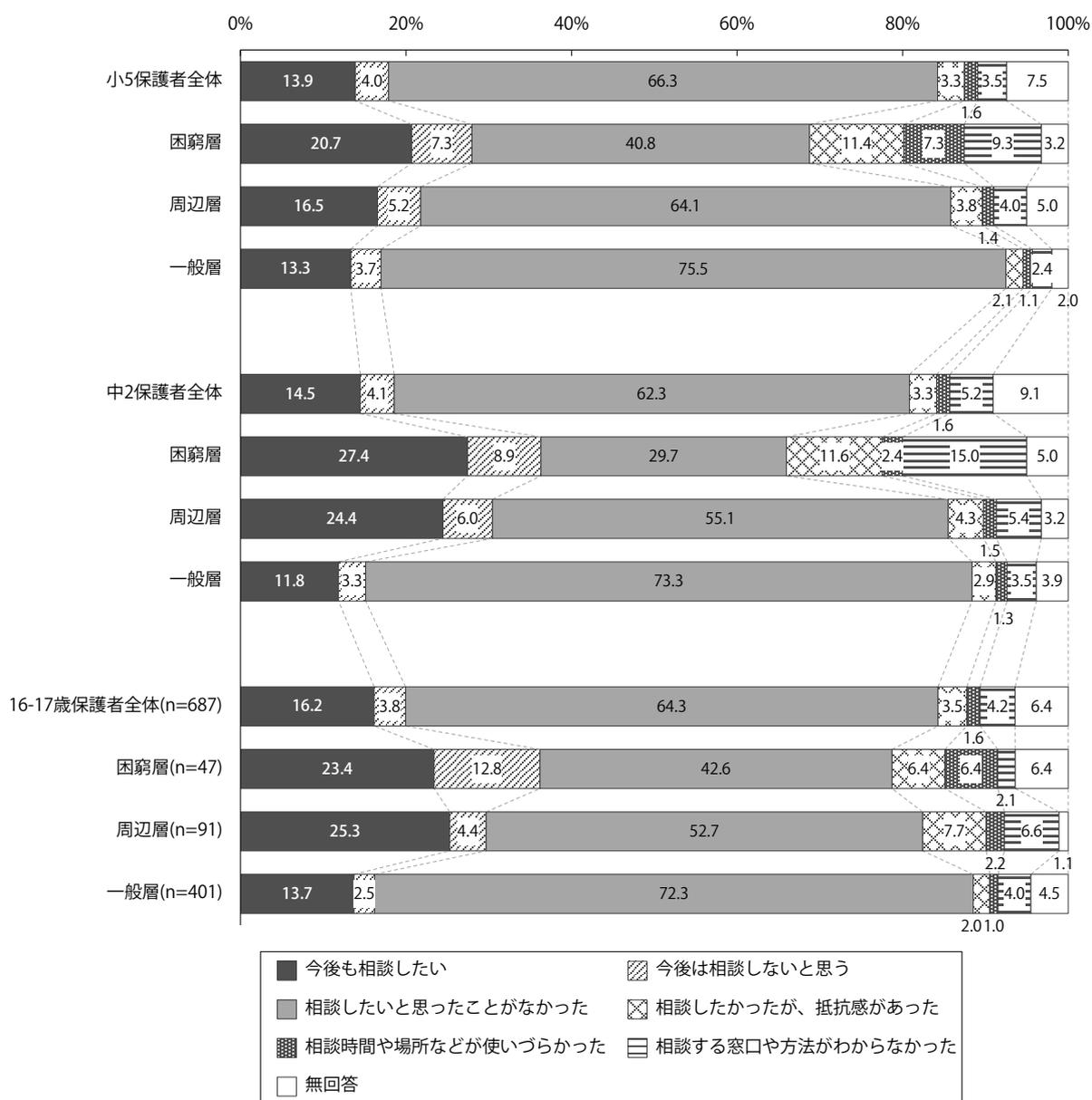
##### A 市役所の窓口

【保護者票】

市役所の窓口への相談について、「今後も相談したい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で20.7%、周辺層で16.5%、一般層で13.3%、中学2年生の困窮層で27.4%、周辺層で24.4%、一般層で11.8%、16-17歳の困窮層で23.4%、周辺層で25.3%、一般層で13.7%となっている。総じて、生活困難度が高いほど今後の相談の意向が高くなっている。

「相談したかったが、抵抗感があった」の回答が、小学5年生の困窮層で11.4%、中学2年生の困窮層で11.6%みられること、「相談する窓口や方法がわからなかった」の回答が中学2年生の困窮層で15.0%みられることに注視する必要がある。

問45 公的機関への相談状況／A 市役所の窓口



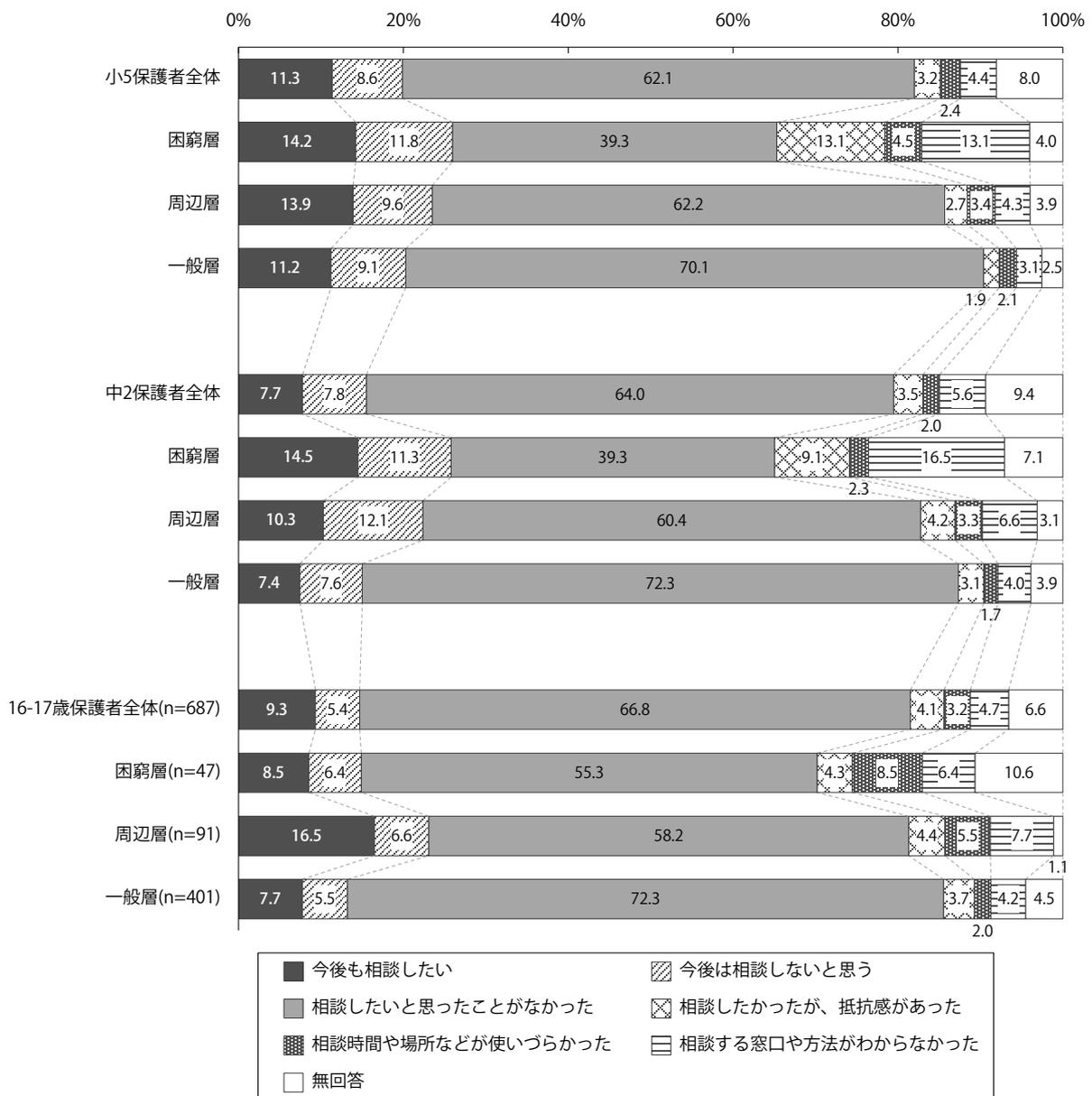
B 子育て支援センター

【保護者票】

子育て支援センターへの相談について、「今後も相談したい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で14.2%、周辺層で13.9%、一般層で11.2%、中学2年生の困窮層で14.5%、周辺層で10.3%、一般層で7.4%、16-17歳の困窮層で8.5%、周辺層で16.5%、一般層で7.7%となっている。小学5年生と中学2年生では、生活困難度が高いほど今後の相談の意向が高くなっている。

「相談する窓口や方法がわからなかった」の回答が小学5年生の困窮層で13.1%、中学2年生の困窮層で16.5%みられる。

問45 公的機関への相談状況／B 子育て支援センター

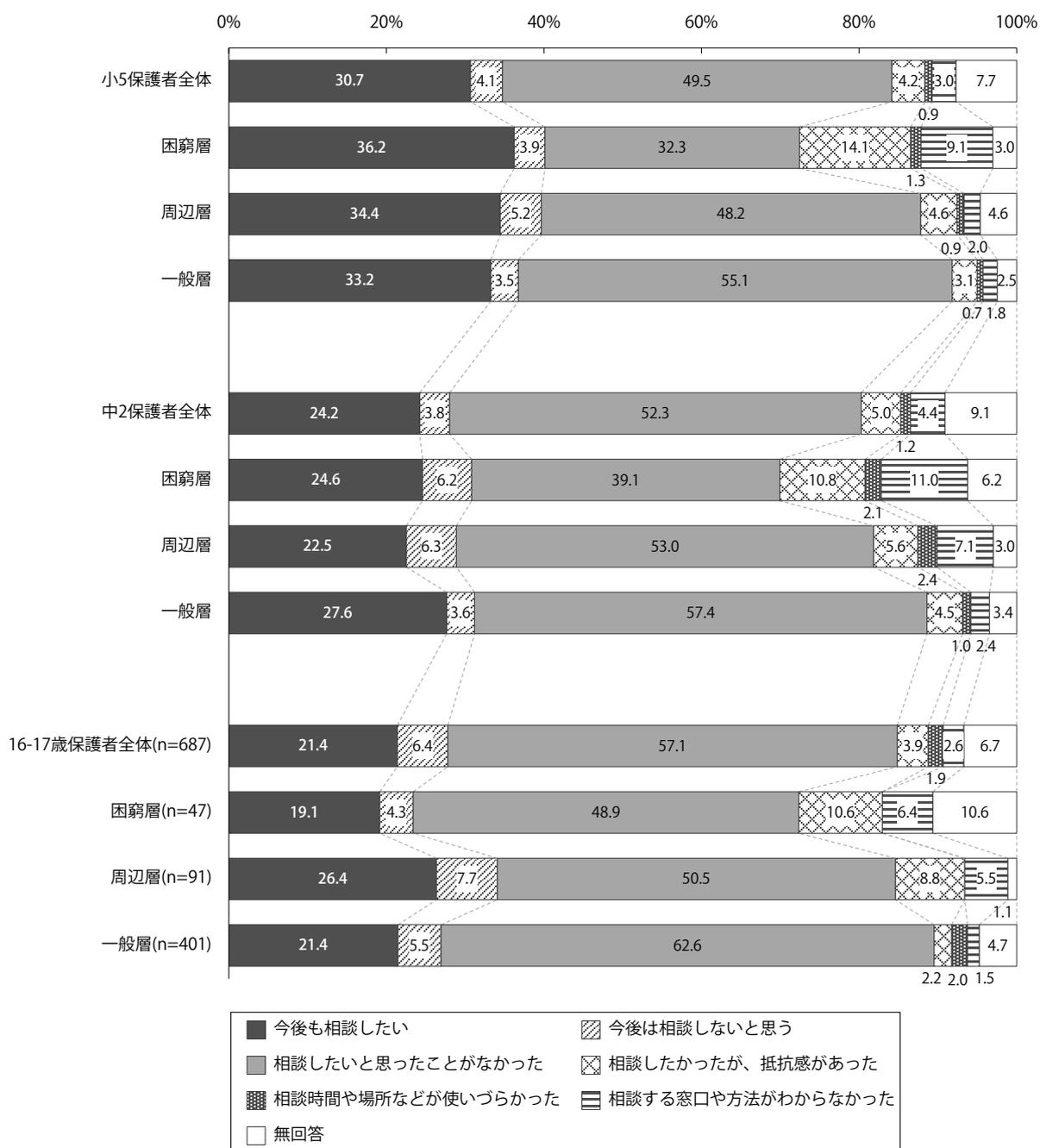


## C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

【保護者票】

学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなどへの相談について、「今後も相談したい」と回答した割合は、小学5年生の全体で30.7%、中学2年生の全体で24.2%、16-17歳の全体で21.4%となり、子どもの年齢が低いほど今後の相談意向も高い。生活困難度との相関は特にみられないが、「相談したかったが、抵抗感があった」では、すべての年齢層で、困窮層と周辺層において一般層よりも高い割合の回答がみられる。

問45 公的機関への相談状況／C 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

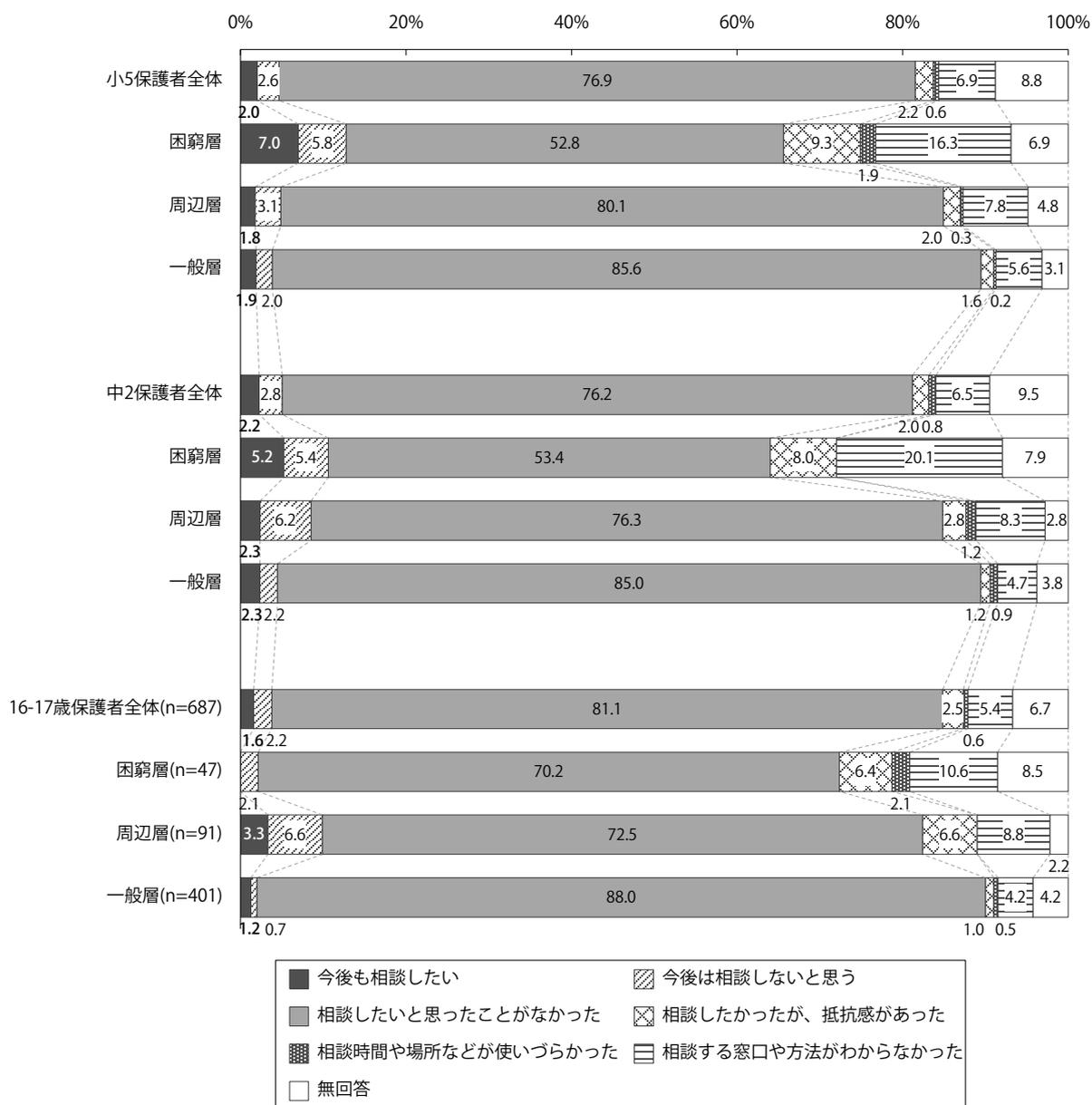


D 民生委員・児童委員

【保護者票】

民生委員・児童委員への相談については、「相談したいと思ったことがなかった」と回答した割合がいずれの層でも多くの割合を占めている。生活困難度との相関がみられるのは「相談する窓口や方法がわからなかった」とする回答であり、小学5年生の困窮層で16.3%、周辺層で7.8%、一般層で5.6%、中学2年生の困窮層で20.1%、周辺層で8.3%、一般層で4.7%、16-17歳の困窮層で10.6%、周辺層で8.8%、一般層で4.2%となっている。

問45 公的機関への相談状況/D 民生委員・児童委員

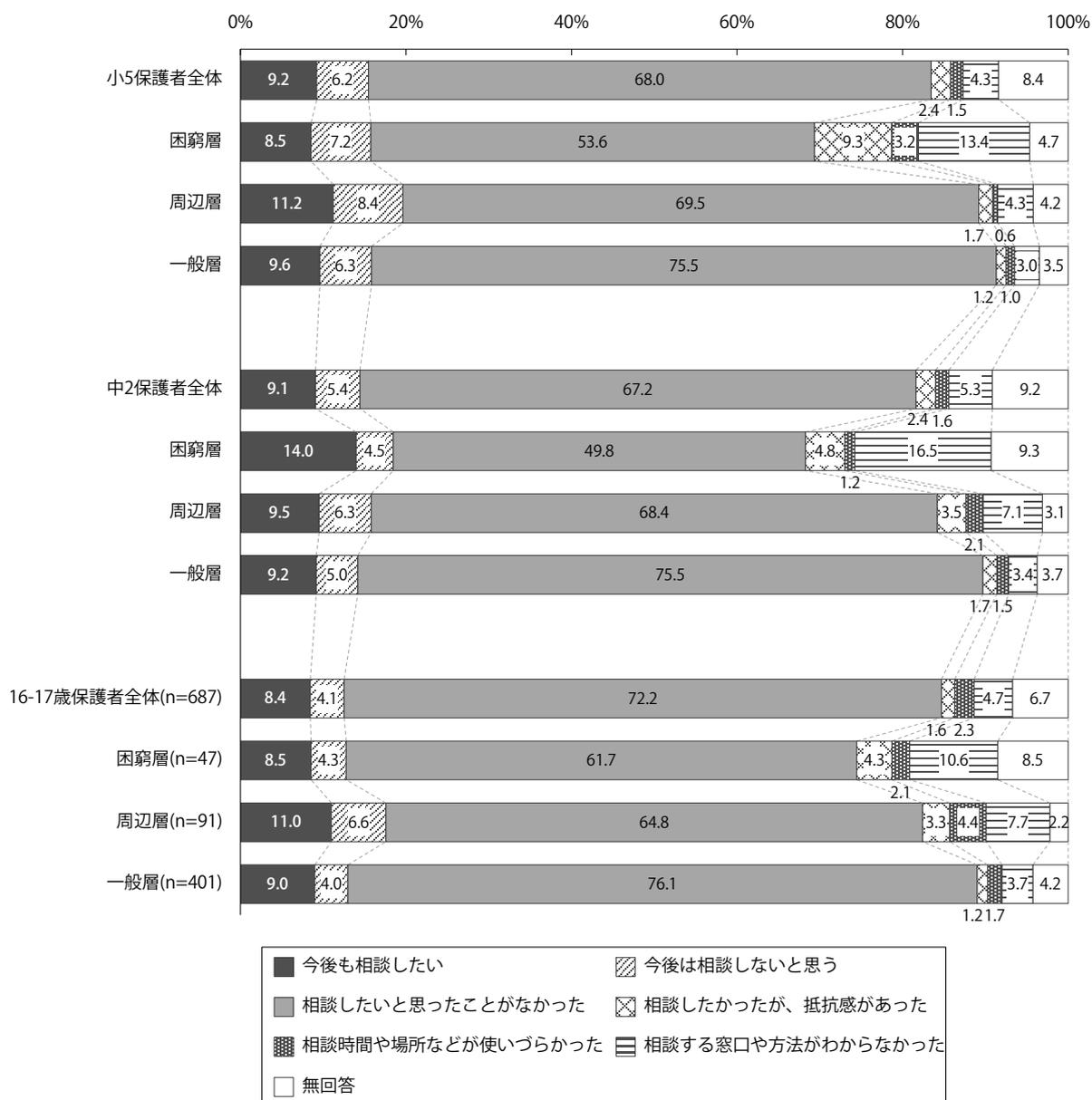


## E 保健所（保健センター）

【保護者票】

保健所（保健センター）への相談については、「相談したいと思ったことがなかった」と回答した割合がいずれの層でも多くの割合を占めている。生活困難度との相関がみられるのは「相談する窓口や方法がわからなかった」とする回答であり、小学5年生の困窮層で13.4%、周辺層で4.3%、一般層で3.0%、中学2年生の困窮層で16.5%、周辺層で7.1%、一般層で3.4%、16-17歳の困窮層で10.6%、周辺層で7.7%、一般層で3.7%となっている。また、困窮層での「相談したかったが、抵抗感があった」については、小学5年生で9.3%、中学2年生で4.8%、16-17歳で4.3%の回答がみられる。

問45 公的機関への相談状況／E 保健所(保健センター)



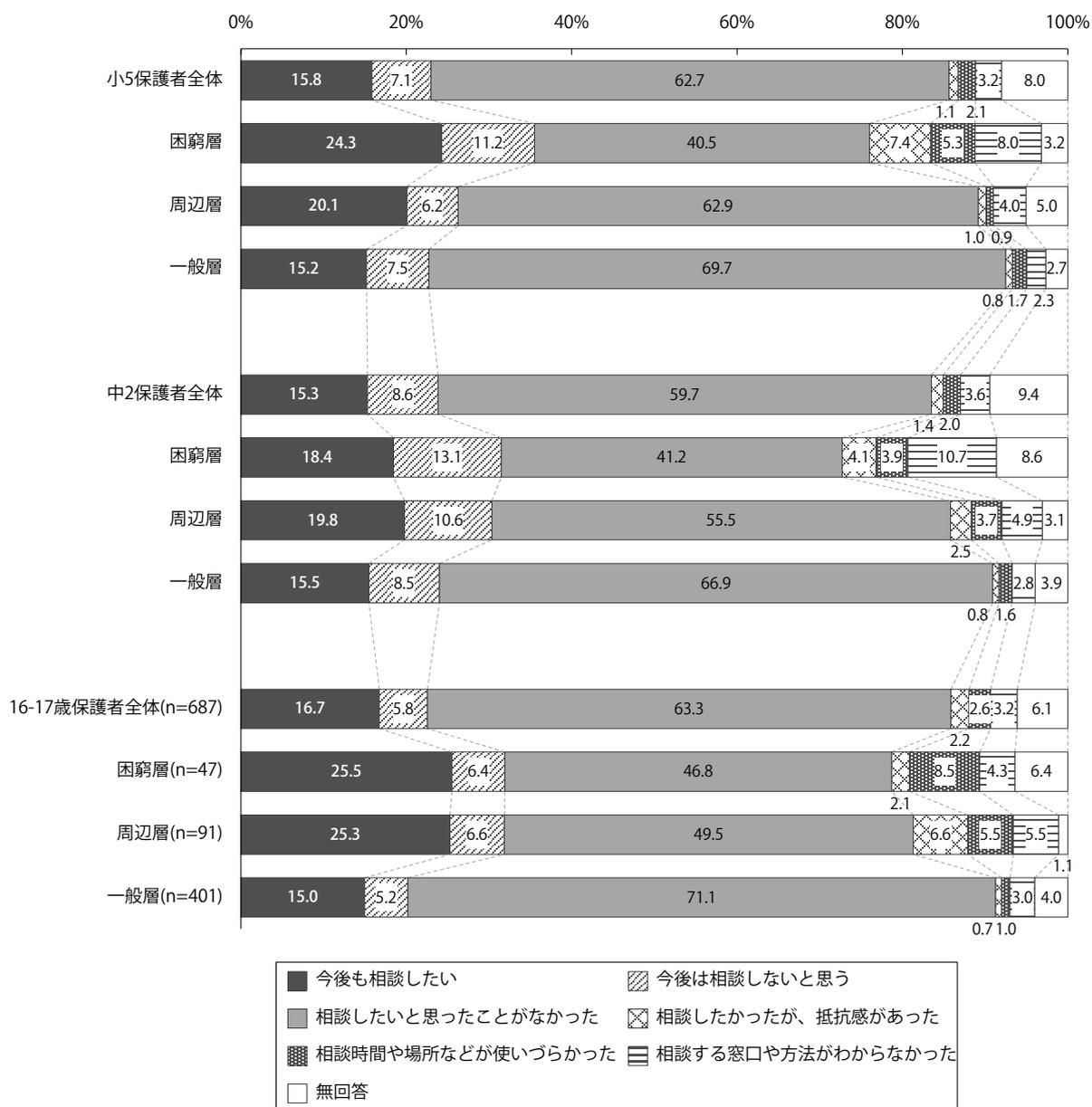
F ハローワーク

【保護者票】

ハローワークへの相談について、「今後も相談したい」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で24.3%、周辺層で20.1%、一般層で15.2%、中学2年生の困窮層で18.4%、周辺層で19.8%、一般層で15.5%、16-17歳の困窮層で25.5%、周辺層で25.3%、一般層で15.0%となっている。小学5年生と16-17歳では、生活困難度との相関がみられる。

また、困窮層での「相談する窓口や方法がわからなかった」については、小学5年生で8.0%、中学2年生で10.7%、16-17歳で4.3%の回答がみられる（16-17歳の周辺層では5.5%）。

問45 公的機関への相談状況／F ハローワーク



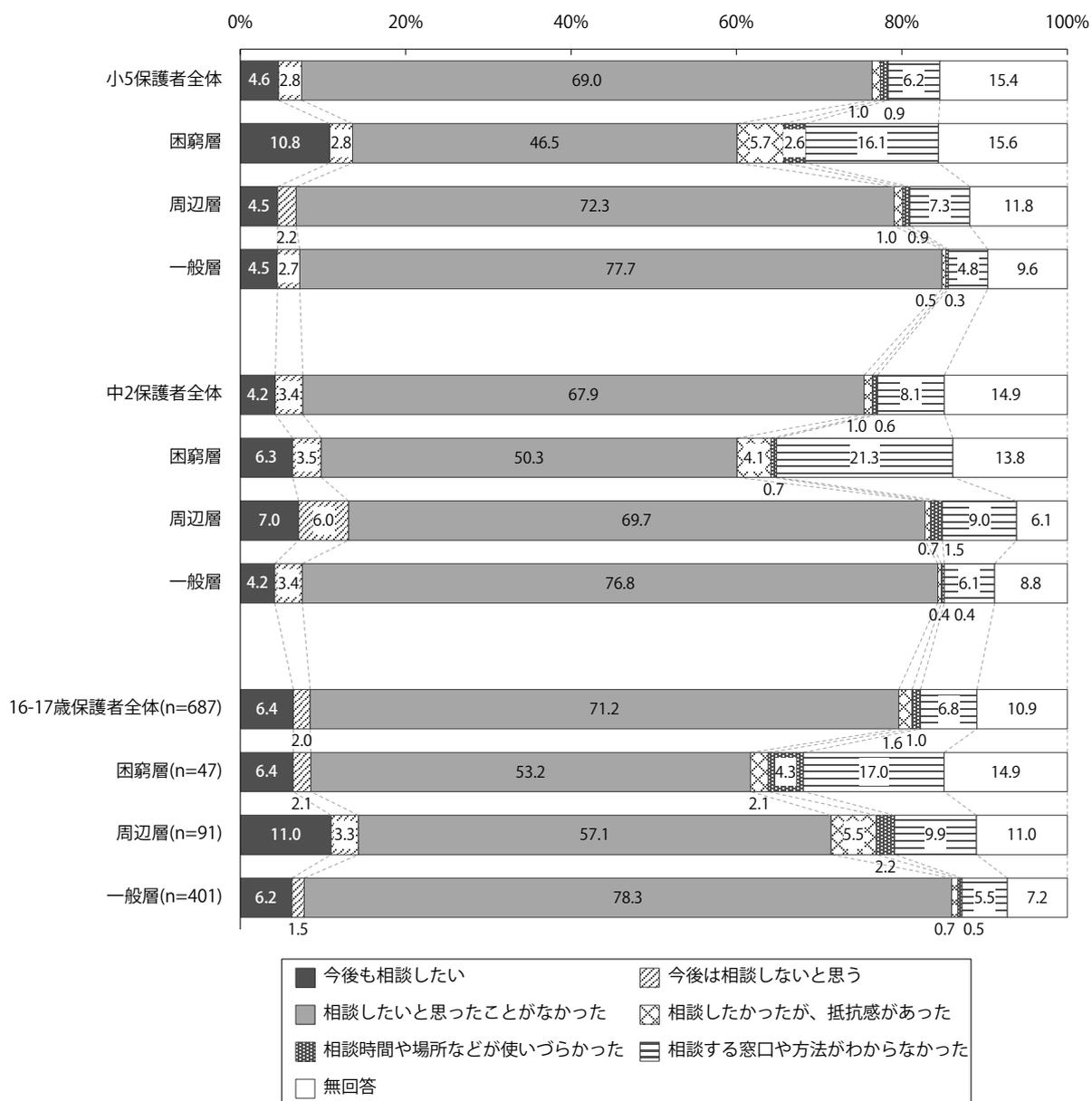
G 上記以外の公的機関

【保護者票】

ここまでの項目以外の公的機関について、「相談する窓口や方法がわからなかった」と回答した割合は、小学5年生の困窮層で16.1%、周辺層で7.3%、一般層で4.8%、中学2年生の困窮層で21.3%、周辺層で9.0%、一般層で6.1%、16-17歳の困窮層で17.0%、周辺層で9.9%、一般層で5.5%となっている。

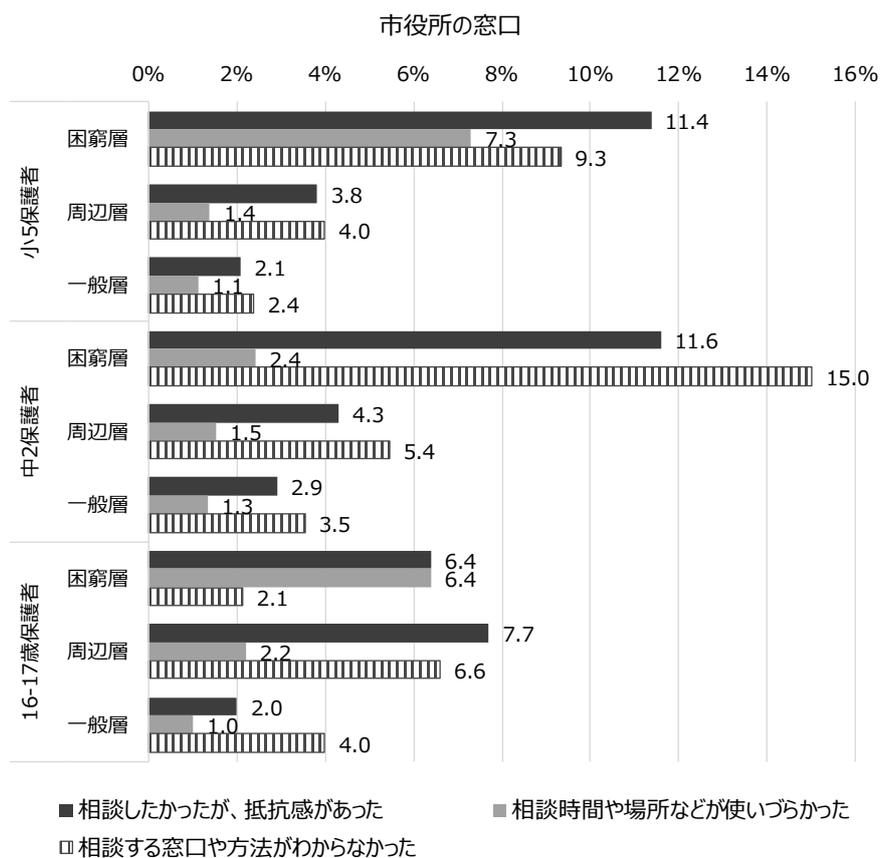
相談したかった内容や求めている支援についてこの設問では不明だが、「公的」な相談窓口の存在や役割・機能などが、それを求める層からわかりにくい状態になっている可能性がある。

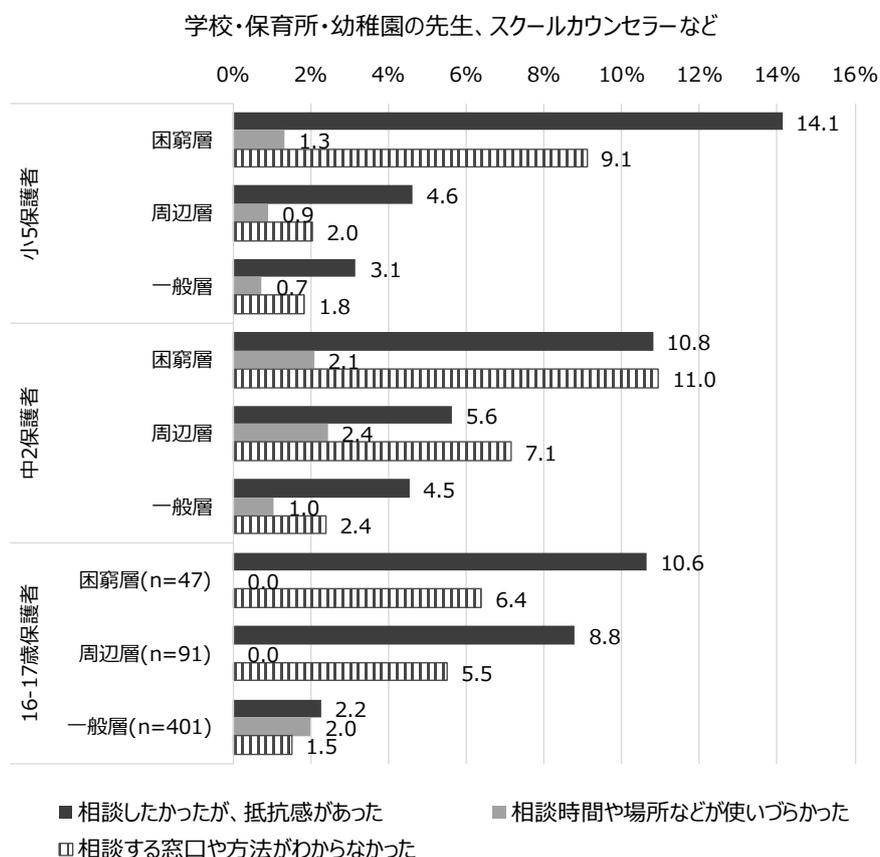
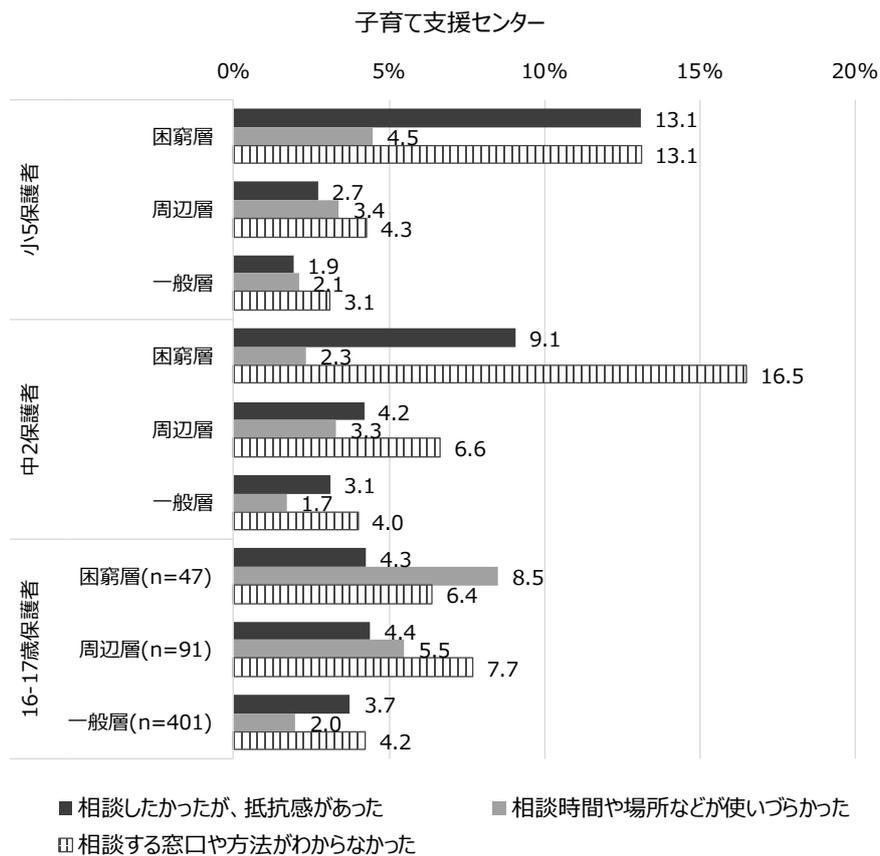
問45 公的機関への相談状況／G 上記以外の公的機関



「市役所の窓口」「子育て支援センター」「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」への相談状況について、利用したことがない保護者の、利用を阻害している要因と捉えられる「相談したかったが、抵抗感があった」「相談時間や場所などが使いづらかった」「相談する窓口や方法がわからなかった」の状況を生活困難度別にみると、全体的に困窮層では「相談したかったが、抵抗感があった」と「相談する窓口や方法がわからなかった」の割合が一般層と比べて高くなっている。

問 45 公的機関への相談状況で利用していない人の理由（抜粋）





## 第11章 主な意見

### 1 保護者の困っていること・悩みごと

#### (1) 暮らし向き・生活の困難さ

- 両親共に今年50歳になる。中2、小5の子どもがいるが、今年家を新築し30年ローンを組んだ。これから先、学費の面倒がみられるか心配。【小5保護者】
- 働きながら、子どもが塾に行く等の送迎が非常に難しい。中学生頃になって、受験にそなえるのが不安。【小5保護者】
- 世帯が別でも住居が一緒というだけで母子家庭の補助が受けられない事に非常に困っている。図書館に子どもを連れていくことがあるが、古い本ばかりでレイアウトも古く、本好きの子どもたちが残念がるほど魅力がない。【小5保護者】
- 中学生になると今まで以上に色々な面でお金が出ていくので大変。【中2保護者】
- 経済的にかなり厳しい。これから子どもが高校に行くとなると、やっていけるのかが心配。家賃がとて負担なので、県営住宅に入居したいが、学区内での募集がいつもある訳でもなく、応募してもなかなか当たらない。住宅手当などがあると助かるのに。母子家庭で年齢もいくと、就職もなかなか見つからない。【中2保護者】
- 子供が3人以上いると本当にお金がかかるので、色々な面で助けてほしい。少子化で3人以上いる家庭を援助しないのは疑問。【中2保護者】
- 貯蓄がないので将来が不安。子どもから大学等に行きたいと言われた時に学費が支払えないので。老後に向けての貯蓄がなかなかできないのも不安。【中2保護者】
- 大学に進学させたいが経済的にムリがある。奨学金という名のローンにはまるのが怖い。大学まで高校のように支援してくれると格差社会は生まれないと思う。【16-17歳保護者】
- 中学生までは少しでも手当があり医療費がかからないが、高校生になるとすべて負担しなければならず、ますます出費がかさむ。旅行に行きたいが、家族で出かけるとお金がすごくかかるので行けない。【16-17歳保護者】

#### (2) 教育・学習について

- 一人親、子どもが3人いるので資金的にどこまで教育をつけさせられるか不安。年収に応じた教育費用で進学の違いが縮まるといい。【小5保護者】
- 放課後のあずかりなど。サマースクール、夏休みが川越だけ長すぎる。図書館が学区内になく、子どもが1人で借りに行けない。育成会など、自分の子どもを家に1人で留守番させてまで行くべきかと考えてしまう。【小5保護者】
- 高校受験では、学校より塾の先生が頼りになると話を聞き、塾代が心配。塾に行かなくても大丈夫になってほしい。小学生の宿題も習い事で忙しく大変。授業の中で5~10分復習の時間を作り宿題を減らせないか。【小5保護者】
- 長男が高校受験をしたが、学校の勉強だけでは行きたい学校に合格できないので、塾に通わせた。学校で習う範囲だけでは、試験問題に対応できないということに驚いた。塾は経済的に負担。やる気があれば公立中学の勉強だけで受験できるようにしてほしい。親の貧困が子どもに連鎖するのは避けたいが、現実はきびしい。【中2保護者】

- 学費（高校・大学）が高すぎるので、せめて、高校までは義務教育にしてほしい。本人の努力もあるが、お金がある家は将来が広がるように思える。習い事をさせてあげたくても現実は厳しい。【中2保護者】
- 部活の遠征費が多くかかって困る。集団の塾ではついていけないと思うから個別の塾を探したが費用が高すぎ、学校の先生に補講をお願いしたい。【中2保護者】
- 子どもの希望する大学 or 専門学校の費用が高いため仕事を増やさねばならないが、体力的に厳しい。妹（現在、中学と小学生）たちが、公立の高校を落ちて私立に行くことになったら、生活していけない。【中2保護者】
- 長男（高2）の学習について。部活動と勉強の両立ができないため、非常に成績が悪い。【16-17歳保護者】
- 高校生の息子は進学希望だが、父親は就職することを希望。小2の次男が学力が上がらず、小1の問題もよくまちがえる。3年になっても心配だったらリベアを頼ってみようと考えている。【16-17歳保護者】

### （3）子育て支援・子どもとの関わり

- 父母共働きのため、なかなか子どもと過ごす時間を増やすことができない。朝も子どもより早く出て鍵閉めをお願いしている。放課後、友達と遊びに行くことも多いがそれ以外は1人である。【小5保護者】
- 仕事をしたいが小学生を夏休みなどに留守番させることになるので、なかなか見つからない。実家も遠く、気軽に預けられないので、放課後子供教室はずっと設置を願ってきた。安心して遊べる場所を確保してほしい。学校内の空き教室だと移動がなくて理想的。【小5保護者】
- 子どもの事が大好きで一番大切なのに、たまにどのように接したらいいのかわからなくなる。謝るかぎゅっとだきしめてあげる事しかできない。情報誌のようにうまくできない。良い母親とは何なのか。【中2保護者】
- 保育園は夜7:00まで利用できるのに、学童は6:30までと同じ時間でないのは利用しにくい。お迎えが間に合わなくなってしまうので、仕事を変えざるを得ない。ファミサポの利用を提案されるが、出費も増えたり、フルタイムで毎日働いているとファミサポの調整も大変。せめて、保育園と学童、同じ時間利用できるよう検討してほしい。【中2保護者】
- 高校を中退し、母親と話をせずアルバイトもしないで家にいる。友人に会ったり外へは行くのでひきこもりではないが、自立できないと思うと不安で悲しくて辛い。学校へ行かなくてもよいから、自立してほしい。【16-17歳保護者】

### （4）子どもの環境・状態

- 夕方6時までフルタイムで働きたいが、子どもが帰宅後の時間に安心して遊べる場所がない。公園等は不審者情報が多かったりして近くで見守りをする必要がある。【小5保護者】
- 子どもが元気よく思いきり遊べる環境が全くない。家の前だとうるさい、ボールはダメと怒られるが公園もボール禁止。せめて上尾こどもの城以上の施設が川越にもあれば。広場や図書館が少なくかわいそう。【小5保護者】
- 友達と外で体を動かして遊べる公園・広場が少ない。特に市中心地域。広場は避難場所としても活用できそう。また、外出時の避難経路のポイントとしても活用できれば助かる。【小5保護者】

- 放課後に小・中学生が集まれる児童館のような場所が近づくなく、特に中学生が学校外で部活の仲間と集まれる場所を探していた。ゲームなどするのではなく、部活の先輩へ大会前にお守りを作ったりしたかったよう。公民館に相談に行っても断わられたそうで、遊ぶためではない集まりなどは地域でもう少し協力してくれたらいいのと思った。【中2保護者】
- 辛いニュースばかりで苦しい。虐待する人、されている子が川越市にはいないことを望む。私も子どもが0歳の頃大変だったが周りに助けてくれる人がいたおかげで、今、中学生になる子どもと楽しく過ごせている。【中2保護者】
- 子どもが家以外で静かに学習する場所がなく困っている。通っている高校は放課後や休日に教室を開放しておらず、近所の図書館は勉強スペースが少ないため、試験前はスーパーのパン屋で勉強している。公共の学習スペースを作ってほしい。図書館の上の2階は学習室にできないか？【16-17歳保護者】
- 以前、子どもがよく、中学生（高校生）が勉強できる場所があればいいのにとこぼしていた。ウエスタ等の公共の場所も中高生の勉強用ではない。塾に行っていた時はそのスペースで自主勉強していたが、今は行っていないので、友人と勉強するスペースを駅の近くで探したりしていた。【16-17歳保護者】

#### (5) 地域環境・地域との関わり

- 子ども食堂、無料学習支援施設 etc. 貧富に関係なくだれでも利用できる場があっても良いと思う（貧困の子ども限定だと、行く方が恥ずかしく思って足が遠のくと思う）。家で余っている食材 etc. 持っていく事もできる。できるなら、学校で紙などによる一人一人への通知は必要。【小5保護者】
- 放課後子供教室や学童保育など利用したいと思っても、親の間での役員などのボランティアを課せられ、仕事をするために利用しているのに活動が多くて利用しにくい。学校などの役員というボランティアに負担を感じ、子育てが辛いと思う時がある。【小5保護者】
- 近所に外国人の両親の子がいる。考え方や習慣などのちがいを注意しても、あまり理解していないようで困っている。例えば夏休みのラジオ体操でも、そんなに早い時間に子どもを起こすのはかわいそうとか、夏休みのプールや日曜参観を、ホリディなのに学校に行くのはおかしいなど。日本語はしゃべれるが、おたよりなどはむずかしいよう。学校や地区などでもう少しサポートできないだろうか？【小5保護者】
- 学校や地域の役員制度。毎日家事や仕事、子どもの送迎に余裕がない中で役員の任務が多く、土、日、平日一休める時間がなく、自分の子どものご飯も作れず役員の仕事に追われている。学校や地域の役員の仕事も、お金を払って人を雇ってもらうか、仕事として募集すればやりがいがある人が立候補するはず。【中2保護者】

#### (6) 手当・制度

- 母子手当や児童手当はありがたいが、もう少しふやしてほしい。高校、中学など、制服が買えるかなど金銭的に悩んでいる。【小5保護者】
- 公的な制度が年々よくなってありがたいと思うが、年収制限ギリギリで利用できないことがあり、母親は仕事をやめようかと悩んでいる。やめてしまうと経済的に苦しいので続けているが、もう少し年収制限をゆるくしてもらいたい。【小5保護者】
- 不登校になり、子ども自身の相談・活動の場が少ない（部活参加を希望すると、授業を受けていないとだめだといわれた）。子どもが学校に行かない間も給食費等は払っている。【中2保護者】

- 子どもが1人私立に行っていて経済的に苦しい。低所得者にばかり援助を手厚くしているが、収入があっても苦しいことを分かってほしい。【中2保護者】
- 年収が低くても豊かな生活を送り、逆に年収はそれなりにあっても様々な理由から生活が苦しい家庭もある。親の収入で児童福祉手当その他の援助を決めるのは違うと思う。公的支援はどう考えても不要という人が少なからず周囲にいる。公的支援を受けられず、ぎりぎり頑張っている人もいれば、もらえるものはもらおうとうまい手を使って援助を受けている人をみると、不公平さを感じる。【中2保護者】
- なぜ、国や地方の補助金は、1人の子どもがいる家庭と2人以上の子どもがいる家庭で同じ基準なのか？ 1人の子どもならなんとかできても、2~3人以上では、同じ収入でも厳しいし、親の時間も無いから仕事もできない。それらが全く考えられていない制度だと思う。だから、子どもが増えない、増やせない。生まれた子どもが全員、学びたい学校で学べる環境があれば、子どもの意欲も伸び、将来、日本の子どもが国内・海外で大きく活躍できるようになるのではないかと思う。お金のことで子どもの未来（さき）を決めないですむ地域や国であってほしい。【16-17歳保護者】

## (7) 健康・障害

- 発達障害の子どもがいるが、一見すると障害があるようには見えず、何でもそれなりにこなせるので、過保護や要望の多いめんどうな親だと思われる。子どものフォローは必須なのに理解されない。行政に相談というよりはもっと気軽に、日々の細かいことを相談できる所があれば救われる。【小5保護者】
- 発達障害についての情報を、もっと学校を通して出すべきと思う。学校と医療者と行政がもっと連携してほしい。【小5保護者】
- 子供の医療費が高校生まで保障されると助かる。【中2保護者】
- 知的障害を持つ子どもの高等部卒業後の余暇について。作業所は出勤が遅く退社が早いので、親の生きがい（仕事）の時間に限りが出てしまう。また、子ども自身も帰宅後は手持ちぶさたな時間が増えストレスが溜まる。大人用の放課後デイがあるといい。1時間でもいいので。【16-17歳保護者】

## (8) 仕事・所得・経済

- ひとり親になった時に住む所や仕事が見つかるか心配。【小5保護者】
- 埼玉県の最低賃金が安すぎる。今働いている所は最低賃金に合わせている。子どもがまだ小さいので融通がきく今の所をやめられない。【小5保護者】
- 収入をふやしたいが、フルタイムになると子どもの学校行事に参加できなくなるのがもどかしい。かといって夜勤では自分の体力がもたない。【中2保護者】
- 働きながら学校に通っているので時間が足りない。職場がきつく、体力的にハード。腰と膝に痛みがでてきたため、不安大。転職を考えている。子ども、仕事、学校、家のことが悩み。時間がほしい！【中2保護者】
- 「残業を減らす」と言われて久しいが、現状「残業代」がつかなければまともに生活するだけの収入にならない。親である自分たちも年をとる。老後に生活ができるだけの貯えもつくれたくないのが現実。子どもに負担をかけないためには長生きなどしていただけないと言うのが正直な気持ち。【16-17歳保護者】
- 子どもの年齢が上がると色々なところで費用がかかる。余裕はないが、子どもの夢は叶えてあげたいと思う。余裕がないから諦めてとは言えない。【16-17歳保護者】

### (9) 家庭環境・配偶者・ひとり親

- ひとり親家庭なら、収入が多少あったとしても補助金があるとありがたいし、仕事で忙しいのに、もらえない補助金のために役所に書類を毎年提出に行くのはとても面倒。【小5 保護者】
- 現在別居中で、1人で3人の子育てをしている（父親は育児放棄）。離婚についてもどうやって進めていいのかが全くわからず、動くに動けない状態。【小5 保護者】
- 今の世の中、別居している方は山ほどいると思うが、離婚をしたくてもできず中途半端な別居生活では、何の支援も受けられず、もどかしい思いをしている方は少なくないと思う。せめて、家を借りる時や家賃の補助があるとだいぶ助かると思う。【小5 保護者】
- 別居中の夫に生活費を援助してもらっているが、衣類や、子どもたちの遊ぶための費用は出してくれないため、パート代からまかなっている。ふつうの生活は過ごせているが、裁判をおこされた時の相談費用に悩んでいる。【中2 保護者】
- 生活が苦しく食材も買えない時があり夜勤を多くしたのに所得が少し多くなったため、児童扶養手当、ひとり親医療費の支給を停止された。働かないと食べては行けないのに。ひとり親世帯への一定所得水準を見直してほしい。誰にも頼る事ができないから一生懸命働いているのに、公的手当が打ち切られるのは納得がいかない。【16-17 歳保護者】

### (10) 情報・相談・窓口・サービス

- 子どもが不登校まではいかないが、時々学校に行きづらい時があるので、そのような場合に、先生以外で相談できる専門のカウンセラーを小学校にもおいてほしい。【小5 保護者】
- 公的な情報をどのように受け取ればよいかわからない。自治体には複数のチャンネルで発信してほしい（通知だけでよいので）。【小5 保護者】
- 相談したいことがあったとしても個人情報のことを考えるとなかなか近くでは相談できない。【中2 保護者】
- 本当に必要とする人が手当等を受けられるような情報の提供の仕方や窓口の対応（態度など含む）を考えてもらいたい。【16-17 歳保護者】
- 別居中は夫の収入も形式的には加算されるため、なかなか公共の支援を受けられない。個人の状況を相談できる場所がどこにあるのか分からず、相談してよい内容かもわからず。例として、HPなどにこんな不安があるときは…みたいなことが書いてあると助かる。【16-17 歳保護者】
- 精神的にツライと思う時に頼れる場所（人）があればうれしい。生活が苦しいので。【16-17 歳保護者】

## 2 子どもからの意見（川越市に言いたいこと）

### 小学5年生

- ①学校の老きゆう化が進んでいるので新しくする工事をしてほしい。②スクールカウンセラーを学校に配置してほしい。【女子】
- 1人1人のタブレット（パソコン）をください。学校にプログラミングの授業を入れてください。学校に（すいそう楽部を入れて下さい。）楽器をおいて下さい。【男子】
- 1人でさみしい子どもをなくしてあげてください。【男子】
- アスレチックなど動いて遊べる場所がほしい。【男子】
- 遊び場もあり、勉強場所もある所がほしい。【女子】
- いじめにあっている子が相談できる場所。遊具がいっぱいある公園（大きめのもの2～4つくらい、小さめのもの4～5つ）。【女子】
- いじめをきれいさっぱりなくしてほしい。悪口をなくしてほしい。ヒソヒソ話をなくしてほしい。みんながなかよくできる川越市にしてほしい。【女子】
- いつでもサッカーができるグラウンドなどがほしい（みんなで使えてオールコートで）。【男子】
- いろいろな本が読める場所がほしい（図書館とは別に）。【女子】
- おいしい食べ物をたくさん作ってください。みんなで楽しく遊んだり、買い物したりできる所をもっともっとたくさん建ててください。ちがう学校の子といっしょに遊べる授業がしたいです。子どもと大人がいっしょに遊べる楽しいしせつをたくさん建ててください。しょう来の夢の体験ができるしせつを作ってください。【女子】
- お金や服がない人のために、募金をする、ポスターを書きたい。【女子】
- お年よりのがのびのびくらせるし、みんなものがのびのびくらせる町にしたい。【女子】
- かわいいお店を作ってください。【女子】
- 川越市の自然を作ってください。【男子】
- かんきょうや自然、文化を守っていききたい。【男子】
- 給食代をただにしてほしい。ずっと五時間がいい。一人一人勉強をみてほしい。【女子】
- こどもだけ、大人だけの「場所」。【女子】
- こども用の背の低い公衆電話をいろいろなところにおいてほしい。【女子】
- このアンケートに書いてあった「放課後子供教室」を作ってもらいたいです。【女子】
- この美しい川越という町をもっと世界中の人々に観光してほしい。そして、この川越が日本でとても有名な場所になってほしい。【女子】
- さいきん、へんな人が多いから、へる方法を考えてほしい。【女子】
- しょうがいをもつ人でも楽しく、そしてかんきょうにもいい川越市にしたい。だれもが助け合うみんなにしたい。【女子】
- すてられた動物たちを保護して、動物をすてたり殺したりする人をもっともっと少なくしてほしい。お金がたくさんもらえる会社を増やしてほしい。【女子】
- たてものを増やさないで、こどもたちが自由に行き来できる自然。図書館を増やしてほしい。【女子】

- チャレンジタッチのようなものをだれでも無料で使える場所。みんなでおしゃべりしながらおかしを食べ、勉強ができる場所。いろいろなゲームやおもちゃが置いてあって、時間のきまりもなく無料で遊べる場所。【女子】
- どうすれば友だちと仲よくできるのか。イラッときた時どういうふうになれば直るのか。【女子】
- 「ときも」をもっとかわいくして！【男子】
- 図書館の本を充実させてください。公園いっぱいつくってください（ボールを使っていい場所）。道路を歩きやすくしてください。給食おいしくしてください（和食すぎる）。子どもが遊べるしせつをもっともっともつつくってください。小学校の設備を改善してください、トイレ。ランドセルが重いのはとても本当につらいので、おきべんさせてください。本当にお願ひします。【男子】
- ビンボーな家庭、母子家庭などに、毎月決まったお金を出して、援助してくれる場所。【女子】
- ボール投げや花火ができる広い公園（家の近くにないから）。静かに勉強できる場所。【男子】
- ボットンのトイレや汚いトイレを全部きれいにしてほしい。【男子】
- マンションをもっとふやしてほしい（安くて広い家）。【男子】
- もうすこし小説の量をふやしてほしい（学校の図書室に）。【女子】
- もう少しみどりゆたかにしてほしいです。さいきんおうちがふえてきて、畑がなくなったりしているので、もっと虫や動物がいる場所をつくったほうがわたしはしあわせです。【女子】
- もし、おるすばんをしていたら、そこへ遊びに行けるしせつがほしい。【男子】
- もっと子どもの安心できる場所や相談できる場所が家の近くにできたらいいと思う。【女子】
- もっと子どもを見守ってくれる人を増やすと、とても安全で良い町になると思います。【女子】
- もっと川越市をアピールしたほうがいいと思います！川越市は、とてもよい所だからもっといろんな人に来てもらったほうが、よいと思います。無料で〇〇〇〇〇ができるなどお金がかからない、イベントなどをしていただければとても楽しいと思いますし、びんぼう（？）な人たちでもきがるに参加できると思います。【女子】
- もっと地域の特色を活かしたものを増やしてください。【NA】
- わたしの家のところの道はせまいのに、たまに大がたトラックが通って、このまえ家の前の水路みたいなどのフェンスをこわしたので、大がたトラックを通らせないような標識をつくってほしいです。【女子】
- わたしの兄が小さいころ親が二人とも仕事で夜おそくまで帰れなく、ごはんの時間もおそくなってしまい、あまり食生活がよくなかったので、小さい子も行ける児童しせつをつくったらいいいと思います。【女子】
- 一人で勉強できる場所がほしい。子供のみでの図書館があつたらいい。【女子】
- 学校帰りの子どもが遊んだり勉強できる所があるといいと思います。【女子】

## 中学2年生

- 「何でも」とありましたので、思いつくかぎり、書かせていただきます。安心できる場所をつくること。駄菓子屋をつくること。都会のようにしないこと。少し前までビルや建物がとても多い所に住んでおり、川越市のような一面の緑はとても新鮮でした。ずっと残してほしいです。こども食堂をつくること。【女子】
- e スポーツのイベントを増やしてほしい。武道場や体育館を新しくしてほしい。【男子】
- LINE いじめが多いので親は子どものLINE を見られるようにすること。いじめをした人をもう少し重視してほしい。いつでも川越市や教育委員会に訴えられる電話をつくってほしい。不登校になってしまった人用の勉強施設をつくってほしい。いじめをした人同士を同じクラスにしないでほしい。クーラーをつけてほしい。黒板ではなくホワイトボードが良い。【男子】
- エアコンをつけてほしい。水道水がまずいからうまくしてほしい。外があつい。公園で野球が出来ない。野球部の近くに水道がほしい。お金がほしい。川越にプロが使える野球場がほしい。自販機でジュース買うとき値段が高い。とにかく高い。【男子】
- エアコンを早くつけてください。困っている人を助けてあげてください。学校で作る給食にしてください。【女子】
- きれいで大きな建物を増やしてほしい。【男子】
- クーラーを全学年・全クラスにつける。けれど夏休みは今まで通り。図書館の机とイスの数を増やしてほしい。中学生の女子にオススメの本屋さんの新しい本コーナーにおいてあるような本を図書館にもおいてほしい。川越に天気や気温の観測所をおいてほしい。【女子】
- ゴミをなくすこと（道におちているもの）。イジメなどが無い。リサイクルをする。川越の蔵造りの古い物は残してほしい。クーラーをつけること。【女子】
- サイクリングをしているとき、よく道路の凸凹があるのでとてもあぶないです。特に16号をサイクリングしている人が多いのできれいにしてほしいです。自転車専用の道を作ってほしいです。川越駅の方に出ると人が多いのであぶないです。【男子】
- ショッピングモールをたててほしい。スーパーばかりでつまらないので、中高生達が行くようなお店をたててほしい。校則を少しゆるくしてほしい。【女子】
- とてもキレイな自然にあふれている所を作ってほしい。噴水をたくさん作ってほしい。もっと「和」が伝わる町並みをつくってほしい。【女子】
- ペットショップのお仕事体験がしてみたい。【女子】
- ボールを使って運動できる公園をたくさん学校の近くとかにつくってほしい。学校の体育館がすずしくなるようにしてほしい。タブレットやスマートフォンを1人1台つかう授業をしてみたい。市内の他校の生徒と、もっと交流してみたい。【女子】
- もう少しみんなで遊べる場所を増やしてほしいです。【女子】
- もっと高校や学校の教育費などを安くしてほしい。秋休みが欲しい。ボランティアやユニセフなどにもっと積極的に協力してほしい。授業でタブレットを使ってほしい。【女子】
- もっと土、日とかに勉強できる場所を増やしてほしいです。【女子】
- もっと良い市、県にして下さい。なぜとなりに東京があるのに埼玉がこんなに何も無いのか、不思議です。少子高齢化、地球温暖化を止めてほしい。宿題は成績向上につながるという研究結果（調べればでると思う）がある。なくしてほしい。【男子】
- 運動施設を新しくしてほしい。【男子】

- 家での勉強が飽きたときに外で安心して勉強できるスペースがほしい。【女子】
- 家での勉強が難しいので、誰でも利用できる勉強するための場所がほしい。【女子】
- 家以外で友達と勉強が自由にできるような場所がほしい。学校の給食がもっとゆっくり食べられるよう時間を伸ばしてほしい。入間テストと埼玉県学力調査はどちらかにしてほしい。学校に持っていく物が多くて、リュックが重すぎるので何とかしてほしい。【女子】
- 夕方の暗い時間に家に帰るとき道が暗くてこわいなと感じることがあるので、もっと街灯を増やしてほしいです。【女子】
- 学校でちょっと勉強会を行える日が欲しい。【女子】
- 学校にクーラーをつけてほしい。学校に通う日を週4日にしてほしい。これ以上畑をアパートにしないでほしい。土曜授業をやめてほしい。春休み、冬休みを長くしてほしい。映画館を作してほしい。中学校でも文化祭をしたい。髪型を自由にしてほしい。私服で通うのをOKにしてほしい。憲法をかえないよう国会にたのんでほしい。演劇会(?)を行いたい(中学校)。医りよう費補助(?)を高校生までのばしてほしい。防災や行方不明の放送のボリュームをおとしてほしい。【女子】
- 学校の提出物や課題が多く、睡眠がまともにとれていません。このままでは体が壊れてしまいます。なので、もう少し生徒のことを考えてほしいです。また、塾の費用が高いので、なかなか入れず困っています。もう少し家計に優しい塾をつくってほしいです。【女子】
- 学校や塾以外の勉強しやすい場所がもっと身近にほしい(今は、あっても遠かったりするため)。【男子】
- 学校以外で利用できるバスケのゴールが3つと少なく、特に水上公園では休日に混みすぎていてあぶないので増やしてほしい。オリンピックでも行われるようになり、やや、する人が多くなって来たスケボーのできる専用の場所が川越市には1つしかなく、少なすぎると思うのであと1つでも作ってほしい。中学生が疲れすぎるなどの全国的な問題があるのにもかかわらず、川越市はそれを無視し、ふりかえ休日なしの土曜授業をするのはおかしすぎる。クーラーの設置が遅すぎて今年の夏が終わってしまう。早くつけてほしい。【男子】
- 楽しくみんなで遊べる場所。【女子】
- 観光客に来てもらうのはいいのですが、もう少しマナーを守ってほしい(道路にはみ出していたり、ななめ横断したり)。【男子】
- 観光客ばかり意識しないで、市民目線の都市開発をしてほしい。【女子】
- 近くに図書館がほしい。【男子】
- 経済的に恵まれている人もまたそうでない人も、すべての人が平等に自分に合った教育を受けるために高等学校の費用を少しでも出して頂きたい。また、川越市の学力を上げるために、市内小、中学校で勉強の必要性など考える時間を設けたり、中学1、2年も対象にした川越市中学生学力調査は、すぐ実行して頂きたい。最後に人の個性や良い所を見つけ合う時間もほしい。なぜなら、良い所を互いに認め合いイジメをなくすのと、自分のモチベーションを上げるためです。この世界の全ての人々が有意義な生活をする、それを川越市の小、中学生が世界へ発信できたらいいと思うので、試験的にでもいいのでやって頂きたいです。よろしくお願いします。【男子】
- 勉強を無料でみてくれる場所はあってほしいです。【男子】

**16-17 歳**

- 高校授業料の無償化。18 才まで医療費無料に。【男子】
- 18 歳まで児童手当が欲しいです。【男子】
- これ以上下手に発展しないでほしい（今のままがよい）。【男子】
- みんなで勉強するスペースはいくらでもあるから、1 人用の勉強スペースもほしい。高校生も病院代を無料にしてほしい。駅から徒歩 3 分くらいのところに駐輪場がほしい。【女子】
- 運動できる場所がもっとほしい（野球ができるような場所）。野球禁止が多い。【女子】
- 運動ができる広めの公共施設。マットもほしい。【男子】
- 駅前の図書館にも勉強ができるスペースが欲しい。【女子】
- 街灯を増やしてもらいたいです。また、道路の整備が行き届いていないと思います。【女子】
- 学生が過ごせる公共の場所を作る。小中学校の空調設備を早急に整える。【男子】
- 兄弟が 3 人いて今後の学費が不安なので負担してほしいです。【男子】
- 公園でボール遊び（野球・サッカー）が出来る場所。【女子】
- 私は教育系のボランティアを積極的に行っていきたいと思うのですが、そのような学校外でためになる活動がしやすくなるよう、研修の募集を増やしてほしい。自分の進路に関わること。地域の大人や子供と触れ合って活動できるようにしてほしい。本川越と川越をつないでほしい！ウエスタに図書館と映画館を。外国人を英語で案内したいので、外国人の人がたくさん訪れるような町にしてほしい。【男子】
- 私は全日制の高校をやめてしまったが、同じ境遇の人と知り合えるような場所があれば、そこで勉強をしたりスポーツをしたりでき、孤独感を払拭できるかもしれない。あと、若者が安く利用できるスポーツ施設もつくるべきだと思う。【男子】
- 少し前に廃線になった西武安比奈線の跡を川越市で上手く利用してくれればよいかと思います。一番街の通りの歩道が狭いので、多客期には一番街の通りを川越まつり同様に歩行者天国にしてくれると助かります。【男子】
- 川越駅前勉強ができる場所がほしい。【男子】
- 川越市だけの問題ではありませんが、埼玉県には公立の医学部がありません。埼玉県は医師不足だと聞いています。もっと多くの地元の医者を目指している人々に、道が開かれる必要があると思います。【女子】
- 川越の中心部から離れている地区は、もっと設備を充実させてほしい。中心部ばかり整っている気がする。特にほしいと感じるのが勉強スペースで、図書館や小さくてもいいので自習スペースがある施設がほしいと切実に思っている。少しでもよいので考えてほしいです。お願いします。【女子】
- 道が狭くて事故に遭いそうなので、道を広げてほしい。渋滞が多くて自転車をこいでいると、とても危ないのでどうにかして改善してほしい。【女子】
- 勉強ができる場所を増やしていただきたいです。【男子】
- 無料 Wi-Fi を置いてほしいです。図書館にもう少し多くの種類の雑誌を置いてほしい。参考書を置いてほしい。税金を無駄なところに使わないでほしいです。【女子】
- 夜遅くても家にいないで、1 人でボーッとしたりできるような場所。【女子】

- 涼しい場所で運動できる場所。【女子】
- 友人と遊ぶお金を一定額支給される制度が欲しい。【女子】
- 遊べる環境を作ってほしい。【男子】
- グローバルキャンプみたいな外国人と交流できる、そしていろんな国を知れて、言葉も学べる、そのような企画を1年に1回でもいいからやってほしい。“グローバルキャンプ埼玉”のような英語オンリーではなくて。【男子】
- ショッピングモールを増やしてほしい。プールを増やしてほしい。【女子】
- バスの本数をもっと多くしてほしい。【女子】
- 勉強、遊びなど何をしてもいい公共スペース。【男子】
- もう少し子どもが使える、利用できるところがほしい。【女子】
- もっと色鮮やかなご当地キャラクターをつくること。遊び場所がない。きれいな場所が少ない。本川越と川越の駅をくっつけてほしい。【女子】
- 駅のそばに、学校帰りに友達と勉強できるスペースが欲しいです。塾はお金がかかるので、机とイスがあって、飲んだり食べたりできる勉強スペースがあれば学校の友達と勉強してから帰ることができます。【女子】
- 快適に勉強ができる場所がほしい。【男子】
- 街をもっときれいに美しくしてほしい。電車をもっと便利にしてほしい。もっと多種多様なタイプの学費支援を設けてほしい。【女子】
- 学校（公立）の設備を整えてほしい。トイレが汚い、勉強（自習など）をする環境や教室がない。クーラーが集中管理で自由に使えない。【女子】
- 学校の先生の教育指導レベルが上がるとうれしい。もっとわかりやすい授業を楽しく受けたい。若い先生とたくさん体を動かせるとよいと思う。【女子】
- 学生が勉強できる場所を作る。外が暑すぎるときは部活をなしにする。【男子】
- 教育サービスを充実させて欲しい。子どもがたくさんいる家庭の経済的負担を減らしてほしい。【女子】
- 球技ができる「大きな」公園。はしっこにも図書館など作ってほしい。【NA】
- 広い無料の駐輪場を作ってほしい。【NA】
- 市民プール、図書館等、気軽に利用できる場所がもっとあればいいなと思っています。【女子】
- 私が通っている高校は公立なのですが、各科の職員室にエアコンが付いていないので、先生方のためにエアコンの設置をお願いしたいです。いつも暑い中で大変そうだったので、生徒からの先生方の体調を気遣ってということをお願いします。【女子】
- 自習スペースを作ってほしいです。【女子】
- 治療費をタダにしてほしい。【女子】
- 自転車で登校していると、同じように自転車で登校、通勤してる人をよく見るのですが、正直道が狭いので、自分のペースで走ることができない（前に人がいたり、後ろから大型なトラックが迫ったり）。自転車用の道をもっと多くほしいです。【男子】

## 第12章 支援者等ヒアリング調査結果

### 1 調査の目的・対象者・方法等

#### (1) 調査の目的

「子どもの生活に関する実態調査」(アンケート)は、市内の子どもとその家庭の生活実態、求められるものなどを把握することを目的として行った統計的調査である。これに対し、ヒアリング調査は、アンケートによる量的な調査だけでは把握が難しいニーズや、市の子どもをとりまく状況について、主に支援者の側から直接話を聞くことにより把握する、質的な調査として行ったものである。

#### (2) 対象者・実施方法

ここで言う支援者等とは、実際に子どもや子どもの貧困に関わっている現場関係者を指しており、①学校・幼稚園の教諭、養護教諭、スクールソーシャルワーカーなどの学校関係者、②保育園、主任児童委員などの福祉関係者、③市の職員、子どもサポート委員会、市民団体など公助・互助の分野から子どもたちに関わる関係者の大きく3分野で実施している。

調査は、ヒアリング調査シートを配布してのアンケートと、分野ごとに集まってもらい対面で行ったグループヒアリングの2段階で行った。ヒアリングシートによる調査は、支援者等一般用と、民間団体・活動用の2種で行っている。

分野	抽出方法
学校・教育	小学校・中学校・高校教諭、養護教諭
幼児・保育	幼稚園・保育園・児童養護施設関係者
地域の支援者	子どもサポート委員会・主任児童委員
学校プラットフォーム	スクールソーシャルワーカー
市民の団体	子ども食堂、学習支援などを行う民間団体、NPO法人など
市職員等	ケースワーカー、保健師、家庭児童相談員、母子父子自立支援員ほか職員

#### (3) 調査時期

平成30年8月～12月

## 2 調査結果

### (1) 小学校・中学校・高校教諭、養護教諭

事前のヒアリングシートによる調査と、対面でのグループヒアリングを実施した。

貧困状態の判断は難しいとしながらも、それを背景に持つと思われる、困難を抱える子どもと接した経験を多くがあげている。困難を抱える子どもについては養護教諭が気づき、個人的な範囲でさりげなく対応しているケースもある。「教育機関」という立場から、生活に関わる事象に対応することの難しさ、問題への踏み込みにくさをあげる声は多い。

グループヒアリング

○実施日：平成30年8月29日（水）

○参加者：10名

○実施場所：川越市役所7階会議室

小=小学校/中=中学校/高=高等学校/教=教諭/養=養護教諭

テーマ	内容
子どもの状況把握	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <p>ヒアリングシート (n=122) の回答中、「貧困状況にある（と感じられる）子どもを発見した経験」は「ある」72.1%。「ない」27.1%で、7割以上が「ある」と回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● お金がかかるので校外学習に行かない。(小・養)</li> <li>● 母親がほとんど家にいない。(小・教)</li> <li>● 心の面で不安定な時になると暴言を吐いたりする。(小・養)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● どの程度を貧困と言うかによって違って来る。(小・養)</li> <li>● 高校の場合、学校、地域によって大きく異なる。生徒の学力の違いもある。貧困の捉え方は人（教師）によっても異なる。(高・教)</li> <li>● 朝ご飯を食べてないかもしれない子どもは、朝会の時など貧血になったり、具合が悪くなったりして保健室に来る。貧困によるものかどうかは特定できないが。(小・養)</li> <li>● 朝ご飯を食べてないかもしれない子どもは給食の時に食べる勢いが違う。聞いてみると朝食を食べてないと言うが、自分から言い出すことはない。その子どもは前日の夜も食べているかどうかあやしい。給食しか栄養を摂れるものがないので、そっと配慮するしかない。(小・教)</li> </ul>
職務上の支援経験	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 養護教諭としては、心配な子どもの様子をキャッチし、担任や管理職へ情報を提供し組織的に対応を考える。実際に貧困状況かどうかはその後</li> </ul>

	<p>でわかることであり、そうでないケースも多い。(小・養)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 訪問や支援・指導を組織として日常的に行っている。(小・養)</li> <li>● 保護者との面談。(小・教)</li> <li>● 健康状態の確認。(小・養)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別指導になるが、学力が低い子どもには休み時間に補習を行う。家庭の状況が安定せず、宿題をやってこられない子どもには学校でやらせる時間を設けるなど。(小・教)</li> <li>● 毎日お風呂に入れる状況にはない家庭のようだったので学校のシャワーを使用させた。その子は毎日保健室に来る子どもで、下校時間まで保健室で過ごしていた。保健室が居場所になった。(小・養)</li> <li>● 養護教諭と協力して、上履きを洗っていなかったり、何日も同じ服を着ている子どもに対して、保健室で洗濯したことがある。(小・教)</li> <li>● 食事の面では、朝食を食べてこられず、食事もきちんととれていない子どもは給食でしかたくさん食べられないので、おかわりのルールを緩めにするなどしている(あくまで目立たぬように)。(小・教)</li> <li>● 朝ご飯を食べてこない子どもの家庭は、親が朝起きないことが多い。高校生ではパンなど自分で買って食べるように、親が用意しなくても自立するように促している。(高・養)</li> <li>● 小学校高学年で、親が朝食を用意しない家庭の子には、自分で買うなり手配して食べるように話をした。(小・養)</li> </ul>
<p>支援上の課題・支援が困難な点</p>	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者の考え方(生活習慣・子どもへの接し方)を変えるのが難しい。(小・教)</li> <li>● 貧困対策に限らないが、関係機関を紹介してもその先へ続かないことがある。(小・教)</li> <li>● 働いている保護者がほとんどなので、学校と話をする時間をとってもらうことが難しい。(小・養)</li> <li>● 保護者自身、経済的、精神的に余裕がなく、どこに、どのように相談したらよいかわからず、動く気力がなくなってそのままという人が多い。総合的に相談できる窓口があるとよい。(小・養)</li> <li>● どこからが「貧困状況にある」と判断して良いかわからないため、結局「本人の学習上・生活上の課題」で終わってしまい、家庭につなげられない。そもそも、学校がどこまで触れていい話題なのかわからない。貧困状況にあると考えられる場合、学校で子どもにできる支援だけをすれば良いのか、貧困状況から少しでも脱することができるようにすることが子どもの学習上の課題も解決できるのか。(小・養)</li> <li>● 経済支援が(他に使われず)直接学費や給食費になるようにする必要がある。(中・教)</li> <li>● 学校が関わるのは家庭のプライバシーの観点から難しい。(高・教)</li> <li>● 日常的に関わりを持っている学校現場の教員や事務職員が貧困状況に</li> </ul>

	<p>気づいたときに支援できることを考え、行動できるようなゆとりがあれば、様々な点でスムーズにできると思う。そういうゆとりがないために、状況が放置され、悪化してから対応することになる場合が少なくない。 (高・教)</p> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校は教育の場という大前提があり、現場は教育支援しかできない。勉強の面倒を見る、補うことはできる。学習支援も貧困家庭だからということではなく、学力が低いからであり、学力が低い子どもの中に経済的に厳しい家庭の子どもが多いから結果的にそうなっているということではないか。(高・教)</li> <li>● 保護者との意識の違い。衣服が汚れていたもので、保健室で洗濯をしたことに対して、自立のために自分で洗濯をさせているとのことだった。保護者と意識が違うことにより動きにくくなる。(中・養)</li> <li>● 金銭的なことだけでなく、夫婦間の問題、精神的な問題など、プライバシーに関することは公的機関だけでなく親戚、祖父母、近所の方々もなかなか踏み込めない状況と思われる。第三者が入ることで改善されていくこともあるように感じる。(中・養)</li> </ul>
<p>必要と思われる支援</p>	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校の放課後の教室などを利用した学習の場。(小・教)</li> <li>● 学校以外での学習場所。(小・教)</li> <li>● 親の相談機関や、心理面でのサポート体制づくり。(小・教)</li> <li>● 保護者との共有できる時間(参観日・面談等)。(小・教)</li> <li>● 相談機関。自分の気持ちを話せる場所がある事で、気持ちが安定し、親子共に前を向いて生きていく事ができると考える。(小・養)</li> <li>● 「どこに相談すれば良いのか分からない」とおっしゃる方が多い。勇気を出して連絡しても、他へまわされたりして諦めてしまう人もいる。まず、「何でもいいから相談できる所」があると良い。(小・教)</li> <li>● 自身の機関内での情報共有(限られた時間の中で多くの子どもについて話題があがるが、発達障害や生徒指導が中心で、貧困による課題のある児童については後回しになってしまう)。(小・養)</li> <li>● 学校としても貧困状況にあると判断しきれないところがあるので、「もしかして…」と思ったときに、すぐにその状況を確認できるような機関、システムがあるとよい。(小・教)</li> <li>● 現場の教員はなかなか直接保護者に話すことは難しい。もっと積極的に市の関係機関がコンタクトをとってくれると助かる。(小・教)</li> <li>● 外国から来ている家庭について、文化や言葉が違うため、支援が難しくなっていることがある。通訳ができる人の充実。(小・教)</li> <li>● 専門的知識を有する人材の学校での不足、支援をするための人材不足への対応。(小・教)</li> <li>● 金銭だと親が使ってしまうので、直接必要なところへお金を回すか物質的支援。親の生活へのアドバイスをする指導員を派遣。(中・教)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援には実態把握が必要だが、十分にできているか疑問。不足しているのは、①現場のサポート力、支援する方法が十分に理解できていない。②サポート側のネットワーク。どの機関とどうつながるとよいのかわかりにくい。③ケース会議のような事例から学ぶ機会。(中・養)</li> <li>● 日々関わりを持てる隣近所の支援。(中・養)</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一歩踏み込んだ対応。学校から児童相談所へ連絡を行った場合、調査・支援がスタートできるようにしてほしい。(中・教)</li> <li>● 様々な機関と関わりたいが、難しいことが多い。(中・養)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 民生委員と学校で話し合いをする機会が年に2回ある。参加者は各学年の主任、生徒指導担当、管理職。学校で心配な生徒(貧困を抱える家庭の生徒が含まれる)の情報を共有し、地区での見守りをお願いしている。(中・養)</li> <li>● 例えば行政と教育機関の共同の会議などを考えた場合、時間帯を18時以降にすることは可能か。教師はそのくらいの時間にならないと時間がとれない。(小・教)</li> <li>● 会議などでも市側が学校に来てくれればたくさんの職員が参加できる。事象が起こってから連携することになっているが、事象が起こる前(貧困の状況が最悪の状態になる前)に情報の共有ができるのがベスト。どの学校でも学校内で気になる子どもに対する共通理解を図る会議が行われている。こういった会議に参加してもらえるとよい。(小・教)</li> <li>● 子どもの居場所として、学童保育は18:30まで。保育園はもっと長い。学童の保育時間を延ばしてもらえると保護者は働きやすい。(小・教)</li> <li>● SSW、民生委員、自治会長の方々と連携しながら心配な子どもについては、地域でも様子を見てもらえるようお願いしたりしている。学校としてできるのは、学習支援と保護者への喚起くらいと思う。(中・教)</li> </ul>
市民による支援活動について	<p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校側で、地域の民間の活動が必ずしも把握できているわけではない。(小・教)</li> <li>● 新たに活動を開始した子ども食堂のお知らせは学校にあった。子どもが家に帰らずそのまま寄ってしまうことがあった。下校途中に寄らず、家に帰ってランドセルを置いてから行くように言った。(小・教)</li> <li>● 子ども食堂に行くことには、家の人々の許可が必要ではないか。親が家に帰った時に子どもが家にいなくて捜索隊が出たりすることがある。お金を持っていくことになるので、勝手に持ち出さないようになどの約束ごとが守られているかも大事。(小・教)</li> <li>● 子ども食堂の営業終了後、時間が遅くなると思うがお迎えがあるのか心配。善意でやってくれていることなのだが、遅い時間に一人で帰宅することにつながるのではないか。(小・養)</li> </ul>

## (2) 幼稚園・保育園・育児院関係者

事前配布のヒアリングシートと対面でのグループヒアリングを実施した。

幼児期の教育・保育の現場では、送迎や親の送り迎えなどの際に親や家庭のもつ困難状況に気づく機会が少なくないことがうかがえる。必要と思われる支援についての提言でも保護者に対する支援の意見が多くみられる。

グループヒアリング

○実施日：平成30年10月17日（水）

○参加者：7名

○実施場所：福田ビル2階会議室

保＝保育園／幼＝幼稚園／こ＝認定こども園／育＝育児院（児童養護施設）

テーマ	内容
子どもの状況把握	<div data-bbox="448 864 746 902" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">ヒアリングシート</div> <div data-bbox="405 916 1375 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ヒアリングシート（n=41、内訳は保育園 25、幼稚園 13、認定子ども園 3）の回答中、「貧困状況にある（と感じられる）子どもを発見した経験」は「ある」24.3%で、7割以上は「ない」と回答。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 両親が仕事をしていない。（保）</li> <li>● 虫歯が多い。（保）</li> <li>● 保護者の育児能力が低いと感じたことがある。（保）</li> </ul> <div data-bbox="448 1211 775 1249" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">グループヒアリング</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困状態にある子どもは日頃からよく見聞きする。関係者アンケートで7割が「ない」と回答したというのは少ないと感じる。（保）</li> <li>● 幼稚園に入園する段階では収入が多い方でも、途中で離婚されたケースなどで貧困はあり得る。以前と比べ離婚などが最近は増え、多くの場合、母が子どもを引き取り実家から出る。そうなる幼稚園からも出て行ってしまうので把握できなくなる。（幼）</li> <li>● 貧困を感じる家庭は、離婚している、離婚しそう、という家庭の割合が高いような気がする。ただし年1件くらいで件数は多くない。離婚したから市に来た、また新しいパートナーができた、またよりを戻そうとしている、など落ち着かない状況の保護者が多い。（幼）</li> <li>● 大人にべったり、担任の先生につきっきり。家で話を聞いてもらっていない、大人にそばにいてほしい、という感じ。（保）</li> <li>● 貧困状態にある子どもは登園をしづらくなる。保護者からの要望で本人に呼びかけたこともある。家庭での生活習慣がよくできていない。（保）</li> <li>● バス送迎で家の様子がわかることがある。家庭訪問だときれいに片づけてしまうだろうが、送迎の際に日常が見える。そういったところで把握できたりはする。（幼）</li> </ul>

<p>支援上の課題・必要と思われる支援</p>	<p style="text-align: center;">ヒアリングシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援が必要な人ほど自分から動けないため、保護者が直接電話相談することが難しい。(保)</li> <li>● どんな支援があるのか、受けられるか、貧困家庭への周知が課題。(こ)</li> <li>● 他市町村へ転居した時、状況の引き継ぎが課題。(保)</li> <li>● 相談員を増やし、家庭訪問、相談体制を多くしてほしい。保育園を利用しても送迎できない、しない場合の送迎支援を考えてほしい。送迎支援の無償化など。(保)</li> <li>● 保護者の方が定職に就け、毎月一定の収入を得られるようにする支援が必要だろう。(幼)</li> <li>● もっと支援に関わる人数を増やして、継続的な支援が行える体制が作れるといい。(保)</li> <li>● 支援が必要だったり、求めている方が相談できる人や場所がほしい。保育園の中にもあると、送迎時に悩みを話したり、時間があるときに向き合えるなど、貧困になる前に対応できると思う。(保)</li> <li>● 離婚をしてすぐのひとり親家庭では貧困の状況が多いように感じる。働き始めたばかりで仕事は休めず、子どもは風邪をひいているから保育園は休まないといけないなどの状況で困っている保護者が多い。病児保育の場も不足していると思う。(保)</li> <li>● 出生時から、継続的に関わって必要な支援に繋げてほしい。(保)</li> <li>● 母子家庭に対する支援。衣・食・住すべてにおいて行政、民間も合わせた地域の支援が必要と考える。子ども食堂や衣類のバザー等による支援、公共住宅の拡充(低家賃)。(保)</li> <li>● 保護者が自分のことで精一杯で子どものことまで気がまわらない。保護者の体調や精神的な面のことであり、なかなか相談にのれない。(保)</li> <li>● 貧困状況にある家庭がサービスを知らず生活しているのではないかと思う。であれば、ニーズをつかむところをまずしなくてはならない。日本の文化的に他を頼ることが恥のようなどころがある。それがますますサービスを遠ざけてしまうと思う。(育)</li> <li>● スティグマ(劣等感)を感じさせない金銭補助も必要に思う。(育)</li> </ul>
<p>他機関等との連携、行政への要望</p>	<p style="text-align: center;">ヒアリングシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ヒアリングシート(n=41)で、「貧困状況にある子どもについて、他の機関と情報をやり取りする機会があるか」では、「まったくない」が約31.7%で最多。「ときどきある」が12.2%。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども、保護者との関わり方が難しいことが多いので、各学校、保育園、幼稚園にカウンセラーのような臨床心理士がいてくれて、どのような関連機関につなげばよいか方向づけをして欲しい。保護者、子どもの対応で困っているのは現場の職員だと思うので手だてのわかる専門家を配置して欲しい。また、保育園はもっと保健師と連携して情報交換していきたいと思う。(保)</li> <li>● 働き先について、子どもが熱を出した時に欠勤等を容認してくれるよう</li> </ul>

	<p>な職場を紹介してあげてほしい。(保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困状態にある家庭ほど余裕がなく、情報がないと考えられるが、一生懸命に生活していると思うので、制度や行政のサービスなどをいかに届けるか、もっと広報に力を入れるべき。わかりやすく市区町村が貧困家庭に丁寧に情報を提供すべき。(育)</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 関係機関とのやりとりはある。貧困ではなくても情報が入ってきたり、こちらから情報を入れることもあった。数は多くない。情報共有というのなかなか難しいと思う。(幼)</li> <li>● 民生委員、児童委員にこういう子がいるという話をするにはある。しかし結果どうなったという話が戻ってきたことはない。リベラに相談するよう紹介したこともある。保護者が直接相談に行くというのなかなか難しいこともある。(幼)</li> <li>● 学校の先生は3年くらいで変わってしまう。幼稚園は入園から卒園まで見ることができるが、学校は1-6年まで見続ける先生というのはいない。6年しっかり見てくれる人がいるとよいと思う。(幼)</li> <li>● 指導要録という、指導の記録などを学校に渡していく書類があるが、制約も多く、「保護者がこういう状態」という情報を共有する機会は限られる。(幼)</li> <li>● 相談窓口がわかりやすくシンプルというのは大事。行く場所というより、最初は電話相談だと思う。(幼)</li> <li>● 子どものことはここ、保護者のことはここ、というように相談先等が違うのは保護者も相談しにくいしわかりにくい。一体的に相談を受けられるところがはっきりわかるとよい。(保)</li> <li>● 土日や夜間でも最初に受けてくれるわかりやすい窓口が必要。いきなり「ここに来なさい」というパンフレットを渡されても、「相談に行く間この子はどうしよう」となる。市役所の夕方までの時間帯など。(幼)</li> <li>● 窓口はワンストップがいい。相談にまわらなくても1か所で総合的に受け付け、その後専門部署につないであげるなど。園には友達の親もいて話しにくい、役所のような公的なところだと相談しやすいのでは。(幼)</li> </ul>
--	---

### (3) 子どもサポート委員会・主任児童委員

事前配布のヒアリングシートと対面でのグループヒアリングを実施した。

子どもサポート委員会は地域の子ども全体を対象とする活動のため、生活困難な状況にあると思われる子どもに気づいても特段の対応は難しく、個人的な対応に留まるという意見があげられている。主任児童委員からは、権限の範囲や、個人情報保護の観点からの対応の難しさがあげられている。

グループヒアリング

○実施日：平成30年10月17日（水）

○参加者：6名

○実施場所：福田ビル2階会議室

児委員＝主任児童委員／子サポ＝子どもサポート委員会

テーマ	内容
子どもの状況把握	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <p>主任児童委員（n=29）の回答中、「貧困状況にある（と感じられる）子どもを発見した経験」は「ない」79.3%。8割近くが「ない」と回答。</p> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域で何か事業をやろうとすると、保護者の就労の関係で送り迎えできないということがある。集合場所まで自力で行けない子はどのようにかなどと学校から問合せが入ったりする。（子サポ）</li> <li>● 情報はないが、サポート事業をやっていると貧困状態にある子どもについてなんとなく感じることもある。必要な物を用意できないのか、忘れたのか、活動に必要なもの持ってこない子もいる。（子サポ）</li> <li>● 裁縫の講習で必要な材料を持ってこない。材料を買ってあげるわけにはいかないため、材料がなくてもできる別のことを教えるなどしている。（子サポ）</li> <li>● 保護者が朝早く出勤し、夜遅く帰る家では、子どもが学校に行かなくなることがある。たまに登校しても、授業についていけずだんだんと学校に行かなくなる。同じような境遇の子どもたちと集まるようになった時期があった。地域が協力して、学校を巡回したり授業中の教室に入ったりして4年経って元に戻った。（子サポ）</li> </ul>
支援上の課題・必要と思われる支援	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者との接点がない。（児委員）</li> <li>● 見守り依頼を受けただけで対象者と面識がないため対応が難しい。名前と住所以外は教えてもらえない。（児委員）</li> <li>● 主任児童委員は、直接介入することまではできないので、他の部署・機関で受けられるサービスを紹介することまではできない。（児委員）</li> </ul>

	<p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困家庭から主任児童委員に相談がこない。仮に貧困状態であっても声はかけられない。(児委員)</li> <li>● 民生委員は生活保護世帯の情報は入るが、主任児童委員には入ってこない。(児委員)</li> <li>● 育成会に入る前の乳幼児や、中学生以降の情報が無い。(児委員)</li> <li>● 貧困状態にある子どもだけではなく、健全育成として地域の子ども全体を対象として地域で活動しているため、情報をもらったとしても貧困の子どもだけを対象にすることは難しい。(子サポ)</li> <li>● 主任児童委員は守秘義務があるのでもう少し情報がほしい。直接関わなくても見守りはできる。学校の会議で情報を得ることはあるが、乳幼児の情報が無い。急に貧困になることはないと思うので、生まれた時からの見守りが必要なのではないか。(児委員)</li> <li>● 公立の中学校の部活では自己負担分の費用が払えず、辞めた子がいる。援助の制度があることを保護者には伝えにくい。(児委員)</li> <li>● 貧困状況の保護者が子どもを残し夜働くケースがあるが、そのことが虐待であるという認識が保護者にはない。衛生面での知識が欠けていることも多く、そうしたことの周知が必要と思われる。(児委員)</li> <li>● 保護者が人間関係、安心できる人間関係を作れる場や機会。子どもの、自然な形での居場所提供、学習支援が必要。(児委員)</li> </ul>
<p>他機関等との連携、行政への要望</p>	<p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 育成会の役割は大きい。(子サポ)</li> <li>● 地域の育成会の役員会でサービス等の連絡先の一覧(市役所を出しているもの)を紹介している(年1回)。(児委員)</li> <li>● ネグレクト状態の事例で、幼稚園が行政等と情報を共有していれば支援も早められたのではないかと考えた。関係機関との連携を密にしていればよかったのではないかと。(児委員)</li> <li>● 活動の後、ボランティアメンバーとの反省会がある。校長や教務主任も出るので、参加した子どもについて気づいたことは伝えている。(子サポ)</li> <li>● 貧困の問題でも何でも学校内で情報が止まっていたら、何の解決にもならない。地域と一緒に解決に向けて動いている。先生への意見も伝えたりする。サポート委員会とPTAと一緒に活動をやっており、出せる情報は共有もしている。(子サポ)</li> <li>● 育成会の活動には参加している。(育児院)</li> <li>● 地域会議でうまくネットワークが組めればよいと思う。行政の担当課、相談窓口を一本化してほしい。(子サポ)</li> </ul>

#### (4) スクールソーシャルワーカー (SSW)

対面でのグループヒアリングを実施した。

今回のヒアリングでは「配置型(学校に常駐)」「派遣型(学校からの要請があって動く)」「非常駐で、在校日は学校だより等で告知」「拠点校に常駐し、要請があれば他校に出向く」の形態の方々がそろった。様々な課題解決には保護者とのつながりが重要としつつ、保護者側の都合による対応時間の確保に苦労していることがうかがえる。また、子どもや保護者とSSWの橋渡しとなる教諭の立場の重要性にも触れられている。

グループヒアリング

○実施日：平成30年12月6日(木)

○参加者：6名

○実施場所：教育センター分室(リベール)

テーマ	内容
子どもの状況把握	貧困状況にある(と感じられる)、または生活等で困難な状況にある子どもに対応したないし相談を受けた経験については、全員が「ある」と回答。
実際の対応の中で困難を感じたこと、課題と感じたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援を受けている世帯は、金銭給付が子どものために使われていないことがある。借金返済、浪費、パチンコ、アルコールに消費していることが見受けられる。一律に全額給付するのではなく、家庭ごと個別に給付の方法・やり方が決められる仕組みがあるとよいと思う。</li> <li>● 学校の教材費を毎月納められず、滞納しているケースがあり、生活保護の担当者と連携して対応したことがある。給食費だけでなく、年間の教材費も給付の対象とし、本人に支給するのではなく、学校に直接納めるようにすればよいと思う。担任が立て替えたり、昨年の分が払われていないケースもあり、行政が動いてくれたらよいと思う。</li> </ul>
市の部局、制度、窓口等について	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 川越市の子どもに関連する部署の中では、こども家庭課とのやりとりが多い。</li> <li>● (事務局)他のヒアリングでは、役所の担当窓口が複雑でわかりにくいという意見もあった。→ワンストップの窓口はあるとよいと思う。</li> <li>● 障害を持っている子どもも多いので、子どもに特化した窓口があるとよい。</li> <li>● 市役所一括ではなく、地区ごとに相談窓口があるとよい。交通の便が良くない地区に住んでいる人、特に貧困世帯では車を持っていないので、市役所まで行くことが困難で相談を諦める人もいる。</li> <li>● 社会福祉協議会の「ひとり親家庭の家事援助」について。父子家庭で子どもだけが自宅にいるケースでヘルパーさんとの金銭のやりとりが問題になった。ホームページで丁寧に掲載しておいてほしい。本当に困っている家庭には、個々の状況に応じた対応も必要だと思う。</li> <li>● 貧困家庭では養育ができないことが多く、養育支援訪問事業を利用しやすくしてほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 相談者にサービスの紹介をしても、実際に使ったということまで聞かない。いいサービスは多数あると思うので、使いやすくなればいいと思う。</li> <li>● 新しいサービスの利用可否がわかりにくかった。広報するのであれば、制度を整えてからにしてほしい。困っている家庭が使いやすいサービスがあるとよい。</li> <li>● 親の要請がないと行政は動けないが、要請がなくても困っている状況にある子どもたちに行政がアウトリーチするなど直接支援ができないか。</li> </ul>
<p>市民による支援活動について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (事務局) NPO や市民の活動について把握できる状況にあるか? →市民の活動は見えにくい。学習支援でも対象年齢や開催日などの制限があり、希望者を紹介したくてもマッチできない部分がある。</li> <li>● 川越市で学習支援を行っている場所は1か所しかなく、行きたいけど、別のところがいいという子どもがいる。</li> <li>● 学習支援は開催の場所を増やして欲しい。</li> <li>● 課題を持っている子どもも受け入れて、その支援をしながら学習支援もする所があればよい。</li> <li>● (事務局) SSW が家庭に民間活動の情報提供をすることはNGではないと考えるか? →以前東京でSSWをやっていたとき、市民活動内容の一覧があった。ただし相談者に紹介する前に自分で見学に行き、活動内容や対象年齢、ボランティアの年齢等を把握した。その市民活動内容の一覧もNPO 法人が作成していた。</li> </ul>
<p>子ども・家庭への支援、実際の支援実施にあたり困難と感ずる点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保護者と時間軸が違う。就労した後だと仕事終わりに面談を希望されるが、合わせてあげられないことが心苦しい。</li> <li>● 就学援助は申請をして受けられるものだが、申請していない、できない保護者がいる。申請する意味がわからない保護者もいる。高校生で関わった子どもの家庭で、下の子も就学援助の申請はしていなかった。</li> <li>● 最終的に保護者と繋がらないと解決の糸口が見つからない。保護者との間をつなぐのは担任。担任とSSWの連携がうまくいかないといけない。保護者との関係も難しいが、保護者をつなぐ担任との関係、又は管理職との連携がSSWには課題。</li> <li>● SSWの活用や利用法が学校によって異なり、学校の管理職によっても異なる。継続性は大事な点だと思う。</li> </ul>
<p>他機関等との連携、行政への要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配置型のSSWに担任からの要請があり、子どもと話していく中で保護者が問題を抱えていたり相談先がわからなくて困っていたケースが見つかったことがある。職員の先生方と連携がうまくいってれば、スムーズに進む。</li> <li>● 貧困に関して、生活保護を受けている世帯が多いが、ケースワーカーは色々な支援の内容を把握する必要がある。</li> <li>● 事例として、精神疾患で継続的に通院していた子どもがいたが、保護者が受けられる支援についての情報を何も把握していなかった。保護者は子どもに付きっきりで仕事もしていない。各種支援制度を、実際に利用できるように支援してほしい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>● ある保護者は高校入試を控えて支援制度について市の職員と相談したけれど、支援につながらなかったケースがある。病気や障害を持っている子どもたちへの配慮であるとか、手続き面、福祉サービスについて、保護者の方に伝えてほしい。</li><li>● 担当者が変わっても同じサービスが受けられるようにしてほしい。</li></ul>
--	---

### (5) 市民の団体

事前のヒアリングシートによる調査と、対面でのグループヒアリングを実施した。

代表者やメンバーの個人的な経験が活動のきっかけや背景にあることも多い。ボランティアに関わってくれる人、学習指導者などの人材確保の難しさ、ニーズに応えるための必要経費の確保（助成金などの確保）などに苦労している声もみられる。

グループヒアリング

○実施日：平成30年12月27日（木）

○参加者：6名（5団体）

○実施場所：福田ビル3階会議室

テーマ	内容
団体名	チームひだまり
活動の概要	<p>【学習支援「ひだまり塾」】 毎週土、AM小学生、19-21中高生、学習支援、基礎学力の向上。 平成29年度は、年間48回実施、延べ参加者約580人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝現状程度）</p> <p>【子ども食堂「ひだまり子ども食堂」】 毎月第2土11:30-13:30、ひだまり塾小学生を中心に友人、親、地域のシニアで会食、料理実習等にも取り組み。 平成29年度は、年間11回実施、延べ参加者約240人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝現状程度）</p>
活動開始の経緯、貧困と思われる子どもの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長く主任児童委員を務めた。授業を抜け出しているような子どもと関わり、勉強を教えてあげたりしたのが始まり。</li> <li>● 3年目くらいの時、もしかしてこの子どもたちは家庭が貧しいのかな、と思うようになった。学習用品をなくす、教科書をなくす、着替えがない、体育服など当初買ってもらったものが小さくなくても新しいものを買ってもらっていない、歯医者に行かないなど。</li> <li>● これらは子どもの貧困問題が叫ばれるずっと前からみられた。</li> <li>● こういった個人的体験を経て、あるきっかけからコミュニティカフェを開いた。団体として学習支援に本格的に取り組み2014年度より継続。小学生と中・高校生に分けて行っている。ひとり親、障害者のいる家庭、本人に問題のある子どもなどが参加してくる。</li> </ul>
考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「貧困は他人事ではない」という考え方を醸成していけるとよい。</li> </ul>

活動拠点、スタッフ、運営など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティカフェは商店の空き店舗を利用して開始。</li> <li>● 女子栄養大学から栄養士や学生ボランティアの参加を得ている。</li> <li>● 学習支援はコミュニティカフェの売り上げなどを充当し運営。子ども食堂は支援と利用料で賄う。</li> <li>● どちらの活動も現在受け入れ可能な人数の上限に近い状況。今後の予測については、ニーズの予測ではなく受け入れを増やせないため「現状程度」とした。</li> <li>● 学習支援は講師謝金に充てる助成金や補助金が得られなければ継続が難しいという局面にある。資金確保できれば受け入れ数は増加できる。</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「川越市協働推進事業制度」の一環であり、市の子ども関連部局とは関わりが多い。</li> <li>● 社会福祉協議会、参加する子どもを通じて学校の先生との関わりもある。</li> <li>● 子どもに関わる市の部局、社会福祉協議会、福祉団体などの横断的な協働の仕組みを作ってもらえるとよい。そこに教育関係者も入ってくれるとさらによいと思う。</li> </ul>

テーマ	内容
団体名	ファミリーねっとスマイリ
活動の概要	<p>【子ども食堂スマイリ】 月、第4金曜日（固定）17：30-19：30、夕食の提供。平成29年6月スタート。 平成29年度は、年間6回実施、延べ参加者約78人。 （今後の予測：活動＝増加、参加者＝増加）</p> <p>【すまいりコンサート】 子どものためのクリスマスミュージカル。平成19年に初開催、今年で12年目。子育て中の親子にコンサートを提供。 平成29年度は、年間1回実施、延べ参加者約190組。 （今後の予測：活動＝増加、参加者＝増加）</p>
活動開始の経緯、貧困と思われる子どもの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもが公園を安心して使えるようにという活動を行っていたのが原点。</li> <li>● 生活困難と感じられた近所の子どもの、着るものや食べる物など個人的に援助。朝の挨拶運動をやっていた夫もおにぎりやみそ汁の提供などを個人的に行っていた。</li> <li>● そこから地域に呼びかけ、活動が拡大。</li> </ul>
考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● このような支援活動は、行政が行うものもあれば、個人レベルで行うものもあるだろう。人間関係が疎遠になり、知らぬ人に声をかけるのも難</li> </ul>

	しいという風潮の昨今、地域の困っている人に関心を持つことが大事。
活動拠点、スタッフ、運営など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子ども食堂は公民館で実施。</li> <li>● 調理師が4人、いずれも70代で高齢である。</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の居場所づくりが必要と考える。</li> <li>● 地区には老人いこいの家、自治会館などがあり、それを活用できないだろうか。</li> <li>● 各々の施設には規制や決まりもあるだろうが、高齢者専用、子ども専用、と考えずに柔軟に活用できるとよい。</li> </ul>

テーマ	内容
団体名	かすみ野キッチン
活動の概要	<p>【かすみ野キッチン】</p> <p>当初は子ども食堂として発足。以降3世代のコミュニティの場として活動。平成29年度は、年間7回実施、延べ参加者約180人。</p> <p>(今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝増加)</p>
活動開始の経緯、貧困と思われる子どもの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当初子ども食堂として立ち上げた。</li> <li>● 真寿園（介護老人福祉施設）が主催で行っている子ども食堂の活動に3人で参加。「食育」の視点から活動。</li> <li>● 子どもは食事に来たり、勉強に来たりしていたが、もともと貧困状態にある子どもがあまり見当たらない地域であり、今年6月から名称を「かすみ野キッチン」と改めて今に至る。</li> <li>● 保護者が子どもを連れて来る、高齢者も仲間に入れる、そうして3世代が交流できるキッチンとして活動しているところ。</li> </ul>
考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「貧困」など、問題を部分的に捉えずに、広い視点が必要ではないか。</li> </ul>
活動拠点、スタッフ、運営など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 真寿園（介護老人福祉施設）で行うため、活動場所は確保できている。</li> <li>● 真寿園の栄養士や事務員などが実施作業にあっている。</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会福祉協議会、地域包括支援センターとの関わりがある。</li> <li>● 地域の「助け合いの会」が協力。助け合いの会は自治会とは別の活動で、高齢者同士で病院の送迎などの助け合いを行う会。</li> <li>● 市内には空き家などがある。市がそれらを市民活動に使えるよう手配してはどうか。</li> </ul>

テーマ	内 容
団体名	南古谷地域会議
活動の概要	<p>【子育てカフェ】 0～3歳の子ども＆保護者とスタッフがお茶を飲みながら子育てにかぎらずおしゃべりをする場（月1回）。 平成29年度は、年間12回実施、延べ参加者約106人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝増加）</p> <p>【0歳からのコンサート in みなみふるや】 赤ちゃん連れで楽しめる家族参加のコンサート。地域他世代交流目指す。 平成29年度は、年間1回実施、延べ参加者約210人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝増加）</p> <p>【なかまほいく】 未就園児の親子が10週間にわたって集い、親子遊びや預け合いをすることで地域の子育て仲間を作り、信頼関係を作るプログラム。 平成30年開始、年間1回実施、延べ参加者約29人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝増加）</p>
活動開始の経緯、貧困と思われる子どもの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子育てカフェや赤ちゃん連れで参加できるコンサートなどを実施。子ども食堂など直接的に食べ物の支援を行うということではないが、数年前から、朝、学校に来られない子どもと接する体験もあった。</li> <li>● 保護者が仕事で朝起きられない、朝食が準備されないから食べずに登校する。保護者が多忙で面倒を見てくれないから、着のままで登校したり、食事をとっていない、冬なのに半そでを着ている例など。</li> <li>● お金がない、ということではない「手をかけてもらっていない」貧困、という現象を感じる。</li> <li>● 保護者の、子どもの育て方の問題で、その背景には保護者自身の育ってきた環境もあると思われる。自分が愛情を受けてこなかった保護者、という問題で、これは一世代だけでの問題ではなく、また一地域というよりも全国的に対応が求められる問題なのではないかと感じる。</li> <li>● 近年、外国籍の親子が目立ってきている。地域の中で孤立している状況もよく見る。</li> <li>● 「なかまほいく」という事業は純粋に未就園児の親子が10週間にわたり集い、親子遊びや、預け合いを行うもの。話し相手を求める母親が多いと感じる。今は市内でも様々なイベントがあるので、情報を入手してそこへ参加しても、その数時間だけ外にいるが後は親子だけで孤立、あちらこちらの公民館などの催しを渡り歩くだけで、なかなか横のつながりができない母親をよく見る。</li> </ul>
考え方・	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「貧困」という分野に捉われず、ただ「子育ては大変だけど楽しいよね」と思ってもらえるような機会を増やすことが大事と思っている。母親が</li> </ul>

方針	<p>気軽にかけられるところにそういった場所が増やせばよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「なかまほいく」では、集まりの期間が終わった後も継続的な集まりが自然発生している。母親の口コミで利用者が広がっているなど、相談先や話し相手のいない母親に対し、他者との交流の一つのきっかけを作ってあげられていると感じるし、それが大事なことなのだと思う。</li> </ul>
活動拠点、スタッフ、運営など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアに携わる人が少なくなっていると感じる。何をすることも人材がいなくなっている。</li> <li>● 人不足から、運営者が生活の時間を切り詰めて活動することも多く、つらい状況もある。</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● こども家庭課との関わりなど。保健師が利用者に子育てカフェを紹介してくれた事例もある。</li> <li>● 公民館の方には協力してもらっている。</li> <li>● 介護の問題でもそうだが、「地域」に様々な課題解決を求めすぎないかがあるのではないかと。例えば、何らかの問題がある時、民生委員などに話が来て、頑張るとまた別の依頼が来るといふ具合。福祉などの根本的な対策は行政がもっと考えた方がよいことではないか。</li> </ul>

テーマ	内容
団体名	川越子育てネットワーク
活動の概要	<p>【家庭訪問型子育て支援 ホームスタート】 妊婦～6歳の家庭へ研修を受けた地域の子育て経験者が訪問、協働と傾聴で子育て支援。 平成29年度は、年間336回実施（訪問）、訪問先約48人。 （今後の予測：活動＝増加、参加者＝増加）</p> <p>【連雀町つどいの広場 もん☆ちっち】 0～概ね3歳の親子、月～金、9：30～15：30 出入り自由で過ごせる居場所。 育児相談、講座、地域交流の場所。 平成29年度は、年間240回実施、延べ参加者約7,104人。 （今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝現状程度）</p>
活動開始の経緯、貧困と思われる子どもの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 10年前の「川越市協働委託事業」モデル事業として「連雀町つどいの広場 もん☆ちっち」の運営を委託され、その中で離婚や子どもの預けの相談を受けることがあった。</li> <li>● 3年前から家庭訪問型の子育て支援を始めている。こんにちは赤ちゃん事業の全戸訪問で課題の見つかった家庭に対し、自分たちの事業が紹介される。そこに訪問することで、経済的な困難を抱えている家庭と出会うことが多くなった。</li> </ul>
考え方・方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもの貧困問題に対応する事業を行っていくというわけではない。</li> <li>● 子育て当事者自らの手で、あったらいいなという支援を行っているし、</li> </ul>

	今後も続けていく。
活動拠点、スタッフ、運営など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体の会員は33人だが、実際に動けるのは半数くらい。子育てが一段落した小学生の保護者など。</li> <li>● 訪問の事業は20数名で対応。ボランティアである。1件に7回くらいは訪問する。</li> </ul>
他機関等との連携、行政への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 連雀町のつどいの広場は福祉サポートという建物の中、2階が子どもの居場所であるつどいの広場、隣に高齢者の包括支援センター、1階には相談窓口がある。困難な家庭と思われる利用者には、1階で相談してはどうか、とつないでいる。</li> <li>● 健康づくり支援課に情報を提供することがある。</li> <li>● 公民館とは関わりがある。</li> <li>● 学習支援の事業は、大学生などの担い手だけでは難しいところがあると思う。退職された学校の先生など人材を登録して依頼できる仕組みなどができればよいと思う。</li> <li>● 子ども食堂の事業は、実施されている地区はよいがどうしても空白地域が生じるだろう。そういった地域を埋めていく、やりたい人を掘り起こしていく取組を市が行ってくれるとよいと思う。</li> </ul>

テーマ	内容
団体名	(ヒアリングシートによる回答) 託児グループ さくらんぼ
活動の概要	高階公民館の子育てサロン「花っぱ」のサポート。ボランティアビューローの依頼による託児。 平成29年度は、年間12回実施、延べ参加者約53人。 (今後の予測：活動＝現状程度、参加者＝現状程度)

## (6) 市職員等

事前のヒアリングシートによる調査と、対面でのグループヒアリングを実施した。

市の福祉関係部局職員と、ケースワーカー、保健師、家庭児童相談員、母子父子自立支援員として業務に携わる職員から意見を聴取した。「貧困の状態」には行政としての基準がなく、個人的な感触で生活等に困難な度合を推し量り対応している状況がうかがえる。一方で、行政としての取組に関する提言は他のヒアリングよりも活発な意見が出されている。

### グループヒアリング

○実施日：平成30年10月17日（水）

○参加者：8名

○実施場所：川越市役所7階会議室

職員＝職員／支援員＝母子父子自立支援員／相談員＝家庭児童相談員／CW＝ケースワーカー  
保健師＝保健師／SSW＝スクールソーシャルワーカー

テーマ	内容
子どもの状況把握	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ヒアリングシート</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     回答中（n=26）、「貧困状況にある（と感じられる）子どもを発見した経験」は「ある」73.1%で、7割以上が「ある」と回答。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外国人世帯でビザがおりていないため、就労もできない。保護者が食事をとれていない。（職員）</li> <li>● 発達の遅れ。（職員）</li> <li>● 保護者に精神疾患がある。（SSW）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">グループヒアリング</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貧困のラインをどこに設けるかによって変わってくる。</li> <li>● ひとり親と接することが多いが、貧困と感ずることがある。（支援員）</li> <li>● 児童虐待対応の部署だが、部署等による感覚の違いがあると思う。（CW）</li> <li>● 児童虐待の対応をしていると、精神疾患のある保護者はお金の使い方に問題がある場合がある。生活保護費の支給があっても、生活必需品以外にお金を使って食べ物や服が買えなかったり、子どもにお金が使われないうなど。状況だけ見れば貧困だが、線引きが難しい。（保健師）</li> <li>● ひとり親に福祉貸付で聞き取りをすると、収入が多い家庭は少ない。ほとんどは非正規雇用だったり仕事が続かないなど、一部には生活保護受給者もいる。（支援員）</li> <li>● 急に引っ越してきて地域に知り合いがいない、就学を断念している、DVに遭っていた、配偶者と不仲で離婚したらどうなるのか、といった相談がある。（支援員）</li> </ul>

<p>支援上の課題・必要と思われる支援</p>	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <p>支援で困難を感じる点として「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい」「支援に用いることができる制度（資源）が少ない」「支援者間での連携が難しい」があがっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 精神的・心理的に安定することが、生きていくベースとして重要。見えにくい部分であり、時間もかかる支援なので方法は難しいが、心理的なアプローチは不可欠。本人に自覚や気づきのない場合も多く、その場合は求められていないかもしれないが、心理的な支援と物理的あるいはその他求められる支援の両輪でやっているとよい。（支援員）</li> <li>● 経済的な支援は重要だが、それだけではなかなか自立につながらないと感じる。（支援員）</li> <li>● 「貧困状況」とキャッチできる立場の関係者が、貧困についてきちんと理解できていないように思える。継続的な支援を行うためにも関係者の共通理解が必要。（CW）</li> <li>● 地域のつながりが希薄となり、共助が減っている。公助のみに頼るのではなく、地域内での助けあい等が必要だと感じる。（CW）</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ネグレクトの家庭の改善は難しいと思う。衣服が汚れていたり、お風呂に入らなかつたりすることが保護者にとっては普通のことであったりする。（相談員）</li> <li>● 虐待通告があつての訪問なので、信頼関係を築いて状況を改善していこうと働きかけている。しかしうまく信頼関係を築けず最低限のことしかできないケースがある。（CW）</li> <li>● 乳児全戸訪問は断られることはあまりなく、玄関先ならいいですよと対応してくれる。断るのは、過去に嫌な思いをしたりしたケース、家を見られたくない場合。（保健師）</li> <li>● 乳児全戸訪問は新生児訪問と違い家の中までは見られない。しかし玄関が整理整頓できていない家庭もある。その場合は地区の担当者に繋げてその後のフォローをお願いすることがある。（保健師）</li> </ul>
<p>他機関等との連携</p>	<p style="text-align: center;"><b>ヒアリングシート</b></p> <p>貧困状況にある子どもについての他の機関との情報のやりとりについて、業務上で市の他部局とのやりとりは多数があると回答。「子ども関連のNPO団体等」では「やりとりがない」が約35%。</p> <p style="text-align: center;"><b>グループヒアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● NPOなど市民の活動を見聞きする機会はほとんどない。（職員）</li> <li>● NPOも専門職ではないので、家庭の情報などを提供してよいかわからない。貧困だからということで情報等を繋げることはない。（保健師）</li> <li>● 民生委員などは家庭の内情までは把握していないが情報提供があつて当事者と関わりを持つケースはあるよう。（保健師）</li> <li>● ケースワーカーは児童虐待防止法に則り業務を行う大原則がある。情報のやりとりについても、情報提供を受けることはできるが、厳しいルー</li> </ul>

	<p>ルがある。(相談員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 当事者にサービスの案内等の情報提供はできるが、NPOに個人の情報を提供することはしていない。(CW)</li> <li>● 利用料が発生するサービスについては、市から勧めることはできないので、パンフレット等に掲載しない。(保健師)</li> </ul>
<p>行政として必要ないし実施するとよいと思われること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民による支援を多くの市民に知らせるという意味では、NPOの案内を広報に載せることも一案ではないか。現在把握しているNPOを載せることにより、NPOへの情報提供を呼びかけることもできるのではないか。難しいかもしれないが担当課を載せる必要もある。(CW)</li> <li>● 子育て支援マップの中に拠点を載せてもらう。(CW)</li> <li>● 情報が広く市民の目に触れるようにすること。自治会の掲示板を利用してNPOの情報をお知らせするという方法もあると思う。(CW)</li> <li>● 掲示物で連絡先を知らせるに止めるべき。例えば子ども食堂で食中毒が発生した場合など責任の所在が明確ではないため、実態をよく知らずに団体の活動を紹介することは難しい。(CW)</li> <li>● 庁内で情報共有できた方がよい。相談内容によって窓口が違うと思うが、相談を受けるとわかっている部署には、どこに行けばどの情報が得られるのかを共有できればよい。庁内のとりまとめ部署が明らかになっているとありがたい。(保健師)</li> <li>● 妊婦検診を受けられない貧困の妊婦と会う機会が多い。お金がないからということだけではなく、それ以外の様々な問題を含んでいると思うので、庁内のとりまとめ部署と併せて地域資源マップのような、相談内容ごとの窓口一覧のようなものがあるとよいと思う。(保健師)</li> <li>● 学校を通して全員にパンフレット等を配布して知らせるのも一つの手ではないか。本人は気がつかなくても、周囲の子どもが気づくことがある。子ども自身が持っている情報は侮れないことがある。(支援員)</li> <li>● 生活保護を受けていると、進路選択の幅が狭まる。私立の学校に行くとなると制服代やその他の費用は援助がないと負担が大変で、援助が必要ではないか。(相談員)</li> <li>● 学習支援が週2回あるとよい。(相談員)</li> <li>● 居場所が必要。わかりやすい場所があればよい。児童館などが少ない。(支援員)</li> <li>● 出産後、ヘルパーなどの支援を格安で使えるようになるとよい。(保健師)</li> <li>● 交通手段の確保。近所に遊び場がない地域では、車もなく交通費もない家庭は子どもを外で遊ばせることもできない。(保健師)</li> <li>● ひとり親の相談窓口として、自立相談支援を薦めることがあるが、託児所もプレイルームもないので子どもを連れて相談に行くのは難しい。子連れでも相談しやすい場所があればよいと思う。(保健師)</li> <li>● 遊べる場所が足りないと思う。近所に小学生のたまり場になっている家がある。その家のお母さんが大変そうなので、もっと気軽に集まって遊べる場所があればいいと思う。(CW)</li> <li>● 希望した保育園に入れられない状況である。職場に近いところを希望したが</li> </ul>

	<p>様々な条件で、職場と反対方向の園に入るようになったケースがある。建物を建てることは簡単ではないが、保育園を増やすことによって希望した保育園に入れれば、保護者は働きやすくなるのではないか。(CW)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 遊ぶところが少ない気がする。小さな公園はあるが、遊具が少なくあまり遊びに行かないのではないか。運動公園のような大きな公園が各地区にあるといいと思う。(CW)</li> <li>● ファミリーサポート等の共助の部分がもう少し必要なのではないかと思う。ふたり親は互いに融通し合い助け合いができるが、ひとり親だとそれができない。学童保育の時間延長は行き帰りなど子どもの負担は大きくなり、保護者という時間や家庭に近い環境で過ごす時間が少なくなる。ファミリーサポートのようなより家庭に近い所で保護者以外の方が養育する環境が川越には足りないのではないか。(CW)</li> <li>● 必要な情報がデータで共有できればすごく便利だと思う。(支援員)</li> <li>● コンシェルジュ的な役割をする人、部署、システムが必要ではないかと思う。そういう所があると、市民の負担も軽減され、職員の連携にもよいのではないかと思う。(職員)</li> <li>● 家庭で十分な食生活を送れていない児童もいるため、学校(小・中・高)の給食費無料化等の策を立て、栄養面だけでも地域から支えられるようにしていければよい。(保健師)</li> <li>● 貧困状況にある方の中には精神疾患などのある方も多く、経済的支援につなげたいが相談が円滑にできず支援が進まないケースが多い。対象に合わせた相談体制や、連携が取れるとよい。(職員)</li> <li>● 支援者側として、貧困ケースに遭遇した場合、紹介できる社会資源について情報を得たい。(職員)</li> <li>● 貧困と教育はつながっていることを痛感する。さらなる学習支援が必要ではないか。(CW)</li> <li>● 子のアルバイトに対する収入認定の考慮。過去の事例で生活保護において世帯内の収入としてみなしていたことから、未成年者控除、就学支援だけでは家計が不足するという相談があった。上手くやりくりするよう指導はしたものの、別の施策で援助(金銭)ができればよいと思った。(CW)</li> <li>● 保護者に対する支援を充実させるべき。子どもだけでなく保護者も1日中部屋に閉じこもっている人がいる。保護者が家にいれば、子も「家にいてよいのだ」と考えるようになり、学校にも行かなくなる。子は保護者を見て育つので、保護者に対する支援をし、子育てできる環境を作ることが必要。(CW)</li> </ul>
--	---

## (7) 社会福祉協議会

川越市の「川越市社会福祉協議会」は、社会福祉法に基づき昭和 26 年 3 月 3 日に設立され、傘下には市内 22 の地区で活動する地区社会福祉協議会がある。

市社会福祉協議会の活動の状況についてヒアリングし、地域福祉課の協力により、各地区社会福祉協議会の地域における市民の活動の状況把握の調査を行った。

<p>川越市 社会福祉 協議会</p>	<p>●活動 地域づくりに取り組んでいる。社会福祉協議会は、行政と比べてより地域に出て、地域課題や情報を把握し、地域とのつながりを構築することができる。子どもを含めた地域の居場所づくりの必要性がある。地域共生社会への取組。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川越市民生委員児童委員協議会連合会の事務局</li> <li>・川越市ボランティア連絡会の事務局</li> <li>・だれでもネットに参加（月に 1 回、市内ソーシャルワーカーが有志で学習する機会を設定し、ネットワークを構築。平成 29 年度は年間を通じて地域共生社会がテーマで、市社協職員も講師として参加）。</li> </ul> <p>●直近の動き 子ども食堂育成に係る補助金を創設。 市民の地域における身近な地域交流の場として子ども食堂を通じて、子ども達が社会性や自主性を身に付け、子どもに限らず、その他の者に対する食事の提供ができる子ども食堂の新規の開設及び施設の運営を支援することが目的。</p> <p>●貧困等支援が必要な子どもの状況把握 川越市民生委員児童委員協議会連合会など、地域で児童と直接接する福祉関係者との連携もあるが、個人にかかる詳細な情報の把握は地域の福祉関係者が担っている。</p> <p>●市との連携 市が子どもの貧困対策を推進するにあたり、市が主体となって市内の機運を醸成しつつ、川越市社会福祉協議会として何らかの事業を受託するなど、地域とのつながりを強みとした連携・協力は可能と考える。 ただし、児童、障がい、高齢者、生活困窮など、多方面で地域づくり、共生社会が求められているが、市の所管課間の連携には課題があると考えます。</p>
-----------------------------	---

## (8) 子どもに関わる地域の活動の主な例

地区社会福祉協議会が関わる地域の活動として、主なものに以下のような活動がある。

【青少年の健全育成に関わる人づくり講演会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：川越市青少年を育てる第一地区会議</li> <li>●主たる活動場所：北公民館</li> <li>●活動の分野：学習支援、文化・スポーツ</li> </ul>
【青少年健全育成標語の募集・配布】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：川越市青少年を育てる第一地区会議</li> <li>●主たる活動場所：川越小学校、初雁中学校の児童・生徒に依頼</li> <li>●活動の分野：学習支援</li> </ul>
【「学びと体験」活動、夏休み子ども絵画教室】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：川越市青少年を育てる第一地区会議</li> <li>●主たる活動場所：北公民館</li> <li>●活動の分野：学習支援</li> </ul>
【七夕・折り紙ボランティア】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：自治会、育成会、老人会</li> <li>●主たる活動場所：第2地区4か所の自治会館</li> </ul>
【子ども会、育成会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：各町の育成会</li> <li>●主たる活動場所：各所の自治会館、公民館</li> <li>●育成会活動のほか、祭囃子の参加、獅子舞の継承、スポーツ大会、お絵かき指導など</li> </ul>
【世代間交流事業 グランドゴルフ大会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主たる活動場所と内容：泉小学校区。8自治会（育成会）の児童と自治会のグランドゴルフ愛好会悟道による親睦会を泉小校区スポ連と地区社協共済で実施。スポーツを通じて児童の健全育成を目指す。</li> <li>●主たる活動場所と内容：今成小学校区で上記同様に実施。</li> <li>●主たる活動場所と内容：野田中学校区で上記同様に実施。児童は中学生対象とし、学校全体が参加。</li> </ul>
【高齢者福祉事業と育成会児童の激励交流活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容：ひとり暮らしの高齢者の集いに参加し、歌・頭の体操・ゲームなどをお母さんとともに実施。ひとり暮らしの高齢者を励ます。野田町1丁目では、年間事業スケジュールを組み、民生委員・ボランティア協力により毎年実施。地区では今成自治会などが各年で実施。</li> </ul>
【青少年を育てる第3地区会議の助成活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容：地区管内の児童防犯、河川など危険地区の遊び禁止などポスター・掲示板の設置、啓発活動に協力。</li> </ul>

【自治会行事の夏祭りに激励協賛】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容：10自治会・7か所の納涼会に地区社協役員が激励参加。児童中心の行事としても、家族・仲間・近隣との「ふれあい」の場づくり、児童の夏休みの思い出となるよう応援する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：大仙波自治会</li> <li>●主たる活動場所：自治会館</li> <li>●内容：「自治会館でのラジオ体操」「食事の提供、年4回、大人と子ども対象」「吹き矢のイベント、大人と子ども対象」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：岸町三丁目西子ども会育成会</li> <li>●主たる活動場所：岸町三丁目自治会館</li> <li>●活動の分野：学習支援、居場所の提供、文化・スポーツ</li> <li>●内容：「世代間交流事業」「納涼盆踊り」「川越まつり」</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：自治会、育成会</li> <li>●主たる活動場所：六軒町会館、戸外</li> <li>●活動の分野：居場所の提供、文化・スポーツ、健康づくり</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：各町子ども会</li> <li>●活動の分野：世代間交流事業として盆踊り、ラジオ体操、クリスマス会、草むしり、パステルアート、お月見、敬老会など</li> <li>●芳野公民館での子どもサポート</li> </ul>
【青少年の健全育成】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：青少年を育てる古谷地区会議</li> <li>●主たる活動場所：古谷公民館、古谷小学校、古谷地区内</li> <li>●活動の分野：居場所の提供、文化・スポーツ、食事の提供</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：ジュニアリーダーズクラブ</li> <li>●主たる活動場所：古谷公民館、古谷小学校、古谷地区内</li> <li>●活動の分野：居場所の提供、文化・スポーツ</li> </ul>
【青少年のスポーツ振興】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：古谷小区スポーツ振興団体連絡協議会</li> <li>●主たる活動場所：古谷小学校、古谷地区内</li> <li>●活動の分野：文化・スポーツ、健康づくり</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：五ツ又自治会</li> <li>●主たる活動場所：高階公民館</li> <li>●活動の分野：文化・スポーツ、健康づくり、経済的援助</li> </ul>

【地域文化講演 福原公民館書初め教室】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主たる活動場所：福原公民館</li> <li>●活動の分野：学習支援、居場所の提供、文化</li> </ul>
【いまきた寺子屋教室】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子供育成会と共催で宿題の補助など</li> <li>●主たる活動場所：今福北集会所</li> </ul>
【夏休み勉強会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：福原地域会議、福原地区子どもサポート委員会、福原公民館</li> <li>●主たる活動場所：福原公民館</li> <li>●学習サポーター（ボランティア）を募集中</li> <li>●申し込み不要、定員 30 名で、宿題を持ち寄り集中して取り組む</li> </ul>
【子供フォークダンス ひまわりの会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：個人</li> <li>●主たる活動場所：伊勢原公民館</li> </ul>
【霞が関北自治会 にこにこ食堂】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：霞が関北自治会 にこにこ食堂</li> <li>●主たる活動場所：にこにこ食堂</li> <li>●活動の分野：食事の提供</li> </ul>
【夏季、学校に依頼し学習支援を実施】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主たる活動場所：自治会館</li> <li>●活動の分野：学習支援</li> </ul>
【文化・スポーツ活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：山田地区子供会育成会連絡協議会</li> <li>●主たる活動場所：山田小学校体育館</li> <li>●活動の分野：文化・スポーツ</li> </ul>
【子どもカフェ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関わっている団体：コミュニティカフェ ひだまり、青少年川鶴地区会議</li> <li>●主たる活動場所：コミュニティカフェ ひだまり、川越西小学校（体育館）</li> <li>●活動の分野：学習支援（有料）、居場所の提供、食事の提供（有料）</li> </ul>

## 川越市 子どもの生活に関する実態調査 報告書

---

発行年月：平成 31 年 3 月

発行：川越市 こども未来部 こども家庭課  
〒350-8601

埼玉県川越市元町 1 丁目 3 番地 1

電話：049-224-8811（代表）